

八ヶ入遺跡Ⅱ

—縄文時代以降編—

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

東日本高速道路株式会社
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



八ヶ入遺跡の東山道駅路（東上空から）

6区南東部で検出した。中央左手が南側側溝で、北側側溝は後世の溝によって破壊されていた。中央やや上の細長い掘り込みはトレンチ。



八ヶ入遺跡 3区住居群（北東上空から）

3区はもともと住居が密集して発見された微高地である。後方の林は菅ノ沢御廟古墳のの屋根で、裾部が切断されている。

序

本書は、北関東自動車道建設事業に伴い発掘調査された八ヶ入遺跡の調査報告書です。本遺跡の調査は、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成15年7月から平成17年3月にかけて実施したものです。

八ヶ入遺跡は、群馬県太田市東今泉町・緑町に所在し、旧石器時代から近世にいたる遺構が発見されました。今回報告する遺構では、縄文時代の集石と土器・石器、弥生時代の土器、古墳時代の住居2軒、奈良・平安時代の住居95軒のほか、掘立柱建物・柵列・竪穴状遺構・土坑・溝・井戸・東山道駅路などがあります。また、遺構外の出土遺物で比較的小さな破片ですが、奈良三彩や瓦塔が出土し、注目されます。これらの遺構や遺物を通して、この太田の地に古くから先人たちの生活が展開していたことが分かりました。

こうした調査成果は、先に刊行した『八ヶ入遺跡I-旧石器時代編-』と本書『八ヶ入遺跡II-縄文時代以降編-』に掲載されており、この地域の歴史に新たな資料を提供することとなるものと考えられます。そして、この報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の資料として学校教育、郷土学習にも役立てていただけるものと確信いたしております。

最後になりましたが発掘調査から報告書作成にいたるまで、東日本高速道路株式会社関東支社、群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会および地元関係者の皆様からは種々のご指導、ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するにあたり、これらの関係者の皆様に心より感謝の意を表し、序といたします。

平成22年10月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 栄 一

例 言

- 1 本書は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴い発掘調査された八ヶ入遺跡^{はちがいり}の調査報告書である。ただし掲載した遺構・遺物は縄文時代以降で、旧石器時代については群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第491集『八ヶ入遺跡Ⅰ』2010で報告している。
- 2 八ヶ入遺跡は、群馬県太田市東今泉町1657-1、817-1、633-1番地、緑町632-2番地他に所在する。
- 3 事業主体 東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団）
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 平成15年（2003年）7月1日～平成16年（2004年）3月31日
平成16年（2004年）4月1日～平成17年（2005年）3月31日
- 6 発掘調査体制は次の通りである。
平成15年度
発掘調査担当 金子伸也（専門員）・小室綾子（主任調査研究員）・小暮育秀（主任調査研究員）
遺跡掘削請負工事 須賀建設株式会社
委託 地上測量 アコン測量設計株式会社、自然科学分析 株式会社古環境研究所、
航空測量・空中写真撮影 株式会社シン技術コンサル
平成16年度
発掘調査担当 金子伸也（専門員）・小暮育秀（主任調査研究員）
遺跡掘削請負工事 須賀建設株式会社
委託 地上測量 アコン測量設計株式会社、自然科学分析 株式会社古環境研究所、
航空測量・空中写真撮影 株式会社シン技術コンサル
- 7 整理事業体制は次の通りである。
平成20年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
整理担当 橋本 淳（主任調査研究員）、保存処理 関邦一、遺物写真撮影 佐藤元彦
平成21年度（平成21年4月1日～平成22年3月31日）
整理担当 徳江秀夫（主席専門員）、保存処理 関邦一、遺物写真撮影 佐藤元彦
平成22年度（平成22年4月1日～平成22年9月30日）
整理担当 関 晴彦（上席専門員）、遺物写真撮影 佐藤元彦
- 8 本書作成の担当者は次のとおりである。
編集 橋本淳 徳江秀夫 関晴彦
執筆 橋本（2章2節3(1)縄文土器）、関口博幸（2章2節3(2)縄文時代の石器）、大木紳一郎（2章3節弥生土器）、
徳江（2章4節～6節及び遺構一覧表）、大西雅広（2章6節7(1)陶磁器及び陶磁器観察表）、
笹澤泰史（2章5節11(10)製鉄関連遺物及び4章2節）、関（1章・4章1節3節4節）
- 9 出土石器の石材同定については飯島静男氏（群馬県地質研究会会員）にお願いした。
- 10 出土獣骨・角の鑑定は、宮崎重雄氏（足利工業大学非常勤講師、古生物学会会員）にお願いした。

- 11 発掘調査および報告書作成には、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、木下 良（古代交通研究会会長）、武部健一（道路文化研究所長）、宮田毅（太田市教育委員会文化財課長）、須永光一（太田市教育委員会埋蔵文化財係長）の方々をはじめ関係機関ならびに多くの方々のご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。
- 12 発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

- 1 挿図に示す方位記号は日本測地系の国家座標第IX系上の北位を基準としている。調査区の南東隅（6-3区）はX座標=36345m, Y座標=-40245.000mで、真北方向角は0度16分03.020秒である。
- 2 遺構および遺物実測図中の縮尺は、それぞれの図中に表示している。
- 3 本書で作成した地図・地形図は、次の地図を利用した。
国土地理院発行20万分の1地勢図「宇都宮」・「長野」
国土地理院発行の2万5千分の1地形図「桐生」・「上野境」・「足利北部」・「足利南部」
太田市役所発行2千5百分の1地形図「No.28」
- 4 掲載した遺物実測図中で器形を復元して実測したものは、実測図の中軸線右側に接する部分を切断している。

目 次

口絵

序

例言

凡例

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の立地と環境	5
第3節 発掘調査の方法と経過	18

第2章 発掘調査の記録

第1節 遺跡の概要	25
第2節 縄文時代の遺構と遺物	27
第3節 弥生時代の遺物	59
第4節 古墳時代の遺構と遺物	62
第5節 奈良・平安時代の遺構と遺物	84
第6節 中・近世の遺構と遺物	398

第3章 分析

第1節 八ヶ入遺跡の土層とテフラ	459
第2節 八ヶ入遺跡におけるプラントオパール分析	465
第3節 八ヶ入遺跡出土のシカの角・馬歯について	469

第4章 調査成果と整理のまとめ

第1節 検出された遺構と遺物	471
第2節 製鉄関連遺物	474
第3節 科学分析の目的と成果	479
第4節 まとめ	480

遺構一覧表 483

遺物観察表 縄文土器 499

縄文時代の石器 502

弥生土器 504

古墳時代～近世 506

写真図版

報告書抄録

付図 2枚

1 古墳～平安時代の遺構位置図

2 中・近世の遺構位置図

挿図目次

1 章	
第 1 図遺跡位置図	1
第 2 図北関東自動車道(伊勢崎～県境)関連遺跡位置図	2
第 3 図八ヶ入遺跡周辺路線沿い遺跡	3
第 4 図範囲確認トレンチ図	4
第 5 図渡良瀬川扇状地の地質区分	6
第 6 図遺跡周辺地形分類図	6
第 7 図路線沿いのボーリング調査	7
第 8 図八ヶ入-大道西遺跡付近のボーリング調査	8
第 9 図ボーリング調査結果B-32,B-33,B-34地点	9
第10図毛里田地区地質層序表	10
第11図陸軍陸地測量部迅速図	11
第12図米軍空撮写真	12
第13図調査前地形図	13
第14図調査前地形図	13
第15図周辺の遺跡	15
第16図八ヶ入遺跡グリッド設定図	18
第17図八ヶ入遺跡調査区図	19
第18図土層断面採取位置図	23
第19図基本土層図	24
2 章 第20図 3区 1号集石	28
第21図縄文土器 1 3区 1-35	29
第22図縄文土器 2 3区 36-47	30
第23図縄文土器 3 3区 48-76	31
第24図縄文土器 4 3区 77-110	32
第25図縄文土器 5 4区 1-26	33
第26図縄文土器 6 5区 1-10, 6区 1-7	34
第27図石鏃・石鏃未製品長幅別散布図	37
第28図石核・剥片長幅別散布図	37
第29図剥片長さ別ヒストグラム	37
第30図打製石斧長幅別散布図	38
第31図石器石材別組成(剥片石器・数量別)	38
第32図石器石材別組成(剥片石器・重量別)	38
第33図礫石器長さ重量別散布図	39
第34図石器全体長幅別散布図	40
第35図縄文石器 1-26	41
第36図縄文石器 27-38	42
第37図縄文石器 39-43	43
第38図縄文石器 44-49	44
第39図縄文石器 50-53	45
第40図縄文石器 54-57	46
第41図縄文石器 58-61	47
第42図縄文石器 62-70	48
第43図縄文石器 71-76	49
第44図縄文石器 77-84	50
第45図縄文石器 85-94	51
第46図縄文石器 95-104	52
第47図縄文石器 105-113	53
第48図縄文石器 114-125	54
第49図縄文石器 126-136	55
第50図縄文石器 137-144	56
第51図縄文石器 145-150	57
第52図縄文石器 151-158	58
第53図弥生土器 1 1-28	60
第54図弥生土器 2 29-70	61
古墳時代	
第55図古墳時代 3区 2号住居	63
第56図 3区 2号住居出土遺物 1 1-2	63
第57図古墳時代遺構 3区	64
第58図古墳時代遺構 6区	65
第59図 3区 2号住居出土遺物 2 3-7	66
第60図 3区 33号住居	67
第61図 3区 33号住居出土遺物 1 1-12	68
第62図 3区 33号住居出土遺物 2 13-16	69
第63図 6区 1号建物址	69
第64図 6区 1号建物址出土遺物 1-7	70
第65図 6区 2号建物址	71
第66図 6区 2号建物址出土遺物 1-7	72
第67図 6区 3号建物址	73
第68図 6区 3号建物址出土遺物 1-6	74
第69図 6区 土坑	75
第70図 6区 土坑出土遺物 1 土坑	76
第71図 6区 土坑出土遺物 2 5-36土坑	77
第72図 6区 土坑出土遺物 3 38-19土坑	78
第73図古墳時代遺構外出土遺物 1 1-8	81
第74図古墳時代遺構外出土遺物 2 9-21	82
第75図古墳時代遺構外出土遺物 3 22-38	83
第76図古墳時代遺構外出土遺物 4 39-44	84
奈良時代	
第77図奈良・平安時代 3区 4区住居他分布	85
第78図奈良・平安時代 5区 6区住居他分布	86
第79図 3区 4号住居	87
第80図 3区 4号住居カマド及び掘り方	88
第81図 3区 4号住居出土遺物 1 1-3	88
第82図 3区 4号住居出土遺物 2 4-11	89
第83図 3区 6号住居	90
第84図 3区 6号住居出土遺物 1 1-12	91
第85図 3区 6号住居出土遺物 2 13-16	92
第86図 3区 25号住居	92
第87図 3区 25号住居カマド	93
第88図 3区 25号住居出土遺物 1 1-3	93
第89図 3区 25号住居出土遺物 2 4-7	94
第90図 3区 34号住居	95
第91図 3区 34号住居カマド及び掘り方	96
第92図 3区 34号住居出土遺物 1 1-3	96
第93図 3区 34号住居出土遺物 2 4-14	97
第94図 3区 34号住居出土遺物 3 15-27	98
第95図 3区 43号住居	99
第96図 3区 43号住居掘り方	100
第97図 3区 43号住居出土遺物 1-8	100
第98図 3区 54号住居	101
第99図 3区 54号住居カマド	102
第100図 3区 54号住居出土遺物 1-3	102
第101図 3区 57号住居	103
第102図 3区 57号住居出土遺物 1-4	103
第103図 3区 76号住居	104
第104図 3区 76号住居出土遺物 1-6	105

平安時代

第105図 3区1号住居	105	第166図 3区37号住居	150
第106図 3区1号住居カマド	106	第167図 3区37号住居出土遺物 1	1-3 150
第107図 3区1号住居出土遺物	1-2 106	第168図 3区37号住居出土遺物 2	4-5 151
第108図 3区3号住居	107	第169図 3区38号住居	151
第109図 3区3号住居出土遺物	1-5 107	第170図 3区38号住居カマド	152
第110図 3区5号住居	108	第171図 3区38号住居出土遺物 1	1-15 152
第111図 3区5号住居出土遺物 1	1-18 109	第172図 3区38号住居出土遺物 2	16 153
第112図 3区5号住居出土遺物 2	19-33 110	第173図 3区39号住居	153
第113図 3区5号住居出土遺物 3	34-49 111	第174図 3区39号住居カマド	154
第114図 3区7号住居	112	第175図 3区39号住居出土遺物 1	1-9 154
第115図 3区7号住居出土遺物 1	1-8 113	第176図 3区39号住居出土遺物 2	10-27 155
第116図 3区7号住居出土遺物 2	9-17 114	第177図 3区40号住居	156
第117図 3区8号住居	115	第178図 3区40号住居出土遺物	1-6 157
第118図 3区8号住居出土遺物	1-8 115	第179図 3区41号住居カマド	157
第119図 3区9号住居	116	第180図 3区42号住居	158
第120図 3区9号住居出土遺物	1-11 117	第181図 3区42号住居出土遺物 1	1-12 159
第121図 3区10号住居	118	第182図 3区42号住居出土遺物 2	13 160
第122図 3区10号住居出土遺物	1 119	第183図 3区44号住居	160
第123図 3区11号住居	119	第184図 3区44号住居出土遺物 1	1-3 160
第124図 3区11号住居カマド	120	第185図 3区44号住居出土遺物 2	4-6 161
第125図 3区11号住居出土遺物 1	1-9 120	第186図 3区45号住居	161
第126図 3区11号住居出土遺物 2	10-11 121	第187図 3区45号住居出土遺物 1	1-14 162
第127図 3区12号住居	121	第188図 3区45号住居出土遺物 2	15 163
第128図 3区12号住居カマド	122	第189図 3区46号住居	163
第129図 3区12号住居出土遺物 1	1-6 122	第190図 3区46号住居出土遺物 1	1-3 163
第130図 3区12号住居出土遺物 2	7-21 123	第191図 3区46号住居出土遺物 2	4-8 164
第131図 3区12号住居出土遺物 3	22-25 124	第192図 3区47号住居	164
第132図 3区14号住居	124	第193図 3区47号住居出土遺物	1-10 165
第133図 3区14号住居出土遺物	1-6 125	第194図 3区48号住居	166
第134図 3区15号住居	126	第195図 3区48号住居出土遺物	1-7 166
第135図 3区15号住居出土遺物	1-7 127	第196図 3区49号住居	167
第136図 3区16号住居	127	第197図 3区49号住居出土遺物 1	1-7 167
第137図 3区16号住居出土遺物	1-9 128	第198図 3区49号住居出土遺物 2	8-10 168
第138図 3区17号住居	129	第199図 3区51号住居	168
第139図 3区17号住居出土遺物	1-16 130	第200図 3区51号住居出土遺物	1-3 169
第140図 3区18号住居	131	第201図 3区52号住居	169
第141図 3区18号住居カマド	132	第202図 3区52号住居出土遺物	1-3 170
第142図 3区18号住居出土遺物 1	1-10 132	第203図 3区53号住居カマド	170
第143図 3区18号住居出土遺物 2	11-17 133	第204図 3区53号住居出土遺物	170
第144図 3区20号住居	134	第205図 3区55号住居	171
第145図 3区20号住居出土遺物	1-7 135	第206図 3区55号住居出土遺物	1-7 172
第146図 3区21号住居	135	第207図 3区56号住居	173
第147図 3区21号住居カマド	136	第208図 3区56号住居カマド	174
第148図 3区21号住居出土遺物 1	1-11 136	第209図 3区56号住居出土遺物	1-3 174
第149図 3区21号住居出土遺物 2	12-13 137	第210図 3区58号住居	175
第150図 3区22号住居	137	第211図 3区58号住居出土遺物 1	1-3 175
第151図 3区22号住居カマド	138	第212図 3区58号住居出土遺物 2	4-14 176
第152図 3区22号住居出土遺物 1	1-7 138	第213図 3区61号住居	177
第153図 3区22号住居出土遺物 2	8-26 139	第214図 3区61号住居出土遺物	1-8 178
第154図 3区24号住居	140	第215図 3区62号住居カマド	179
第155図 3区24号住居出土遺物 1	1-12 141	第216図 3区62号住居出土遺物	1-2 179
第156図 3区24号住居出土遺物 2	13-25 142	第217図 3区64号住居	179
第157図 3区24号住居出土遺物 3	26-36 143	第218図 3区64号住居カマド	180
第158図 3区27号住居	144	第219図 3区64号住居出土遺物 1	1-3 180
第159図 3区27号住居出土遺物	1-5 144	第220図 3区64号住居出土遺物 2	4-18 181
第160図 3区29号住居	145	第221図 3区64号住居出土遺物 3	19-29 182
第161図 3区29号住居出土遺物	1-11 146	第222図 3区64号住居出土遺物 4	30-31 183
第162図 3区30号住居	147	第223図 3区65号住居	183
第163図 3区30号住居出土遺物	1-6 147	第224図 3区65号住居出土遺物	1-9 184
第164図 3区36号住居	148	第225図 3区66号住居	185
第165図 3区36号住居出土遺物	1-9 149	第226図 3区66号住居出土遺物	1-3 185
		第227図 3区68号住居	186

第228図 3区68号住居出土遺物 1	1-2	186
第229図 3区68号住居出土遺物 2	3-10	187
第230図 3区69号住居		188
第231図 3区69号住居出土遺物 1	1-3	188
第232図 3区70号住居		189
第233図 3区70号住居出土遺物 1	1-2	189
第234図 3区70号住居出土遺物 2	3-10	190
第235図 3区71号住居		191
第236図 3区71号住居出土遺物	1-8	191
第237図 3区72号住居		192
第238図 3区72号住居出土遺物 1	1-10	193
第239図 3区72号住居出土遺物 2	11-26	194
第240図 3区73号住居		195
第241図 3区73号住居出土遺物 1		195
第242図 3区74号住居		196
第243図 3区74号住居出土遺物 1	1-3	196
第244図 3区75号住居		197
第245図 3区75号住居掘り方		198
第246図 3区75号住居出土遺物 1	1-8	198
第247図 3区75号住居出土遺物 2	9-15	198
第248図 3区77号住居カマド		199
第249図 3区77号住居		200
第250図 3区77号住居出土遺物 1	1-4	200
第251図 3区81号住居カマド		201
第252図 3区81号住居出土遺物 1	1-6	201
第253図 3区82号住居		202
第254図 3区82号住居出土遺物 1	1-4	202
第255図 3区83号住居		203
第256図 3区83号住居出土遺物 1	1-4	203
第257図 3区83号住居出土遺物 2	5-6	204
第258図 3区84号住居		204
第259図 3区84号住居カマド		205
第260図 3区84号住居出土遺物 1	1-2	205
第261図 3区85号住居		205
第262図 3区85号住居出土遺物 1	1-3	205
第263図 3区85号住居出土遺物 2	4-7	206
第264図 3区86号住居		206
第265図 3区86号住居出土遺物 1	1-4	207
第266図 4区1号住居		207
第267図 4区1号住居カマド		208
第268図 4区1号住居出土遺物 1	1-6	208
第269図 4区1号住居出土遺物 2	7-14	209
第270図 4区2号住居		210
第271図 4区2号住居カマド		211
第272図 4区2号住居出土遺物 1	1-3	211
第273図 4区2号住居出土遺物 2	4-16	212
第274図 4区2号住居出土遺物 3	17-20	213
第275図 4区3号住居		213
第276図 4区3号住居カマド		214
第277図 4区3号住居出土遺物 1	1-3	214
第278図 4区3号住居出土遺物 2	4-15	215
第279図 4区4号住居		216
第280図 4区4号住居出土遺物 1	1-4	216
第281図 4区4号住居出土遺物 2	5-13	217
第282図 4区5号住居		217
第283図 4区5号住居カマド		218
第284図 4区5号住居出土遺物 1	1-8	218
第285図 4区6号住居		219
第286図 4区6号住居出土遺物 1	1-3	219
第287図 4区6号住居出土遺物 2	4-13	220
第288図 4区9号住居		221

第289図 4区9号住居出土遺物 1	1-7	222
第290図 4区11号住居		222
第291図 4区11号住居掘り方		223
第292図 4区11号住居出土遺物 1	1-3	223
第293図 4区11号住居出土遺物 2	4-6	224
第294図 4区12号住居		224
第295図 4区12号住居カマド		225
第296図 4区12号住居出土遺物 1	1-6	225
第297図 4区12号住居出土遺物 2	7-14	226
第298図 4区13号住居		227
第299図 4区13号住居出土遺物 1	1-3	227
第300図 4区14号住居		228
第301図 4区14号住居出土遺物 1	1-5	228
第302図 4区14号住居出土遺物 2	6-21	229
第303図 4区15号住居		230
第304図 4区15号住居出土遺物 1	1-4	230
第305図 4区15号住居出土遺物 2	5-12	231
第306図 4区16号住居		231
第307図 4区18号住居		232
第308図 4区18号住居出土遺物 1	1-14	233
第309図 4区18号住居出土遺物 2	15-26	234
第310図 4区19号住居		235
第311図 4区19号住居出土遺物 1	1-9	236
第312図 4区20号住居		236
第313図 4区20号住居出土遺物 1	1-8	237
第314図 4区22号住居		238
第315図 4区22号住居出土遺物 1	1-8	239
第316図 4区24号住居		240
第317図 4区24号住居出土遺物 1	1-15	241
第318図 4区24号住居出土遺物 2	16-20	242
第319図 4区25号住居		242
第320図 4区25号住居カマド		243
第321図 4区25号住居出土遺物 1	1-7	243
第322図 4区25号住居出土遺物 2	8-13	244
第323図 4区26号住居		244
第324図 4区26号住居カマド		245
第325図 4区26号住居出土遺物 1	1-7	245
第326図 4区26号住居出土遺物 2	8	246
第327図 4区27号住居		246
第328図 4区27号住居カマド		247
第329図 4区27号住居出土遺物 1	1-6	247
第330図 4区27号住居出土遺物 2	7-16	248
第331図 4区28号住居		249
第332図 4区28号住居出土遺物 1	1-6	249
第333図 5区1号住居		250
第334図 5区1号住居出土遺物 1		250
第335図 5区2号住居		251
第336図 5区2号住居掘り方		252
第337図 5区2号住居出土遺物 1	1-3	252
第338図 6区1号住居		252
第339図 6区1号住居カマド		253
第340図 6区1号住居出土遺物 1		253
第341図 6区3号住居		253
第342図 6区4号住居		254
第343図 3区1号掘立柱建物		255
第344図 3区1号掘立柱建物出土遺物 1	1-3	255
第345図 3区2号掘立柱建物 1	平面	256
第346図 3区2号掘立柱建物 2	断面	257
第347図 3区2号掘立柱建物 3	断面 2	257
第348図 3区2号掘立柱建物出土遺物 1	1-7	258

第349図 3区3号掘立柱建物 1 平面	259
第350図 3区3号掘立柱建物 2 断面	260
第351図 3区3号掘立柱建物出土遺物 1-2	260
第352図 6区2号掘立柱建物	261
第353図 3区1号2号竪穴	262
第354図 3区2号竪穴出土遺物 1-2	263
第355図 4区2号竪穴	263
第356図 6区1号竪穴	264
第357図 4区1号柵列	265
第358図 2面3区4-I区土坑分布 1	266
第359図 2面3区4-I区土坑分布 2	267
第360図 2面4-II区土坑分布	268
第361図 2面5区土坑分布	269
第362図 2面6区土坑分布	270
第363図 2面3区土坑 1 1-4号	275
第364図 2面3区土坑 2 5-30号	276
第365図 2面3区土坑 3 31-44号	277
第366図 2面3区土坑 4 45-64号	278
第367図 2面3区土坑 5 65-81号	279
第368図 2面3区土坑 6 82-95号	280
第369図 2面3区土坑 7 96-107号	281
第370図 2面3区土坑 8 108-119号	282
第371図 2面3区土坑 9 120-131号	283
第372図 2面3区土坑 10 132-141号	284
第373図 2面3区土坑 11 143-161号	285
第374図 2面3区土坑 12 162-178号	286
第375図 2面3区土坑 13 179-197号	287
第376図 2面3区土坑 14 200-219号	288
第377図 2面3区土坑 15 221-234号	289
第378図 2面3区土坑 16 235-246号	290
第379図 2面3区4区土坑 17 247-4号	291
第380図 2面4区土坑 18 5-17号	292
第381図 2面4区土坑 19 18-27号	293
第382図 2面4区土坑 20 28-41号	294
第383図 2面4区土坑 21 42-57号	295
第384図 2面4区土坑 22 58-78号	296
第385図 2面4区5区土坑 23 81-15号	297
第386図 2面5区6区土坑 24 18-7号	298
第387図 2面6区土坑 25 8-37号	299
第388図 2面6区土坑 26 40-46号	300
第389図 2面3区土坑出土遺物 1	301
第390図 2面3区土坑出土遺物 2	302
第391図 2面3区土坑出土遺物 3	303
第392図 2面3区4区土坑出土遺物 4	304
第393図 2面4区土坑出土遺物 5	305
第394図 2面4区土坑出土遺物 6	306
第395図 2面4区5区土坑出土遺物 7	307
第396図 2面ビット分布 1 3区1	309
第397図 2面ビット分布 2 3区2	310
第398図 2面ビット分布 3 4-I区	311
第399図 2面ビット分布 4 4-II区	312
第400図 2面ビット分布 5 5区	313
第401図 2面ビット分布 6 6区1	314
第402図 2面ビット分布 7 6区2	315
第403図 2面3区ビット 1 2-83	317
第404図 2面3区ビット 2 89-300	318

第405図 2面3区ビット 3 304-442	319
第406図 2面3区4区ビット 4 448-60	320
第407図 2面4区ビット 5 61-142	321
第408図 2面5区ビット 6 1-13	322
第409図 2面5区ビット 7 14-25	323
第410図 2面6区ビット 8 3-40	324
第411図 2面3区4区5区ビット出土遺物	325
第412図 2面3区4-I区溝分布	327
第413図 2面3区溝 1 7-9溝	328
第414図 2面3区溝出土遺物 1 7-8溝	329
第415図 2面3区溝 2 10溝	331
第416図 2面3区溝出土遺物 2 10溝	331
第417図 2面3区溝 3 11溝	331
第418図 2面3区溝出土遺物 3 11溝	331
第419図 2面4-II区4-III区溝分布	333
第420図 2面4区溝 4 1-3溝	334
第421図 2面4区溝 5 4-16溝	335
第422図 2面4区溝出土遺物 4 2-6溝	336
第423図 2面4区溝 6 7-18溝	338
第424図 2面4区溝 7 8-14-21溝	340
第425図 2面4区溝 8 9-15溝	342
第426図 2面4区溝出土遺物 5 14-17溝	343
第427図 2面4区溝 9 17-25溝	343
第428図 2面4区溝 10 22-26溝	345
第429図 2面4区溝 11 27-28溝	347
第430図 2面4区溝出土遺物 6 26-36溝	347
第431図 2面4区溝 12 36溝	348
第432図 2面5区溝分布	349
第433図 2面5区溝 13 2溝	350
第434図 2面5区溝 14 2溝遺物出土状態	351
第435図 2面5区溝 15 7溝	351
第436図 2面5区溝出土遺物 7 2溝 7溝	352
第437図 2面5区溝 16 18溝	354
第438図 2面5区溝 17 18溝遺物出土状態	355
第439図 2面5区溝出土遺物 8 18溝 1-15	356
第440図 2面5区溝出土遺物 9 18溝 16-31	357
第441図 2面5区溝出土遺物 10 18溝 32-50	358
第442図 2面5区溝出土遺物 11 18溝 51-61	359
第443図 2面5区溝出土遺物 12 18溝 62-70	360
第444図 2面5区溝 18 26-28溝	362
第445図 2面5区溝 19 31溝 32溝	364
第446図 2面5区溝 20 31溝断面	365
第447図 2面5区溝出土遺物 13 26溝 31溝 32溝	365
第448図 2面6区溝分布	366
第449図 2面6区溝 21 11溝 13-15溝	367
第450図 2面6区溝 22 16溝	369
第451図 2面6区溝出土遺物 14 13溝 15溝	369
第452図 2面6区東山道駅路側溝	371
第453図 2面5区6区自然流路	373
第454図 2面5区6区自然流路出土遺物 1 1-15	375
第455図 2面5区6区自然流路出土遺物 2 16-21	376
第456図 2面遺構外出土遺物 1 土師器 1-10	378
第457図 2面遺構外出土遺物 2 須恵器 11-30	380
第458図 2面遺構外出土遺物 3 須恵器 31-42	381
第459図 2面遺構外出土遺物 4 須恵器 43-58	382
第460図 2面遺構外出土遺物 5 須恵器 59-72	383
第461図 2面遺構外出土遺物 6 須恵器-灰釉陶器 73-88	384
第462図 2面遺構外出土遺物 7 灰釉陶器-瓦 89-97	386
第463図 2面遺構外出土遺物 8 瓦 98-105	387
第464図 2面遺構外出土遺物 9 瓦-紡錘車 106-112	388

第465図土鍾分類模式図 9 型式	389
第466図2 面遺構外出土遺物10 土鍾113-160	390
第467図2 面遺構外出土遺物11 土鍾161-191	391
第468図2 面遺構外出土遺物12 土鍾192-222	392
第469図2 面遺構外出土遺物13 土鍾223-246	393
第470図2 面遺構外出土遺物14 鉄製品247-274	395
第471図2 面遺構外出土遺物15 製鉄関連1-17	396
第472図2 面遺構外出土遺物16 製鉄関連18-25	397
中近世	
第473図1 面5区柵列 1-3号	399
第474図1 面3区1 井戸6区1 井戸	401
第475図1 面3区1 井戸出土遺物 1-2	401
第476図1 面4-I区4-II区土坑分布	403
第477図1 面3区5区6-III区土坑分布	404
第478図1 面土坑 3区7号-5区7号	405
第479図1 面土坑 5区8号-6区32号	406
第480図1 面5区3 土坑出土遺物	406
第481図1 面4-I区4-II区ビット分布	408
第482図1 面6-III区ビット分布	409
第483図1 面4区ビット 1-13	410
第484図1 面4区ビット 14-26	411
第485図1 面4区ビット 62-136	412
第486図1 面6区ビット 20-24	413
第487図1 面3区溝分布	415
第488図1 面3区溝 1溝2溝4溝	416
第489図1 面3区溝出土遺物 1-3溝	417
第490図1 面3区溝 3溝5溝	419
第491図1 面3区溝出土遺物 4溝5溝6溝	420
第492図1 面3区6溝	421
第493図1 面3区溝出土遺物 6溝	422
第494図1 面4-I区溝分布	424
第495図1 面4-II区溝分布	425
第496図1 面4区溝 5溝10溝	426
第497図1 面4区溝 11-13溝	428
第498図1 面4区溝 20溝29溝30溝	429
第499図1 面4区溝 32-34溝	431
第500図1 面4区溝 31溝35溝	432
第501図1 面4区溝出土遺物 5溝-35溝	433
第502図1 面5区溝分布	435
第503図1 面5区溝 1-20溝	436
第504図1 面5区溝 9-16溝	438
第505図1 面5区溝 15溝17溝	439
第506図1 面5区溝 4-23溝	441
第507図1 面5区溝出土遺物 10溝17溝	443
第508図1 面5区溝 25溝	445
第509図1 面5区溝出土遺物 25溝	446
第510図1 面6-I区6-II区6-III区溝分布	448
第511図1 面6区溝 1-4溝	449
第512図1 面6区2-4 溝断面	450
第513図1 面6区溝 8溝	452
第514図1 面6区溝 9溝10溝12溝	453
第515図1 面6区溝出土遺物 2溝3溝	454
第516図1 面6区溝出土遺物 8溝	455
第517図1 面遺構外出土遺物 1 1-15	457
第518図1 面遺構外出土遺物 2 16-27	458

3章分析

第519図4 区南北360ライン土層柱状図・土層柱状図凡例	463
第520図4 区ベルト3 土層柱状図	464
第521図6 区大溝セクション2 土層柱状図	464
第522図八ヶ入遺跡におけるプラントオパール分析結果	467
第523図植物珪酸体顕微鏡写真	468
第524図5 区2 号溝出土馬歯No.1写真	469

4章成果

第525図東山道の推定延長方向	472
第526図八ヶ入遺跡近傍の窯跡・製鉄遺跡(1/1万)	475
第527図製鉄関連遺物分類図	476
第528図科学分析試料採取位置図	479
第529図八ヶ入遺跡As-B下水田の推定図	480
第530図時期別住居分布図	482

表 目 次

第1表	ハケ入遺跡周辺遺跡の概要	16-17
第2表	ハケ入遺跡遺構数量一覧	26
第3表	縄文時代の石器組成表	36
第4表	器種別組成(剥片石器)	36
第5表	石器石材別組成(剥片石器)	36
第6表	器種別組成(礫石器)	39
第7表	石器石材別組成(礫石器)	39
第8表	3区1号掘立柱建物計測値	256
第9表	3区2号掘立柱建物計測値	258
第10表	3区3号掘立柱建物計測値	260
第11表	6区2号掘立柱建物計測値	261
第12表	製鉄関連遺物計測値	397
第13表	テフラ検出分析結果	462
第14表	屈折率測定結果	462
第15表	ハケ入遺跡におけるプラント・オパール分析結果	467
第16表	5区2号溝No.1馬歯 下顎臼歯計測値	469
第17表	各区出土の製鉄関連遺物出土量	474
第18表	製鉄関連遺物の特徴	477
第19表	住居存続時期表	481
第20表	住居一覧表	483
第21表	土坑一覧表	484
第22表	溝一覧表	488
第23表	ピット一覧表	490
第24表	縄文土器観察表	499
第25表	縄文時代の石器観察表	502
第26表	弥生土器観察表	504
第27表	古墳時代～近世遺物観察表	506

写真図版目次

P L 1	1 1区トレンチ全景（東から）		
	2 1区トレンチ土層断面（南西から）		
	3 2区4号トレンチ土層断面（南西から）		
	4 3区奈良・平安時代遺構検出状況（北西から）		
	5 3区奈良・平安時代遺構検出状況（南東から）		
	6 3区中央部分奈良・平安時代遺構検出状況（空中から）		
	7 4区2面遺構検出状況（南東から）		
	8 4区2面竪穴住居検出状況（西から）		
P L 2			
	1 5区1面南側中・近世溝検出状況（南東から）		
	2 5区1面南側中・近世溝検出状況（西から）		
	3 5区1面北側中・近世溝全景（西から）		
	4 5区1面北側中・近世溝全景（南西から）		
	5 5区奈良・平安時代遺構検出状況（北西から）		
	6 5区奈良・平安時代遺構検出状況（空中から）		
	7 5区南半部分奈良・平安時代遺構検出状況（空中から）		
	8 5区北半部分奈良・平安時代遺構検出状況（空中から）		
P L 3			
	1 6区Ⅰ・Ⅱ区東山道駅路南側側溝検出状況（空中から）		
	2 6区Ⅰ・Ⅱ区東山道駅路南側側溝検出状況（西から）		
	3 6区奈良・平安時代遺構検出状況と竪穴山古墳（南西から）		
	4 6-Ⅲ区中・近世遺構確認状況（空中から）		
	5 6-Ⅲ区1面遺構検出状況（東から）		
P L 4			
	1 3区縄文時代遺物包含層調査状況（南から）		
	2 3区縄文時代遺物包含層（南東から）		
	3 3区縄文土器出土状況（南から）		
	4 3区1号集石全景（東から）		
	5 3区1号集石土層断面（南から）		
P L 5			
	1 3区2号住居全景（南東から）		
	2 3区2号住居掘り方全景（南東から）		
	3 3区2号住居遺物出土状況（南東から）		
	4 3区2号住居7号ピット全景（南東から）		
	5 3区33号住居全景（南東から）		
	6 3区33号住居遺物出土状況（南東から）		
	7 3区33号住居遺物出土状況（南東から）		
	8 3区33号住居炉掘り方全景（南東から）		
P L 6			
	1 6区1号建物跡全景（北から）		
	2 6区1号建物跡遺物出土状況（南から）		
	3 6区1号建物跡土層断面（東から）		
	4 6区1号建物跡遺物出土状況（東から）		
	5 6区2号建物跡全景（北から）		
	6 6区2号建物跡遺物出土状況（南東から）		
	7 6区2号建物跡遺物出土状況（北東から）		
	8 6区3号建物跡全景（西から）		
P L 7			
	1 6区1号土坑遺物出土状況（南から）		
	2 6区1号土坑土層断面（北西から）		
	3 6区5号土坑全景（東から）		
	4 6区5号土坑土層断面（南から）		
	5 6区11号土坑全景（南西から）		
	6 6区11号土坑遺物出土状況（南西から）		
	7 6区13号土坑遺物出土状況（東から）		
	8 6区13号土坑土層断面（東から）		
P L 8			
	1 6区19号土坑遺物出土状況（西から）		
	2 6区19号土坑土層断面（東から）		
	3 6区36号土坑遺物出土状況（西から）		
	4 6区36号土坑土層断面（西から）		
	5 6区38号土坑全景（南から）		
	6 6区38号土坑土層断面（北から）		
	7 6区42号土坑全景（南から）		
	8 6区42号土坑土層断面（南から）		
P L 9			
	1 3区4号住居全景（西から）		
	2 3区4号住居掘り方全景（西から）		
	3 3区4号住居竈全景（西から）		
	4 3区4号住居貯蔵穴全景（西から）		
	5 3区6号住居全景（西から）		
	6 3区6号住居遺物出土状況（西から）		
	7 3区6号住居遺物出土状況（西から）		
	8 3区6号住居貯蔵穴全景（西から）		
P L 10			
	1 3区25号住居全景（西から）		
	2 3区25号住居遺物出土状況（西から）		
	3 3区30号住居全景（南から）		
	4 3区30号住居竈土層断面（南から）		
	5 3区34号住居全景（西から）		
	6 3区34号住居遺物出土状況（西から）		
	7 3区34号住居竈全景（西から）		
	8 3区34号住居掘り方全景（西から）		
P L 11			
	1 3区43号住居全景（南から）		
	2 3区43号住居遺物出土状況（南から）		
	3 3区54号住居全景（西から）		
	4 3区54号住居竈全景（西から）		
	5 3区54号住居貯蔵穴全景（西から）		
	6 3区57号住居全景（西から）		
	7 3区57号住居竈全景（西から）		
	8 3区76号住居全景（西から）		
P L 12			
	1 3区1号住居全景（西から）		
	2 3区1号住居竈全景（西から）		
	3 3区1号住居遺物出土状況（南から）		
	4 3区5号住居全景（西から）		
	5 3区3号住居全景（西から）		
	6 3区5号住居遺物出土状況（西から）		
	7 3区5号住居竈全景（西から）		
	8 3区5号住居貯蔵穴全景（西から）		
P L 13			
	1 3区7号住居全景（南から）		
	2 3区7号住居竈全景（南から）		
	3 3区8号住居全景（西から）		
	4 3区8号住居遺物出土状況（西から）		
	5 3区9号住居全景（西から）		
	6 3区9号住居竈全景（西から）		
	7 3区10号住居全景（西から）		
	8 3区10号住居竈全景（西から）		
P L 14			
	1 3区11号住居全景（西から）		
	2 3区11号住居竈全景（西から）		
	3 3区11号住居貯蔵穴（西から）		
	4 3区11号住居遺物出土状況（西から）		
	5 3区12号住居全景（西から）		
	6 3区14号住居全景（東から）		
	7 3区14号住居竈全景（西から）		
	8 3区15号住居全景（南西から）		
P L 15			
	1 3区16号住居全景（南東から）		
	2 3区16号住居竈全景（南東から）		
	3 3区17号住居全景（南西から）		
	4 3区17号住居竈全景（南から）		
	5 3区18号住居全景（南から）		
	6 3区18号住居遺物出土状況（南から）		
	7 3区18号住居竈全景（南から）		
	8 3区18号住居竈遺物出土状況（南から）		
P L 16			
	1 3区20号住居全景（東から）		
	2 3区20号住居遺物出土状況（西から）		

	3 3区21号住居全景（南から）	P L 24	1 3区61号住居全景（西から）
	4 3区21号住居遺物出土状況（南から）		2 3区61号住居掘り方全景（西から）
	5 3区22号住居全景（西から）		3 3区61号住居竈全景（西から）
	6 3区22号住居竈土層断面（南から）		4 3区61号住居2号床下土坑土層断面（南から）
	7 3区22号住居遺物出土状況（西から）		5 3区62号住居全景（西から）
	8 3区22号住居遺物出土状況（西から）		6 3区64号住居全景（西から）
P L 17	1 3区24号住居全景（西から）		7 3区64号住居遺物出土状況（西から）
	2 3区24号住居遺物出土状況（西から）		8 3区64号住居竈全景（西から）
	3 3区24号住居遺物出土状況（西から）	P L 25	1 3区65号住居全景（北西から）
	4 3区24号住居竈全景（西から）		2 3区65号住居遺物出土状況（西から）
	5 3区27号住居全景（西から）		3 3区66号住居掘り方全景（西から）
	6 3区27号住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）		4 3区68号住居全景（西から）
	7 3区29号住居全景（西から）		5 3区68号住居竈全景（西から）
	8 3区29号住居2号床下土坑全景（西から）		6 3区68号住居2号土坑土層断面（南から）
P L 18	1 3区36号住居全景（西から）		7 3区69号住居掘り方全景（南から）
	2 3区36号住居竈全景（西から）		8 3区69号住居竈全景（南から）
	3 3区37号住居全景（西から）	P L 26	1 3区70号住居全景（西から）
	4 3区37号住居遺物出土状況（西から）		2 3区70号住居竈掘り方全景（西から）
	5 3区38号住居全景（南東から）		3 3区71号住居全景（西から）
	6 3区38号住居竈全景（南東から）		4 3区71号住居1号ピット遺物出土状況（西から）
	7 3区38号住居貯蔵穴全景（南から）		5 3区74号住居全景（西から）
	8 3区38号住居竈土層断面（西から）		6 3区74号住居竈全景（西から）
P L 19	1 3区39号住居全景（西から）		7 3区75号住居全景（南から）
	2 3区39号住居遺物出土状況（西から）		8 3区75号住居竈全景（南から）
	3 3区39号住居竈全景（西から）	P L 27	1 3区75号住居掘り方全景（南から）
	4 3区39号住居竈土層断面（北西から）		2 3区72号住居全景（西から）
	5 3区40号住居全景（西から）		3 3区72号住居遺物出土状況（北から）
	6 3区40号住居竈全景（西から）		4 3区72号住居遺物出土状況（西から）
	7 3区41号住居全景（東から）		5 3区72号住居遺物出土状況（北から）
	8 3区41号住居竈土層断面（南西から）		6 3区72号住居竈全景（西から）
P L 20	1 3区42号住居全景（南から）		7 3区72号住居貯蔵穴全景（西から）
	2 3区42号住居遺物出土状況（南から）		8 3区72号住居掘り方全景（西から）
	3 3区42号住居竈全景（南から）	P L 28	1 3区77号住居全景（西から）
	4 3区42号住居遺物出土状況（南から）		2 3区77号住居竈土層断面（南から）
	5 3区44号住居全景（南から）		3 3区77号住居遺物出土状況（東から）
	6 3区44号住居竈掘り方全景（南から）		4 3区77号住居遺物出土状況（東から）
	7 3区45号住居全景（南から）		5 3区81号住居竈全景（北から）
	8 3区45号住居竈全景（南から）		6 3区81号住居竈土層断面（西から）
P L 21	1 3区46号住居全景（西から）		7 3区82号住居掘り方全景（西から）
	2 3区46号住居遺物出土状況（西から）		8 3区83号住居全景（南西から）
	3 3区47号住居全景（北西から）	P L 29	1 3区84号住居全景（西から）
	4 3区47号住居竈土層断面（南西から）		2 3区84号住居竈全景（西から）
	5 3区48号住居全景（西から）		3 3区85号住居掘り方全景（西から）
	6 3区48号住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）		4 3区85号住居1号床下土坑全景（西から）
	7 3区49号住居全景（西から）		5 3区86号住居全景（西から）
	8 3区49号住居1号土坑土層断面（東から）		6 4区1号住居全景（西から）
P L 22	1 3区51号住居全景（西から）		7 4区1号住居竈全景（西から）
	2 3区51号住居遺物出土状況（西から）		8 4区1号住居掘り方全景（西から）
	3 3区52号住居全景（西から）	P L 30	1 4区1号住居貯蔵穴全景（西から）
	4 3区52号住居掘り方全景（西から）		2 4区1号住居遺物出土状況（西から）
	5 3区53号住居竈全景（南から）		3 4区2号住居全景（西から）
	6 3区55号住居遺物出土状況（西から）		4 4区2号住居遺物出土状況（西から）
	7 3区55号住居遺物出土状況（西から）		5 4区2号住居第1竈遺物出土状況（西から）
	8 3区55号住居遺物出土状況（西から）		6 4区2号住居第1竈全景（西から）
P L 23	1 3区56号住居全景（西から）		7 4区2号住居第2竈全景（南から）
	2 3区56号住居竈遺物出土状況（西から）		8 4区2号住居1号床下土坑全景（北から）
	3 3区56号住居1号土坑全景（南東から）	P L 31	1 4区3号住居全景（西から）
	4 3区56号住居1号土坑土層断面（南東から）		2 4区3号住居掘り方全景（西から）
	5 3区56号住居貯蔵穴全景（北から）		3 4区3号住居竈全景（西から）
	6 3区58号住居全景（西から）		4 4区3号住居貯蔵穴全景（南から）
	7 3区58号住居竈全景（西から）		5 4区3号住居1号ピット土層断面（南から）
	8 3区58号住居遺物出土状況（南から）		6 4区3号住居1号ピット全景（南から）

	7	4区4号住居全景（東から）		5	4区27号住居遺物出土状況（西から）
	8	4区4号住居竈全景（西から）		6	4区27号住居貯蔵穴全景（西から）
P L 32	1	4区4号住居遺物出土状況（西から）		7	4区28号住居全景（南から）
	2	4区4号住居遺物出土状況（南から）		8	4区28号住居遺物出土状況（南から）
	3	4区4号住居貯蔵穴全景（南から）	P L 40	1	5区1号住居全景（北西から）
	4	4区4号住居1号ピット土層断面（西から）		2	5区1号住居竈全景（南西から）
	5	4区5号住居全景（西から）		3	5区2号住居全景（西から）
	6	4区5号住居掘り方全景（西から）		4	5区2号住居掘り方全景（西から）
	7	4区6号住居全景（西から）		5	5区2号住居遺物出土状況（南から）
	8	4区6号住居竈掘り方土層断面（南西から）		6	6区4号住居掘り方全景（西から）
P L 33	1	4区9号住居全景（南から）		7	6区1号住居掘り方全景（南西から）
	2	4区9号住居掘り方全景（南から）		8	6区1号住居竈掘り方全景（南西から）
	3	4区9号住居遺物出土状況（南から）	P L 41	1	3区1号掘立柱建物跡全景（北から）
	4	4区12号住居全景（西から）		2	3区1号掘立柱建物跡5号ピット土層断面（西から）
	5	4区12号住居竈全景（西から）		3	3区2号掘立柱建物跡全景（南から）
	6	4区12号住居貯蔵穴全景（西から）		4	3区3号掘立柱建物跡全景（東から）
	7	4区11号住居全景（西から）		5	3区3号掘立柱建物跡全景（北から）
	8	4区11号住居竈全景（西から）		6	3区3号掘立柱建物跡3号ピット全景（東から）
P L 34	1	4区13号住居全景（西から）		7	3区3号掘立柱建物跡3号ピット土層断面（北西から）
	2	4区13号住居竈全景（西から）		8	6区2号掘立柱建物跡全景（北から）
	3	4区14号住居全景（西から）	P L 42	1	3区1号竪穴状遺構全景（南から）
	4	4区14号住居遺物出土状況（西から）		2	3区2号竪穴状遺構全景（西から）
	5	4区14号住居貯蔵穴全景（南から）		3	4区2号竪穴址土層断面（南東から）
	6	4区14号住居1号ピット全景（南から）		4	4区2号竪穴址全景（南から）
	7	4区15号住居全景（西から）		5	6区1号竪穴址全景（北西から）
	8	4区15号住居貯蔵穴全景（西から）		6	4区柵列全景（西から）
P L 35	1	4区16号住居全景（東から）		7	4区1号柵列2号ピット全景（南から）
	2	4区16号住居1号ピット土層断面（北から）		8	4区1号柵列2号ピット土層断面（南から）
	3	4区18号住居全景（西から）	P L 43	1	3区10号土坑全景（南から）
	4	4区18号住居竈全景（西から）		2	3区12号土坑全景（東から）
	5	4区19号住居全景（西から）		3	3区23号土坑全景（東から）
	6	4区19号住居竈全景（西から）		4	3区27号土坑全景（南東から）
	7	4区19号住居1号土坑全景（西から）		5	3区29号土坑全景（南西から）
	8	4区19号住居1号土坑土層断面（東から）		6	3区32号土坑全景（東から）
P L 36	1	4区20号住居全景（西から）		7	3区33号土坑全景（東から）
	2	4区20号住居掘り方全景（西から）		8	3区34号土坑全景（東から）
	3	4区20号住居床下土坑全景（南から）	P L 44	1	3区38号土坑全景（北西から）
	4	4区20号住居床下土坑土層断面（南西から）		2	3区41号土坑全景（東から）
	5	4区22号住居全景（西から）		3	3区45号土坑全景（南から）
	6	4区22号住居貯蔵穴全景（西から）		4	3区47号土坑全景（南から）
	7	4区22号住居竈全景（西から）		5	3区64号土坑全景（南から）
	8	4区22号住居竈遺物出土状況（南から）		6	3区64号土坑土層断面（南から）
P L 37	1	4区24号住居全景（西から）		7	3区64号土坑土層断面（南から）
	2	4区24号住居遺物出土状況（東から）		8	3区79号土坑全景（東から）
	3	4区24号住居竈全景（西から）	P L 45	1	3区98号土坑全景（西から）
	4	4区24号住居貯蔵穴全景（西から）		2	3区100号土坑全景（東から）
	5	4区24号住居遺物出土状況（南から）		3	3区105号土坑全景（東から）
	6	4区24号住居遺物出土状況（南から）		4	3区107号土坑全景（南西から）
	7	4区25号住居全景（西から）		5	3区107号土坑土層断面（南西から）
	8	4区25号住居全景（東から）		6	3区110号土坑全景（西から）
P L 38	1	4区25号住居竈全景（西から）		7	3区137号土坑全景（東から）
	2	4区25号住居貯蔵穴全景（西から）		8	3区137号土坑土層断面（東から）
	3	4区25号住居遺物出土状況（南から）	P L 46	1	3区121号土坑全景（西から）
	4	4区25号住居遺物出土状況（南から）		2	3区141号土坑全景（西から）
	5	4区26号住居全景（西から）		3	3区141号土坑遺物出土状況（西から）
	6	4区26号住居竈全景（西から）		4	3区141号土坑遺物出土状況（西から）
	7	4区26号住居1号土坑全景（東から）		5	3区148号土坑全景（南東から）
	8	4区26号住居1号土坑遺物出土状況（東から）		6	3区149号土坑全景（南から）
P L 39	1	4区26号住居1号ピット全景（南から）		7	3区157号土坑全景（南西から）
	2	4区26号住居1号ピット土層断面（南から）		8	3区157号土坑土層断面（南西から）
	3	4区27号住居全景（西から）	P L 47	1	3区161号土坑全景（南から）
	4	4区27号住居掘り方全景（西から）		2	3区165号土坑全景（南から）

	3 3区171号土坑全景 (南から)	P L 55	1 3区2号ピット全景 (北から)
	4 3区203号土坑全景 (南から)		2 3区2号ピット土層断面 (東から)
	5 3区227号土坑全景 (南西から)		3 3区5号ピット全景 (南から)
	6 3区236号土坑全景 (南から)		4 3区5号ピット土層断面 (南西から)
	7 3区250号土坑全景 (南から)		5 3区15号ピット全景 (北から)
	8 3区250号土坑土層断面 (南から)		6 3区15号ピット土層断面 (西から)
P L 48	1 4区2号土坑土層断面 (北東から)		7 3区22号・23号ピット全景 (北から)
	2 4区4号土坑全景 (北東から)		8 3区24号ピット全景 (北西から)
	3 4区6号土坑全景 (東から)		9 3区24号ピット土層断面 (南西から)
	4 4区7号土坑全景 (北西から)		10 3区38・39号ピット全景 (東から)
	5 4区11号土坑全景 (東から)		11 3区60号ピット全景 (北から)
	6 4区13号土坑全景 (東から)		12 3区60号ピット土層断面 (北から)
	7 4区15号土坑全景 (東から)		13 3区66号ピット全景 (南から)
	8 4区17号土坑全景 (西から)		14 3区80号ピット全景 (北から)
P L 49	1 4区21号土坑全景 (西から)		15 3区80号ピット土層断面 (東から)
	2 4区25号土坑全景 (北西から)	P L 56	1 3区69号ピット全景 (東から)
	3 4区26号土坑全景 (北東から)		2 3区83号ピット土層断面 (南から)
	4 4区29号土坑全景 (西から)		3 3区89号ピット全景 (北西から)
	5 4区37号土坑全景 (北東から)		4 3区90号ピット全景 (北西から)
	6 4区44号土坑全景 (南から)		5 3区89号・90号ピット土層断面 (東から)
	7 4区45号土坑土層断面 (南西から)		6 3区128号ピット全景 (南から)
	8 4区46号土坑全景 (西から)		7 3区130号ピット全景 (西から)
P L 50	1 4区46号土坑遺物出土状況 (西から)		8 3区130号ピット土層断面 (南から)
	2 4区46号土坑遺物出土状況 (西から)		9 3区135号ピット全景 (北西から)
	3 4区46号土坑土層断面 (南から)		10 3区135号ピット土層断面 (北東から)
	4 4区48号土坑全景 (南から)		11 3区152号ピット全景 (東から)
	5 4区51号土坑全景 (南西から)		12 3区152号ピット土層断面 (東から)
	6 4区53号土坑全景 (南から)		13 3区162号ピット土層断面 (南東から)
	7 4区54号土坑全景 (南から)		14 3区207号ピット全景 (南から)
	8 4区55号土坑全景 (南から)		15 3区207号ピット土層断面 (南から)
P L 51	1 4区55号土坑土層断面 (南から)	P L 57	1 3区239号ピット全景 (南から)
	2 4区57号土坑全景 (南から)		2 3区279号ピット全景 (南から)
	3 4区58号土坑全景 (南西から)		3 3区279号ピット土層断面 (南から)
	4 4区61号土坑全景 (北から)		4 3区300号ピット全景 (南から)
	5 4区62号土坑全景 (南から)		5 3区300号ピット土層断面 (南から)
	6 4区62号土坑土層断面 (南から)		6 3区304号ピット全景 (南から)
	7 4区73号土坑全景 (北東から)		7 3区304号ピット土層断面 (南から)
	8 4区76号土坑全景 (北から)		8 3区308号ピット全景 (南から)
P L 52	1 5区11号土坑全景 (北西から)		9 3区308号ピット土層断面 (南から)
	2 5区12号土坑全景 (北から)		10 3区341号ピット全景 (南から)
	3 5区13号土坑全景 (北から)		11 3区341号ピット土層断面 (南から)
	4 5区14号土坑全景 (北から)		12 3区356号ピット全景 (北から)
	5 5区14号土坑土層断面 (南西から)		13 3区356号ピット土層断面 (北から)
	6 5区15号土坑全景 (北から)		14 3区358号ピット全景 (南から)
	7 5区15号土坑土層断面 (東から)		15 3区358号ピット土層断面 (南から)
	8 5区18号土坑全景 (南から)	P L 58	1 3区337号ピット全景 (南から)
P L 53	1 5区20号土坑全景 (北から)		2 3区375号ピット全景 (南から)
	2 5区22号土坑全景 (北西から)		3 3区375号ピット土層断面 (南から)
	3 5区22号土坑遺物出土状況 (北西から)		4 3区378号ピット全景 (南から)
	4 5区22号土坑遺物出土状況 (北西から)		5 3区378号ピット土層断面 (南から)
	5 6区2号土坑全景 (東から)		6 3区394号ピット全景 (東から)
	6 6区3号土坑全景 (南から)		7 3区394号ピット土層断面 (東から)
	7 6区6号土坑全景 (西から)		8 3区411号ピット全景 (南から)
	8 6区7号土坑全景 (西から)		9 3区411号ピット土層断面 (南から)
P L 54	1 6区12号土坑全景 (西から)		10 3区437号ピット全景 (南から)
	2 6区15号土坑全景 (東から)		11 3区437号ピット土層断面 (南から)
	3 6区18号土坑土層断面 (北から)		12 3区448号ピット全景 (南から)
	4 6区20号土坑全景 (北から)		13 3区469号ピット全景 (東から)
	5 6区21号土坑全景 (北から)		14 3区469号ピット全景 (南から)
	6 6区34号土坑全景 (北西から)		15 3区478号ピット土層断面 (南から)
	7 6区37号土坑全景 (北から)	P L 59	1 4区27号ピット全景 (南東から)
	8 6区39号土坑土層断面 (南から)		2 4区27号ピット土層断面 (東から)

	3	4区29号ピット全景（南東から）		4	4区6号・16号溝東側部分（東から）
	4	4区29号ピット土層断面（南東から）		5	4区7号・18号溝全景（東から）
	5	4区34号ピット全景（南から）		6	4区7号・18号溝土層断面（北西から）
	6	4区38号ピット全景（南から）		7	4区8号・14号・21号溝全景（東から）
	7	4区38号ピット土層断面（南から）		8	4区8号溝土層断面（東から）
	8	4区54号ピット全景（北から）	P L 65	1	4区9号溝全景（東から）
	9	4区54号ピット土層断面（東から）		2	4区14号溝全景（南東から）
	10	4区56号ピット全景（北西から）		3	4区14号溝土層断面（西から）
	11	4区56号ピット土層断面（南西から）		4	4区15号溝全景（東から）
	12	4区60号ピット全景（北西から）		5	4区15号溝土層断面（南から）
	13	4区60号ピット土層断面（南西から）		6	4区17号溝土層断面（南西から）
	14	4区68号ピット全景（南から）		7	4区17号・25号・26号溝全景（東から）
P L 60	15	4区68号ピット土層断面（南から）	P L 66	8	4区18号・7号溝全景（南西から）
	1	4区44号ピット全景（南西から）		1	4区21号溝全景（北東から）
	2	4区73号ピット全景（東から）		2	4区21号・26号溝全景（南東から）
	3	4区73号ピット土層断面（南西から）		3	4区22号～24号溝全景（東から）
	4	4区78号ピット全景（北東から）		4	4区25号溝土層断面（北東から）
	5	4区78号ピット土層断面（南から）		5	4区26号溝土層断面（東から）
	6	4区86号ピット全景（南から）		6	4区27号・28号溝全景（東から）
	7	4区86号ピット土層断面（南から）		7	4区27号・28号溝土層断面（南西から）
	8	4区89号ピット全景（南から）		8	4区36号溝全景（北西から）
	9	4区89号ピット土層断面（南から）	P L 67	1	4区36号溝南側部分全景（北から）
	10	4区95号ピット全景（北から）		2	4区36号溝土層断面（北から）
	11	4区96号ピット全景（北から）		3	5区2号溝全景（南東から）
	12	4区97号ピット全景（北から）		4	5区2号溝全景（北西から）
	13	4区98号ピット全景（北から）		5	5区2号溝土層断面（南から）
	14	4区102号ピット全景（南から）		6	5区2号溝遺物出土状況（南から）
P L 61	15	4区142号ピット土層断面（北東から）		7	5区2号溝遺物出土状況（南から）
	1	5区2号ピット全景（西から）		8	5区2号溝遺物・馬歯出土状況（南から）
	2	5区3号ピット土層断面（南から）	P L 68	1	5区2号溝馬歯出土状況（南から）
	3	5区8号ピット全景（南から）		2	5区7号溝全景（東から）
	4	5区13号ピット全景（北から）		3	5区7号溝土層断面（東から）
	5	5区13号ピット遺物出土状況（北から）		4	5区18号溝全景（北西から）
	6	5区21号・22号ピット全景（東から）		5	5区18号・25号溝全景（南東から）
	7	5区24号ピット全景（西から）		6	5区18号溝遺物出土状況（北東から）
	8	5区24号ピット土層断面（東から）		7	5区18号溝遺物出土状況（南西から）
	9	6区3号ピット全景（西から）		8	5区18号溝遺物出土状況（西から）
	10	6区3号ピット土層断面（北東から）	P L 69	1	5区18号溝遺物出土状況（北西から）
	11	6区5号ピット土層断面（東から）		2	5区18号溝遺物出土状況（南東から）
	12	6区9号ピット全景（北から）		3	5区18号溝遺物出土状況（西から）
	13	6区10号ピット全景（東から）		4	5区17号・18号溝土層断面（南から）
	14	6区15号ピット土層断面（東から）		5	5区18号溝遺物出土状況（西から）
P L 62	15	6区39号ピット土層断面（南から）		6	5区26号・27号溝全景（北から）
	1	6区東山道駅路全景（東から）		7	5区26号溝遺物出土状況（北から）
	2	6区東山道駅路南側側溝全景（東から）	P L 70	8	5区26号溝土層断面（東から）
	3	6区東山道駅路南側側溝近景（東から）		1	5区27号溝土層断面（北から）
	4	6区東山道駅路南側側溝近景（東から）		2	5区28号溝全景（西から）
	5	6区東山道駅路南側側溝遺物出土状況（北から）		3	5区31号溝全景（西から）
	6	6区東山道駅路南側側溝土層断面（東から）		4	5区31号溝全景（西から）
	7	6区東山道駅路北側側溝と重複した3号溝（西から）		5	5区31号溝東半部全景（東から）
P L 63	8	6区東山道駅路南側側溝土層断面（東から）		6	5区31号溝土層断面（西から）
	1	3区7号溝全景（北西から）	P L 71	7	5区32号溝全景（南から）
	2	3区7号溝土層断面（南東から）		1	6区11号溝全景（南東から）
	3	3区8号溝全景（北西から）		2	6区11号溝全景（南西から）
	4	3区9号溝全景（西から）		3	6区13号～15号溝全景（南東から）
	5	3区10号溝全景（北から）		4	6区13号・14号溝土層断面（北から）
	6	3区11号溝全景（北から）		5	6区15号溝遺物出土状況（南から）
	7	4区1号溝全景（南東から）		6	6区15号溝遺物出土状況（南から）
P L 64	8	4区2号溝全景（東から）		7	6区16号溝土層断面（南から）
	1	4区2号溝土層断面（東から）		8	6区16号溝全景（南から）
	2	4区4号溝全景（西から）	P L 72	1	自然流路6区検出状況（北西から）
	3	4区6号・16号溝全景（西から）		2	自然流路6区検出状況（西から）

	3	自然流路6区As-B混下検出状況(西から)		4	3区5号溝土層断面(南東から)
	4	自然流路6区土層断面(東から)		5	3区6号溝全景(北から)
	5	自然流路6区土層断面(南東から)		6	3区6号溝土層断面(南東から)
	6	自然流路6区土層断面(南から)		7	4区5号溝全景(東から)
	7	自然流路6区土層断面(南東から)		8	4区5号溝土層断面(南西から)
	8	自然流路6区土層断面(東から)	P L 80	1	4区10号溝全景(東から)
P L 73	1	自然流路6区遺物出土状況(南から)		2	4区11号・13号溝全景(西から)
	2	自然流路6区遺物出土状況(南から)		3	4区11号・13号溝遺物出土状況(南東から)
	3	自然流路6区遺物出土状況(南から)		4	4区12号溝全景(南西から)
	4	自然流路5区土層断面(南東から)		5	4区20号溝全景(西から)
	5	自然流路5区土層断面(東から)		6	4区29号溝全景(南から)
	6	自然流路5区土層断面(東から)		7	4区30号溝全景(北西から)
	7	自然流路5区土層断面(東から)		8	4区30号溝土層断面(南東から)
	8	自然流路5区土層断面(東から)	P L 81	1	4区31号溝全景(東から)
P L 74	1	5区1号～3号柵列全景(東から)		2	4区32号溝全景(西から)
	2	5区3号柵列全景(東から)		3	4区33号溝全景(北から)
	3	5区1号柵列6号ピット土層断面(南から)		4	4区34号溝全景(南から)
	4	5区3号柵列2号ピット土層断面(南から)		5	4区35号溝全景(東から)
	5	3区1号井戸全景(南から)		6	5区1号溝土層断面(南から)
	6	3区1号井戸土層断面(北から)		7	5区1号・6号溝全景(南から)
P L 75	1	3区8号土坑全景(北東から)	P L 82	1	5区6号溝全景(南東から)
	2	3区9号土坑土層断面(北東から)		2	5区9号・12号～14号溝全景(南東から)
	3	4区80号土坑土層断面(南東から)		3	5区9号・16号溝全景(西から)
	4	4区82号土坑全景(東から)		4	5区9号・16号溝遺物出土状況(東から)
	5	5区1号土坑全景(東から)		5	5区9号溝土層断面(西から)
	6	5区2号土坑土層断面(北から)		6	5区9号・12号・14号溝(東から)
	7	5区6号土坑全景(東から)		7	5区4号溝全景(北東から)
	8	5区7号土坑全景(東から)	P L 83	1	5区8号溝全景(西から)
P L 76	1	6区22号土坑全景(北から)		2	5区10号・11号溝全景(南から)
	2	6区22号土坑土層断面(東から)		3	5区16号溝全景(西から)
	3	6区23号土坑全景(北から)		4	5区21号溝全景(西から)
	4	6区23号土坑土層断面(北東から)		5	5区22号・23号溝全景(北から)
	5	6区24号土坑土層断面(東から)		6	5区15号溝全景(南東から)
	6	6区27号土坑全景(北から)	P L 84	1	5区19・20号溝全景(南東から)
	7	6区30号土坑全景(北東から)		2	5区19号溝全景(東から)
	8	6区32号土坑全景(北西から)		3	5区19号溝遺物出土状況(東から)
P L 77	1	4区4号ピット土層断面(南から)		4	5区17号溝全景(南東から)
	2	4区5号ピット全景(南から)		5	5区25号溝全景(北西から)
	3	4区5号ピット土層断面(北東から)		6	5区25号溝遺物出土状況(南から)
	4	4区19号ピット全景(南東から)		7	6区2号溝全景(北から)
	5	4区20号ピット全景(南東から)	P L 85	1	6区1号溝全景(南西から)
	6	4区20号ピット土層断面(南から)		2	6区4号溝全景(北西から)
	7	4区22号・23号ピット全景(南から)		3	6区9号溝全景(西から)
	8	4区62号ピット土層断面(南から)		4	6区12号溝全景(西から)
	9	4区63号ピット土層断面(南から)		5	6区10号溝全景(北西から)
	10	4区107号ピット土層断面(南から)		6	6区8号溝全景(南から)
	11	4区136号ピット土層断面(北から)		7	6区8号溝土層断面(南から)
	12	6区20号ピット土層断面(東から)	P L 86		縄文土器3区 1-43
	13	6区21号ピット土層断面(東から)	P L 87		縄文土器3区 44-86
	14	6区23号ピット土層断面(南から)	P L 88		縄文土器3区 87-110, 4区 1-21
	15	6区24号ピット土層断面(南から)	P L 89		縄文土器4区 22-26, 5区 1-10, 6区 1-7
P L 78	1	3区1号溝全景(北から)	P L 90		縄文石器-1
	2	3区1号溝土層断面(南から)	P L 91		縄文石器-2
	3	3区2号・6号溝全景(南から)	P L 92		縄文石器-3
	4	3区2号・6号溝全景(北から)	P L 93		縄文石器-4
	5	3区2号溝土層断面(北から)	P L 94		縄文石器-5
	6	3区2号溝遺物出土状況(南から)	P L 95		縄文石器-6
	7	3区3号溝全景(東から)	P L 96		縄文石器-7
	8	3区3号溝土層断面(西から)	P L 97		縄文石器-8
P L 79	1	3区4号溝全景(南から)	P L 98		縄文石器-9
	2	3区4号溝土層断面(南から)	P L 99		縄文石器-10
	3	3区5号溝全景(南東から)	P L 100		弥生土器

P L 101 3区2・33号住居, 6区1号建物址出土遺物
P L 102 6区1・2号建物址, 6区1・11・13号土坑出土遺物
P L 103 6区36・38・39・42・19号土坑,古墳時代遺構外出土遺物
P L 104 古墳時代遺構外, 3区4・6号住居出土遺物
P L 105 3区6・25・34号住居出土遺物
P L 106 3区34・43・54・1・3・5号住居出土遺物
P L 107 3区5・7・8・9号住居出土遺物
P L 108 3区11・12・14・15・17・18号住居出土遺物
P L 109 3区18・20・21・22号住居出土遺物
P L 110 3区22・24・29・30号住居出土遺物
P L 111 3区36・37・38・39号住居出土遺物
P L 112 3区40・42・44・45号住居出土遺物
P L 113 3区46・47・48・49号住居出土遺物
P L 114 3区49・51・55・56・58号住居出土遺物
P L 115 3区61・62・64号住居出土遺物
P L 116 3区64・65・66・68・70・71号住居出土遺物
P L 117 3区71・72・74号住居出土遺物
P L 118 3区75・77・81号住居出土遺物
P L 119 3区82・83・85・86・4区1号住居出土遺物
P L 120 4区2・3・4号住居出土遺物
P L 121 4区5・6・9・11・12号住居出土遺物
P L 122 4区13・14・15・18号住居出土遺物
P L 123 4区19・20・22・24号住居出土遺物
P L 124 4区24・25・26・27・28・5区1号住居出土遺物
P L 125 3区2・3号掘立柱建物, 3区2号竪穴, 3区土坑出土遺物
P L 126 3区・4区土坑出土遺物
P L 127 4区・5区土坑, 3区・5区ピット, 3区7号溝出土遺物
P L 128 3区7・10・4区2・17・26・36・5区2号溝出土遺物
P L 129 5区2・7・18号溝出土遺物
P L 130 5区18号溝出土遺物
P L 131 5区18・31・32・6区13・15号溝, 5・6区自然流路出土遺物
P L 132 奈良・平安時代遺構外出土遺物-1
P L 133 奈良・平安時代遺構外出土遺物-2
P L 134 奈良・平安時代遺構外出土遺物-3
P L 135 奈良・平安時代遺構外出土遺物-4
P L 136 奈良・平安時代遺構外出土遺物-5
P L 137 製鉄関連, 3区1号井戸, 3区2・3・4号溝出土遺物
P L 138 3区5・6・4区10・11・12・35・5区17・25号溝出土遺物
P L 139 6区2・3・8号溝, 中・近世時代遺構外出土遺物

第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

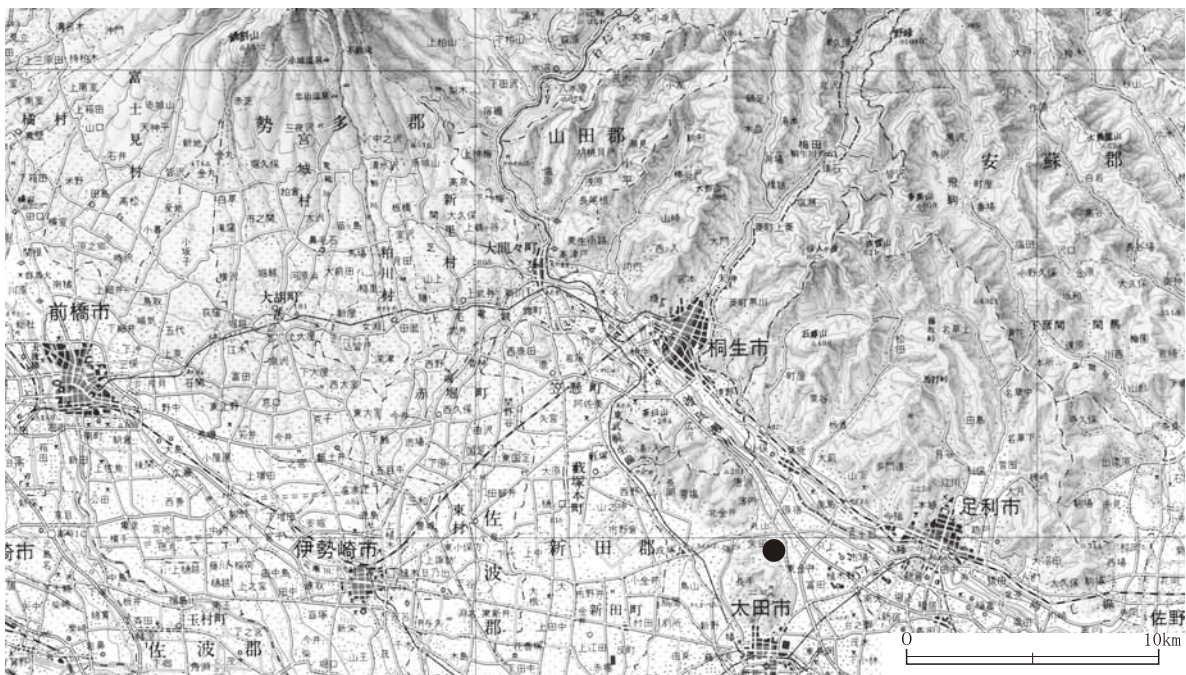
北関東自動車道は高崎ジャンクションで関越自動車道(新潟線)から分岐し、群馬県-栃木県-茨城県を略東西に連絡する高速自動車道路であり、東京都近傍から放射状に延びる関越自動車道、東北自動車道、常磐自動車道等を関東地方の北東部で横につなぐ高速道路である。群馬県内では高崎市、前橋市、伊勢崎市、太田市を通過し、渡良瀬川を渡って栃木県に至る。

北関東自動車道関連埋蔵文化財発掘調査は、高崎-伊勢崎間14.9kmと伊勢崎-県境間17.7kmとの二段階で行われ、本遺跡は後半の区域に属する。

平成12年6月、日本道路公団、群馬県土木部、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の四者による協議において、平成12年8月からの発掘調査の要請があり、これを受けて当事業団は

発掘調査実施の準備を進めた。日本道路公団、群馬県教育委員会、当事業団の三者は「北関東自動車道(伊勢崎~県境)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を平成12年8月1日付けで締結し、これに基づく公団と当事業団との平成12年度発掘調査の契約が結ばれ、発掘調査は伊勢崎市書上遺跡から着手となった。書上遺跡は第二段階の調査遺跡番号1、その略号はKT340であり、八ヶ入遺跡の調査遺跡番号は29、略号はKT670である。「KT670」は遺物に直接記入された注記にも使われている記号である。

八ヶ入遺跡は北西側に道路を挟んで二の宮遺跡が、南東側に五ヶ村用水を挟んで大道西遺跡があり、本遺跡は東西約400mの区域で、調査対象面積は23,180㎡である。発掘調査は平成15年7月から着手し、平成17年3月まで実施した。



第1図 遺跡位置図(国土地理院地理院20万分の1地勢図「宇都宮」に加筆)



第2図 北関東自動車道（伊勢崎～県境）関連遺跡位置図

番号	KT	遺跡名	所在地（調査時）
1	340	書上遺跡	伊勢崎市三和町
2	350	天ヶ塚遺跡	伊勢崎市三和町
3	360	大上遺跡	佐波郡東村西小保方・上田
4	370	前道下遺跡	佐波郡東村上田
5	380	塚下遺跡	佐波郡東村上田
6	390	上柳沢遺跡	佐波郡東村東小保方
7	400	遠西遺跡	佐波郡東村田部井
8	410	下元屋敷遺跡	佐波郡東村田部井
9	420	下田遺跡	佐波郡東村田部井
10	430	南原間遺跡	佐波郡東村田部井
11	440	下大久保遺跡	佐波郡東村田部井
12	450	大久保鹿鹿遺跡	新田郡敷塚本町大久保

13	510	大原百石遺跡	新田郡敷塚本町大原
14	520	山ノ神野田遺跡	新田郡敷塚本町山ノ神
15	530	山ノ神南側遺跡	新田郡敷塚本町山ノ神
16	540	敷塚西野原遺跡	新田郡敷塚本町敷塚
17	550	西長岡横塚古墳群	太田市西長岡町
18	560	鳥谷戸遺跡	太田市西長岡町
19	570	西長岡菅遺跡	太田市西長岡町
20	580	菅塩遺跡群	太田市菅塩町
21	590	成塚遺跡群	太田市成塚町
22	600	成塚向山古墳群	太田市成塚町・北金井町
23	610	大鷲遺跡群	太田市大鷲町
24	620	上強戸遺跡群	太田市強戸町
25	630	峯山遺跡	太田市強戸町字峯山

26	640	萩原遺跡	太田市緑町
27	650	古水桑里水田跡	太田市緑町
28	660	二の宮遺跡	太田市緑町
29	670	八ヶ入遺跡	太田市緑町・東今泉町
30	680	大道西遺跡	太田市東今泉町
31	690	大道東遺跡	太田市東今泉町
32	700	築前遺跡	太田市只上町
33	710	鹿島浦遺跡	太田市東今泉町
34	720	向矢部遺跡	太田市只上町
35	730	矢部遺跡	太田市只上町
36	740	只上深町遺跡	太田市只上町
37	750	新島遺跡	太田市只上町
38	760	道原遺跡	太田市只上町



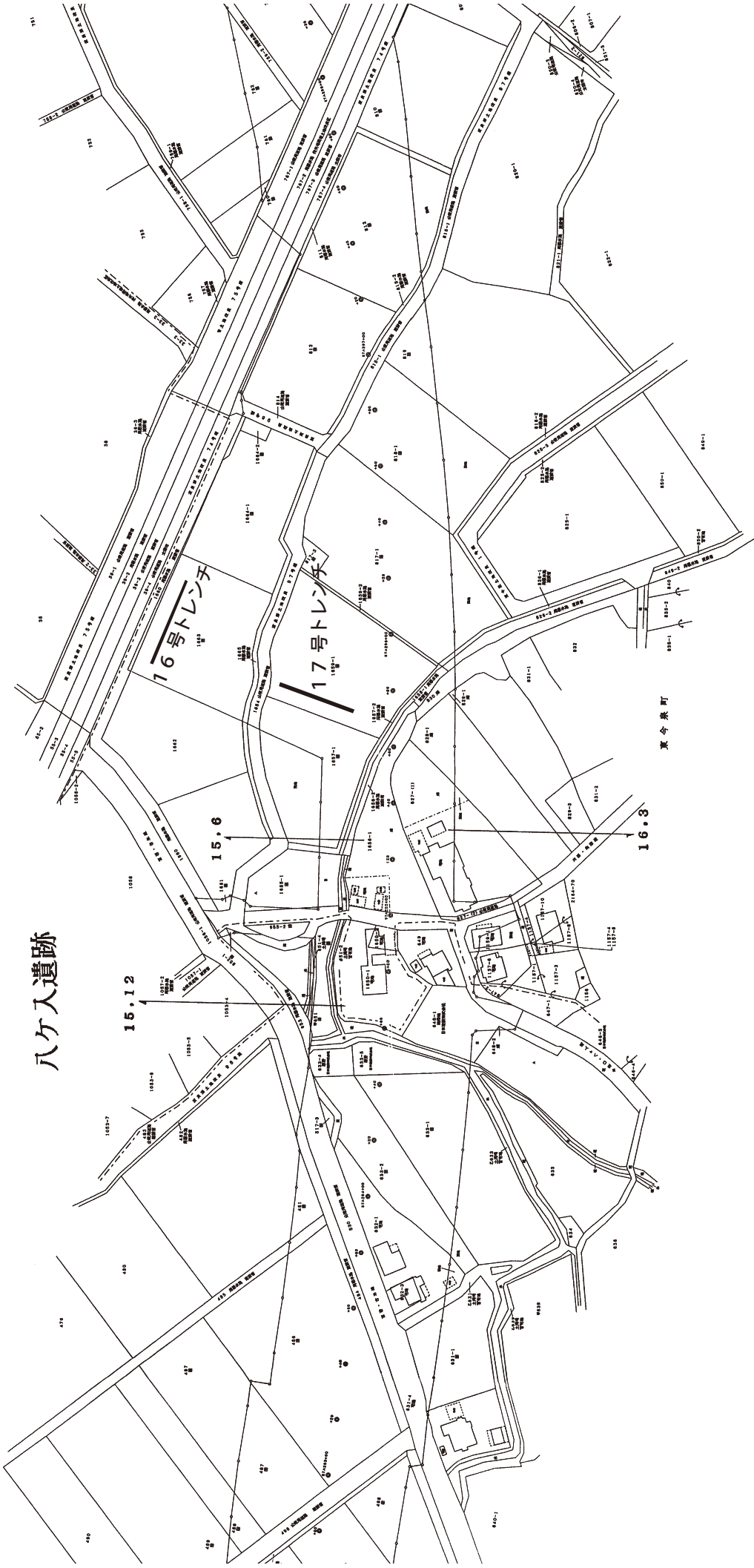
第3図 ハヶ入遺跡周辺路線扱い遺跡

太田市

矢田瀬町

東今津町

八ヶ入遺跡



第4図 範囲確認トレンチ図



第2節 遺跡の立地と環境

1 遺跡の立地

八ヶ入遺跡は太田市金山の北東端北側の平坦な土地に位置する。大きな地形で見れば、渡良瀬川扇状地に立地し、低平な地形である。北西側600mには小丸山遺跡ののる独立丘陵がある。この低平な地形の地下から「微高地状のローム台地」が現れたことから、旧石器時代の地形について、「現在では水田が広がる平坦な地表面も、その直下の旧地形は微高地と低地が複雑に入り組んだ地形であることがわかった」（八ヶ入遺跡Ⅰ）と指摘されている。ここでは、路線沿いに実施されたボーリング調査の結果と遺跡付近の微地形、及び近代以降の土地利用に注目してみたい。

第5図は太田市史から引用した渡良瀬川扇状地の地質区分図に八ヶ入遺跡をプロットしたものである。遺跡の位置は微妙な場所にあり、金山丘陵と「扇状地Ⅰ面」との間にある「沖積低地」に相当する。

第6図は楽前遺跡（当事業団第454集,2009）から引用した周辺地形分類図で、八ヶ入遺跡の位置は「谷底平野」に相当する。大道東遺跡の地形概観によると、渡良瀬川扇状地の地形区分は再検討の余地があると指摘されており、今後の北関東自動車道関連遺跡の調査報告書刊行を待って、地形・地質の専門的分野からの分析が進められよう。分析の一助になると考えられるボーリング調査があり、ここに提示しておきたい。

第7図から第10図は、平成10年度に日本道路公団東京建設局（当時）によって実施された、ボーリング調査の結果に加筆したものである。a=萩原遺跡付近、b=古氷条里-二の宮遺跡付近、c=八ヶ入-大道西遺跡付近、d=大道東-楽前遺跡付近の4コマの断面図を掲載した。

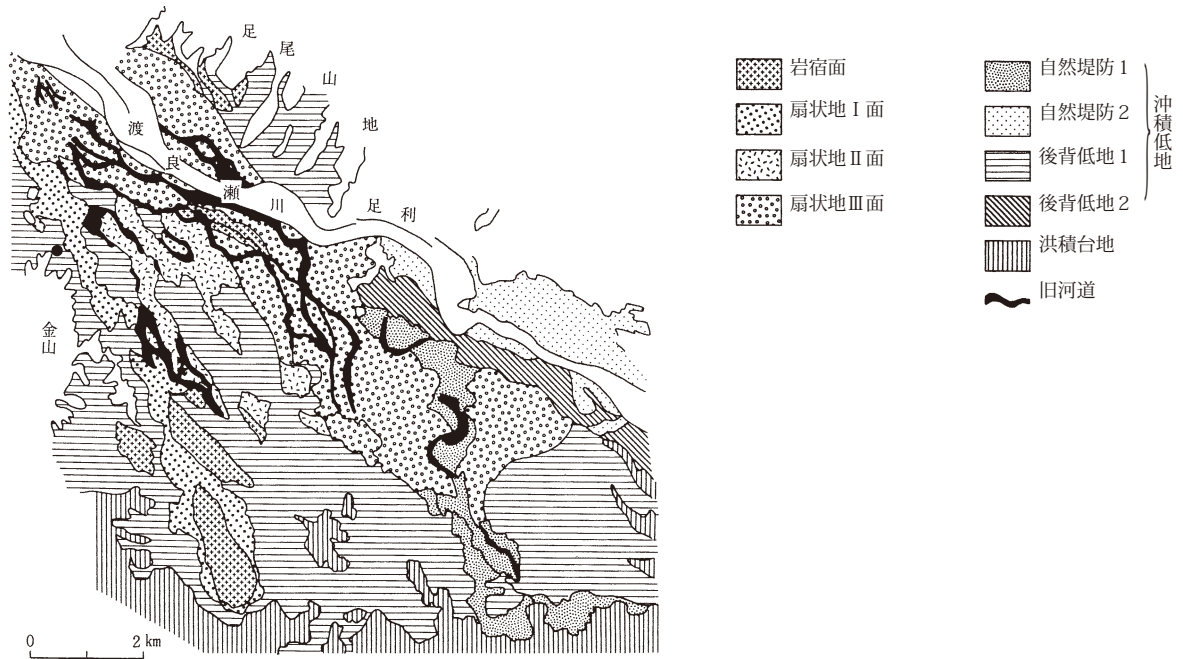
a断面では峯山と呼ばれる丘陵突端がTf(凝灰岩)で、その東側の洗面器状断面の凹みを埋めているのは0c(凝灰質粘土・礫混じり粘土)である。現集落

の乗る微高地を過ぎて路線沿いに東進すると、b断面の西半で厚さ約10mの0p(腐植土混じり粘土)・0cがあり、その上位に層厚5-8mのDc(凝灰質粘性土)・Ds(細砂・粗砂・砂質粘性土)が堆積する。しかし、二の宮遺跡東半部付近の地下でDg(砂礫層-渡良瀬扇状地堆積物)が深い層位まで堆積していると推定され、八ヶ入2区の丘陵末端でいったん途切れる。

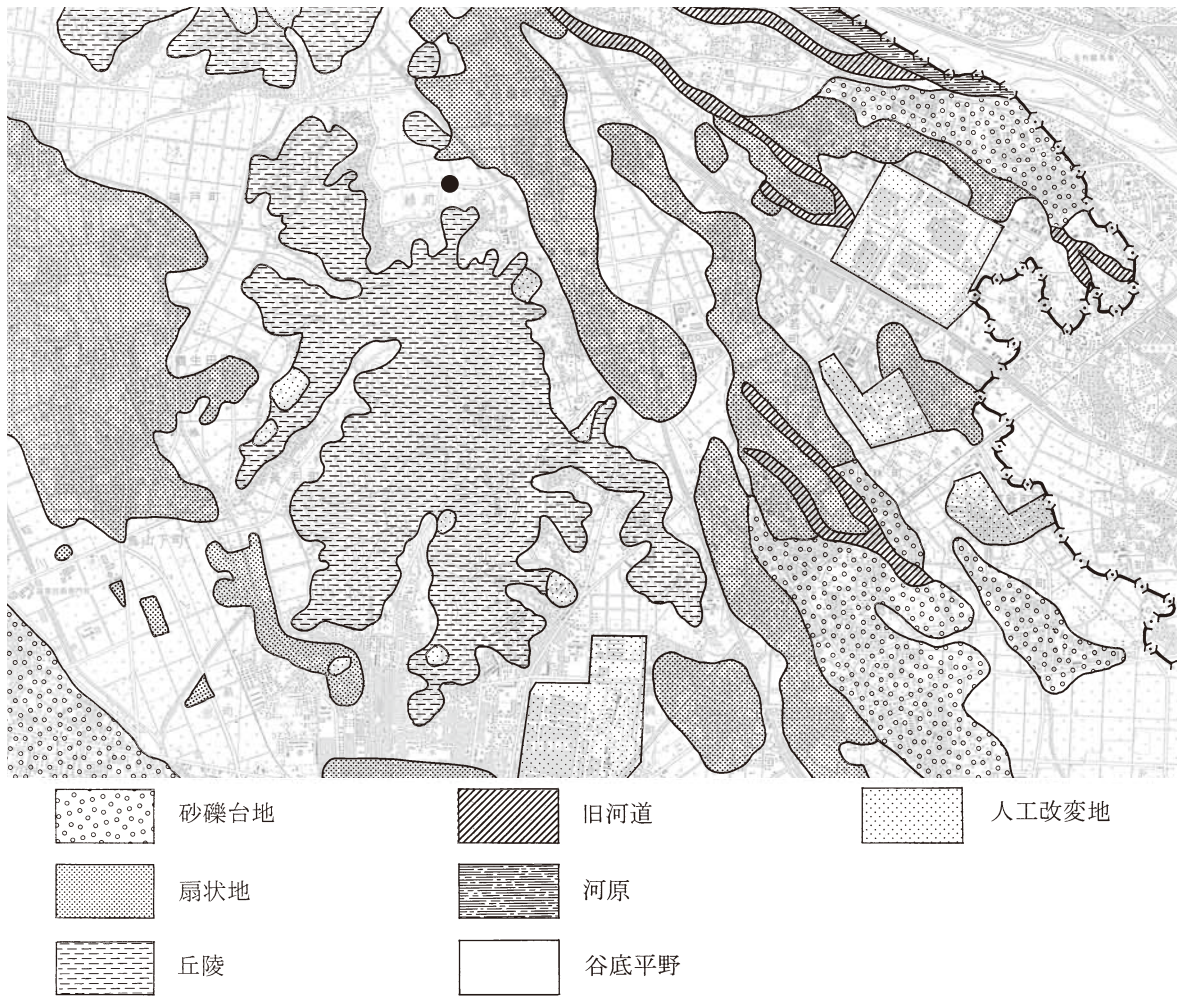
c=八ヶ入付近の図をみると、金山丘陵の裾部で行われたボーリングのデータでScs(砂岩)が認められ、その上位に0c(凝灰質粘性土)が東に向かって下降しており、0cの凹みをDsg・Dsc・Dgなどの「渡良瀬扇状地堆積物」が埋めていることが判る。すなわち、八ヶ入2区の東西の地下(標高47-50m以下)に砂礫層が存在することが判明した。また、八ヶ入4-5区付近にはLm(ローム)が薄く想定されているが、6区付近ではAs(沖積低地堆積物-砂質土層)とされている。大道西-大道東(d断面西半部)では、ふたたびローム(Lm)の堆積が見られる。八ヶ入遺跡2区は金山丘陵の裾部が削平されたものと推定され、西側の1区と東側の3区~6区は沖積低地に位置すると考えられる。

近代以降の記録として、第11図~第14図がある。いずれも八ヶ入遺跡付近は水田として利用されていたことを示している。

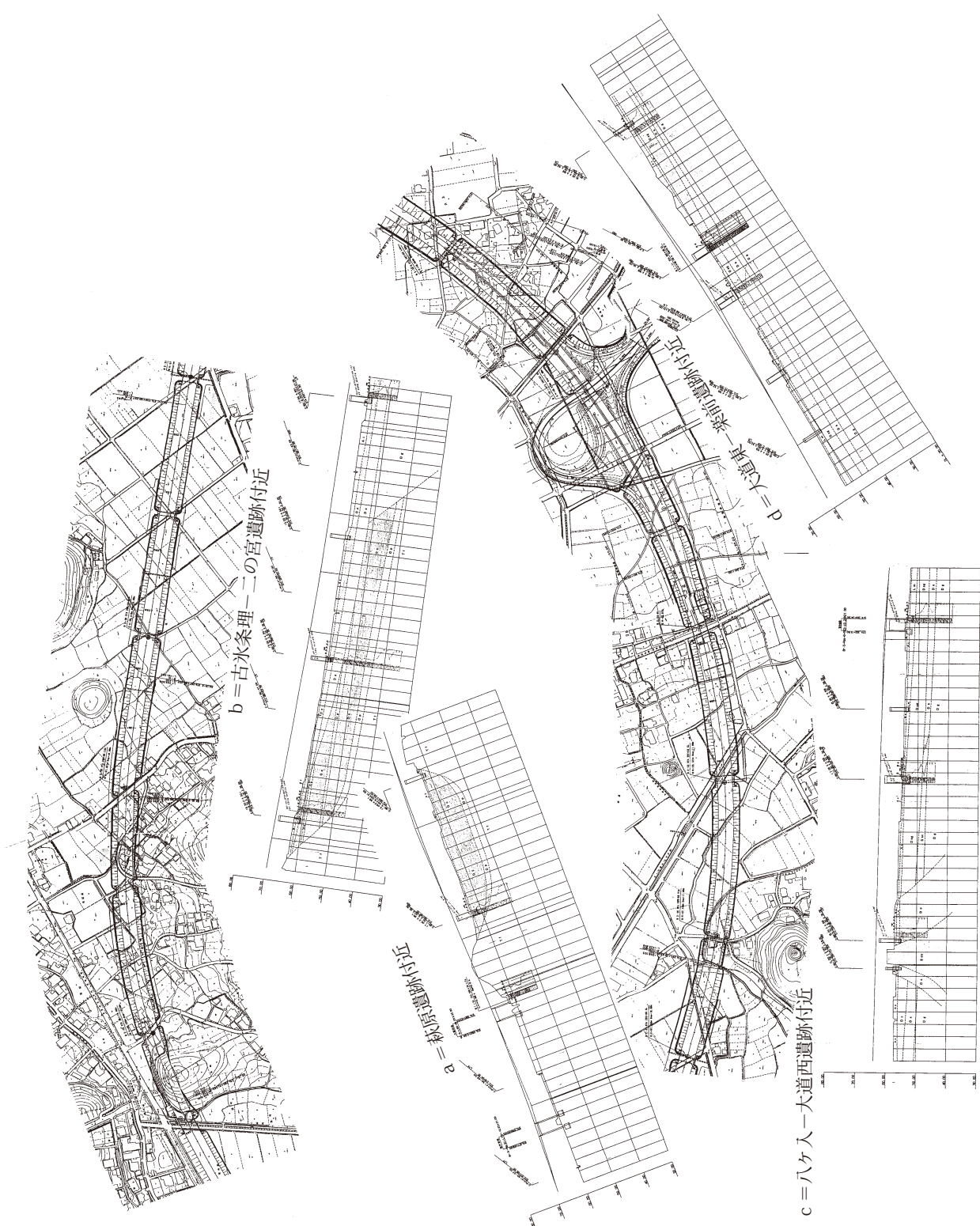
明治13-17年作成の陸軍陸地測量部作成の地図(第11図)に八ヶ入遺跡をプロットしてみると、北東側に矢田堀村の乗る微高地、南西側に金山丘陵の裾部があり、本遺跡は両者に挟まれた低地に所在する。北西側の八王子丘陵裾部の低地は八ヶ入遺跡付近で細くなり、北東側の矢田堀村微高地と金山裾部に挟まれ、括れている。独立丘陵の間を縫って南下する水と東西からの水は、八ヶ入付近に集中してくると予想される。この地形図で確認される範囲では、八ヶ入遺跡の地は水田に利用されているが、調査の結果、古代では居住域となっていたことが判明し、近代とは土地利用の様相が異なることが明らかにされた。



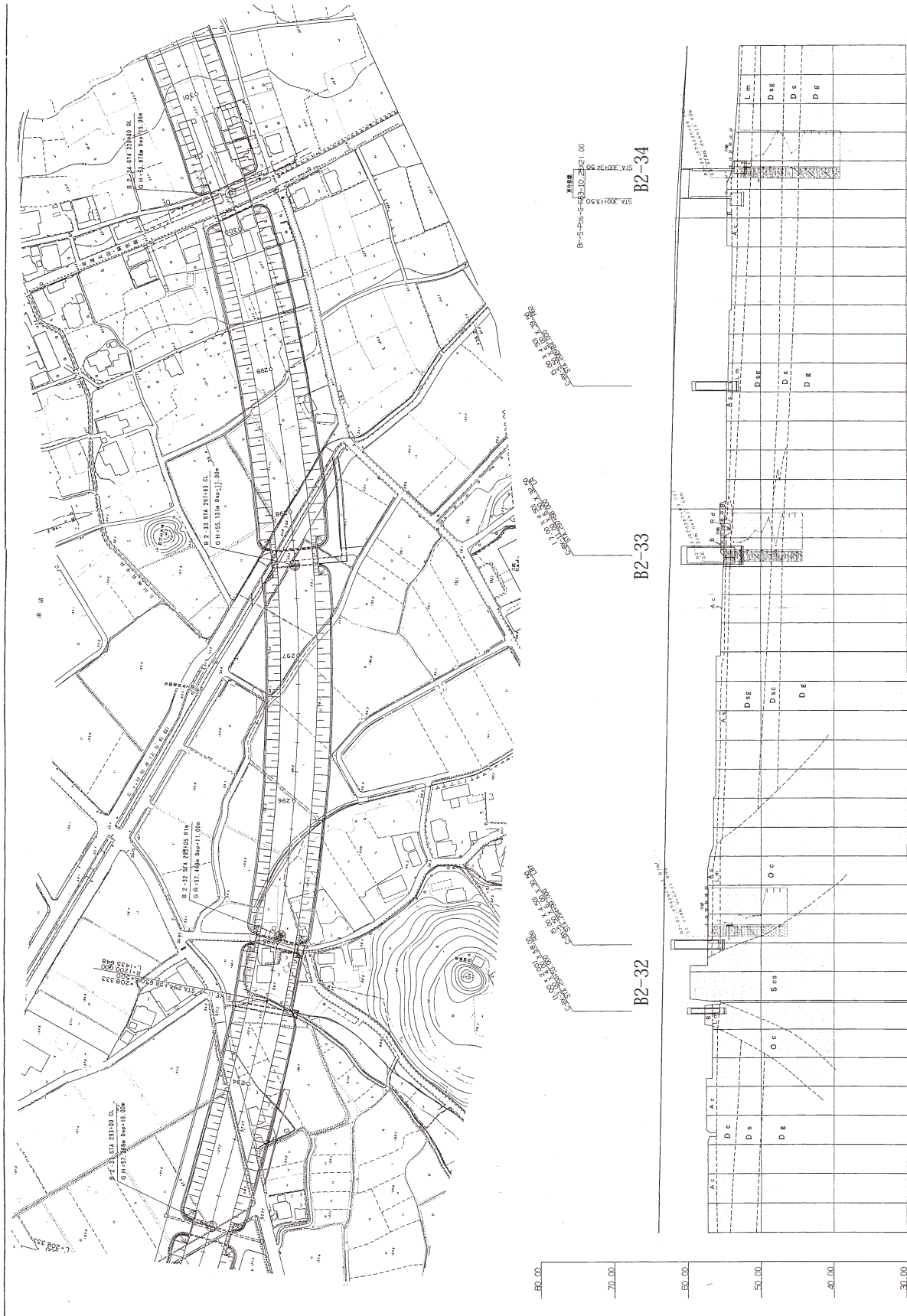
第5図 渡良瀬川扇状地の地質区分 (太田市史通史編自然,1996に加筆)



第6図 遺跡周辺地形分類図 (楽前遺跡1,29に加筆)



第7図 路線沿いのボーリング調査（平成10年日本道路公団東京建設局の図に加筆）



第8図 ハケ入-大道西遺跡付近のボーリング調査 (平成10年日本道路公団東京建設局の図に加筆)

B2-32

標尺	層高 (m)	層厚 (m)	柱状	土質区分	色相対照	密度	記
1	0.65	0.65	茶土	茶土	茶	10.00~0.65m	基礎固り性質土
2	1.05	1.05	茶土	茶土	茶	10.65~1.70m	ローム、磁石を含む砂質ローム、粘性小
3	4.05	4.05	茶土	茶土	茶	11.70~4.05m	粘土
4	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	14.05~4.60m	粘性大きく、含水分中。上部はやや砂質となる。
5	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	14.60~5.15m	砂質の粘性土。
6	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	14.60~7.50m	粘性の粘性土。表面状態を呈する硬質の粘性土。表面状態を呈し、粘性の強い、含水分少。下部は土質の混入量が多くなる。古河層ともしくは硬質の粘性土と考えられる。
7	2.90	2.90	茶土	茶土	茶	17.50~10.60m	風化砂岩
8	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	18.15~10.60m	若細粒の砂質土、硬質の砂質土
9	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	18.70~11.15m	硬質の砂質土
10	3.50	3.50	茶土	茶土	茶	11.00~14.65m	砂質土
11	1.00	1.00	茶土	茶土	茶	15.65~16.65m	砂質土

B2-33

標尺	層高 (m)	層厚 (m)	柱状	土質区分	色相対照	密度	記
1	0.90	0.90	茶土	茶土	茶	10.90~0.90m	粘性の粘性土
2	0.90	0.90	茶土	茶土	茶	10.90~1.80m	粘性の粘性土
3	0.90	0.90	茶土	茶土	茶	10.90~2.70m	粘性の粘性土
4	0.90	0.90	茶土	茶土	茶	10.90~3.60m	粘性の粘性土
5	0.90	0.90	茶土	茶土	茶	10.90~4.50m	粘性の粘性土
6	0.90	0.90	茶土	茶土	茶	10.90~5.40m	粘性の粘性土
7	5.00	5.00	茶土	茶土	茶	16.60~8.10m	粘性の粘性土
8	1.00	1.00	茶土	茶土	茶	17.60~9.10m	粘性の粘性土
9	1.00	1.00	茶土	茶土	茶	18.60~10.10m	粘性の粘性土
10	0.75	0.75	茶土	茶土	茶	19.35~10.85m	粘性の粘性土
11	0.75	0.75	茶土	茶土	茶	20.10~11.60m	粘性の粘性土

B2-34

標尺	層高 (m)	層厚 (m)	柱状	土質区分	色相対照	密度	記
1	1.20	1.20	茶土	茶土	茶	10.00~1.20m	基礎固り性質土
2	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	11.20~2.35m	砂質土
3	1.20	1.20	茶土	茶土	茶	12.95~7.10m	砂質土
4	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	13.65~7.65m	砂質土
5	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	14.20~8.20m	砂質土
6	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	14.75~8.75m	砂質土
7	4.15	4.15	茶土	茶土	茶	18.90~13.00m	砂質土
8	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	19.45~13.55m	砂質土
9	1.00	1.00	茶土	茶土	茶	20.45~14.55m	砂質土
10	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	21.00~15.10m	砂質土
11	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	21.55~15.65m	砂質土
12	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	22.10~16.20m	砂質土
13	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	22.65~16.75m	砂質土
14	5.00	5.00	茶土	茶土	茶	27.65~21.75m	砂質土
15	0.55	0.55	茶土	茶土	茶	28.20~22.30m	砂質土

第9図 ボーリング調査結果B-32, B-33, B-34地点 (平成10年日本道路公団東京建設局の図に加筆)

昭和22-23年撮影の米軍による航空写真の一部を抜き出したのが第12図である。矢田堀村付近の微高地に比較して、八ヶ入遺跡から北西部は濃淡の濃度が高く(黒っぽい)、より水分の多い区域と推定され、水田として利用されていたと考えられる。

太田市作成の1/3000地形図(昭和44年修正)では、金山裾部の頂部に「大日様」があり、裾部末端は本遺跡調査区域の2区に相当する。大日様は後年、「菅

ノ沢御廟ごびょう古墳」と呼ばれる古墳の上に設置されており、その南東側には「今泉口八幡古墳」がある。図上「向田」と表記された範囲が、概ね4区から5区であろう。6区は北西-南東に細長く広がる低地である。これらの様子からみると、2区南半部はボーリングデータから推定されたように、丘陵裾部が削平された可能性が高く、西側の1区は南北に水路が入っていて、より低平な地点とみられる。

毛里田地区地質層序表

地質年代	地層名	記号	土質・地質区分	N値分布 (平均値)	特徴		
新 生 代	新 世	盛土	B	礫質土(盛土)	—	調査地全域に分布する人工的な盛土部。道路や宅地に利用されており、砂利等の礫質土で構成されている。	
		現河床堆積物	Rd	玉石混じり砂礫 砂礫	—	河川横断箇所分布する。位置はNo.289、No.305+60付近。ボーリングでは未確認。	
		沖積低地 堆積物	粘性土層	Ac	粘土砂質粘土 礫混り粘土	2~3 (2.5)	調査地の低地部に分布し、層厚1~2m未満。暗褐~茶褐色を呈し、一部砂や礫を混入する。含水多く、粘性大。表土・耕作土も含む。
			砂質土層	As	粘土質砂	—	調査地の低地部に分布し、層厚0.5m未満。褐灰色を呈し、細粒分を多く含む細砂。含水多い。
	四 紀	ローム(上部)	Lm	火山灰質粘性土 火山灰質細砂(一部)	4~6 (4.8)	STANo.299~303、No.306以降の微高地と丘陵地に分布する。層厚は1m前後で最大2m。黄茶褐色を呈し、軽土層を挟む。STANo.288~294付近のDsg層上位に分布する黄褐色を帯びた褐色粘性土。粘性大きく、含水多量。下部は砂の混入率が多くなる。	
		渡良瀬 扇状地 堆積物	粘性土	Dc	凝灰質粘性土・ ローム質土	3~7 (5.0)	STANo.288以降に分布する渡良瀬扇状地礫層の上部層。
			砂礫層	Dsg	砂礫粘土混り砂礫	6~54 (23.9)	$\phi = 5 \sim 40\text{mm}$ の亜角礫を混入し、礫種はチャート、砂岩主体。含水中~多でしまりは緩い。
			砂質土層	Ds・Dsc	細~粗砂 砂質粘性土	4~40 (20.4)	STANo.288以降に分布する渡良瀬扇状地礫層の中部層。細~粗砂を主体とするが、場所により細粒分多く混入。含水中位でしまりがやや緩い。
			礫層	Dg	玉石混じり砂礫	50<	渡良瀬扇状地礫層の下部層。 $\phi 50 \sim 100\text{mm}$ の玉石(最大150mm)を多く混入し、基質は中~粗砂。玉石の多くは、チャート、砂岩、凝灰岩。
		古期崖錐 性堆積物 (太田層)	腐植物混 粘土	Op	腐植物混り粘土	4~10 (7.4)	古期崖錐堆積物中に挟在する腐植物混り粘性土。茶褐~褐灰色を呈し、若干の砂や礫を混入。含水中~小、粘性中~大程度。
			凝灰質 粘性土	Oc	凝灰質粘土 礫混り粘土	2~24 (11.3)	STANo.280~290付近の丘陵山麓及び山間部に分布。青灰~暗青灰色を呈し、所々粒状に固結。含水少なく、粘性小。
		新 第三 紀	中 新 世	強風化	Tf	凝灰岩(半~固結状)	10~38 (21.5)
	中風化			Tf	凝灰岩(固結)	19~107 (50<)	強風化岩：粘性土質な状態であるが、深くなるに従い固結度が良くなる。
	弱風化			Tf	凝灰岩(岩片状)	50<	中風化岩：所々岩片状をなすが、岩芯まで相当風化している。 弱風化岩：岩片が主体となり、亀裂として認識出来る状態。岩片自体は脆い。
	中・古生代	足尾層	Scs	砂岩	50<	STANo.295付近の丘陵地に分布。上部は風化して、褐色に酸化しているものの、岩片は硬質。全体に亀裂発達。	

第10図 毛里田地区地質層序表(平成10年日本道路公団東京建設局の図に加筆)



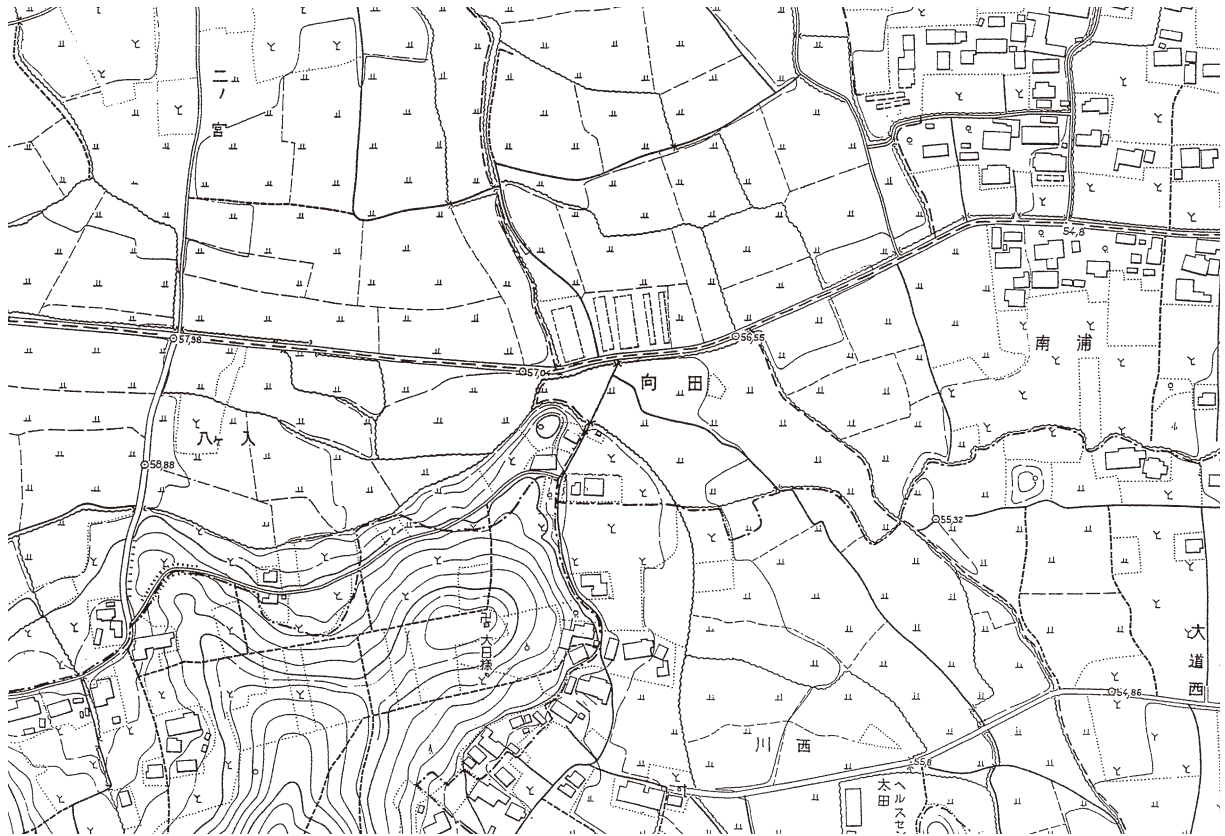
第11図 陸軍陸地測量部迅速図 (明治13-17年)

同じく、太田市作成の1/2500地形図（平成17年撮影,18年測量）を見ると、南東側に赤城神社（もと大日様か）の乗る丘陵が迫っており、その標高は74.2mである。本遺跡の調査対象区域の標高は、1区付近で58.2m、6-Ⅲ区付近で55.8mであり、神社の

乗る丘陵頂部（御廟古墳）との比高差は20m前後となる。調査対象区域は概ね南東に向かって低くなる地形であり、周辺は水田地帯である。なお、調査着手時の調査区東端（6-Ⅲ区）は、用水路の大谷幹線（五カ村用水）に隣接する。



第12図 米軍空撮写真（昭和22-23年,コース911の一部を拡大）



第13図 調査前地形図(昭和44年修正,太田市,3千分の1に加筆)



第14図 調査前地形図(平成18年測量,太田市,2500分の1に加筆)

2 周辺の遺跡

八ヶ入遺跡は旧石器時代から縄文時代・弥生時代の遺物が出土し、古墳時代から中近世に至る複合遺跡である。検出された遺構は住居・掘立柱建物・溝・道路などがあり、これらに伴う遺物も多種・多量である。ここでは、主として本書で扱う縄文時代以降の周辺遺跡について、比較的狭い区域の遺跡の所在やそれらの概要を記しておきたい。

旧石器時代

『八ヶ入遺跡 I』で紹介されたように、北関東自動車道建設に伴う発掘調査によって、近年調査例が増加している。峯山遺跡ではAT下層の暗色帯層準とAs-BPグループの二つの文化層が発見されている。

縄文時代

本遺跡のほか、二の宮遺跡で前期-後期の資料、峯山遺跡で草創期-後期、大道東遺跡で前期-後期、東今泉鹿島遺跡で早期-晩期の資料が発見されている。晩期の遺物は少なく、貴重な発見例である。

弥生時代

大道東遺跡で後期の資料が出土し、小丸山遺跡では縄文を施した弥生土器で後期の資料が発見されているが、八ヶ入遺跡周辺での発見例はごく少ない。八ヶ入遺跡発見の弥生土器も小片である。今後この時期の遺跡が発見される可能性もあるが、この時代は居住に不適な区域であったとみられる。

古墳時代

古墳時代になると周辺での遺跡発見例が増加する。丘陵部に後期古墳が造られ、裾部には集落が営まれるようになる。八王子丘陵南麓では大鷲大平古墳群・大鷲向山古墳群・吉沢古墳群があり、金山丘陵北東側では菅ノ沢古墳群・今泉口八幡山古墳・菅ノ沢御廟古墳がある。八ヶ入遺跡の東約250mにある巖穴山古墳は7世紀前半の古墳とされ、一辺約30mの方墳である。八ヶ入遺跡南西の菅ノ沢窯跡を代表とする須恵器窯跡が群をなして発見されているが、これらの生産遺跡や古墳群を支えた集落が、近傍にある

はずである。低平な区域での集落調査例は少ないが、本遺跡で発見した中期の遺物の存在は、埋没している集落発見の可能性を窺わせる。

金山丘陵では古墳時代後期に須恵器窯や埴輪窯が営まれ、八ヶ入遺跡南西側の丘陵裾部では菅ノ沢遺跡を代表とする窯跡群が多数発見されている。

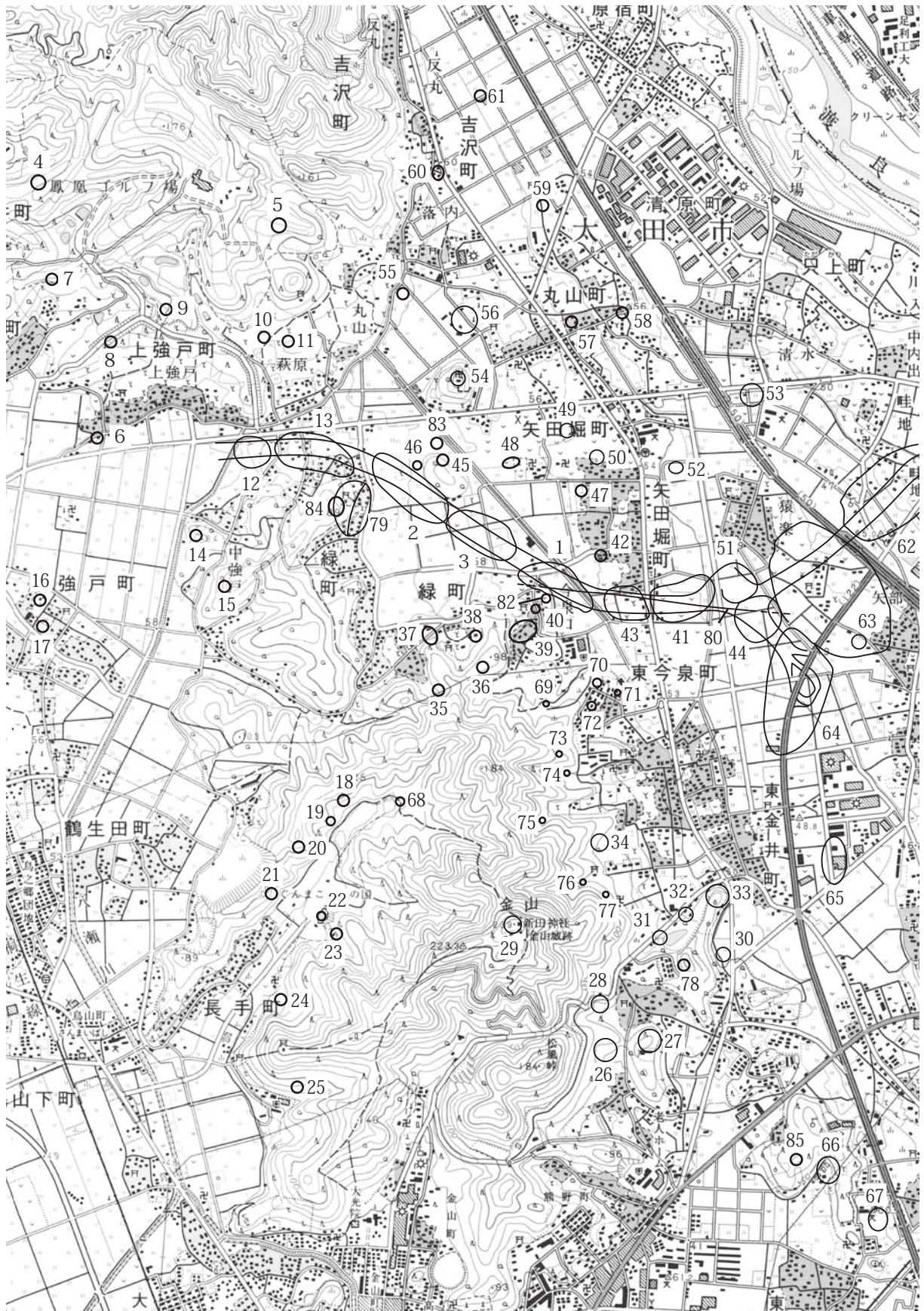
奈良・平安時代

奈良-平安時代では、近年の北関東自動車道建設に伴う大規模な発掘調査で多数の竪穴住居が発見されて、この区域の飛躍的な発展がみられる。

二の宮遺跡では住居跡30軒以上が発見され、大道西遺跡で2軒、大道東遺跡146軒（古墳時代含む）、鹿島浦遺跡136軒の奈良平安時代住居が検出されている。低地を目前にする微耕地上の集落が大規模に営まれ、条里水田の設営が推定される。

大道西・大道東・鹿島浦の各遺跡では、住居と切り合って道路跡が検出された。八ヶ入遺跡ではその南側溝とみられる溝が検出され、直線的に延びる幅13～15mの道路跡は東山道駅路と推定されている。大道東遺跡では住居との切り合い関係から、東山道駅路の存続期間が7世紀半ば～8世紀前半の比較的短い期間であったことが推定されるとともに、「牛堀・矢の原ルート」の続き部分と想定されている。未発見区間の道路遺構の確認が待たれる。

この時代になると、金山丘陵での須恵器窯は減少し、八王子丘陵南麓での発見が多くなって、須恵器の主要生産地が移動したようにみえる。燃料の枯渇とも考えられるが、同じく大量の燃料を必要とする製鉄は金山丘陵で行われており、単純な燃料不足ではない。須恵器・瓦は八王子丘陵で生産し、鉄は金山丘陵で生産したというような、生産品の小地域分業が行われた可能性もあろう。八王子丘陵では須恵器のほかに瓦の焼成もされており、萩原窯跡の瓦は寺井廃寺に供給されていた。山田郡衙推定地は南東に水田地帯を見る重要な位置を占めているとみられ、今後の調査に期待したい。金山丘陵では、高温管理技術と大量の燃料を必要とする製鉄遺跡が発見されている。菅ノ沢遺跡は1968年に発掘調査が行



第15図 周辺の遺跡（国土地理院2万5千分の1地形図「桐生」「上野境」「足利北部」「足利南部」に加筆）

第3節 発掘調査の方法と経過

1 調査の方法

(1) 調査区の設定

調査区は現道や水田の地境等を境界として西から東に向かってⅠ～Ⅵ区の大区画を設定した。調査区は調査順ではなく、西から1区、2区、3区、4-I区、4-II区、4-III区、5区、6-I区、6-II区、6-III区とした。

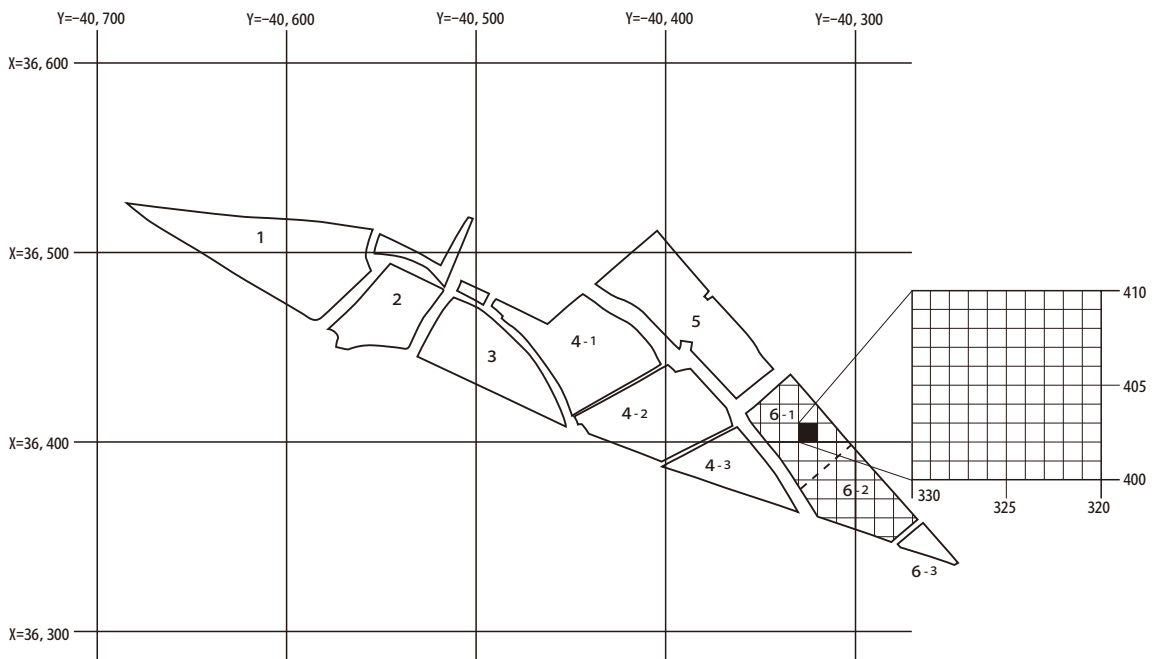
(2) グリッド設定

日本平面直角座標（国家座標）を基準とし、X軸Y軸とも国家座標の下3桁の値を用いてX軸-Y軸のように表記し、その南東隅の座標点をグリッド名

とした。座標値の性質上、最小単位は1mであるが、方眼杭や遺物取り上げなどは5mグリッドを用いた。

(3) 遺構調査

表土は重機で除去した後、遺構確認を行い、確認後各遺構を掘り下げた。5区から調査に着手したため、遺構番号は調査の大区画ごとに1、2、3・・・とした。従って、3区1号住居、5区1号住居が存在する。写真撮影は白黒6×7、白黒35mm、カラーリバーサル35mmの3種類を基本とした。全景写真についてはラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。測量は断面図を作業員手実測とし、平面図は業者委託によるデジタル測量とした。遺構調査終了後、ロームの残っていた区域で旧石器の調査を行い、自然礫を除く総数1,665点の旧石器が出土した。



第16図 ハケ入遺跡グリッド設定図



第17図 ハヶ入遺跡調査区図

2 調査経過

(1) 毛里田地区範囲確認調査

八ヶ入遺跡の本調査に先立ち、古氷条里水田制遺跡・二の宮遺跡とともに、範囲確認調査が行われた。実施期間は平成15年5月12日から5月19日である。方法はバックホーを用いて、幅約1mのトレンチを掘削し、遺構の種類・広がりを確認したものである。用地取得の関係から、八ヶ入遺跡では5区に16号トレンチ、4-I区に17号トレンチを設定して確認した。その結果、竪穴住居・土坑・溝状の凹み等を検出し、土器片も出土したことから、全面調査が行われることになった(第4図範囲確認トレンチ図)。

本調査は平成15～16年度に実施したが、各区の最終段階で旧石器時代の遺構・遺物の存否を確認する調査が行われ、旧石器が発見された区域ではトレンチを拡張して分布範囲を確認した。

以下、本調査の実施経過を日誌によって抄録する。

(2) 平成15年度調査

平成15年

6月下旬 調査事務所の設営、調査の準備を開始する。下田遺跡から移動。

7月1日 職員3名の体制で調査を開始する。5区1面表土掘削。遺構確認作業開始。溝・土坑などを確認。

7月16日 1号溝から遺構の調査を開始する。

7月22日 5区に続いて、6区の表土掘削を開始する(7月31日まで)。

7月29日 東山道駅路の存在を確認する。

8月7日 5区1面西側、全景写真撮影。

8月20日 5区2面、溝・土坑調査開始。

9月9日 5区2面、1号・2号住居の調査を開始する。合わせて4区の表土掘削を開始する。

9月12日 5区2面、空中写真撮影。

9月16日 5区大溝(後日、谷地と認識を改める)のトレンチ調査を実施する。

9月17日 6-II区、遺構確認作業を開始する。

9月18日 5区の旧石器調査を開始(11月7日まで)。

10月2日 6-II区、東山道駅路南側側溝を確認、調査を開始する。

10月10日 6-III区、表土掘削を開始する。

10月31日 6-I区、表土掘削を行い、2面の調査を開始する。

11月4日 6-III区、遺構の調査を開始する。

11月17日 6-II区、谷地部分の調査を開始する(平成16年2月2日まで)。

11月20日 5区、埋め戻しを始める。

11月26日 6-III区、石器調査を開始。

12月 職員2名体制となる。

12月8日 4-III区、東山道駅路確認のためのトレンチ調査を実施する。

12月17日 6区、東山道駅路の空中撮影。合わせて4-III区、6-III区の全景写真撮影。

12月18日 4-III区、6区、トレンチ調査。あわせて4-I区の表土掘削、遺構確認作業。

平成16年

1月15日 4-III区、6区、空中写真撮影。

木下 良・武部健一氏来跡。

東山道駅路について指導を受ける。

1月25日 現地説明会開催(来場者528人)

1月26日 6-I区、II区、旧石器調査開始(2月2日まで)。

2月3日 6区-I区、II区、埋め戻し。4-I区遺構調査開始。

2月4日 4-III区、旧石器調査開始(2月6日まで)。

2月9日 4-III区、埋め戻しを始める。

3月24日 年度末にて調査を一時中断する。

(3) 平成16年度調査

平成16年

4月1日 職員2名の体制で調査準備を開始する。

5月11日 4-I区、調査を再開する。

5月24日 4-I区、旧石器調査を進める。

5月25日 3区、表土掘削を開始する。引き続き遺構調査を開始する。

5月28日 4区、全景写真撮影。

6月18日 2区、トレンチ調査を実施する。
9月6日 1区、表土掘削を開始（9月10日まで）。
引き続き遺構確認調査を開始する。
9月15日 2区、トレンチ調査を再開。合わせて遺構確認作業を進める（10月28日まで）。
10月29日 1区、遺構確認作業を再開する（11月4日まで）。
11月5日 4－Ⅱ区、表土掘削、合わせて遺構確認作業を実施。
11月16日 4－Ⅱ区、遺構確認作業を開始、合わせて調査も実施する。
11月25日 3区、全景写真撮影。
12月8日 3区、縄文時代包含層の調査を実施する（1月31日まで）。
平成17年
1月6日 1区、トレンチ調査を実施（2月8日まで）。3区では掘立柱建物・ピットの調査を開始する。
2月2日 3区、旧石器調査を開始する（3月2日まで）。
2月7日 4区、旧石器調査を開始する（3月15日まで）。
3月10日 4区、36号溝の調査を実施する。
3月17日 3区、埋め戻し終了。
3月22日 4区、埋め戻し終了。
3月28日 残務整理を完了。調査の全てを終了する。

（4）現地説明会

平成15年1月25日に現地説明会を開催したところ、528人の来場者があった。

3 整理作業の方法と経過

（1）整理作業の経過

整理作業は平成20年4月から開始し、平成22年9月まで行う予定である。本遺跡は旧石器時代～近世の複合遺跡であり、とくに古墳～平安時代の遺構・遺物が多く検出されているため、旧石器時代と縄文時代以降を分けて整理し、調査報告書も分冊とした。

旧石器時代の遺物の整理は平成21年度に行われ、平成22年3月に報告書『八ヶ入遺跡Ⅰ』を刊行している。本書は縄文時代以降を掲載範囲とし、平成20年度－平成21年度－平成22年度の三年度にわたって実施した。延べ30ヶ月を要した。

平成20年度は主として遺構内容の確認と出土遺物の接合復元・写真撮影、出土遺物の実測等を開始し、遺構図の整理を行った。平成21年度は遺物の実測・写真撮影を継続し、トレースまで終了した。遺構図はデジタルトレースを行い、フィルムのスキャンを実施して遺構写真のデジタル原稿を内製した。また、個別遺構の報告原稿・各遺物の観察表等の詳述原稿を執筆した。平成22年度は第2章発掘調査の記録を除く部分の図を作成し、遺構写真・遺物写真とともにレイアウトし、全体の編集を経て刊行する予定である。

（2）整理作業の方法

整理作業着手の時点では、従来通りのインクトレースによる遺構図・遺物図の印刷原稿、紙焼きによる写真印刷原稿を作成する予定であったが、印刷費縮減のため平成21年度に方針が変更されて、デジタルの図・写真原稿を作成することとなった。

（3）遺物量

本遺跡で出土した遺物量は、土器・石器等を納める標準的な遺物収納箱（60×38×15cm）で144箱である。それらのうち、本書に掲載した遺物は総数2,196点で、箱数にして107箱になる。遺物の種類別では、次の通りである。

縄文土器	153点
縄文石器	158点
弥生土器	70点
土師器・須恵器（土製品含む）	1634点
金属製品	100点
石製品	31点
ガラス小玉	2点
製鉄関連遺物	25点
中近世陶磁器	23点

また、未掲載遺物は標準箱で55箱（543袋）その総重量は869.99kgであった。

4 基本土層

八ヶ入遺跡では各区に高低差があり、5区から着手されて飛び地状に調査が進められたこともあり、各区の連続的な土層を示すのは困難である。第18図は各区の土層を採取した地点を示したものである。

1区は調査区域の西端に位置し、2区に比べて2～2.5m低く、南東側の現水田や北側の二の宮遺跡の地形に連なるとみられる。暗褐色系の砂質土がみられ、周囲から土砂が流入した可能性がある。

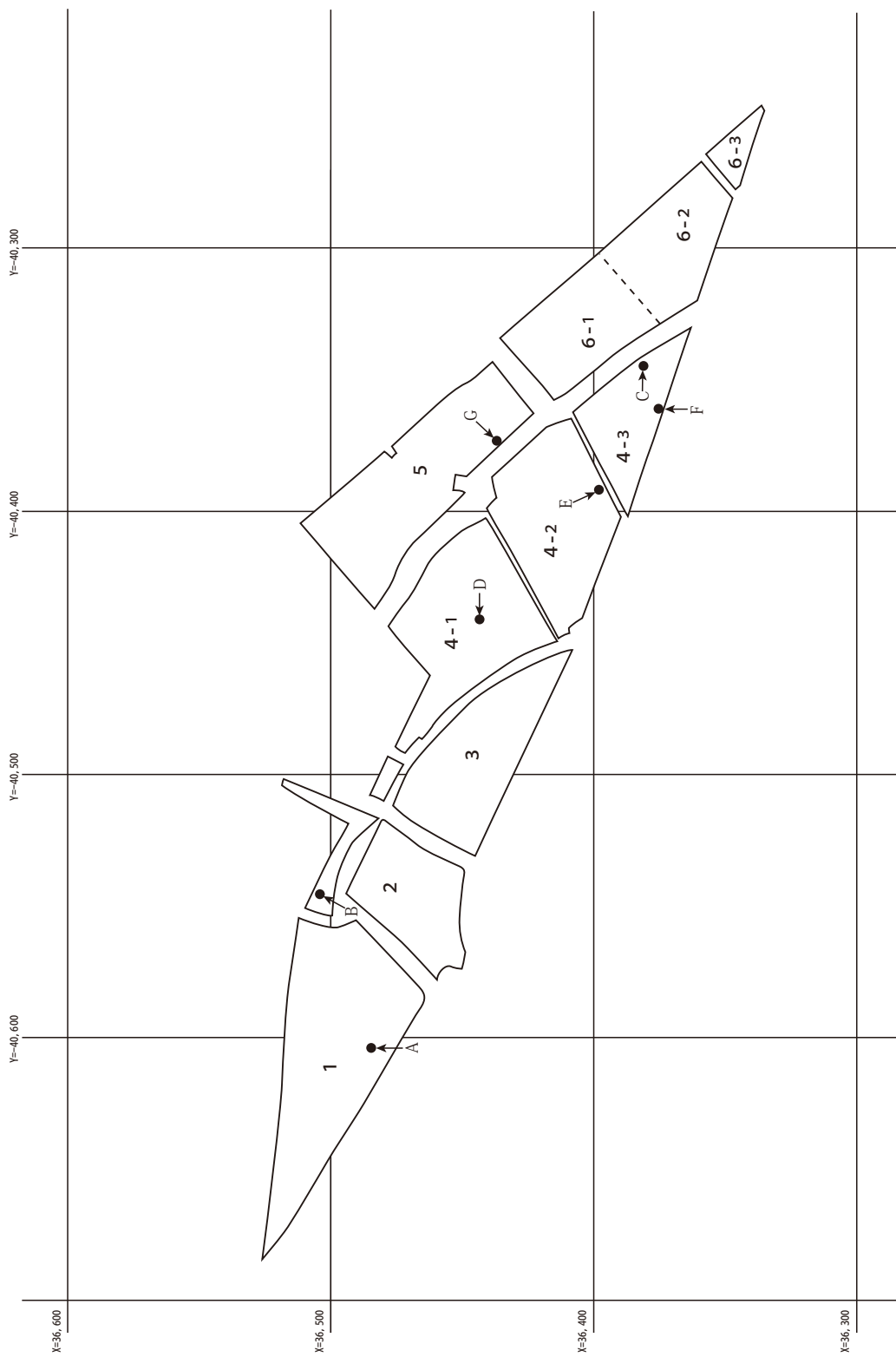
2区南半部では3本のトレンチが入り、その断面図みると、1号トレンチの表土（盛土）下約1mで注記「黄色 岩盤」に当たっており、これはボーリングデータの「Scs」（砂岩）の記述と一致するようにみえる。2区北半部では、4号トレンチ・5号トレンチが掘り下げられ、上位は灰褐色系の砂質土、下位は黒褐色系の粘質土が堆積する。しかし、現地表下約1mで、多量に小礫を混入する黄褐色系の砂質土となる。より下位に扇状地堆積物の存在が推定

できそうである。

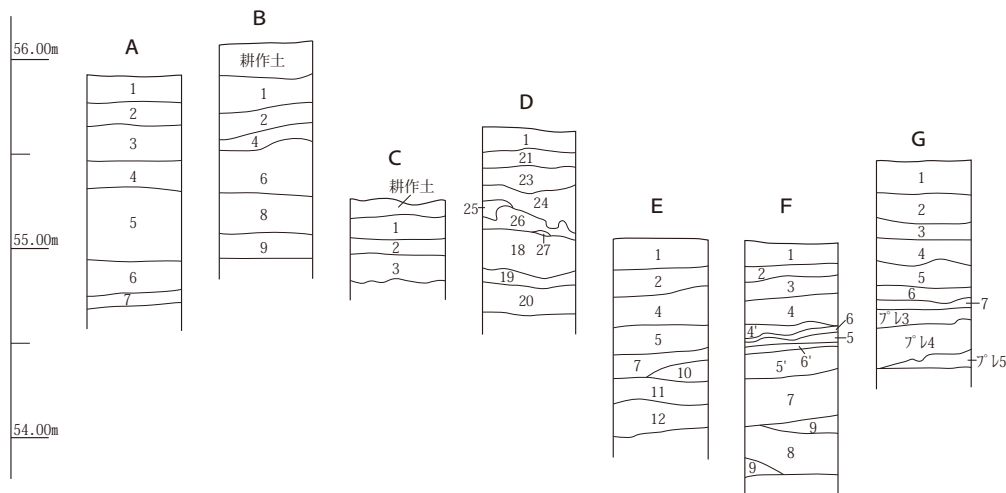
3区は遺構の密集する区域で、古墳時代の住居2軒も3区で検出されている。相対的に高い区域であり、金山丘陵の北東裾部に相当し、比較的安定していたと考えられる。

4区の土層は、4-I区（C）・4-II区（D）・4-III区（E）・4-IV区（F）の4断面を示した。C断面とF断面は6区に近い南東寄りにあり、土層上位に「As-B混土」が認められることから、平安時代以降周囲に比べて低い土地であったことがわかる。これに比べてD断面はやや高く、上位土層を除くと全体的に砂質で、標高54.7m付近で礫層になる。

5区では南東部の6区に近い範囲に位置する6号溝のG断面を示した。上位の1～4層を最近の土層とみれば、5-6層に「As-B」が混入し、F断面とほぼ同じ高さにAs-B混土が位置する。6区を取り巻くC F Gの断面から、6-I・6-II区は相対的に低い区域と考えられる。



第18图 土层断面采取位置图



第19図 基本土層図

A = 1区485ライン

- 1 表土
- 2 暗褐色土 鉄分少量含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質。As-B混土相当層。
- 4 暗褐色土 砂質。As-B混土層。
- 5 暗褐色土 砂質。As-B混土層。鉄分含む。
- 6 灰褐色土 砂質。
- 7 黒褐色土 粘質。

B = 2区4号トレンチ

- 1 灰黄褐色土 ローム土・ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石極少量含む。
- 2 灰黄褐色土 やや砂質。ロームブロック(径5~20mm)極少量混入。白色軽石極少量含む。
- 4 暗褐色土 砂質。ローム土極少量混入。白色軽石極少量含む。黒褐色粘質土ブロックも少量混じる。底部に赤褐色粘質土層(厚さ1cm)がある。
- 6 黒褐色土 粘質。褐灰色砂質土層が細かく数層混じる。水の影響を沢山受けている。
- 8 黒褐色土 粘質。
- 9 にぶい黄褐色土 砂質。小礫(径10~50mm)少量混入。

C = 4-III区東壁セクション

- 1 暗褐色土 砂質。As-B混土。白色軽石(径1mm)を少量混入。
- 2 黄褐色土 砂質。As-B混土底に鉄分の沈着がある。
- 3 黒褐色土 粘質。As-B混土下黒ネバ層。白色軽石(径1mm)少量混入。

D = 4-I区Y440トレンチ

- 1 黒褐色土 粘質。As-B混土下黒ネバ層。As-B軽石も少量含む。白色軽石(径1mm)を均一に5%混入。
- 18 黒褐色土 粘質。鉄分の沈着があるが、粘性が強い。水性堆積ローム。
- 19 黒褐色土 砂質。粗い砂(80%)と水性堆積ローム(20%)の混土。かたい。
- 20 礫層 渡良瀬川の旧河道。小礫(径1~5cm)と砂の混土。
- 21 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~5mm)均一に30%混入。
- 23 黄褐色土 砂質。白色軽石(径1~5mm)を少量含む。粗い砂が主体。
- 24 灰白色土 砂質。Hr-FA軽石が集中して堆積している層。暗褐色粘質土も80%混入。Hr-FA泥流層。
- 25 灰白色土 粘質。Hr-FA軽石が流れる間に粉状になりアッシュ状に堆積。Hr-FA泥流層。
- 26 暗褐色土 粘質。ロームの水性堆積層。砂とHr-FA軽石が少量混じり鉄分の沈着が多い。
- 27 黄褐色土 砂質。As-C軽石の堆積層。

E = 4-II区Y390トレンチ

- 1 にぶい黄褐色土 砂質。
- 2 オリーブ褐色土 砂質。
- 4 暗褐色土 やや粘質。白色軽石少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。灰白色泥流粒下層に少量含む。
- 7 黒褐色土 粘質。
- 10 褐灰色土 粘質。鉄分少量含む。
- 11 灰褐色土 粘質。鉄分中量含む。
- 12 灰褐色土 やや砂質。小礫少量含む。

F = 4-III区Y360ライン

- 1 暗褐色土 砂質。As-B混土。白色軽石(径1mm)を少量混入。
- 2 黄褐色土 砂質。As-B混土底に鉄分の沈着がある。
- 3 黒褐色土 粘質。As-B混土下黒ネバ層、白色軽石(径1mm)少量混入。
- 4 黄褐色土 粘質。白色軽石(径5mm)が均一に10%混入。
- 4' 灰褐色土 粘質。
- 5 黒褐色土 粘質。白色軽石(径5mm)が少量混入。粘性が強い。
- 5' 黒褐色土 粘質。粘性が強く白色軽石は含まない。
- 6 白色土 摩滅したHr-FA軽石(径5mm)が堆積。洪水層。
- 6' 白色土 白色軽石(径1mm)と砂の混土。
- 7 灰褐色土 粘質。水性堆積ローム。
- 8 灰黄褐色土 粘質。粘質が強く、縦状に鉄分の沈着あり。
- 9 小礫層 鉄分の沈着あり。遺物は出土しない。

G = 5区6号溝

- 1 現耕作土
- 2 茶褐色土 黄褐色土粒(径1~3mm)5%程度混入。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~2mm)5%程度混入。
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~2mm)5%程度混入。2層土も混じる。
- 5 暗褐色土 As-B混土。
- 6 暗褐色土 As-B混土。5層の土より暗い暗褐色土が混じる。
- 7 茶褐色砂質土 As-B砂質土を主体とする。
- プレ3 黄褐色土 粘質。ローム少しやわらかい。
- プレ4 暗褐色土 粘質。ローム。
- プレ5 暗褐色土 礫層。小礫(径1~8cm)とロームの混土。

第2章 発掘調査の記録

第1節 遺跡の概要

1 検出した遺構と遺物

八ヶ入遺跡の調査においては旧石器時代から中・近世にかけての遺構・遺物が検出された。検出した遺構の種類は、竪穴住居、掘立柱建物、建物址、竪穴状遺構、井戸、柵列、土坑、ピット、(屋外炉)、溝、東山道駅路側溝である。個々の遺構の検出数は第2表にあげたとおりである。5区、6区では「自然流路」の調査も行った。

調査経過の項においても記したよう、1区・2区においてはトレンチを設定して調査を行ったが遺構の存在を確認することはなかった。1区では3本のトレンチを設定し土層の観察を行った。調査区北側寄りの中央部分から西側にかけては表土を除去し、遺構の確認作業を実施した。これによりこの地点は古代から中世にかけて自然河川の流路となっていたとの調査所見が得られている。

2区は現道をはさんだ2箇所調査区内に合計5本のトレンチを設定し、遺構の確認、土層観察を行った。この調査区の範囲は圃場整備事業以前には金山丘陵の陵裾が北側へ長く延びていた部分である。圃場整備により削平を受けていた。

竪穴住居は、3区から6区の各調査区から古墳時代中期2軒、奈良時代8軒、平安時代82軒、時期不明5軒の合計97軒を検出した。なお、調査時には3区から6区までの合計で119軒の住居番号が付されたが、整理作業時に検討を加えた結果、22軒を住居として取り扱わないこととした。帰属すると考えられた出土遺物は遺構外出土の資料として扱った。

掘立柱建物は、3区で3棟、6区で1棟の合計4棟を検出した。詳細な掘削時期を断定することは困難であるが、奈良・平安時代の所産と考えられる。

建物址は3軒、竪穴状遺構は4軒を検出した。これらは調査時に炊飯施設をはじめとする諸施設が検出されず、竪穴住居として認定するにいたらなかった遺構である。竪穴住居の可能性も考えられる遺構である。整理作業時に検討したものの判然とした性格づけができなかった。ここでは調査時の遺構名をそのまま使用して報告する。

井戸は、3区と6区で各1基ずつ検出された。3区は近世、6区も中世以降と考えられるが遺物の面からは古代の所産の可能性も考えられる。

土坑は全体で327基が検出された。掘削時期は、古墳時代中・後期、奈良・平安時代、中・近世の所産と考えられる遺構が確認された。

ピットは全体で合計688本が検出された。大別して中・近世のものと奈良・平安時代の所産のものと考えられる。この中には掘立柱建物の一部を構成していたものも含まれると考えられるが、調査時、あるいは整理作業時に新たに掘立柱建物の存在を追加することはできなかった。

溝は合計で88条を検出した。確認面の1面で検出した溝は48条である。遺物の出土が少なく、掘削時期を判断することが困難なものが多かった。大半が、圃場整備前の地割にはその痕跡が見られないものであることから中・近世の所産と考えられる。5区25号溝や6区8号溝は大規模であることから基幹水路の性格を有していたものと考えられる。3区1号・3号溝、5区1号溝は、調査前まで使用されていた用水路の流路の走向に近い位置で検出されていることから、徐々に掘削位置を変えながら長期間利用されてきた遺構であることも考えられる。これらの溝の埋没土中からは古墳時代から平安時代の遺物も多数出土している。直接遺構に伴わないものであるが遺構に合わせて掲載した。

確認面の2面で検出した溝は40条である。奈良・

平安時代以前の所産と考えられる。5区18号溝は1面で検出された25号溝と走向を同じくするもので、五ヶ村用水との関係も注目される遺構である。

4区で検出された6号溝をはじめとした20条の溝は、奈良・平安時代の竪穴住居の築造に先立って掘削されたものである。調査時の所見では、埋没土中に流水の痕跡が確認されたことから自然流路と判断したものである。

6区では東山道駅路の南側側溝を検出した。北側側溝は後世の溝として再利用されていた。

3区では縄文時代遺物包含層の調査を実施、土器・石器を取り上げた。合わせて集石遺構1基を検出した。

調査で得られた遺物の数量は、60×38×15cmの遺物収納箱に144箱である。本文中に掲載した資料は

合計2,196点、その内訳と数量は以下のとおりである。

縄文時代 土器153点、石器158点

弥生時代 土器70点

古墳時代 土師器85点、須恵器10点、埴輪10点、石製模造品3点、ガラス製勾玉1点、ガラス小玉2点、鉄製品2点

奈良・平安時代 土師器248点、須恵器831点、灰釉陶器27点、奈良三彩3点、瓦49点、磚3点、瓦塔3点、土製紡錘車9点、石製紡錘車7点、鉄製紡錘車3点、砥石12点、製鉄関連遺物25点、鉄製品81点、その他271点

中・近世以降 陶磁器23点、鉄砲玉1点、古銭6点、五輪塔1点、硯1点、その他98点

第2表 ハヶ入遺跡遺構数量一覧

遺構	時代	3区	4区	5区	6区	合計
住居	古墳	2	0	0	0	2
	奈良	8	0	0	0	8
	平安	60	22	2	3	87
	小計	70	22	2	3	97
建物址	古墳	0	0	0	3	3
竪穴状遺構	奈良・平安	2	1	0	1	4
掘立柱建物	奈良・平安	3	0	0	1	4
土坑	古墳	0	0	0	9	9
	奈良・平安	190	72	11	21	294
	中・近世	3	4	8	9	24
	小計	193	76	19	39	327
ピット	奈良・平安	476	110	25	34	645
	中・近世	0	38	0	5	43
	小計	476	148	25	39	688
溝	奈良・平安	5	22	8	5	40
	中・近世	6	13	21	8	48
	小計	11	35	29	13	88
井戸	中・近世	1	0	0	1	2
柵列	奈良・平安	0	1	0	0	1
	中・近世	0	0	3	0	3
	小計	0	1	3	0	4
集石	縄文	1	0	0	0	1

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1 調査の概要

3区の調査においては2面で検出した竪穴住居他の諸遺構の確認・掘り下げ時に多数の縄文土器の出土を見ている。このことから調査区の西半部を中心に縄文時代の遺構確認作業を実施した。結果、当該時代の遺構としては集石1基を確認した。

出土遺物としては縄文土器、同時代の石器あわせて514点について、その出土位置の平・断面を記録して取り上げている。

4区、5区、6区においても遺構確認作業・検出作業時に当該時代の土器・石器の出土を見ているが、出土量が少量であったことから3区のような包含層の調査は実施していない。

2 集石

概要

調査区北西部分において縄文時代遺物包含層の調査の時点で検出された。

3区1号集石(第20図、P L 4)

位置 460-515

形状 東西3.20、南北1.50mの範囲に長軸5から15cmの大きさの円礫・角礫が検出された。検出面の黒褐色土層は南西から北東に向かってわずかに下がるものの概ね平坦であった。礫の一部は確認面から上層に位置するものも多数あった。上下に重なる部分もあるが、石組みや列をなす様子は認められなかった。461-407の部分は約0.7m四方の範囲で他より礫が密集しており、その下位には浅い皿状の掘り込みが認められた。掘り込みの規模は南北1.03m、東西0.90mで、南東部分はピットが重複したかのように突出していた。深さは最大で10cmである。覆土については不明である。

遺物 本遺構に伴う遺物はなかった。

所見 縄文時代の集石の可能性が考えられるも

のその性格については不詳である。

3 遺構外出土の遺物

(1) 縄文土器

本遺跡出土の縄文土器はすべて包含層中あるいは遺構外からの出土であるが、区によって時期の相違が顕著であったことから、区ごとに掲載した。

3区は出土量がもっとも多く、草創期後半～晩期の多時期にわたる遺物が出土したが、なかでも草創期後半撚糸紋系～早期後半条痕紋系の、破片資料ながら比較的まとまった出土が特筆されよう。確認できるもっとも古い段階は井草Ⅰ式で、井草Ⅱ式、夏島式へと続く。その後の稲荷台式から三戸式までの出土は認められず数型式の空白があるが、田戸下層式以降は条痕紋系の鶴ヶ島台式に至るまで、わずかずつながりながら継続して存在する。また押型紋土器、東北地方南部に分布する明神裏Ⅲ式の出土が認められた。群馬県内での当該期土器群の出土例はいまだ乏しく、破片資料とはいえ本資料が追加されたことは貴重といえる。また晩期と考えられる撚糸紋施紋土器も注目されよう。

4区から6区にかけては徐々に遺物の出土が希薄になり、時期も中・後期が主体となっている。

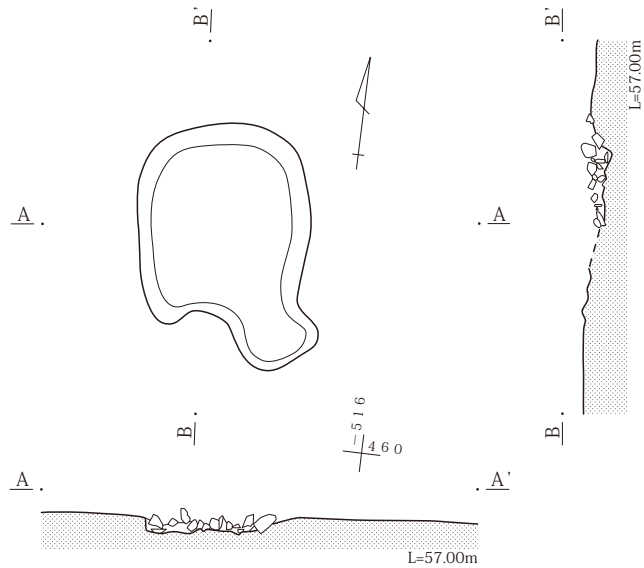
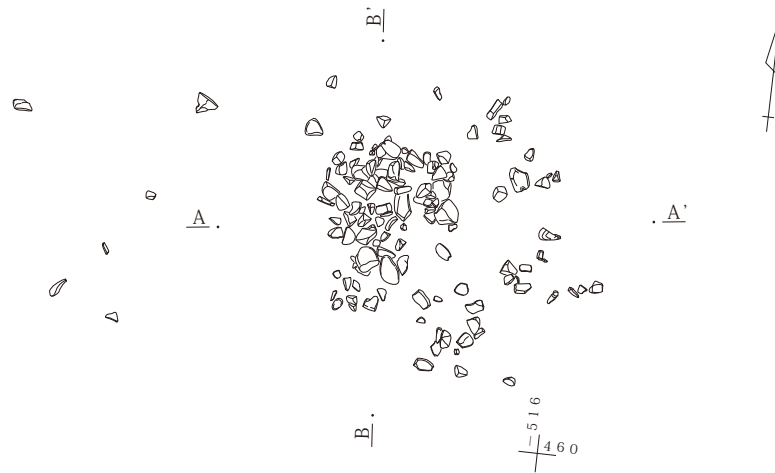
遺構に伴わない縄文土器の中から本項で資料化を行ったものは3区出土の110点、4区出土の26点、5区出土の10点、6区出土の7点の合計153点である。時期別には草創期後半の井草式、夏島式、早期の押型文系田戸下層式、田戸上層式、明神裏Ⅲ式、子母口式、「木の根A式」、野島式、鶴ヶ島台式、前期の黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、浮島式、中期の五領ヶ台式、勝坂式、阿玉台式、加曾利E式、後期の称名寺式、堀之内式、加曾利B式、晩期と多岐におよんでいる。

以下、区ごとに資料化した土器について、時期、型式別に出土状況の概要について記す。土器個々の詳細な出土地点や特徴の観察結果については遺物観察表を参照願いたい。

3区では草創期井草式の1～13の13点が調査区の西側寄りに、-510ライン以西に偏って出土している。14は押型紋系の土器で、445-480グリッドの出土である。

15は早期、田戸下層式である。調査区の東半分、440-480グリッドの出土である。田戸上層式は16から22・29の8点を掲載した。調査区の中央か

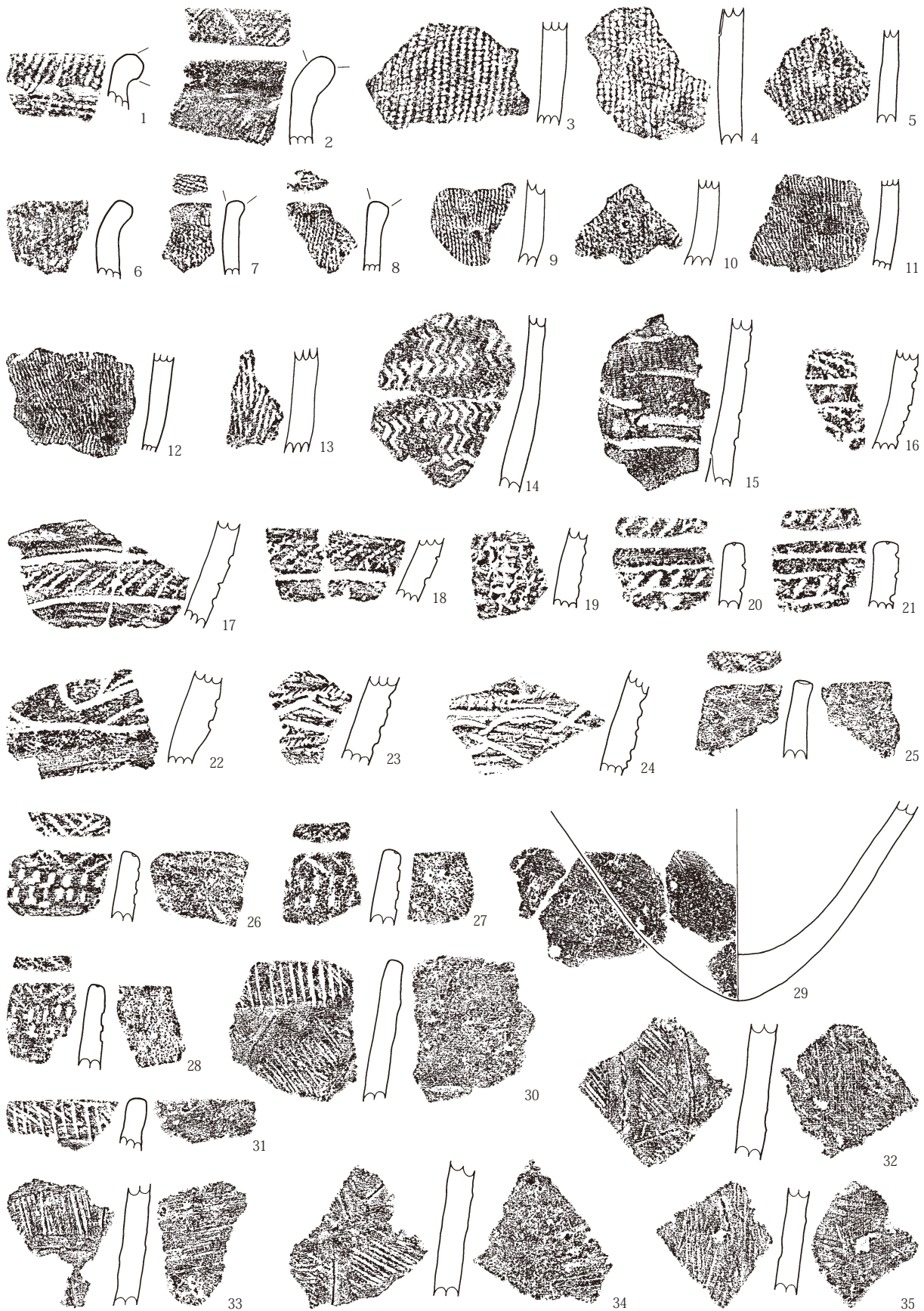
ら西側寄りに散在していた。29は440-500、440-520、445-520グリッドからの出土破片が接合した。23・24は明神裏皿式である。ともに調査区の北西部、465-515グリッドの出土である。子母口式は25から28の4点を取り上げた。いずれも調査区の西側端寄りからの出土である。30から38の9点は「木の根A式」である。



断面 = 1 : 20

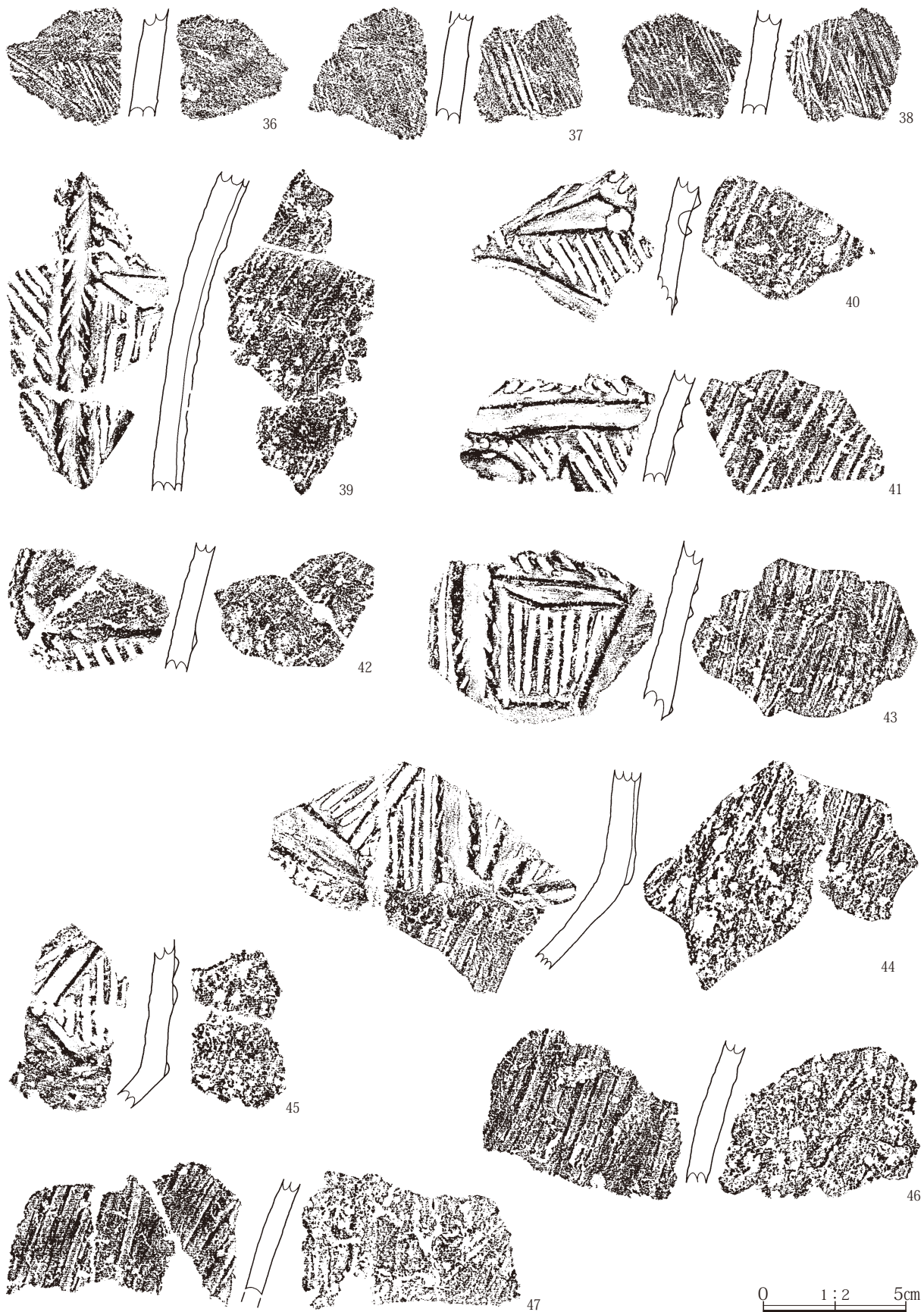
0 1 : 40 1 m

第20図 3区1号集石

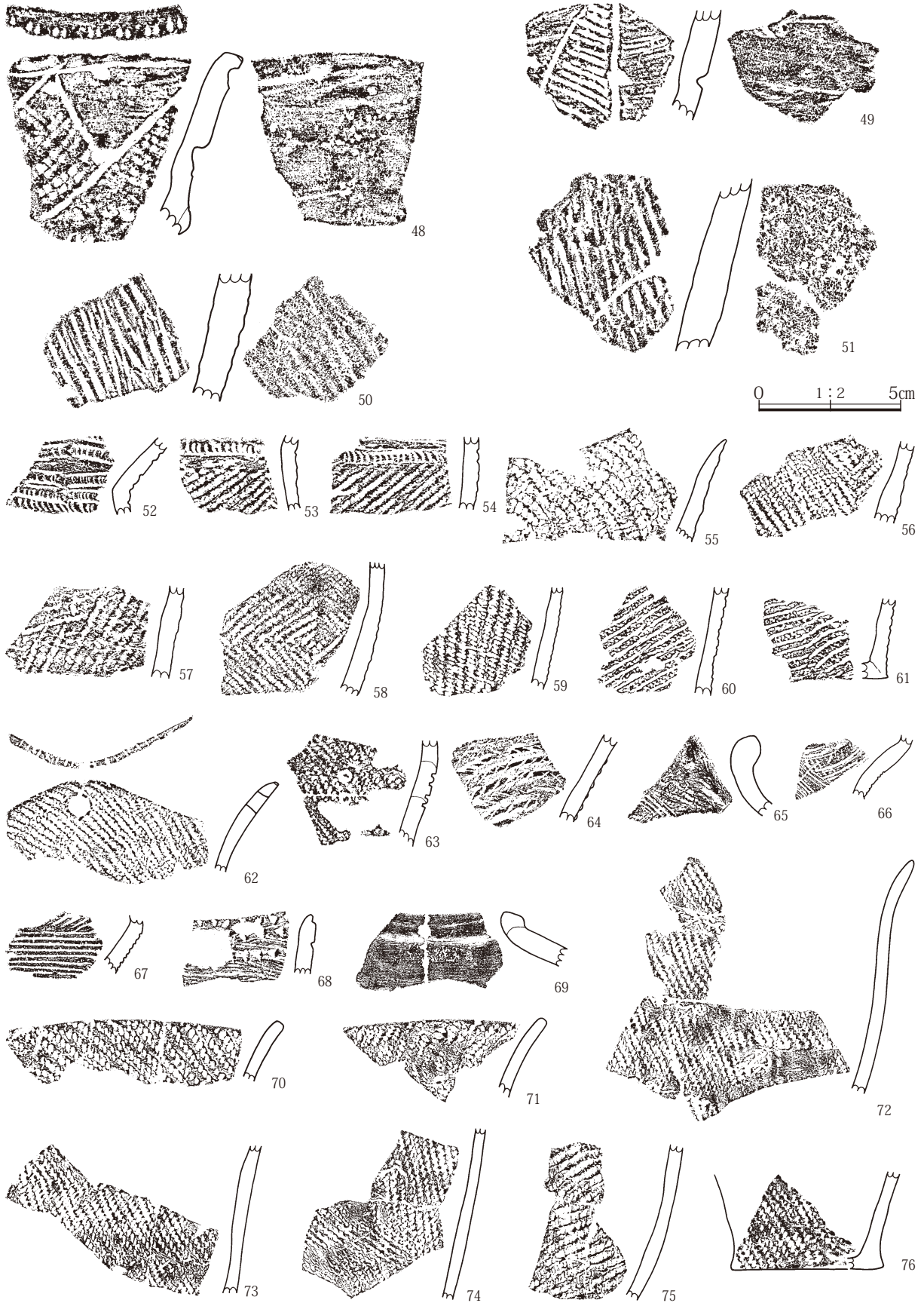


第21図 縄文土器 1 3区 1-35

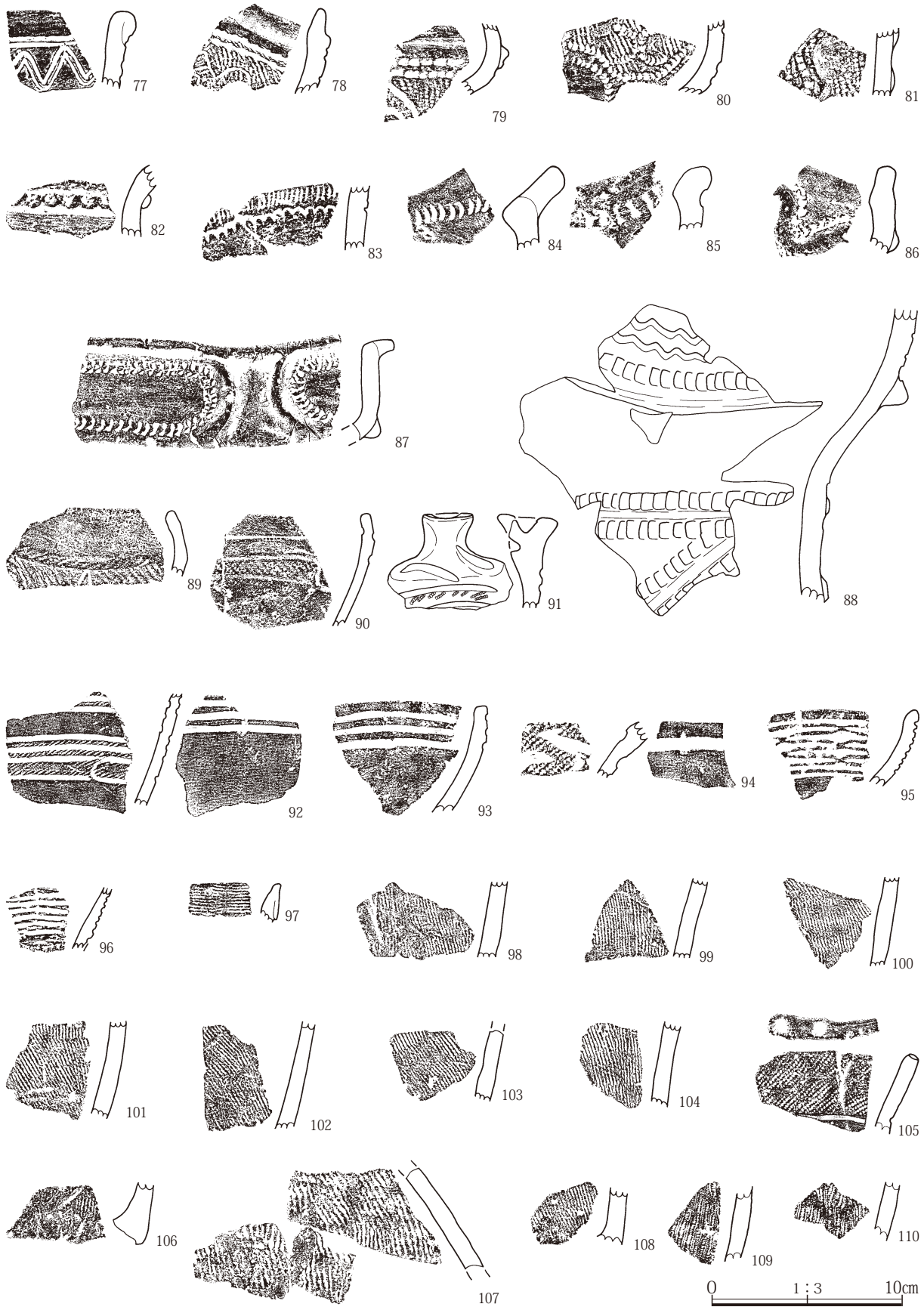
0 1 2 5cm



第22図 縄文土器2 3区36-47



第23図 縄文土器3 3区48-76

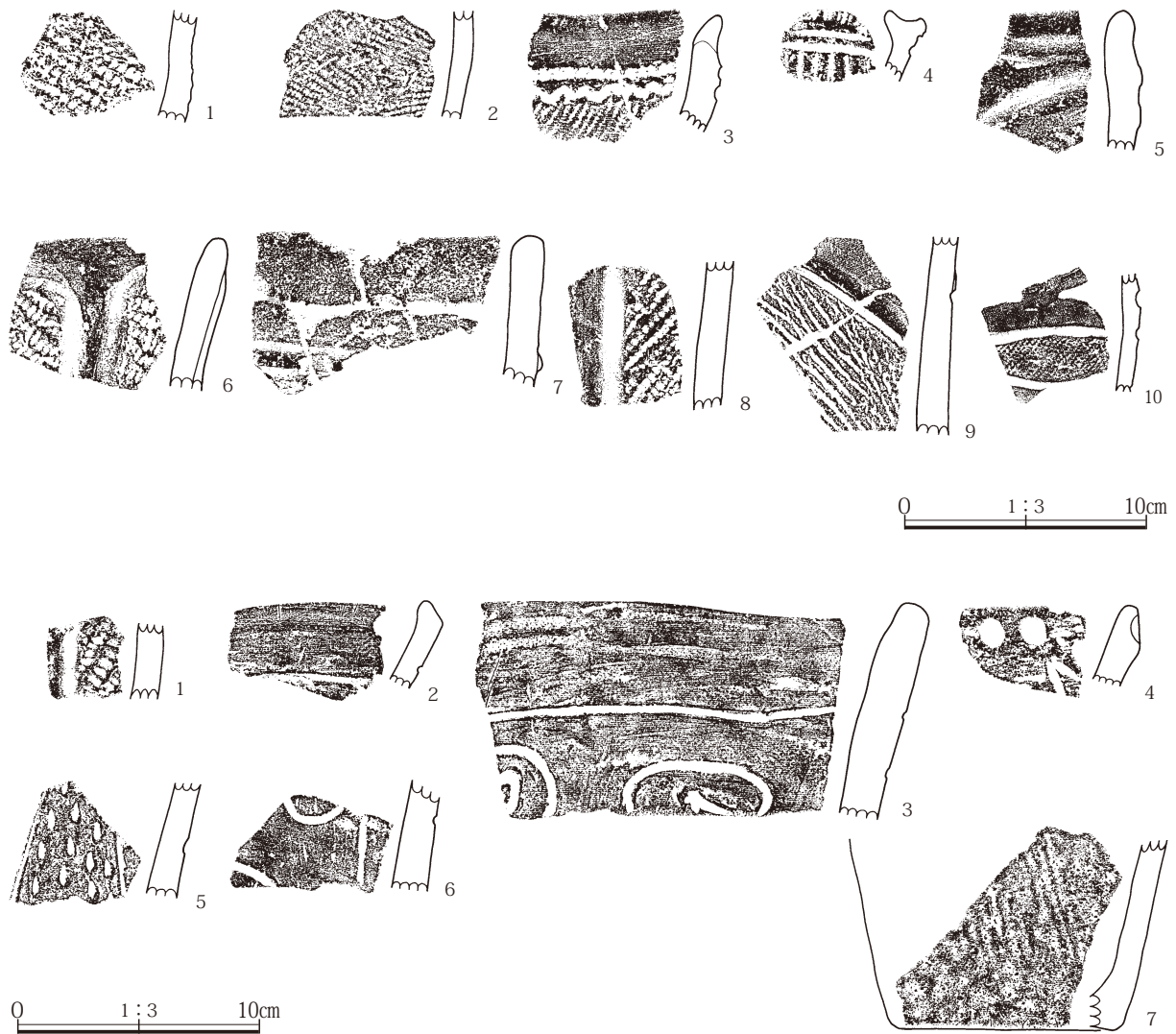


第24図 縄文土器4 3区77-110



第25図 縄文土器 5 4区 1-26

0 1:3 10cm



第26図 縄文土器6 5区1-10, 6区1-7

調査区の北西隅寄りからまとめて出土している。39から47の9点は野島式である。445・450-520グリッドからまとめて出土した。47はこのグリッド出土の破片と調査区の東側寄りの2箇所から出土した破片が接合したものである。48・49は鶺ヶ島台式である。2点とも調査区の中央からやや東側寄りの440-480グリッドからの出土である。50・51は条痕紋系の土器である。調査区の中央部分からの出土である。50は435-490グリッド、51は445-490と445-500の両グリッドから出土した破片が接合したものである。

52から61の10点は黒浜式である。調査区のほぼ

全域から検出された。62・63は諸磯a式、64から67の4点は諸磯b式である。64は調査区中央部分の445-485グリッドに位置する203号土坑の出土である。他の資料は西側寄りからの出土である。68は前期浮島式である。調査区北西隅寄り、465-515グリッドの出土である。69は諸磯式に伴う浅鉢、70から76の8点は諸磯式の範疇に含まれると考えられる縄文施文の土器である。調査区の西側寄り、-510ライン以西に小さなまとまりがあった。440・445-520グリッドの出土である。

77～82は五領ヶ台式、83は勝坂式である。

84から88は中期阿玉台式で5点を資料化した。

ー470ライン周辺を含む調査区全体から散在的な状況で出土している。89の加曾利E式の土器は調査区中央寄りの440ー480グリッドからの出土である。

90・91は加曾利B式である。92・93は455ー495グリッドと455ー515グリッドから1点ずつ出土している。

94～110は晩期に属すると考えられる資料である。調査区中央部分からやや東側寄りの地点から出土したものである。100は21号土坑、108の接合関係にある2片のうちの1片は237号土坑からの出土であるがこれらの土坑が縄文時代の所産であると断定するにはいたらなかった。109は39号住居、107は25号住居埋没土中からの出土である。

4区出土の土器については26点を資料化した。24から26の3点は4ーI区の西側寄りの溝群中からの出土である。4ーII区から出土した18点は調査区の中央部分から南側寄りにかけて多く出土していた。10、11、21は4ーIII区の出土である。

1は前期黒浜式で、4ーII区の西側隅に位置する27号住居埋没土中からの出土である。

2～4は五領ヶ台式、5～12は勝坂式、13～20は阿玉台式である。21は称名寺II式、22は堀之内I式である。23は後期後葉の破片で、14号溝の埋没土中からの出土である。9号溝から出土した24と7号溝から出土した25は晩期に属するものと考えられる。

5区出土の土器は10点を資料化した。1は前期黒浜式、2は前期後葉に位置づけられるものである。3・4は五領ヶ台式、5から9の5点は中期加曾利E式、10は安行3a式である。

6区は7点を資料化した。1・7は中期加曾利E式、2は後期称名寺II式、3から6は後期堀之内I式である。

個々の遺物の観察結果は遺物観察表に記載したとおりである。

(2) 縄文時代の石器概要

遺構に伴わない縄文時代の石器は合計158点を資料化した。石器個々の詳細な出土地点や観察結果については遺物観察表を参照願いたい。

調査区別に見ると2区からの出土はなかった。1区では475ラインに設定したトレンチ内から打製石斧と遺構確認作業中に515ー610グリッドから出土した打製石斧を図化した。

3区では打製石鏃、打製石斧、スクレイパー、石匙、敲石、磨石、凹石を図化した。打製石斧は1号土坑、凹石は250号土坑からの出土である。

出土石器の分布状況は縄文土器の出土状況と重複しており、455・460ー515グリッドをはじめ調査区西側寄りから多数出土した様子が見られた。遺物包含層の調査の際に出土したものとしては打製石鏃、スクレイパー、敲石、凹石、石核があり、この他は上層の竪穴住居、溝の調査あるいはそれに先立つ遺構確認作業時の出土である。

4区では打製石鏃、打製石斧、スクレイパー、石鏃、凹石、多孔石を図化した。これらの中で多孔石1点以外は2面下層の溝群内からの出土である。

4ーII区においては打製石斧他の出土状況を見ると、縄文土器の出土状況とほぼ同様で、調査区の南半部分に多く見られた。

4ーIII区からは打製石斧、スクレイパーが出土している。

5区は18号溝埋没土中から出土した打製石鏃、490ー420グリッド出土の敲石、表採の石核がある。

6区では調査区西側境界部分に設定したトレンチ内から出土した敲石を図化した。

個々の遺物の観察結果については観察表に記したとおりである。

(3) 縄文時代の石器

縄文時代の石器類として、総数595点、総重量48,704.03gを回収した。詳細は第3表に記載した通りである。剥片石器には石鏃、石匙、楔形石器、剥片をはじめ石核、打製石斧も含めた。礫石器には磨石、凹石、多孔石、敲石を含めた。本遺跡では、竪穴住居跡や土坑等の縄文時代の遺構は検出されていない。これらの石器は、古代の竪穴住居跡や溝等の縄文時代以外の遺構覆土及び表土等から出土したものである。

第3表 縄文時代の石器組成表

	剥片石器	礫石器	礫	総計
数量	548	32	15	595
重量 (g)	12,348.20	28,140.79	8,215.04	48,704.03

A. 剥片石器

(1) 器種 (剥片石器)

剥片石器系の石器は総計548点、総重量12,348.20gである。石鏃、石匙、石錐、楔形石器、打製石斧等

に分類した。詳細は第4表に示した通りである。

①石鏃 (第35図1～22)

石鏃は総数22点、総重量22.13gを確認した。石器石材別に見ると、チャート16点、黒曜石4点、黒色安山岩1点、珪質頁岩1点で、主にチャートが利用されている。チャートには赤色チャートの利用も確認された。

1～4は有茎石鏃で、3は茎部を欠損する。4は茎部を菱形に作出、5・6は平基、7～21は基部抉入。

②石鏃未製品 (第35図23～26)

石鏃未製品は計 点を確認した。素材 (剥片) の表裏両面に平坦な調整加工を加えているものの、形態が左右非対称で側縁形状も直線状ではなくジグザグ状を呈している石器を石鏃未成品とした。23～25はチャート製、26は黒曜石製。

③石匙 (第36図27・28)

石匙は計 点を確認した。27は幅広で左右両側縁と端部に刃部を作出。黒色安山岩製。28は縦長の両面調整品。チャート製。

第4表 器種別組成 (剥片石器)

分類	石鏃	石鏃未製品	石匙	スクレイパー	鋸歯状石器	石錐	尖頭器	楔形石器	打製石斧	石核	二次加工ある剥片	剥片	碎片	原石	総計
数量	22	7	2	17	1	1	1	26	49	25	50	325	20	2	548
重量 (g)	22.13	28.33	31.28	573.04	1.37	3.01	5.26	212.83	6,250.06	2,250.91	594.12	2,308.37	5.54	61.95	12,348.20

第5表 石器石材別組成 (剥片石器)

	チャート	黒色頁岩	珪質頁岩	黒曜石	黒色安山岩	碧玉	珪質頁岩	硬質頁岩	頁岩	結晶片岩	泥岩	石英	総計
数量	392	56	43	26	13	5	5	3	2	1	1	1	548
%	71.5%	10.2%	7.8%	4.7%	2.4%	0.9%	0.9%	0.5%	0.4%	0.2%	0.2%	0.2%	100%
重量 (g)	3,459.19	2,655.80	5,553.32	105.12	253.10	11.79	18.09	12.03	187.51	4.88	36.75	50.62	12,348.20
%	28.0%	21.5%	45.0%	0.9%	2.0%	0.1%	0.1%	0.1%	1.5%	0.04%	0.3%	0.4%	100%

④鋸歯状石器（第36図29）

鋸歯状石器は計1点を確認した。縦長剥片を素材とし、打面部を除く周縁部に主要剥離面側からの調整加工により、鋸歯状の刃部を作出。チャート製。

⑤石錐（第36図31）

石錐は計1点を確認した。チャート製横長剥片を素材。表裏両面に調整加工を施して錐部を作出。

⑥尖頭器（第36図30）

尖頭器は計1点を確認した。小型の縦長剥片を素材。右側縁背面側と腹面側左側縁に調整加工を施し尖頭形の器体を作出。黒色頁岩製。

⑦楔形石器（第36図32～38）

楔形石器は計26点を確認した。石器石材は珪質頁岩製が1点のみで、ほかはすべてチャート製。33・34・37は縦長剥片を素材。36・38は両極剥離痕が表裏両面全体を覆う。

⑧スクレイパー（第37図39～43・第38図44）

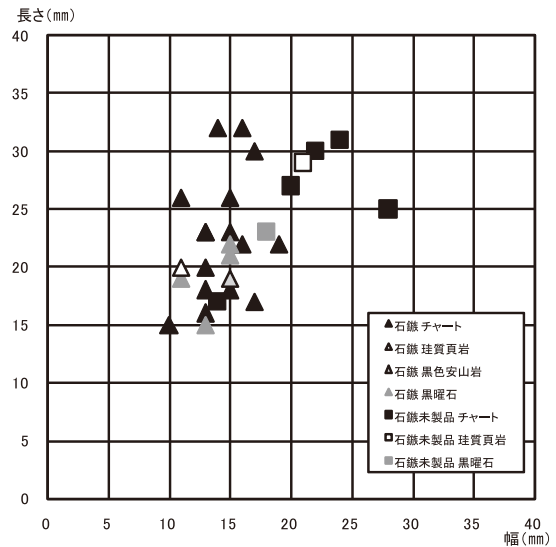
スクレイパーは計17点を確認した。39・40は黒色頁岩製。41は黒色安山岩製で縦長剥片の左側縁腹面側に刃部作出。42はチャート製で端部に刃部作出。43はチャート製で、横長剥片を素材とし腹面側のバルブ付近に平坦な調整加工、端部に急斜度調整加工による刃部作出。44はチャート製で、横長剥片を素材とし表裏両面の周縁部全体に刃部作出。

⑨二次加工のある剥片（第38図45～49・第39図50）

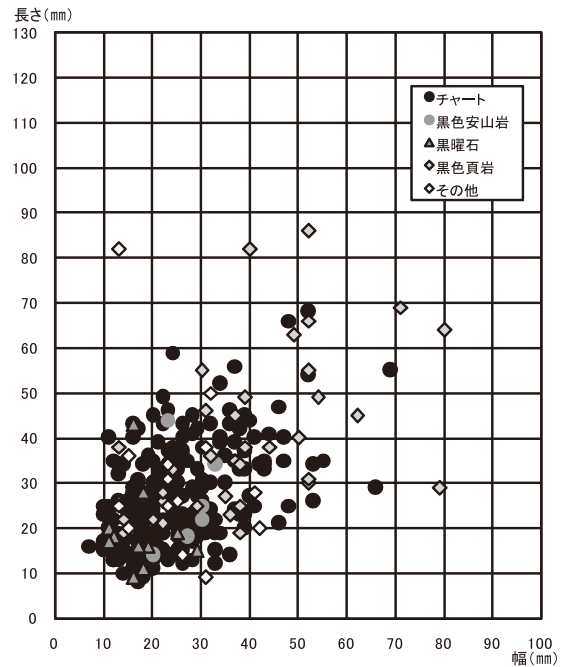
二次加工のある剥片は計50点を確認した。このうちチャート製が43点でほかは黒色頁岩製、黒色安山岩製、黒曜石製である。47はチャート製で、右側縁腹面側に二次加工。49はチャート製で、縦長剥片を素材とし左右両側縁の腹面側に二次加工。

⑩石核（第39図51～第41図61）

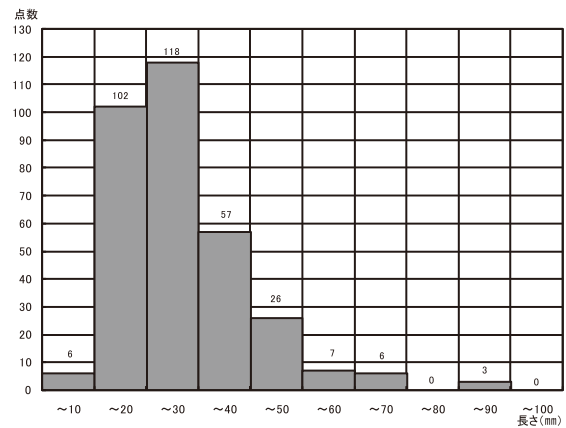
石核は計25点を確認した。石器石材別では、チャートが21点で84%を占める。51はチャート製で、厚手の剥片を素材とし腹面側で求心状剥離により小型剥片を剥離。52はチャート製で扁平な亜円礫を素材。54はチャート製で、垂角礫状の河川礫を素材。55が黒曜石製で小型のズリを素材。58は黒色頁岩製で大型の垂角礫状河川礫を素材。60は黒色頁岩製で、裏



第27図 石鏃・石鏃未製品長幅別散布図



第28図 石核・剥片長幅別散布図



第29図 剥片長さ別ヒストグラム

面側で求心状剥離。60はチャート製で、大型剥片を素材とし表裏両面の周縁部で小型剥片を剥離。

⑪原石（第42図62・63）

原石は計2点を確認した。2点とも黒曜石製。62は小型の礫で自然面が丸みを持つ。長さ63mm。63は小型のズリで、長さ28mm。2点とも全面が自然面で覆われており、剥離痕は確認できない。

⑫剥片（第42図64～第46図102）

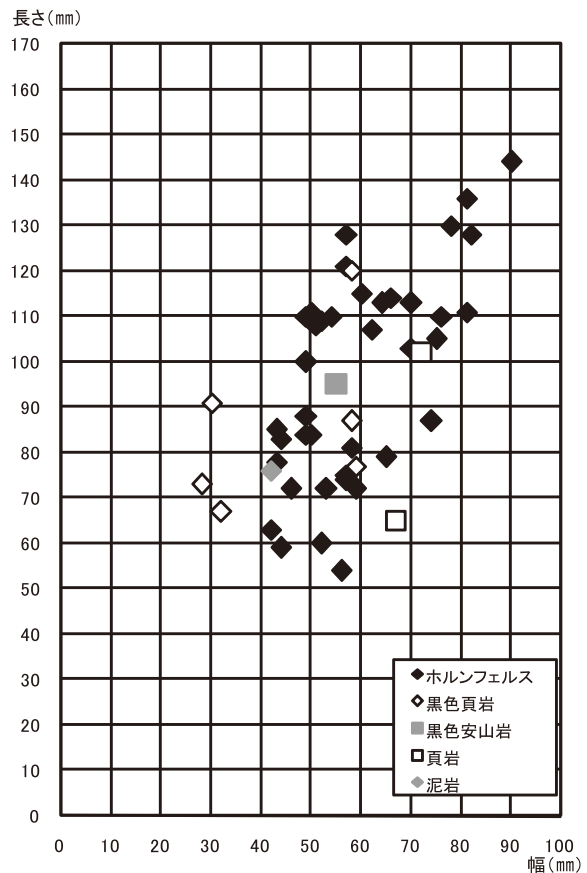
剥片は計325点を確認した。石器石材別では、チャートが257点で約80%を占め、石核がチャートを主体としていることと一致している。この他、黒色頁岩35点、黒曜石13点、黒色安山岩6点、黒色安山岩6点、碧玉5点、硬質頁岩3点、ホルンフェルス3点、珪質頁岩2点、結晶片岩1点である。

剥片の大きさを見ると、長さ50mm以下が計309点で94%を占める。そのうち長さ21mm～30mmが118点、11mm～20mmが102点で、長さ11mm～30mmのものが計220点で剥片全体の約68%を占める。長さ51mm以上は計16点で、91mm以上のものは確認されなかった。

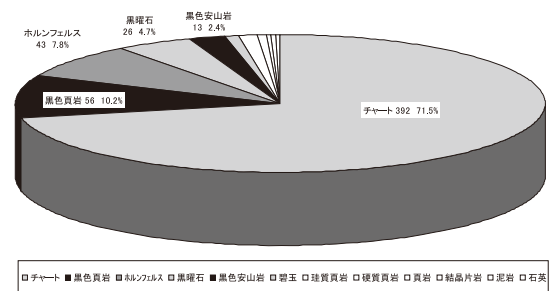
硬質頁岩製の3点（第42図64～66）については、5区で検出された旧石器時代石器群（硬質頁岩による細石刃石器群）に関連し旧石器時代の石器の可能性が想定された。このため、細石刃石器群との母岩別資料の対比及び接合の確認作業を行った。しかし、いずれも細石刃石器群には同一母岩はなかったため、旧石器時代の石器の可能性は低いと判断し、縄文時代の石器として扱うこととした。縄文時代の石器として回収された硬質頁岩製石器は全体でこの3点のみである。64は縦長剥片で主要剥離面に被熱により弾けたと考えられる凹みを持つ。3区出土。65は縦長剥片で5区18号溝出土。66は縦長剥片で断面三角形。右側面にポジ面が残存し、大型剥片を石核素材としその端部から剥離されたものである。3区49号住居覆土出土。

⑬打製石斧（第46図103～第49図131）

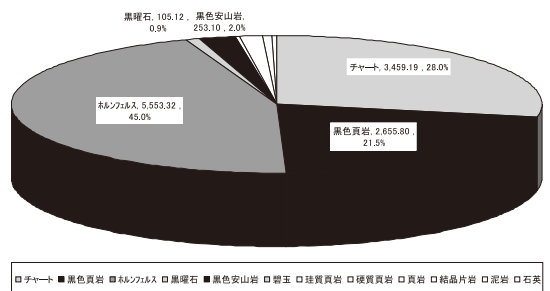
打製石斧は計49点を確認した。石器石材別では、ホルンフェルス39点、黒色頁岩6点、黒色安山岩1点、頁岩2点、泥岩1点で、ホルンフェルスが主体



第30図 打製石斧長幅別散布図



第31図 石器石材別組成（剥片石器・数量別）



第32図 石器石材別組成(剥片石器・重量別)

である。ホルンフェルス製剥片はわずか3点と非常に少なかったため、ホルンフェルス製打製石斧の製作に伴って生じたはずの調整剥片は遺跡内にはないことが推測される。

また、大きさを見ると、すべて長さ50mm以上である。最大は長さ144mmである。形態は、分銅形、撥形、短冊形が確認された。

(2) 石器石材（剥片石器）

剥片石器系の石器について、石器石材別に分類した。詳細は第 表に示した。剥片石器では、チャートが

392点（3,459.19g）で最も多く、数量で71.5%、重量で28%を占める。この他、黒色頁岩、ホルンフェルス、黒曜石、黒色安山岩、碧玉、珪質頁岩、硬質頁岩、頁岩、結晶片岩、泥岩、石英が確認された。石鏃では主にチャートを利用し、打製石斧では主にホルンフェルスを利用していた。

B. 礫石器

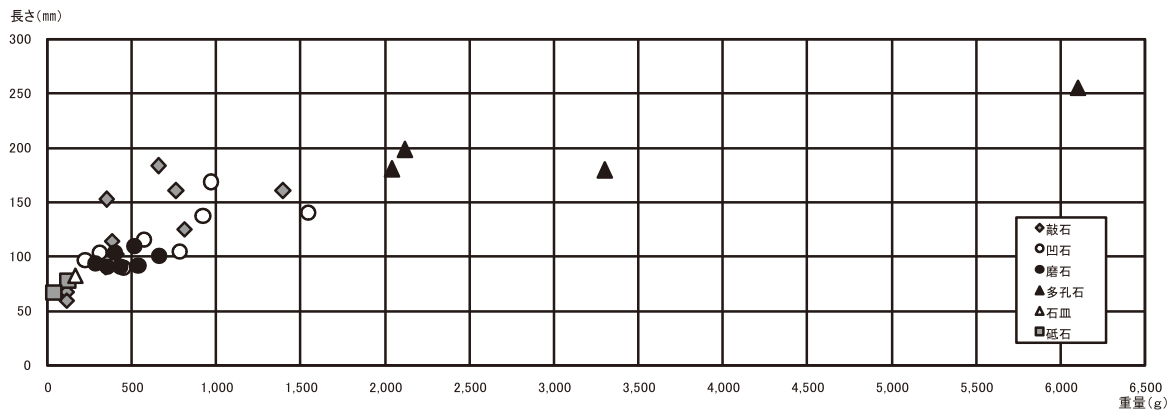
礫石器系の石器は総計32点・総重量28,140.79gである。砥石、磨石、凹石、多孔石、敲石、石皿に分類した。

第6表 器種別組成（礫石器）

	磨石	凹石	多孔石	砥石	敲石	石皿	総計
数量	7	8	4	2	10	1	32
重量 (g)	3,180.91	5,776.45	13,546.42	158.12	5,315.97	162.92	28,140.79

第7表 石器石材別組成（礫石器）

	粗粒輝石安山岩	砂岩	ホルンフェルス	金山石	総計
数量	23	5	2	2	32
%	71.9%	15.6%	6.3%	6.3%	100%
	粗粒輝石安山岩	砂岩	ホルンフェルス	金山石	総計
重量 (g)	17,857.06	1,038.04	1,108.39	8,137.30	28,140.79
%	63.5%	3.7%	3.9%	28.9%	100%



第33図 礫石器長さ重量別散布図

(1) 器種 (礫石器)

① 砥石 (第49図132・133)

砥石は2点確認された。石器石材は2点とも砂岩(牛伏砂岩)である。132は扁平礫を素材、表面に研磨痕、側縁に剥離痕。133は扁平礫を素材、表裏面に研磨痕、側縁に剥離痕。

② 磨石 (第49図134～第50図140)

磨石は計7点を確認した。いずれも粗粒輝石安山岩製の扁平礫を素材とする。礫の形状は円形で、大きさは概ね長さ90mm～110mm、幅60mm～90mm、厚さ30mm～60mmの範囲内である。いずれも形態が類似していることから、形状・大きさが共通した素材を選択しているといえる。

③ 凹石 (第50図141～第51図148)

凹石は計8点を確認した。いずれも粗粒輝石安山岩製の扁平な円形礫を素材とする。

④ 敲石 (第51図149～第52図155)

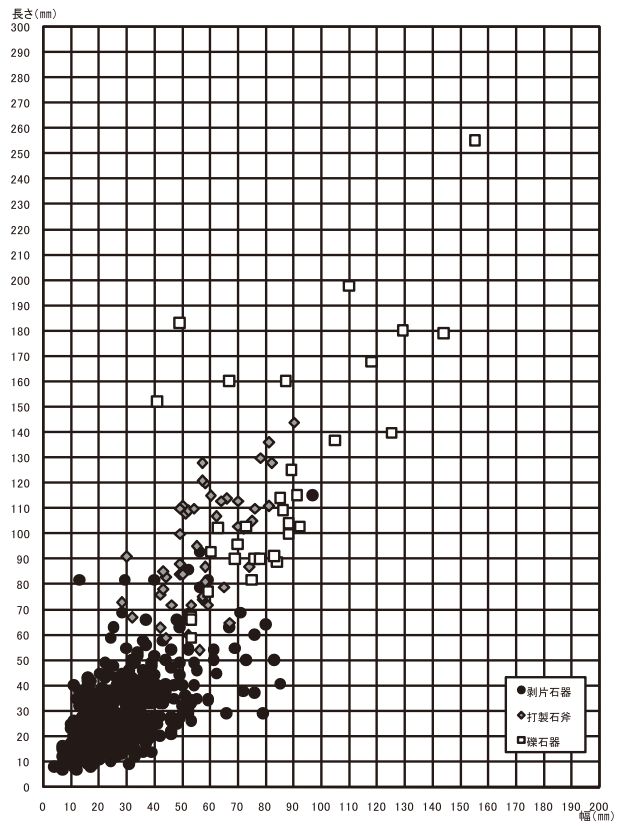
敲石は計10点を確認した。扁平な円形礫に敲打痕を持つ台石も敲石に含めた。石器石材は150が砂岩、149・154がホルンフェルスで、他は粗粒輝石安山岩である。149は棒状礫を素材とし端部に敲打痕。150は角柱状の棒状礫を素材とし表裏面に敲打痕があり台石として利用された可能性がある。151は扁平な楕円形礫を素材とし表面と右側面に敲打痕。152は扁平な円形礫を素材とし右側面に敲打痕。

⑤ 多孔石 (第52図156～158)

多孔石は4点を確認した。石器石材は156・157が粗粒輝石安山岩を利用、158が金山石とよばれる粗粒の石材を利用している。156・157は大型の扁平礫の表裏面と側面に面取り加工を施してから凹み加工を施している。

(2) 石器石材 (礫石器)

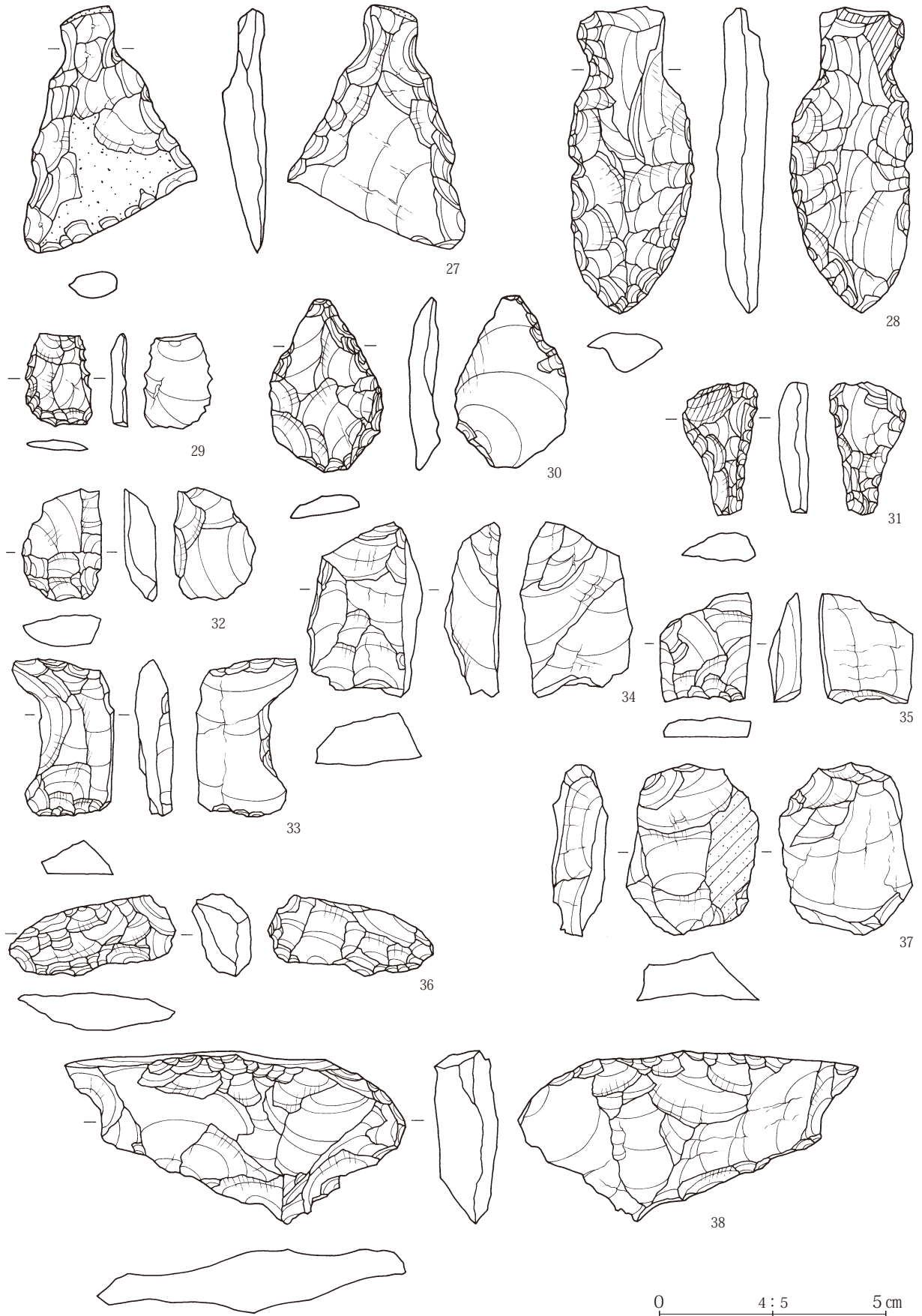
礫石器系の石器について、石器石材別に分類した。粗粒輝石安山岩が23点(17,857.06g)で、数量で71.9%、重量で63.5%を占める。磨石、凹石では主に粗粒輝石安山岩が利用されていた。



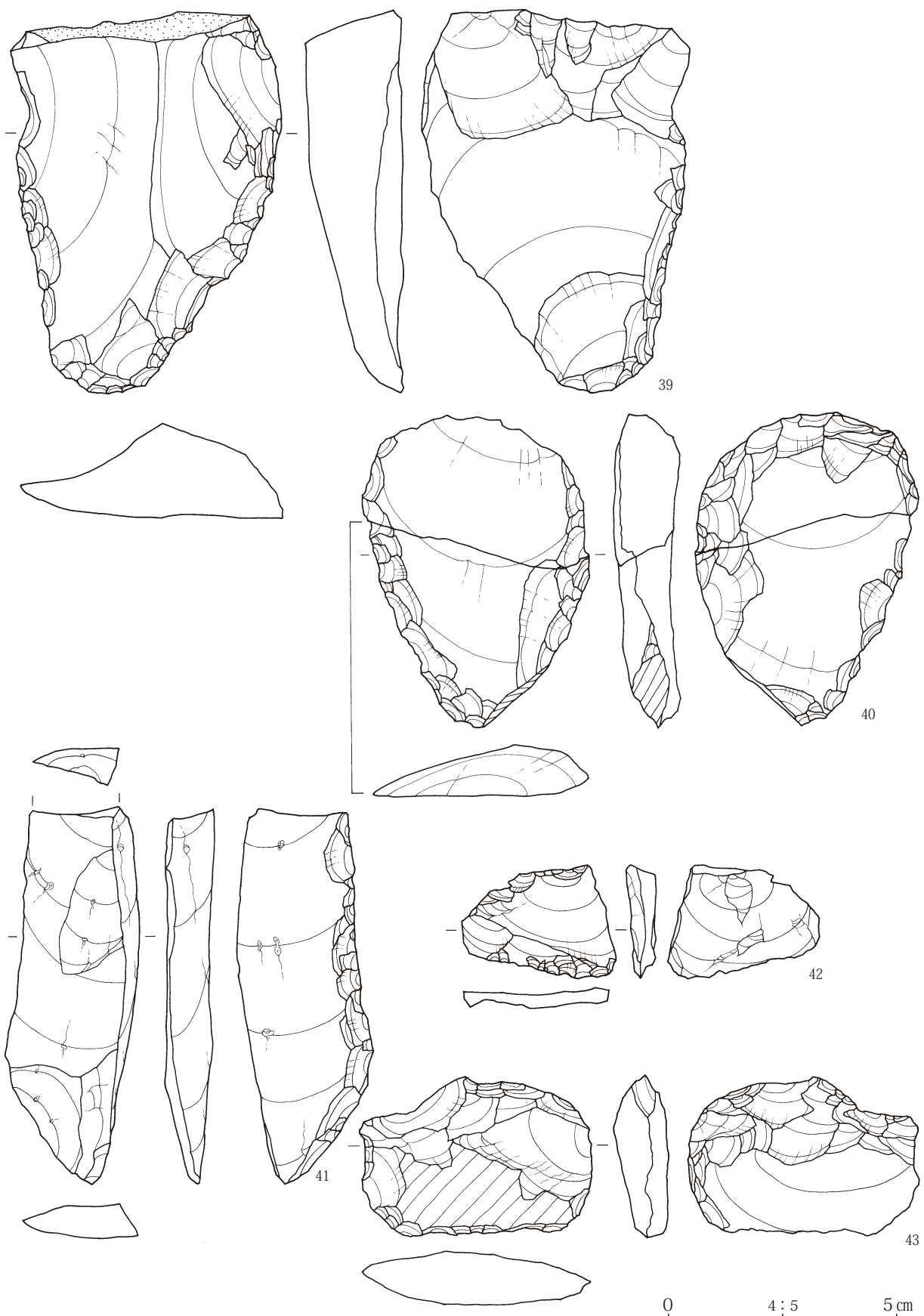
第34図 石器全体長幅別散布図



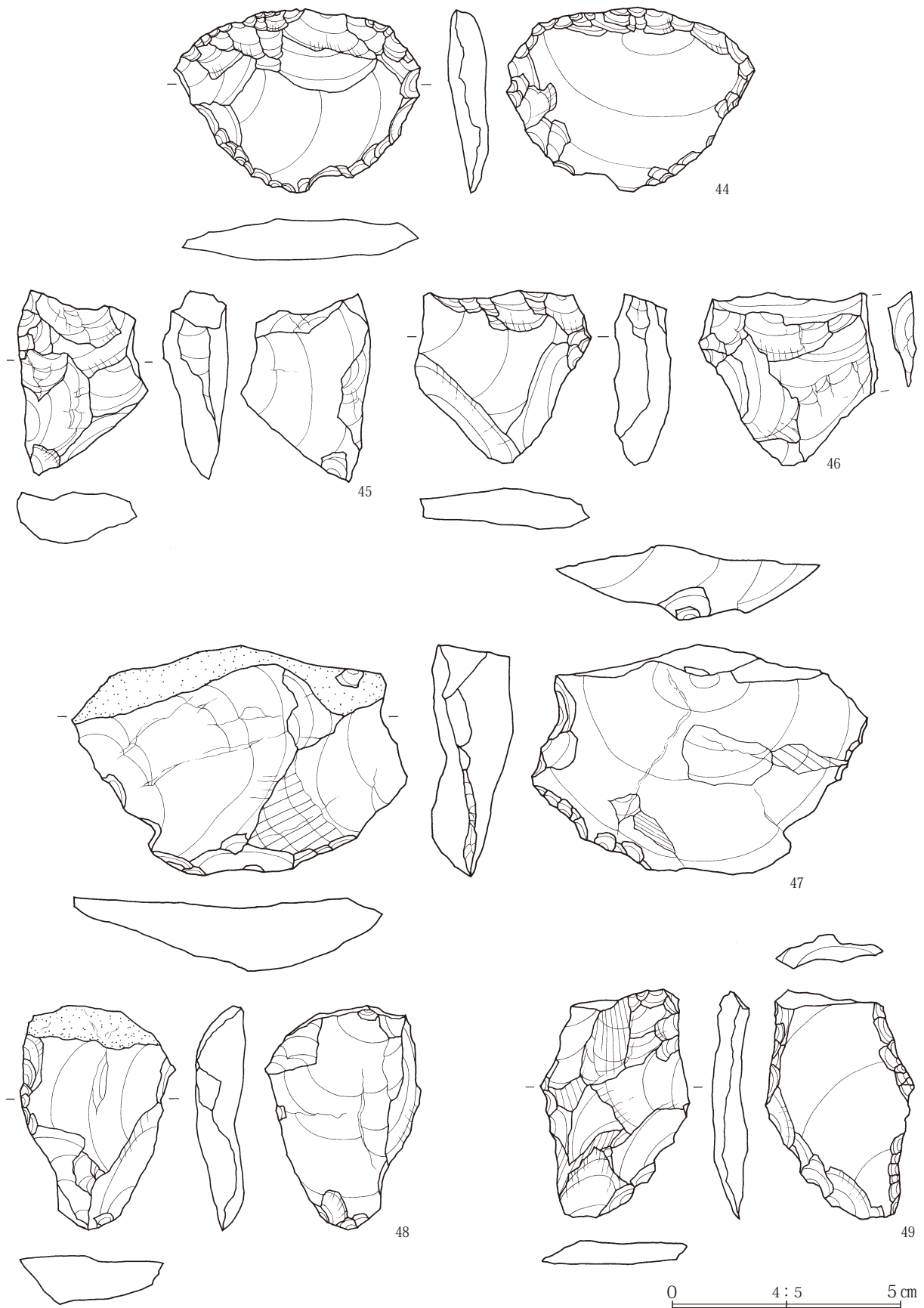
第35図 縄文石器 1-26



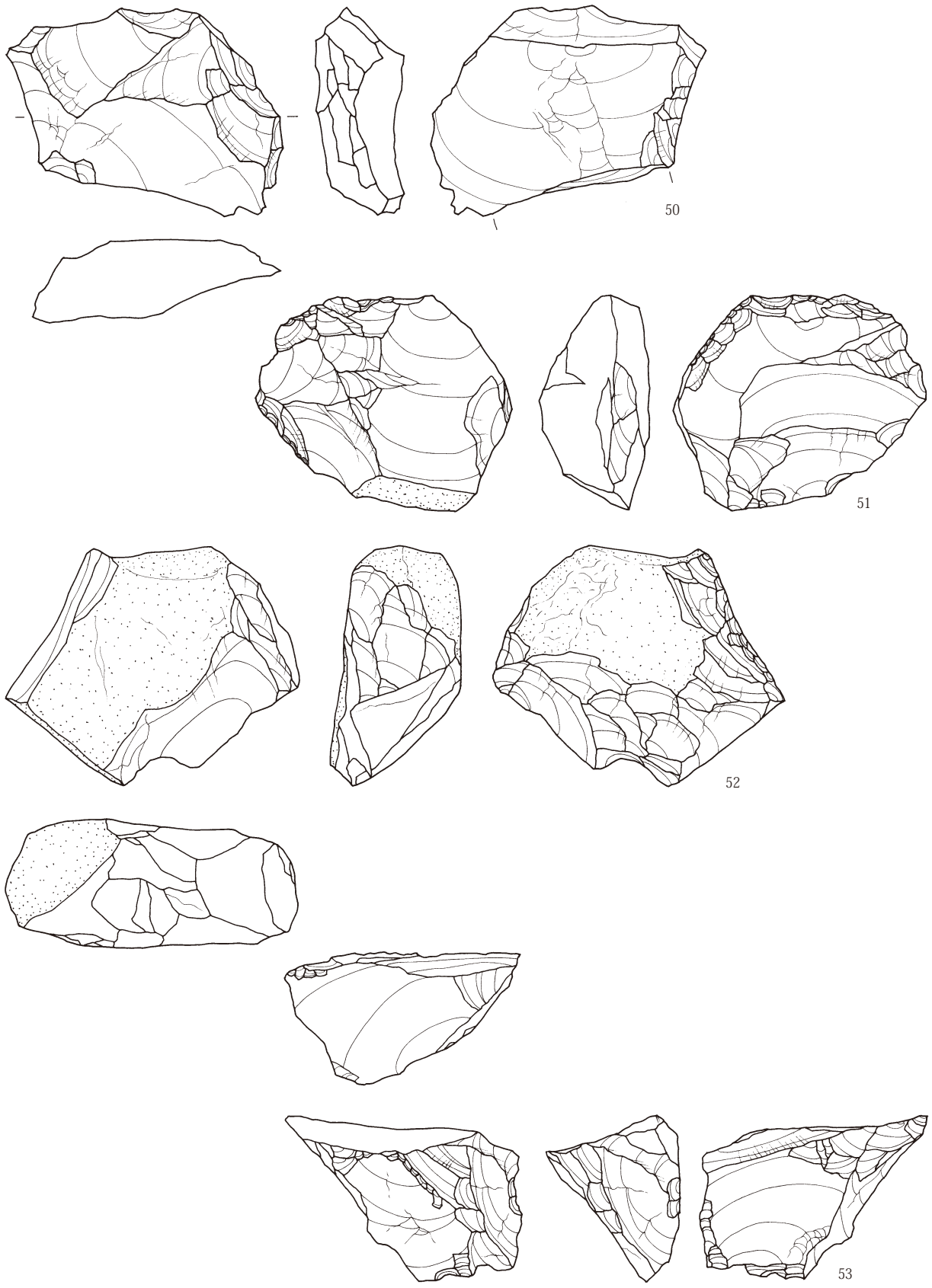
第36図 縄文石器 27-38



第37図 繩文石器 39-43

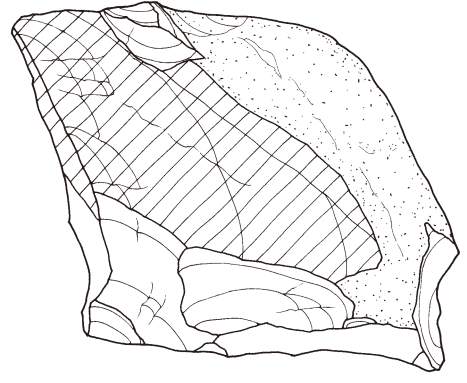
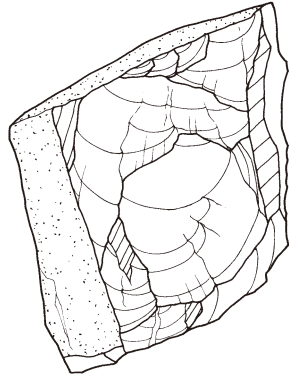
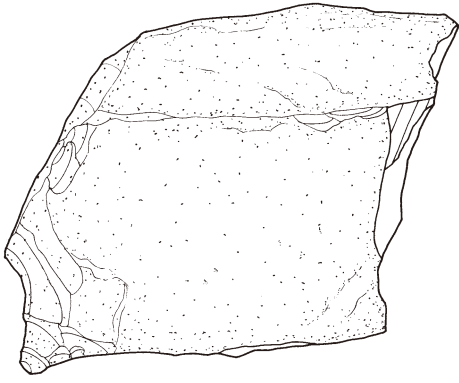


第38図 縄文石器 44-49

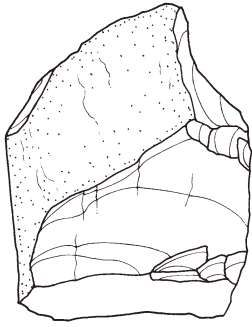
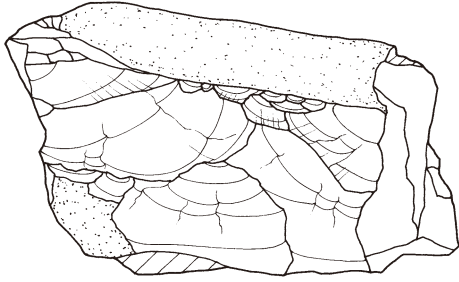


第39図 縄文石器 50-53

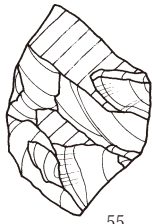
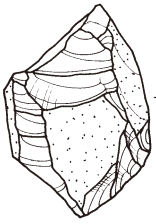
0 4 : 5 5 cm



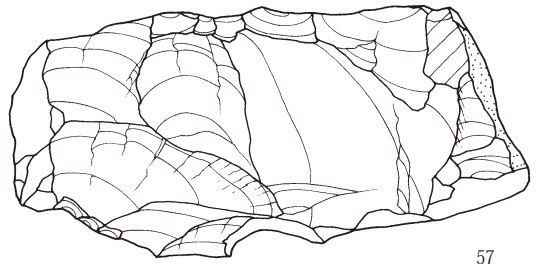
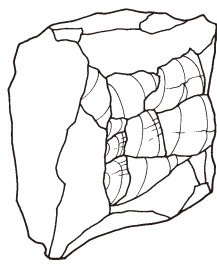
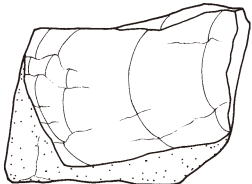
54



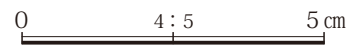
56



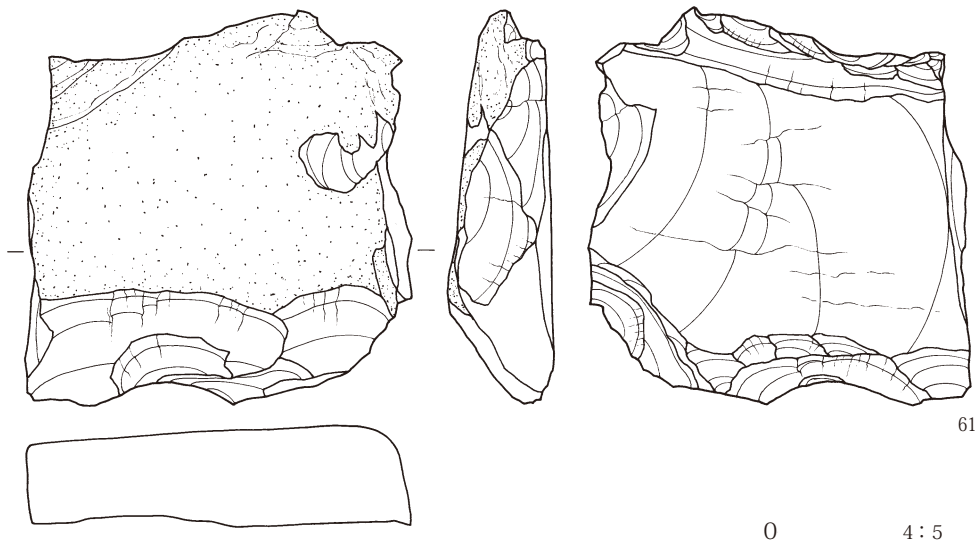
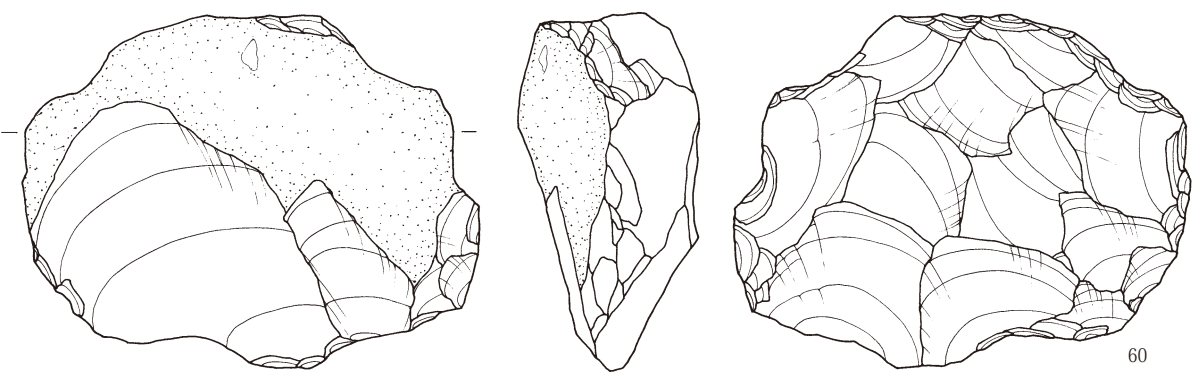
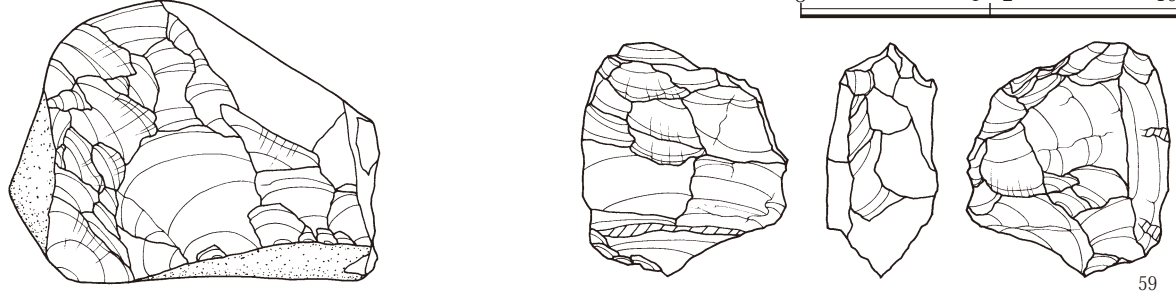
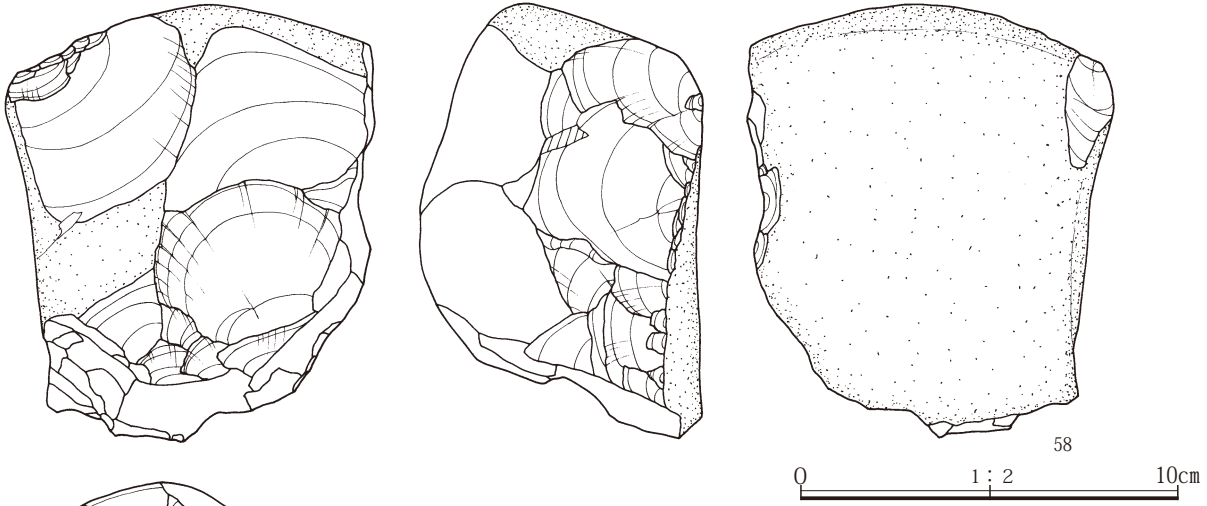
55



57



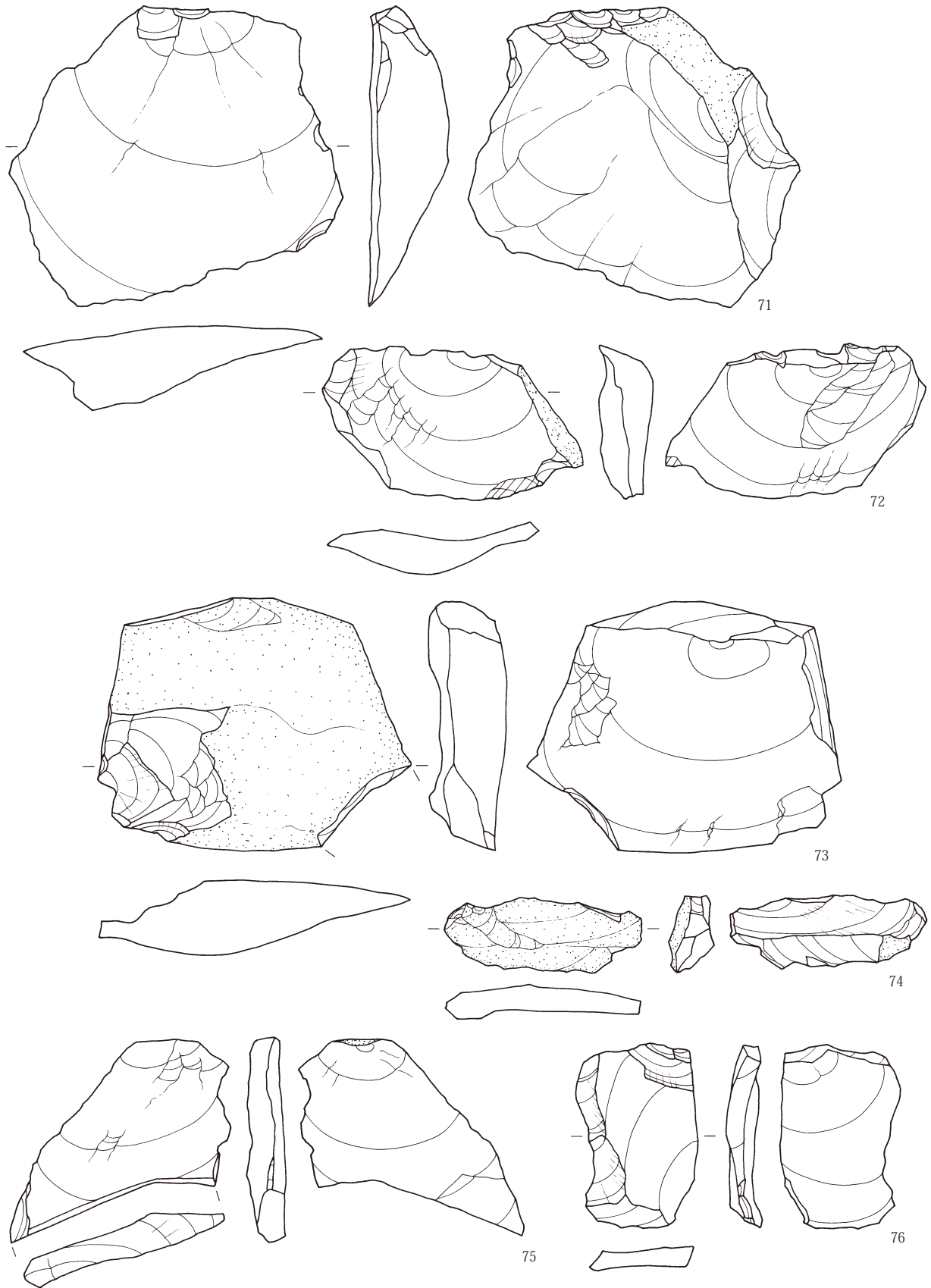
第40図 縄文石器 54-57



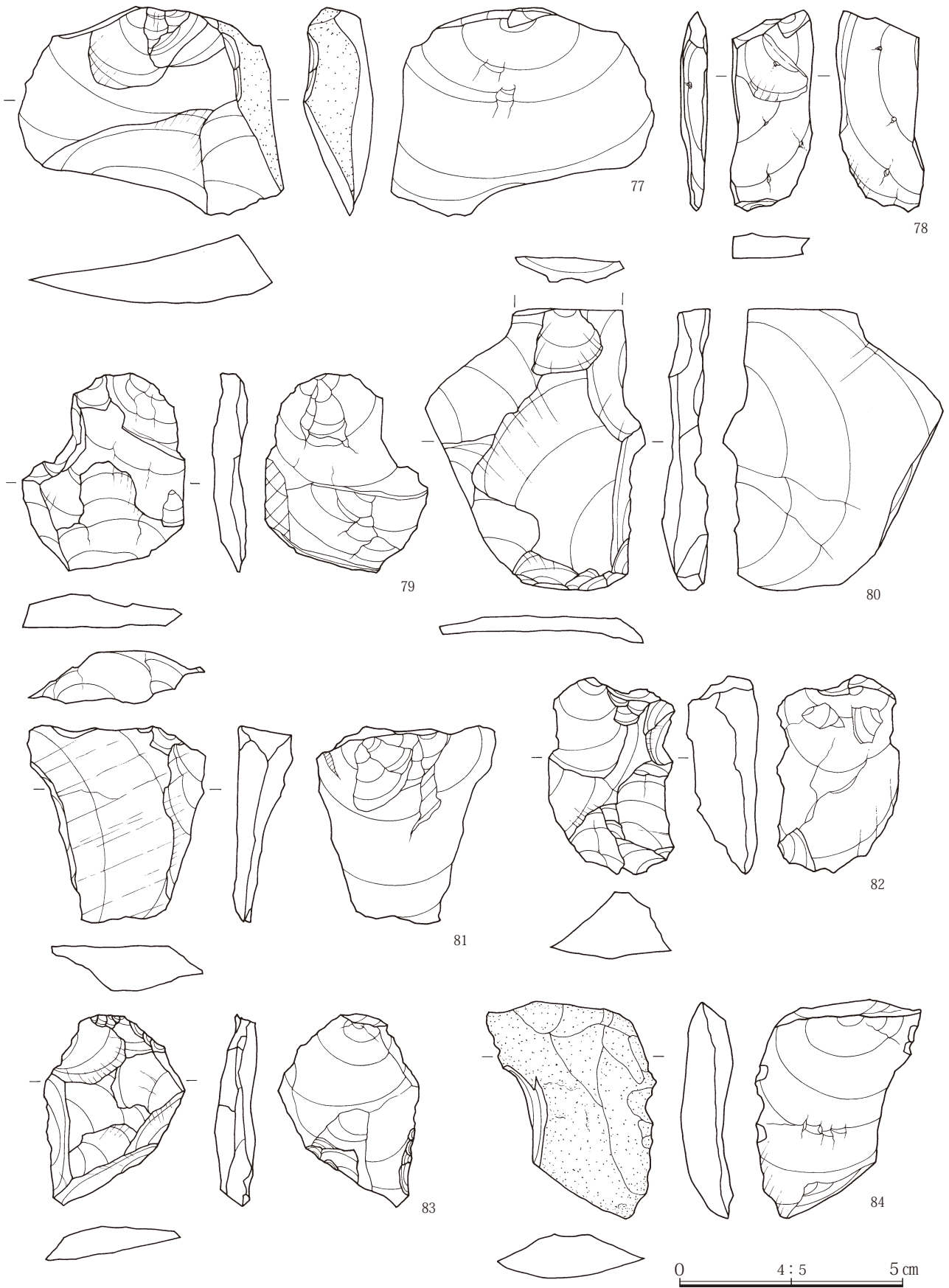
第41図 縄文石器 58-61



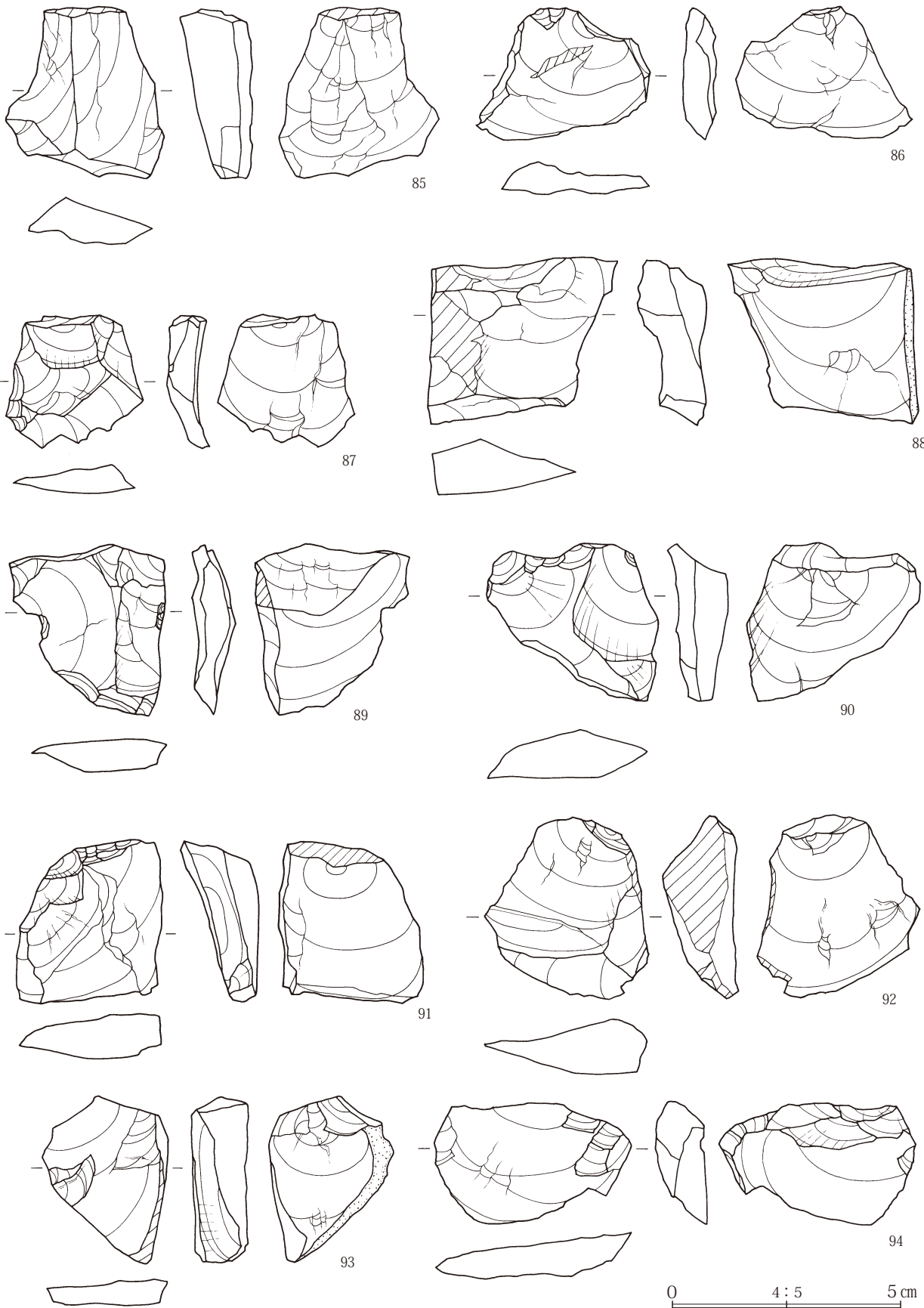
第42図 縄文石器 62-70



第43図 縄文石器 71-76



第44図 繩文石器 77-84



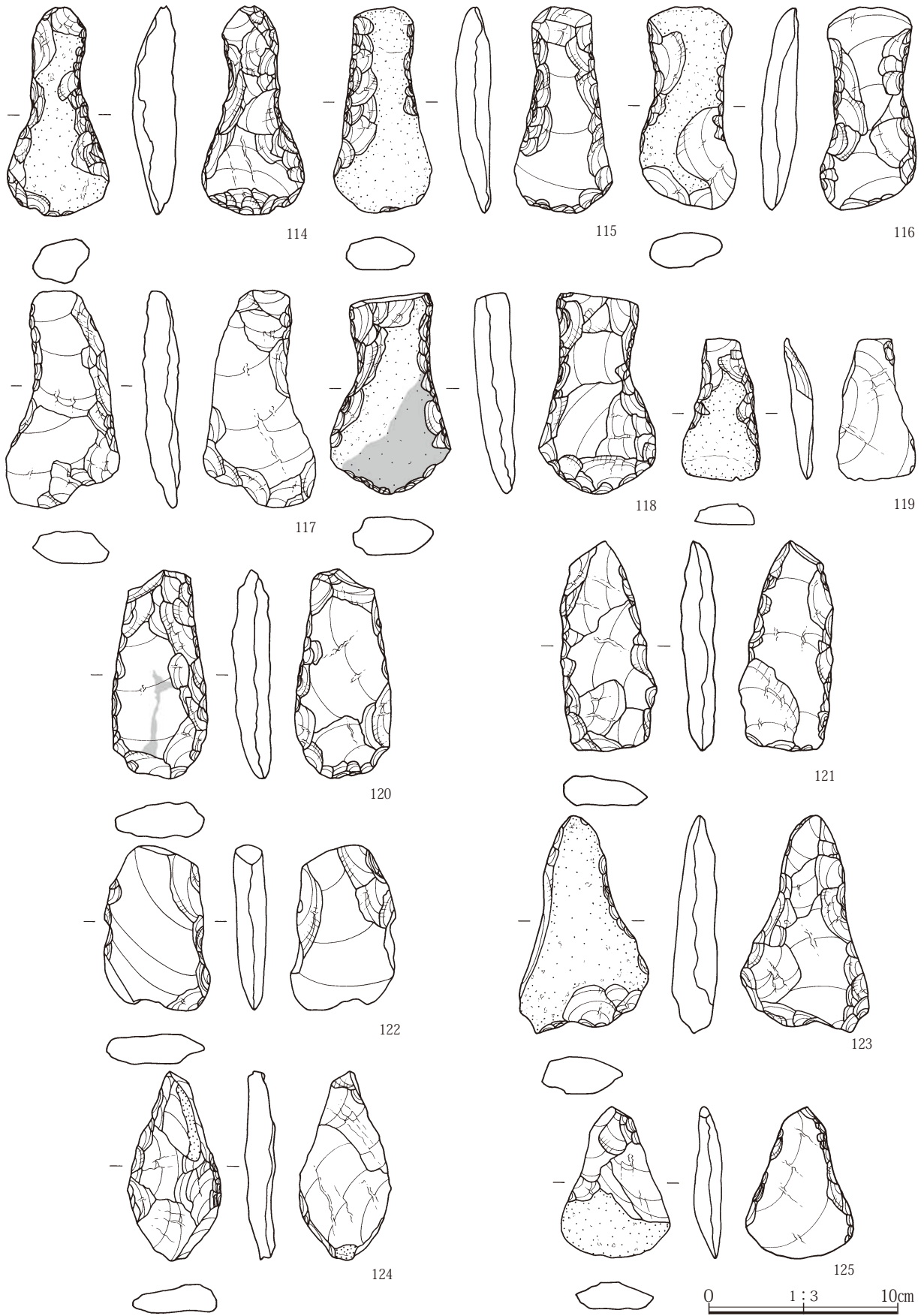
第45図 縄文石器 85-94



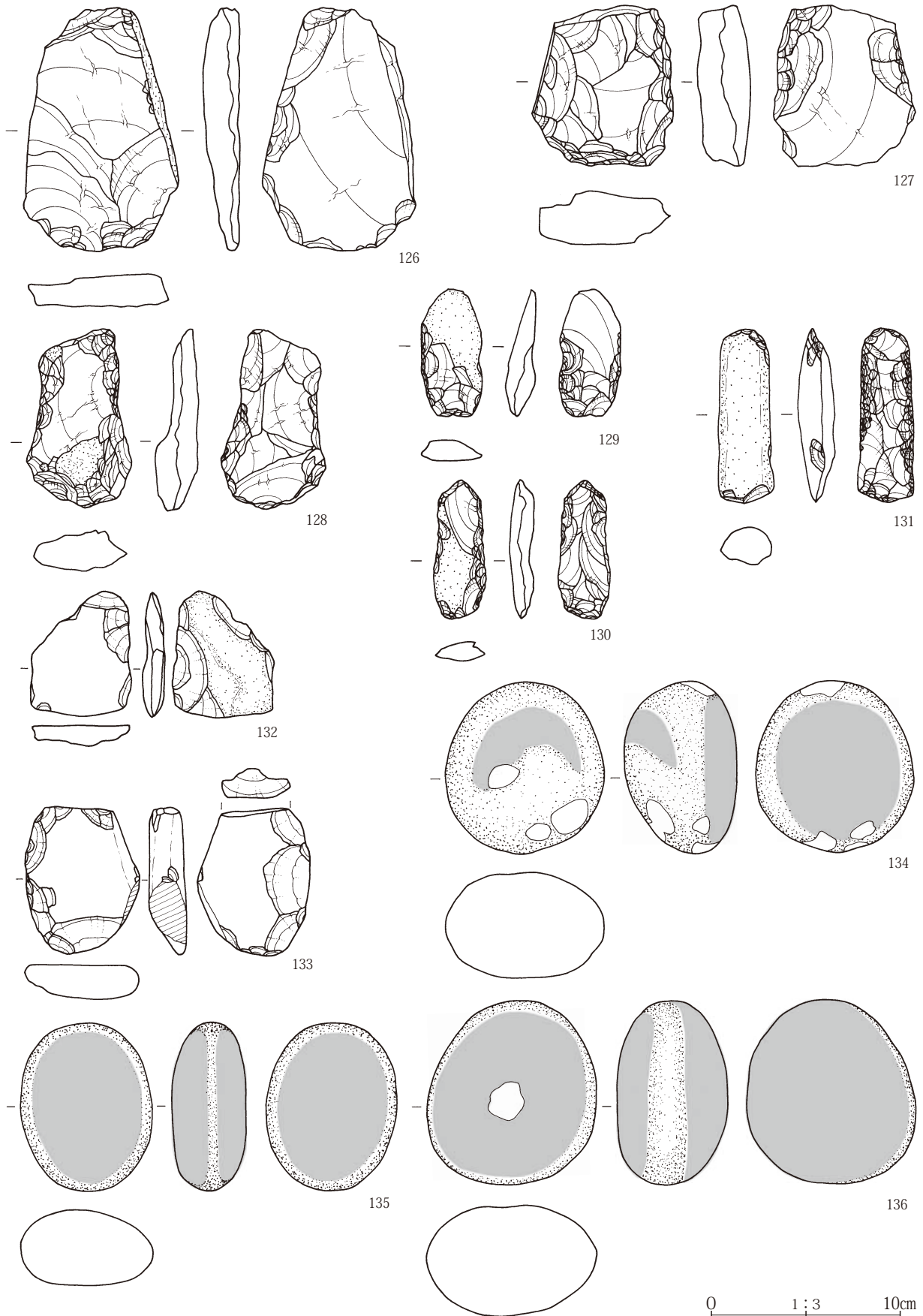
第46図 縄文石器 95-104



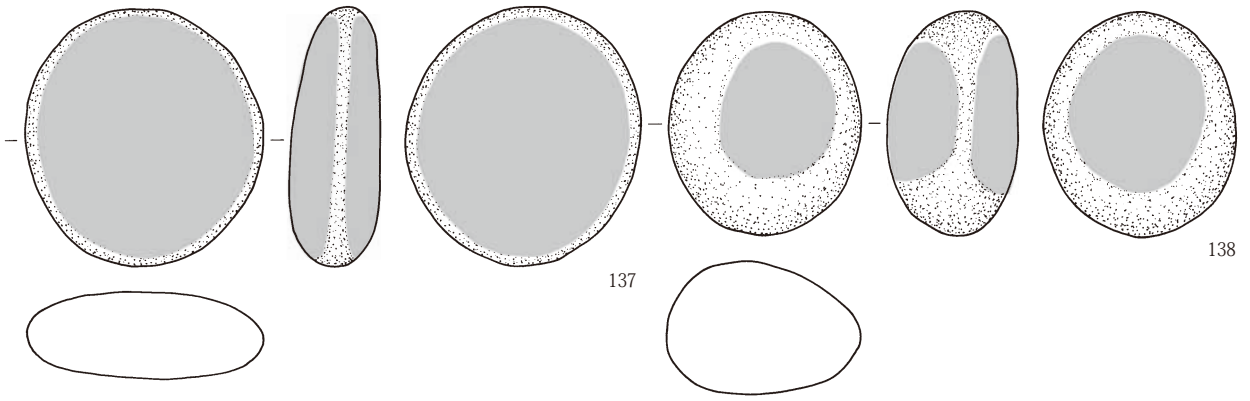
第47図 縄文石器 105-113



第48図 縄文石器 114-125

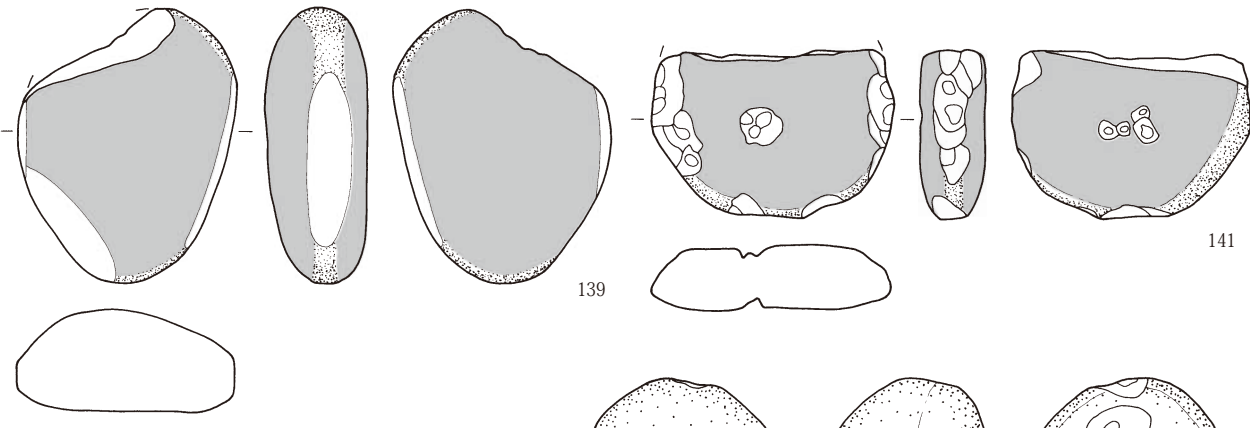


第49図 縄文石器 126-136



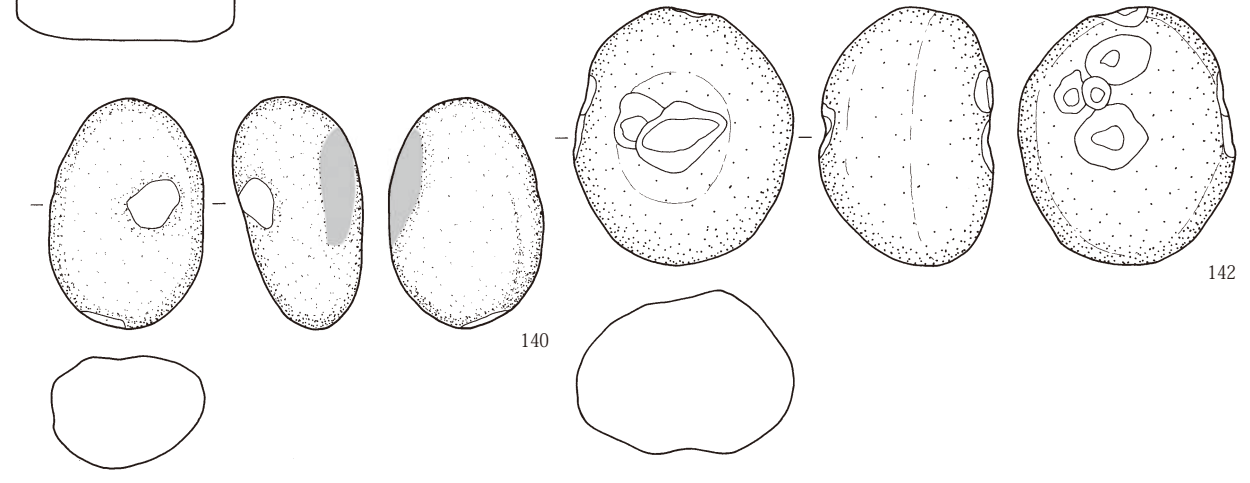
137

138



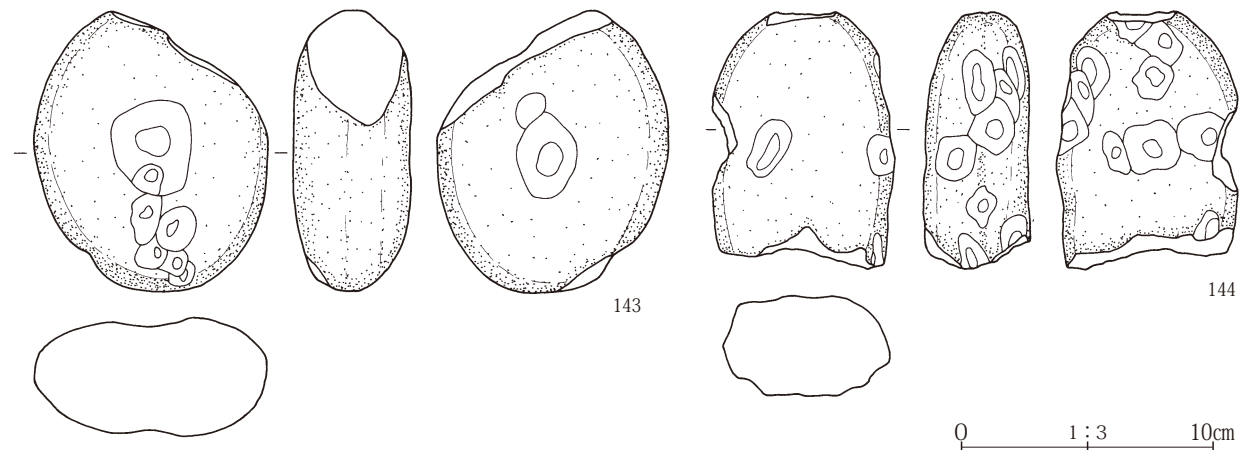
139

141



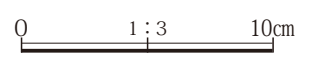
140

142

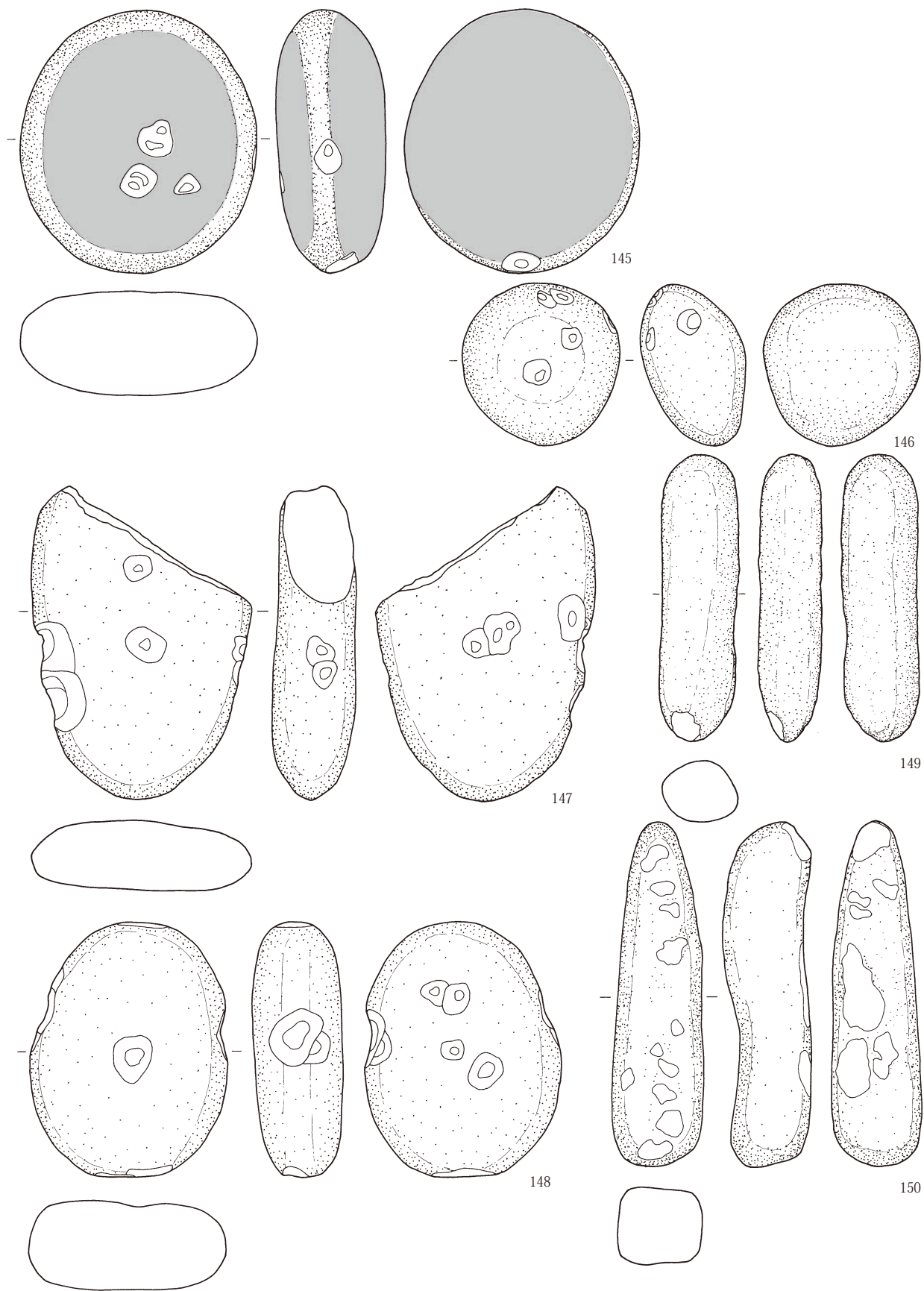


143

144

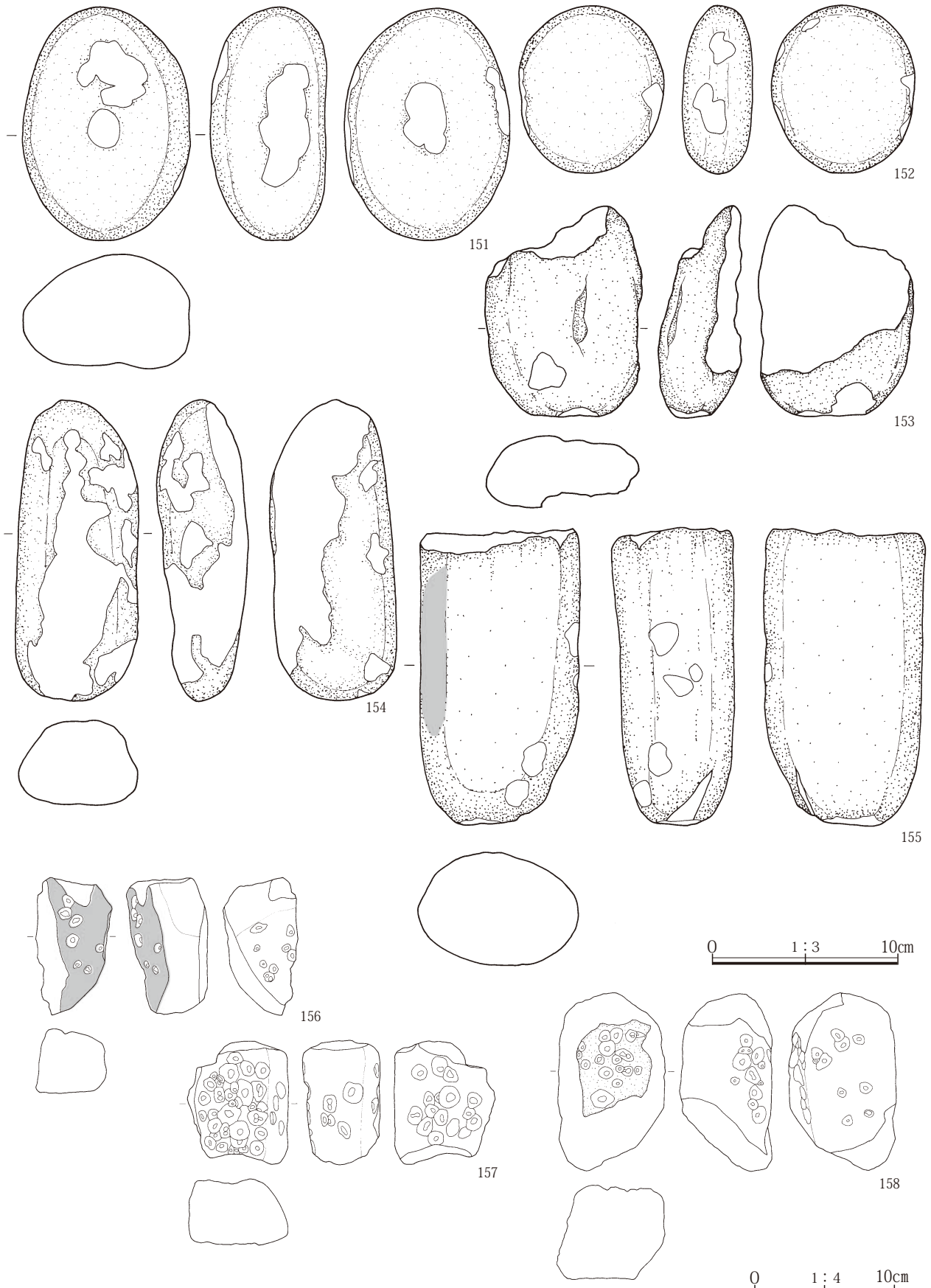


第50図 縄文石器 137-144



第51図 縄文石器 145-150

0 1:3 10cm



第52図 縄文石器 151-158

第3節 弥生時代の遺物

弥生土器について

本遺跡からは、遺構に伴わない状態で106点の弥生土器片が出土した。帰属する遺構や遺跡の性格が不明であったが、壺・甕・鉢がそろっており、小規模で短期間との想定とはいえ、この地が集落ないし墓地として利用された貴重な証拠であることは間違いない。

弥生土器の出土分布は挿図未掲載品を含めて、3区で47点、4区で5点、5区で12点、6区で42点であり、3区と6区に二分される傾向がうかがえる。文様分類による次の通りである。条痕文系は3区で15点、6区で1点のみと3区にほぼ限られる。縄文のみ施文と思われるもの及び磨り消し縄文系は3区で18点、6区で29点と6区が凌駕する。沈線文や刺突文は3区で9点、6区で11点とほぼ同数といえる。帰属する遺構が不明確なので、共伴関係の確認や一括土器群を抽出することは困難であるが、3区からまとめて出土した1～6、7～10は各々条痕文甕、縄文のみ施文した壺の个体破砕片と思われる。

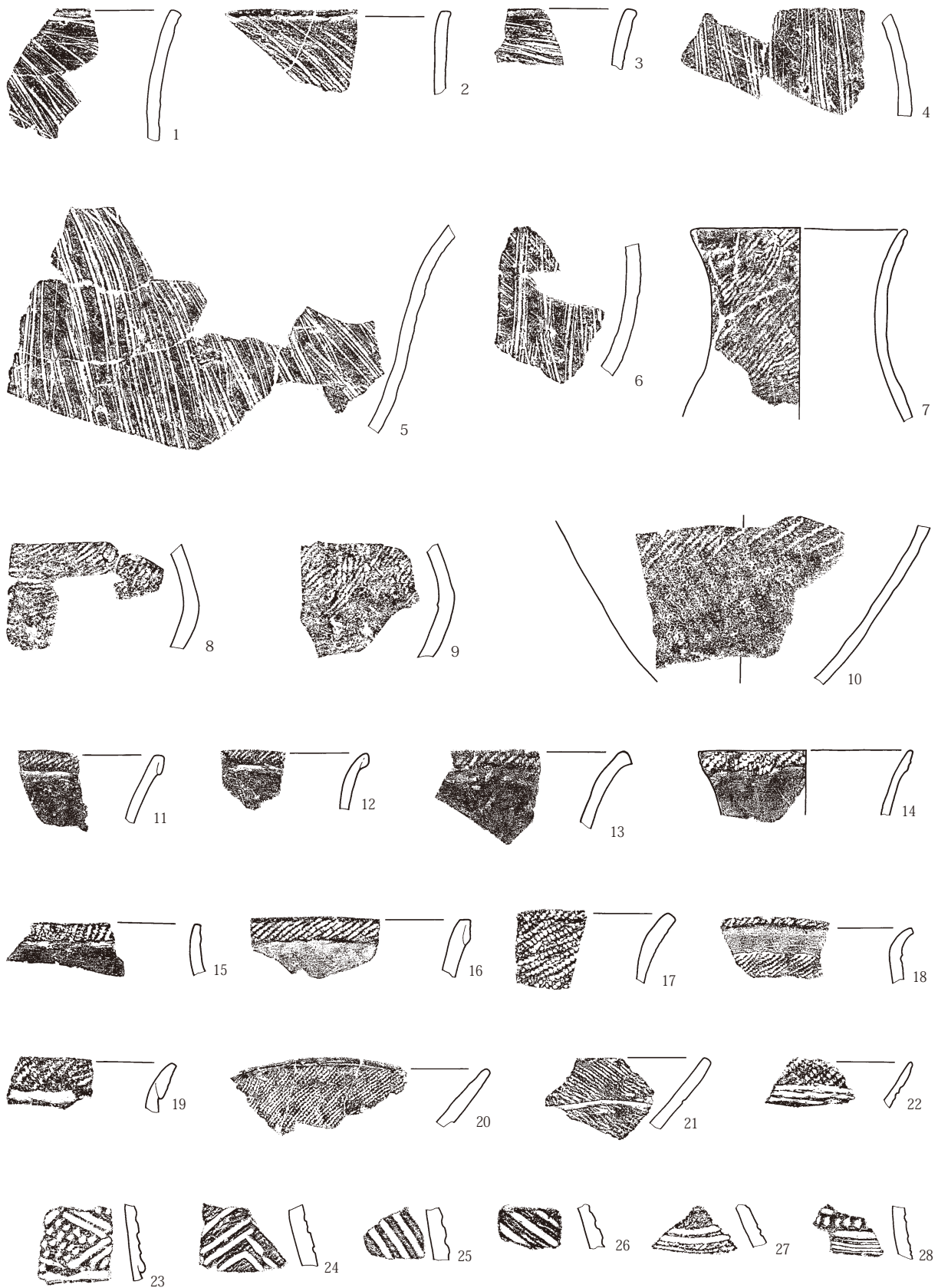
出土した弥生土器の形態的特徴や文様を見る限り、弥生前期に遡るものはなく、大部分は中期前半から中葉段階にかけての所産と考えてよい。沈線文と刺突充填で構成されるグループは、全体の文様が不明確ではあるが、概ね出流原式の範疇で考えられ

よう。45～52の曲線構成と横帯の磨り消し縄文は神保富士塚式（石川2003）にもみられるが、渡良瀬川流域という地域性の存在を想定した上での在地色ととらえ得るので、尾島町阿久津宮内遺跡（飯田1995）出土土器や野沢Ⅱ式との関連性も視野に入れておくべきだろう。例えば阿久津宮内遺跡では、条痕文の深鉢が特徴的で本遺跡例よりも古相を示すが、本遺跡で出土した縄文施文の浅鉢(20)と近似する例が見られる（同報告書第311図-34）。本遺跡出土例が小破片に過ぎるため、文様構成や器形での関連性を述べるには不足で、具体的な比較検討は断念せざるを得ない。しかし、近年では当該地域において、断片的ながらも弥生時代中期土器の資料が増加してきており、地域型式存否への見通しを考究できる日も遠くはないと期待している。

なお、60・61は東海系の櫛描文と思われ、該期の群馬県例としては稀少といえる。また、63は栗林式、64・65は樽式古段階と思われるが、群馬県北・西部地域では一般的なこれらの土器型式も、本遺跡の存する渡良瀬川流域ではけっして安定した存在ではない。弥生時代の中期後半～後期前半に入っても、弥生遺跡分布の希薄性、言い換えれば定着度や密集度のきわめて低い、少人数の生活痕を示すと理解してよいと思われる。

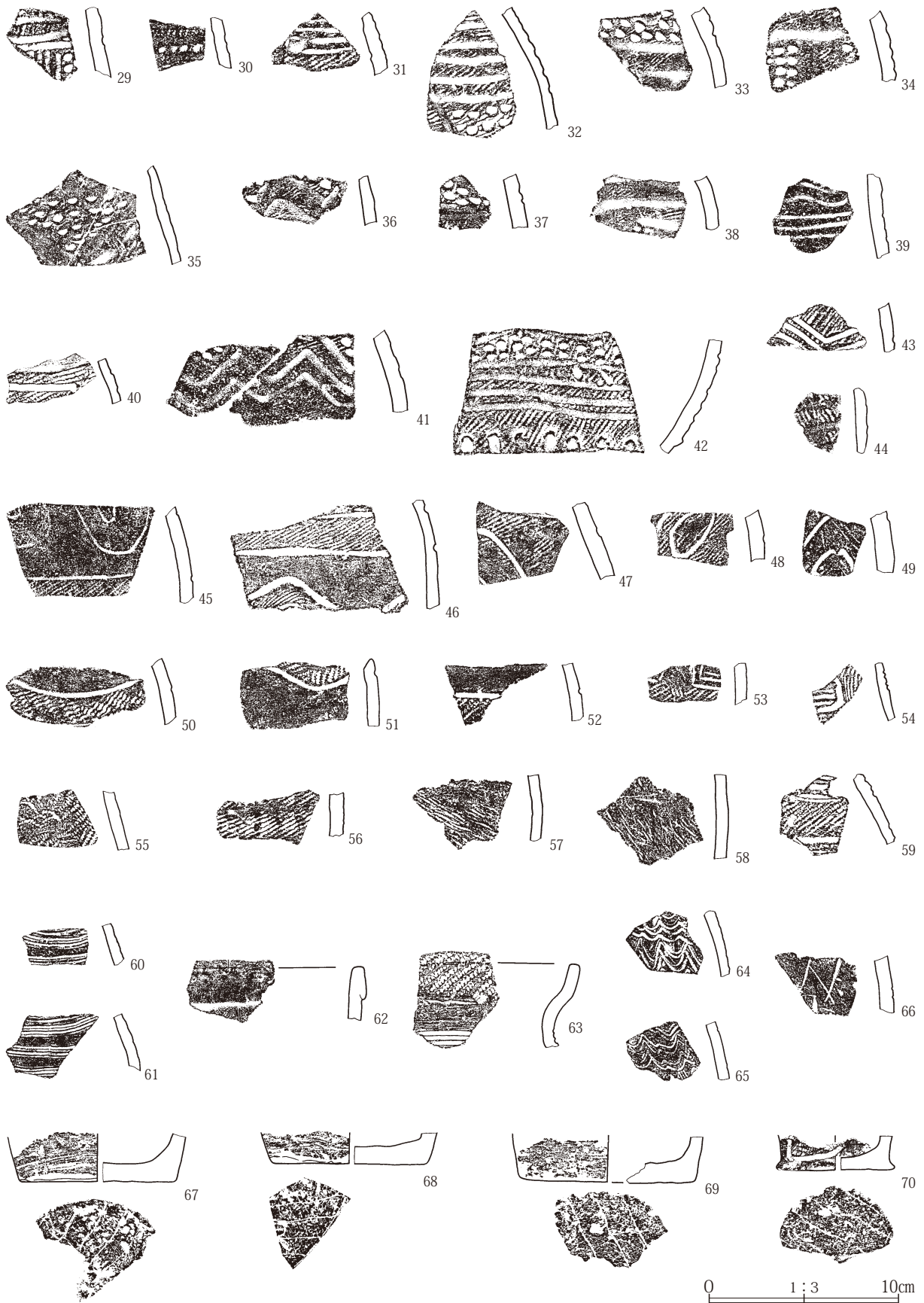
石川日出志2003「神保富士塚式の提唱と弥生中期土器研究上の意義」『土曜考古』27

飯田陽一1995『安養寺森西遺跡 大館馬場遺跡 阿久津宮内遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



0 1:3 10cm

第53图 弥生土器 1 1-28



第54图 弥生土器2 29-70

第4節 古墳時代の遺構と遺物

1 調査の概要

古墳時代の住居としては3区2号住居と3区33号住居の2軒が検出された。いずれも炊飯施設にまだ竈が導入される以前の時期のものである。

4区では6号、14号、36号の各溝から古墳時代の土器が出土しているものの掘削時期を断定することは困難であった。これらの溝は奈良・平安時代の溝として第5節に掲載した。

5区では18号土坑、13号ピットから古墳時代の土器が出土している。ともに調査区の北側寄りに位置している。32号溝からも古墳時代の土器が出土している。ともに第5節に掲載をした。

6区では1号から3号の3軒の建物址、3号、8号溝から古墳時代の遺物が出土している。13号溝も当該時代の可能性があるがいずれも時期を断定することは困難であった。

土坑は、1号、5号、11号、13号、36号、38号、39号、42号の8基は古墳時代前期から中期、19号は後期の所産と考えられる。調査区内の比較的広範囲にわたりその分布が認められた。

遺構外出土の遺物としては、土師器の21点、須恵器5点、手づくね土器2点、スプーン状の土製品1点、土器を転用した有孔の土製品1点、埴輪破片10点、石製模造品の剣形品2点、石製の剣形品1点、ガラス製の勾玉1点、ガラス小玉2点などを資料化した。

2 竪穴住居

概要

3区2号住居は調査区の南東寄りからの検出である。3区33号住居は調査区北側からの検出である。他の調査区においては古墳時代の竪穴住居は検出されていない。2軒の住居は古墳時代中期の所産と考えられるがこれらの住居と前後する時期、前期あるいは後期いずれの時期の住居とも検出されていない。

い。

3区2号住居（第55・56図、P L 5・101）

位置 425、430—475、480

重複 重複する遺構はない。

主軸方位 W-38° -N 面積 19.20㎡

形状 南北に長軸を有するが正方形に近い形状を呈する。規模は、長軸4.65m、短軸4.40mを測る。各辺とも直線を指向し、精美である。周溝は検出されなかった。

埋没土 炭化物を含む暗褐色土が堆積していた。

床面 上部がかなり削平されており、壁面の残存高は最大でも8cm程であった。南東壁は壁面の立ち上がりを確認できないほどであった。床面は、概ね平坦である。

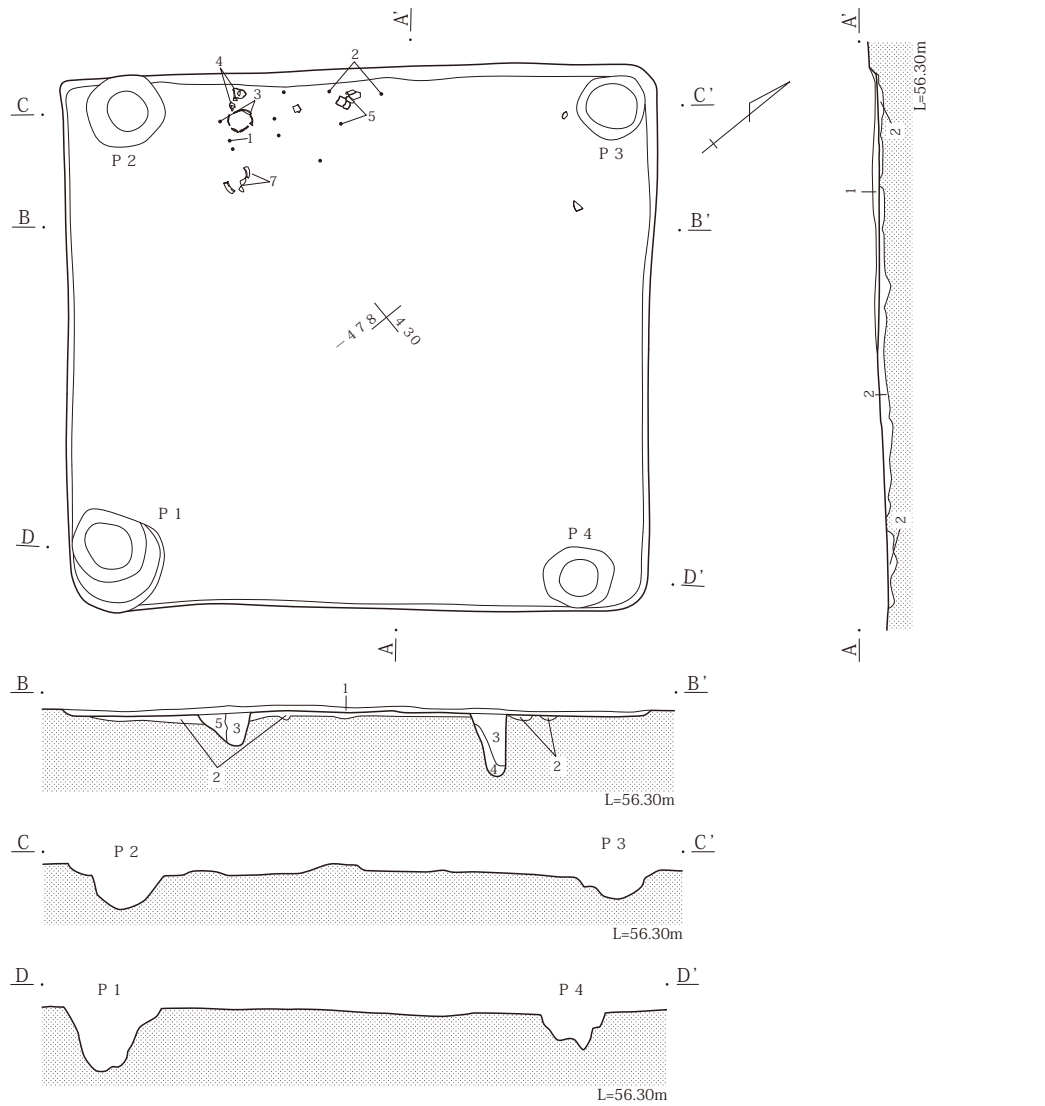
炉 出土土器の年代観からすると本住居の炊飯施設は炉と考えられる。調査時にはP2の北側に竈が付設されていたものと考えた調査が行われ、住居内に広がった焼土混じりの暗褐色土のブロックを竈袖部と誤認したため、炉の検出にはいたらなかった。

貯蔵穴 調査時には認識されていない。ただし位置や規模から考えれば柱穴として調査されたP2が貯蔵穴であった可能性が高い。あるいはP1、P3、P4についても住居の隅に掘られていることから、貯蔵穴的な性格が考えられるかもしれない。

柱穴 床面の精査の結果、合計8基のピットが検出された。P1からP4は四隅に、P5からP8は対角線上に掘られている。それぞれの規模（長径×深さ）はP1が80×50cm、P2が63×31cm、P3が54×16cm、P4が57×21cm、P5が28×51cm、P6が40×48cm、P7が33×54cm、P8が33×54cmを測る。P5～P8の4本が位置や深さから支柱穴と考えられる。暗褐色土、あるいは黒褐色土が堆積していた。

掘り方 床面下、5cm前後掘り込まれている。ロームブロックを多量に混入する暗褐色土で埋められていた。

遺物 西壁際の中央からやや南隅寄りから土師器甕が出土している。その他は破片の状態で、土師器

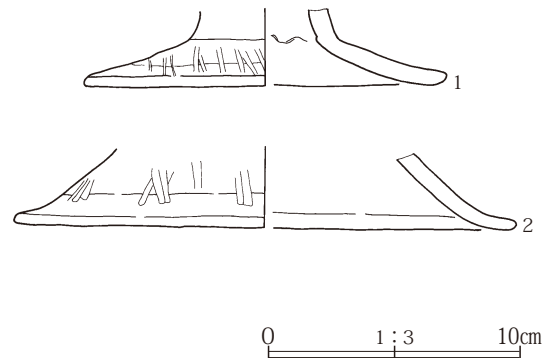


- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)少量混入。炭化物中量含む。焼土粒も少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5～40mm)多量に混入。
- 3 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径5～20mm)均一に少量混入。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(径5～40mm)少量混入。
- 5 黒褐色土 ローム土少量混入。

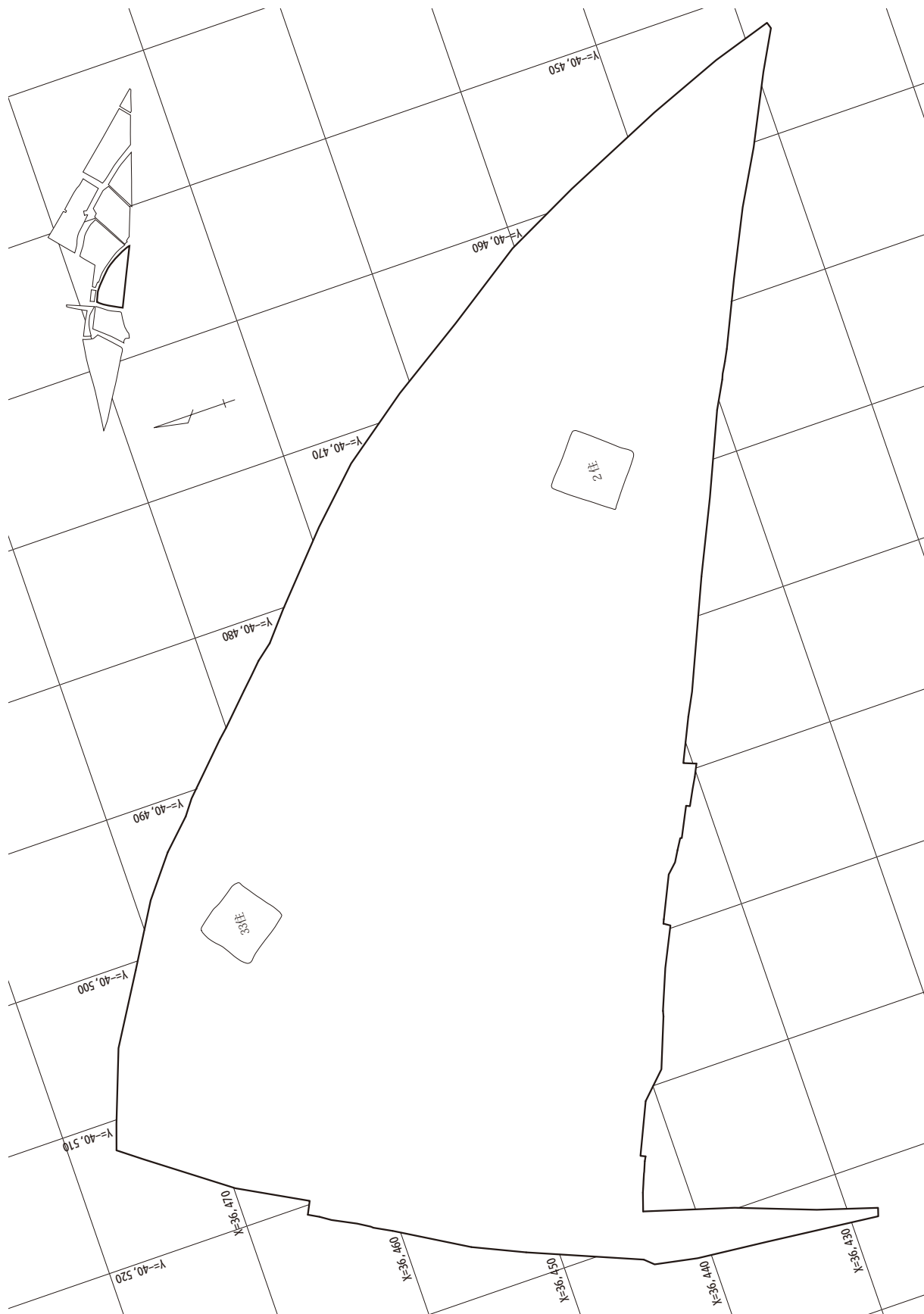
0 1:60 2m

第55図 古墳時代3区2号住居

高杯2が床面から2cmほど食い込む状態で出土している。土師器甕4は床面から2cmほど浮いた状態、土師器甕3は右袖の上面、5からさらに3cmほど浮いた状態で出土している。土師器高杯1、土師器甕7も甕4とほぼ同レベルからの出土である。所見出土土器の特徴から5世紀前半の所産と考えられる。西壁際、土師器甕3・4の周辺を中心に炭化物・焼土がブロック状となり出土した部分がある。このことから焼失住居の可能性が考えられる。

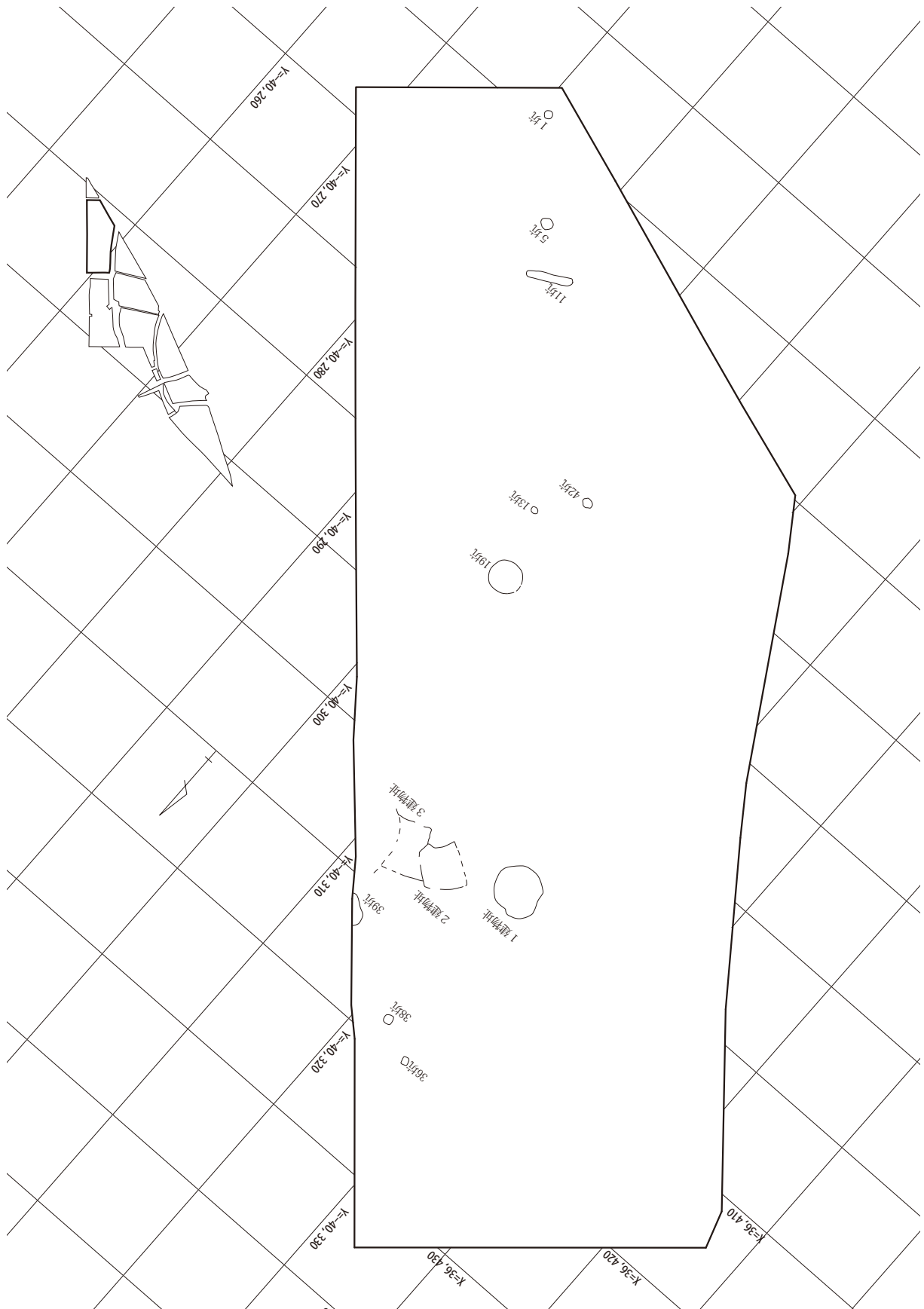


第56図 3区2号住居出土遺物1 1-2



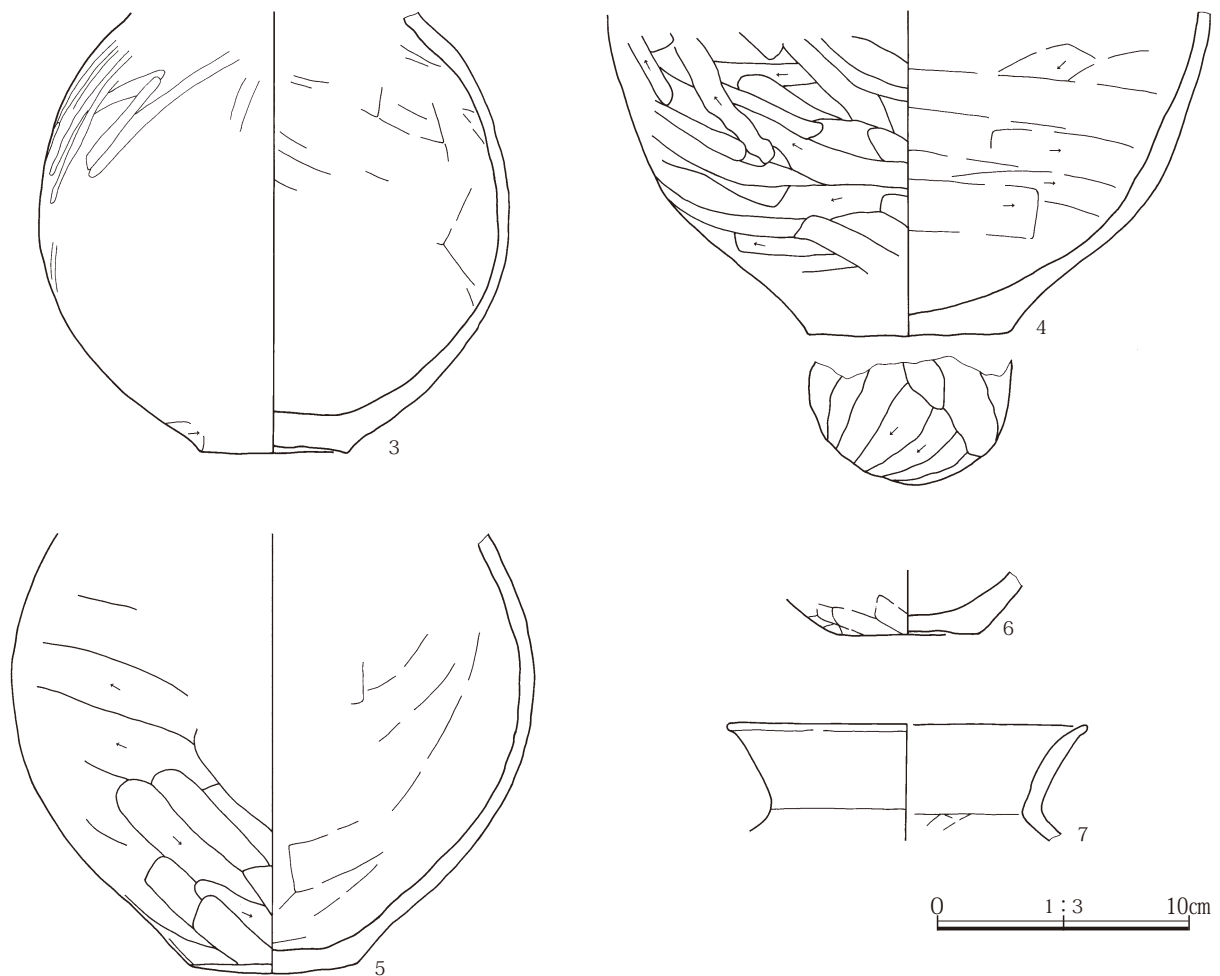
第57図 古墳時代遺構 3区

0 1 : 400 20m



第58図 古墳時代遺構 6区

0 1:500 20m



第59図 3区2号住居出土遺物2 3-7

3区33号住居 (第60～62図、P L 5・101)

位置 460、465-495、500

主軸方位 N-37°-W 面積 15.87㎡

重複 17号、18号、30号住居に先出する。

形状 正方形を呈するが諸住居との重複により削平を受けており、西壁以外はほとんど床面間近においてその形状を確認したものである。規模は南北4.38m、東西4.21mである。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 西壁の北西隅寄りで、確認面から最大42cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。

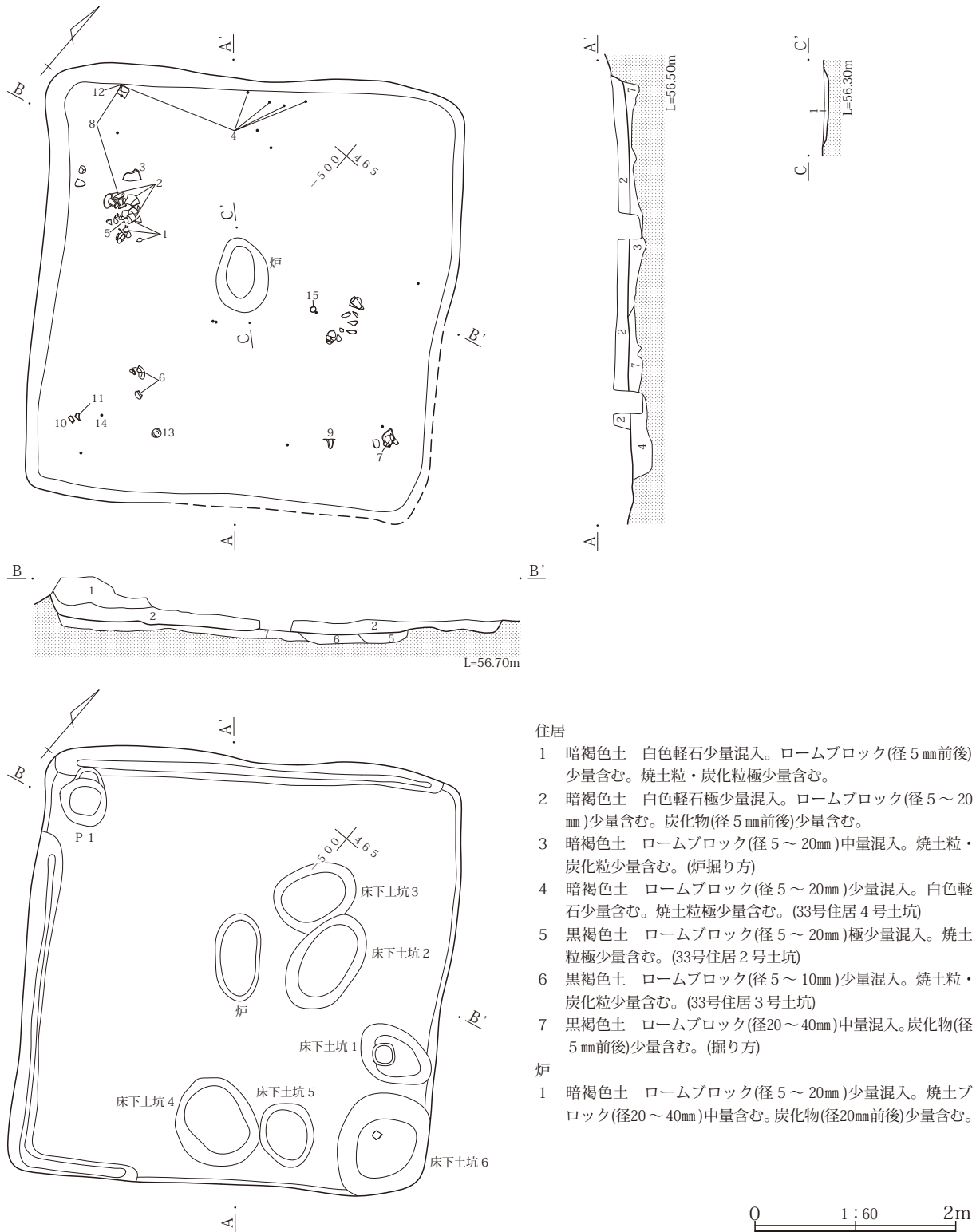
貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

周溝 掘り方調査時に、北壁、西壁、そして南壁の南西隅寄りで検出された。規模は幅20cm、深さ5cm前後である。黒褐色土が堆積していた。

炉 住居のほぼ中央で検出された。南北方向に長軸を有する楕円形状を呈しており、その規模は、長径75cm、短径52cm、深さ4cmを測る。掘り込み内に堆積していた暗褐色土中には焼土ブロックと少量の炭化物が含まれていた。炉と北壁の間の床面には直径120cm程の円形の範囲内に炭化物の集中する箇所が認められた。

掘り方 床面下5cmから10cmで掘り方基底面に達する。床面の中央から南側半分からは合計6基の床下土坑が構築されていた。いずれも小判形、あるいは楕円形を呈するもので規模は長軸65から113cm、深さ7から20cmを測った。埋没土は暗褐色土である。また、北西隅に長径50cm、深さ34cmのピット1基を検出した。黒褐色土が堆積していた。

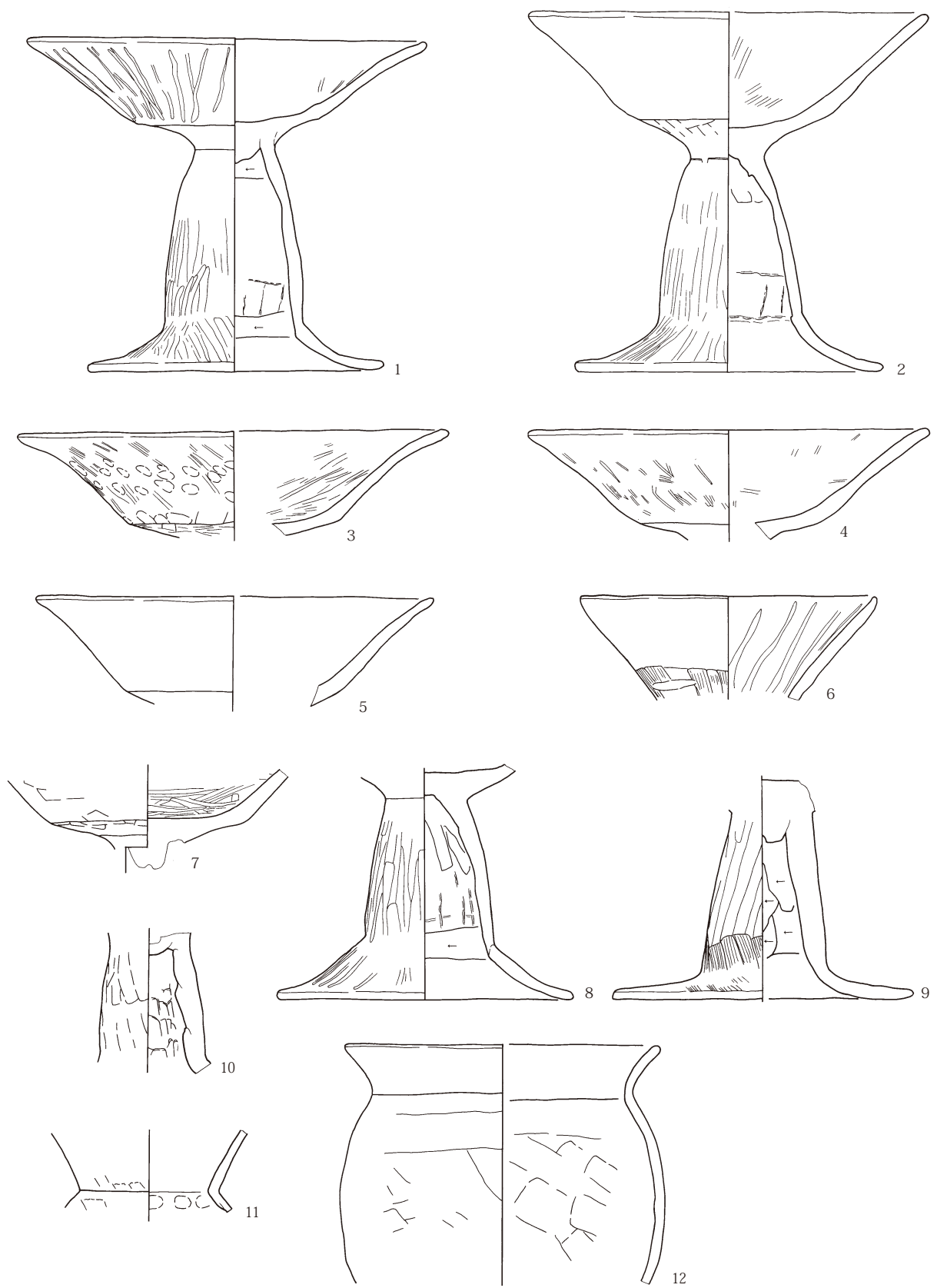
遺物 住居北西部分で土師器高杯1・2・3・8



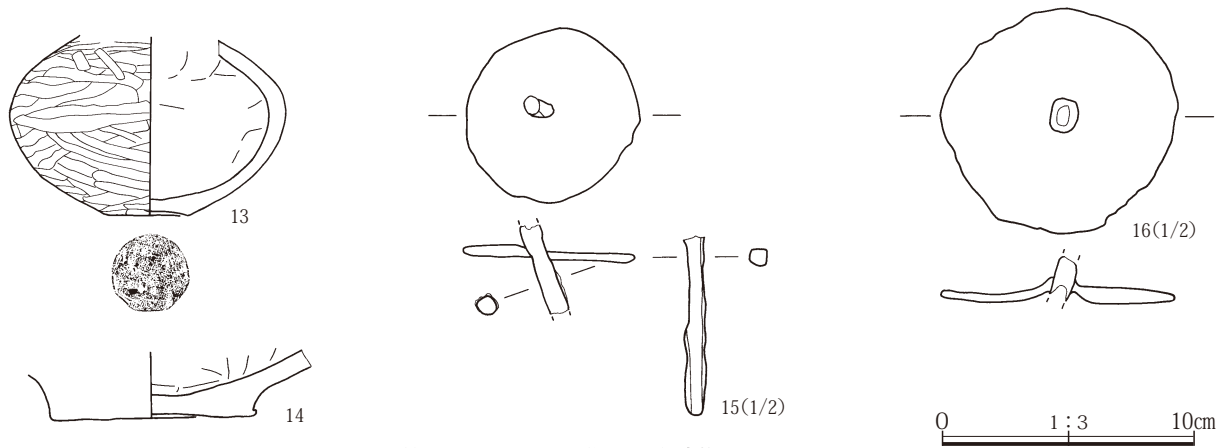
第60図 3区33号住居

がまとまって出土した。それぞれ床面から15cm前後離れた状態での出土である。

所見 出土遺物の特徴から5世紀前半の所産と考えられる。



第61图 3区33号住居出土遺物 1-12



第62図 3区33号住居出土遺物2 13-16

3 建物址

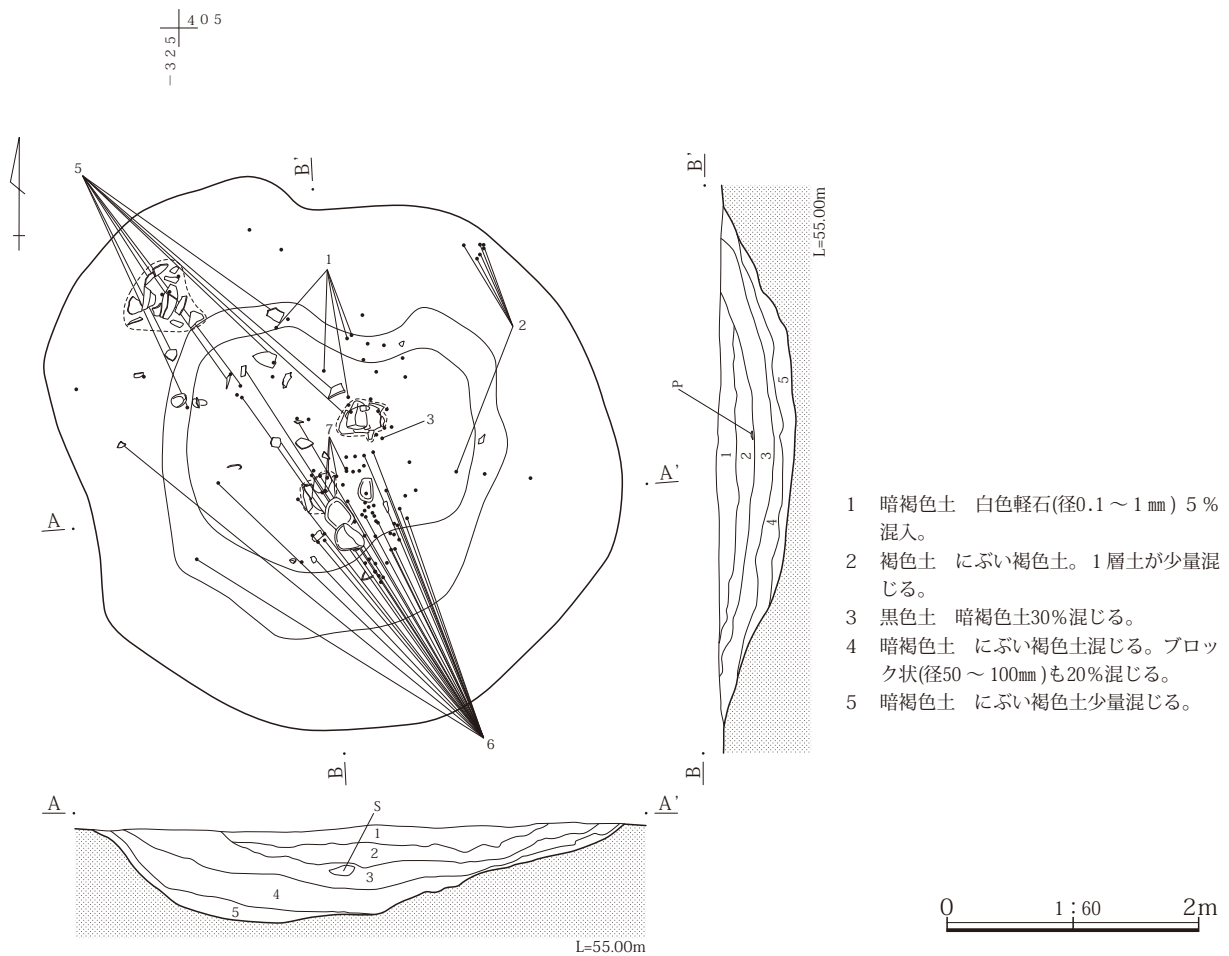
概要

本遺構の呼称については調査時に付されたものをそのまま使用している。調査者として煮沸施設が検出

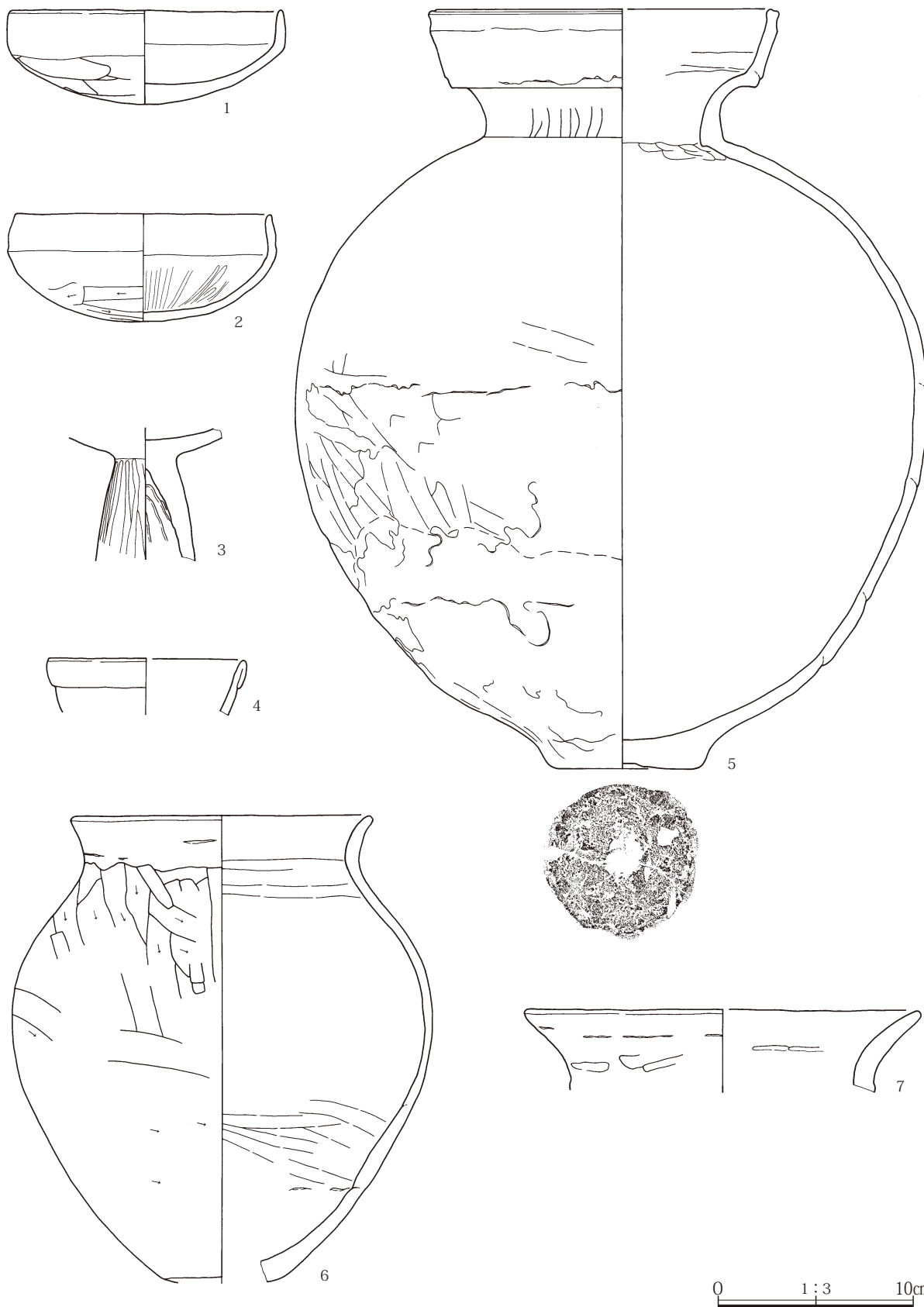
できず、掘り方も判然としない遺構に対する取り扱いを意図したものと考えられる。6区の調査区北半部分で3棟検出された。

6区1号建物址 (第63・64図、P L 6・102)

位置 395、400-320、325



第63図 6区1号建物址



第64图 6区1号建物址出土遺物 1-7

主軸方位 N—46°—W

形状 平面形は円形を基本としているが北側部分の立ち上がりは乱れている。断面形は外方に大きく開いた浅い掘り鉢状を呈するため、明瞭な底面は存在しない。規模は長軸4.63m、短軸4.26m、深さ0.75mを測る。

埋没土 暗褐色土、褐色土、黒色土が20cm程の厚さでレンズ状に堆積していた。堆積土中には長さ20から30cmの円礫も含まれていた。

遺物 埋没土の堆積状態に則するように多数の遺物が出土している。出土遺物には土師器杯1・2、高杯3、壺4・5、甕6・7などがあった。壺5は北西側の傾斜面と底面の二箇所から破片がまとまって出土した。甕6は底面の南側寄りから破片がまとまって出土している。

所見 遺構の性格については不詳である。掘削時期については出土遺物が本遺構に伴うものと考えるところの特徴から5世紀代が推定される。

6区2号建物址 (第65・66図、P L 6・102)

位置 400、405—315

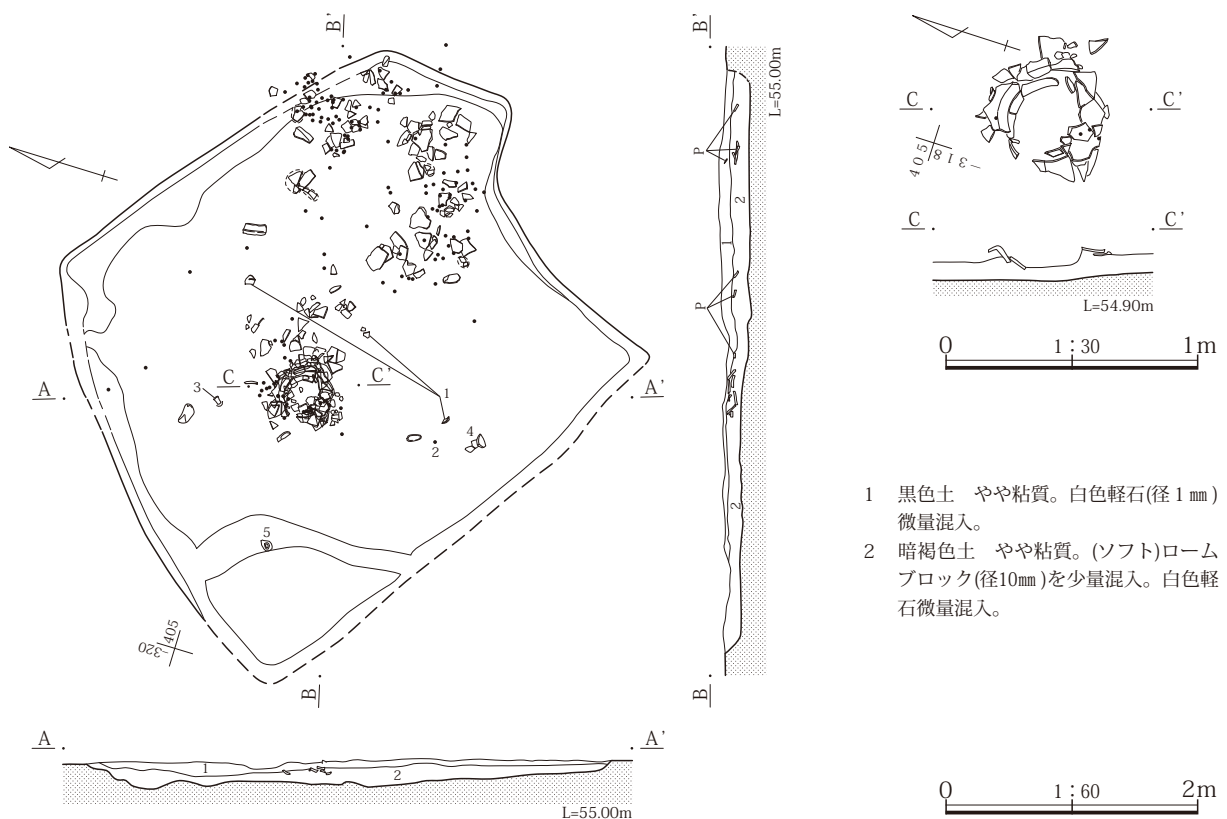
重複 1号竪穴、3号建物址と重複する。

主軸方位 N—52°—W (北壁)

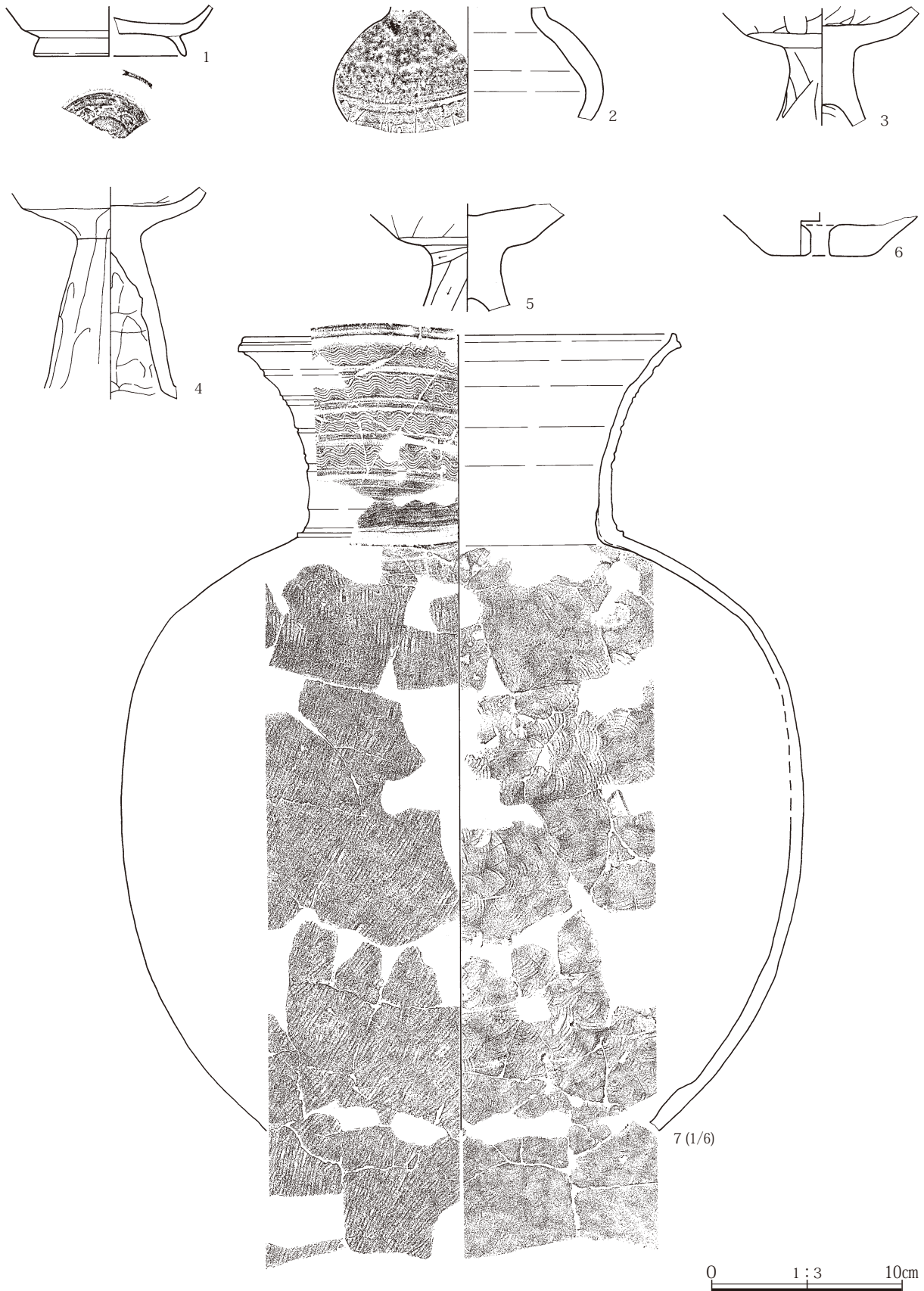
形状 平面形は長方形の四角形を基本としているようであるが、東辺は変形が著しい。南辺も壁面の立ち上がりが認められなかった。全体の構造については不詳である。断面形は確認面から3から8cm掘り込んで底面に達していた。調査時に遺構の掘り方として認識された範囲は南北3.62m、東西3.70から4.03mである。竈や炉といった煮沸施設、柱穴なども検出されていない。

埋没土 上層に黒色土が、下層に暗褐色土が堆積していた。下層は調査時に住居の掘り方埋土と認識している。この層の上位から須恵器大甕7が出土している。

遺物 掘り込み面の中央部分と南東隅寄りの2箇所から破片の状態となって須恵器大甕7が出土して



第65図 6区2号建物址



第66图 6区2号建物址出土遺物 1-7

いる。中央部分には口縁部から頸部の破片が見られる。この他に小型壺2、土師器高杯3・4・5、甑6が出土している。須恵器椀1は混入品であろうか。所見 調査時の所見を見ると、埋甕として詳細図や横断面図を作成している。それとともに埋没中の住居跡に生じた凹地に大甕を廃棄した可能性も指摘している。出土状態図を見る限り、遺構の底面を掘り下げて甕が設置されているようには見られないことから埋甕という呼称は相応しくないように考える。遺構の性格については不詳である。掘削時期についても不詳であるが、出土遺物の特徴は5世紀代である。

6区3号建物址 (第67・68図、P L 6)

位置 390-310

重複 1号竪穴、2号建物址と重複する。

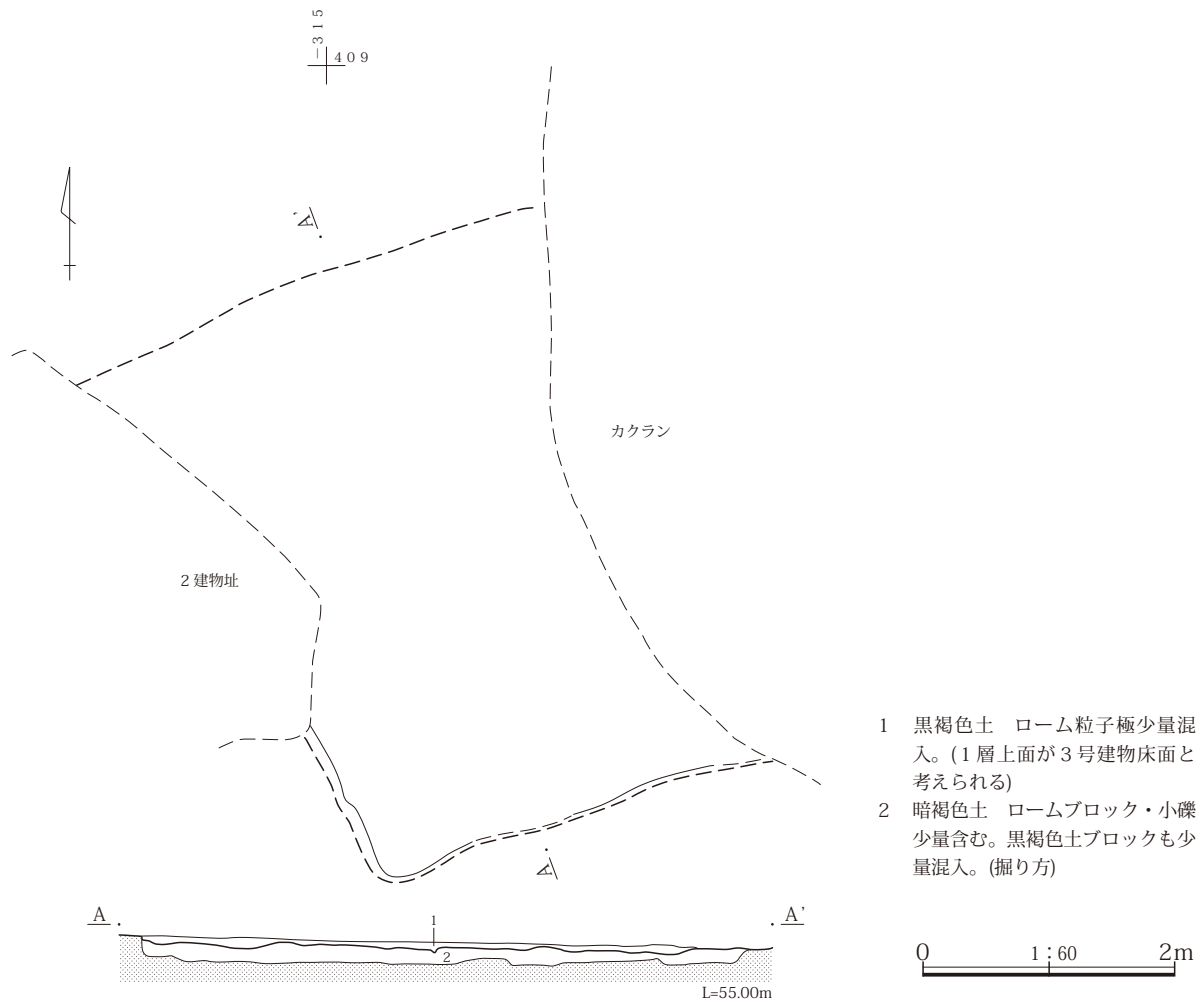
主軸方位 N-72° - E (南壁)

形状 長方形の掘り込みを有していたと考えられるが全体の構造は不明である。調査時に遺構の掘り方として認識した範囲は南北約4.7m、東西約4.0mである。竈や炉といった煮沸施設、柱穴なども検出されていない。確認面から最下面までの深さは、南西部分で28cm、北西部分で15cmである。

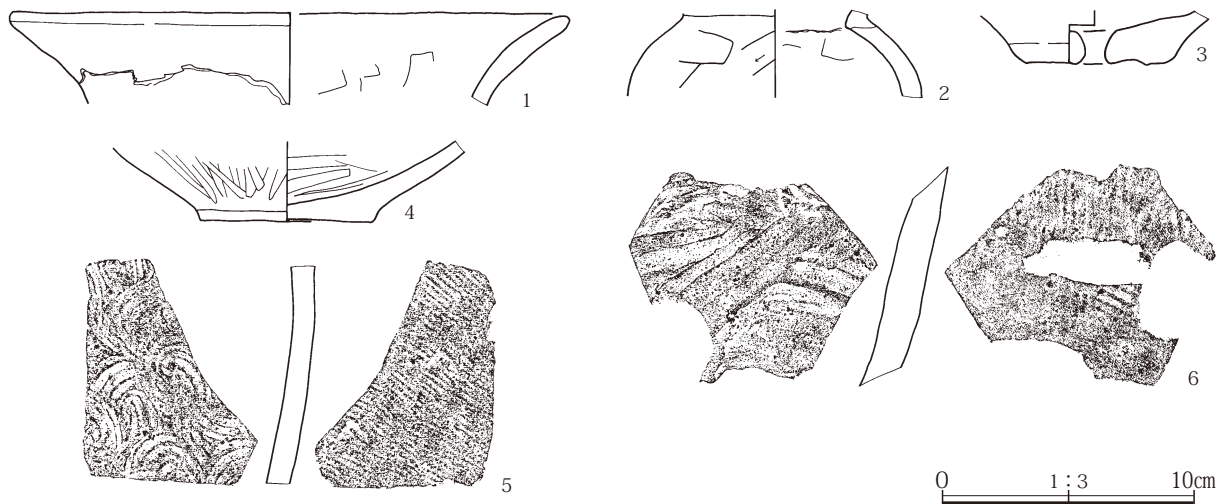
埋没土 黒褐色土と暗褐色土が堆積していた。調査時には上層の上面を遺構の床面と考え、下層を掘り方の埋土と認識している。

遺物 掘り込みの西側寄りから少量の遺物が検出された。土師器甕1、壺2、甑3・甕4、須恵器甕の破片5・6が出土している。

所見 遺構の性格については不詳である。掘削時期についても不詳である。



第67図 6区3号建物址



第68図 6区3号建物址出土遺物 1-6

4 土坑

概要

6区の2面で検出した土坑のうち9基は出土遺物の状況から古墳時代の所産と考えられる。

検出箇所は調査区の南半部分の南側寄りから1号・5号・11号の3基が、北側寄りから13号・42号・19号の3基が、北半部分から36号・38号・39号の3基が確認された。ここでは5号・39号を除く7基については個別報告を行う。

6区1号土坑（第69・70図、P L 7・102）

位置 345-280

重複 重複関係は認められない。

長軸方位 N-32°-W

形状 調査区の南東部分に位置する。平面形はやや乱れた円形を呈していた。規模は長軸73cm、短軸71cmを測る。深さは47cmで、壁面の中位に変換点が見られる。

埋没土 暗褐色土2層が堆積していた。中層から長さ20cm程の円礫7点が出土している。

遺物 土師器埴1、高杯2・3を資料化した。高杯2は上層から、埴1は底面から10cm離れたの出土である。

所見 掘削時期は古墳時代中期と考えられる。

6区11号土坑（第69・71図、P L 7・102）

位置 355-285

重複 重複関係は認められないが東山道駅路南側側溝に近接する。

長軸方位 N-54°-E

形状 調査区の南東側部分に位置する。平面形は長辺の長い長方形で、やや隅丸を呈していた。規模は長軸418cm、短軸72cmを測る。深さは41cmである。底面は中程に290cmが深く、西南側の短辺では底面から徐々に浅くなって立ち上がり、長さ30cmの狭い段を残していた。北東側も長さ18cmの段をなしている。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。底面間近と南壁際では黄褐色土ブロックの混入が顕著であった。

遺物 南西側から土師器高杯2、甕3、埴4が出土している。いずれも底面から30cm程離れたの出土である。

所見 掘削時期は古墳時代中期と考えられる。

6区13号土坑（第69・71図、P L 7・102）

位置 375-300

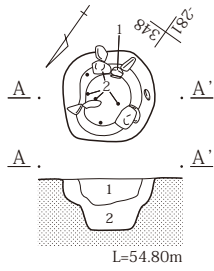
重複 重複関係は認められない。

長軸方位 N-90°-E

形状 調査区の南半部分、北側に位置する。平面形は長円形を呈していた。規模は長軸64cm、短軸55cmを測る。壁面は直立ぎみに立ち上がっている。深さは29cmを測った。

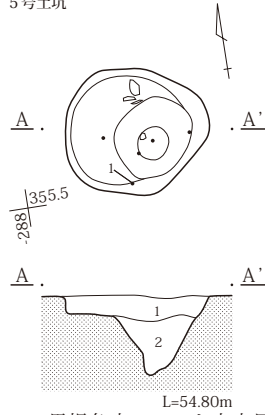
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

1号土坑



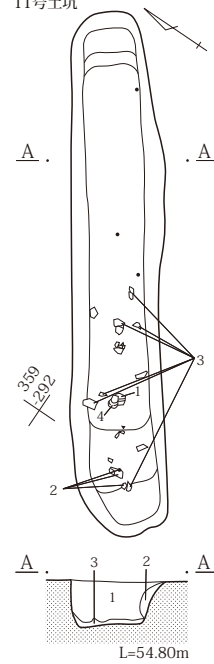
- 1 暗褐色土 炭化物少量混入。
- 2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック少量混入。

5号土坑



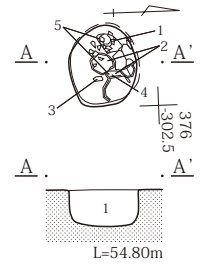
- 1 黒褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム土・ロームブロック多量に混入。

11号土坑



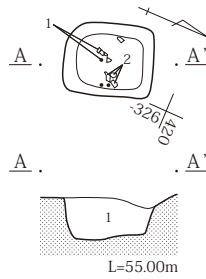
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~5mm)5%混入。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径10~30mm)80%混入。
- 3 暗褐色土 黄褐色土全体に均一に30%混入。黄褐色土ブロック(径30mm)混じる。

13号土坑



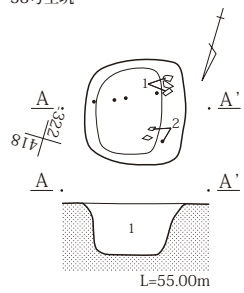
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~3mm)微量混入。

36号土坑



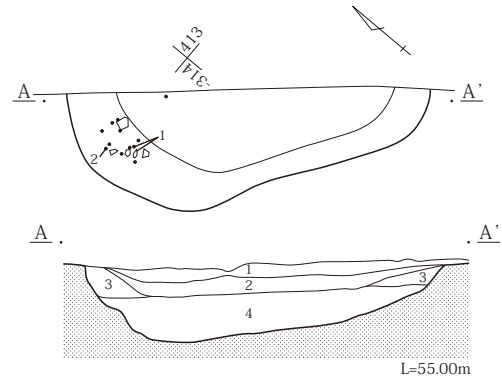
- 1 黒色土 粘質土。炭粒(径5~10mm)少量混じる。黄褐色土粒(径0.5~2mm)5%混入。

38号土坑



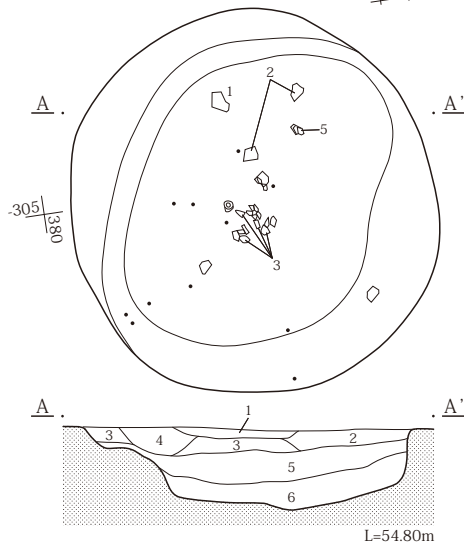
- 1 黒色土 黄褐色土ブロック(径5~20mm)少量(5%)混入。

39号土坑



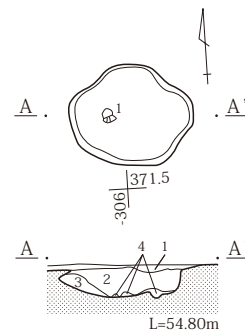
- 1 暗褐色土 やや粘質。土器や炭化物が出土。
- 2 暗褐色土 やや砂質。As-B混土。
- 3 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1~5mm)を均一に30%混入。
- 4 黒褐色土 ロームブロック含む。

19号土坑



- 1 攪乱
- 2 暗褐色土 礫を含む。白色軽石極少量含む。灰褐色土ブロック多量に含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石少量混入。灰褐色土ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 灰褐色土粘質土ブロック多量に混入。
- 5 黒褐色土 白色軽石粒少量混入。暗褐色土ブロック少量含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック・砂質土ブロック(径40~100mm)多量に混入。

42号土坑



- 1 褐灰色土 白色軽石(径0.1~2mm)微量混入。黄褐色土粒(径1~8mm)微量混入。
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒(径1~5mm)少量混入。黄褐色土ブロック(径8~15mm)微量混入。
- 3 黒褐色土 黄褐色土50%混入。
- 4 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径10~20mm)80%混入。

第69図 6区土坑



遺物 埋没土中、底面から10cm以上離れた高さから土師器甕1・2・4、埴3・5が出土している。

所見 掘削時期は古墳時代中期と考えられる。

6区36号土坑 (第69・71図、P L 8・103)

位置 415-325

重複 2号掘立柱建物と重複する。

長軸方位 N-20°-W

形状 調査区北半部分の北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈していた。規模は長軸70cm、短軸58cmを測る。壁面は上方に向かって外傾弱く立ち上がる。底面は平坦である。深さは37cmを測った。

埋没土 黒色土が堆積していた。

遺物 埋没土中から破片の状態出土している。土師器埴2、高杯1を資料化した。

所見 掘削時期は古墳時代中期と考えられる。

6区38号土坑 (第69・72図、P L 8・103)

位置 415-320

重複 重複関係は認められない。

長軸方位 N-14°-W

形状 調査区北半部分の北側に位置する。平面形は隅丸方形を呈するが、東西の2辺の長さに差が生じており、全体は台形に近い形状である。規模は長軸83cm、短軸80cmを測る。壁面は上方に向かって外傾弱く立ち上がる。底面は平坦である。深さは45cmを測った。

埋没土 黒色土が堆積していた。

遺物 埋没土中から破片の状態出土している。土師器甕1、埴2を資料化した。

所見 掘削時期は古墳時代中期と考えられる。

6区42号土坑 (第69・72図、P L 8・103)

位置 370-305

重複 重複関係は認められない

長軸方位 N-85°-W

形状 調査区南半部分の北側、自然流路の東側縁辺に位置する。平面形は不整形を呈する。規模は長軸97cm、短軸80cmを測る。壁面は上方に向かって外傾弱く立ち上がる。底面は平坦である。深さは25cmを測った。

埋没土 褐灰色土、黒褐色土が堆積していた。

遺物 掘り込みの中央からやや西側寄り、埋没土上層から土師器小型壺1が出土している。

所見 掘削時期は古墳時代中期と考えられる。

6区19号土坑 (第69・72図、P L 8・103)

位置 380-300

重複 重複関係は認められない。

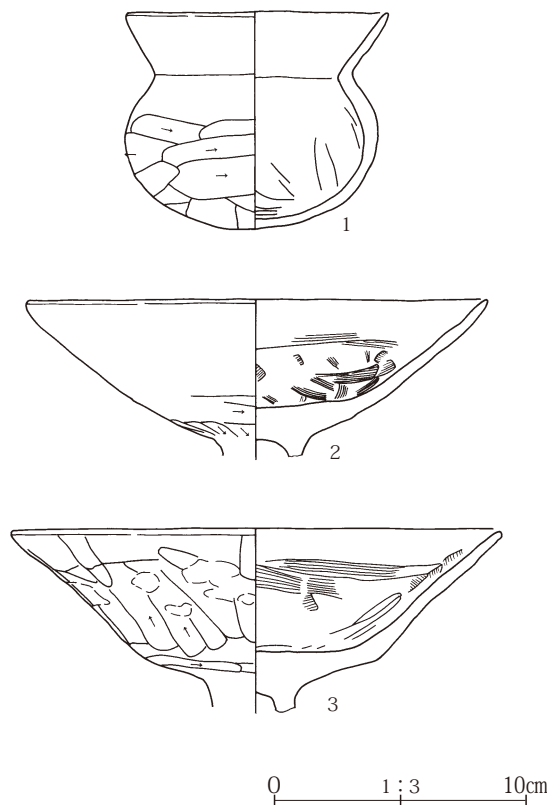
長軸方位 N-83°-W

形状 調査区南半部分の北側に位置する。底面の平面形は長円形を呈していた。規模は長軸302cm、短軸288cmを測る。壁面は北側が外傾弱く立ち上がっているのに対し、南側から西側の上半部は強く外反していた。深さは46cmを測った。

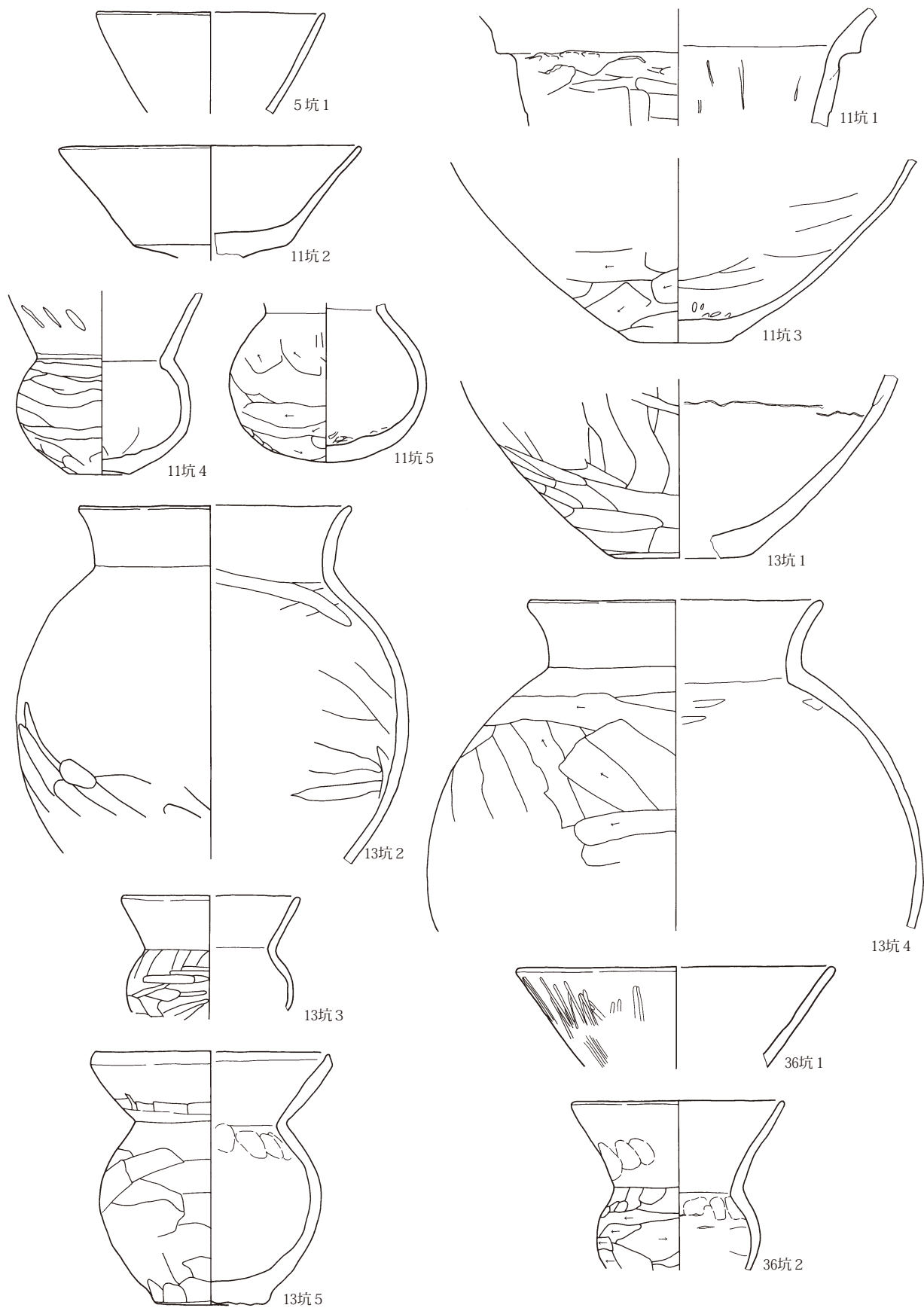
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 土師器高杯5が底面から5cm離れて出土している以外は20cm以上上層からの出土である。土師器杯4、須恵器甕1・2、提瓶3を資料化した。

所見 掘削時期は古墳時代後期と考えられる。

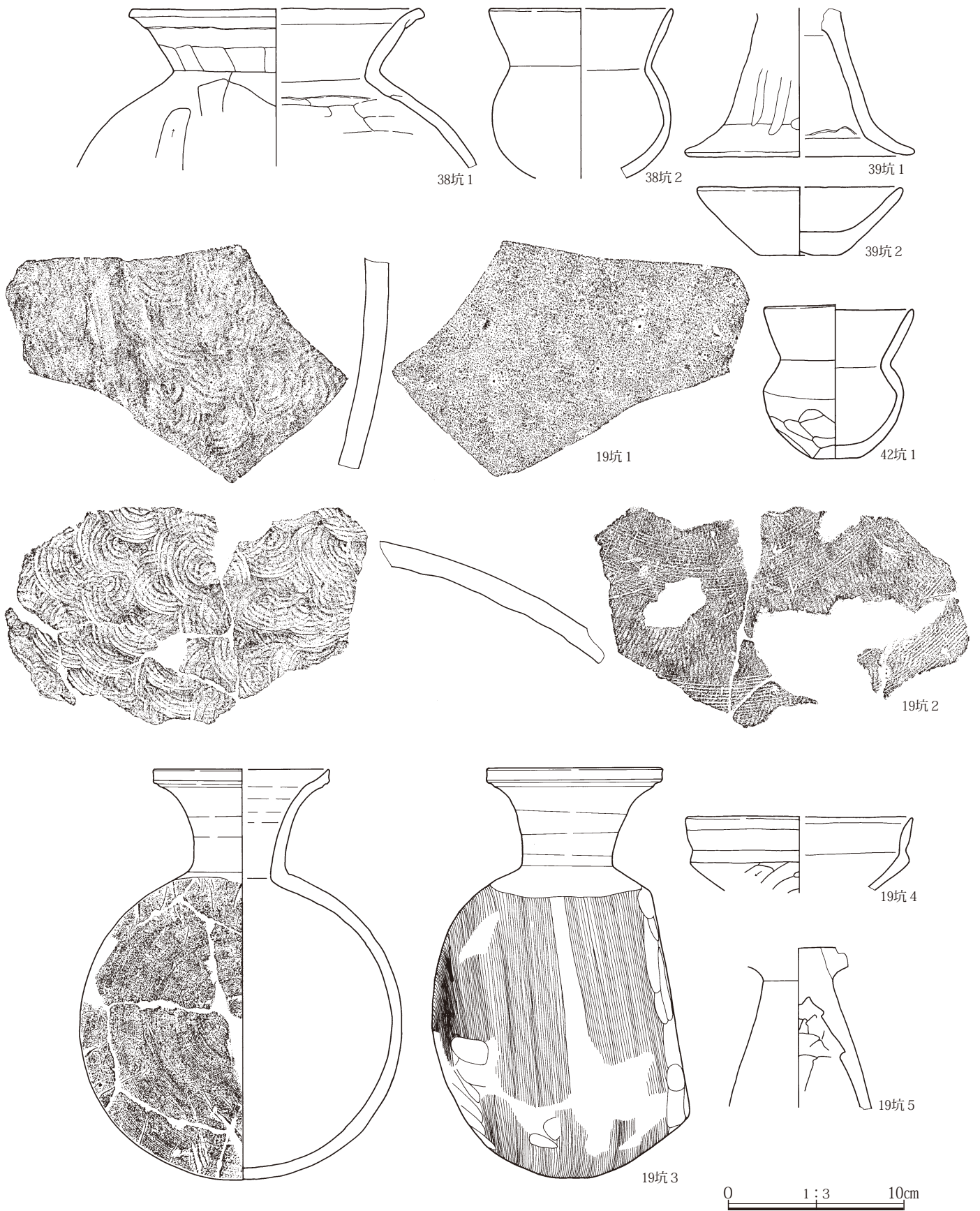


第70図 6区土坑出土遺物 1 1土坑



第71图 6区土坑出土遗物2 5-36土坑

0 1:3 10cm



第72图 6区土坑出土遗物3 38-19土坑

5 遺構外出土の遺物

3区、4区においては遺構確認作業や竪穴住居をはじめとする諸遺構の検出作業を進める中で古墳時代の遺物が出土している。5区、6区においても同様な作業過程を通じて当該時期の遺物が出土している。この他に5区2面では調査区の北側を中心に遺物包含層の調査を行った。結果、竪穴住居は北東隅から2軒を検出したにとどまった。この包含層調査の際に出土した遺物を遺構外の遺物として本項に掲載した。

6区でも1面調査後、調査区の西側境界に沿ってトレンチを設定、下層の状況確認を行っている。このトレンチ内から出土した遺物は遺構外出土の遺物として資料化、掲載した。

(1) 土器

1から21は土師器である。

1は土師器壺である。360-310グリッドの出土である。口縁部の残存で、外面の中位からやや先端寄りに明瞭な稜を有する。

2は土師器器台である。410-350グリッドの出土である。脚部の残存で中位に透孔4孔が開けられている。3は土師器高杯である。6区440-350グリッドの出土である。脚部は柱状を呈する。古墳時代前期から中期の所産であろう。

4は土師器甕である。4-Ⅲ区385-375グリッドの出土である。球胴を呈する。

5は土師器甕である。4-Ⅱ区405-390グリッドの出土である。同地点には36号溝が位置する。口縁部は中位に弱い稜をなす。6は土師器壺である。旧3区92号土坑の出土である。

7は土師器単口縁台付甕である。4-Ⅲ区375-375グリッドからの出土である。ハケメは太くてざっくりしている。

8は土師器壺である。4-Ⅱ区390ラインに設定したトレンチからの出土である。口縁部は二重口縁である。

9は土師器S字状口縁台付甕である。4-Ⅲ区370-335グリッドからの出土である。

10・11の2点は土師器甕とともに4-Ⅱ区410-385グリッドの出土である。10はひさご形を呈している。ともに丸底である。11の口縁部は外傾著しく立ち上がる。

12は土師器杯である。4-Ⅲ区370-350グリッドの出土である。ここには4号溝が位置している。口縁部は短く、内面に稜をなして立ち上がる。5世紀後半の所産と考えられる。

13は土師器小型甕である。4-Ⅱ区435-430グリッドの出土である。周辺に遺構は存在しなかった。器形は肩部が張り、丸底である。器面は摩耗が著しい。

14は土師器甕である。4-Ⅱ区410-390グリッドの出土である。胴部は球胴で大きく張る。底部は平底で中央が凹む。器面は摩耗している。

後期の所産と考えられるものとして土師器杯15から18を掲載した。

15は3-Ⅱ区の出土である。須恵器模倣の杯で口縁部が直立気味に立ち上がる。6世紀後半の所産と考えられる。器面はやや摩耗している。16は6区44号土坑として取り上げられたものであるが遺構の認定から除外されたためここに掲載した。17も土師器杯である。4-I区435-430グリッドと440ラインのトレンチ出土の破片が接合したものである。口縁部は小径で、外反して立ち上がる。18も土師器杯である。口縁部は短く立ち上がる。

19は器種不明品である。355-305グリッドの出土である。袋状の本体に把手状の突起が付く。胎土は精選されている。器面の調整も丁寧である。製作時期については判然としないが古墳時代の項で報告する。

20は土師器の杯あるいは甕の胴部破片である。6区自然流路の調査時に検出したものであるが詳細な出土地点は不明である。焼成後に穿孔した小孔が見られる。古墳時代の所産と考えられる。

21は土師器甕である。4-Ⅱ区435-430グリッド

の出土である。口縁部は外反して立ち上がる。胴部は球胴で中位に最大径を有する。器面は摩耗が著しい。

須恵器は22から26を掲載した。22は須恵器杯身である。4-II区405-390グリッドの出土である。受け部の突出具合は明瞭である。口縁部の上半は直立気味に立ち上がる。6世紀前半の所産である。

23は須恵器杯身である。受け部は短い。4区の出土であるが詳細な出土地点は不詳である。口縁部は内傾して立ち上がる。

24は杯身である。3区の南東部分、420-475グリッドの出土で周辺からは遺構が検出されていない。残存状態は破片である。口縁部は内傾気味に立ち上がる。6世紀後半の所産である。

25は須恵器杯身である。4-I区420-440グリッドからの出土である。口縁部は内傾して立ち上がる。受け部は短い。底部下半に手持ちヘラケズリを施す。器肉は全体に厚い。6世紀後半の所産である。

26は須恵器甕の破片である。外面に格子目状の当て目が見られる。

3区・4区から1点ずつ小型の手捏ね土器が出土している。ともに古墳時代の所産と考えられるが、詳細な製作時期は不明である。

27は、鉢状を呈しており、残存状態はほぼ完形である。法量は、口径3.2cm、高さ2.2cmを測る。3区の遺構確認作業中の出土で、詳細な出土位置は不明である。

28は、5区480-425グリッドからの出土である。鉢状を呈するが、3分の2程の残存である。法量は高さ2.1cmである。

(2) 埴輪

3区、4区、5区の各区から少量の埴輪が出土している。その中から3区出土の2点、4区出土の6点、5区出土の2点を資料化した。いずれも破片資料で、器面の摩耗が進行したものが目立った。

29から35・37は円筒埴輪である。31は口縁部破片、30・32・34・35・37には突帯が、29・32には透孔の

一部が残る。外面の調整はいずれもタテハケである。37は外面に突帯が貼付されるが朝顔形埴輪の口縁部破片と考えられる。

36は形象埴輪と考えられる。馬形埴輪の鞍部の可能性も考えられるが、器種を断定することは困難であった。製作時期については不明である。焼成は良好であるが比較的軟質である。胎土には白色鉱物粒や針状の黒色鉱物粒、赤色粘土粒の混入が顕著であった。38は基底部破片である。

今回の調査では調査区内から古墳は検出されていない。近接地する埴輪樹立の認められる古墳としては南方向400mに今泉口八幡山古墳が位置している。他にも数基の古墳の存在が知られている。掲載資料がどのような理由で調査区内に入り込んできたのか、もともと樹立されていた古墳がどの古墳であったかについては判断することは困難であった。

(3) 石製模造品

39は剣形模造品と考えられる。1区515-605グリッド出土である。残存状態は切先と基部ともに欠損している。法量は残長2.8cm、最大幅1.7cm、厚さ0.4cmである。横断面は山形を呈し、片面の中央には鎬状の稜が見られる。もう一面は平坦である。基部寄り、鎬から左側に小孔が1孔穿たれている。器面には擦痕が残されている。出土状態は不詳である。石材は滑石と考えられる。

41は剣形品である。4-III区380-380グリッドから出土したもので、周辺からは遺構が検出されていない。剣の刀身部の上半部破片と考えられる。切先の一部が欠損する他、刃部にも欠損部分が多く見られる。法量は残長10.6cm、刃幅の残長は3.5cm、厚さは1.5cmである。表裏両面に見られる鎬は切先から莖方向に2.5cm程のところまで2線に分かれ、その間は面取りしたような平坦面をなしている。横断面は切先寄りでは両刃を示す薄い菱形状、莖寄りでは六面体をなす。表裏両面とも多方向に向いた擦痕が見られる。材質は蛇紋岩である。遺構確認作業時に検出されたものである。

40は長方形の板状品で一端が破断している。剣形品の茎部分の破片と考えられる。4区Ⅲ区380-340グリッドの出土である。残長は4.5cm、横幅2.6cm、厚さ0.6cmある。残存部中程に直径0.3cmの孔が穿たれている。表裏面とも器面には細かな擦痕が見られる。材質は滑石で、41とは異なる。出土状態は表土下の遺構確認作業中に検出されたものである。

(4) 装身具

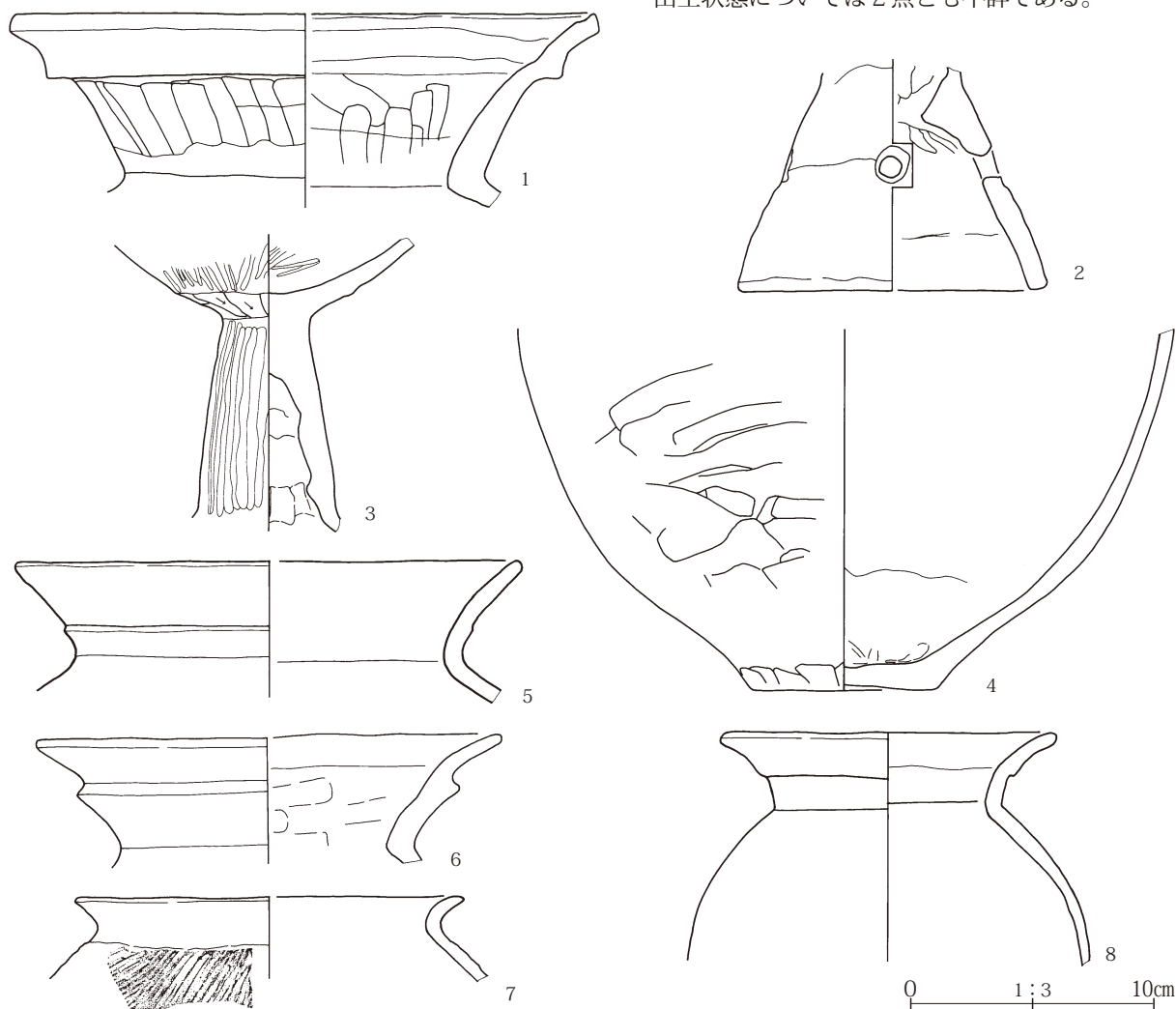
42は4区Ⅰ区435-445グリッド出土のガラス製の勾玉である(気泡がある)。頭部破片である。法量は残長0.7cm、横幅0.45cmである。厚さは0.4cmである。穿孔は直径1mmを測る。色調は緑色である。ガラスの材質は不明である。遺構確認作業時に表土下

から出土したものである。

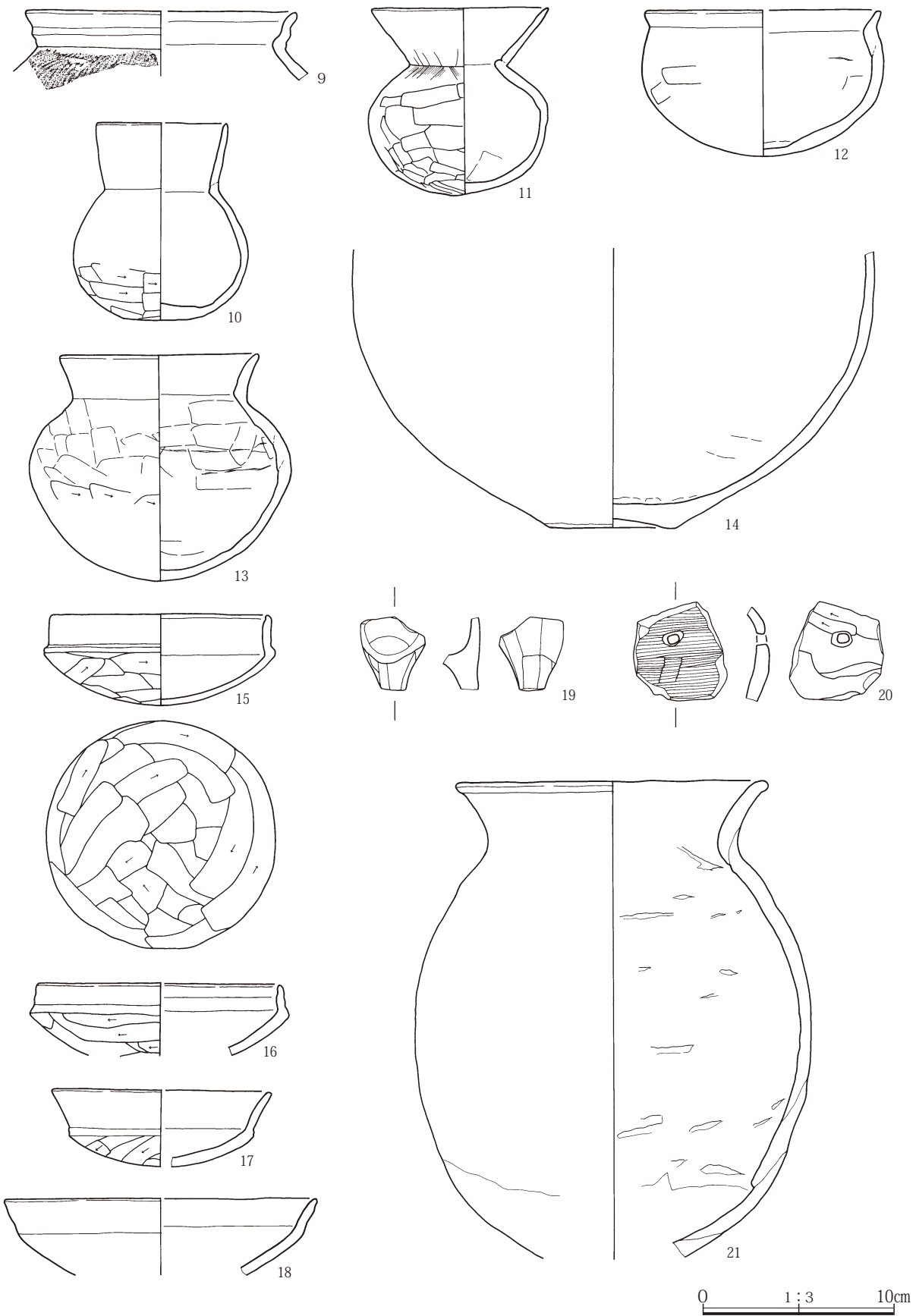
43と44は4区450-455グリッド出土のガラス小玉である。44は直径1.0cm、厚さ0.75cm、孔径0.2cmである。重量は1.0gである。孔側面は良く磨かれている。色調は紺色であるがガラス光沢が失われ、表面の風化が進行し白濁している部分が多い。製作技法については詳細な検討を経ていないが、鋳型法の可能性もある。ガラスの材質は不明である。

43は直径0.9cm、厚さ0.7cm、孔径0.2cmである。重量は0.9gである。孔側面は良く磨かれている。色調は紺色である。製作技法については内部に孔と平行に直線状に配列した気泡が観察されることから引き伸ばし法と考えられる。ガラスの材質は不明である。

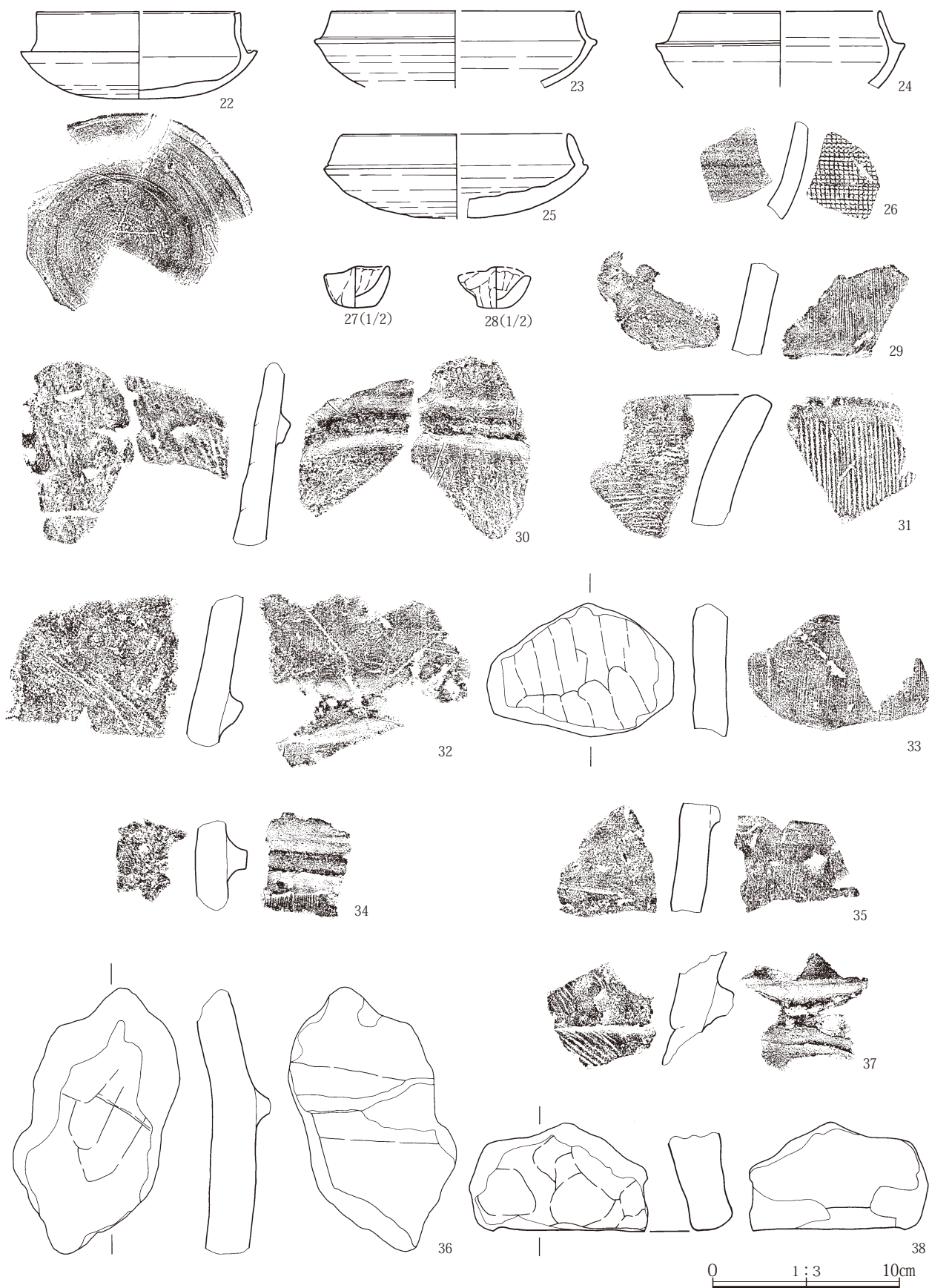
出土状態については2点とも不詳である。



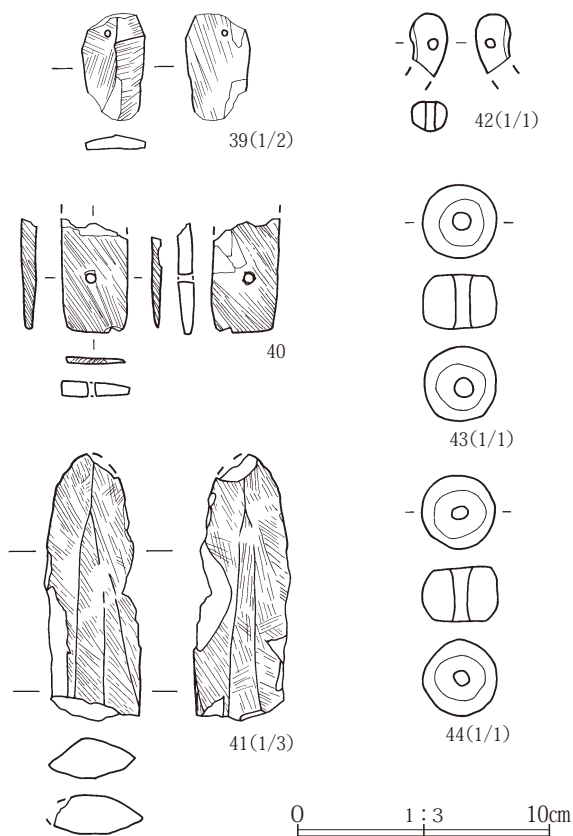
第73図 古墳時代遺構外出土遺物 1 1-8



第74図 古墳時代遺構外出土遺物 2 9-21



第75図 古墳時代遺構外出土遺物 3 22-38



第76図 古墳時代遺構外出土遺物 4 39-44

第5節 奈良・平安時代の遺構と遺物

1 調査の概要

奈良・平安時代の遺構としては竪穴住居95軒、掘立柱建物4棟、土坑294基、ピット645本、溝40条が検出された。6区では東山道駅路の南側側溝が検出されている。竪穴状遺構は4基検出された。これらは竪穴住居と認定することのできなかつた遺構である。

2 竪穴住居

(1) 概要

奈良時代の住居は3区から8軒が検出された。全体的に見て希薄な検出状況であった。6区を東山道駅路が通過していた時期、本遺跡内においては竪穴住居がほとんど存在しない状態であったものと考えられる。

住居からの出土遺物としては須恵器杯、椀、土師器甕が主体であった。3区54号住居からはロクロ成形の甕が出土している。

平安時代の住居は87軒である。3区ではその分布が調査区全域に及んでいたが、調査区中央部分、2号掘立柱建物柱建物の周辺と、南東部分、1号掘立柱建物柱建物周辺に分布の粗い箇所が見られた。

3区の調査区西側は微高地状を呈する地形の西側斜面にあたる。重複関係が著しく、3軒、4軒が重複している。

竈の付設箇所は東壁の事例と北側の事例に大別される。東竈の事例では竪穴の軸線の南北方向が真北に近い事例と西偏する事例が見られる。西偏の度合いは細かく分かれるようである。北竈の事例は7号、16号、17号など11軒である。

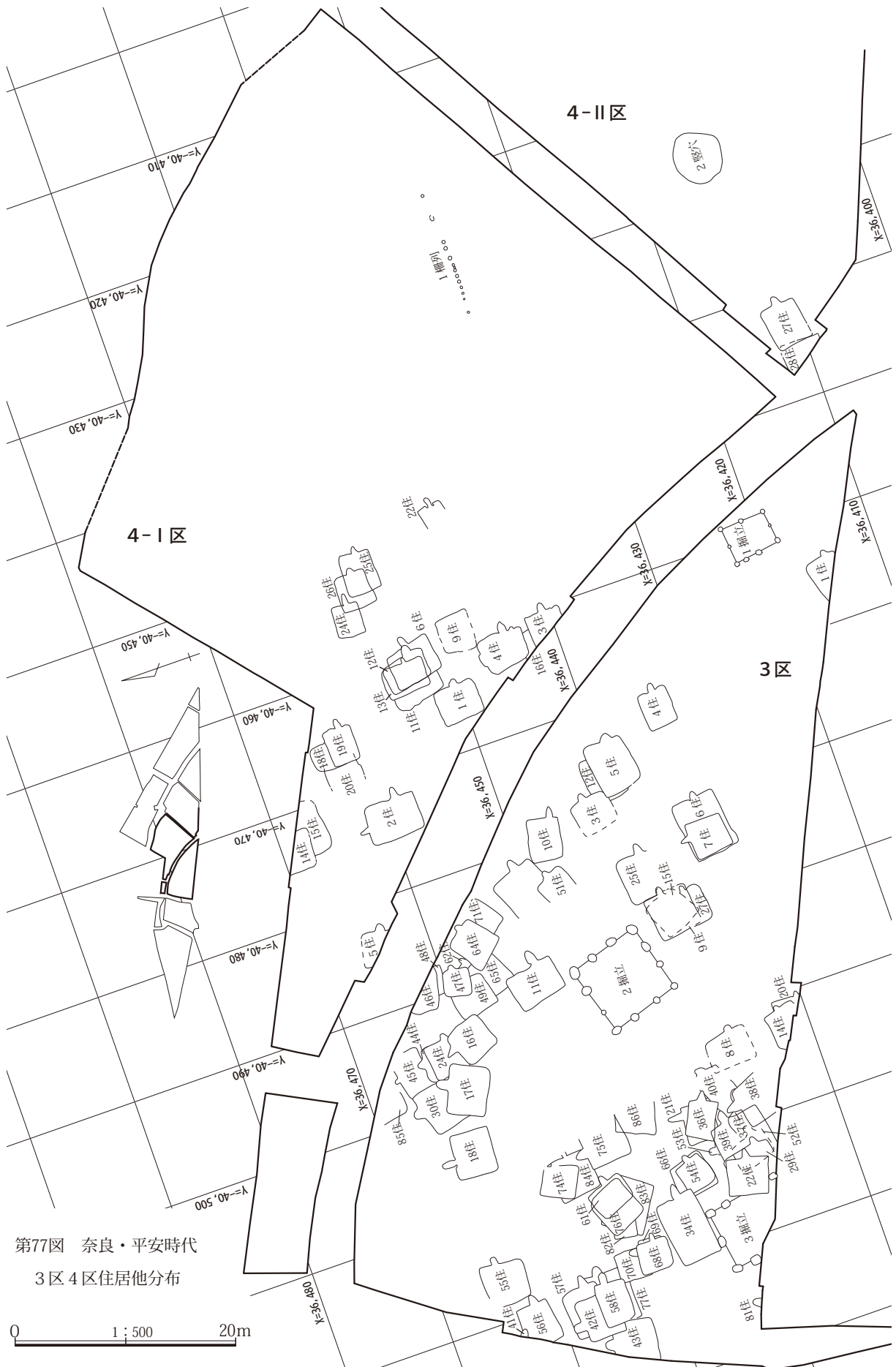
平安時代の竪穴住居の床面積は奈良時代と比較して小型になる傾向にあるが、大小の格差はあまり認められない。6.2㎡の39号は大型、3.31㎡の21号や3.60㎡の61号住居などを小型の部類とすることができる。

3区東側部分も西側同様1箇所にも4、5軒が重複する箇所が見られる。微高地の頂部から緩やかに下がる東側斜面に展開している。全体的に見ると調査区境を越えて、4-I区に西側部分に分布する住居群と一帯的に捉えるべき状況にある。

竪穴の軸線方向については西側部分と同様である。竈の付設箇所も東壁、北壁の事例が見られる。

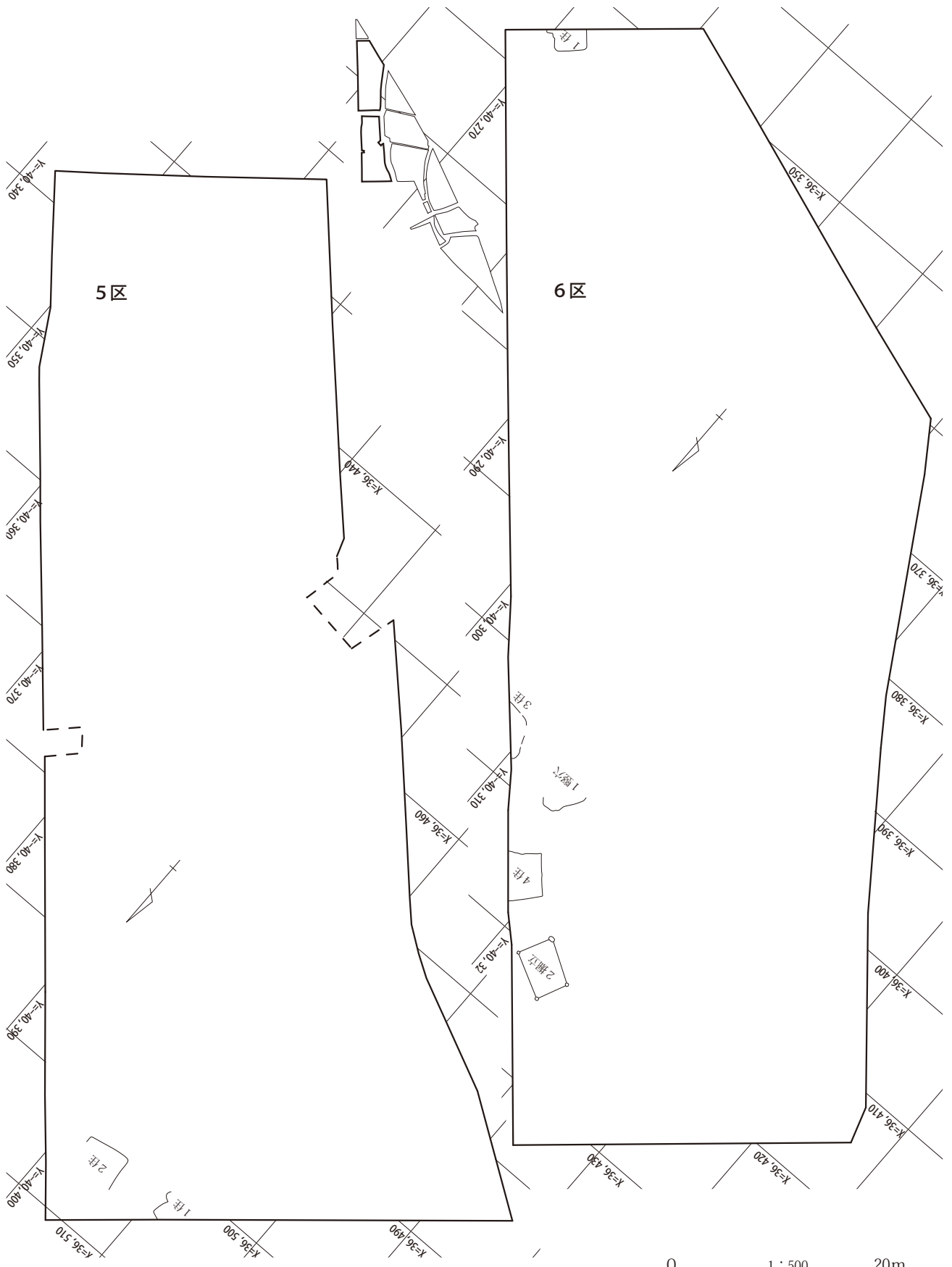
東竈の事例では南北方向の軸線が真北に近いものが調査区南東寄りに多く、西偏する事例が北側に多数見られた。北竈の事例は7軒検出されたが、7号住居を除く6軒が北側寄りに集中していた。

4区の住居の分布は、4-I区の北西部分寄りに限定されたかのような状況が見られ、-445ライン以東においては住居を検出することはなかった。450-460グリッド周辺では6号住居他5軒の住居が重複していた。4-I区の事例では竪穴の南北方向の軸線が心北に近い事例が大半で、著しく西偏するものは7号、8号などに限られていた。



第77図 奈良・平安時代
3区4区住居他分布

0 1:500 20m



第78图 奈良・平安時代5区6区住居他分布

5区では1号、2号住居の2軒を検出した。2軒とも5区から6区に向かって流れていた自然流路の東側の微高地上に位置していた。

6区では3軒を検出したにとどまった。検出地点は6-I・II区の南東部分である。ここも自然流路の東側、微高地上にあたる。

奈良・平安時代の竪穴住居からの出土遺物としては、須恵器杯や椀、土師器甕が主体であった。他に灰釉陶器、双耳杯・椀、円面硯、瓦、墨書土器、石製・鉄製紡錘車、鉄製鎌・刀子・鍬、土錘などが出土している。

3区4号住居 (第79-82図、P L 9・104)

位置 430-470

主軸方位 E-3°-N 面積 7.98㎡

重複 61号ピットと重複していた。

形状 東西に長軸を有する縦長の長方形形状を呈す。南壁は中位で食い違うように若干歪んでいる。壁面の残存は四壁ともほぼ同様の残存状況であった。規模は、長軸3.45m、短軸2.85mを測る。

埋没土 上・中層に暗褐色土が、床面近くの下層に灰黄褐色土が堆積していた。竈の左側、北東部分には焼土が広がっていた。

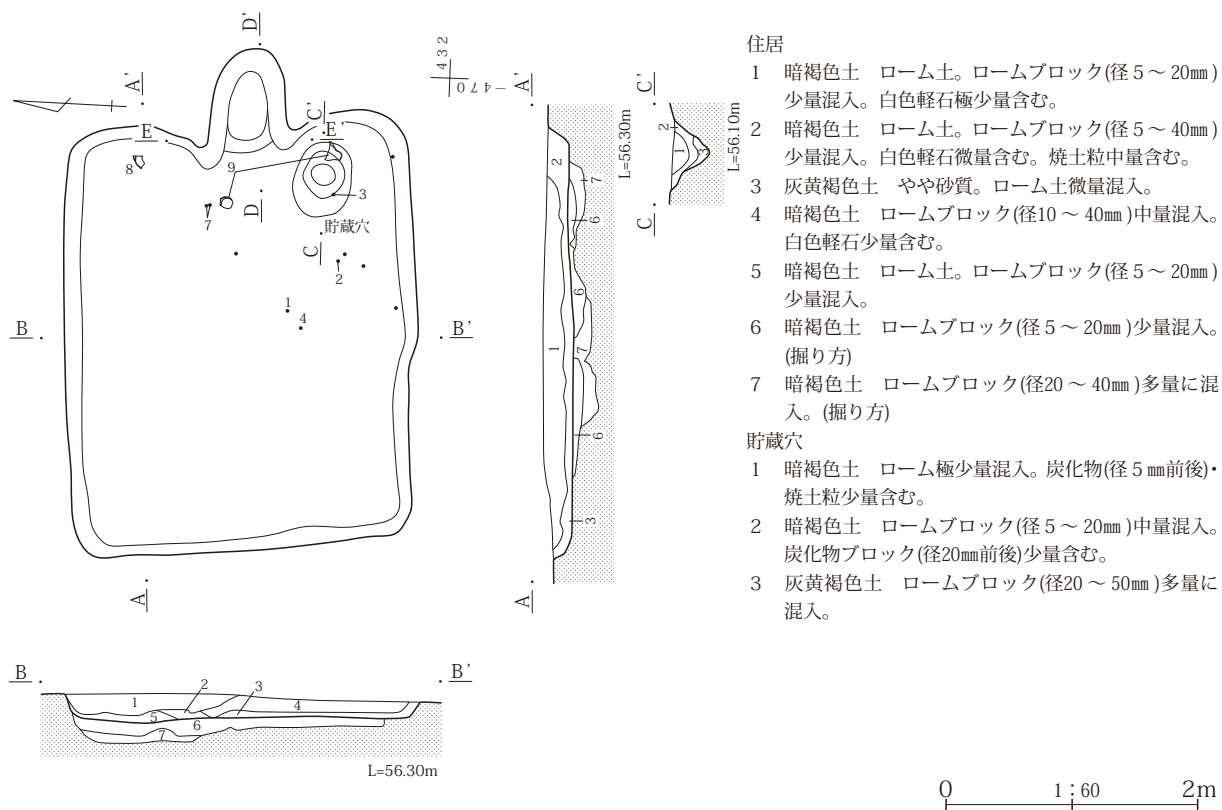
床面 確認面から最大25cm掘り込んで床面を構築していた。床面はほぼ平坦である。周溝は検出されなかった。

竈 東壁ほぼ中央で検出された。規模は、確認長88cm、全幅93cm、燃烧部長73cm、燃烧部幅45cmを測る。袖部の一部が残存しており、袖材として使用された褐色の粘質土がわずかに確認されている。

貯蔵穴 南東隅、竈右脇で検出した。楕円形状を呈し、長軸60cm、短軸46cm、深さ34cmを測る。上・中層に暗褐色土が堆積していた。

柱穴 検出されなかった。床面精査時に2基のピットを検出した。規模(長径×深さ)はP1が45×27cm、P2が51×20cmである。しかしながら、位置や形状から判断して、柱穴の可能性は低いと考えられる。

掘り方 中央西寄りで床下土坑を検出した。楕円形



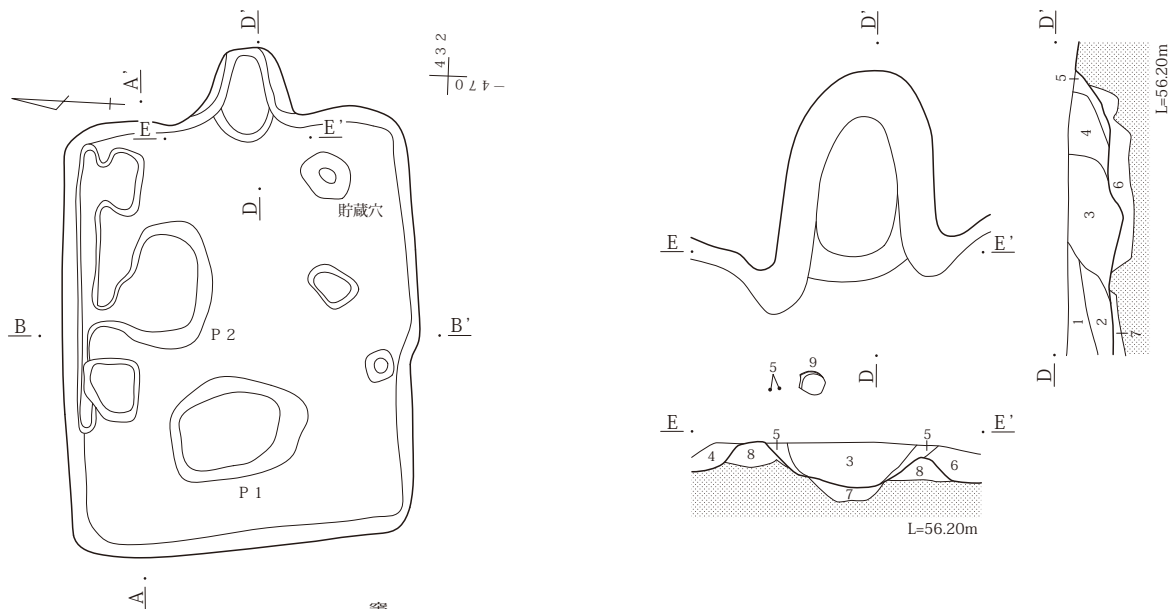
第79図 3区4号住居遺物出土状態

状を呈し、規模は、長軸111cm、短軸82cm、深さ28cmを測る。ロームブロックを含む暗褐色土が堆積していた。また、床面中央から北壁際にかけても浅い掘り込みが確認された。

遺物 竈の手前から土師器甕9が破片の状態で出土している。貯蔵穴内から須恵器椀3が、床面直上

で須恵器杯1・2、須恵器椀4が出土している。埋没土中から出土した須恵器椀7は混入品と考えられる。

所見 出土土器の特徴から8世紀第4四半期から9世紀第1四半期の所産と考えられる。

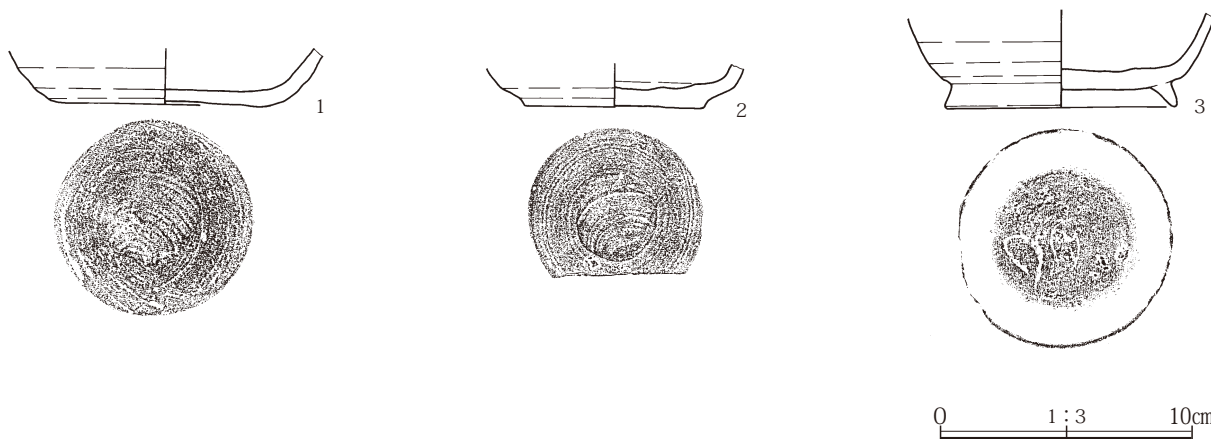


竈

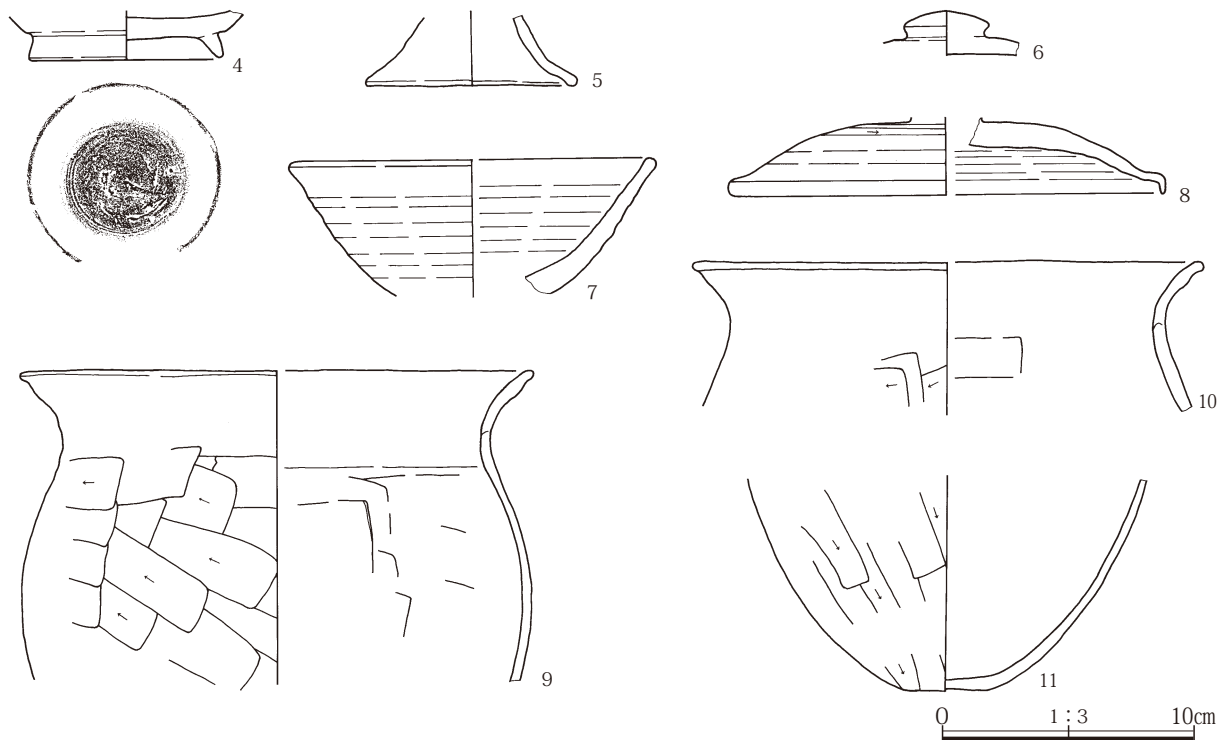
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径10～40mm)中量混入。白色軽石少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5～10mm)極少量混入。焼土粒少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)極少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)中量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)極少量混入。焼土ブロック(径5～20mm)多量に含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)極少量混入。焼土粒極少量含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック(径10～40mm)中量混入。白色軽石少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック(径20～40mm)中量混入。
- 8 褐色土 粘質。(竈の袖の一部と考えられる。根の攪乱等がありはっきりしない。)

0 1:60(竈 1:30) 2m

第80図 3区4号住居カマド及び掘り方



第81図 3区4号住居出土遺物1 1-3



第82図 3区4号住居出土遺物2 4-11

3区6号住居 (第83～85図、P L 9・104・105)

位置 430-480、485

主軸方位 E-6°-N 面積 19.60㎡

重複 7号住居に先出する。

形状 東西に長軸を有する縦長の長方形を呈す。中央西寄りに床面を南北方向に二分する小溝が検出された。規模は幅20から25cm、深さ8cmである。これを間仕切り溝とすれば、本住居は東西方向に長軸を有し、東西5.54m、南北4.18mの規模を有していたことになる。また、これを周溝とすれば本住居は西側に向かって拡張したことがうかがえ、築造当初、東西3.75m、南北4.18mの正方形に近い形状であったものが西側へ1.8m程拡張したことになる。

埋没土 焼土粒やロームブロックを含む暗褐色土が堆積していた。中央の小溝と西壁の間では床面直上から焼土の大ブロックが出土している。

床面 確認面から最大44cm掘り込んで床面を構築する。貼り床は施さず、掘り込んだローム面をそのまま床面としている。中央付近を中心に広範囲に硬化面が認められた。床面は小溝の両側で大きな段差をなすことなく西側から東側に緩やかに傾斜してい

た。

周溝 北・西・南壁3面の壁際に周溝が確認された。概ね幅15cm前後、深さ10cm前後を測るが、南西隅では掘り方が幅広くなっており、80cm程の規模となる。粘質の暗褐色土が堆積していた。中央西寄りの小溝もほぼ同規模、同質である。

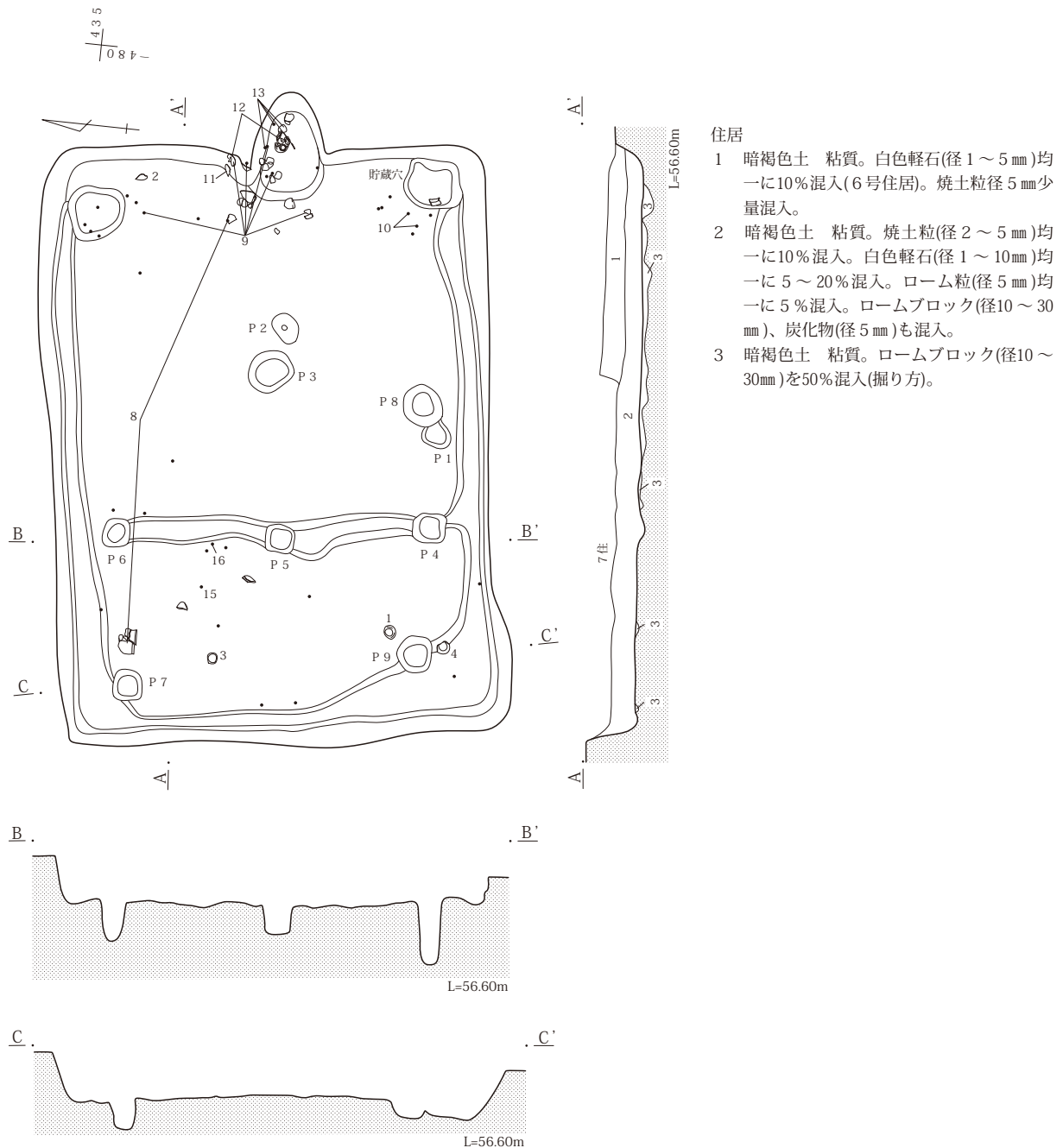
貯蔵穴 南東隅、竈右脇で検出された。不整形形状を呈し、径52×46cm、深さ24cmを測る。粘質の暗褐色土が堆積していた。

竈 東壁中央で検出された。確認長100cm、全幅85cm、燃焼部長81cm、燃焼部幅54cmを測る。燃焼部の中央やや左寄りに支脚石が設置されていた。掘り方を精査した段階では燃焼部前に小孔が穿たれ、この中に焼土・炭化物が流入していた。

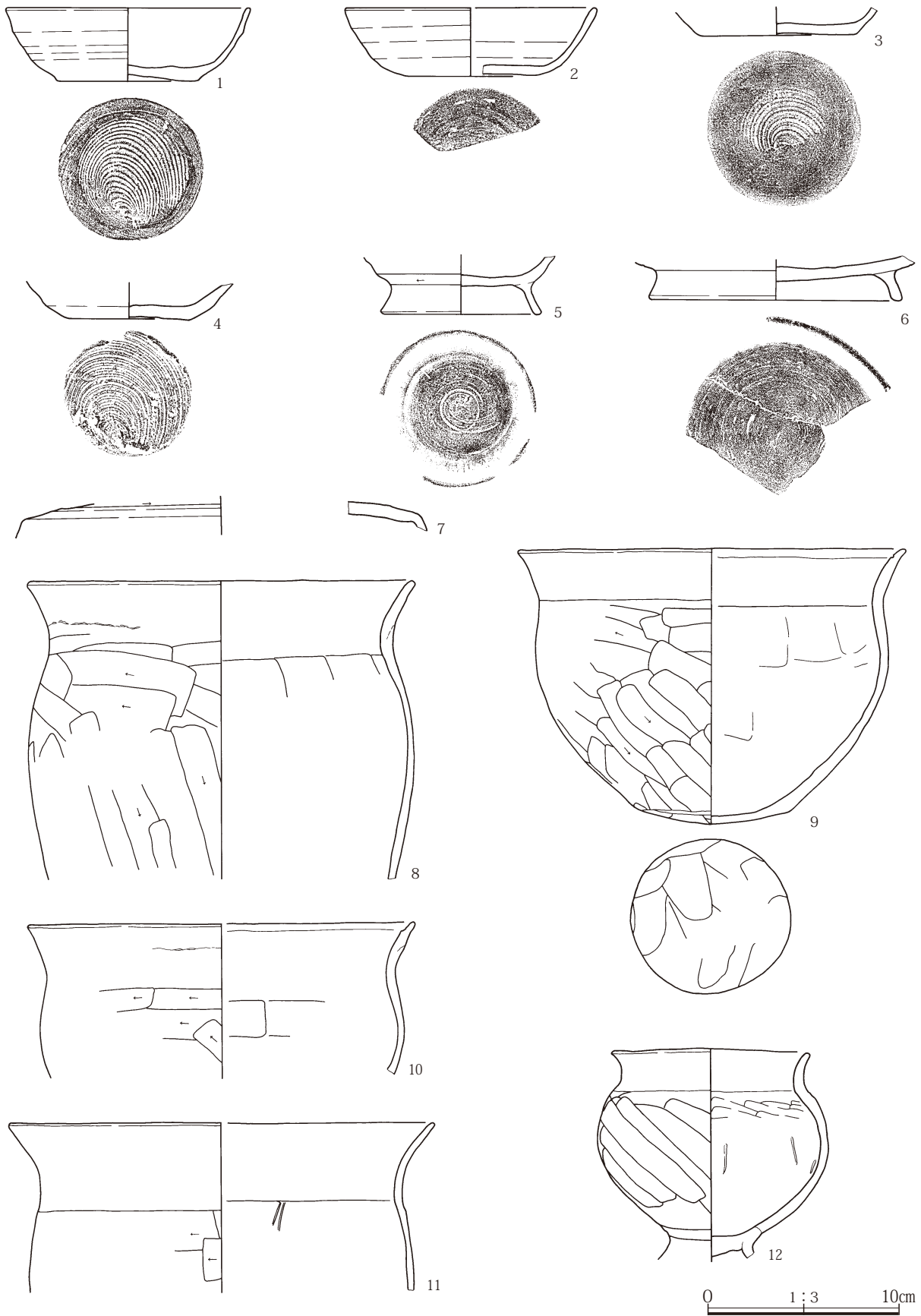
ピット 8基が検出された。それぞれの規模(長径×深さ)は、P 1が23×28cm、P 2が29×31cm、P 3が42×40cm、P 4が30×37cm、P 5が27×30cm、P 6が26×37cm、P 7が28×19cm、P 8が39×33cm、P 9が33×16cmである。P 4～P 6は住居内の周溝中にあり規則的に配置されている。埋没土はいずれも粘質の暗褐色土である。

遺物 竈内燃烧部、支脚の上に倒立した状態で土師器台付甕12、土師器甕13が出土している。また、竈内および竈周辺から土師器甕9・11が出土している。この他に貯蔵穴脇の床面付近で土師器甕10が、住居西側の南西寄りの床面から須恵器杯1が、北西

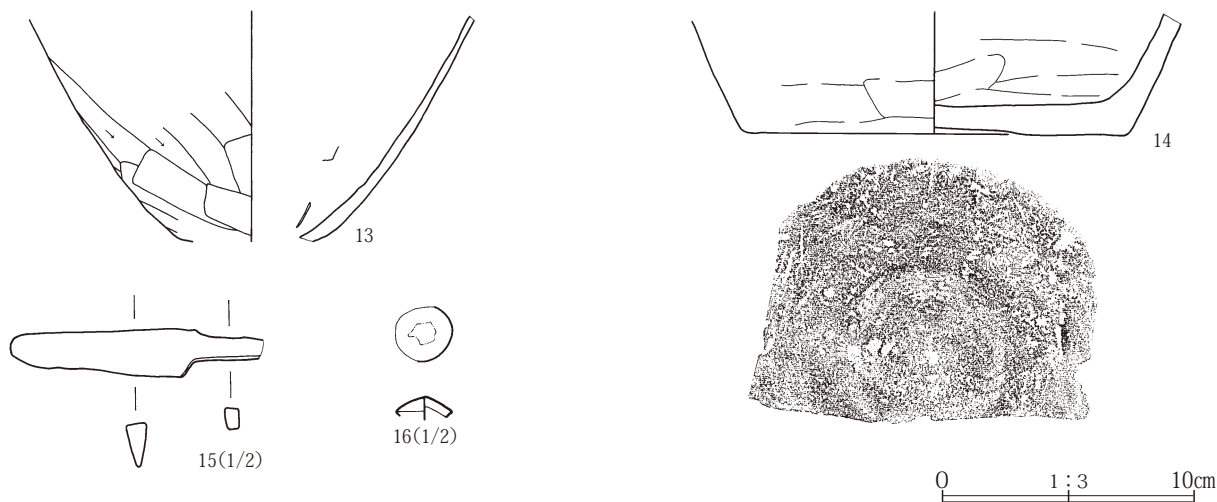
寄りから土師器甕8が出土している。埋没土中から奈良三彩小壺蓋のつまみ16、刀子15が出土している。所見 重複関係、出土土器の特徴から8世紀第4四半期から9世紀第1四半期の所産と考えられる。



第83図 3区6号住居



第84图 3区6号住居出土遺物1 1-12



第85図 3区6号住居出土遺物2 13-16

3区25号住居 (第86～89図、P L 10・105)

位置 435、440-480、485

主軸方位 E-7°-N 面積 計測不能

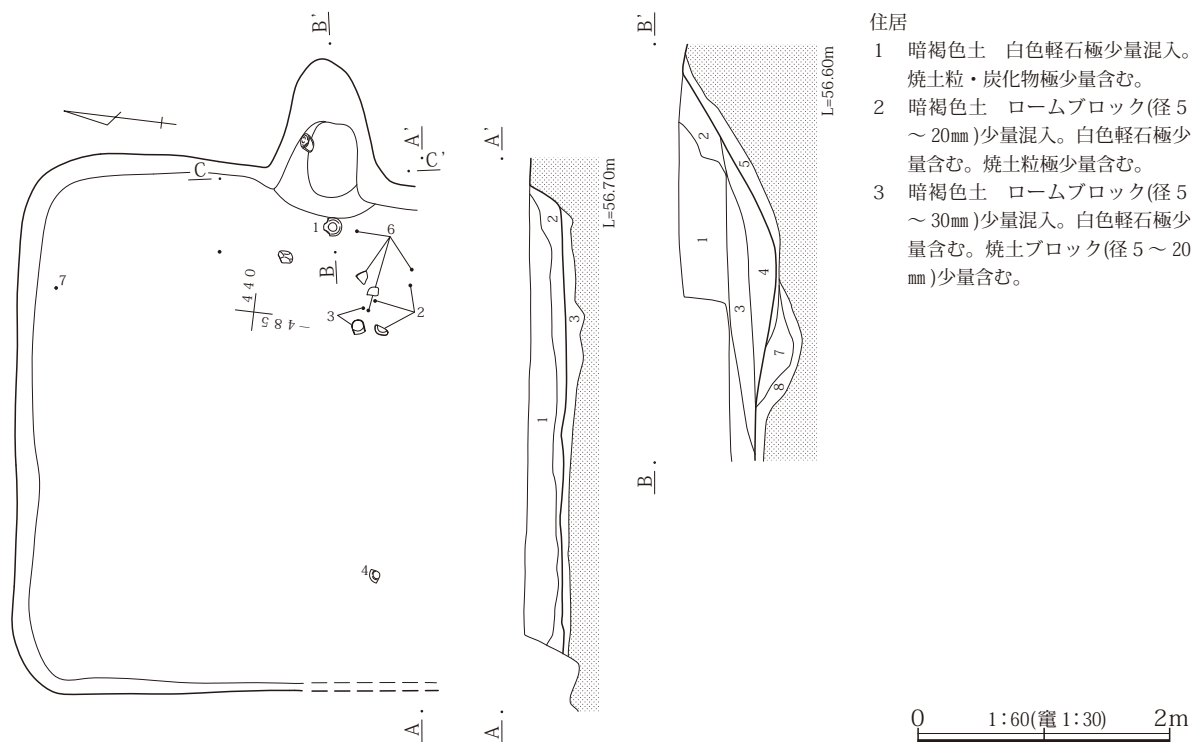
重複 31号住居に後出する。15号住居に先出する。

形状 南側を3号溝に切られているため、全体の構造は不明であるが、3号溝の南側にまでは及んでいないことから縦長状あるいは正形状を呈したいたものと考えられる。東西長で4.33m、南北の残存長3.13mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積している。混入物により2層に分層される。

床面 確認面から最大30cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。掘り方には床下土坑などは見られず、全体に5から10cm掘り込まれ、暗褐色土が堆積していた。

竈 東壁で検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込んで壁外に構築されていた。規模は、確認長

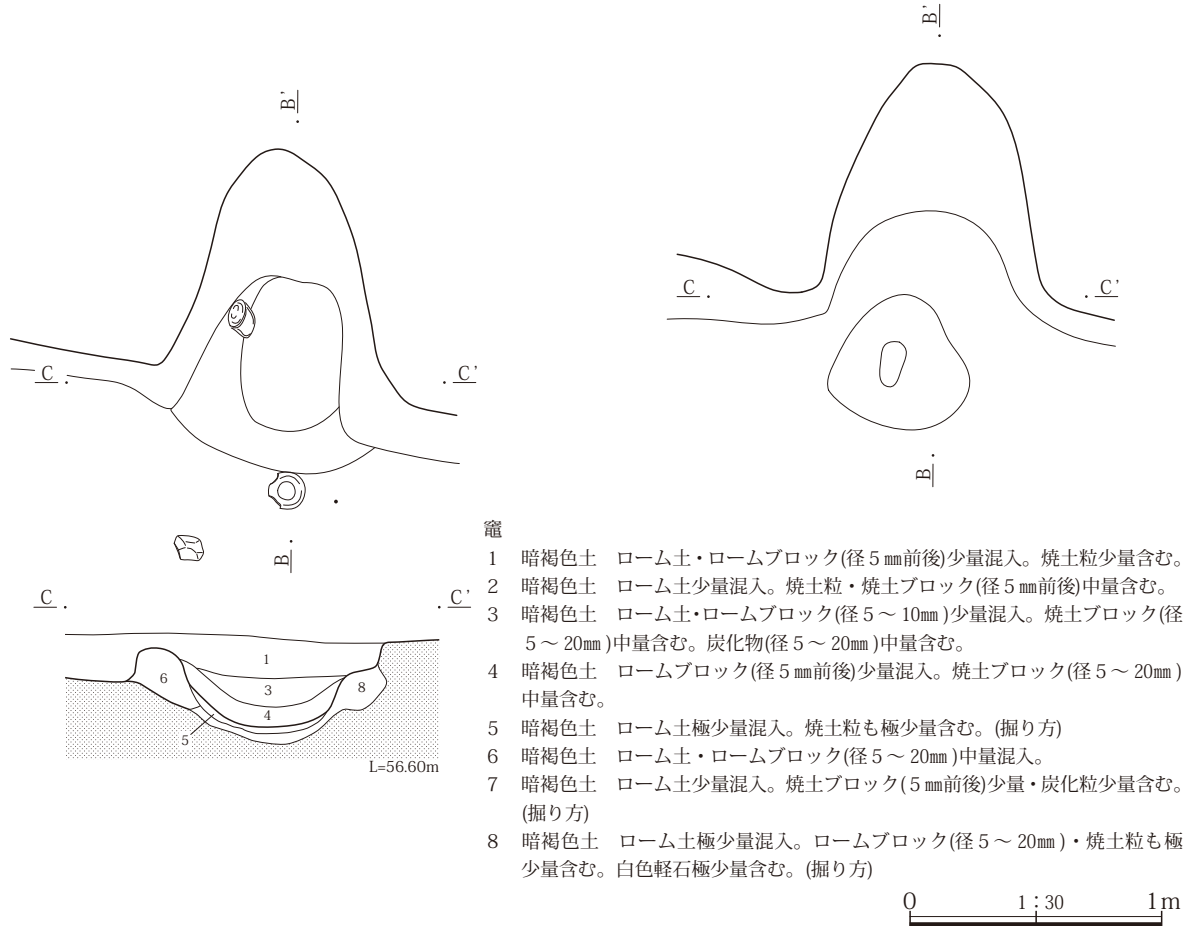


第86図 3区25号住居

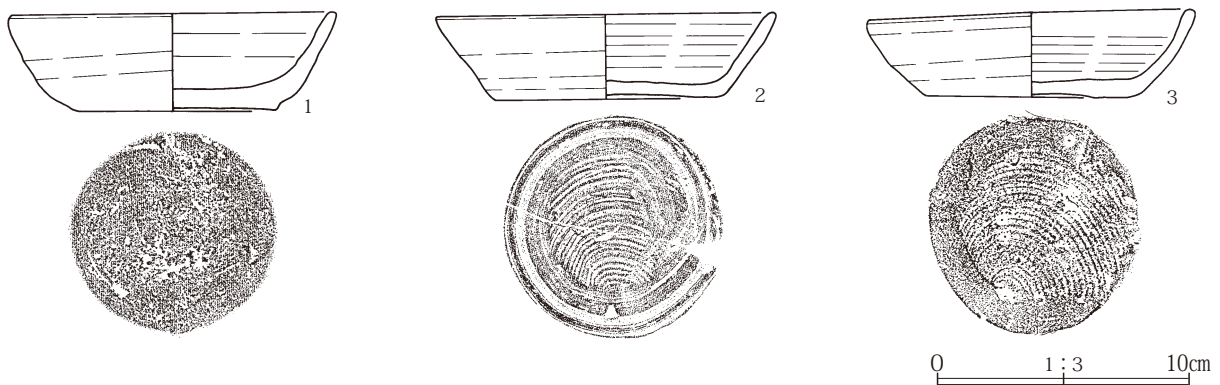
120cm、燃烧部幅70cmを測る。燃烧部の左寄りです自然礫を使用した支脚石が検出された。

遺物 竈焚き口部手前から須恵器杯1から3、盤6が、西壁寄りから須恵器4が出土しているが、床面の確認が困難であったことから、遺物の出土位置と床面との関係が判然としなかった。竈使用面、床

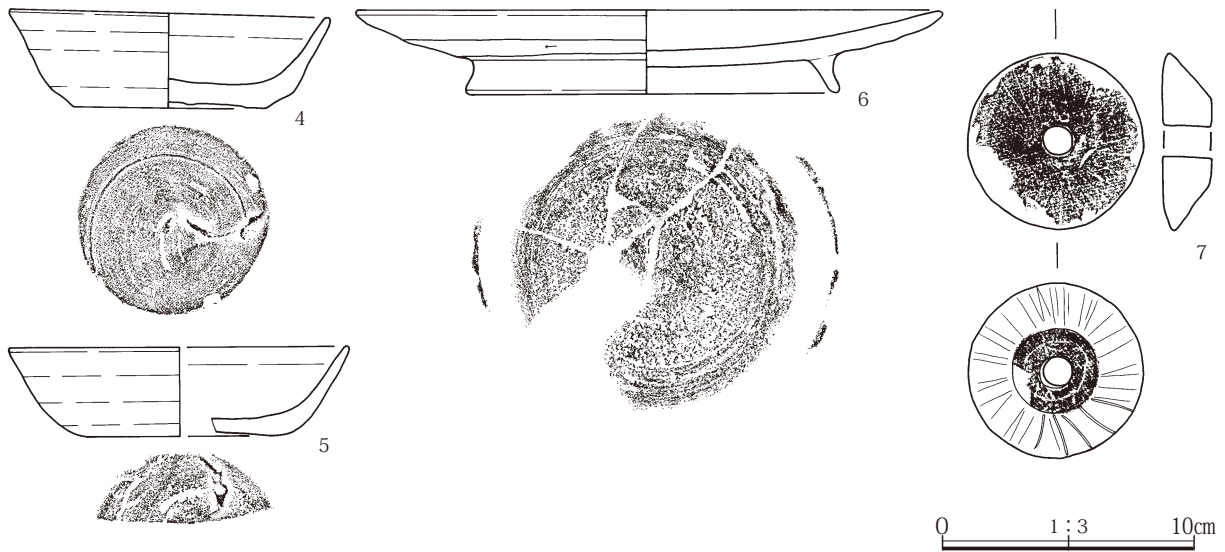
面の高さを56.15から56.20mほどと想定すると、いずれも床面から浮いた状態で出土していることになる。北東隅寄りからは石製紡錘車7が出土している。所見 重複関係、出土遺物の特徴から8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の所産と考えられる。



第87図 3区25号住居カマド



第88図 3区25号住居出土遺物1 1-3



第89図 3区25号住居出土遺物2 4-7

3区34号住居（第90～94図、P L 10・105・106）

位置 440、445-510、515

主軸方位 E-7°-N 面積 19.49㎡

形状 東西に長軸を有する縦長の長形状を呈する。南北の二辺がほぼ平行で有のに対し、東西の二辺はわずかに走行が異なっている。規模は長軸6.23m、短軸3.87mを測る。重複関係にある住居はなかった。

埋没土 粘質の暗褐色土1層で埋没している。

床面 確認面から最大60cm掘り込んで床面を構築する。床面は緩やかな傾斜を有し、東壁際は西壁際より約10cm深く掘り込まれていた。床面から掘り方底面までの深さは約10から20cmである。底面には小さな凹凸が多数みられたものの、土坑状の掘り込みは見られなかった。

周溝 北壁、南壁及び東壁の竈左側で検出された。全周してはいない。幅20cm、深さ5cm前後を測る。

竈 東壁の中央から南側寄りで検出した。左側の袖石、支脚石が残存していた。左側の袖石は掘り方底面からさらに地山を掘り込み、棒状の自然礫を据えている。掘り方精査時に右側袖部に地山を穿った小ピットが検出されており、当初は右側にも袖石が据えられていた可能性が考えられる。燃烧部は住居の壁面を掘り込んで壁外に構築されていた。奥部は

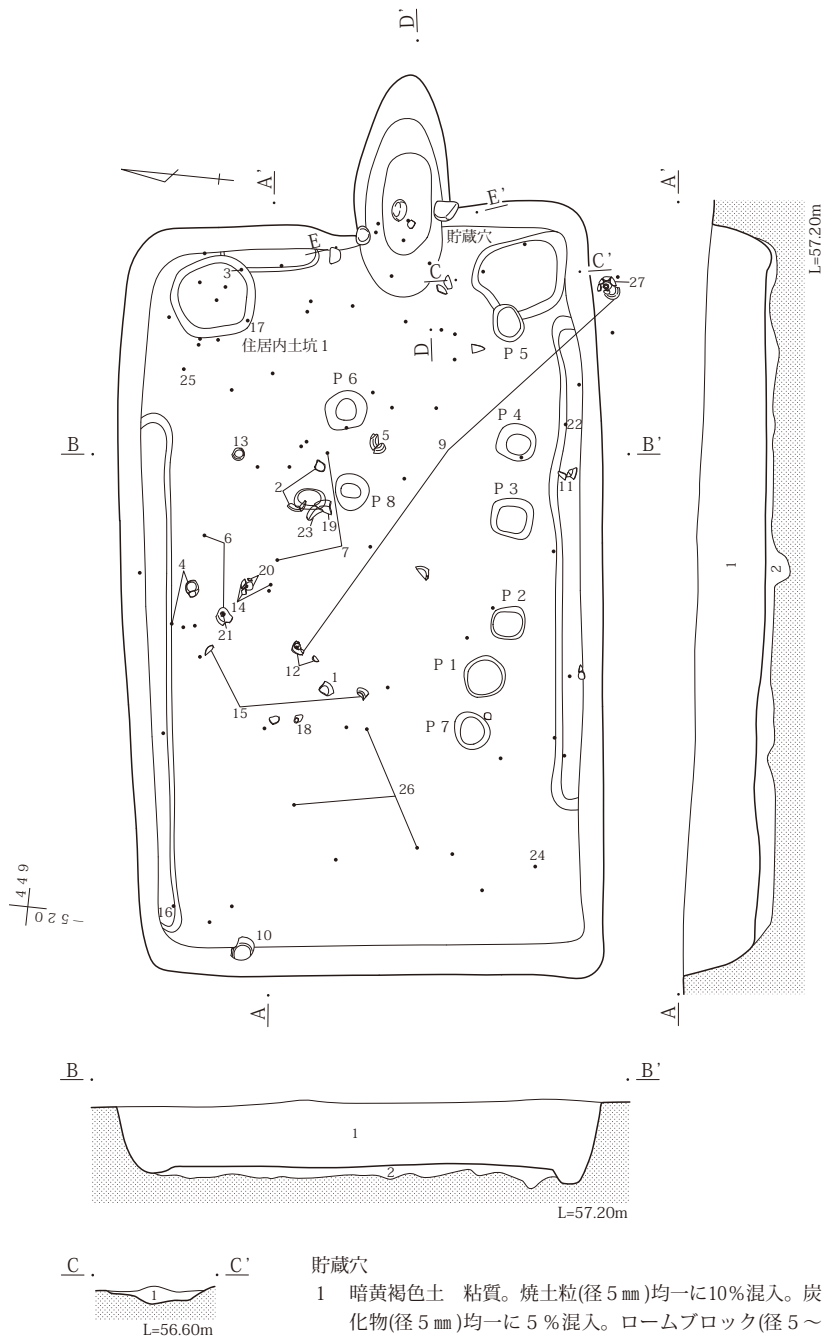
緩やかに傾斜して煙道部へ移行していたものと考えられる。規模は確認長179cm、燃烧部長145cm、燃烧部幅53cmを測る。

貯蔵穴 竈の右側、南東隅で検出された。不整形円形を呈した皿状の掘り込みである。規模は径75cm、深さ13cmを測る。

柱穴 ピット8基を検出した。南壁に沿った形で5基、主軸の東寄りで2基が検出された。しかし、これらのピットは企画性に乏しく、住居の掘り方との関連性も認めがたいことから、住居に伴うものではないと考えられる。各々の規模（長径×深さ）は、P1が32×25cm、P2が27×22cm、P3が34×34cm、P4が31×18cm、P5が30×16cm、P6が34×20cm、P7が31×12cm、P8が29×14cmである。暗褐色土が堆積していた。

遺物 須恵器杯や黒色土器杯など多くの遺物が出土しているが、床面直上からの出土はなく、皆床面から離れた状態で出土している。30から50cmほども離れているものが多い。埋没土中から須恵器双耳杯22や瓦24・25の破片が出土している。

所見 確実に本住居に伴う出土状態にある遺物がなかったが、廃棄された遺物の特徴から8世紀第4四半期の所産と考えられる。



住居

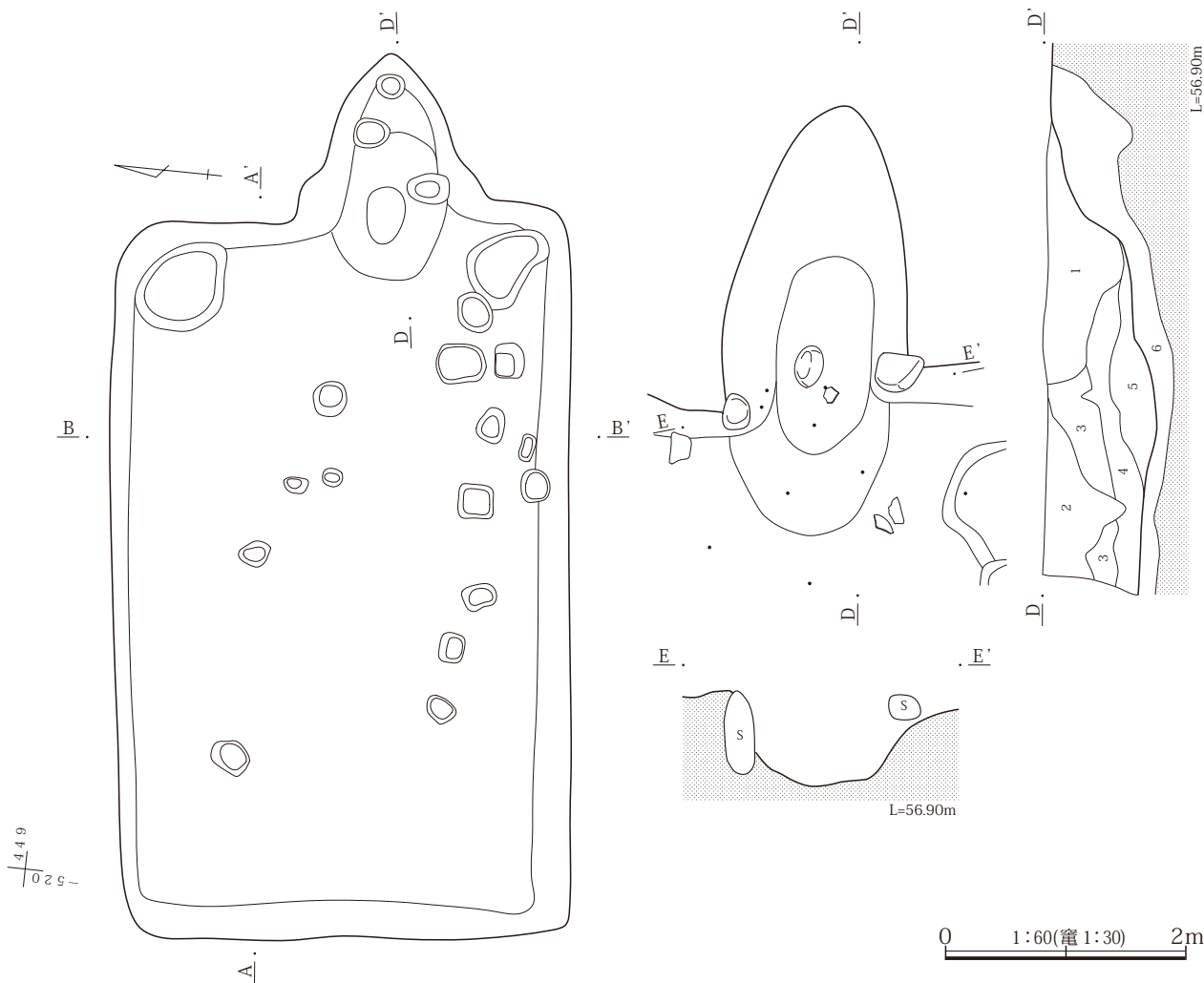
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～10mm)均一に15%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に20%混入。白色軽石(径3mm)均一に10%混入。土器片多数出土。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。ロームブロック(径10～100mm)40%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

貯蔵穴

- 1 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。ロームブロック(径5～10mm)を均一に40%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

0 1:60 2m

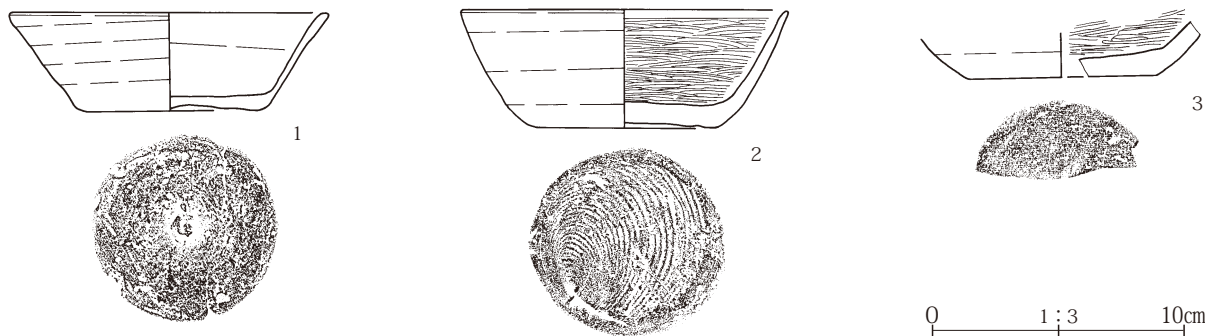
第90図 3区34号住居遺物出土状態



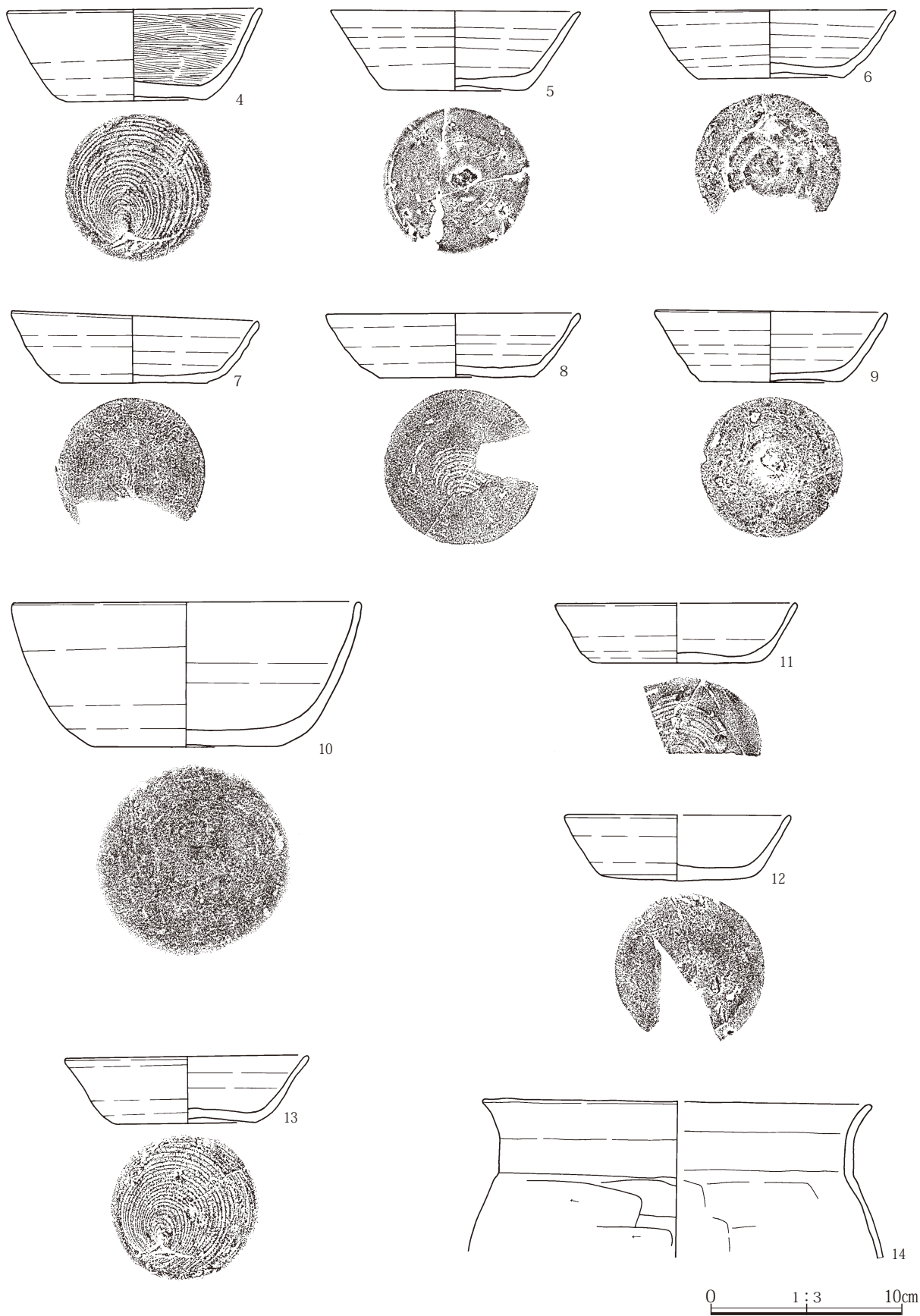
竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に15%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。
- 3 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。(崩落したロームが多量に混入)。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径10mm)均一に60%混入。ほとんどが焼土の塊。
- 6 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。

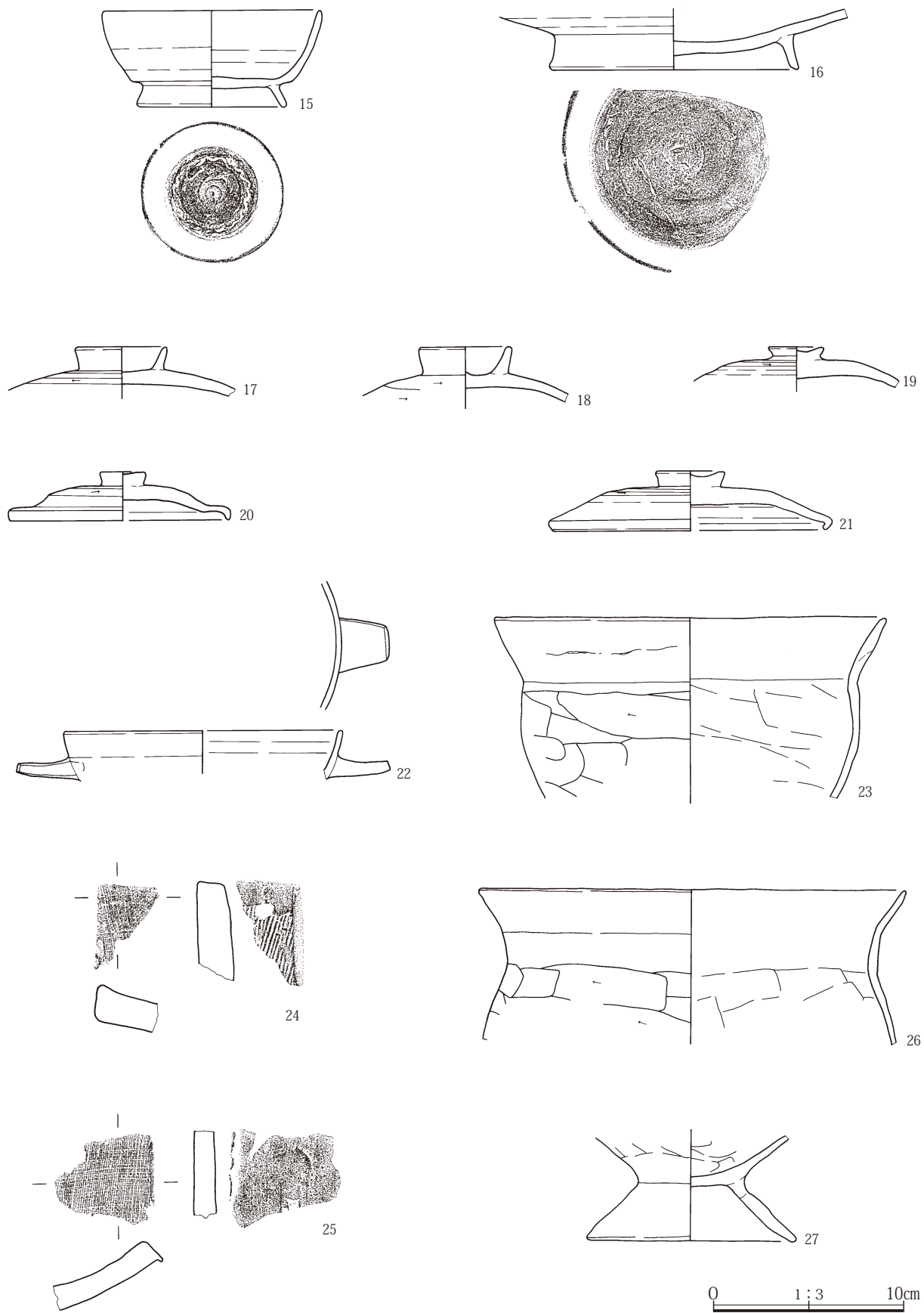
第91図 3区34号住居カマド及び掘り方



第92図 3区34号住居出土遺物 1 1-3



第93图 3区34号住居出土遺物2 4-14



第94图 3区34号住居出土遺物3 15-27

3区43号住居（第95～97図、P L 11・106）

位置 450、455-520、525

主軸方位 N-8°-E 面積 計測不能

重複 42号、58号住居に先出する。

形状 西側が調査区外に及ぶため全体の構造は判然としないが、方形状を呈すものと推定される。南北長は3.84m、東西の残存長は3.70mを測る。

埋没土 粘質の暗褐色土1層が堆積していた。

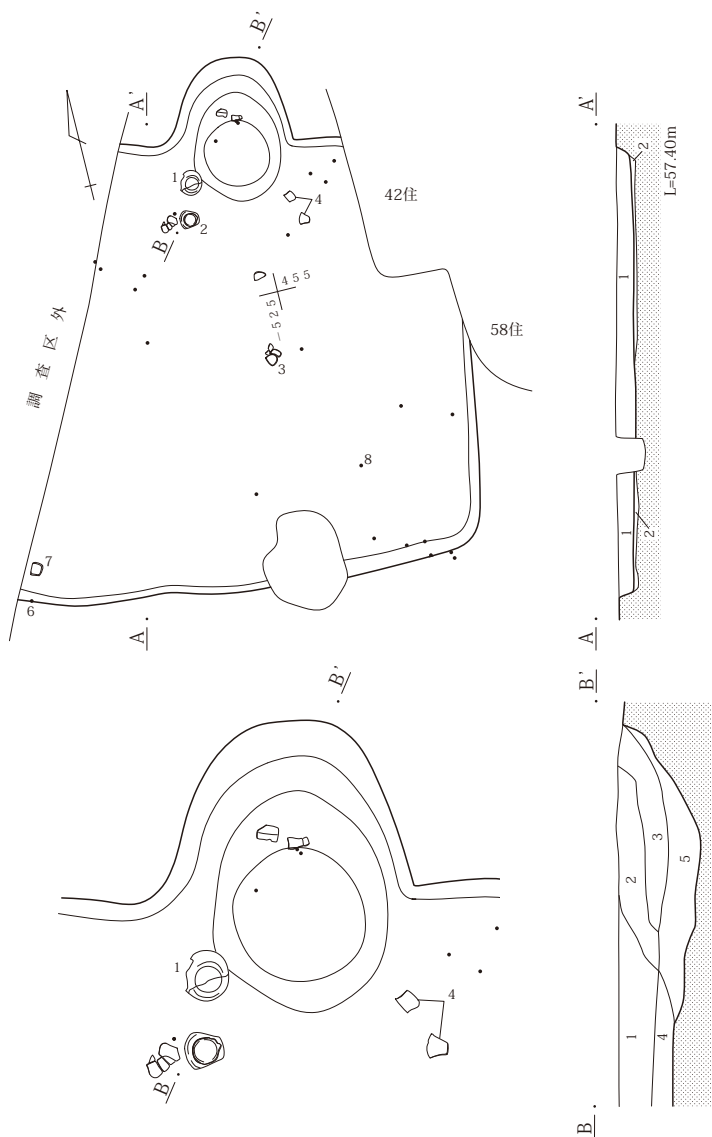
床面 確認面から最大15cm掘り下げて床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 北壁で検出した。燃烧部は幅広く、住居の壁

面を半円形に掘り込んで構築されている。右側住居内に延びた袖部の一部が長さ32cmほど残存していた。調査時の所見では、袖部は地山を掘り残して、それを芯に、その内側の面にロームを貼って壁面を造っていたとされる。規模は、確認長115cm、燃烧部長100cm、燃烧部幅84cmを測る。

掘り方 床面下は全体的には僅かな凹凸があるだけであったが、南東隅で床下土坑を1基検出した。楕円形状を呈し、長径195cm、短径146cm、深さ20cmを測った。

遺物 竈左前の床面直上から須恵器杯1と須恵器杯4が並べて伏せた状態で出土している。須恵器杯



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。白色軽石(径1mm)少量混入。
- 2 黒褐色土 粘質。粘性が強く、混じり物がない。

竈

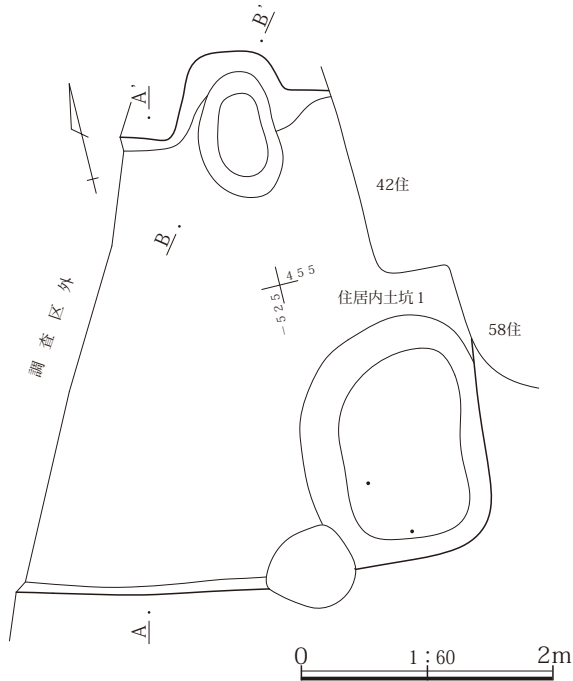
- 1 暗褐色土 粘質。1層より焼土粒の混入が少ない(5%)。あとは1層と同様。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に少量混入。ローム粒(径3mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)微量混入。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック(径10~50mm)が中心で、ローム粒(径2mm)少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)を均一に20%混入。ローム粒(径5mm)少量混入。炭化物(径5mm)均一に少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。

0 1:60(竈1:30) 2m

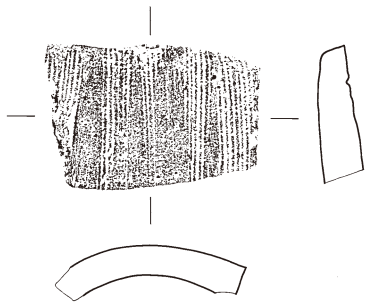
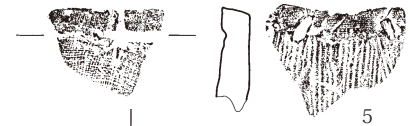
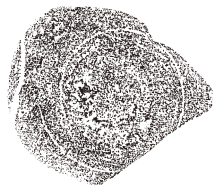
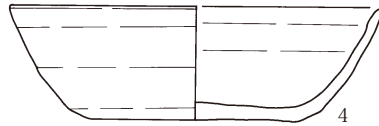
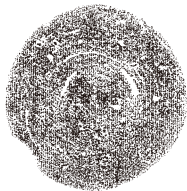
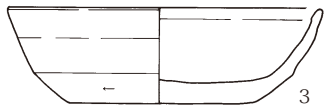
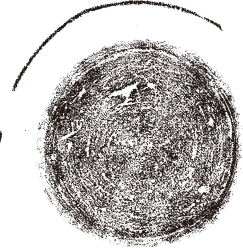
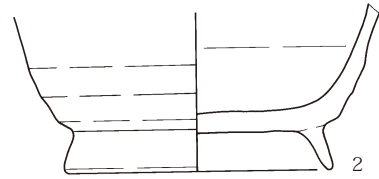
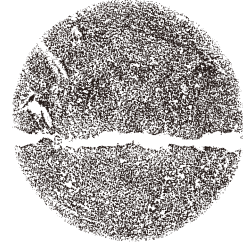
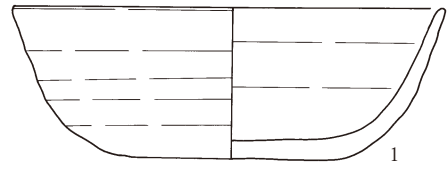
第95図 3区43号住居遺物出土状態

3は住居中央付近の床面直上から出土している。また、他の住居に比べて瓦片が多く出土した。5から8を資料化した。

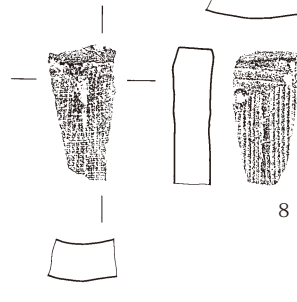
所見 重複関係、出土遺物の特徴から8世紀後半の所産と考えられる。



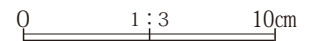
第96図 3区43号住居掘り方



7



8



第97図 3区43号住居出土遺物 1-8

3区54号住居（第98～100図、P L 11・106）

位置 440-510

主軸方位 E-15°-N 面積 6.89㎡

重複 83号土坑に後出する。34号住居に先出する。

形状 東壁と比較して西壁がやや長くなるものの全体的には正方形形状を呈する。規模は東西2.96m、南北2.90mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。混入物の内容により2層に分層された。

床面 確認面から最大30cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央で検出した。住居の壁面を掘り込んで構築された燃烧部と煙道部の一部が残存していた。作図の表現からは右側袖部はその基部が僅かに残存していたようである。燃烧部の最終使用面下に

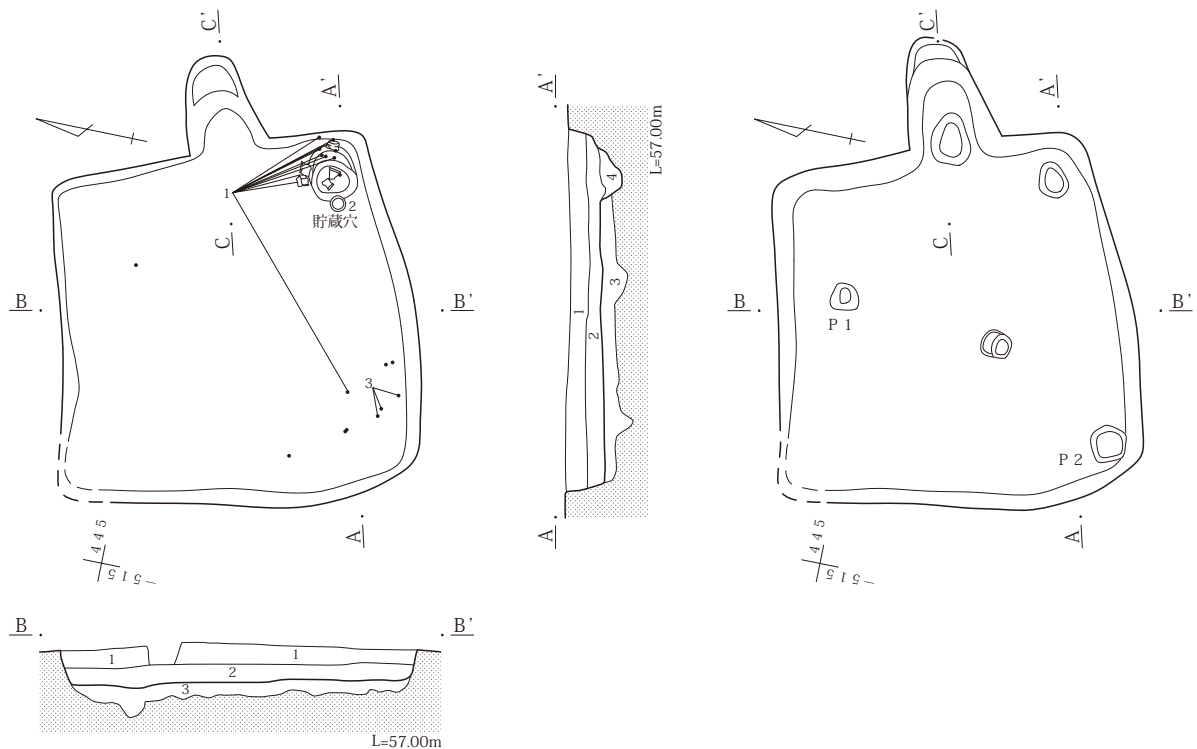
は長径58cm、深さ11cmの皿状の掘り込みが検出された。調査時の所見では掻出ピットと呼称されている。竈の規模は、確認長112cm、燃烧部長81cm、燃烧部幅44cmを測る。

貯蔵穴 竈右隅で検出した。楕円形状を呈し、長径45cm、短径38cm、深さ20cmを測る。焼土粒を含む暗褐色土が堆積していた。

掘り方 床面下は10cm程で掘り方底面に達する。全体的に小さな凹凸を有する面であったが、その中にピット状の掘り込み3基が認められた。

遺物 住居の南東隅、貯蔵穴上位で須恵器甕1がまとめて出土した。また、そのすぐ西側の床面直上で須恵器杯2が出土している。

所見 重複関係、出土遺物の特徴から8世紀第4四半期の所産と考えられる。

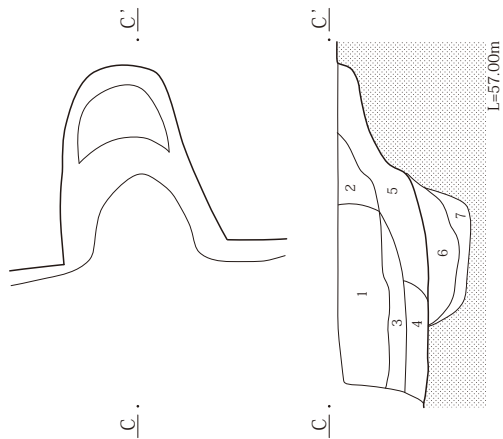


住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ロームブロック(径5～10mm)15%混入。炭化物(径5～10mm)10%混入。
- 3 暗黄褐色土 粘質。ロームブロック(径10～100mm)を均一に40%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に5%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。(貯蔵穴)

0 1:60 2m

第98図 3区54号住居遺物出土状態

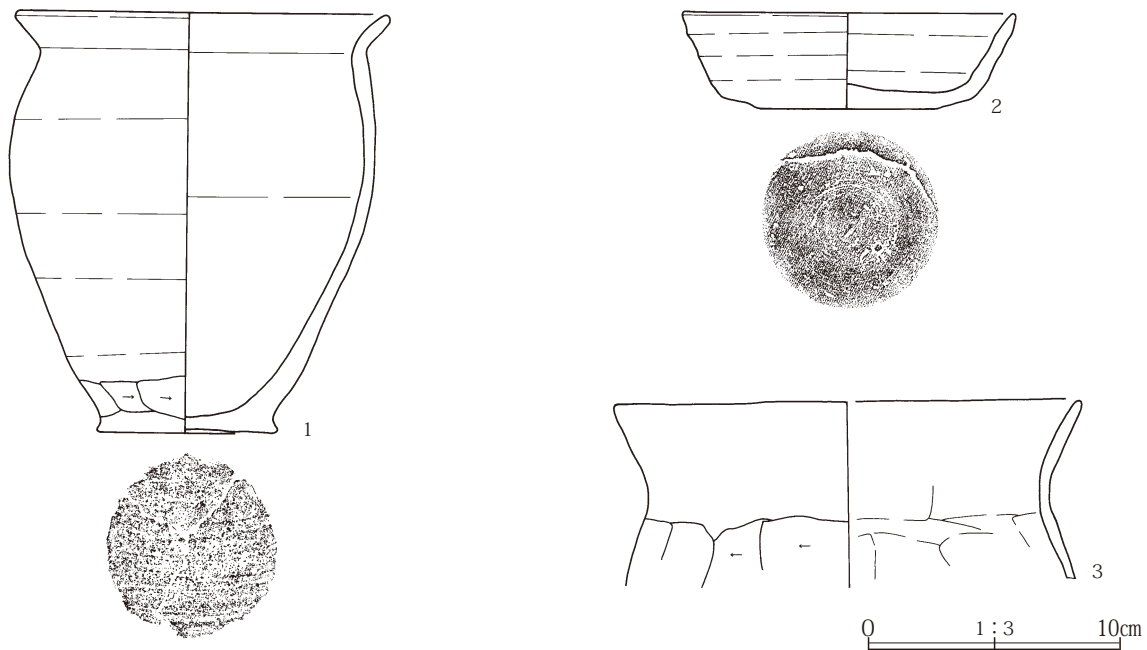


竈

- 1 暗褐色土 粘質。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径50mm)20%混入。焼土粒(径2mm)均一に混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径5~100mm)を混入(竈のやけたロームが堆積した物)。炭化物(径5mm)少量混入。焼土粒(径5~10mm)混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に40%混入。焼土ブロック(径2~50mm)10%混入。
- 6 暗褐色土 焼土粒(径5mm)20%混入(上層に多い)。炭化物(径5mm)少量混入。
- 7 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10mm)20%混入(下層に多い)。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。

0 1:30 1m

第99図 3区54号住居カマド



第100図 3区54号住居出土遺物 1-3

3区57号住居 (第101・102図、P L 11)

位置 455-515、520

主軸方位 E-9°-N 面積 計測不能

重複 42号、58号住居に先出する。

形状 42号、58号住居との重複により中央から南西部分のほとんどが壊されているが、東西方向に長軸を有する縦長の長形状を呈すようである。規模は東西4.50m、南北3.40mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大28cm掘り込んで床面を構築する。北東隅寄りでは東西1.2m、南北1.1mほどの不整形形状の範囲にロームの貼り床を施していた。

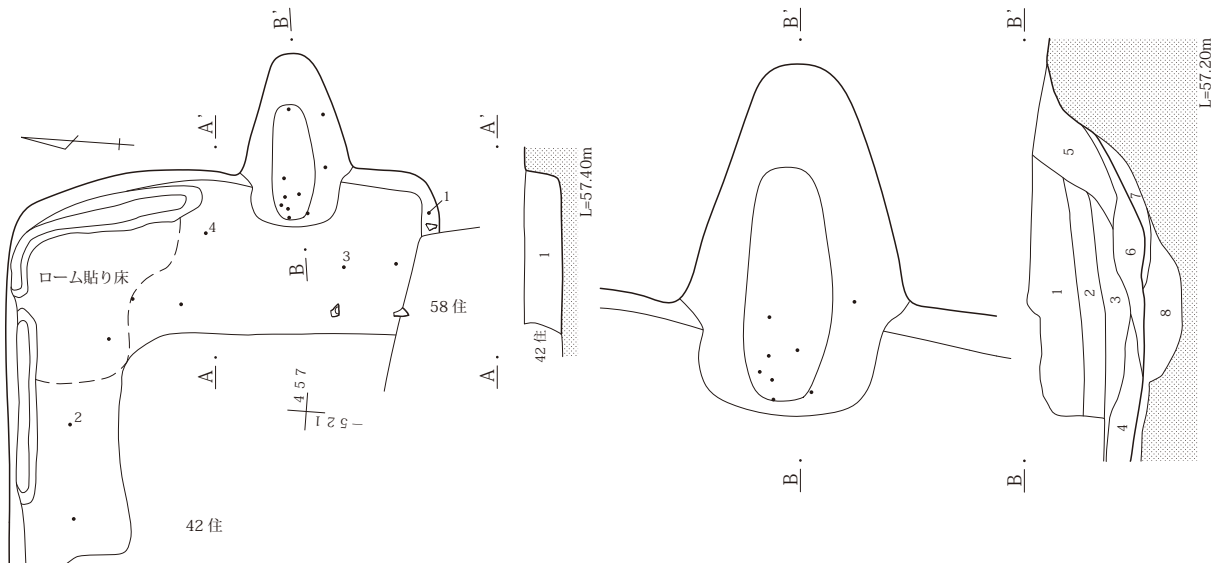
貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

周溝 掘り方面の精査時に検出された。北壁東半から竈左袖にいたる部分で、一部途切れる箇所もあるが検出された。幅15cm、深さ5cmほどを測る。

竈 東壁の南東隅寄りで検出された。燃焼部は壁際の床面を掘り込み、住居外方に延びる煙身へと続いている。確認長140cm、燃焼部長102cm、燃焼部幅70cmを測る。壁際に皿状の掘り込みが見られた。

遺物 遺物の出土は全体的に見られたが細片が大半であった。南東隅寄りから出土した土師器甕3が床直で出土した以外は、床面から少し浮いた状態で出土している。

所見 重複関係、出土遺物の特徴から8世紀後半の所産と考えられる。



住居

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径3mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)均一に少量混入。

竈

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。

2 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径5~50mm)均一に20%混入。ローム混じりで軟らかいローム(30%)。白色軽石(径2mm)少量混入。

3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム混じりで軟らかい。

4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム混じりで軟らかい。

5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。焼土ブロック(径10~50mm)均一に40%混入。(焼土の塊)

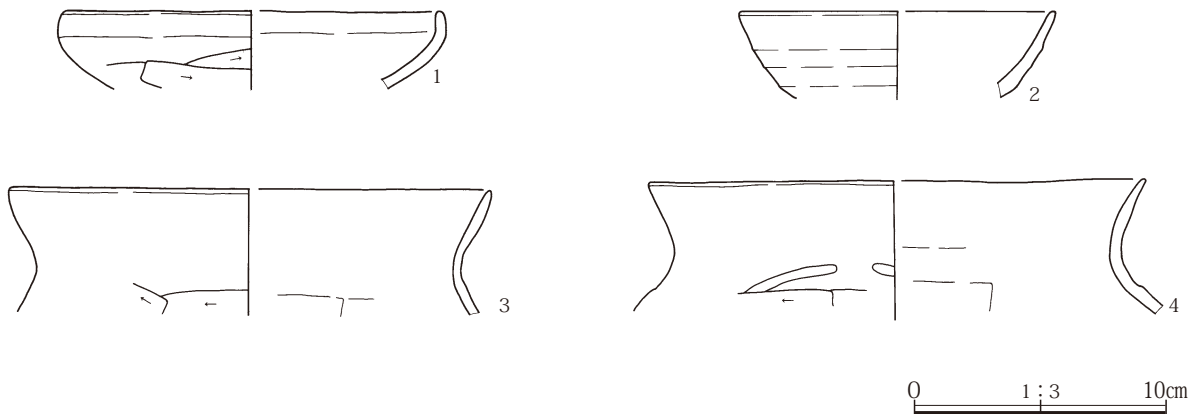
6 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径5~10mm)均一に10%混入。崩落したロームが主体で炭化物(径3mm)均一に少量混入。

7 黒褐色土 粘質。焼土ブロック(径10mm)少量混入。ロームも40%混入。

8 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径10mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。

0 1:60(竈1:30) 2m

第101図 3区57号住居



第102図 3区57号住居出土遺物 1-4

3区76号住居（第103・104図、P L 11）

位置 450-510、515

主軸方位 E-23°-N 面積 12.86㎡

重複 82号、83号住居に後出、61号住居に先出する。

形状 長方形を呈す。北東隅は丸みをおびている。これに反し、南東隅は摘まれたように弱く尖る。規模は東西4.0m、南北3.6mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

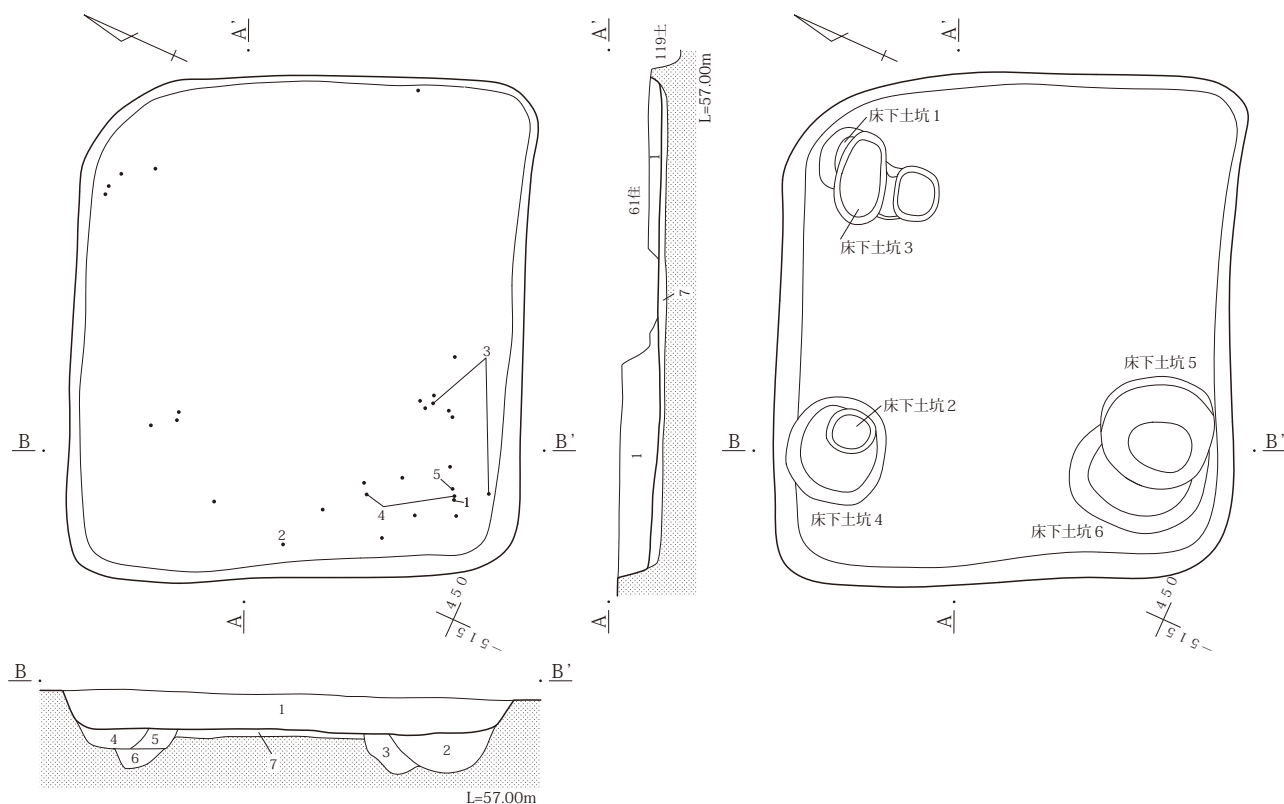
床面 確認面から最大30cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 検出されなかった。

掘り方 南東隅を除く各隅において床下土坑を検出した。深さは南西隅で26cm、北西隅で土坑状のものが9cm、ピット状のものが21cm、北東隅の中央が12cmである。いずれも暗褐色土が堆積していた。

遺物 出土遺物は比較的少量で、床面直上から出土したものはなかった。埋没土中から土錘の破片6が出土している。

所見 出土遺物の特徴から9世紀前半の所産と考えられる。壁面は各壁とも掘り込みが明瞭であったにもかかわらず竈の存在を明らかにすることができなかった。

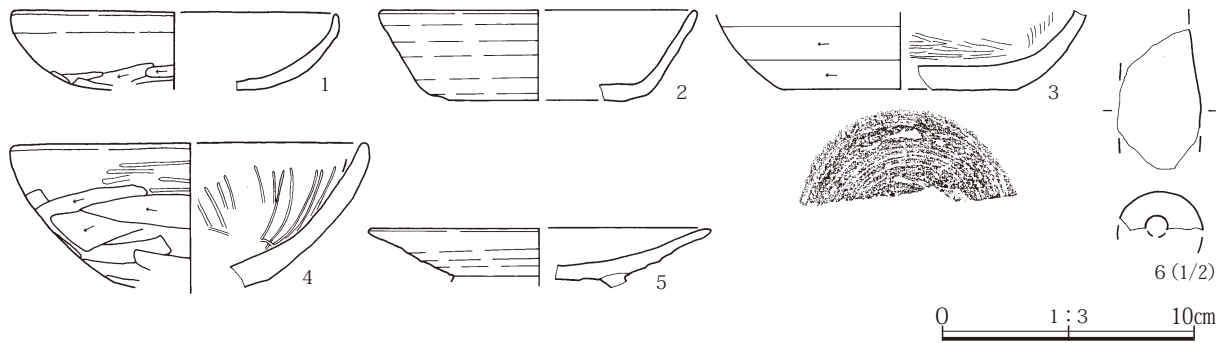


住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)(10%)。ローム粒(径2~5mm)(10%)。炭化物(径5mm)均一に少量混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径3~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径3~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。(5号土坑)
- 3 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。焼土粒(径2mm)微量混入。小礫(径10mm)少量混入。炭化物(径5mm)微量混入。(6号土坑)
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に15%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。(4号土坑)
- 5 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に5%混入。(1号土坑)
- 6 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。(2号土坑)
- 7 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10mm)少量混入。ローム粒(径2mm)。焼土粒(径2mm)微量混入。

0 1:60 2m

第103図 3区76号住居



第104図 3区76号住居出土遺物 1-6

3区1号住居 (第105～107図、P L 12・106)

位置 410、415-460、465

重複 6号土坑に先出する。58号・59号ピットと重複する。

主軸方位 E-12°-N 面積 計測不能

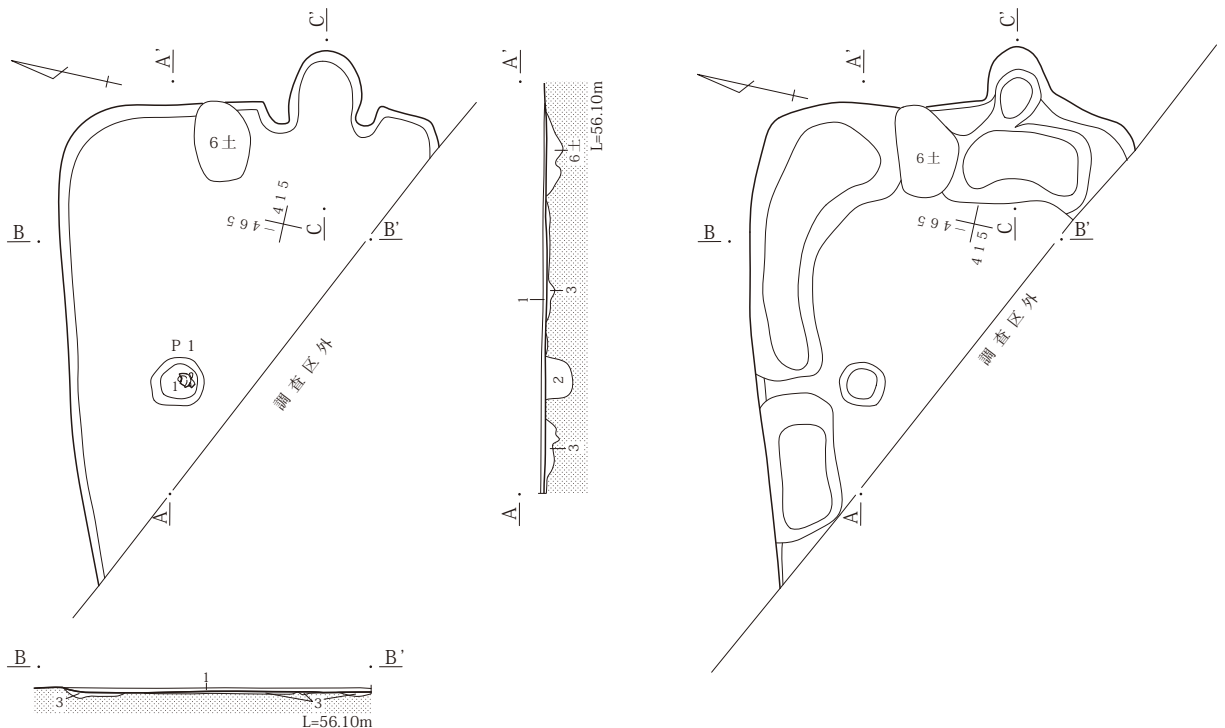
形状 東西に長軸を有する縦長の長形状を呈すと考えられるが、南西部が調査区外のため全体の構造は不明である。調査範囲内での残存長は長軸3.86m、短軸3.00mを測る。上部がかなり削平されているため、壁面の立ち上がりは10cm弱しか残存してい

ない。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大10cm掘り込んで床面が構築されていた。床面は概ね平坦である。貼床は認められない。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃烧部の一部は住居の壁面を掘り込んで壁外にある。上部が削平されていたため遺存状況は悪く、袖部の基底がかわらうじて検出されたに過ぎない。規模は確認長103cm、燃烧部幅45cmを測る。袖部の残存長は右側で32



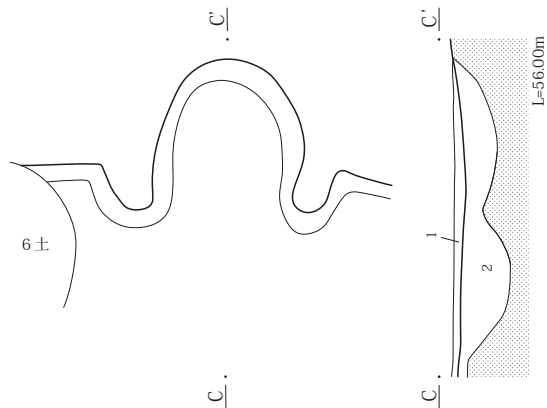
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)少量混入。白色軽石も少量含む。
- 2 暗褐色土 粘質ローム粒(径1～5mm)均一に少量混入。
- 3 黒褐色土 ロームブロック(径20～50mm)少量混入。(掘り方)

第105図 3区1号住居

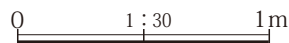
cm、左側で24cmである。燃烧部は皿状に掘り込まれていた。焼土の堆積は少量である。

柱 穴 ピット 1基が検出された。規模(長径×深さ)は42×30cmである。底面から須恵器杯1が出土している。

掘り方 周縁部を浅く、溝状に掘り込む。深さは10



- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)少量混入。白色軽石も極少量含む。焼土ブロック(径10～30mm)少量混入。
- 2 黒褐色土 ロームブロック(径20～50mm)少量混入。(掘り方)



第106図 3区1号住居カマド

3区3号住居(第108・109図、P L 12・106)

位置 440-475、480

主軸方位 E-11°-N 面積 計測不能

重複 5号住居に先出する。12号住居、67号～69号土坑に後出する。

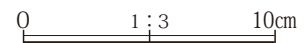
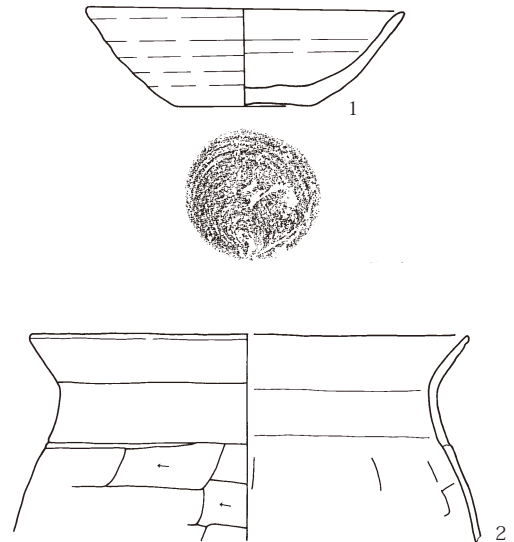
形状 正方形を呈すと考えられるが、壁面の残存が東壁と北及び南壁の東隅寄りの一部のみであったため、全体の構造は不明である。南北方向の残存長は3.48mを測る。竈のみ残存しているといってもよいほどである。

床面 削平が著しく、壁面の立ち上がりは最大で6cm程である。床面は概ね平坦ではあるが、本来の床面であるかは確かではない。貯蔵穴や柱穴は検出されなかった。

cm前後である。黒褐色土が充填されていた。

遺物 竈燃烧部内から土師器甕2が出土している。

所見 出土土器の特徴から9世紀後半の所産と考えられる。

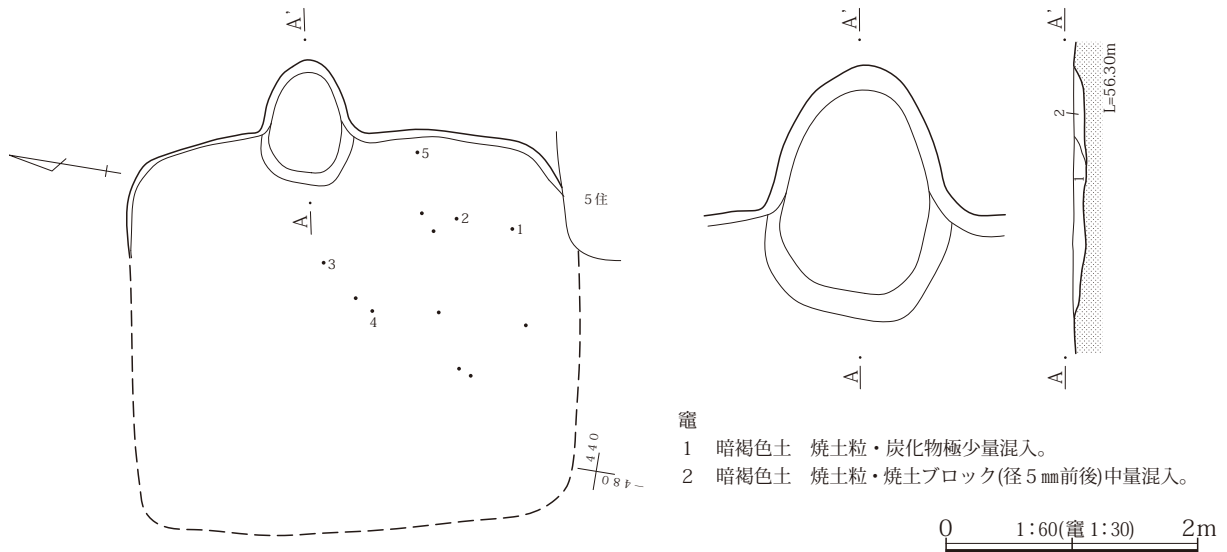


第107図 3区1号住居出土遺物 1-2

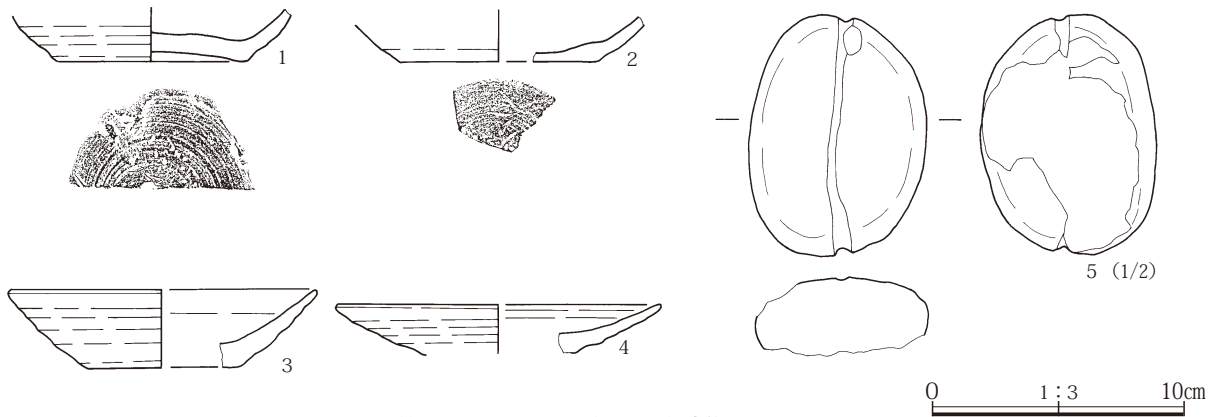
竈 東壁の中央からやや北寄りで見出された。燃烧部は一部住居の壁面を掘り込んで構築されていた。規模は、確認長100cm、確認幅74cm、燃烧部長90cm、燃烧部幅58cmを測る。燃烧部の掘り込みは皿状を呈しており、焼土粒を含む暗褐色土が堆積していた。掘り方 特別大きな凹凸はなく、全体的に6～10cm程掘り込んでいた。

遺物 床面から離れた浮いた状態で小破片が散見された。須恵器杯1～3・皿4を資料化した。石錘5は竈右側の床面からの出土である。

所見 重複関係、出土土器の特徴から9世紀後半と考えられる。



第108図 3区3号住居



第109図 3区3号住居出土遺物 1-5

3区5号住居 (第110～113図、P L 12・106・107)

位置 435、440-470、475

主軸方位 E-8°-N 面積 15.35㎡

重複 12号住居に後出する。

形状 東西方向に長軸を有し、北壁を下辺とする台形状を呈す。四壁の残存はいずれも良好であった。規模は、長軸方向の北壁で5.03m、南壁で南壁4.36m、短軸で3.80mを測る。

埋没土 上下2層の暗褐色土で埋没していた。

床面 確認面から最大44cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦であるが北西隅寄りがやや高く、竈手前に向かって徐々に下がっている。柱穴・周溝は検出されなかった。一部に硬化面が検出された。

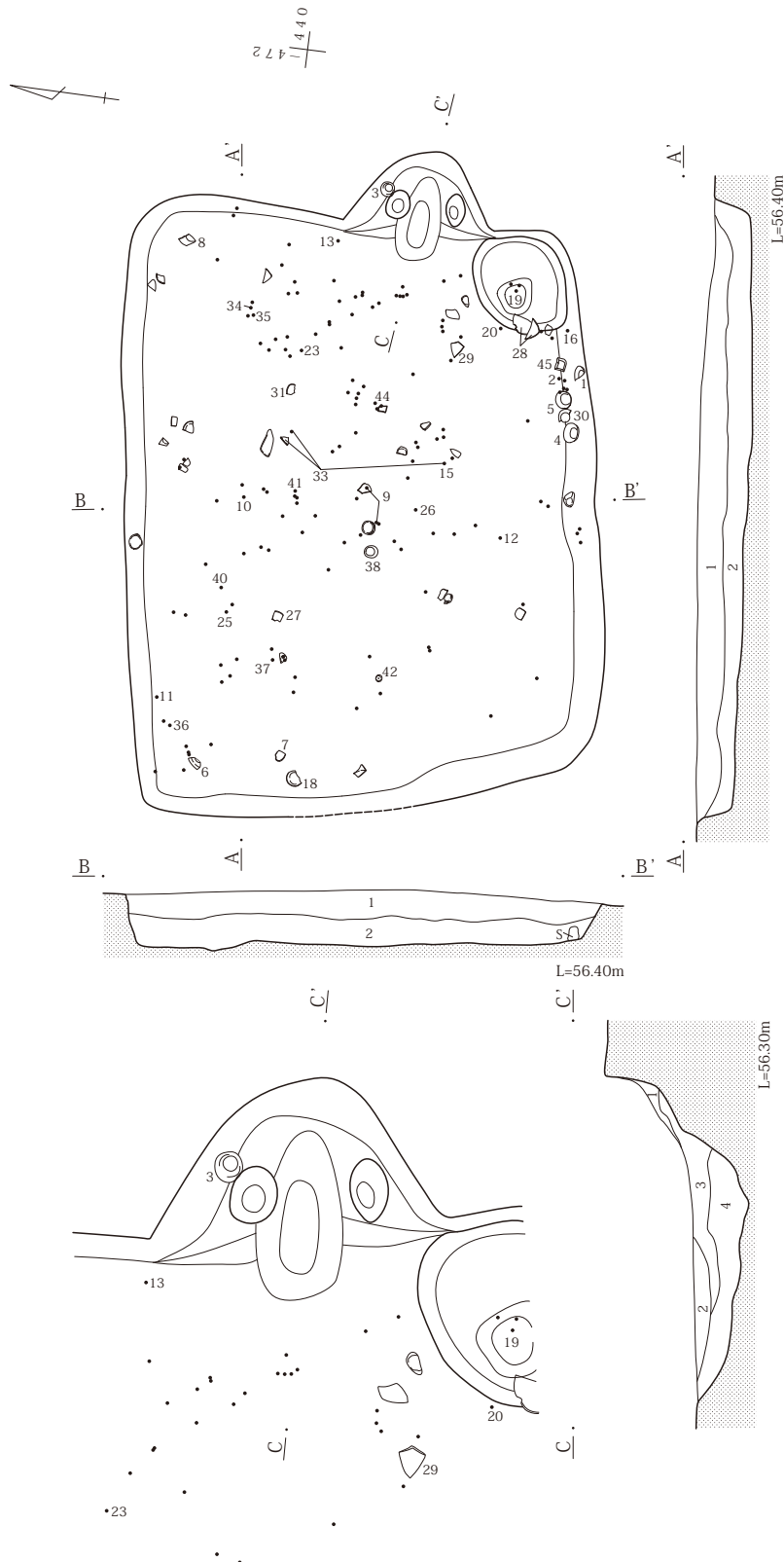
竈 東壁南寄りで検出された。燃焼部は住居の壁面を掘り込んで構築されている。規模は、確認長91cm、全幅122cm、燃焼部長75cmを測る。燃焼部は最終使用面から20cm程下位に掘り方向が見られた。

貯蔵穴 南東隅、竈右脇で検出された。平面形は楕円形状を呈し、皿状に掘り込まれていた。規模は、長径77cm、短径72cm、深さ30cmである。埋没土中に竈から焼土ブロック、炭化物が流れ込んでいた。

遺物 須恵器杯4・5、須恵器皿30が南壁際に並べて置かれたような状態で出土している。床面から多少浮いた状態での杯類の出土が多く、住居廃絶後に大量に廃棄された状況がうかがえる。土器の他に石製紡錘車42、土製紡錘車43・44、砥石45、鎌46、釘47、刀子48も出土している。

所見 重複関係、出土土器の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。埋没土中から炭化物

が多く出土していることから焼失住居の可能性も考えられる。



住居

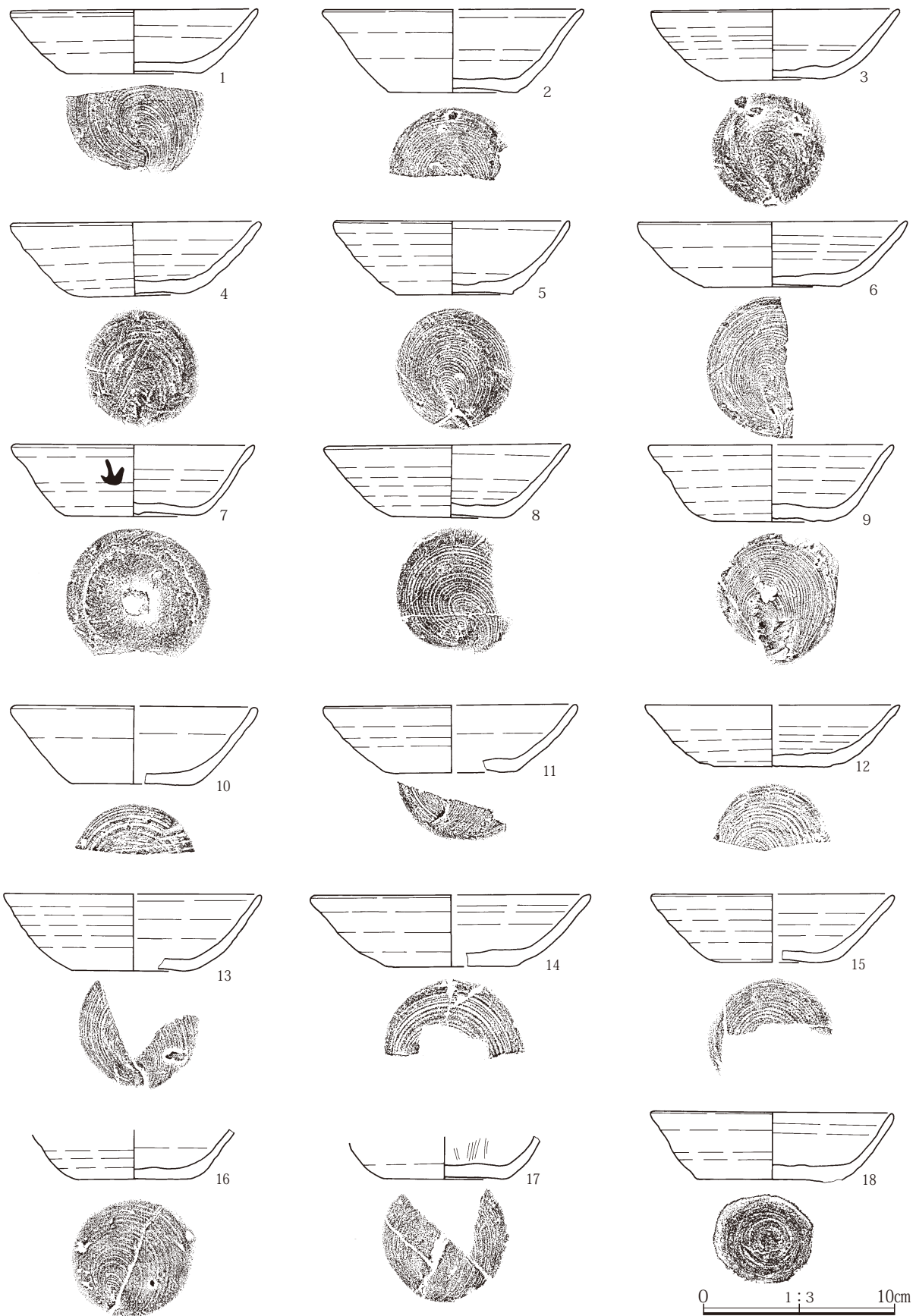
- 1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒も少量含む。(5号・13号住居含む)
- 2 暗褐色土 ローム土。ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒・炭化物(径20mm前後)少量含む。

竈

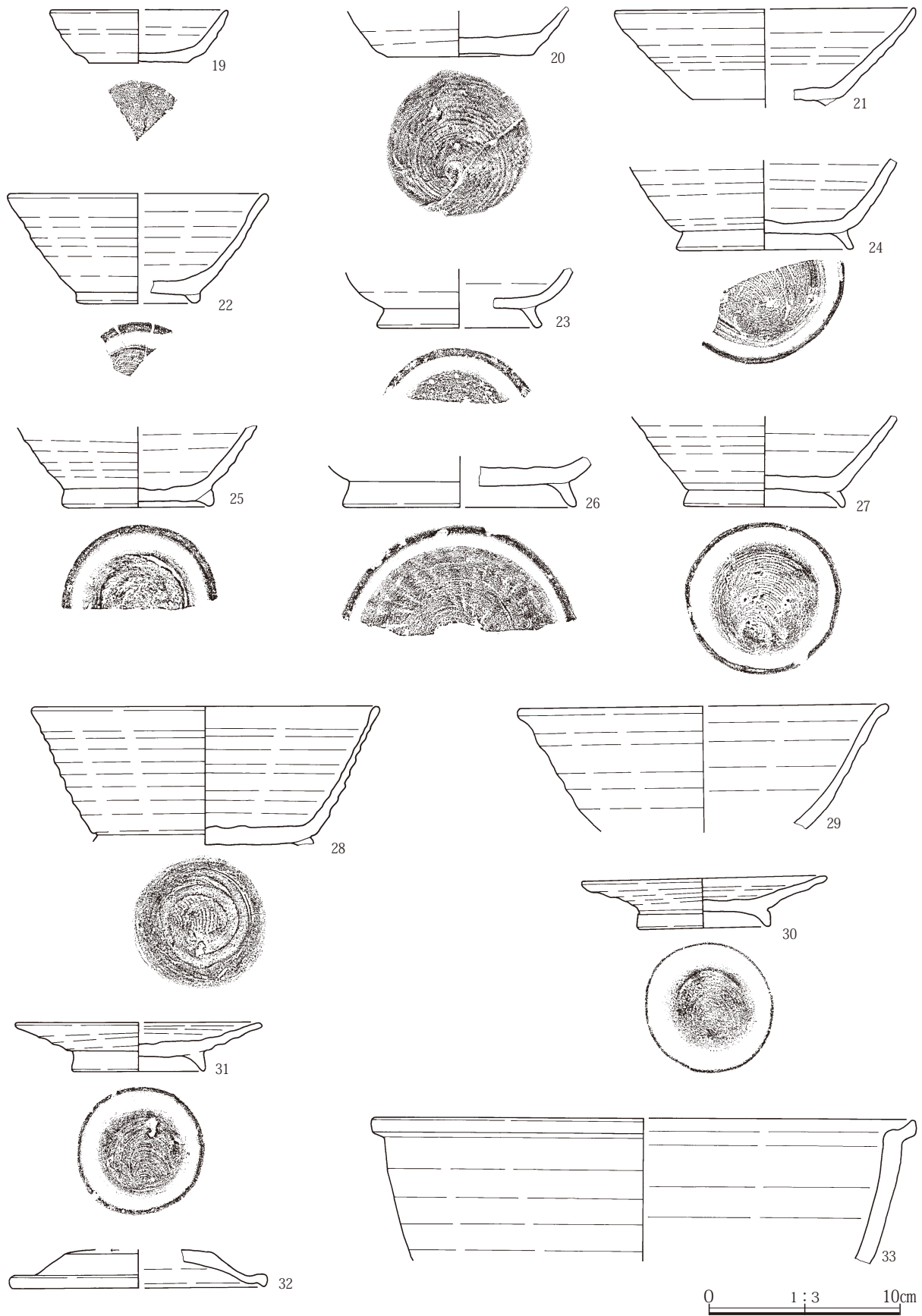
- 1 暗褐色土 焼土ブロック(径20~40mm)中量混入。
- 2 暗褐色土 ローム土少量混入。焼土ブロック(径5~10mm)少量含む。炭化物も少量含む。
- 3 灰黄褐色土 ローム土少量混入。焼土ブロック(径5~10mm)少量含む。
- 4 灰黄褐色土 ロームブロック(径20~40mm)中量混入。焼土粒も少量含む。

0 1:60(竈 1:30) 2m

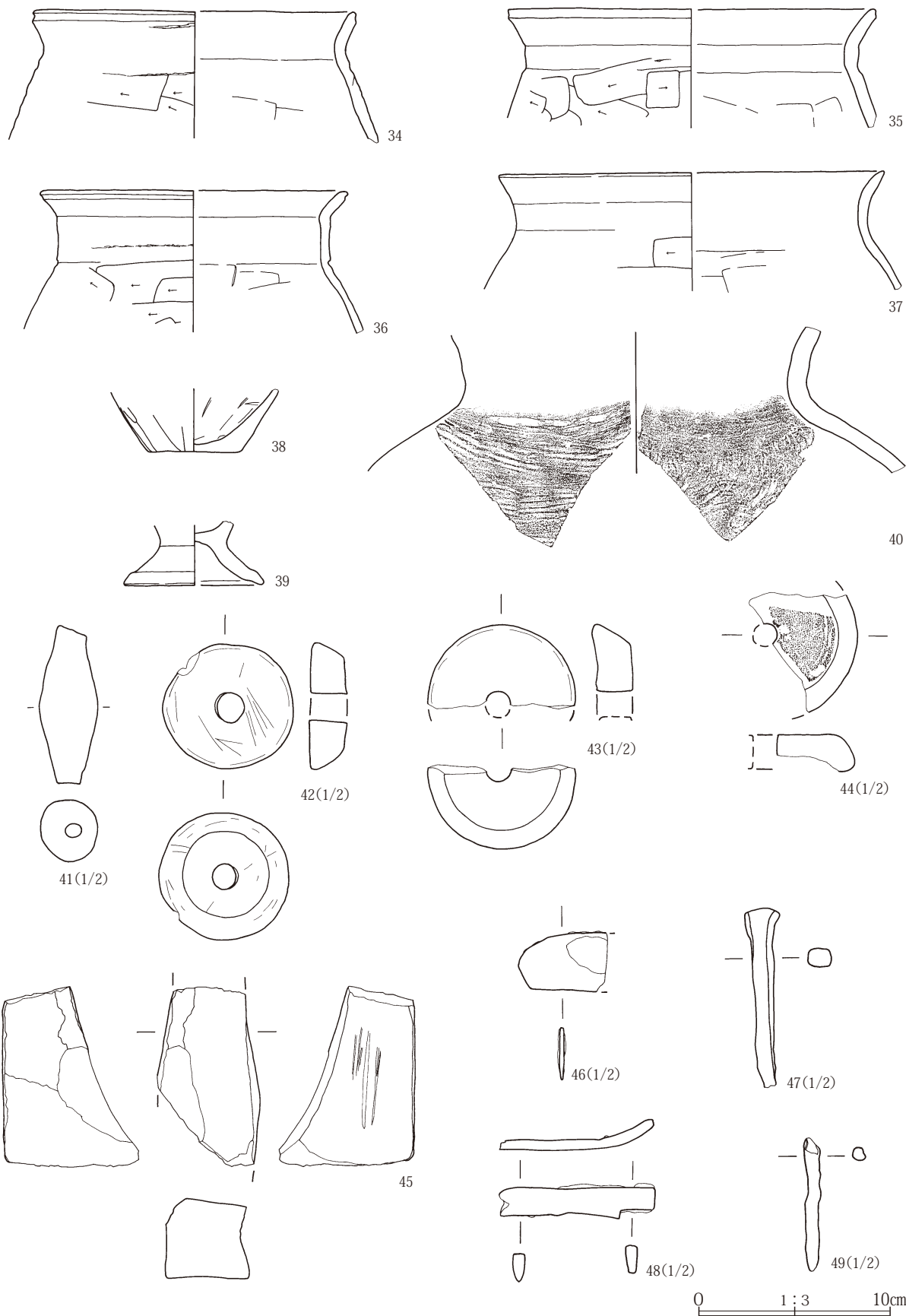
第110図 3区5号住居



第111图 3区5号住居出土遺物 1-18



第112图 3区5号住居出土遺物2 19-33



第113图 3区5号住居出土遺物3 34-49

3区7号住居 (第114～116図、P L 13・107)

位置 430、435-480、485

主軸方位 N-5°-W 面積 推定9.85㎡計測不能

重複 6号住居に後出する。

形状 6号住居の埋没土を掘り込んで構築されていたため、東壁・北壁の残存が比較的良好であった。竈の周辺を除いて不明瞭な部分が多い。全体の形状は東西約3.5m、南北約3.4mの正方形に近い形状が推定される。

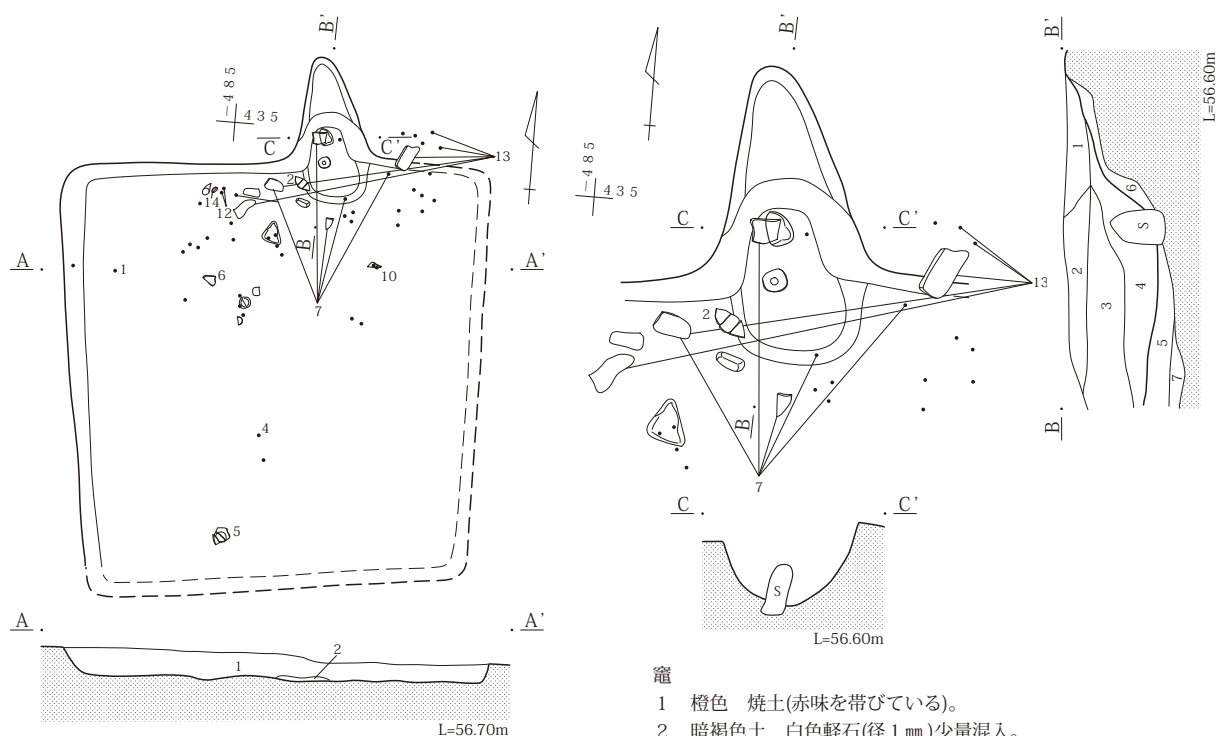
埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。調査時床面下で検出された長径約1.5m、短径1.0mの範囲に厚さ20cmの焼土塊については6号住居埋没の過程で堆積したものであり、本住居に直接関係するものではないと考えられる。

床面 確認面から最大26cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 北壁の東寄りで検出された。皿状を呈する燃烧部は、奥部分が住居の壁面を掘り込んで構築されており、底面から1段上がった煙道部も確認された。規模は、確認長117cm、燃烧部長72cm、燃烧部幅35cm、煙道部の残存長45cmを測る。燃烧部の奥壁近くに長さ20cm程の自然石を使用した支脚が据えられていた。竈の左斜め前の床面上には竈から流れ出した灰原が広がっていた。

掘り方 床面から掘り方底面までは15cm前後であった。底面には大きな起伏や土坑状・ピット状の掘り込みも検出されることはなかった。

遺物 竈内から須恵器甗8・椀10、灰釉陶器椀12



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に5%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に5%混入。ローム粒(径5mm)均一に5%混入。(7号住居)
- 2 暗褐色土 粘質。炭化物多量混入。

竈

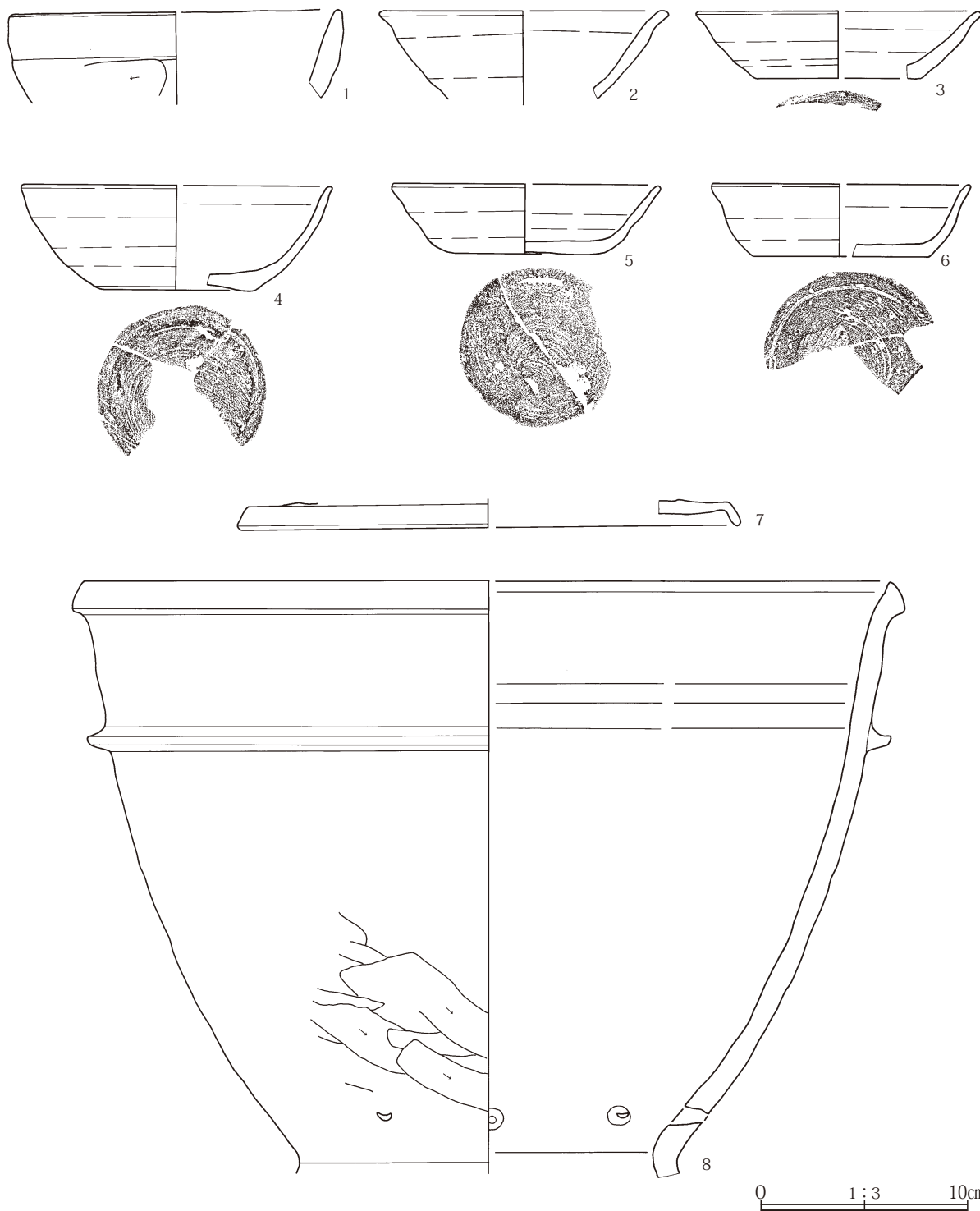
- 1 橙色 焼土(赤味を帯びている)。
- 2 暗褐色土 白色軽石(径1mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 4 にぶい橙色土 焼土を多量に含み、使用面と考えられる。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)を少量含む。ローム粒(径1~5mm)を少量含む。
- 6 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径10mm)を含む(10%)。ローム粒(径2mm)を少量含む。
- 7 暗褐色土 やや粘質。ロームブロック(径10mm)を少量含む。

0 1:60(竈 1:30) 2m

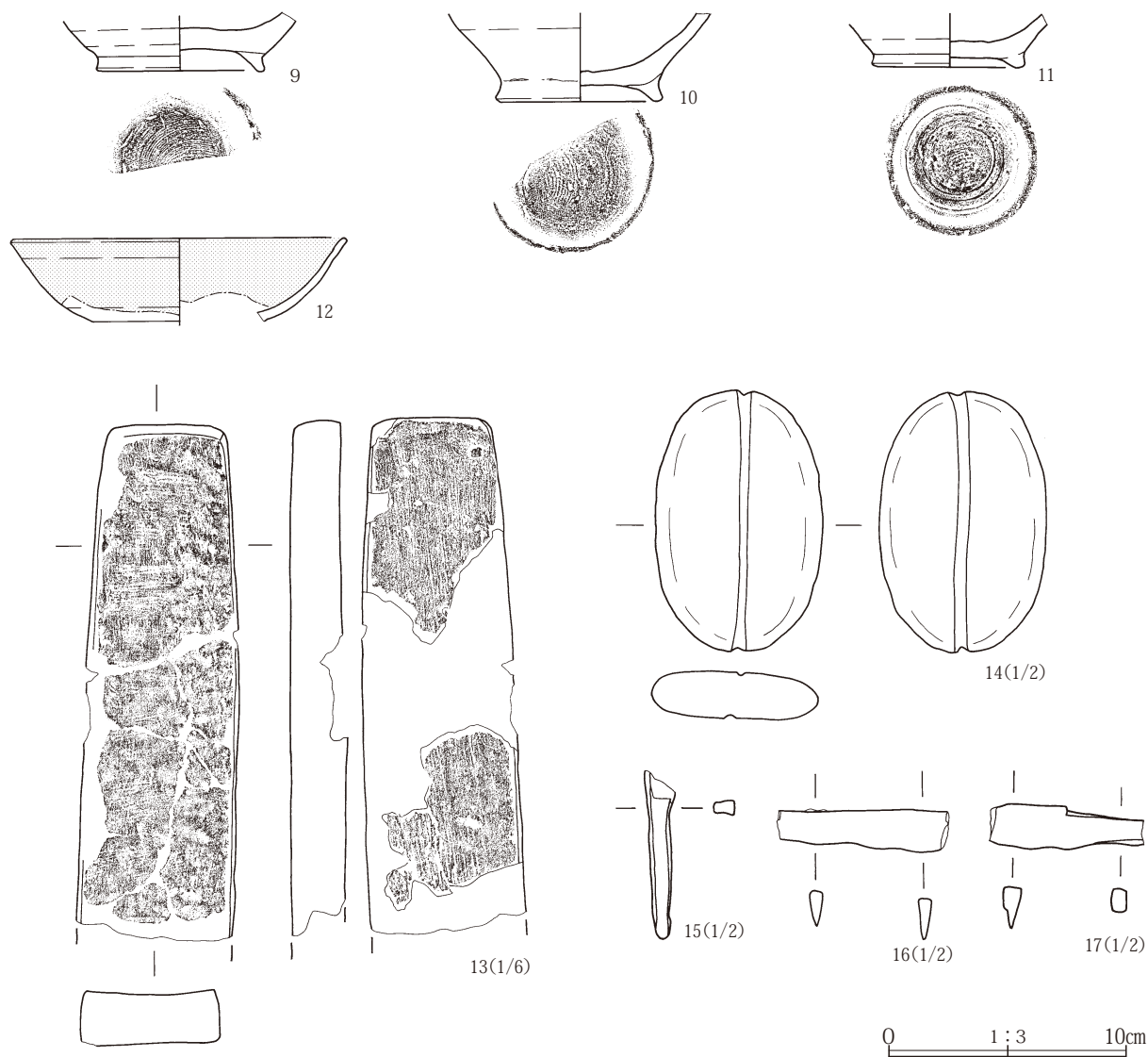
第114図 3区7号住居

が出土している。埋没土中からは石錘14、刀子15～17が出土している。また、本住居から出土した磚の破片は6号住居出土の同破片と接合したことから本来の帰属は6号住居と考えられる。

所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



第115図 3区7号住居出土遺物 1-8



第116図 3区7号住居出土遺物2 9-17

3区8号住居 (第117・118図、P L 13・107)

位置 435-500、505

主軸方位 E-5°-N 面積 計測不能

形状 南北に長軸を有する横長長方形を呈するようであるが、西壁が6号溝に、南壁が3号溝に切られており、全体の構造は不明である。残存長は、長軸3.80m、短軸2.60mを測るが、長軸4.0m×短軸3.2m程の規模が想定される。

埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。

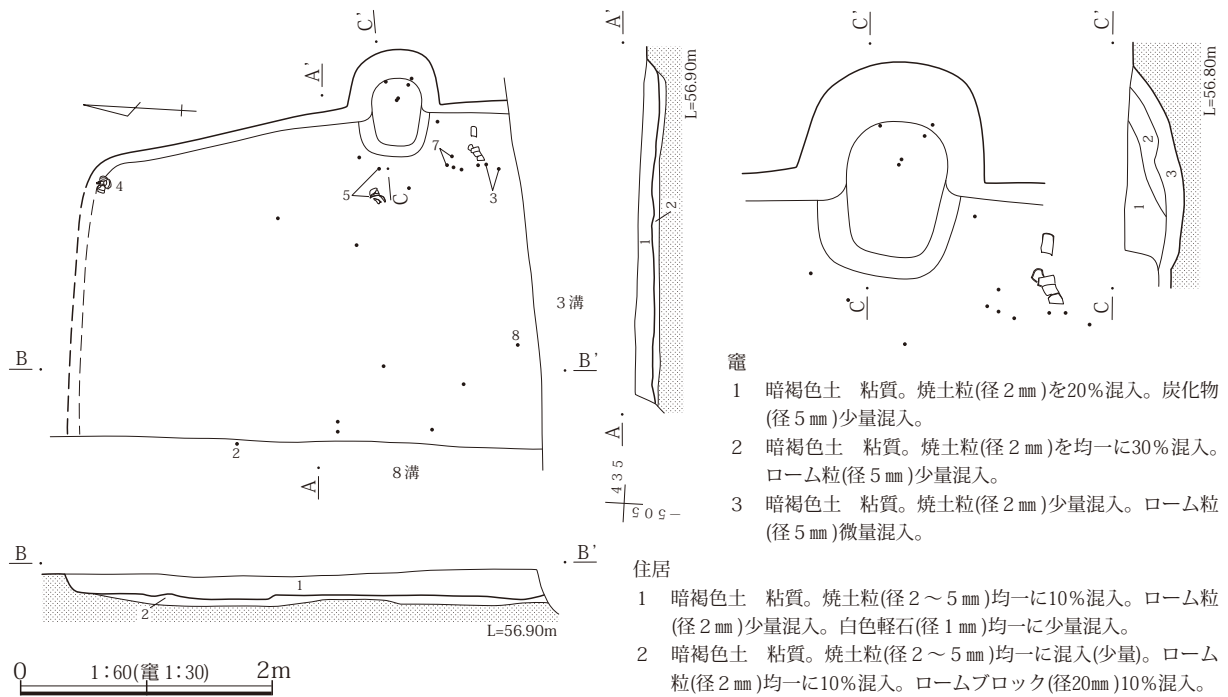
床面 確認面から最大28cm掘り込んで床面を構築する。小さな起伏は有したものの概ね平坦である。

貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

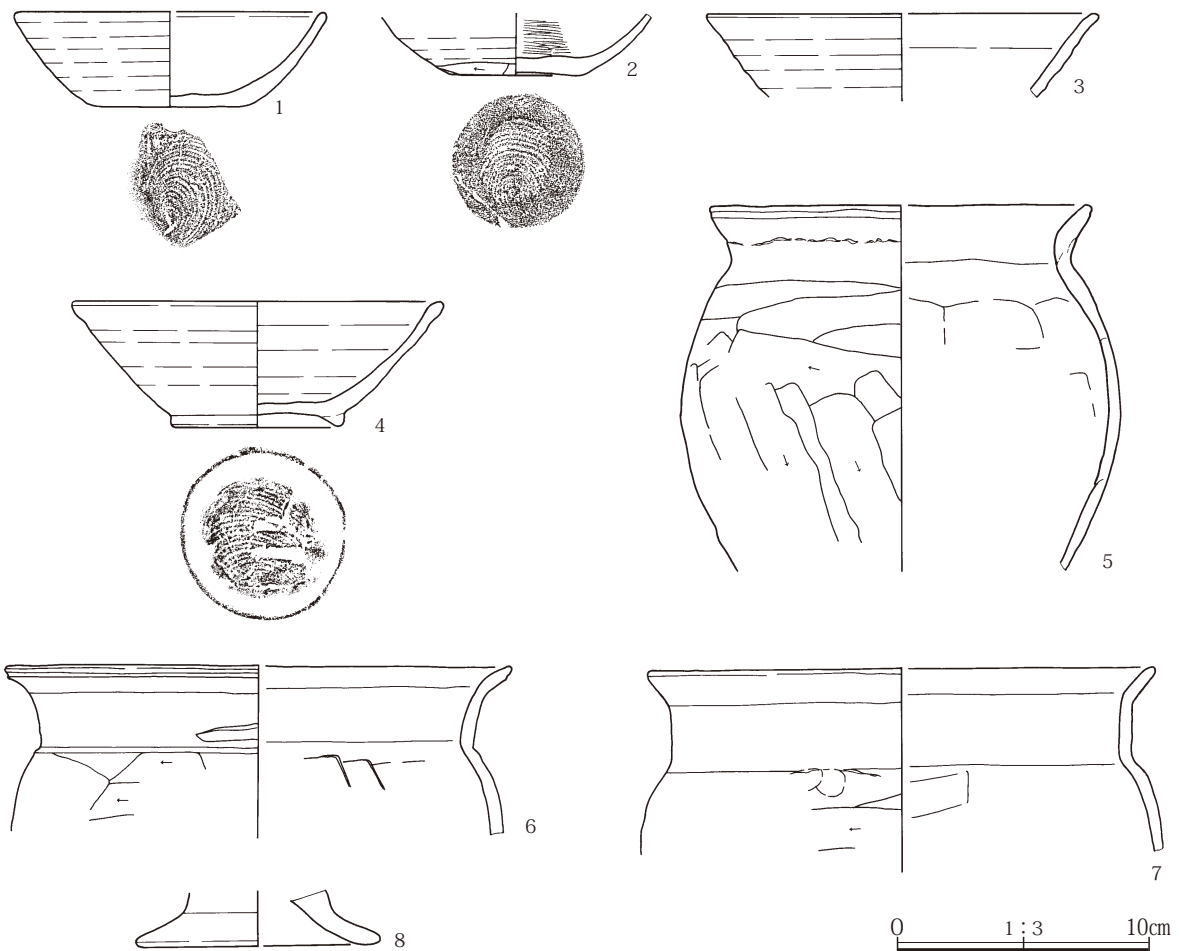
竈 東壁の南側寄りで検出された。燃烧部の一部は住居の壁面を掘り込んで構築されていた。規模は、確認長85cm、燃烧部長72cm、燃烧部幅55cmを測る。掘り方 竈左前および東壁際に小土坑状の掘り込みが見られたのをはじめ小さな凹凸が見られたが基本的にはなかった。

遺物 北東隅の床面直上から須恵器椀4が出土している。床面からやや浮いた状態では竈手前から土師器甕5が、右手前から土師器甕7が破片の状態出土している。

所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



第117図 3区8号住居



第118図 3区8号住居出土遺物 1-8

3区9号住居 (第119・120図、P L 13・107)

位置 435-485、490

主軸方位 面積 計測不能

重複 23・27号住居、3号溝に先出する。

形状 東西に長軸を有するがほぼ正方形状を呈する。規模は長軸4.10m、短軸4.04mを測る。東西の両壁は3号溝との重複によりその一部を欠失するが各辺とも直線を指向している。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

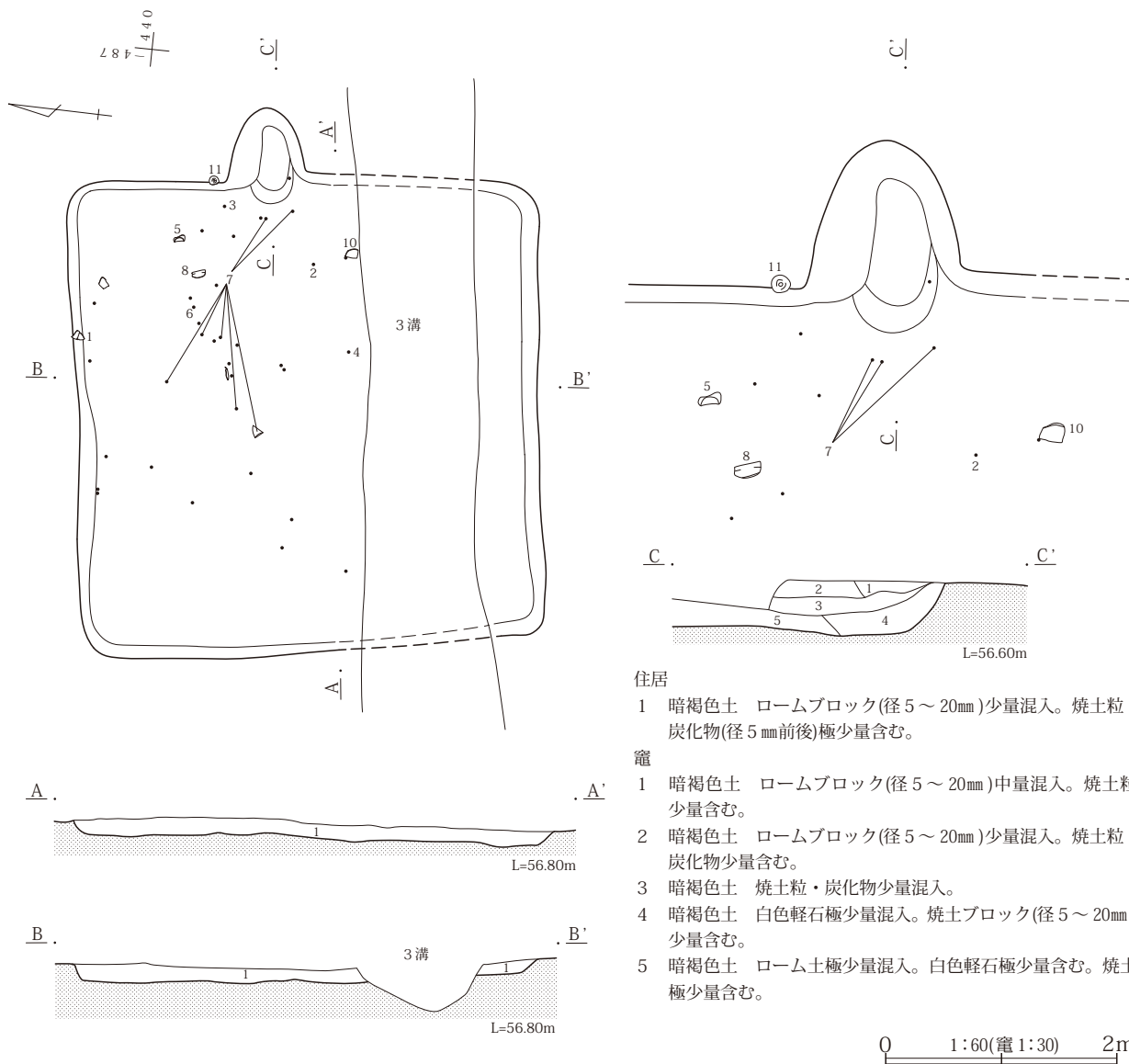
床面 最も残存状態が良好であった南壁中央で18cm掘り込まれて床面に達していた。床面は、15号住

居埋没土中に構築されており、概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央からやや北側寄りに位置する。燃烧部は住居の壁外に構築されている。規模は確認長82cm、燃烧部長66cm、燃烧部幅65cmを測る。

遺物 北東部分を中心に、床面から浮いた状態で小破片が出土している。

所見 重複関係、出土土器の特徴から9世紀後半の所産と考えられる。15号住居と重複するとの認識から調査が実施されていたが、整理時両住居は同一遺構と判断されたため15号住居は欠番とした。



住居

1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒・炭化物(径5mm前後)極少量含む。

竈

1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)中量混入。焼土粒少量含む。

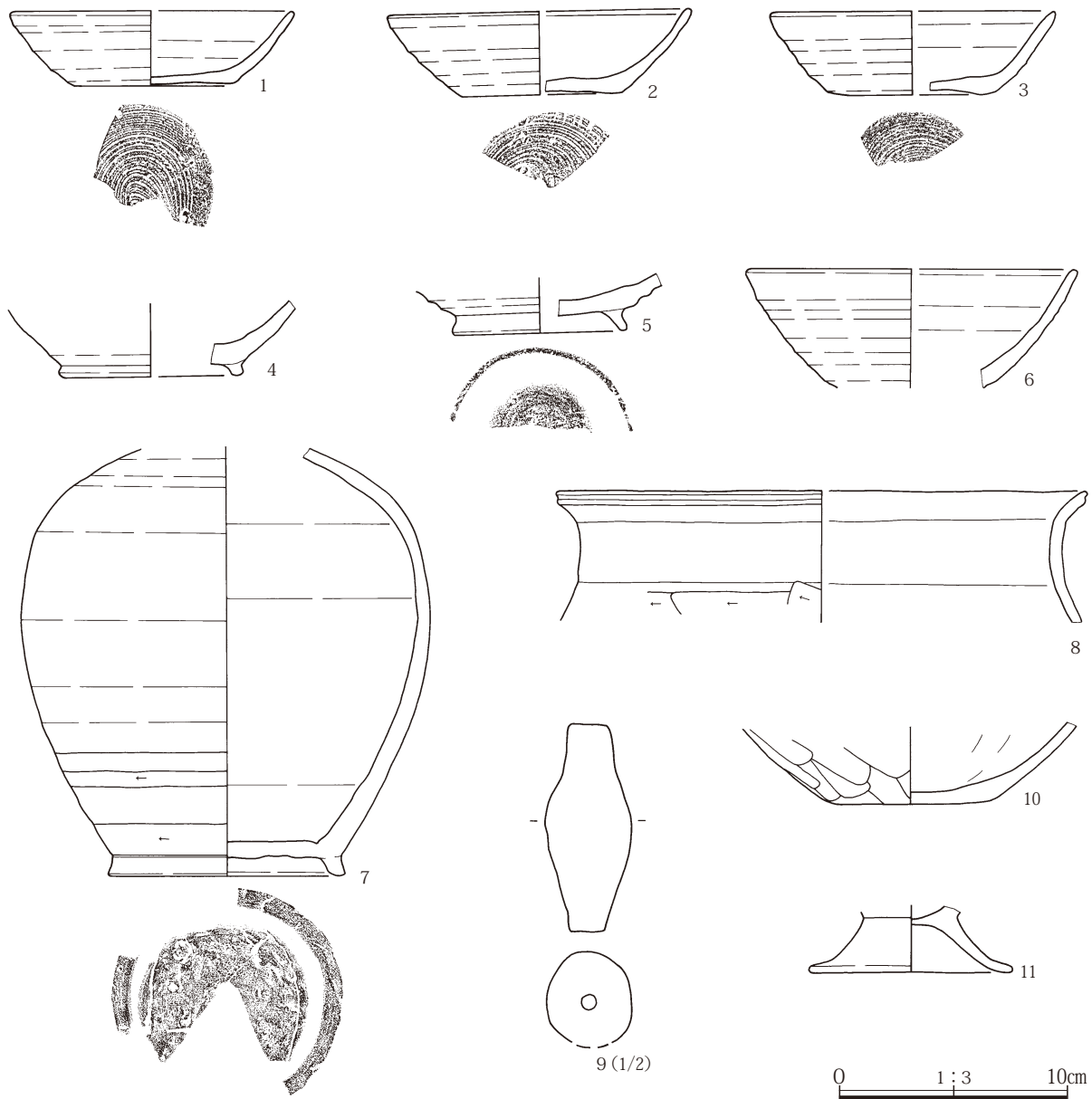
2 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒・炭化物少量含む。

3 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量混入。

4 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土ブロック(径5~20mm)少量含む。

5 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石極少量含む。焼土極少量含む。

第119図 3区9号住居



第120図 3区9号住居出土遺物 1-11

3区10号住居 (第121・122図、P L 13)

位置 445-475、480

主軸方位 E-11° - S 面積 9.94㎡

重複 11号・16号土坑、8号溝、62号ピットと重複している。

形状 東西方向に長軸を有する縦長の長方形を呈す。規模は、長軸3.95m、短軸3.04mを測る。北西隅は他よりやや丸みをおびている。四壁とも残存状態は良好であった。

埋没土 全体的にロームブロックを多く含んだ暗褐色土が南側から北側に向かって流入したように堆積

している。人為的に埋められた可能性が考えられる。床面 確認面から最大36cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

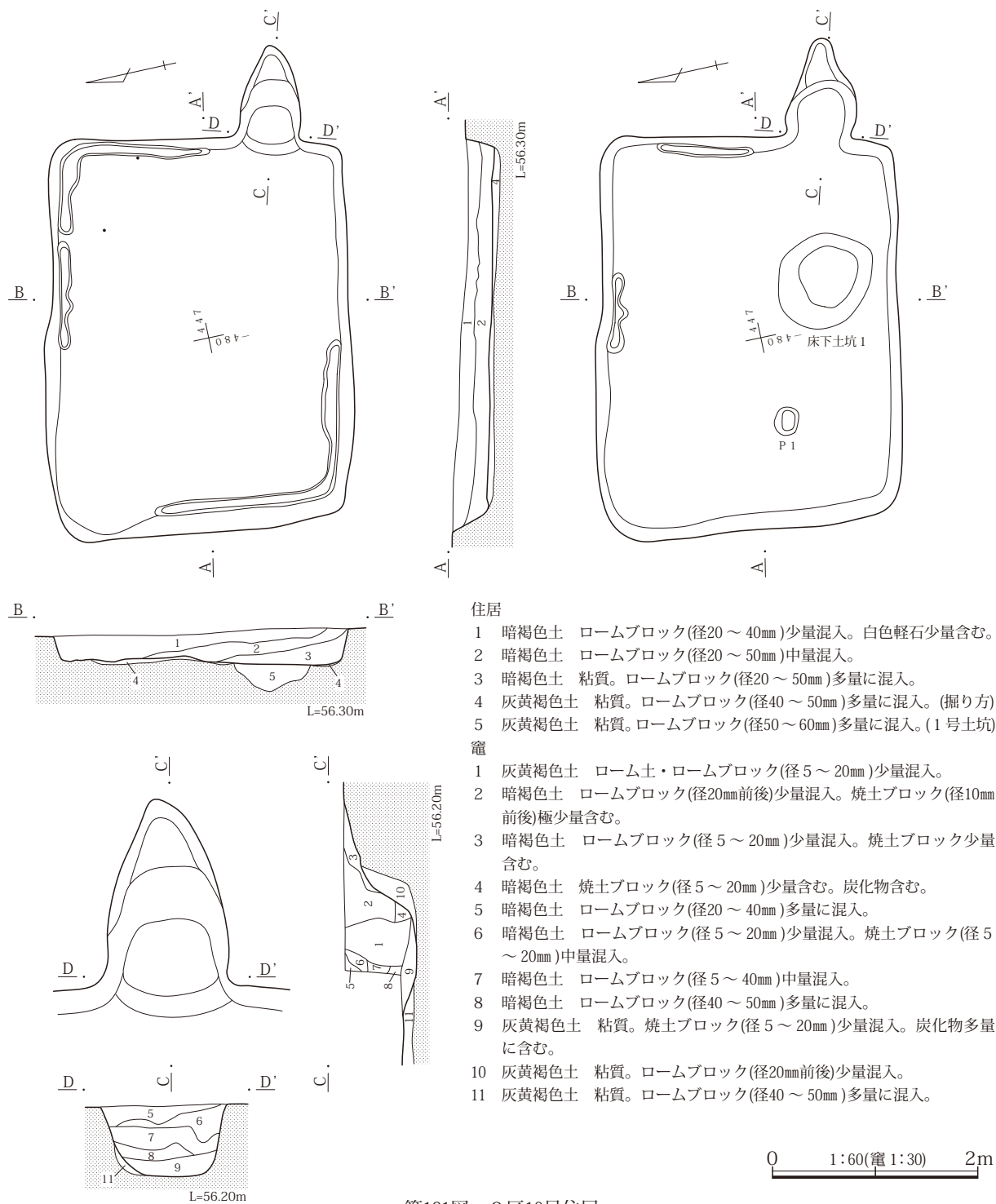
周溝 北東隅と南西隅の周辺で確認されたが、全体には巡っていない。幅10cm前後、深さ5cm前後を測る。

竈 東壁の南東隅寄りで検出された。規模は、確認長110cm、燃焼部長64cm、燃焼部幅50cmを測る。燃焼部から煙道部への移行には明瞭な段をもっている。

掘り方 床面の中央から南壁寄りで床下土坑1基が
 検出された。形状は、楕円形で皿状の掘り方を呈す
 る。規模は、長軸104cm、短軸88cm、深さ31cmを測る。
 遺物 他の住居に比べ、出土遺物はきわめて少な
 く、資料化できたものは竈内から出土した土師器甕

1の1点に過ぎない。このことは本住居が人為的に
 埋め戻された可能性をより補強しよう。

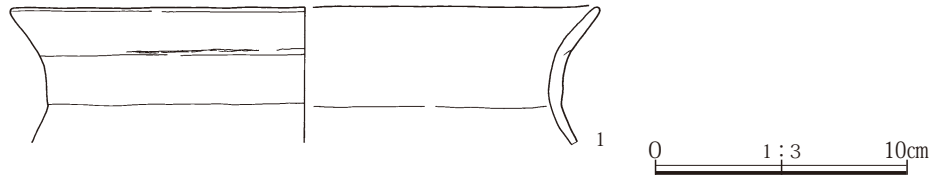
所見 出土土器の特徴から、9世紀第2四半期の
 所産と考えられる。人為的に埋め戻された可能性が
 考えられる。



住居

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径20～40mm)少量混入。白色軽石少量含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック(径20～50mm)中量混入。
 - 3 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径20～50mm)多量に混入。
 - 4 灰黄褐色土 粘質。ロームブロック(径40～50mm)多量に混入。(掘り方)
 - 5 灰黄褐色土 粘質。ロームブロック(径50～60mm)多量に混入。(1号土坑)
- 竈
- 1 灰黄褐色土 ローム土・ロームブロック(径5～20mm)少量混入。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック(径20mm前後)少量混入。焼土ブロック(径10mm前後)極少量含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)少量混入。焼土ブロック少量含む。
 - 4 暗褐色土 焼土ブロック(径5～20mm)少量含む。炭化物含む。
 - 5 暗褐色土 ロームブロック(径20～40mm)多量に混入。
 - 6 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)少量混入。焼土ブロック(径5～20mm)中量混入。
 - 7 暗褐色土 ロームブロック(径5～40mm)中量混入。
 - 8 暗褐色土 ロームブロック(径40～50mm)多量に混入。
 - 9 灰黄褐色土 粘質。焼土ブロック(径5～20mm)少量混入。炭化物多量に含む。
 - 10 灰黄褐色土 粘質。ロームブロック(径20mm前後)少量混入。
 - 11 灰黄褐色土 粘質。ロームブロック(径40～50mm)多量に混入。

第121図 3区10号住居



第122図 3区10号住居出土遺物 1

3区11号住居 (第123～126図、P L 14・108)

位置 450-490

主軸方位 E-12°-N 面積 13.56㎡

重複 65号住居、85号・201号土坑に後出する。

形状 南北方向に長軸を有する横長の長方形を呈す。規模は、長軸4.58m、短軸3.38mを測る。各辺とも直線を指向している。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 壁面の削平が進行していたため確認面から最大12cm掘り込んで床面を構築する。床面は竈の手前がやや低くなっていた他は概ね平坦である。柱穴、周溝は検出されなかった。床面から掘り方底面までは7cm程あったが、土坑状の掘り込みは認められなかった。

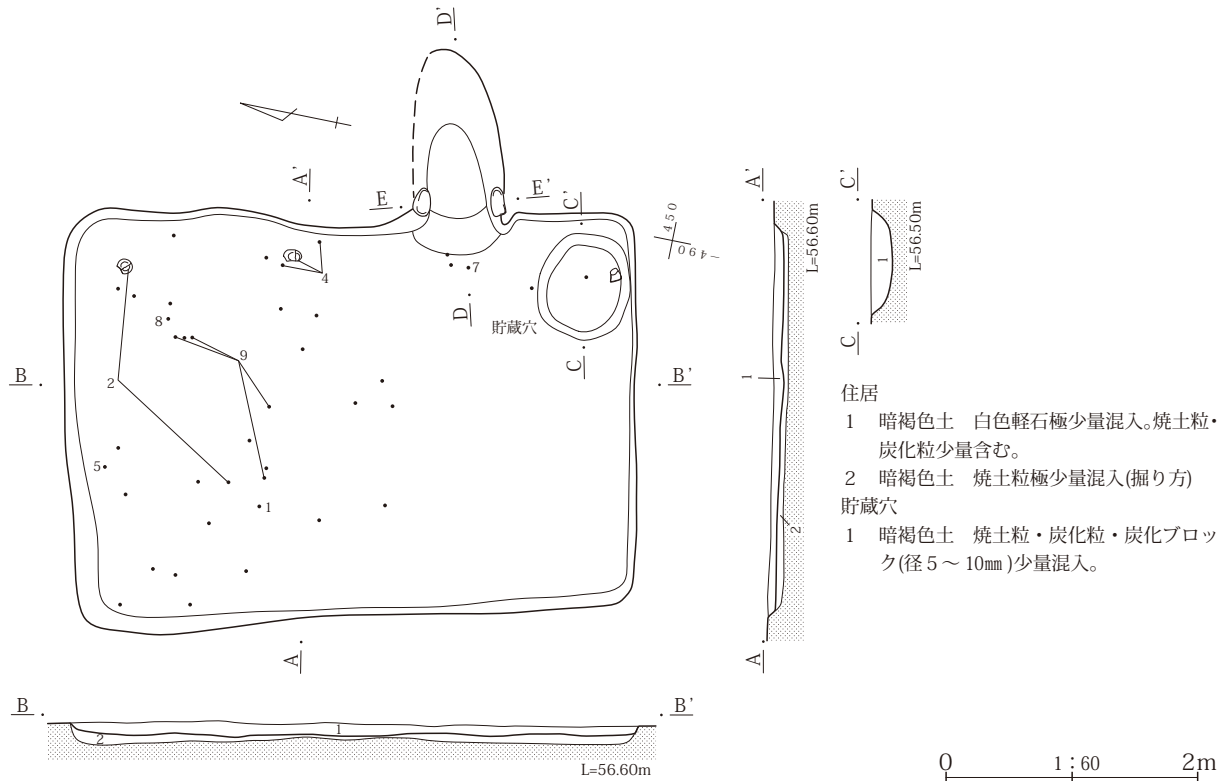
竈 東壁の南東隅寄りに検出された。燃烧部は住

居の壁面を大きく掘り込み構築されていた。確認長164cmを測ることから燃烧部から煙道部にかけて大きく変化すること無く移行する形状であったことが考えられる。燃烧部の幅は48cmである。焚き口部近くには自然礫が据えられていた。右側袖部は短く残存していた。

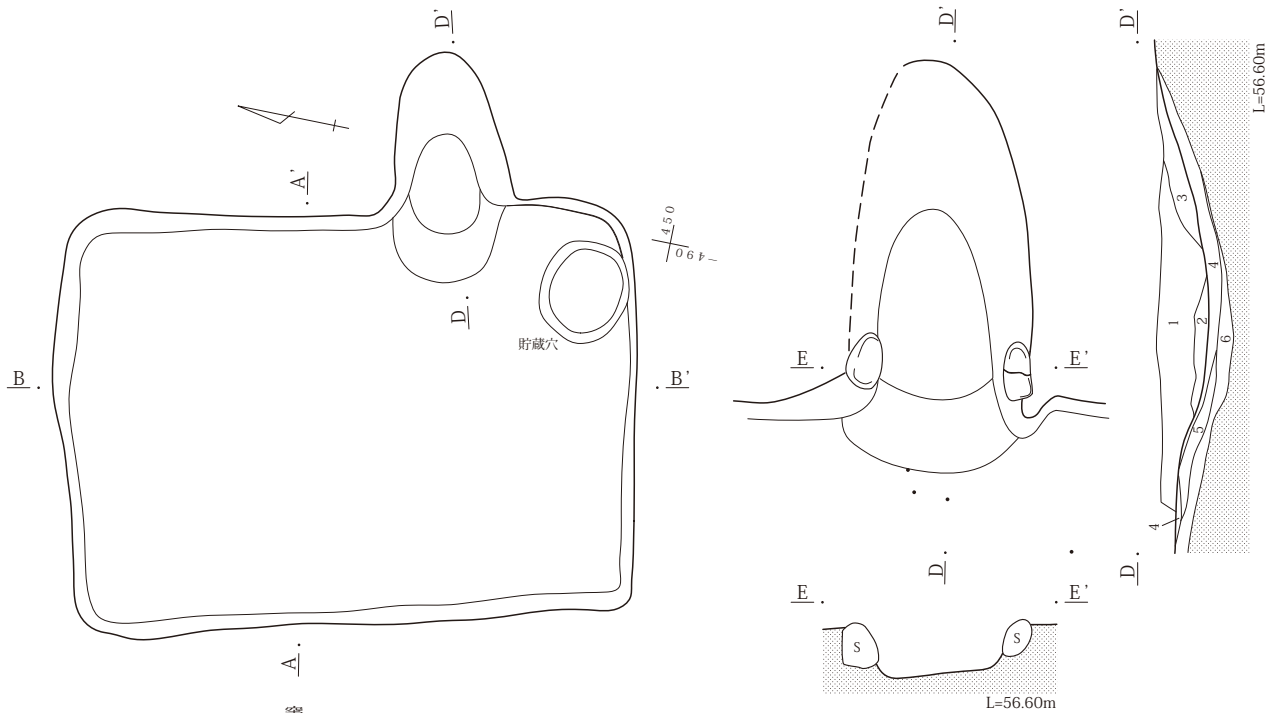
貯蔵穴 南東隅、竈の右脇で検出された。楕円形状を呈し、長軸85cm、短軸73cm、深さ15cmを測る。暗褐色土が堆積していた。

遺物 床面直上からの出土遺物は、北東隅の土師器杯2、中央からやや北西寄りの土師器杯1、竈の左側で東壁際中央の須恵器椀4がある。また、埋没土中から土錘11が出土している。

所見 出土土器の特徴から10世紀第1四半期の所産と考えられる。



第123図 3区11号住居

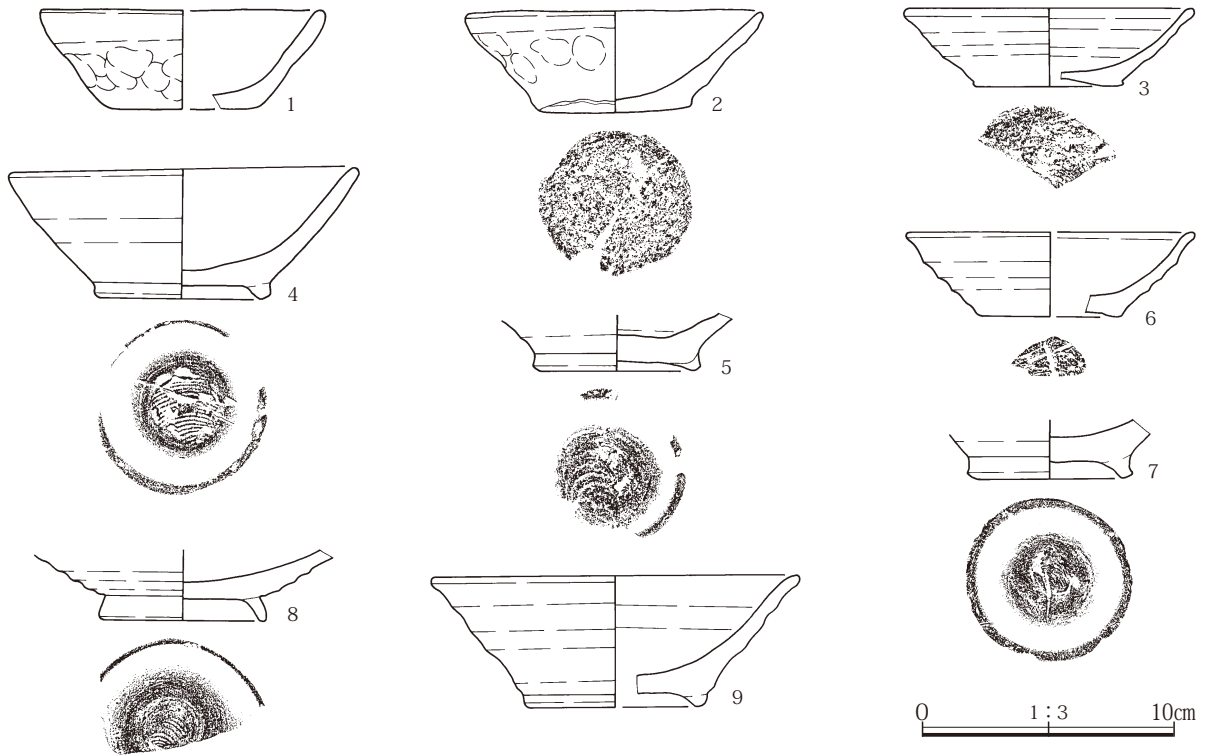


竈

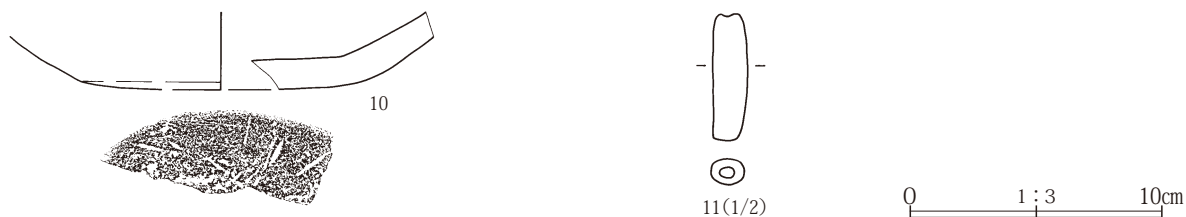
- 1 黒褐色土 やや砂質。ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒・焼土ブロック(径5mm前後)も少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック(径5~20mm)中量混入。
- 3 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒極少量含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒・炭化粒少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒極少量混入。
- 6 暗褐色土 粘質。ローム土少量混入。焼土粒極少量含む。

0 1:60(竈 1:30) 2m

第124図 3区11号住居カマド



第125図 3区11号住居出土遺物 1 1-9



第126図 3区11号住居出土遺物 2 10-11

3区12号住居 (第127～131図、P L 14・108)

位置 435、440-470、475

主軸方位 E-9°-N 面積 推定12.35㎡

重複 5号住居に先出すると考えられるが両者の区別は判然としない点が多かった。

形状 東西に長軸を有する縦長矩形を呈する。北壁は弱く張り出している。四隅はやや丸みをおびる。

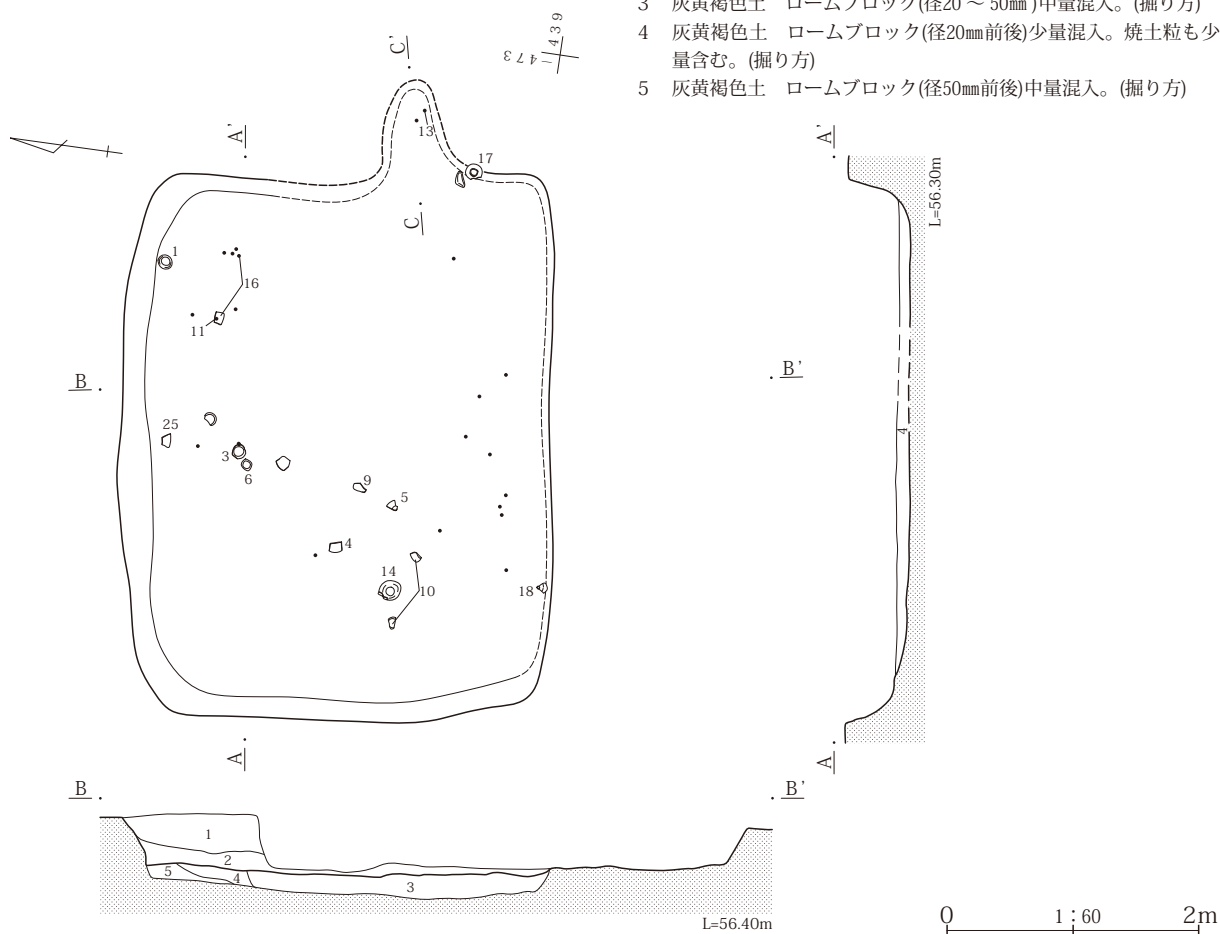
規模は、長軸4.26m、短軸3.42mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していたが、5号住居・13号住居の埋没土との識別は困難であった。

床面 北壁部分における壁面の残存は40cm前後であった。19号住居の埋没土中に構築されていた。概ね平坦であったと考えられる。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。土層断面の観察からは掘り方

住居

- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒・炭化粒も少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径5～20mm)少量混入。焼土粒・炭化粒も少量含む。
- 3 灰黄褐色土 ロームブロック(径20～50mm)中量混入。(掘り方)
- 4 灰黄褐色土 ロームブロック(径20mm前後)少量混入。焼土粒も少量含む。(掘り方)
- 5 灰黄褐色土 ロームブロック(径50mm前後)中量混入。(掘り方)



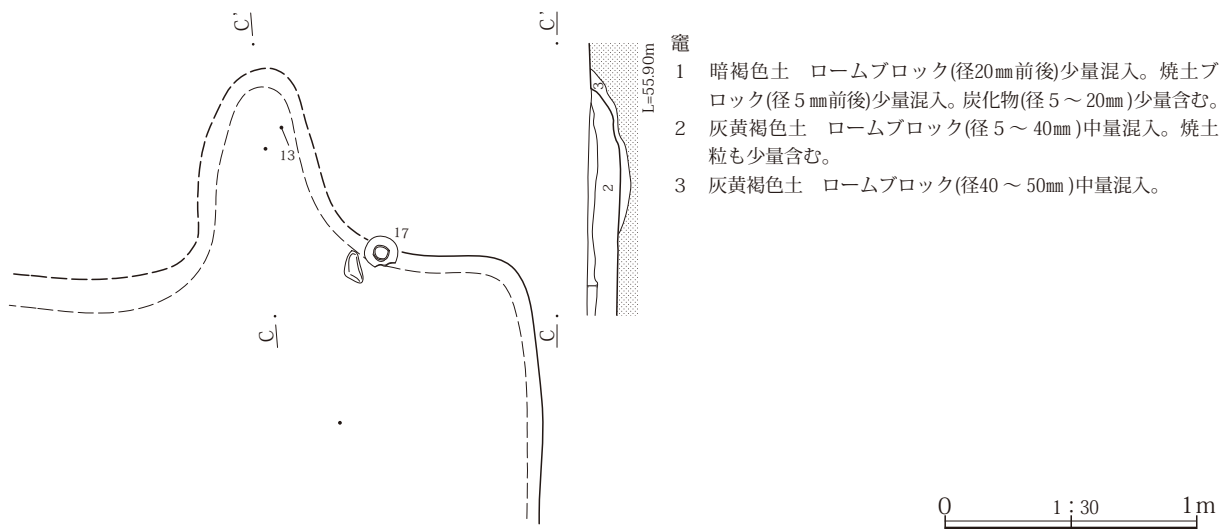
第127図 3区12号住居遺物出土状態

も存在し、灰黄褐色土が堆積していたようであるが、床下土坑等の存在は見られなかったようである。

竈 東壁の中央から南側寄りで検出した。燃烧部は、他遺構との重複により削平を受け、詳細な平面形状を確認することはできなかった。焼土・炭化物の散布状況から燃烧部は、住居の壁面を掘り込んで壁外に構築されていたようである。規模は、確認長85cm、燃烧部幅47cmが想定される。

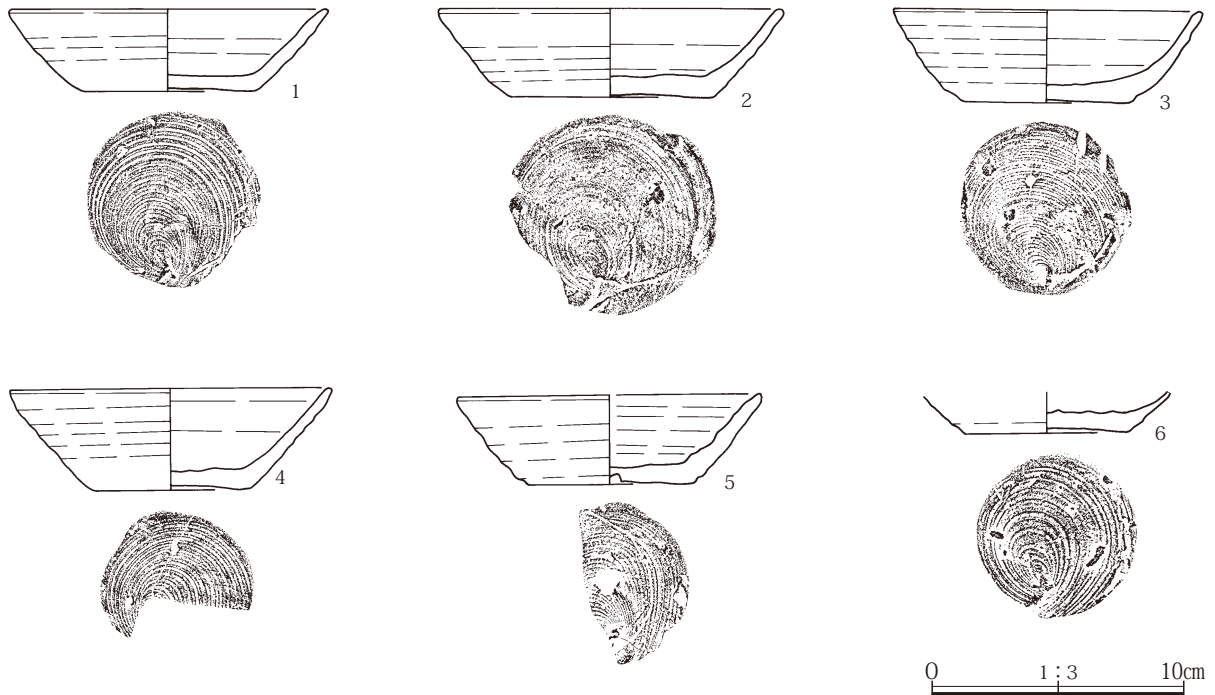
遺物 竈右前から須恵器皿17が出土している。北東隅寄りの須恵器杯1、中央からやや西壁寄りの須恵器片口椀（機能を意図して成形されたものではなく、製作時に形状が歪んだものである可能性もある）14も床面直上からの出土である。

所見 出土土器の特徴から9世紀第3四半期の所産と考えられる。

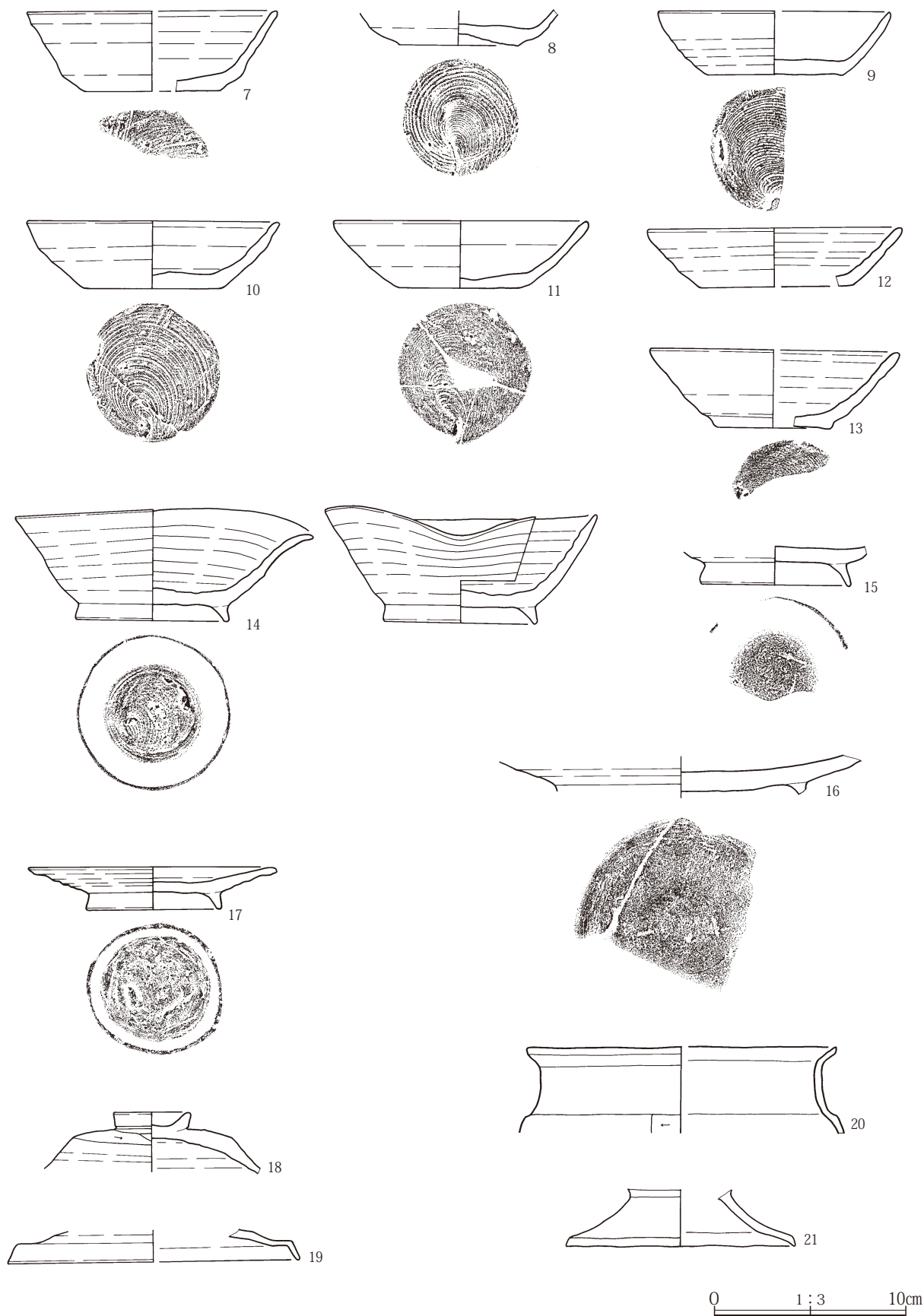


- 竈
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径20mm前後)少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量混入。炭化物(径5~20mm)少量含む。
 - 2 灰黄褐色土 ロームブロック(径5~40mm)中量混入。焼土粒も少量含む。
 - 3 灰黄褐色土 ロームブロック(径40~50mm)中量混入。

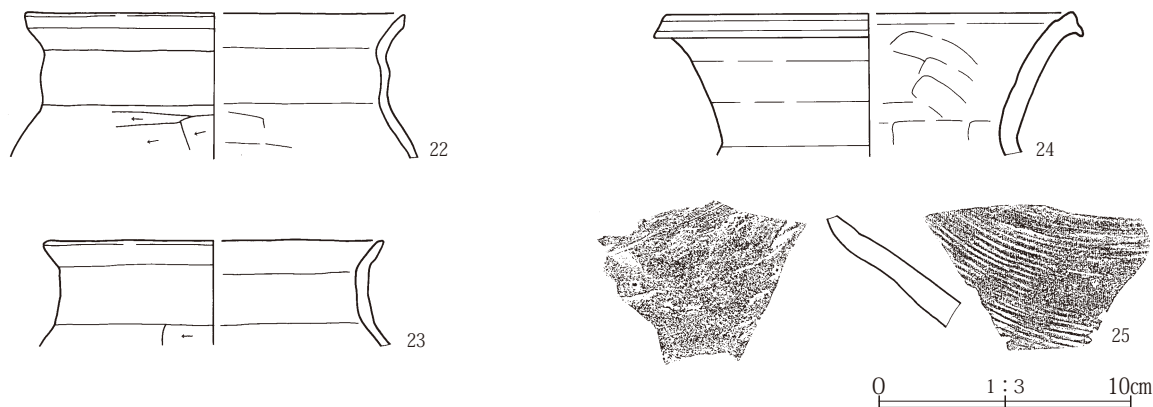
第128図 3区12号住居カマド



第129図 3区12号住居出土遺物 1 1-6



第130图 3区12号住居出土遺物2 7-21



第131図 3区12号住居出土遺物3 22-25

3区14号住居 (第132・133図、P L 14・108)

位置 430-500

主軸方位 E-20°-N 面積 計測不能

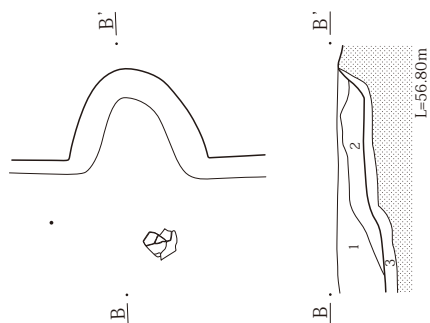
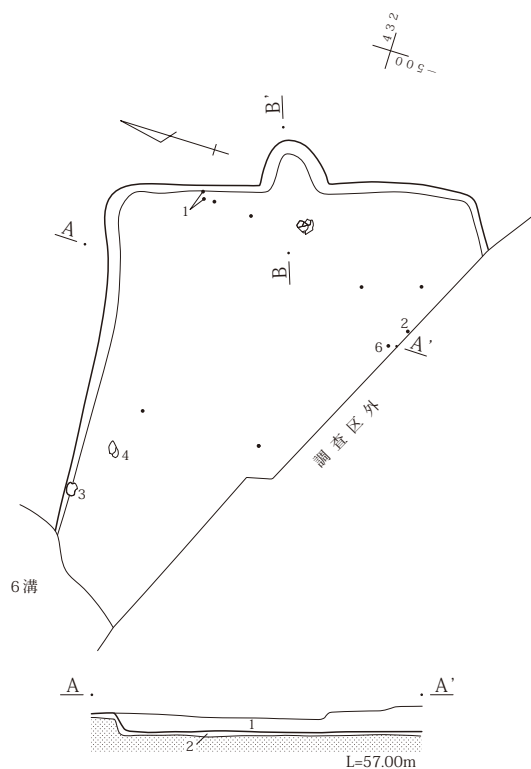
重複 20号住居に後出する。

形状 南西部分が調査区外に及ぶため全体の構造は判然としないが、東西方向に長軸を有する縦長の長方形を呈すようである。長軸方向の残存長は3.56mを測る。東壁寄りの短軸は3.04mである。

埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁中央で検出された。燃烧部は皿状に掘り込まれ、一部、住居の壁面を掘り込んで構築されている。規模は、確認長47cm、燃烧部幅38cmを測る。埋没土中から土師器甕の破片が出土したが資料化す



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)少量混入。
- 2 暗黄褐色土 砂質。ローム(径30%)と砂(径50%)の混土。

竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1~3mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に40%混入。白色軽石(径3mm)微量混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 焼土粒(径2mm)少量混入。

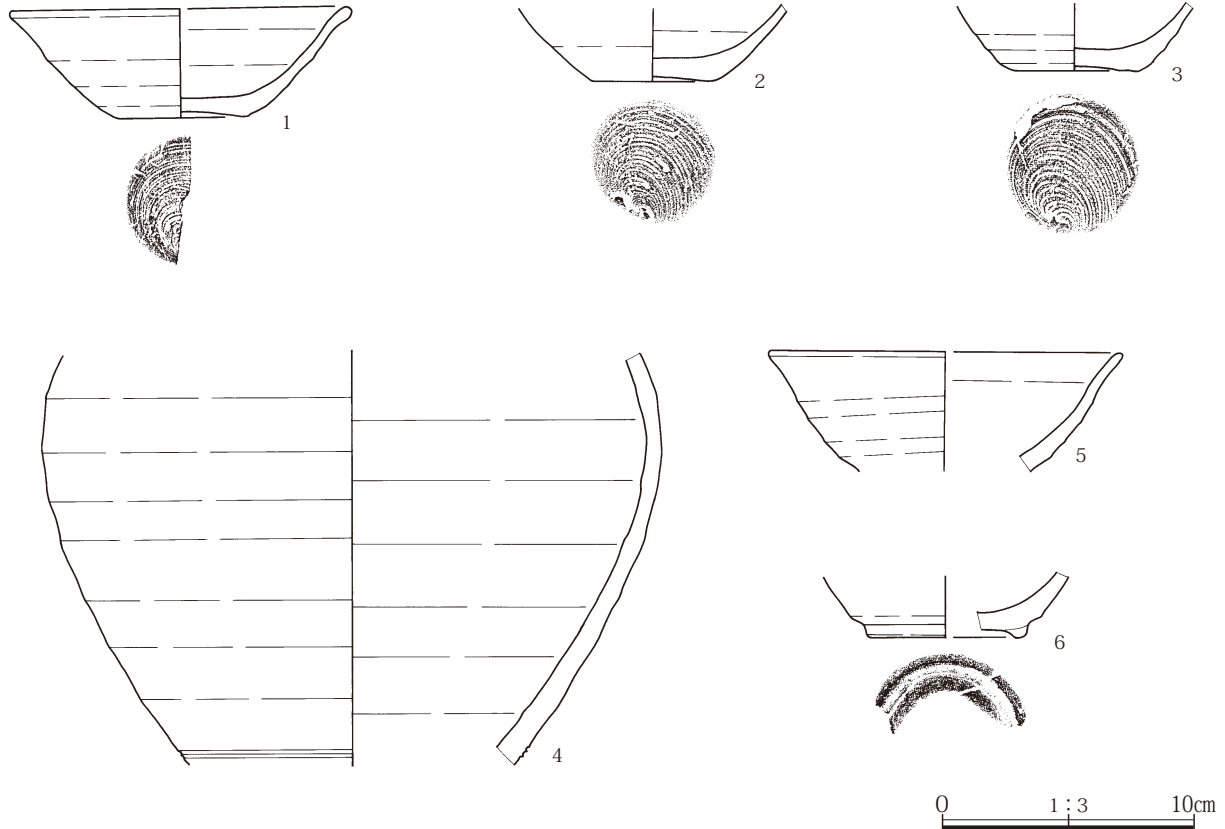
0 1:60(竈 1:30) 2m

第132図 3区14号住居

るに足り得なかった。

遺物 東壁際の床面直上から須恵器杯1が出土している。

所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



第133図 3区14号住居出土遺物 1-6

3区15号住居 (第134～136図、P L 14・108)

位置 435、440-485、490

主軸方位 E-25°-N 面積 10.97㎡

重複 27号住居に後出、9号住居に先出すると考えられるが判然としない点も残された。

形状 東西に長軸を有するがほぼ正方形を呈する。規模は長軸3.62m、短軸3.58mを測る。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。3号溝による削平や9号住居との重複のため壁面の検出は不良であった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

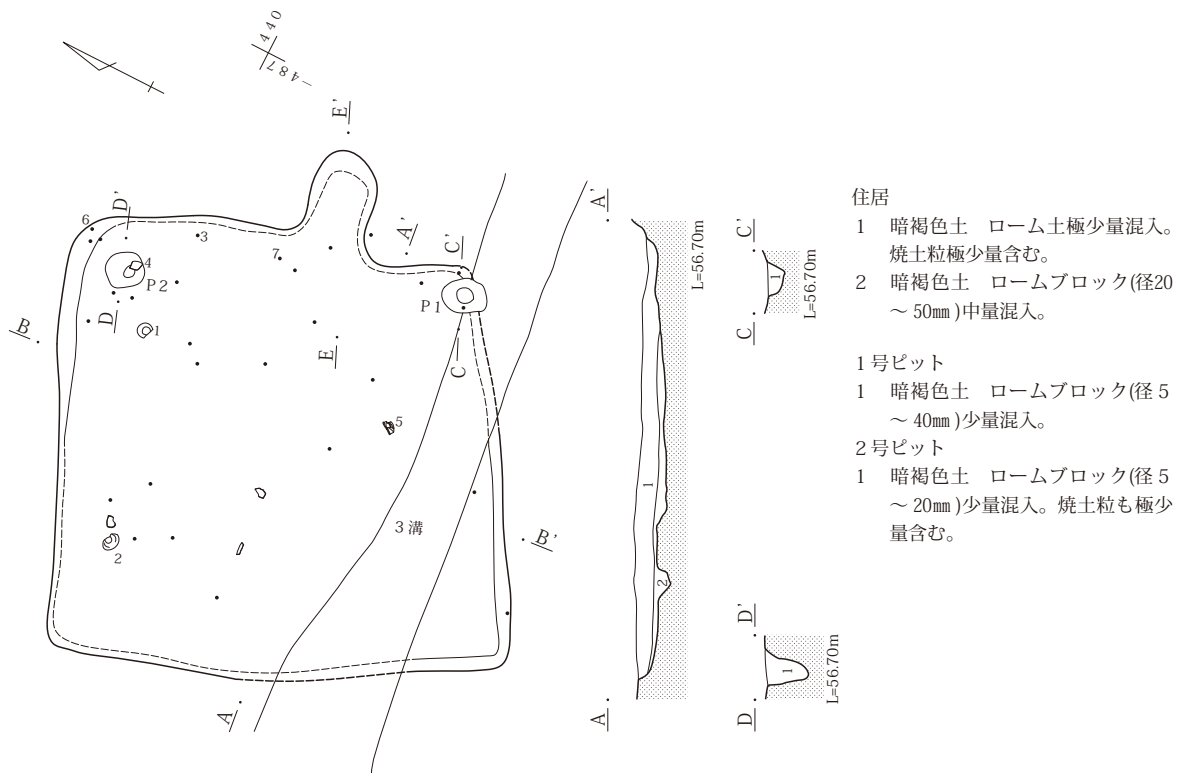
床面 壁面の残存は南西隅で31cm、北東隅で21cmを測った。床面は概ね平坦である。掘り方は細かな凹凸を伴っているが床下土坑などは見られなかった。暗褐色土が堆積していた。

竈 東壁の中央から南側寄りで検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込み壁外に構築されていた。規模は確認長70cm、燃烧部幅42cmを測る。

柱穴 2基が検出された。規模(径×深さ)は、P1が34×27cm、P2が30×35cmである。ともに暗褐色土が堆積していた。位置的に柱穴とは断定できない。

遺物 少量の出土を見たがいずれも床面からやや離れた状態での出土である。北壁寄りから出土した須恵器杯1・2ともに床面上5cmの高さからの出土である。

所見 重複関係、出土土器の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



住居

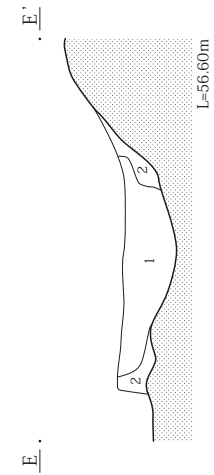
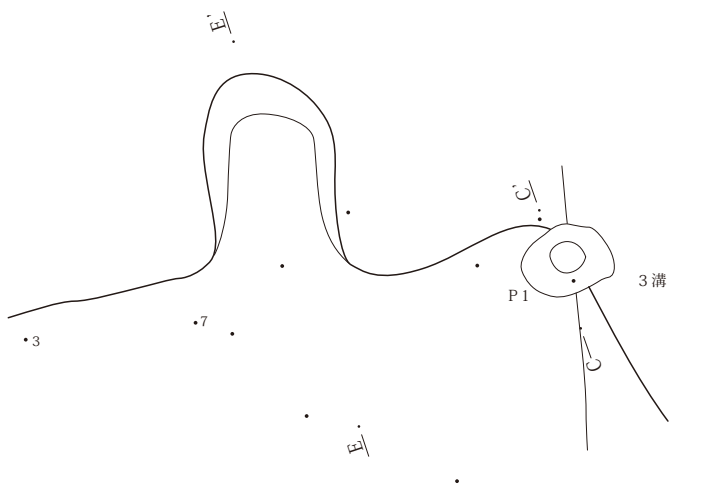
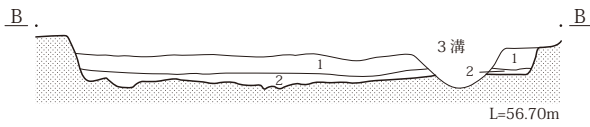
- 1 暗褐色土 ローム土極少量混入。焼土粒極少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径20~50mm)中量混入。

1号ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5~40mm)少量混入。

2号ピット

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒も極少量含む。

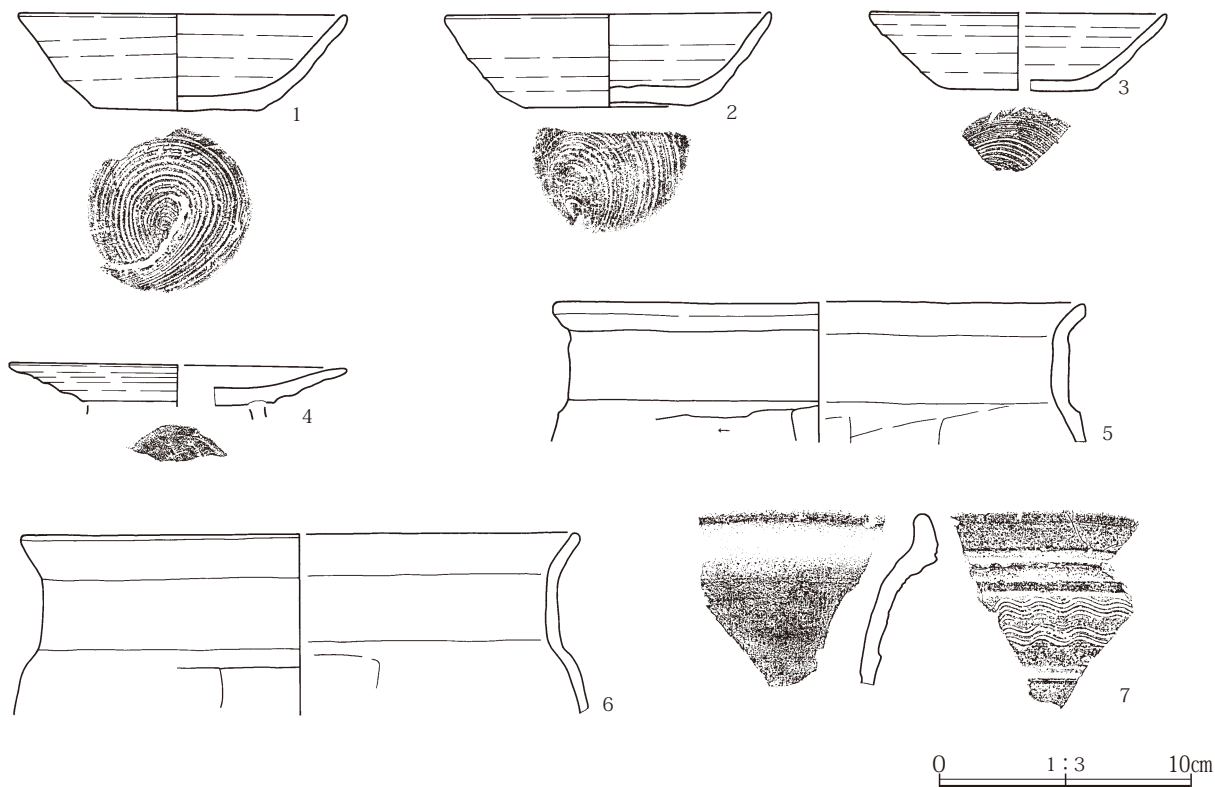


竈

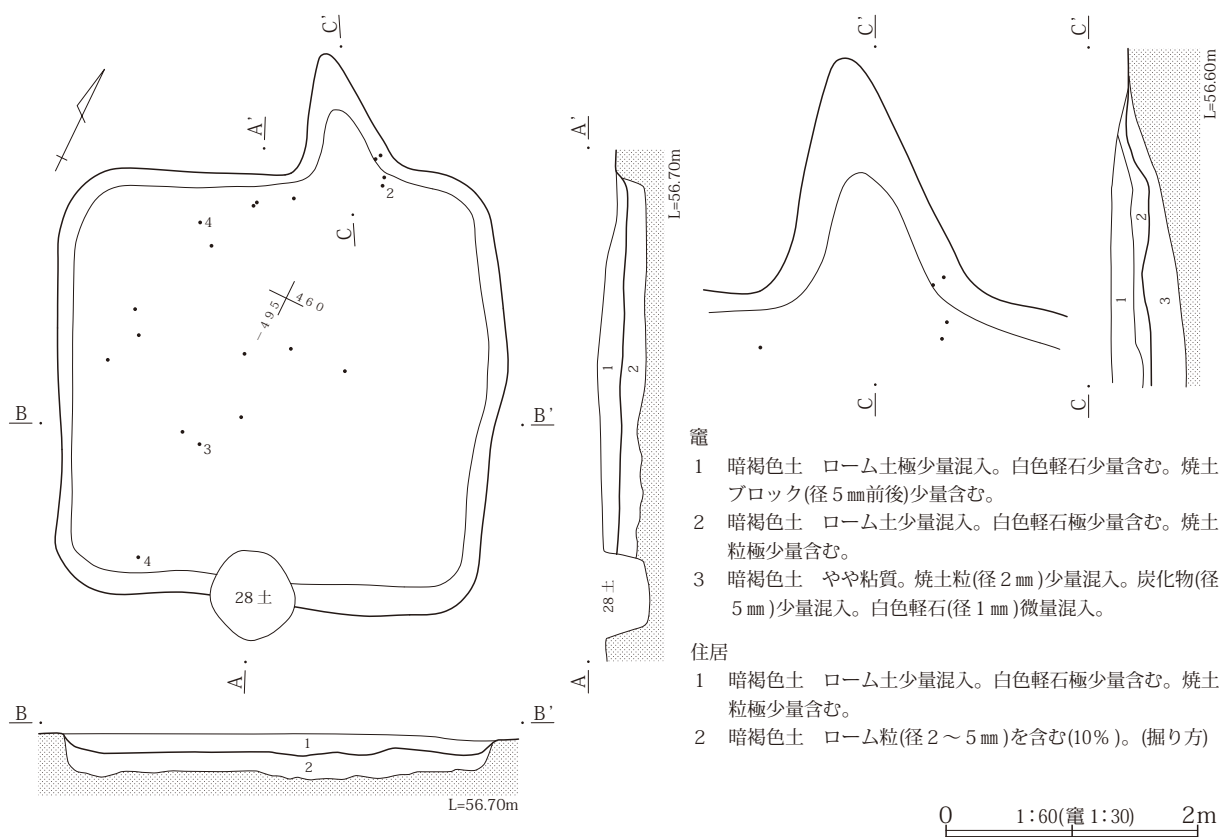
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)極少量混入。焼土粒・焼土ブロック(径5~20mm)少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径20~40mm)少量含む。焼土粒極少量含む。

0 1:60(竈 1:30) 2m

第134図 3区15号住居



第135図 3区15号住居出土遺物 1-7



竈

- 1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒極少量含む。
- 3 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)微量混入。

住居

- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒極少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒(径2~5mm)を含む(10%)。(掘り方)

第136図 3区16号住居

3区16号住居（第137図、P L 15）

位置 455、460-490、495

主軸方位 N-23°-W 面積 10.23㎡

重複 24号住居に後出、28号土坑に後出する。

形状 長軸は東西方向にあるがほぼ正方形形状を呈する。規模は長軸3.55m、短軸3.38mを測る。南壁は中央部分が外方に僅かに弧を描いている。四隅はわずかに丸みをおびている。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

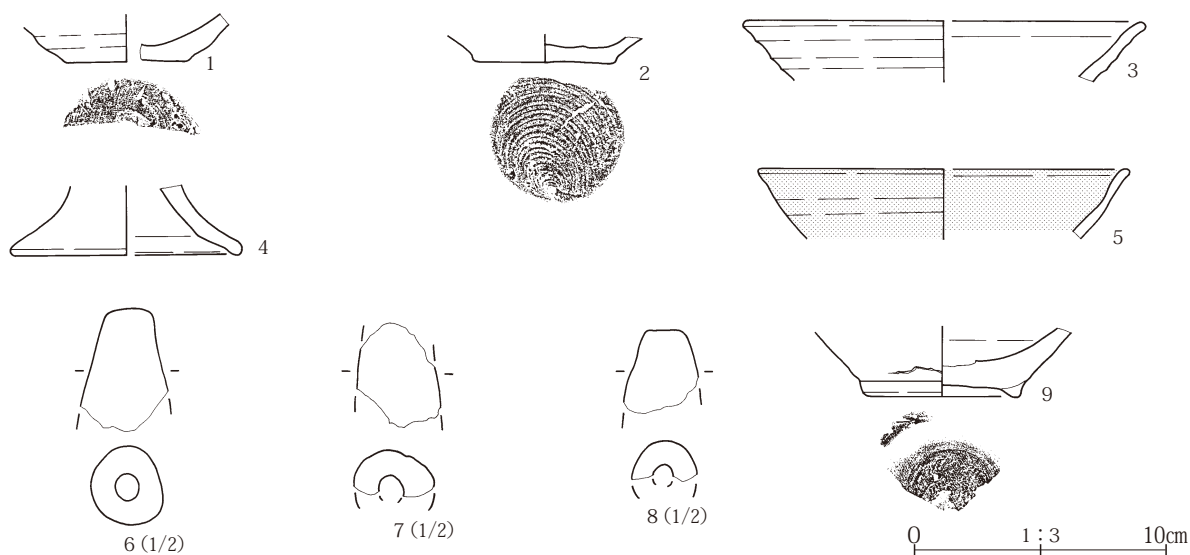
床面 確認面から最大18cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。床面から掘り方底面までは7

から15cmを測る。

竈 北壁の中央からやや東側寄りで検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込んで壁外に構築されていた。奥部で底面の傾斜に変化が見られることから、これに続く煙道部の基部も合わせて検出されたものとする。規模は、確認長105cm、燃烧部幅45cmを測る。

遺物 須恵器杯・椀などが出土したが全体的には少なく、床面から離れた状態で出土している。埋没土中から土錘6から8が出土している。

所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀前半と考えられる。



第137図 3区16号住居出土遺物 1-9

3区17号住居（第138・139図、P L 15・108）

位置 455、460-495、500

主軸方位 N-24°-E 面積 推定14.12㎡

重複 24号・30号・33号住居に後出する。2号溝に切られる。

形状 東西方向に長軸を有する横長の長方形形状を呈する。南西部分は2号により削平を受けている。規模は、長軸4.52m、短軸3.74mを測る。各辺とも直線を指向している。

埋没土 暗褐色土1層が堆積していた。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築

する。床面は平坦であったが南西から北西に向かって緩やかに傾斜していた。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

竈 北壁の中央からやや東側寄りで検出した。燃烧部は住居の壁面を掘り込んで構築されていた。焚き口部手前も含め皿状に大きく掘り込まれていた。規模は、確認長120cm、燃烧部幅72cmを測る。

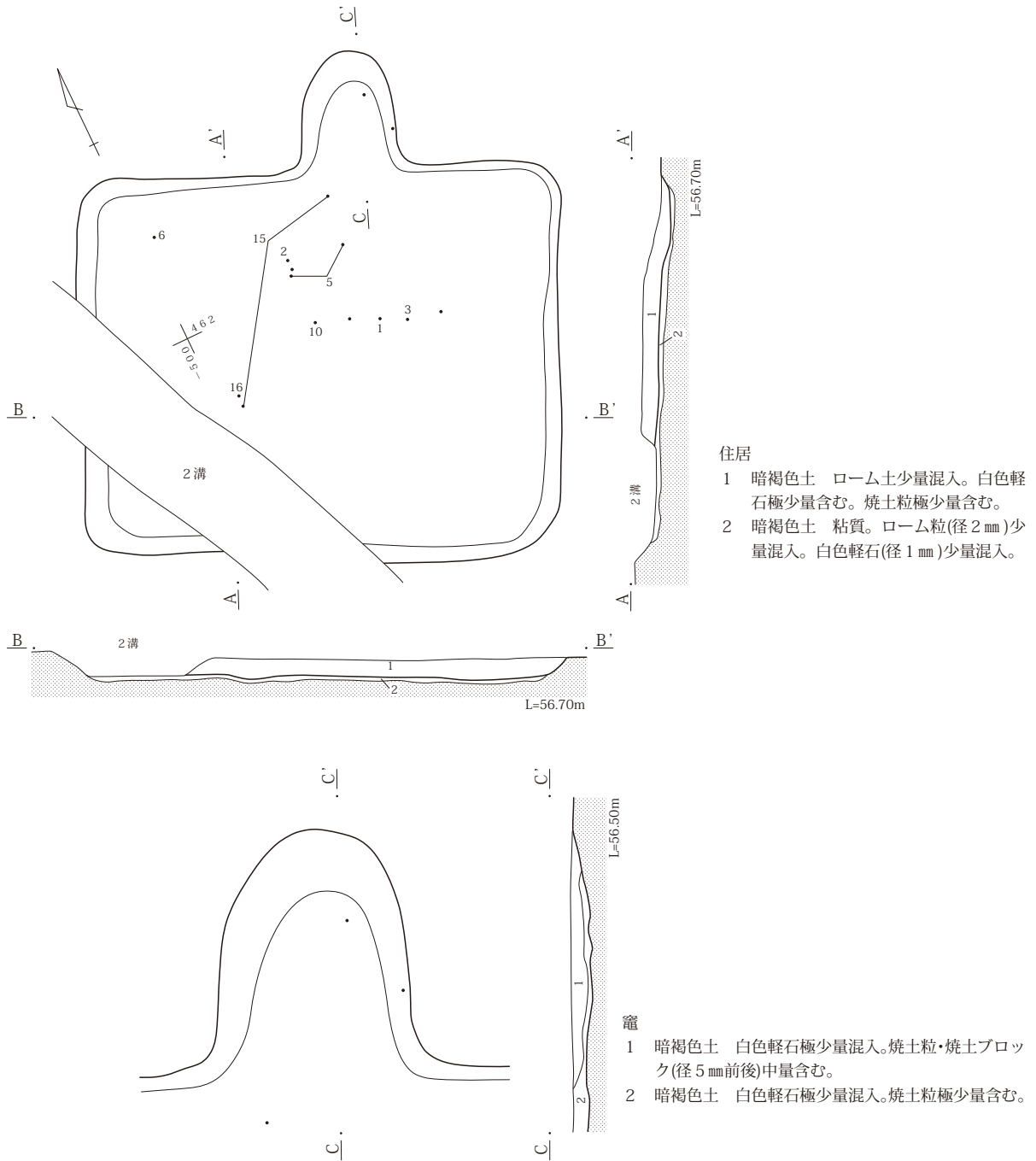
柱穴 図示からは除いたが、床面精査の段階でピット3基が検出された。規模（長径×深さ）はP1が39×22cm、P2が39×17cm、P3が26×21cmである。位置や規模から判断すれば、これらを柱穴

と認定することは困難である。

遺物 遺物の出土は少なかった。須恵器椀、灰釉陶器椀などが出土しているが、床面密着の遺物はなく、いずれも床面から浮いた状態で出土している。埋没土中から円面硯9の破片が出土した。また、土

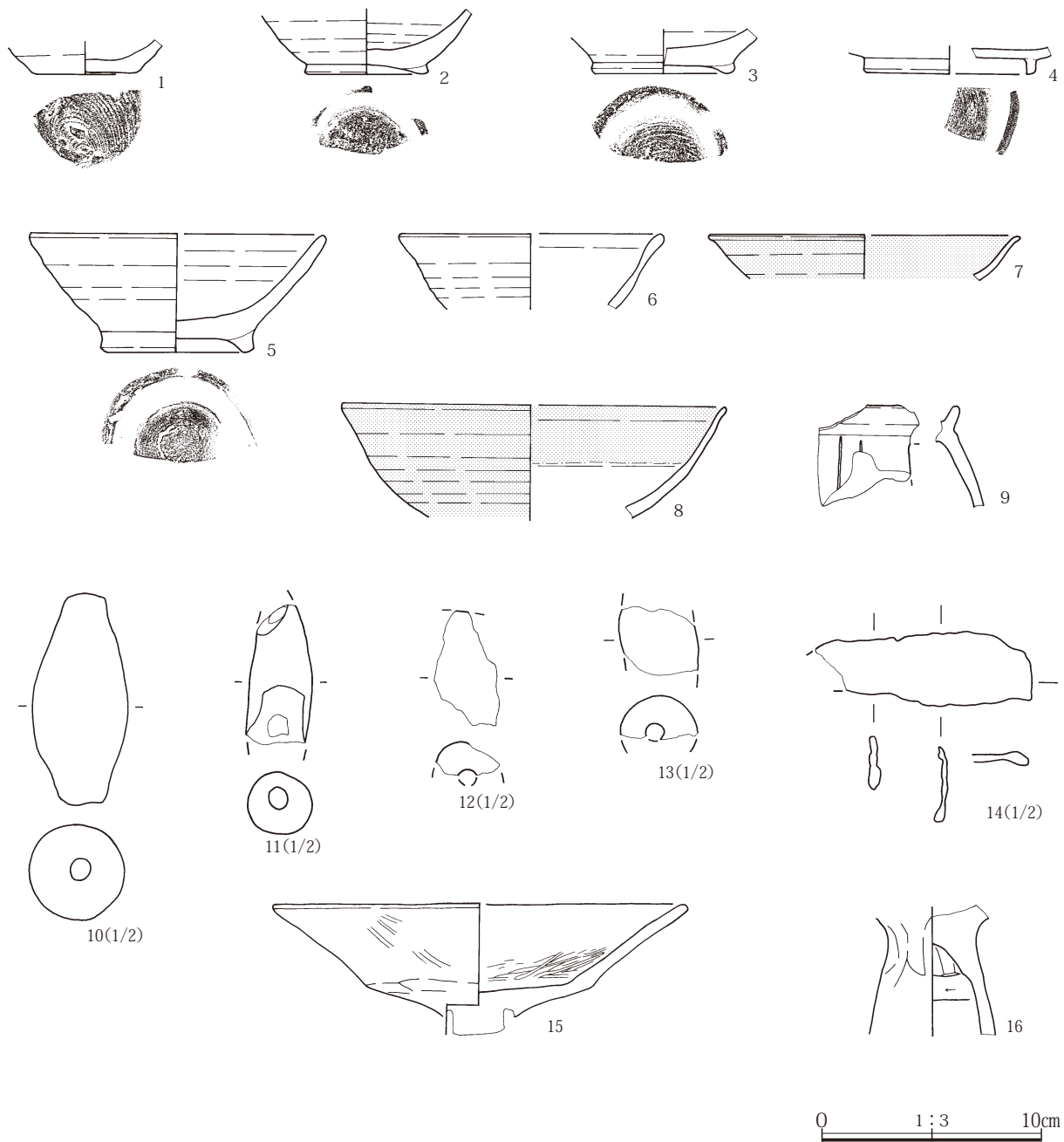
鍾10～13の4点が出土している。15・16は33号住居からの混入品である。

所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



0 1:60(竈 1:30) 2m

第138図 3区17号住居



第139図 3区17号住居出土遺物 1-16

3区18号住居 (第140～143図、P L 15・108・109)

位置 460-500、505

主軸方位 N-3°-E 面積 13.26㎡

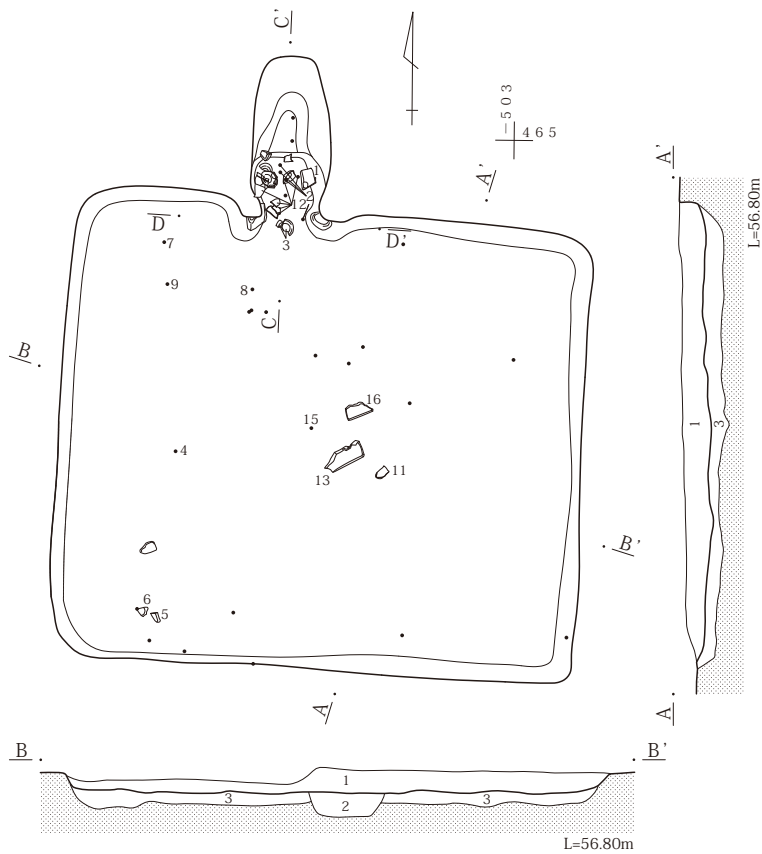
重複 33号住居に後出する。

形状 南北方向に長軸を有する横長の長方形を呈する。規模は長軸4.15m、短軸3.72mを測る。各辺とも直線を指向している。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

埋没土 暗褐色土1層が堆積していた。

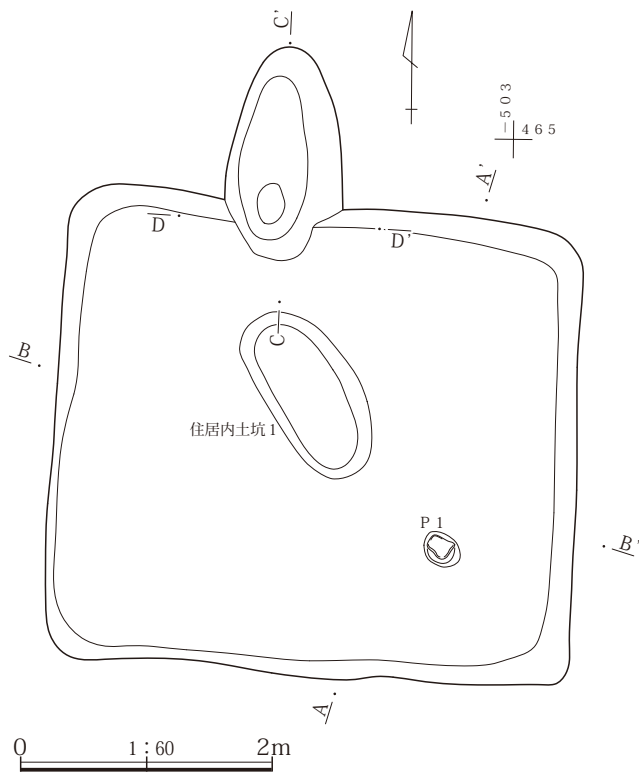
床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。

竈 北壁の中央から西側寄りで検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込み、壁外に構築されていた。左右の袖部は基部に自然礫を各1石ずつ据え、焚き口部分の補強を図っていた。燃烧部の奥寄りには支脚石2石が横並びに付設されていた。確認長162cmを測る。燃烧部は皿状に掘り込まれ、袖石から約50cmの位置で5cm程立ち上がる。ここから壁外までは



住居

- 1 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土粒も少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)少量混入。白色軽石も少量含む。(1号土坑)
- 3 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石も少量含む。(掘り方)



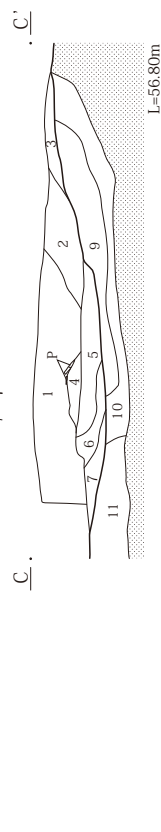
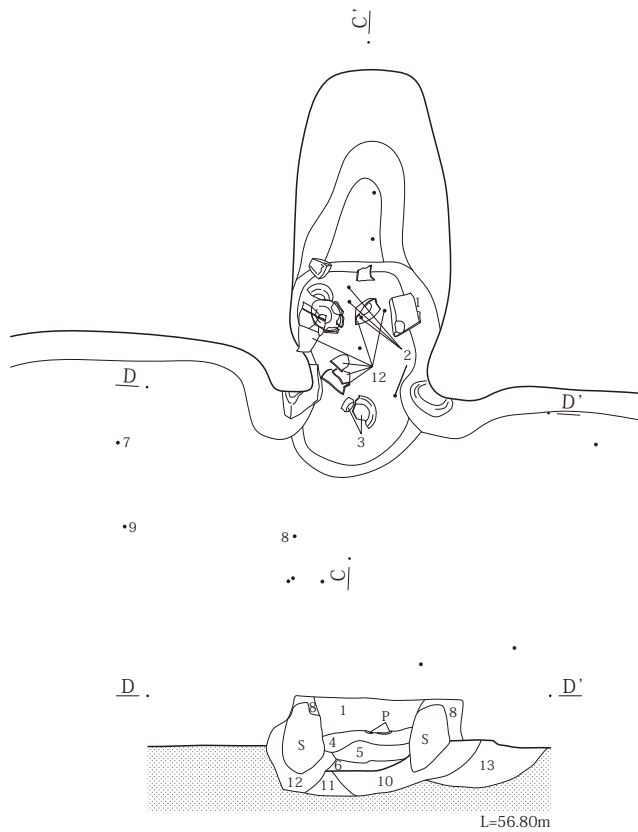
第140図 3区18号住居遺物出土状態

煙道部の基部が残存していたものと考えられる。燃烧部の長さは95cm、幅は34cmである。燃烧部内から多数の土器が出土している。

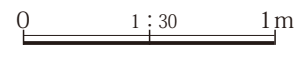
掘り方 床面下の精査の結果、竈の前、床面のほぼ中央から床下土坑1基が検出された。楕円形状を呈し、長軸144cm、短軸72cm、深さ34cmを測る。上層に黒褐色土、中・下層に暗褐色土が堆積していた。また、南西部分で、長径32cmで内部に偏平な礫を含む小穴が検出された。南西隅と北東隅の対角線上に位置するため、柱の礎石とその掘り方の可能性も考えられるが断定するにはいたらなかった。

遺物 竈内から須恵器杯1・2・3、土師器甕12がまとめて出土している。甕12は左側の支脚に大型の破片が乗り、その前後に破片が散っていた。杯1は二つの支脚の間から、杯3は焚き口部からの出土である。住居廃絶時に一括して廃棄されたものであろう。床面のほぼ中央では、床面から5～9cm離れた状態で瓦13・16が出土している。土鍾は竈埋没土中から14が、瓦に接して床面直上から15が出土している。

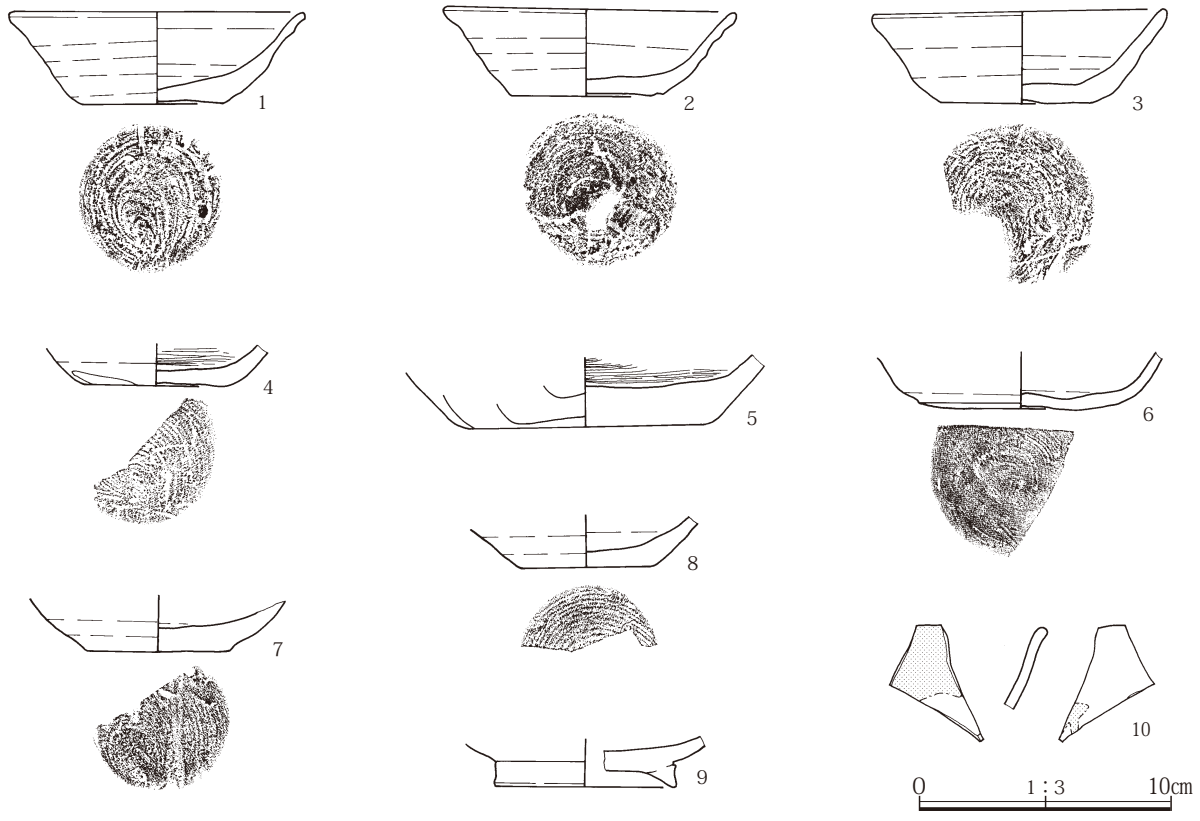
所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



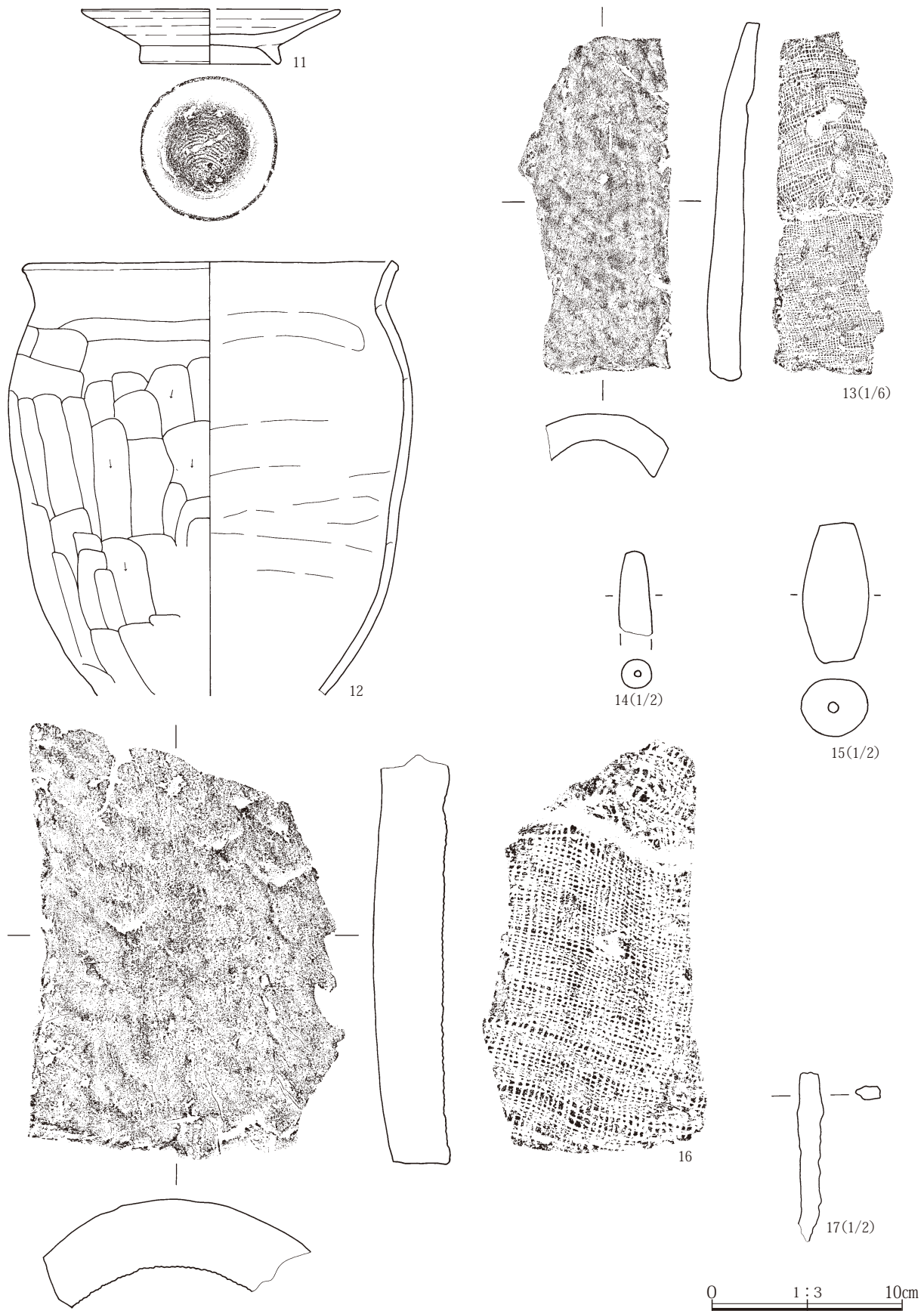
- 竈
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。
 - 2 明褐色土 焼土粒。焼土ブロック(径5mm前後)中量混入。
 - 3 明褐色土 焼土粒。焼土ブロック(径5mm前後)多量に混入。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土ブロック(径5~20mm)中量含む。
 - 5 暗褐色土 ローム土少量混入。焼土ブロック(径5~10mm)中量含む。
 - 6 暗褐色土 焼土ブロック(径5mm前後)少量混入。炭化物(径5~30mm)中量含む。
 - 7 暗褐色土 ローム土少量混入。焼土粒・炭化粒少量含む。
 - 8 暗褐色土 粘質。ローム土・ロームブロック(径5~10mm)中量混入。
 - 9 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック(径5mm前後)中量混入。
 - 10 暗褐色土 焼土ブロック(径5mm前後)少量混入。
 - 11 暗褐色土 ローム土極少量混入。焼土粒・炭化粒極少量含む。
 - 12 暗褐色土 粘質。ローム土・ロームブロック(径5~10mm)少量混入。
 - 13 暗褐色土 ローム土極少量混入。焼土粒極少量含む。



第141図 3区18号住居カマド



第142図 3区18号住居出土遺物 1 1-10



第143图 3区18号住居出土遺物2 11-17

3区20号住居 (第144・145図、P L 16・109)

位置 430-500

主軸方位 E-3°-N 面積 計測不能

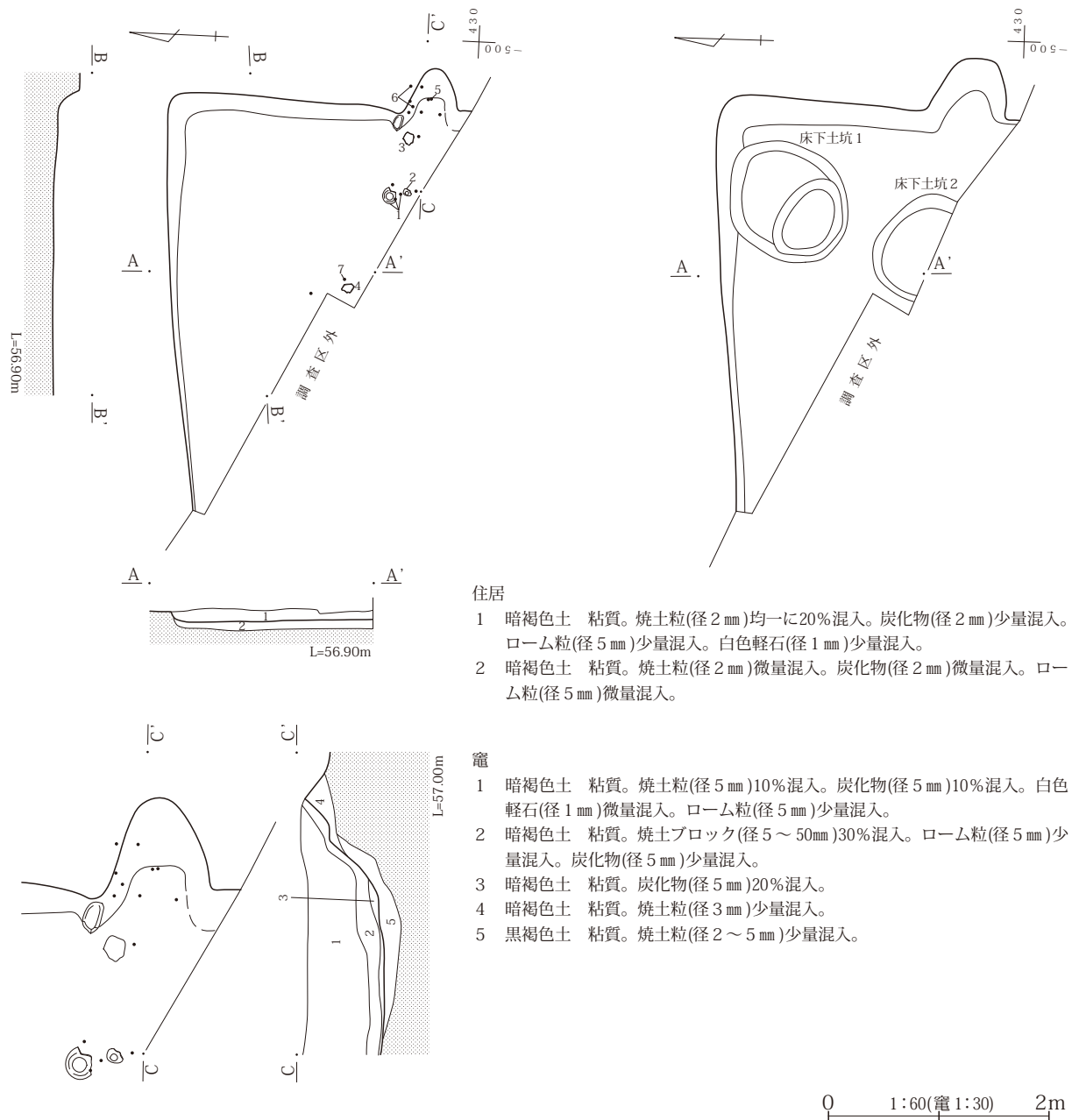
重複 14号住居に先出する。

形状 南西部分の大半が調査区外に及んだため全体の構造は判然としない。北東隅を中心に東壁、北壁の一部を検出した。東壁の残存が良好であった。調査範囲内における検出長は東西3.81m、南北2.73mを測った。

埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁で検出した。確認長56cm、燃烧部幅29cmと住居の壁外への掘り込みは浅い。土層断面の観察による焼土の広がりからも、袖部がさらに手前に伸びていた可能性が考えられる。竈の掘り込みと住居の壁面の接点部分から出土した円礫は竈の補強材と



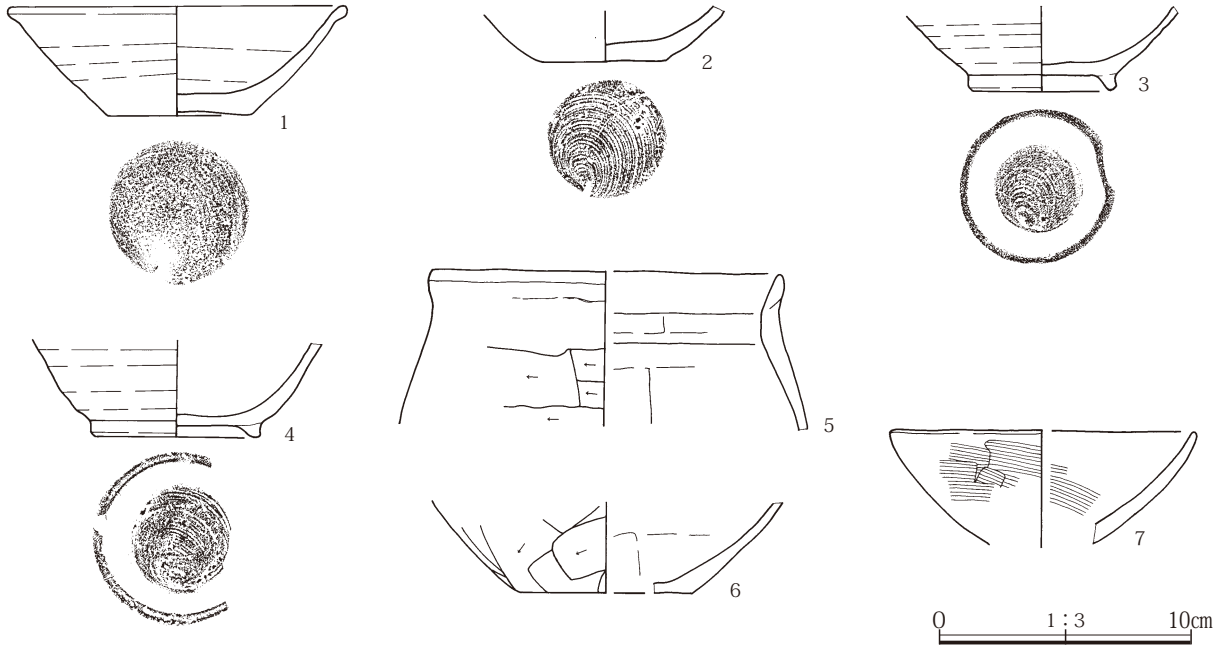
第144図 3区20号住居

考えられる。

掘り方 北東隅と竈手前の2箇所
で床下土坑が検出された。土坑1は楕円形状を呈し、長軸122cm、短軸102cm、深さ30cmを測る。土坑2は一部分の検出で、直径95cm、深さ12cmである。

遺物 竈内から土師器甕破片5が出土している。竈前の床面に近い位置で須恵器杯1と椀3が出土している。鉢7は混入品である。

所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀第2四半期と考えられる。



第145図 3区20号住居出土遺物 1-7

3区21号住居 (第146～149図、P L 16・109)

位置 440-505

主軸方位 N-1°-W 面積 7.38㎡

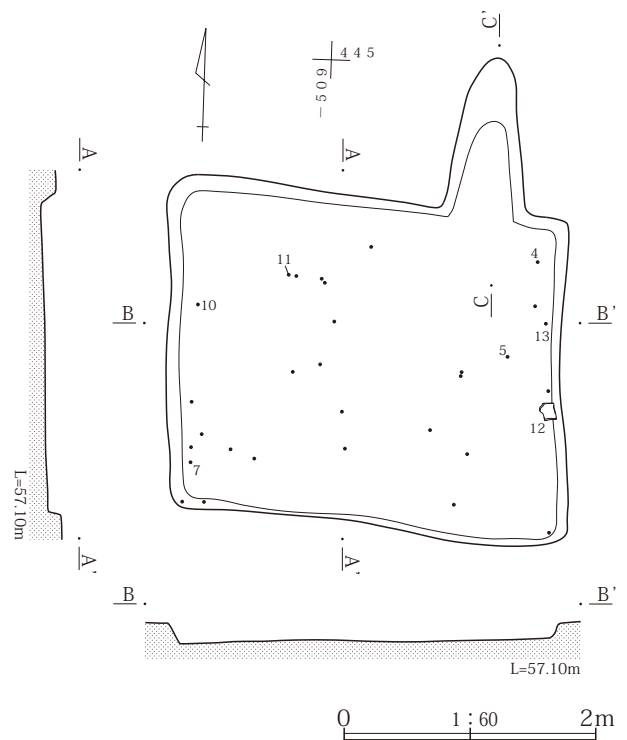
重複 36号住居と重複する。

形状 東西に長軸を有する横長の長形状を呈する。東壁は残存が良好であった。各辺とも直線を指向している。規模は長軸3.13m、短軸2.60mを測る。埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴・柱穴・周溝は検出されなかった。

竈 北壁の北東隅寄り
で検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込み、緩やかに立ち上がりながら煙道部へ移行していたものと考えられる。焚き口部は皿状に窪んでいた。規模は、確認長130cm、燃烧部幅50cmを測る。

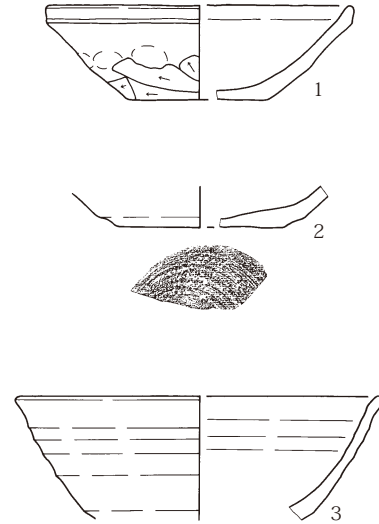
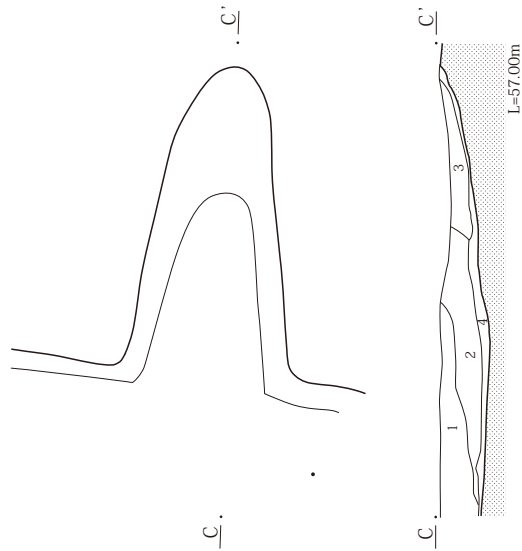
遺物 竈埋没土中から土師器杯1と羽釜6が出土



第146図 3区21号住居

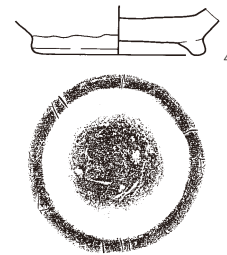
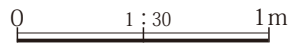
している。他に南壁際から瓦12、鉄釘13が出土している。7から11の土錘5点は床面の西側半分から広範囲に散った状態で出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。今回報告の住居中では出土例の少ない羽釜を伴出する事例である。

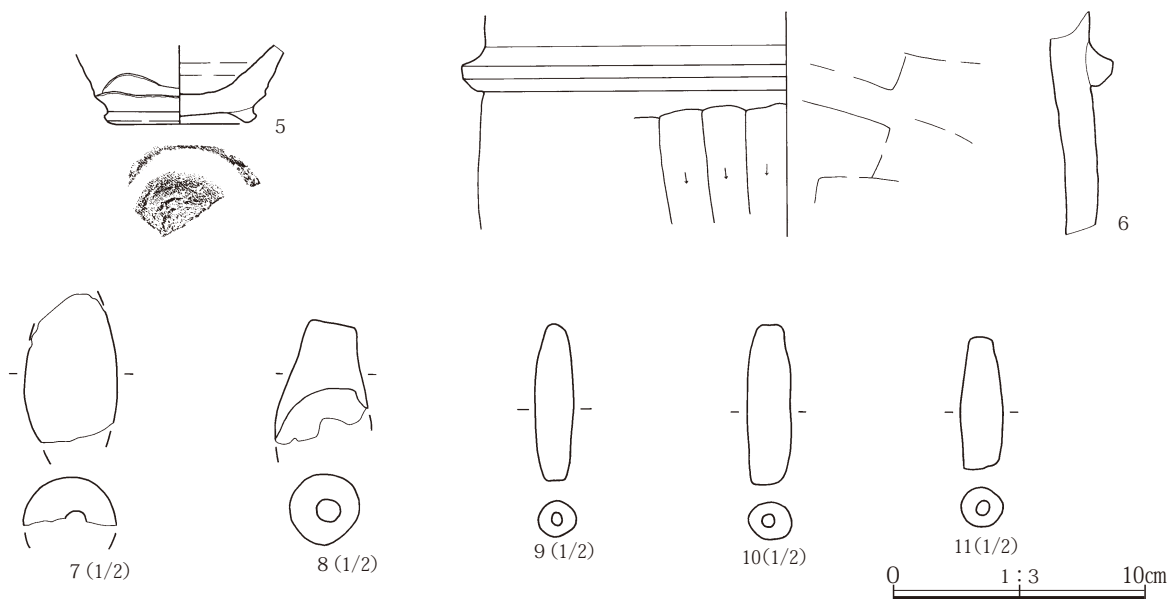


竈

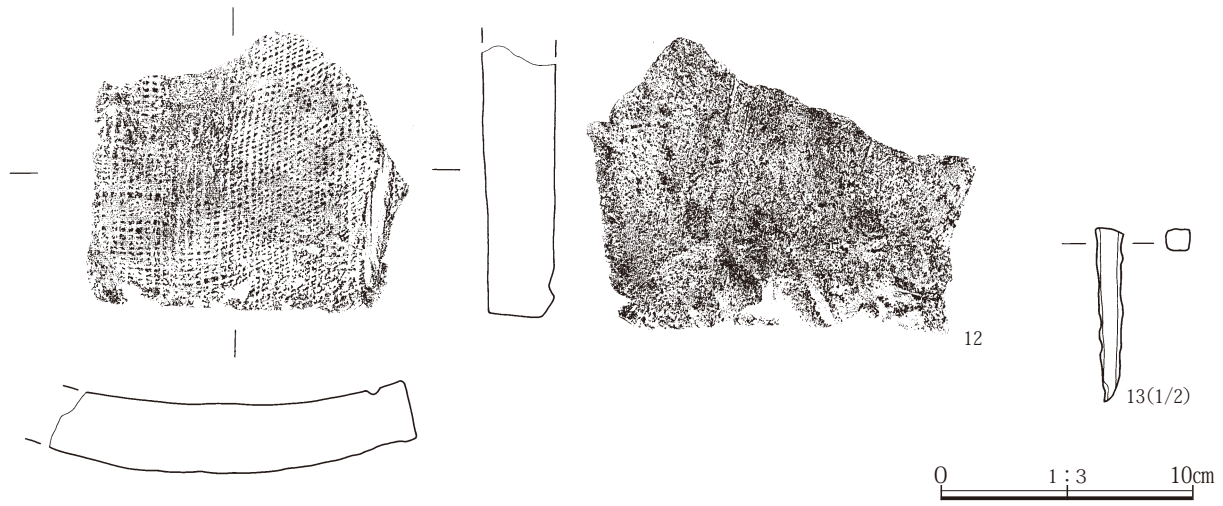
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に40%混入。ロームブロック(径5mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径10mm)少量混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。



第147図 3区21号住居カマド



第148図 3区21号住居出土遺物 1 1-11



第149図 3区21号住居出土遺物2 12-13

3区22号住居 (第150～153図、P L 16・109・110)

位置 435、440-510、515

主軸方位 E-13°-S 面積 推定11.33㎡

重複 29号・39号・52号住居に後出する。

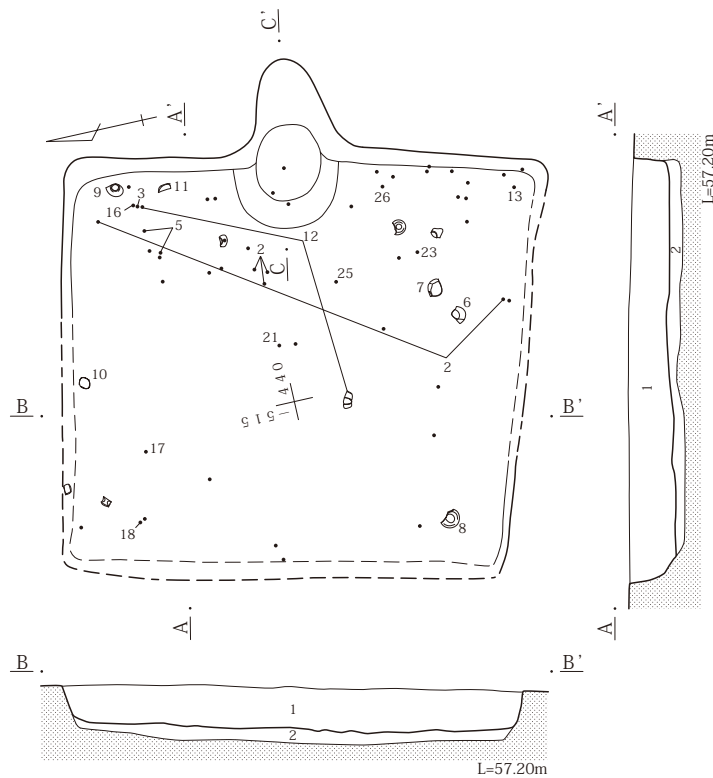
形状 南北に長軸を有するがほぼ正形状を呈すると思われる。検出が困難であったため、壁面は、竈の付設された東壁と南壁の南西隅近くの一部を検出したにとどまった。土層断面観察箇所における規

模は、南北3.62m、東西3.42mを測った。

埋没土 粘質の暗褐色土1層が堆積していた。

床面 確認面から最大36cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴・柱穴・周溝は検出されなかった。掘り方は特別に見られず、床面下全体に10cm程の掘り込みが見られ、暗褐色土が堆積していた。

竈 東壁の中央からやや北側寄りで見出された。



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に15%混入。炭化物(径5mm)少量混入。ローム粒(径3mm)均一に10%混入。白色軽石(径1～3mm)均一に10%混入。小礫(径5～10mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に5%混入。ローム粒(径3mm)均一に5%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。

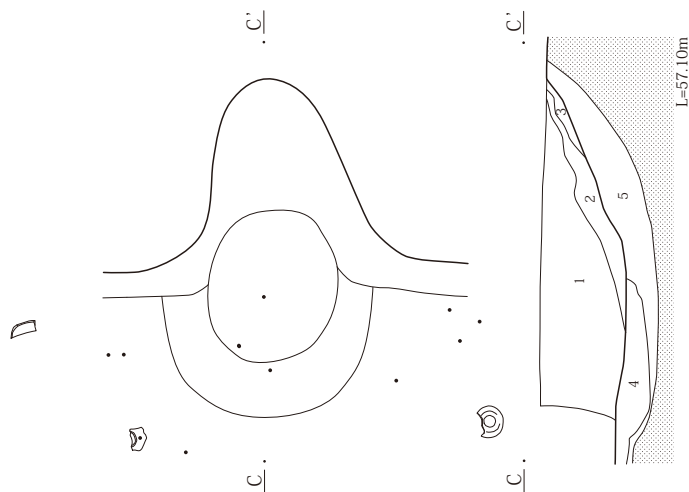
第150図 3区22号住居

燃烧部は床面を皿状に掘り込んでいる。奥部は住居の壁面を掘り込み、傾斜を持って煙道部に移行している。最終使用面の上位には焼土ブロックが堆積していた。規模は、確認長134cm、燃烧部長105cm、燃烧部幅51cmを測る。

遺物 竈の付設された東側を中心に、須恵器杯6、椀7・5・9・12、土師器台付甕16が床面直上から

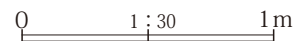
出土している。土製紡錘車の17・18の2点は北西寄りの埋没土中から、土錘4点のうちの23・25・26は竈右手前の埋没土中からの出土である。この他に埋没土中から瓦片や鉄釘が出土している。

所見 重複関係、出土遺物の関係から10世紀第1四半期の所産と考えられる。

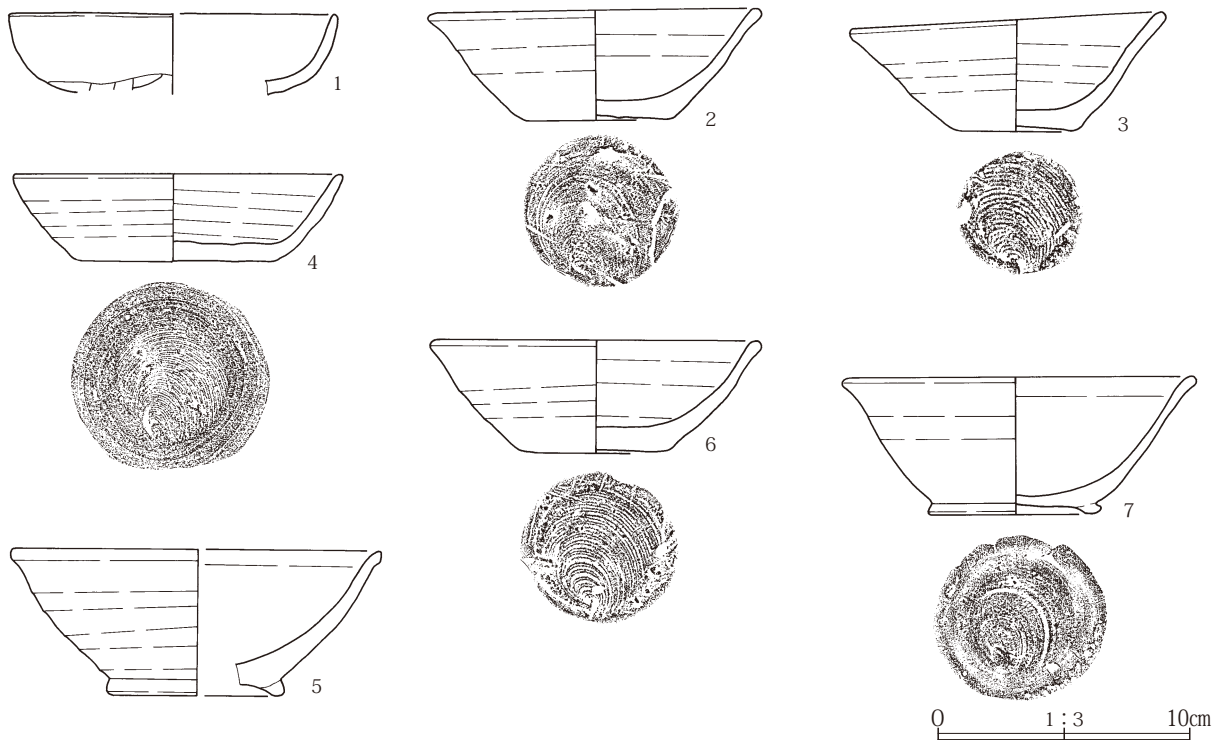


竈

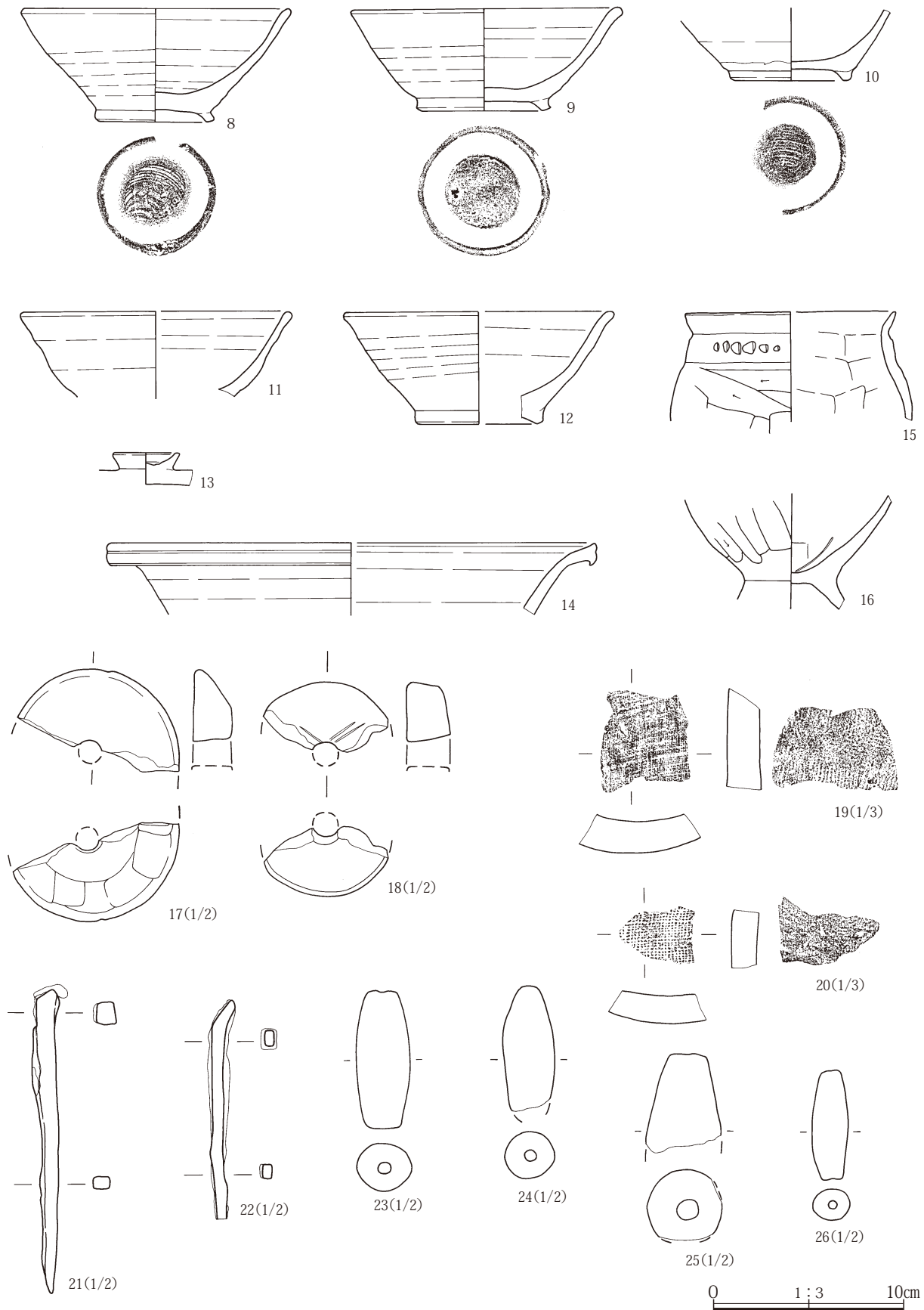
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)を10%混入。ローム粒(径2~5mm)を均一に10%混入。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径5~50mm)を20%混入。ローム粒(径2mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5~10mm)を30%混入。炭化物(径5mm)を20%混入。ローム粒(径5mm)少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)を少量混入。炭化物(径5mm)を少量混入。白色軽石(径1mm)を少量混入。



第151図 3区22号住居カマド



第152図 3区22号住居出土遺物 1 1-7



第153图 3区22号住居出土遺物2 8-26

3区24号住居 (第154～157図、P L 17・110)

位置 460-490、495

主軸方位 E-7°-N 面積 8.92㎡

重複 44号住居に後出する。16号・17号住居に先出する。

形状 正方形状を呈すが、南東隅が若干欠ける。南壁はほとんど削平を受け、壁面の立ち上がりは確認されなかった。北壁と比較して南壁は短いものであったと考えられる。規模は東西3.32、南北3.30m

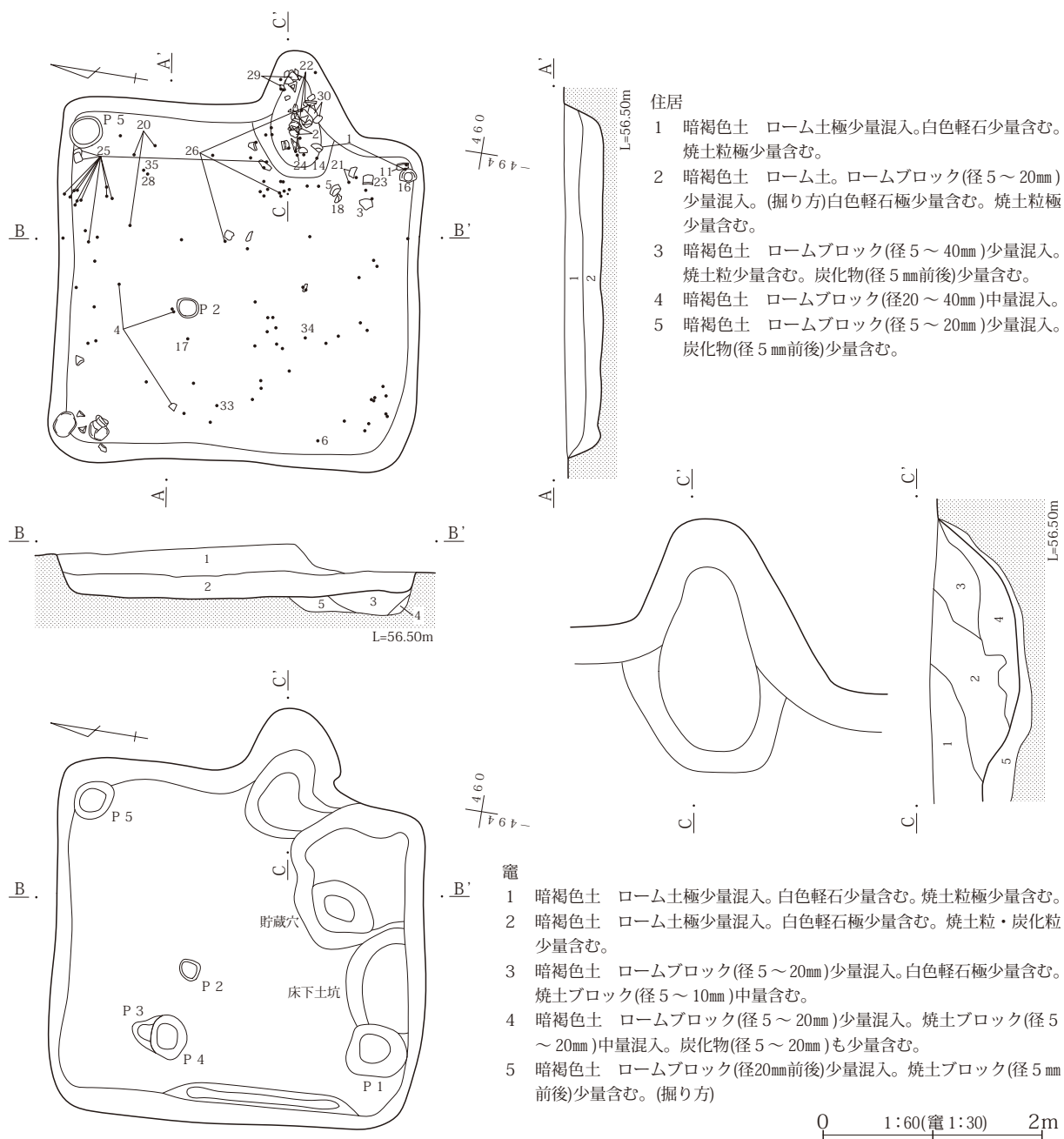
である。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大48cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。

周溝 掘り方部分を精査した際に西壁際の一部にのみ検出された。検出長は1.7m程で、幅20cm弱、深さ5cm程を測る。暗褐色土が堆積していた。

竈 東壁の南東隅寄りで検出された。燃烧部は、住居の壁面を掘り込み、斜め上方に立ち上がり煙道



第154図 3区24号住居

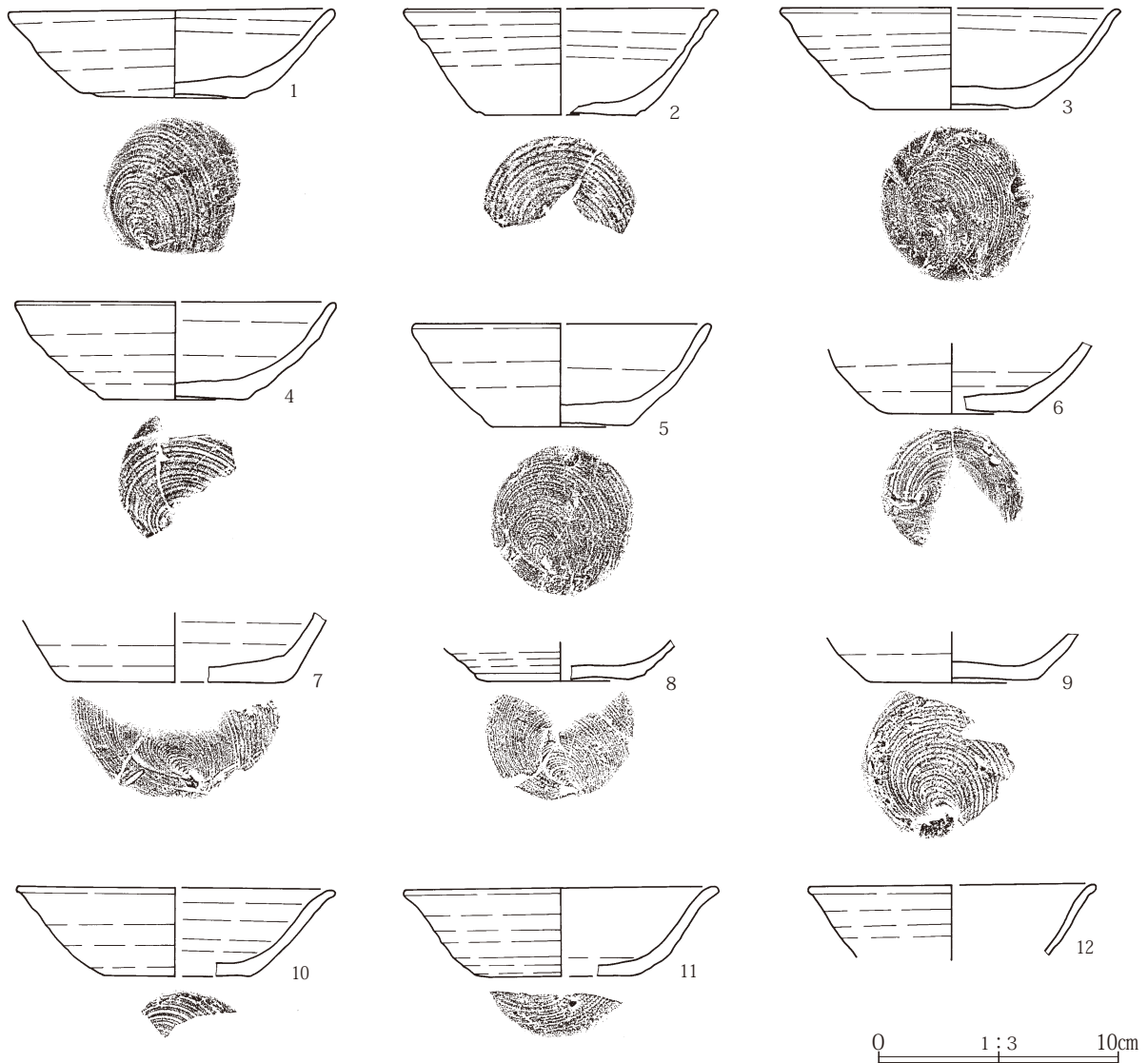
部に移行していたものと考えられる。規模は、確認長115cm、燃烧部長94cm、燃烧部幅43cmを測る。焼土・炭化物の堆積は顕著ではない。調査時の所見では竈の造り替えがあったことが指摘されている。

柱 穴 中央北西寄りで1基が検出された。規模（長径×深さ）は20×31cmである。灰黄褐色土が堆積していた。

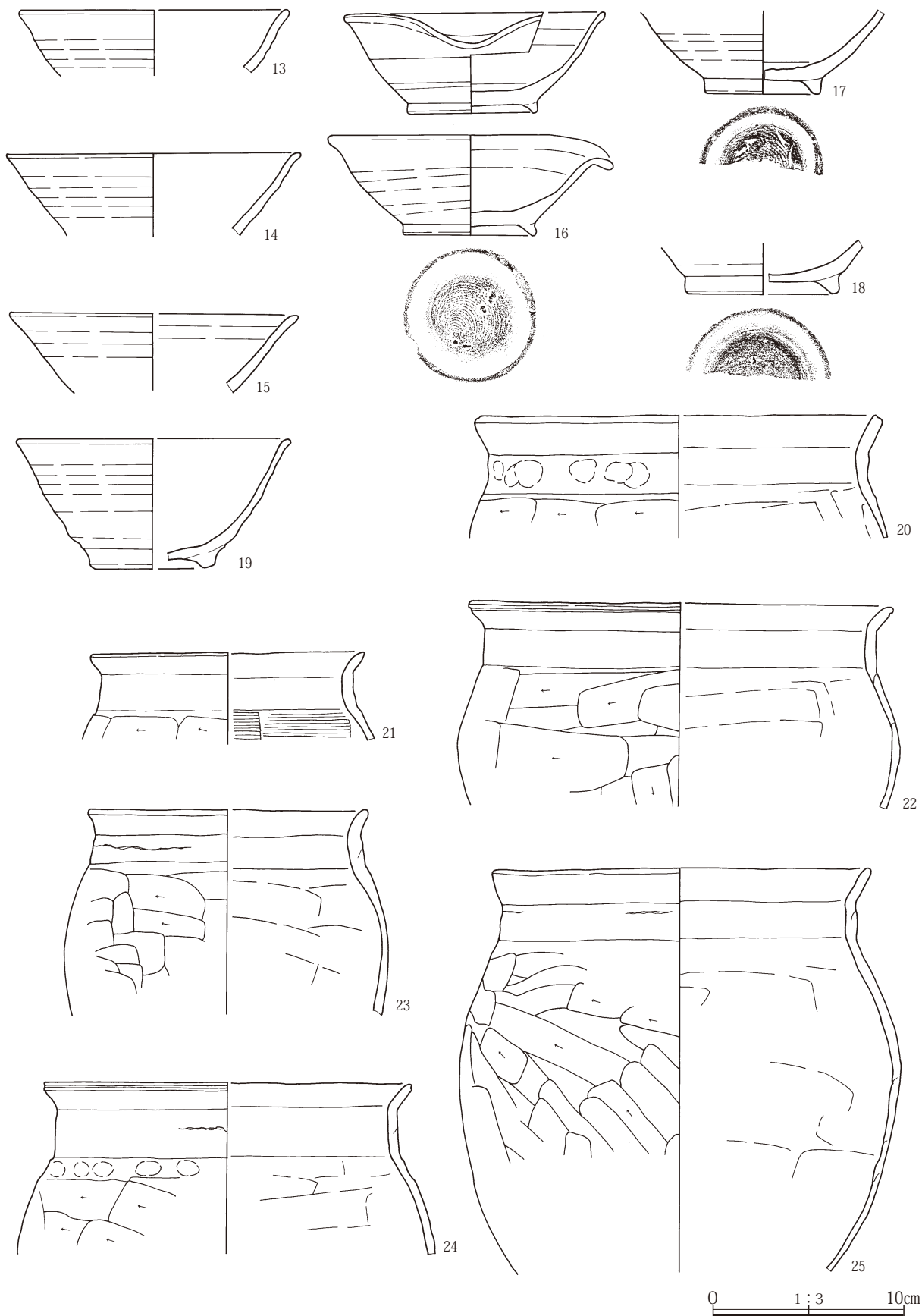
掘り方 南壁際で浅い土坑状の掘り込みが顕著である。埋没土は暗褐色土である。床面精査時に貯蔵穴やピットと認識したものも床面下の掘り込みを誤認したものである。

遺物 甕、坏、椀など多くの遺物が床面から離れた状態で出土しており、住居廃絶後に投棄された状況がうかがえる。床面付近出土と考えられるものは竈焚き口部前から出土した須恵器杯1・2・3や南東隅から出土した須恵器椀16や18、土師器甕23である。甕は10個体以上の出土を見るが、23以外みな床面から浮いた状態で出土しており、まとめて廃棄されたと考えられる。このほか土錘31から35の5点が出土した。

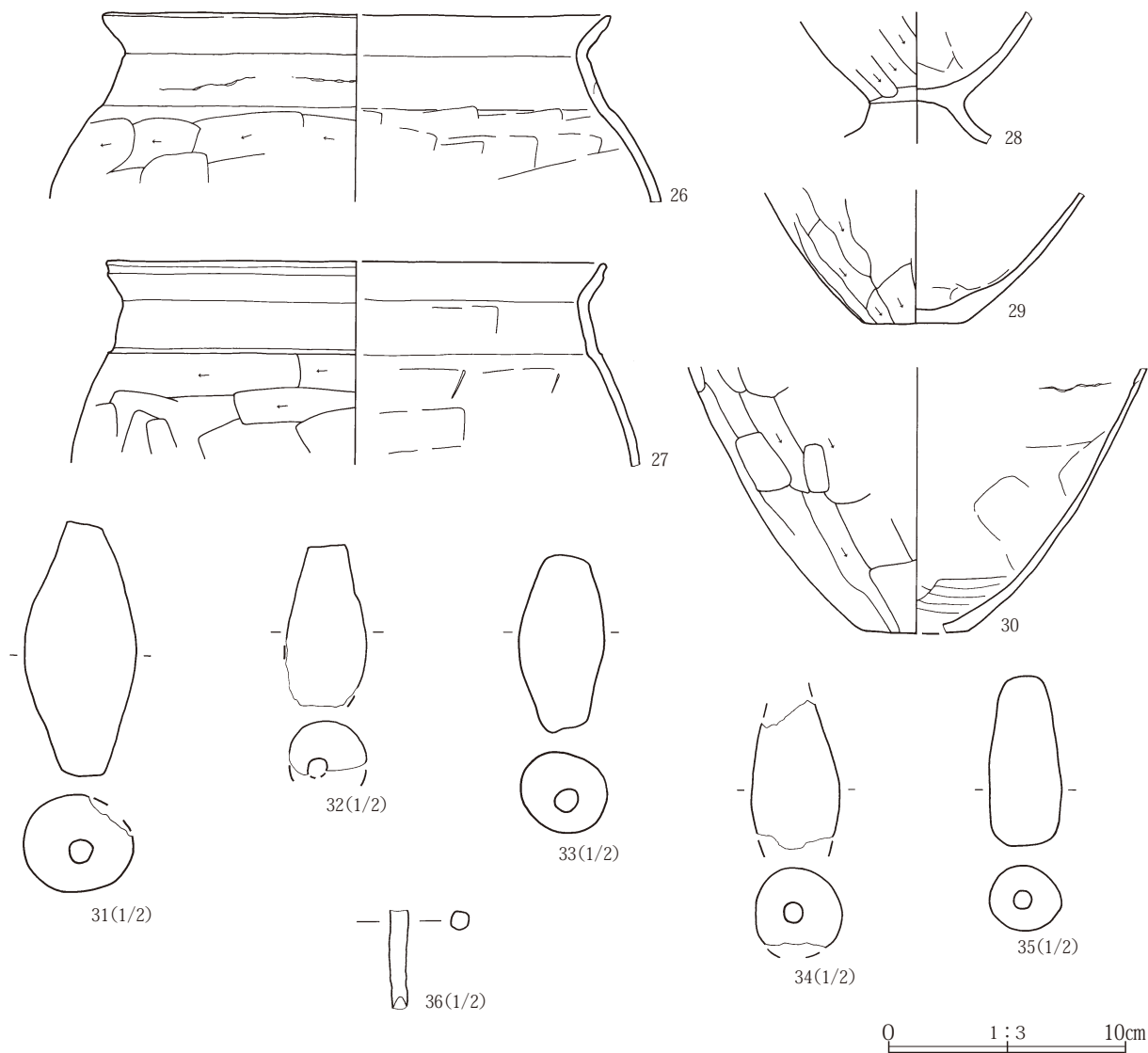
所見 重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第4四半期と考えられる。



第155図 3区24号住居出土遺物 1 1-12



第156图 3区24号住居出土遺物2 13-25



第157図 3区24号住居出土遺物 3 26-36

3区27号住居 (第158・159図、P L 17)

位置 435-485、490

主軸方位 面積 計測不能

重複 23号住居、3号溝に先出する。切り合い違うと思う9号住居との関係は判然としない。

形状 3号溝や23号住居により削平を受けたため、南壁、南東・南西隅周辺しか残存していない。東西長は3.53mを測る。南北方向の残存は1.86mである。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大32cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴、周溝は検出されなかった。掘り方は床面全体が10cm程掘り込まれ

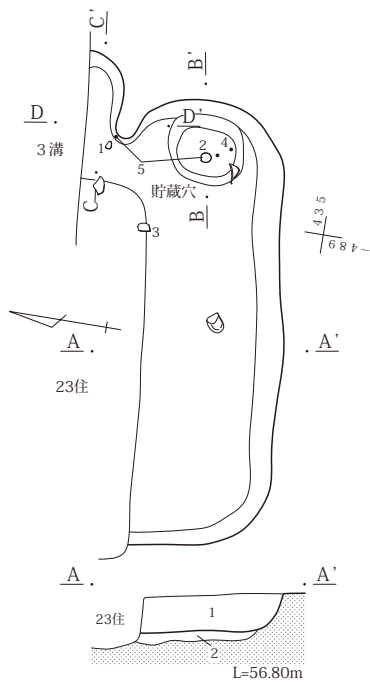
ていた。

竈 東壁で検出された。左半は3号溝により壊されていて残っていないが、ロームを用いて構築された右側の袖が一部残存する。規模は、確認長73cm、右袖の残存長19cmを測る。

貯蔵穴 南東隅、竈の右脇で検出された。楕円形状を呈し、長軸65cm、短軸55cm、深さ19cmを測る。暗褐色土が堆積していた。

遺物 床面直上で須恵器椀が、貯蔵穴内から須恵器椀2が出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

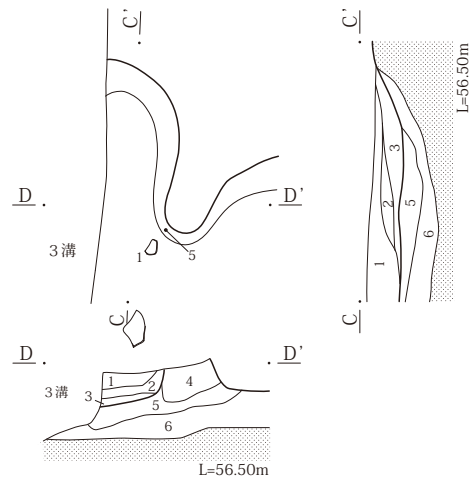


住居

- 1 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土粒・炭化粒極少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。(掘り方)

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土ブロック(径5~20mm)少量混入。炭化物(径5mm前後)極少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム土少量混入。

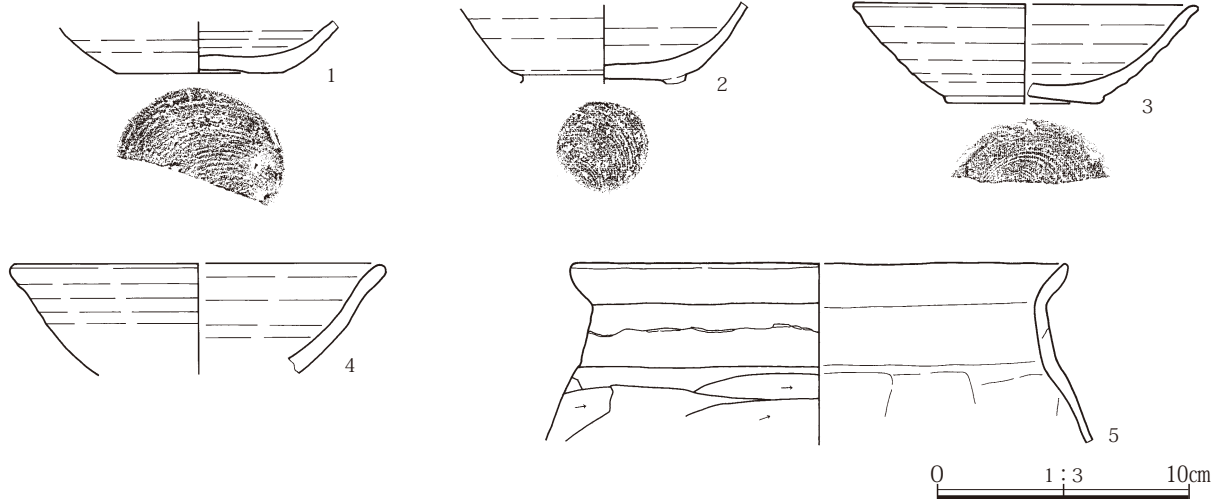


竈

- 1 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。炭化粒極少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径20~40mm)中量混入。焼土粒・焼土ブロック(径5~20mm)多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム土極少量混入。焼土ブロック(径5~20mm)少量~中量含む。
- 4 黄褐色土 粘質。ローム土。焼土粒・焼土ブロック(径5mm前後)少量混入。(竈袖)
- 5 暗褐色土 焼土ブロック(径5~30mm)少量混入。炭化粒も少量含む。(掘り方)
- 6 暗褐色土 ロームブロック(径20~40mm)少量混入。(掘り方)

0 1:60(竈 1:30) 2m

第158図 3区27号住居



第159図 3区27号住居出土遺物 1-5

3区29号住居 (第160・161図、P L 17・110)

位置 435、440-510、515

主軸方位 E-7°-N 面積 計測不能

重複 39号住居に後出する。22号住居に先出する。

形状 南北に長軸を有する横長の長形状を呈する。北西隅とその周辺は調査区域外に及んでおり未検出である。北壁、西壁は22号住居により床面間近

まで削平されていた。規模は長軸4.48m、短軸3.52mを測る。

埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。

床面 東壁では確認面から最大50cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

円形で、断面皿状を呈していた。1号は径70×58cm、

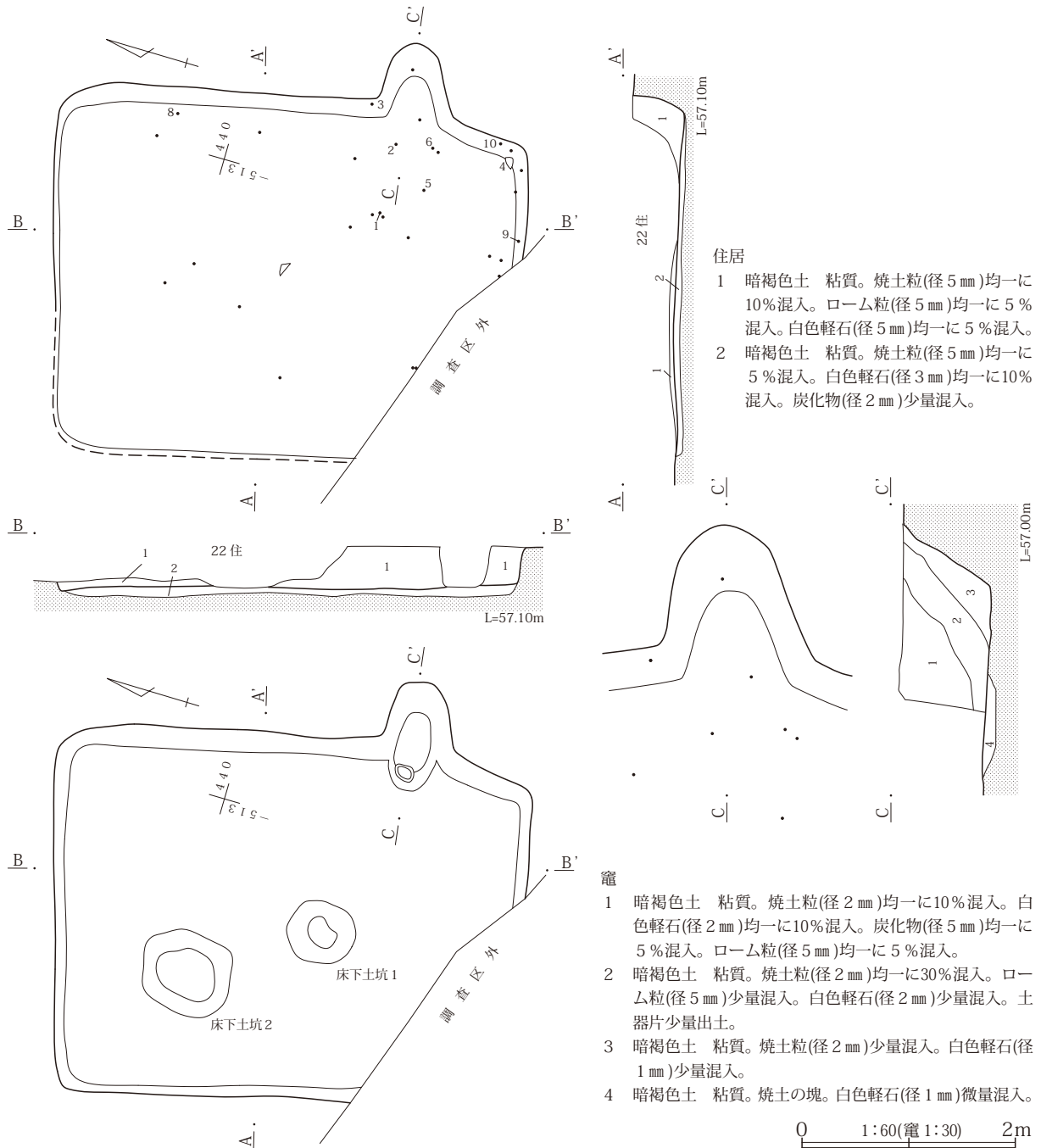
深さ10cm、2号は径84×75cm、深さ12cmを測る。ともに粘質の暗褐色土が堆積していた。

竈 東壁の南東隅寄りで見出された。焼土部は住居の壁面を掘り込み壁外に構築されていた。底面は焼土化が進行していた。規模は、確認長76cm、焼土部幅50cmを測る。

掘り方 床面から5から10cmで掘り方底面にいた

る。暗褐色土が堆積していた。床面の西側寄りでは床下土坑2基が確認された。ともに不整円形で、土坑1は長径63cm、深さ10cm、土坑2は83cm、深さ15cmである。粘質の暗褐色土が堆積していた。

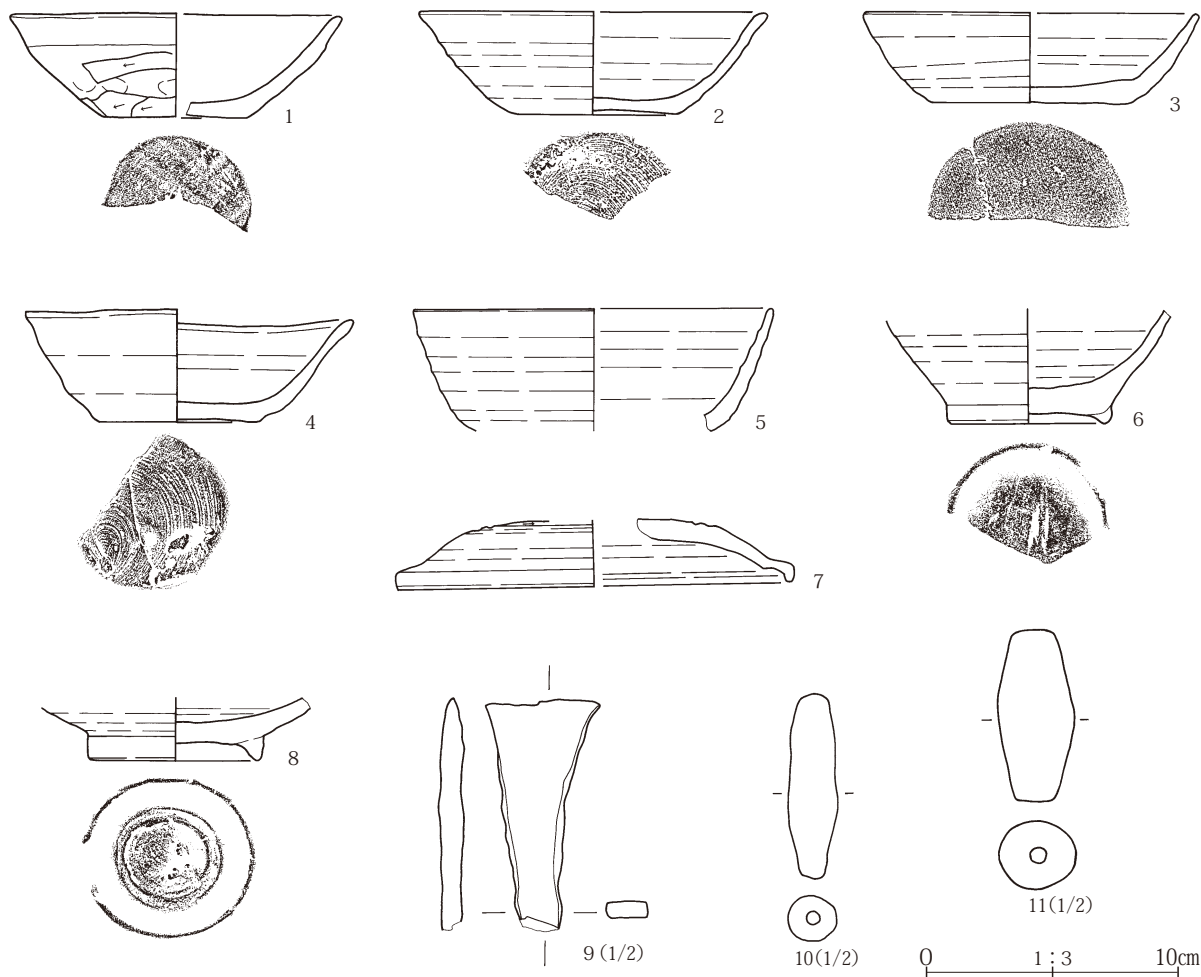
遺物 竈の手前を中心に少量の遺物が見出された。南東隅の床面直上から須恵器杯2が見出している。それ以外はみな床面から離れた状態である。須



第160図 3区29号住居

恵器杯3は重複関係にある39号住居に帰属する遺物が混入したものと考えられる。ほかに埋没土中から土錘2点10・11が出土した。

所見 重複関係、出土土器の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



第161図 3区29号住居出土遺物 1-11

3区30号住居 (第162・163図、P L 110)

位置 460、465-495、500

主軸方位 N-14°-W 面積 計測不能

重複 33号、45号住居に後出する。17号、28号住居に先出する。

形状 17号、28号住居に切られるため、南側は不明である。縦長の長方形を呈すると考えられ、北西隅は鈍角をなし、やや乱れた形状である。東西長は4.25mを、南北方向の残長は2.63mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積している。

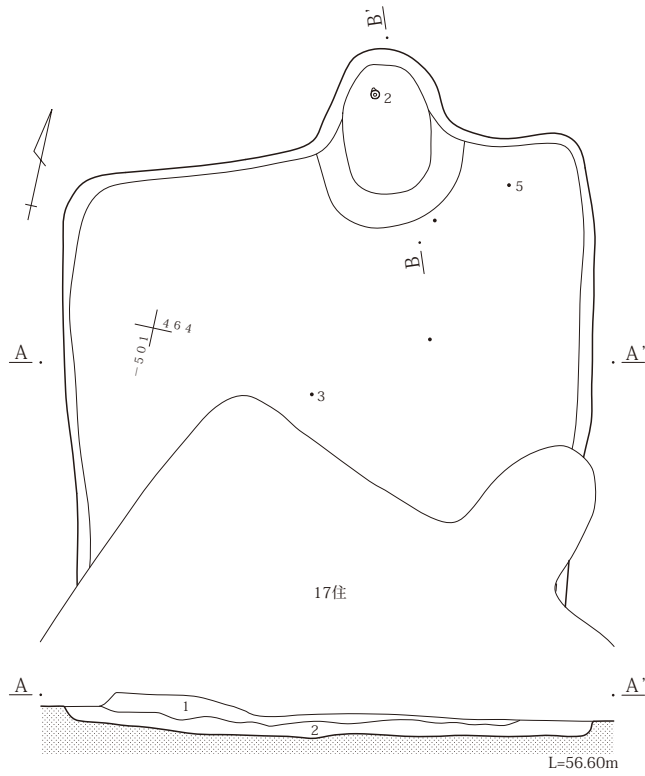
床面 確認面から最大12cm、33号住居の埋没土を掘り込んで床面を構築している。床面は概ね平坦で

あるが北壁際から南壁際に向かって徐々に下がっている。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 北壁の中央から東側寄りで検出された。規模は、確認長142cm、燃焼部長139cm、燃焼部幅70cmを測る。燃焼部は皿状に掘り込まれていたが焼土の残存が不良で、使用面は判然としなかった。

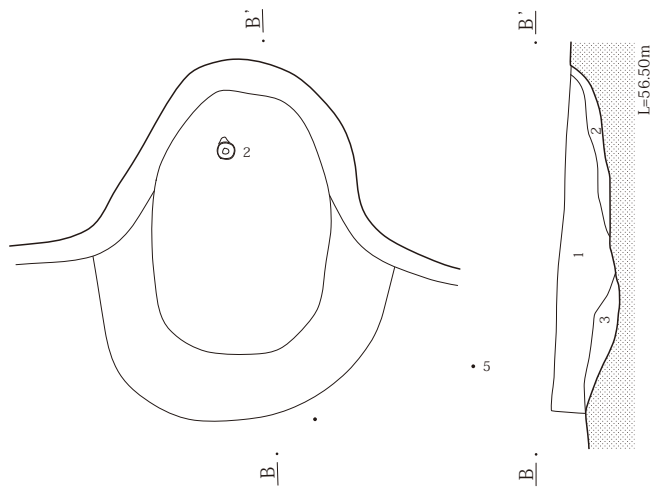
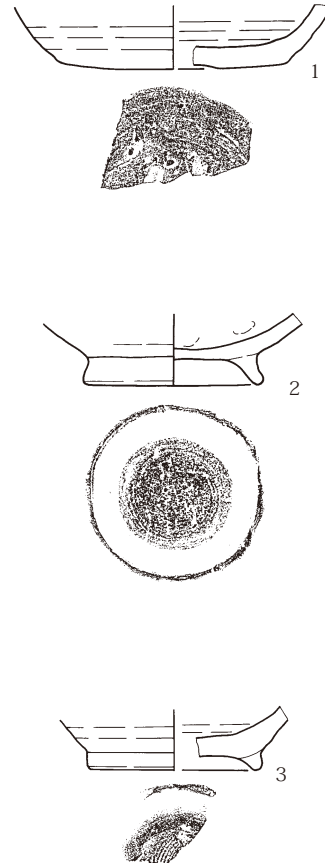
遺物 竈内から須恵器杯1、土師器椀2が出土している。また、土錘2点のうち5は竈右脇の床面上からの出土である。

所見 出土遺物が少なく判然としないが、その特徴から9世紀後半の所産と考えられる。



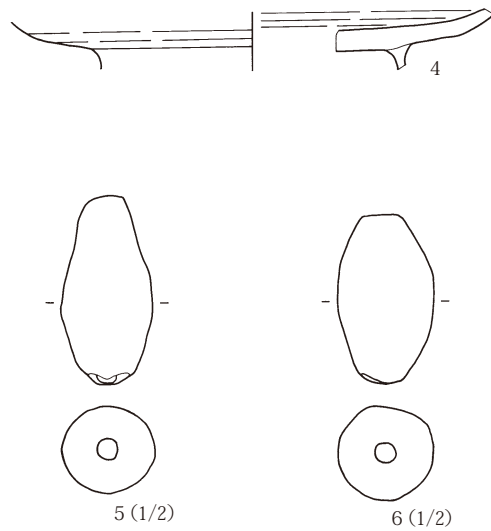
住居

- 1 暗褐色土 白色軽石少量混入。焼土粒・焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石極少量混入。ロームブロック(径5~20mm)少量含む。焼土粒極少量含む。



竈

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)少量混入。焼土粒・焼土ブロック(径5~20mm)少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5~40mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒極少量含む。



0 1:60(竈 1:30) 2m

第162図 3区30号住居

0 1:3 10cm

第163図 3区30号住居出土遺物 1-6

3区36号住居 (第164・165図、P L 18・111)

位置 440-505、510

主軸方位 E-24°-S 面積 計測不能

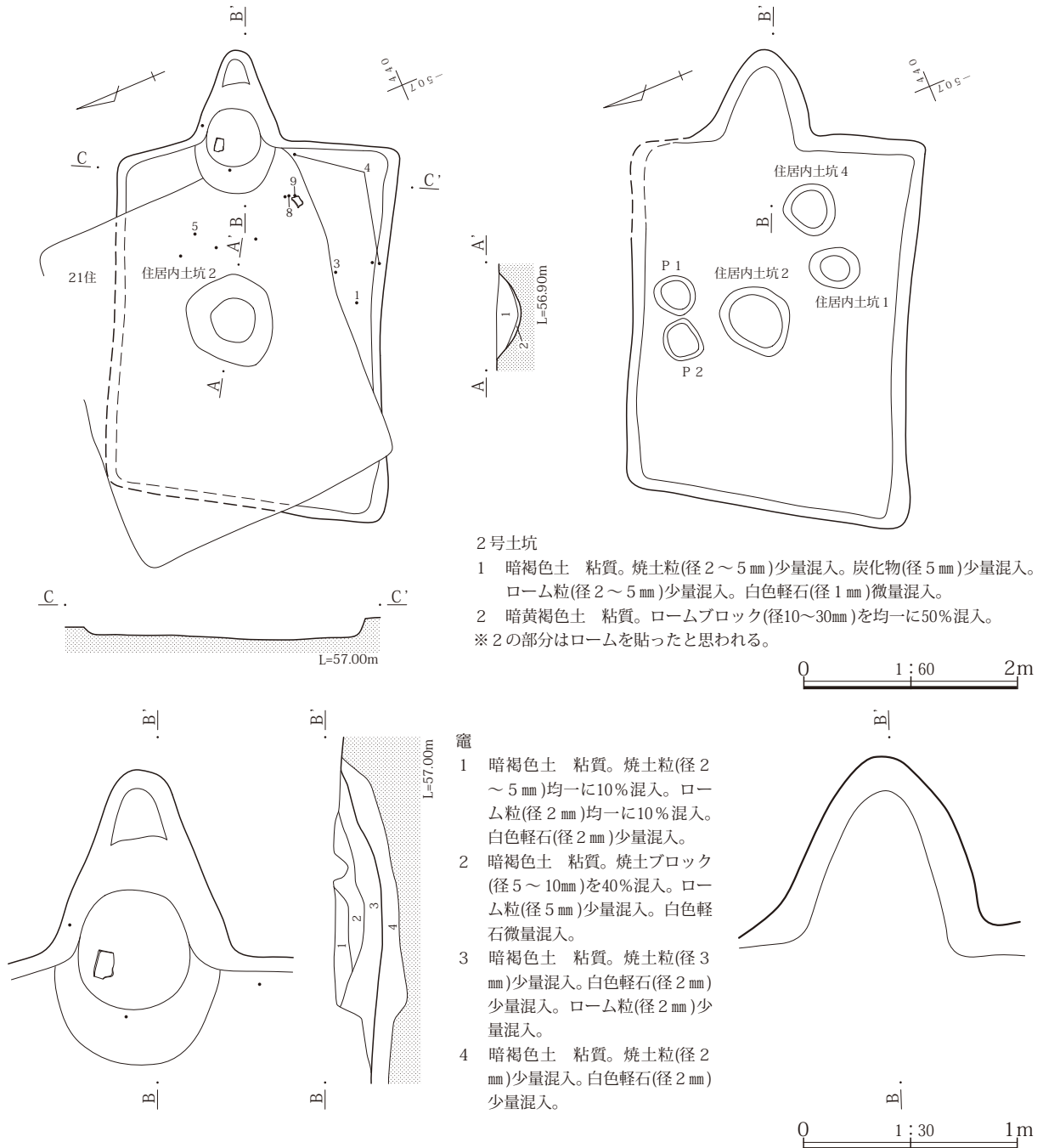
重複 21号住居に先出する。

形状 東西方向に長軸を有する縦長の長方形を呈するが、南壁に比して北壁が短く、南壁を下辺とする台形に近い形状である。規模は長軸の南壁で3.61m、北壁寄りで3.19m、短軸2.63mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大で20cmを掘り込んで床面を構築する。概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央からやや北側寄りで検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込んで緩やかに立ち上がり煙道部に移行している。僅かに煙道部が残存していた。規模は、確認長134cm、燃烧部幅84cmを測る。



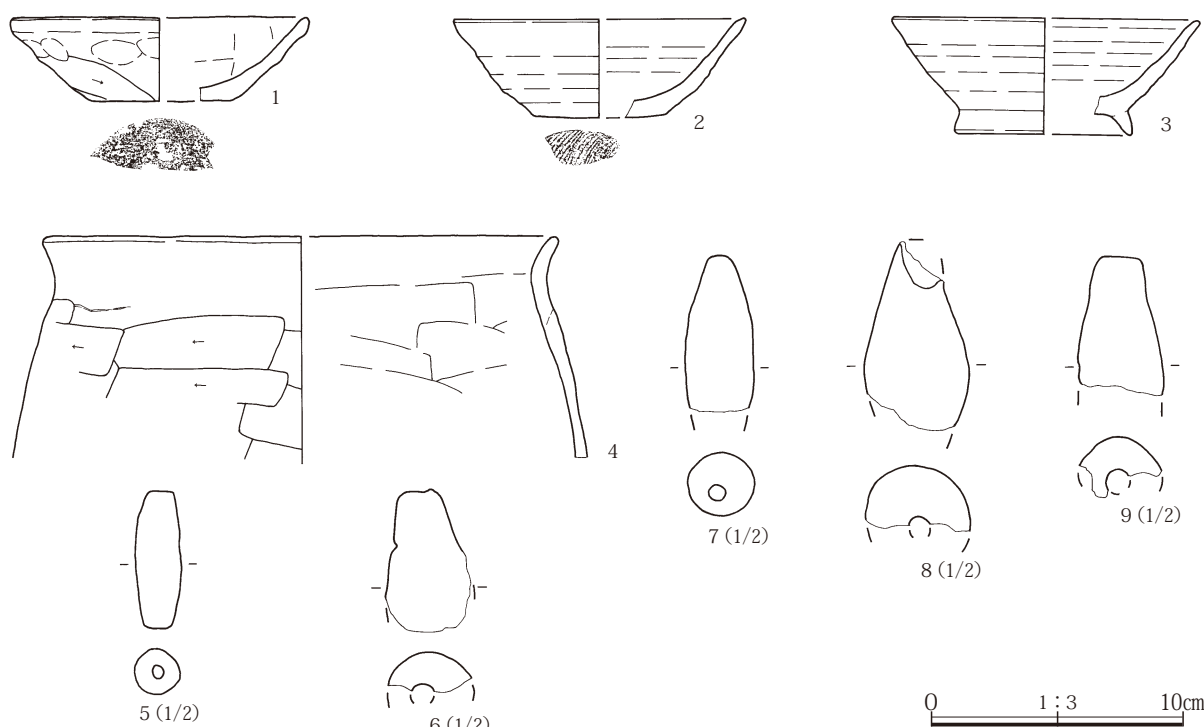
第164図 3区36号住居

掘り方 床面から掘り方底面までの間には暗褐色土が充填されていた。床面中央部分から床下土坑が検出された。不整形形状を呈し、長径88cm、短径79cm、深さ23cmを測る。底面に2cmほどの厚さでロームを貼っていた。この他に床面あるいは掘り方基底面の精査の際に長径37から48cm、深さ11から15cmの小土坑状の掘り込み4基を検出している。暗褐色土

が堆積していた。

遺物 竈の手前を中心に少量の遺物が出土したが残存の良好な資料はなかった。5点出土した土錘のうち8・9は竈燃焼部内から、5は竈前の床面上からの出土である。

所見 出土遺物の特徴から10世紀代前半の所産と考えられる。



第165図 3区36号住居出土遺物 1-9

3区37号住居 (第166～168図、P L 18・111)

位置 435-505

主軸方位 E-33°-N 面積 計測不能

重複 38号住居に先出する。

形状 38号住居あるいは6号溝による削平を受けたため、竈と北東隅周辺を検出したにとどまった。全体形状は不詳である。南北方向の残存長は2.63mである。

埋没土 不詳である。

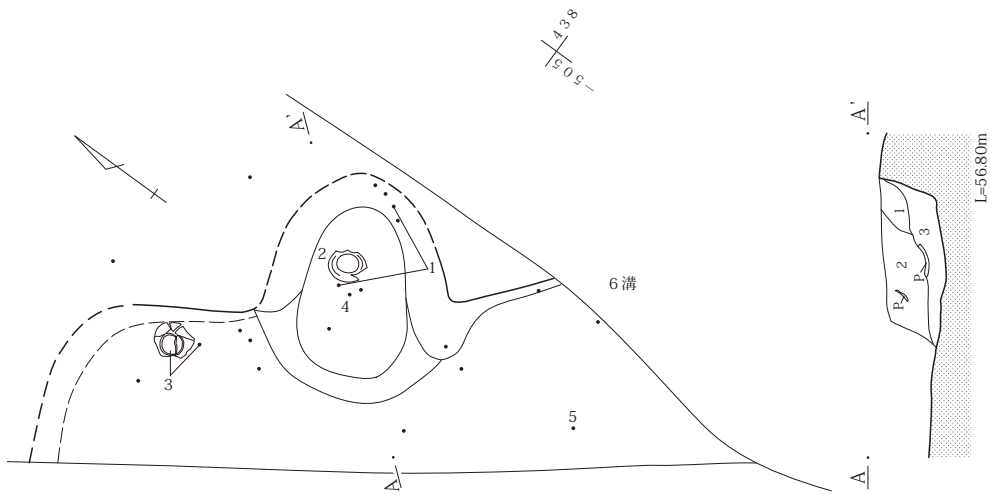
床面 確認面から最大17cm掘り込んで床面を構築する。床面は東壁際が高く、西壁方向に向かって緩やかに傾斜していた。掘り方底面の精査の際に竈左

脇から長径40cm、深さ12cmのピットを1基検出した。上層に暗褐色土、中・下層に黄褐色土が堆積していた。

竈 東壁で検出した。燃焼部は幅広く、住居の壁面を掘り込んで構築されていた。規模は、確認長91cm、燃焼部幅73cmを測る。

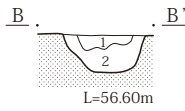
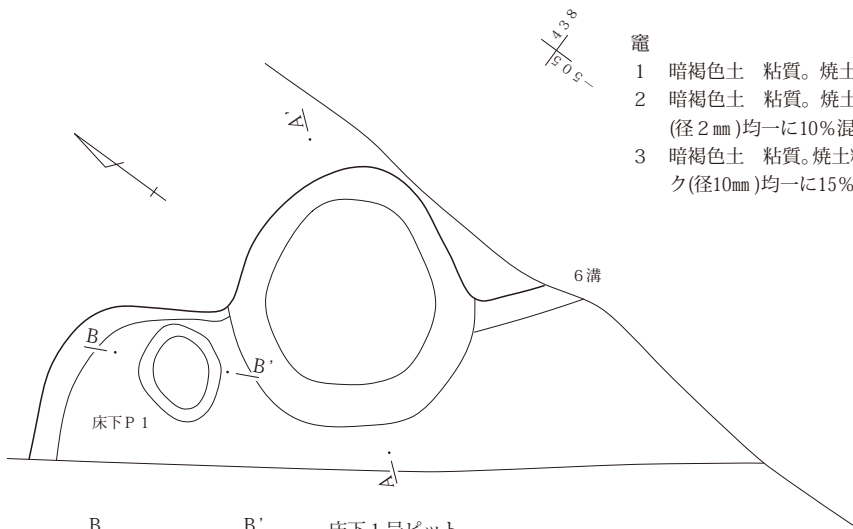
遺物 竈内から須恵器杯1、椀2、土師器甕4が出土している。竈の左脇床面直上からは須恵器皿3が、右斜め前の床面からは鉄鏝5が出土している。

所見 出土遺物の特徴から9世紀第3四半期と考えられる。38号住居と同一遺構の可能性も考えられるが判然としないため別住居として報告する。



竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土塊が中心で(70%)かたい。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10mm)を少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に15%混入。焼土ブロック(径10mm)均一に15%混入。炭化物(径3mm)少量混入。

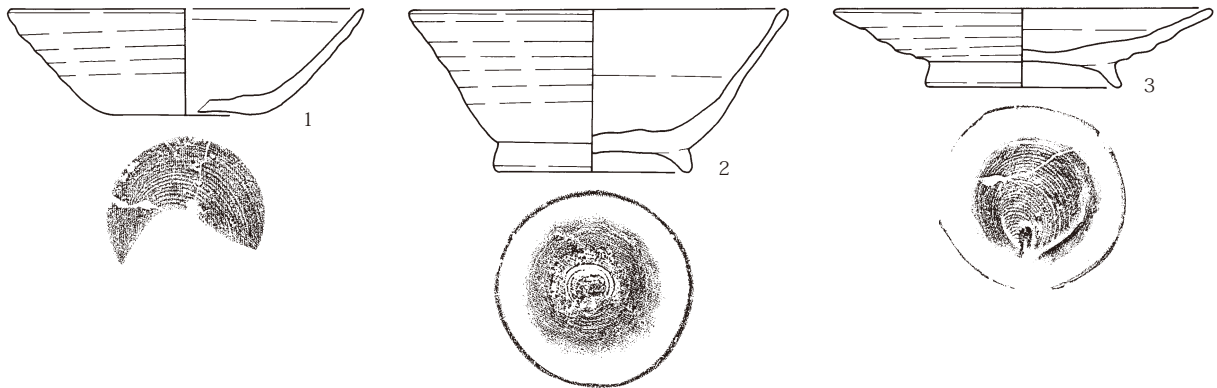


床下1号ピット

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5~20mm)30%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。
- 2 黄褐色土 ローム主体で、暗褐色土ブロック(径2~30mm)20%混入。

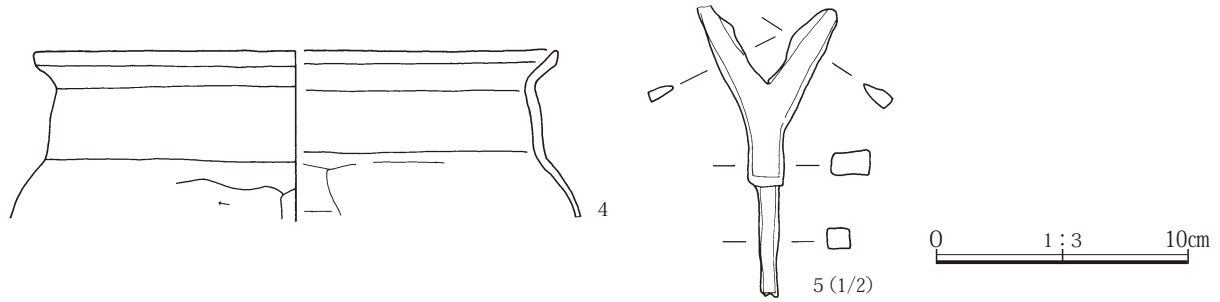
0 1:30 1m

第166図 3区37号住居



0 1:3 10cm

第167図 3区37号住居出土遺物 1 1-3



第168図 3区37号住居出土遺物 4-5

3区38号住居 (第169～172図、P.L18・111)

位置 435-505、510

主軸方位 N-18°-W 面積 計測不能

重複 37号住居に後出する。

形状 南側を3号溝により削平されているため全体の構造は判然としないが、縦長の長方形を呈す可能性が考えられる。北東隅が鋭角、南東隅が鋭角をなすため形状がやや歪んでいる。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。南北4.02m、東西の残存3.42mを測る。

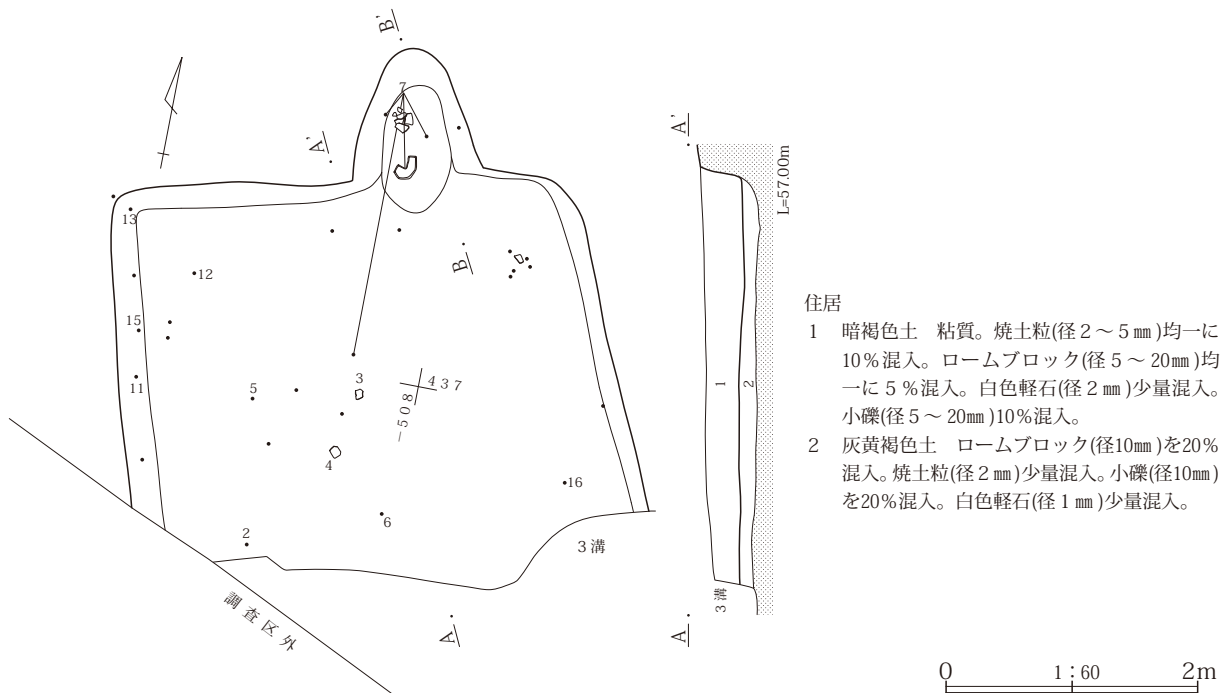
埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。多少の小礫の混入が認められる。

床面 確認面から最大38cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。掘り方基底面までは

10cmほどの厚さで灰黄褐色土が埋められていた。竈右手前では長径51cm、深さ12cmの小土坑状の掘り込みを検出したが貯蔵穴と断定するにはいたらなかった。

竈 北壁の中央から東側寄りで検出した。燃烧部は、住居の壁面を大きく掘り込み構築されている。確認長155cm、燃烧部長125cm、燃烧部幅75cmを測る。
遺物 竈内から土師器小型甕7や須恵器杯1が出土している。西壁寄りのやや広い範囲からは土錘7点が出土した。13が床面近くからの他は床面から20cm以上離れたの出土である。

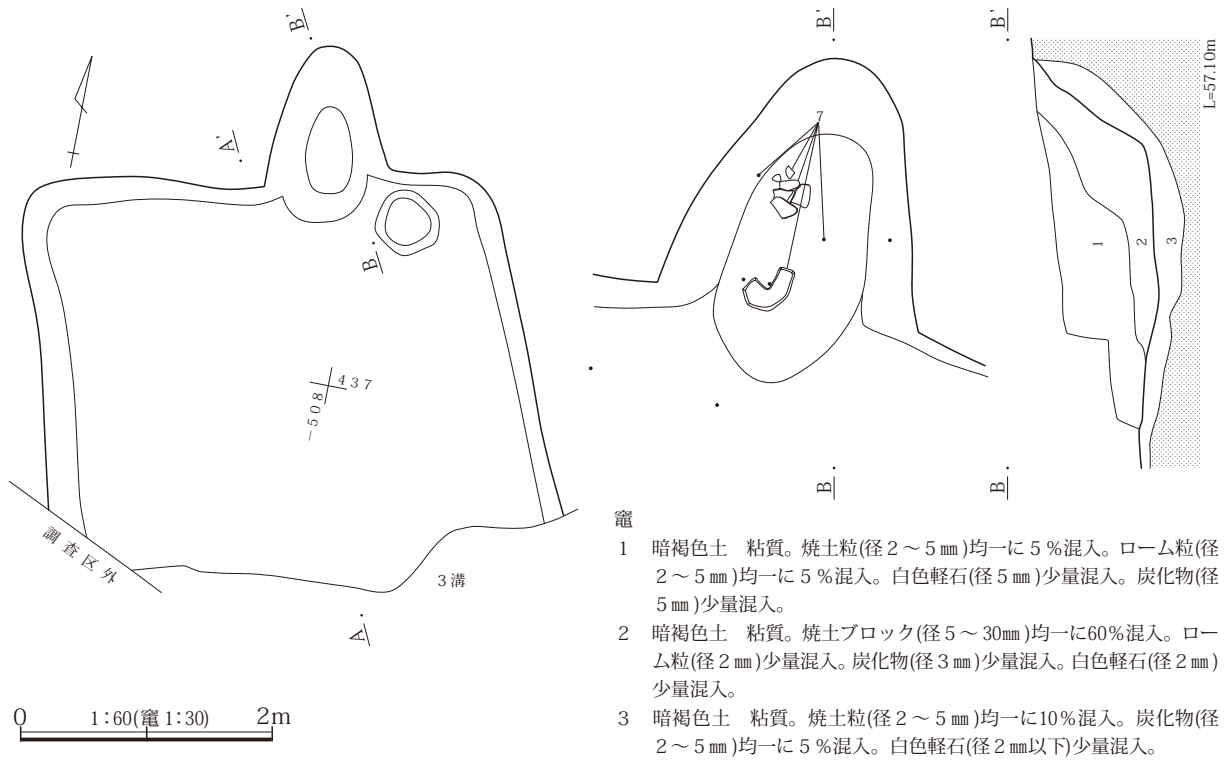
所見 出土遺物の特徴から9世紀後半の所産と考えられる。



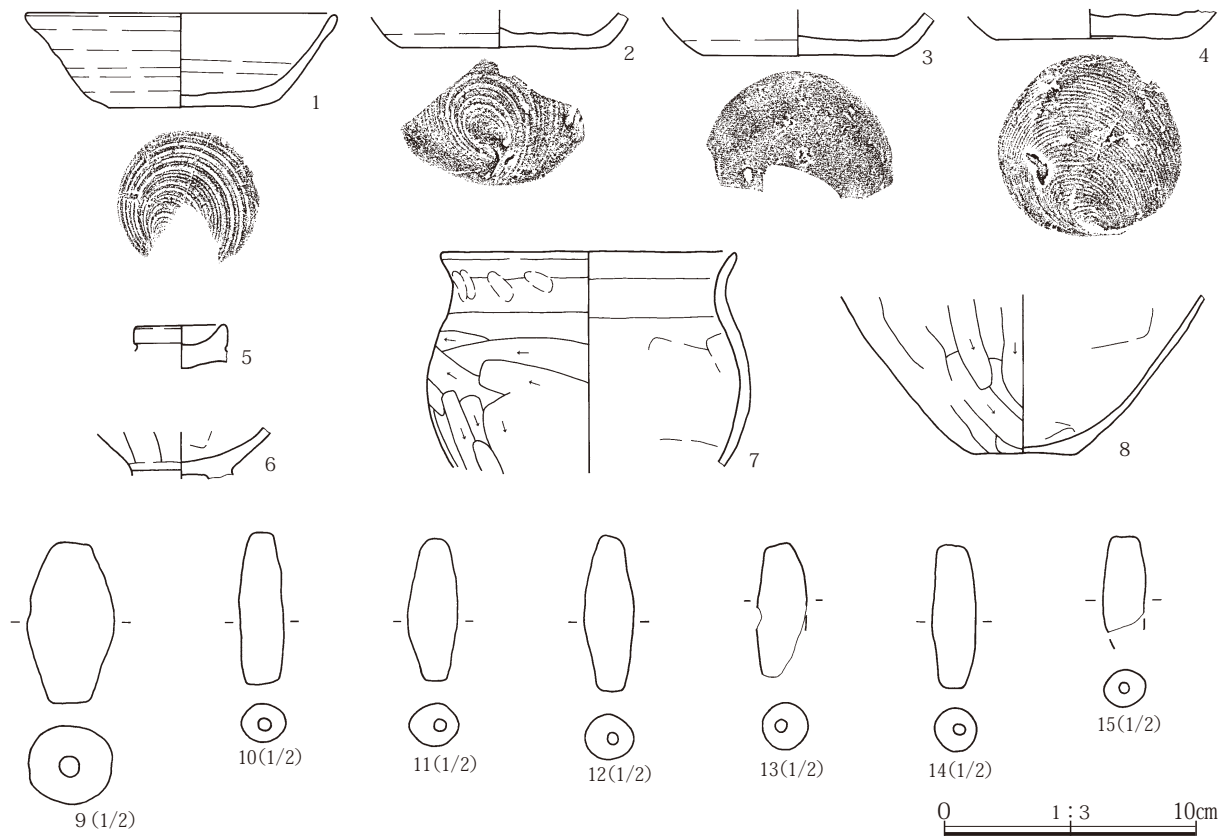
第169図 3区38号住居

住居

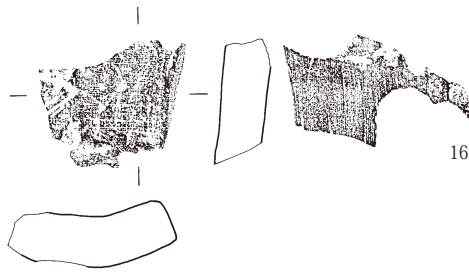
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径5～20mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。小礫(径5～20mm)10%混入。
- 2 灰黄褐色土 ロームブロック(径10mm)を20%混入。焼土粒(径2mm)少量混入。小礫(径10mm)を20%混入。白色軽石(径1mm)少量混入。



第170図 3区38号住居カマド



第171図 3区38号住居出土遺物 1 1-15



第172図 3区38号住居出土遺物 2 16

3区39号住居 (第173～176図、P L 19・111)

位置 435、440-505、510、515

主軸方位 E-9°-N 面積 計測不能

重複 52号住居に後出、22号、29号、38号住居に先出する。

形状 調査時の所見では東西に長軸を有する縦長の長方形を呈するとされる。その根拠は掘り方調査の時点で確認した北西隅を中心とする掘り込みおよび壁際から検出した周溝の存在である。この部

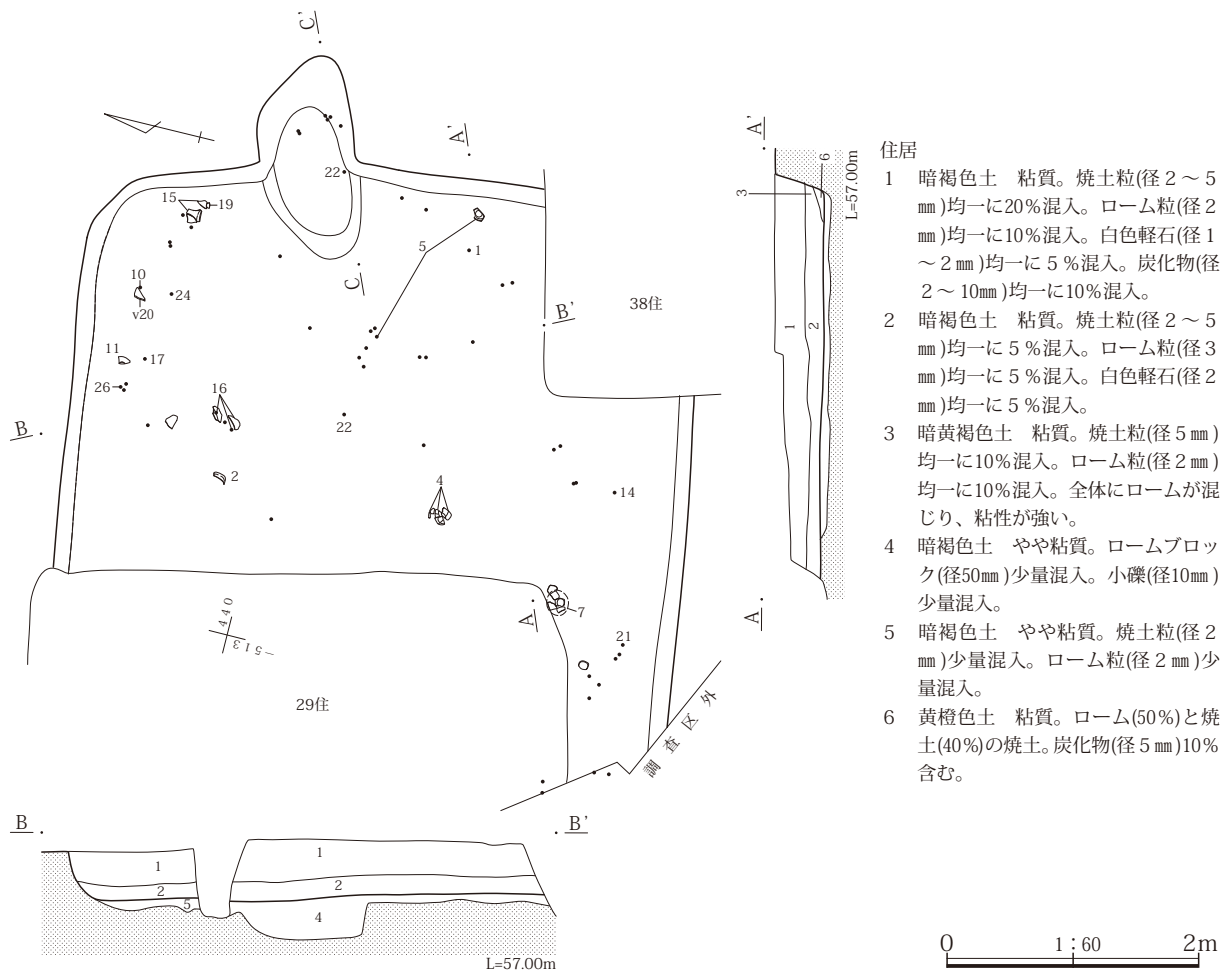
分は本住居に後出するとされる29号住居の壁面とほぼ重複している点が留意される点である。南西隅は調査区域外に及んでいる。調査時の所見に基づく規模は長軸6.20m、短軸5.05mである。

埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。混入物の相違により2層に分層される。

床面 確認面から最大42cm掘り込んで床面を構築する。床面は、概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。床面から掘り方底面までの深さは5から10cm程で、ロームと焼土が混入された暗褐色土・黄褐色土が充填されていた。

周溝 掘り方調査時、北西隅を中心とした西壁、南壁で検出された。規模は幅20cm、深さ5cm前後を測る。

竈 東壁の北東隅寄りで検出された。燃烧部の奥半部は住居の壁面を掘り込んで構築され、緩やかな

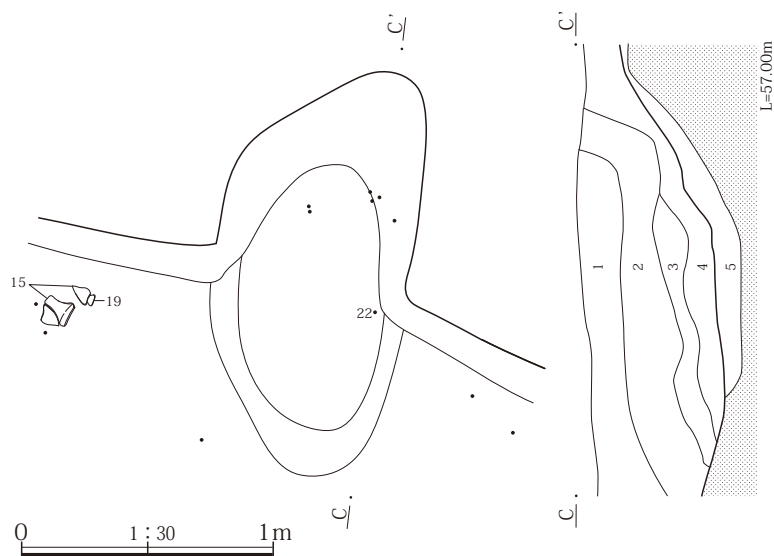


第173図 3区39号住居

傾斜を持って煙道部に移行している。規模は、確認長162cm、燃烧部長120cm、燃烧部幅78cmを測る。遺物 須恵器杯4、蓋14、土師器甕16が床面付近から出土している以外は、みな床面から離れた状態で出土している。土鍾は7点出土しており、22、25、27が竈内から出土した。瓦20は36号住居から出

土した破片資料と接合している。細片化した後にそれぞれの住居に混入したことがうかがえる。所見 重複関係、出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

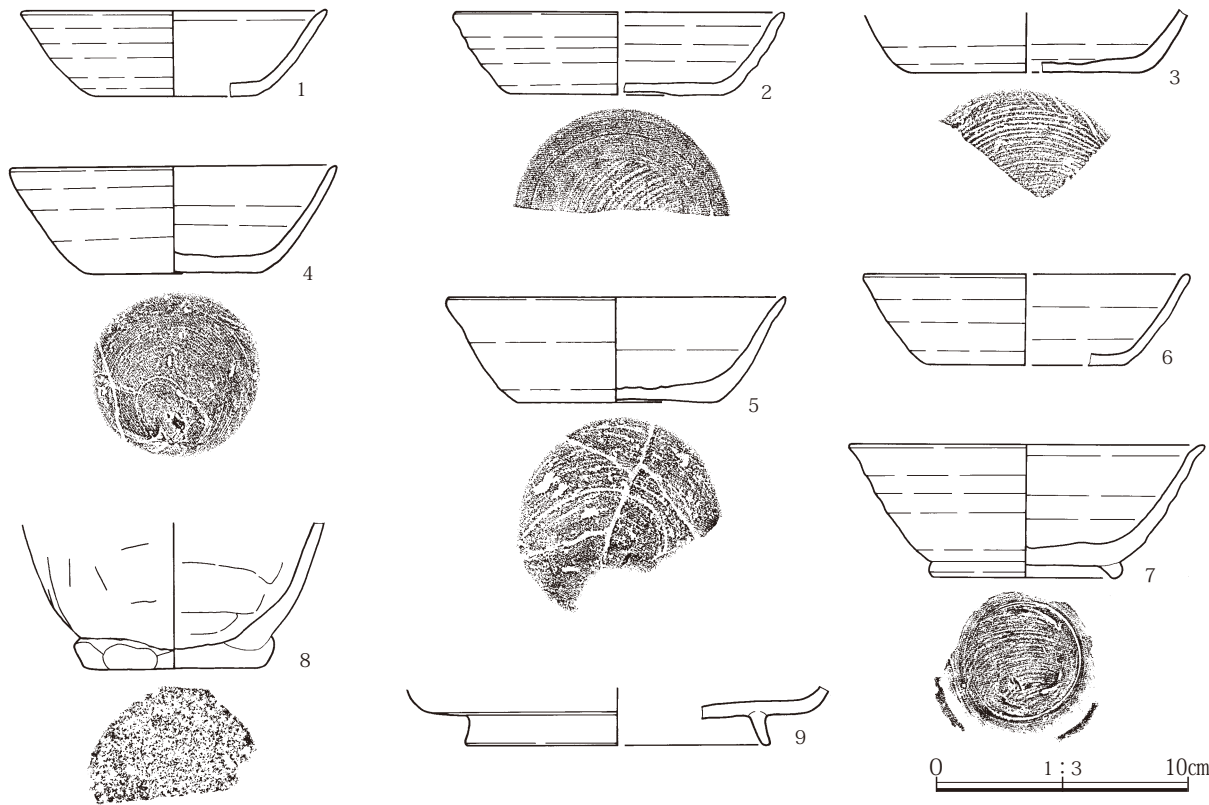
3区40号住居 (第177・178図、P L 19・112)



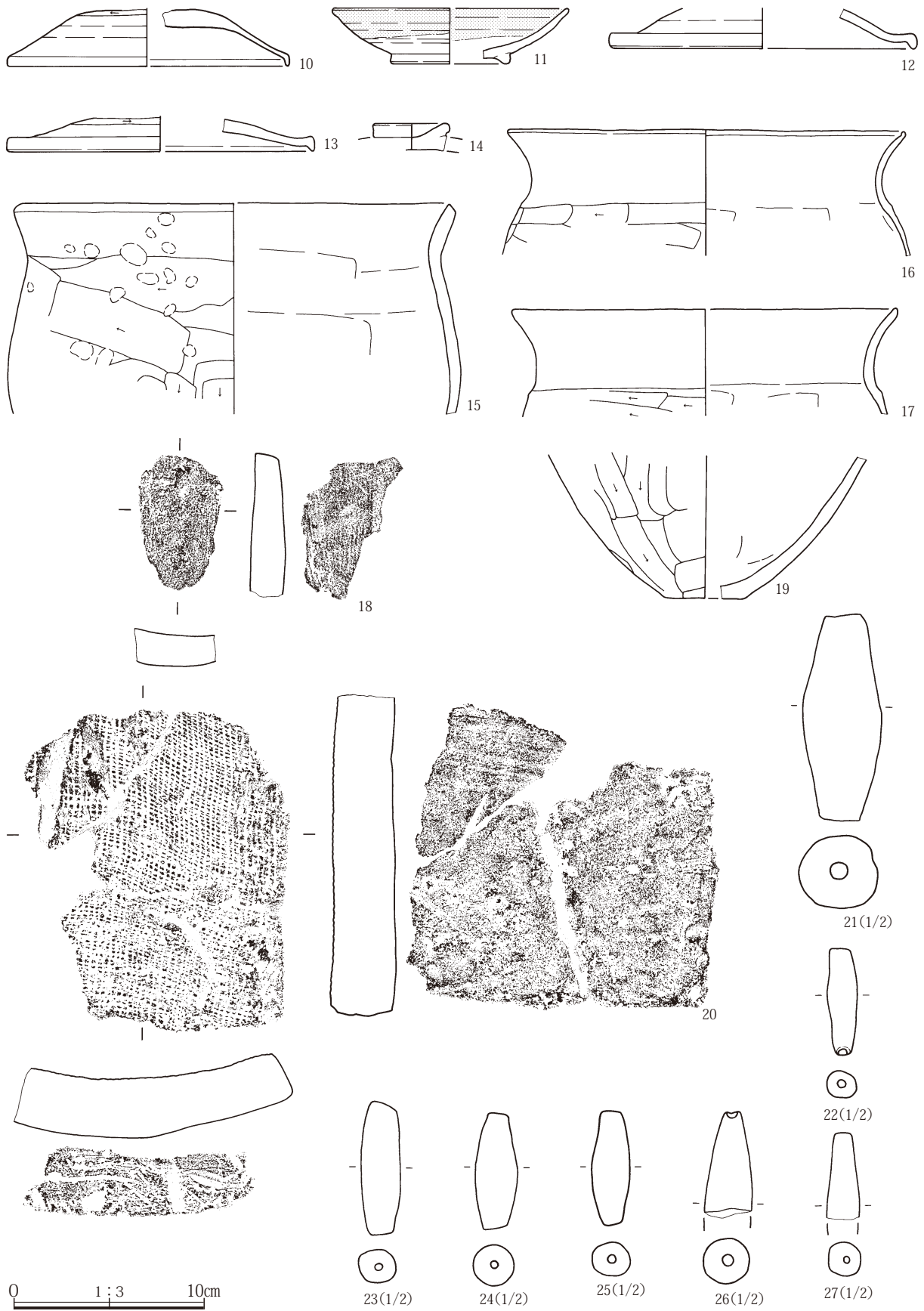
竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に15%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~3mm)均一に20%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームが他の層より多く混じり粘性が強い。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径5~10mm)均一に20%混入。焼土粒(2mm)均一に10%混入。炭化物(径2~10mm)を10%混入。他の層より炭が多く混入。
- 5 赤黄褐色土 粘質。焼土(50%)とローム(50%)の混土で粘性が高い。炭化物(径50mm)も少量混入。

第174図 3区39号住居カマド



第175図 3区39号住居出土遺物 1 1-9



第176图 3区39号住居出土遺物2 10-27

位置 435、440-500、505

主軸方位 E-25°-N 面積 測定不能

重複 36号、38号住居、6号溝に先出する。37号住居とも重複するか。

形状 東西方向に長軸を有する縦長の長方形を呈する。四隅の中で検出することができたのは南東隅1箇所である。西壁が38号住居・31号土坑により削平を受けているために全体の規模は把握できないが、長軸の残存長3.50m、短軸長2.40mを測る。

埋没土 粘質の暗褐色土が堆積している。

床面 確認面から最大23cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央から北側寄りで検出した。燃烧部

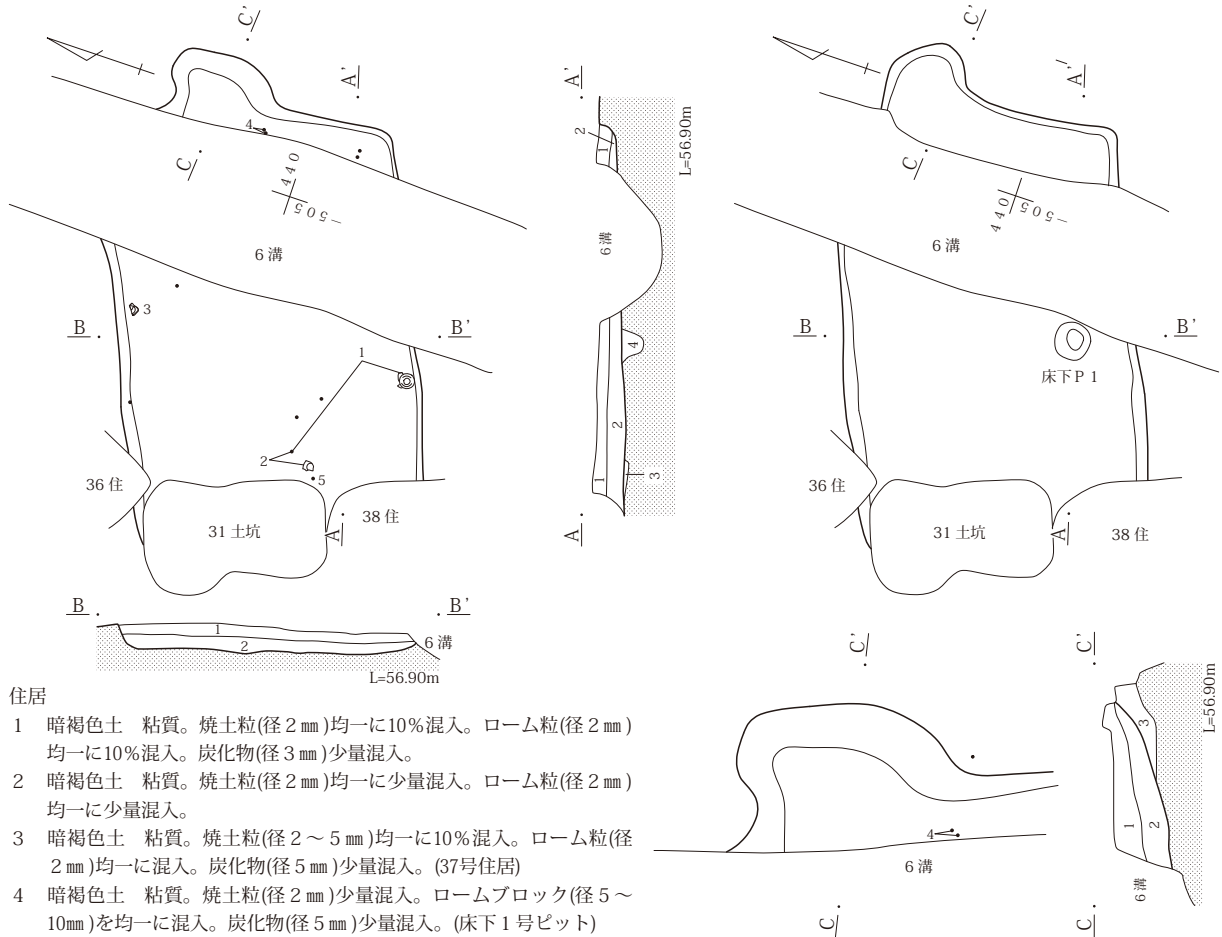
の一部を検出したが、残存状態は不良である。焚き口部付近を6号溝により壊されているため、全体の構造は判然としない。

掘り方 掘り方底面は小さな凹凸があったものの床面からほとんど掘り込まれていない状況であった。床面中央から南壁に寄った位置で、直径30cm、深さ20cmのピットを1基検出した。

遺物 遺物の出土は少量であった。南壁際から墨書の記された須恵器杯1が出土している。石製紡錘車5は西側の床面近くから、土錘6は埋没土中からの出土である。

所見 重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第3四半期の所産と考えられる。

3区41号住居 (第179図、P L 19)



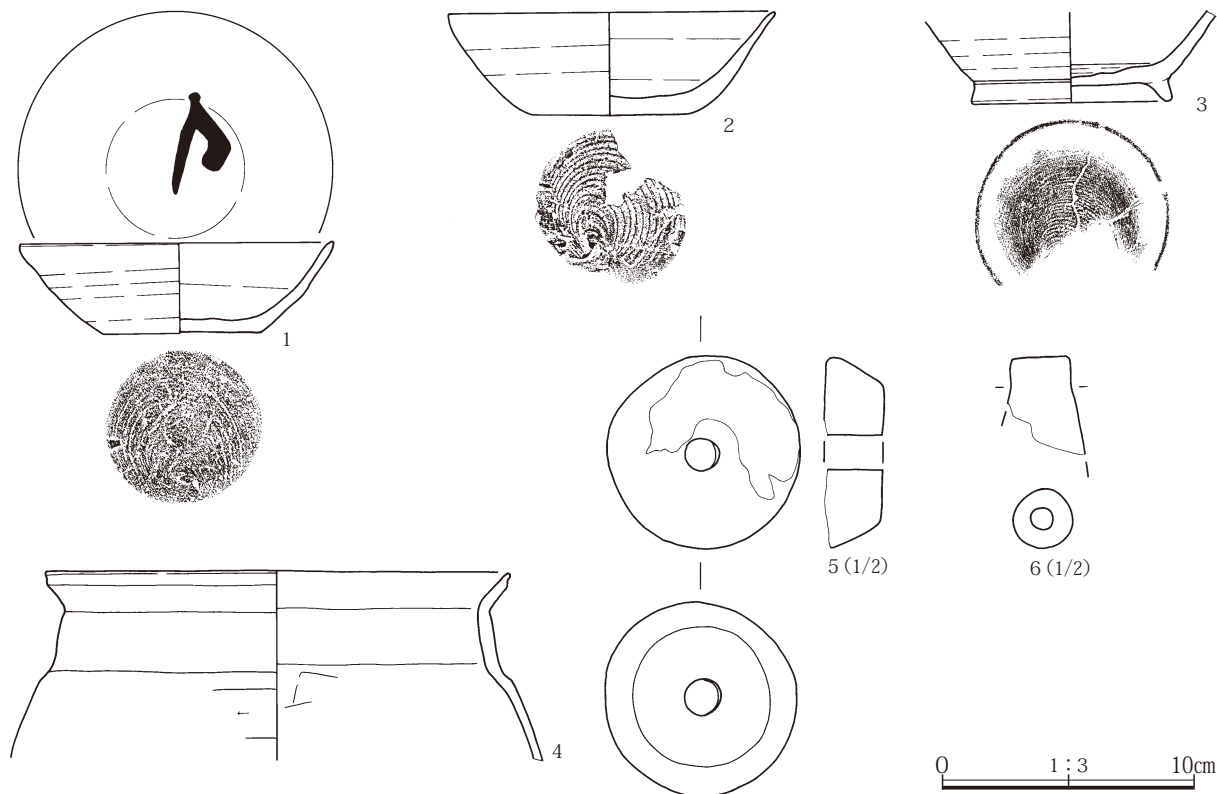
住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径3mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に混入。炭化物(径5mm)少量混入。(37号住居)
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ロームブロック(径5~10mm)を均一に混入。炭化物(径5mm)少量混入。(床下1号ピット)

竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~3mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に20%混入。焼土ブロック(径10~20mm)均一に20%混入。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。

第177図 3区40号住居



第178図 3区40号住居出土遺物 1-6

位置 460-520

主軸方位 E-29°-S 面積 計測不能

重複 56号住居に後出する。

形状 住居本体は調査区域外におよんでおり、竈の燃焼部のみを検出した。確認長80cm、確認幅68cmを測った。

所見 調査対象が竈に限定され、出土遺物もなかったことから本住居の時期を明らかにすることはできなかった。

3区42号住居 (第180～182図、P L 20・112)

位置 455-520

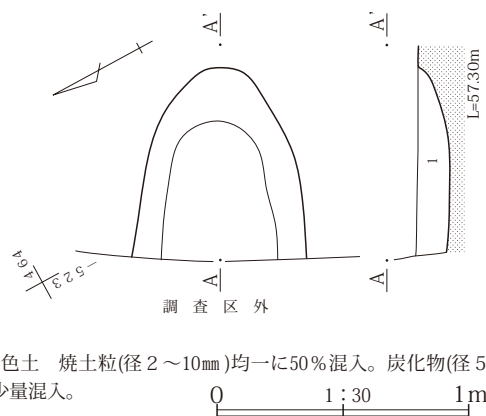
主軸方位 N-5°-W 面積 計測不能

重複 57号住居に後出し、58号住居に先出する。

形状 南北方向に長軸を有する横長の長方形形状を呈する。南西隅周辺と西壁の大半は58号住居により削平を受け欠失していた。規模は長軸3.93m、短軸3.41mを測る。

埋没土 粘質の暗褐色土1層が堆積していた。

床面 確認面から最大30cm掘り込んで黒褐色粘質土中に床面を構築している。床面は概ね平坦である。



竈

1 暗褐色土 焼土粒(径2~10mm)均一に50%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

第179図 3区41号住居カマド

貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

周溝 掘り方面精査時に、北東隅にのみ検出した。幅25cm、深さ5cm前後を測る。

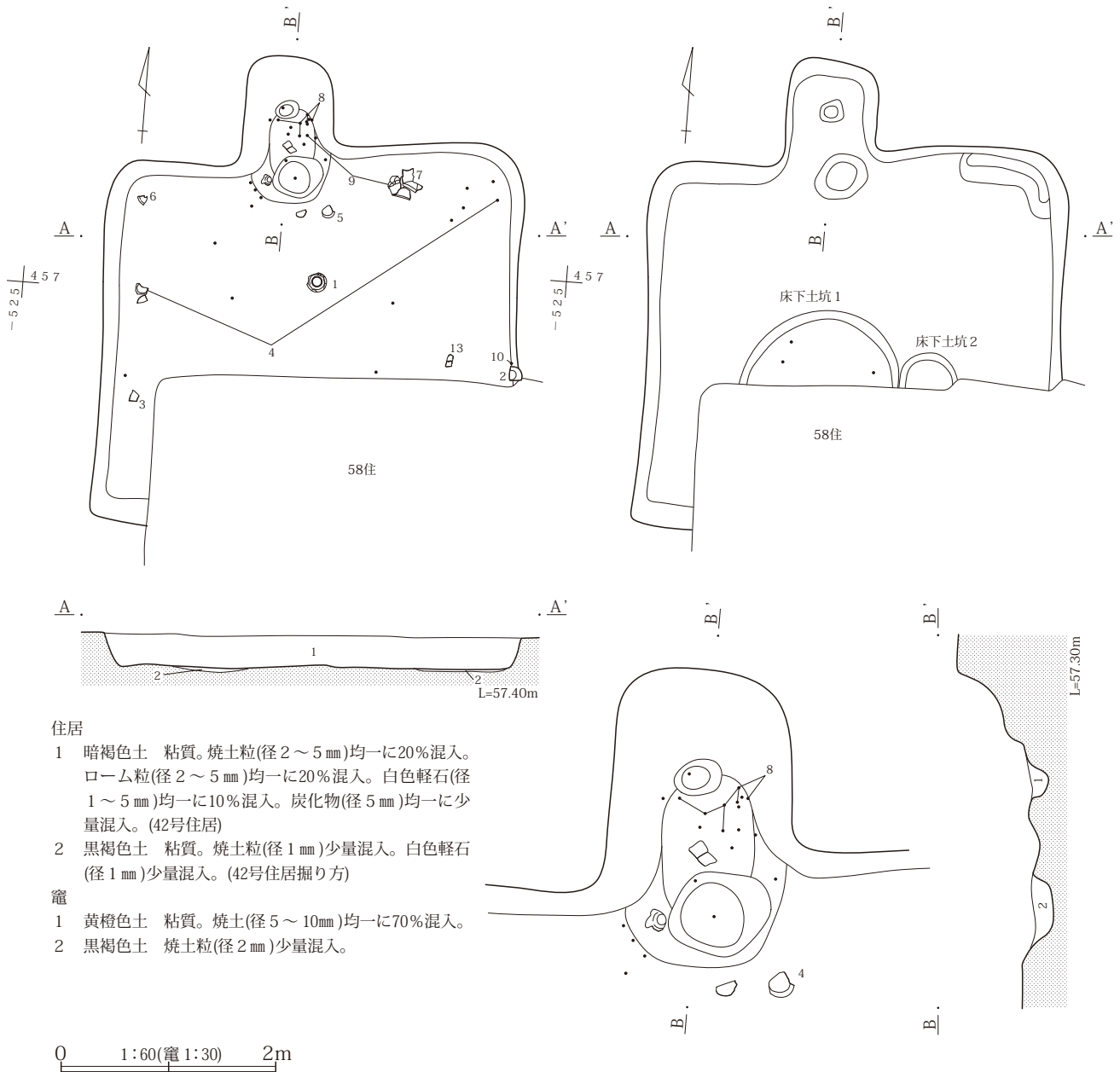
竈 北壁の中央からやや西側寄りで検出した。燃焼部は、住居の壁面を掘り込んで壁外に構築されていた。掘り方の平面形は焚き口部分が解放する箱形に近い形状であったと考えられる。規模は、確認長137cm、燃焼部長95cm、燃焼部幅70cmを測る。最終使用面下の精査時に燃焼部奥側中央で直径22cm、深さ14cmの小ピットを検出した。支脚を設置す

るための掘り方と考えられる。焚き口部分には長径50cm、深さ8cmを測る平面楕円形、皿状の掘り込みが確認された。焼土を含む粘質の暗褐色土が堆積しており、調査時には掻き出しピットと呼称している。掘り方 東側では床面下に掘り方はほとんど見られず、57号住居と重複する部分で厚さ2～4cmの黒褐色土が埋められていただけであった。中央部分では円形の床下土坑2基を検出した。北側の土坑1は直径150cm、深さ9cm、土坑2は直径55cm、深さ8cmを測った。ともに粘質の暗褐色土で埋められていた。

遺物 竈内からは土師器甕の破片9、10が出土している。竈手前の床面直上からは須恵器椀1が伏せられた状態で出土している。竈の右側、東壁近くからは床面から5cm離れた状態で土師器甕7が出土している。この他埋没土中から瓦片11・12や鉄鎌13が出土している。

所見 重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第3四半期の所産と考えられる。

3区44号住居 (第183～185図、P L 20・112)



住居

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に20%混入。白色軽石(径1～5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に少量混入。(42号住居)

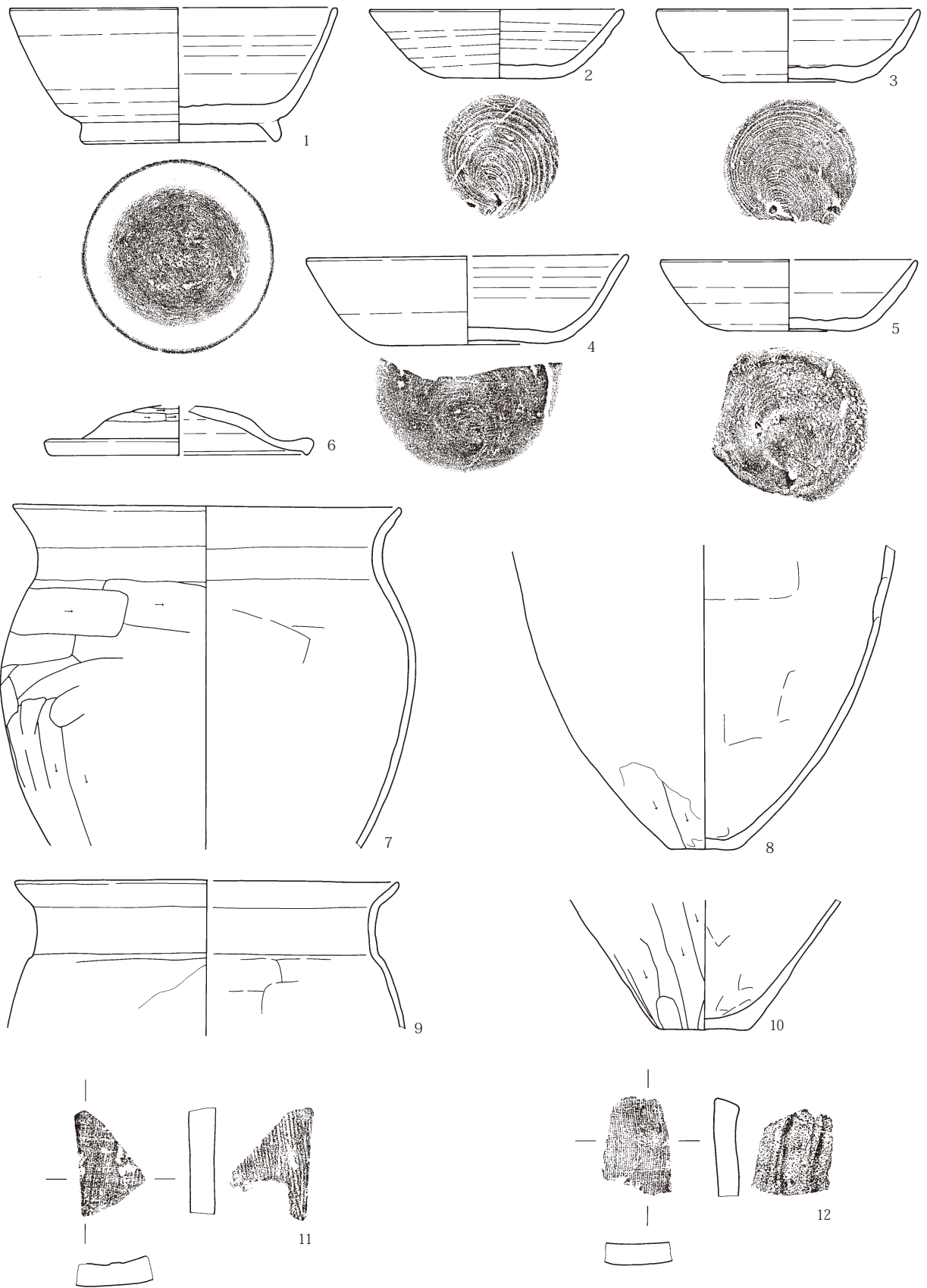
2 黒褐色土 粘質。焼土粒(径1mm)少量混入。白色軽石(径1mm)少量混入。(42号住居掘り方)

竈

1 黄橙色土 粘質。焼土(径5～10mm)均一に70%混入。

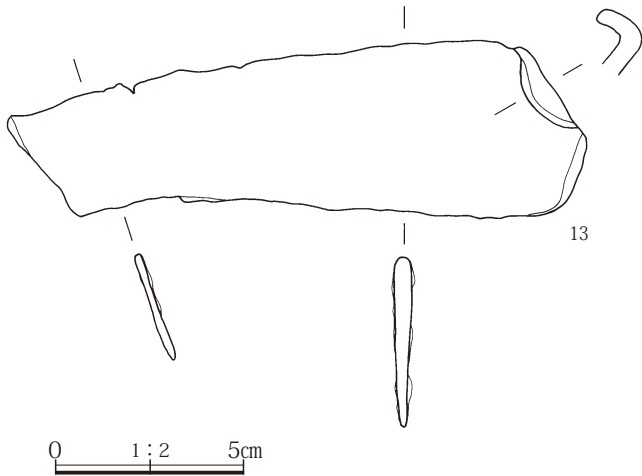
2 黒褐色土 焼土粒(径2mm)少量混入。

第180図 3区42号住居



第181图 3区42号住居出土遺物 1 1-12

0 1:3 10cm



第182図 3区42号住居出土遺物 2 13

位置 460-495

主軸方位 N-2°-W 面積 計測不能

重複 45号住居に後出するか。24号住居、30号住居、44号住居に先出する。

形状 南側の大部分を24号住居に切られるため全体の構造は不明である。他事例との比較から縦長の長方形を呈していたものと考えられる。規模は、南北3.15mを測る。東西の残長は掘り方面で2.22mを測った。検出した北壁の2隅は丸みを有していた。埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大35cm掘り込んで床面を構築する。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

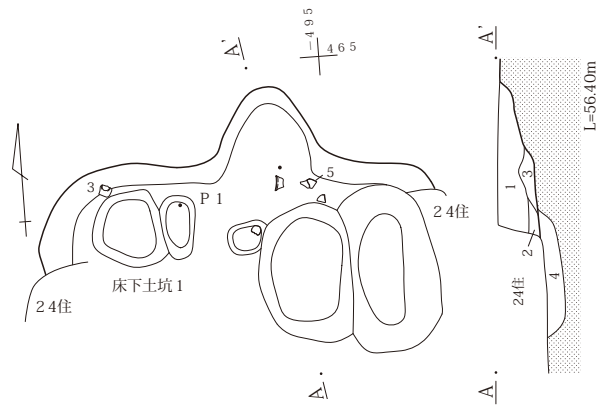
竈 北壁の中央からやや南側で検出した。燃烧部は住居の壁面を掘り込み壁外に構築されていた。焼き口部分にも削平が及んでいた。確認長はcm、幅は75cmを測る。

掘り方 床面下には土坑状の掘り込みが大小4基検出された。灰黄褐色土で埋まっていた。

遺物 竈内から土師器甕5が出土している。須恵器碗2、須恵器蓋4も竈埋没土中出土である。須恵器杯1、須恵器碗3は床面から20cm以上離れた状態で出土した。土錘6は床下土坑からの出土である。

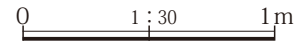
所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。

3区45号住居 (第186~188図、P L 20・112)

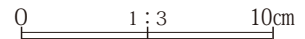
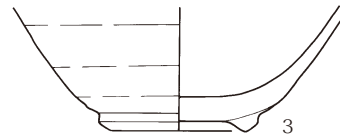
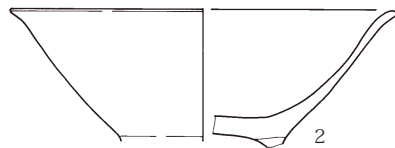
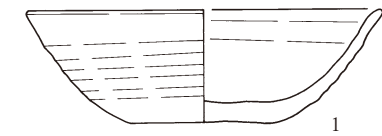


竈

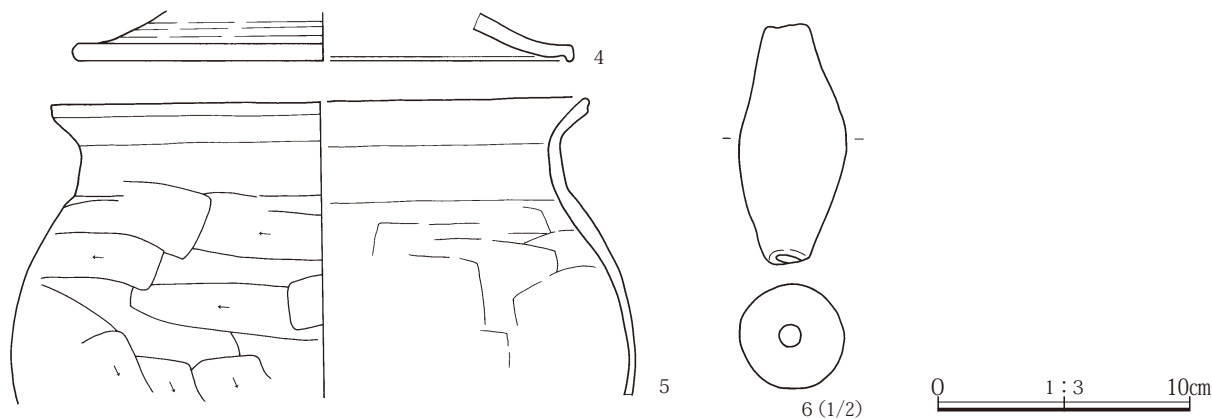
- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石少量含む。焼土ブロック(径5mm前後)中量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径20mm前後)少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック(径20~30mm)中量混入。焼土ブロック(径2mm前後)少量含む。炭化物(径5mm前後)少量含む。
- 4 灰黄褐色土 ロームブロック(径20~40mm)中量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。



第183図 3区44号住居



第184図 3区44号住居出土遺物 1 1-3



第185図 3区44号住居出土遺物2 4-6

位置 460、465-490、495

主軸方位 N-9°-W 面積 計測不能

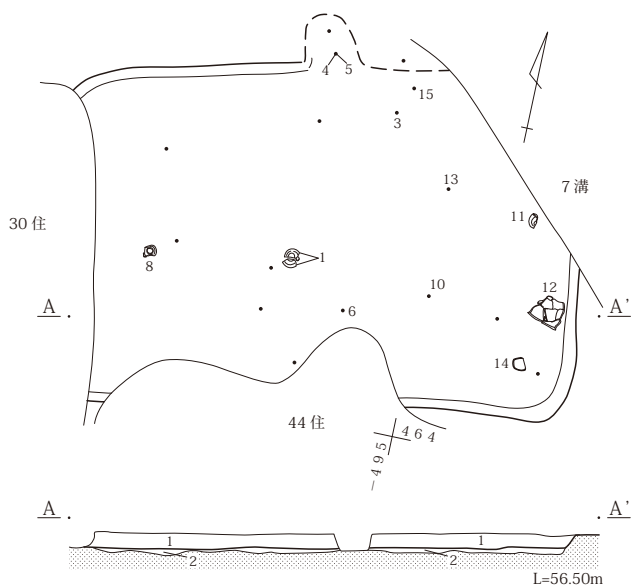
重複 30号住居、44号住居、7号溝に先出する。

形状 東西に長軸を有する横長の長形状を呈する。北東隅部分が調査区域外に及んでいた他、他住居との重複により削平を受け、壁面の残存状況は不良である。掘り方面における規模は長軸4.15m、短軸2.70mを測る。

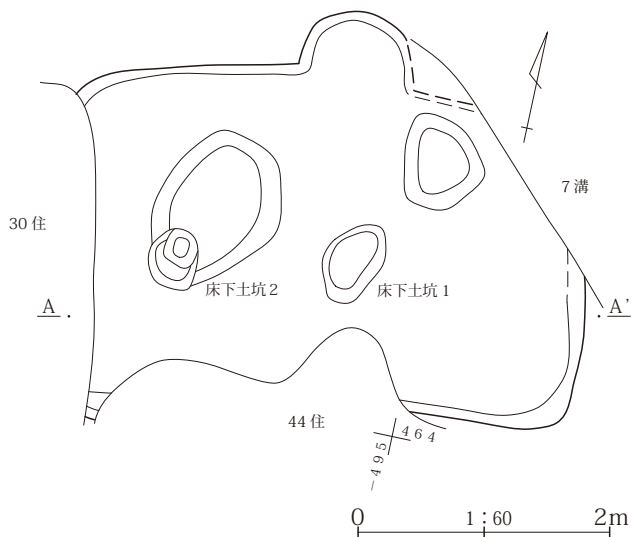
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大12cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 北壁で検出したが7号溝により削平を受けており、燃烧部の掘り方部分を検出したにとどまった。掘り方 床面下精査時に住居中央部分で楕円形状の床下土坑3基とピット状の掘り込み1基を検出した。1号土坑は長径68cm、深さ9cm、2号土坑は長径124cm、深さ18cm、3号土坑は長径74cm、深さ9cmである。中央の床下土坑1では焼土ブロックの堆積が確認されたことから調査時には本住居に先行して炊飯施設に炉を持つ住居が存在することが推定されている。ピットは長径47cm、深さ38cmである。遺物 竈内から須恵器杯4・5、土師器杯3が出土している。床面中央から出土した土師器杯1やその北側から出土した須恵器耳皿8、東壁際出土の土釜12などはいずれも床面直上からの出土である。こ



- 住居
- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。(45号住居)
 - 2 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒少量含む。(45号住居掘り方)



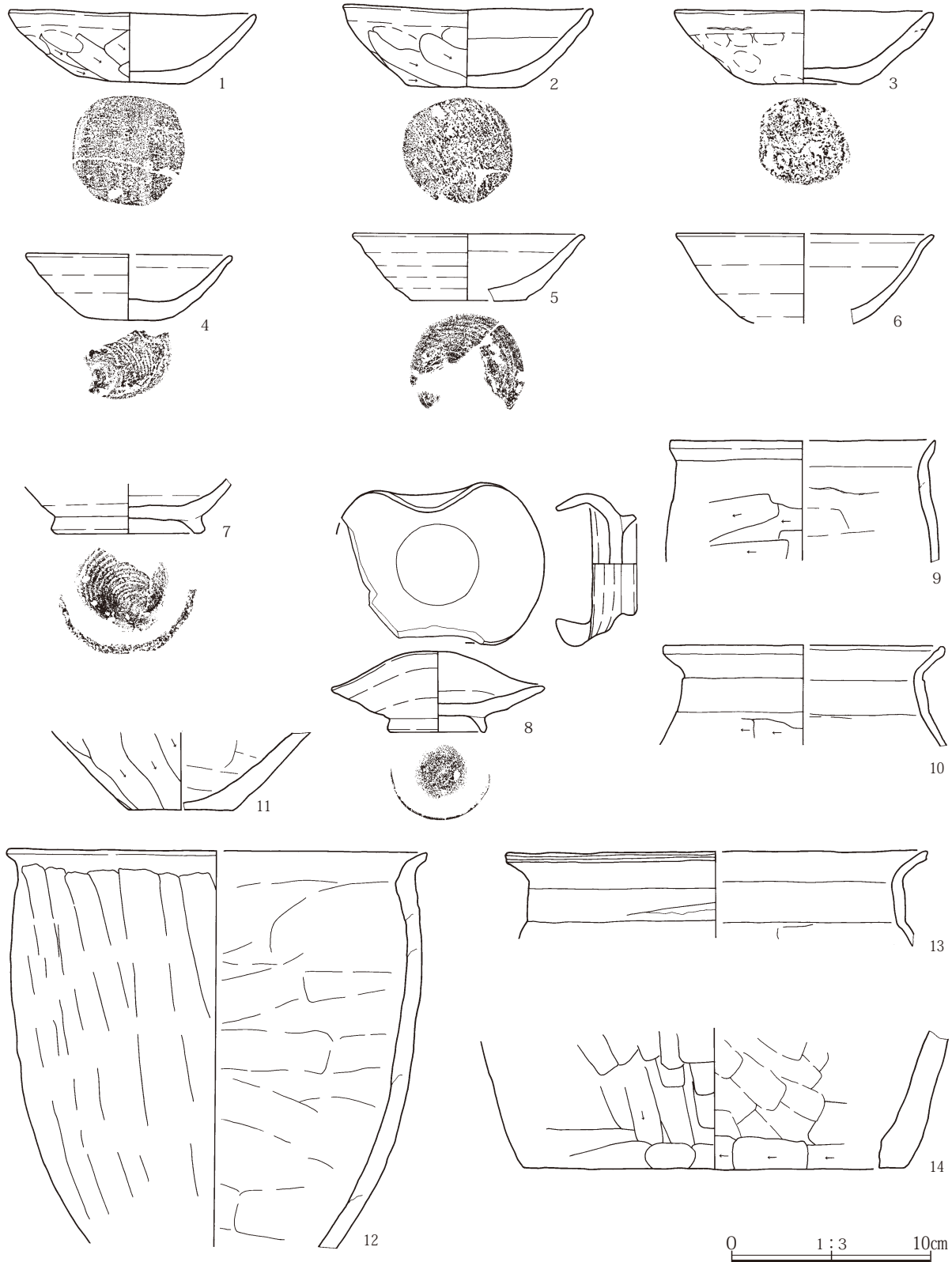
第186図 3区45号住居

の他に須恵器甑14や瓦15が出土している。

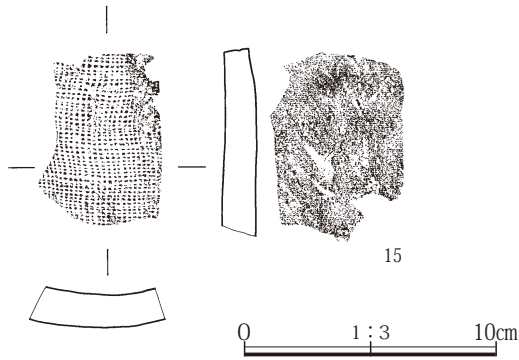
えられる。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考

3区46号住居（第189～191図、P L 21・113）



第187図 3区45号住居出土遺物 1 1-14



第188図 3区45号住居出土遺物 2 15

位置 460-485、490

主軸方位 面積 計測不能

重複 47号住居に先出する。48号住居に後出する。

形状 北東部分をはじめ全体の約半分が調査区域外におよぶ。また、後出の住居や7号溝に切られる

ため、壁面の残存も不良で、全体の構造は不明である。残存長は東西3.16m、南北1.80mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

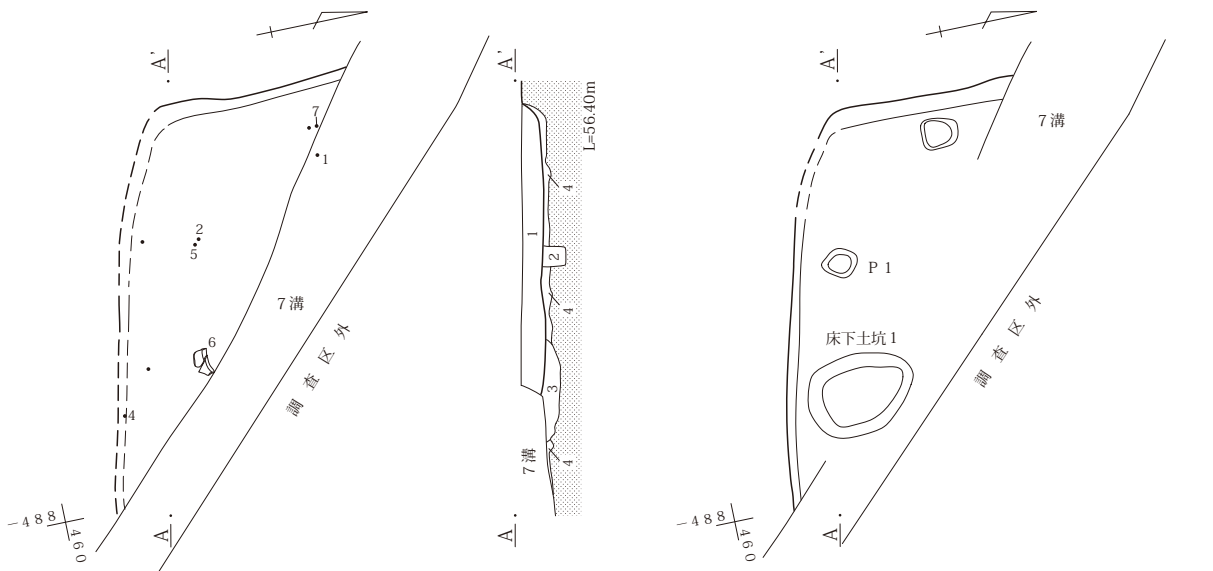
床面 南壁の中央で確認面から最大18cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。竈、貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

掘り方 平面形が楕円形を呈する床下土坑1基とピット2基を検出した。土坑は長径88cm、深さ7cmで、鈍い褐色土・黄褐色土が堆積していた。

遺物 土師器甕6、灰釉陶器碗5が床面近くで出土している。埋没土中から土錘8が出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

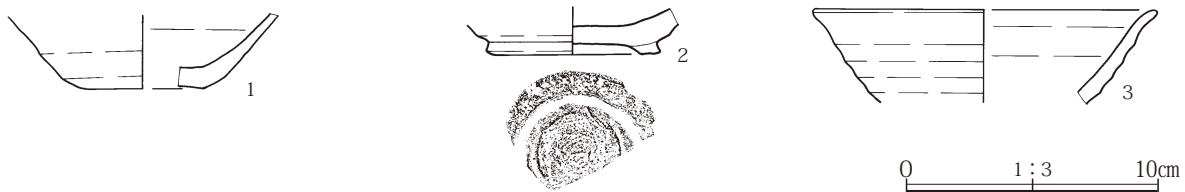
3区47号住居 (第192・193図、P L 21・113)



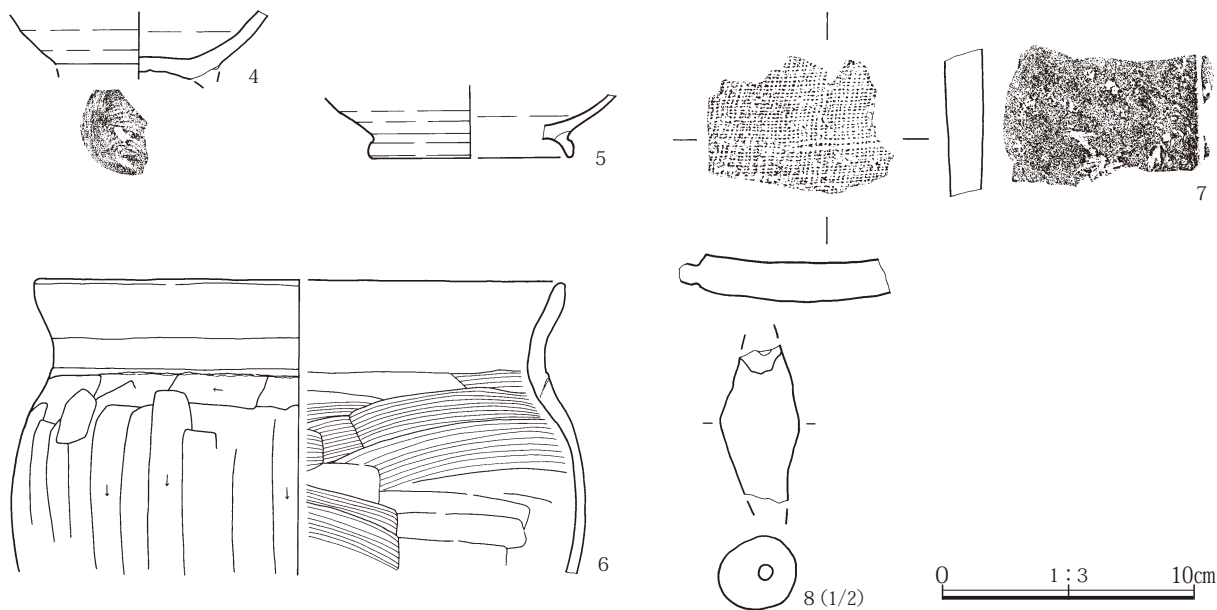
住居

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒(径5mm前後)少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒・炭化粒少量含む。(1号ピット)
- 3 灰黄褐色土 ロームブロック(径20~40mm)中量混入。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(径20mm前後)中量混入。

第189図 3区46号住居



第190図 3区46号住居出土遺物 1 1-3



第191図 3区46号住居出土遺物 2 4-8

位置 455-485、490

主軸方位 E-13°-S 面積 5.49㎡

重複 48号、49号、62号住居に後出する。

形状 重複関係にあった他の住居の埋没土を掘り込んで構築されていたことから、切り合い関係の識別は困難を極めた。そのため壁面の確認状況は不良である。形状は、四隅が隅丸の正方形形状を呈する。規模は東西2.53m、南北2.50mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から12cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。床面が62号住居の埋没土中に構

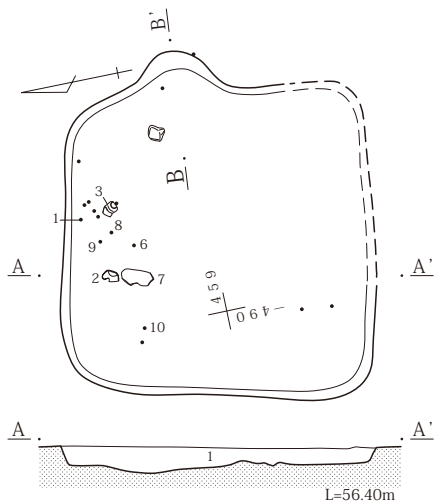
築されたことから、掘り方の状況は把握できなかった。

竈 東壁の中央から北側寄りで検出された。削平が著しく燃焼部の一部を検出したにとどまった。幅は60cmを測った。

遺物 埋没土中から出土した須恵器杯に墨書が記されていた。また、円面硯の破片5、土錘3点(8~10)等も埋没土中からの出土である。

所見 重複関係、出土遺物の特徴から10世紀第1四半期の所産と考えられる。

3区48号住居 (第194・195図、P L 21・113)

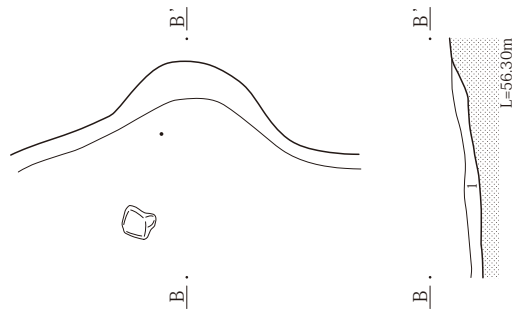


住居

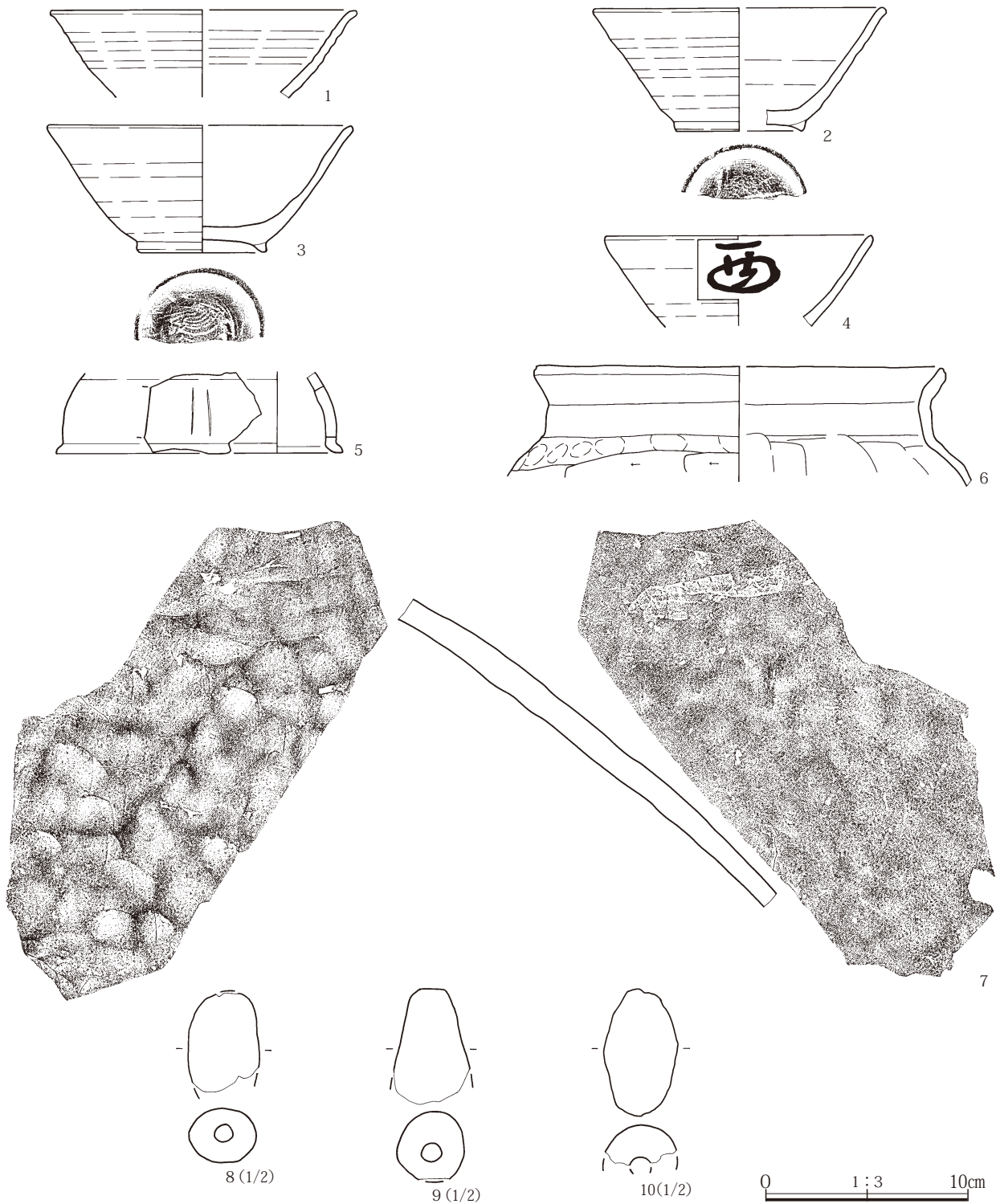
1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒(径5mm前後)少量含む。

竈

1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒・炭化物(径5mm前後)少量含む。



第192図 3区47号住居



第193図 3区47号住居出土遺物 1-10

位置 460-485

主軸方位 面積 計測不能

重複 46号、47号住居に先出する。

形状 北東部分が調査区域外のため、全体の構造は不明であるが、検出部分の状況から南北方向に長

軸を有する横長の長方形状を呈していたものと考えられる。残存長は、南北2.77m、東西2.62mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大15cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。竈、柱穴、周溝は検

出されなかった。

貯蔵穴 南東隅で検出した。平面形は楕円形で、長径46cm、短径40cm、深さ11cmであった。暗褐色土、褐灰色土が堆積していた。

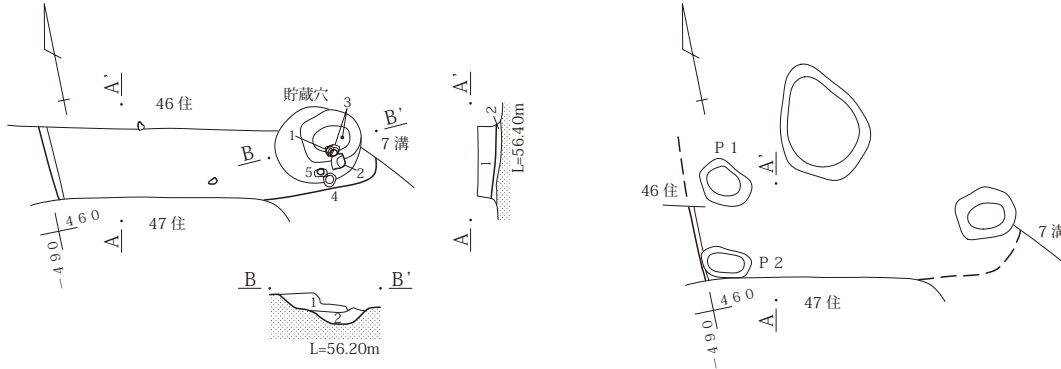
掘り方 中央部分から長径97cm、深さ8cmの土坑状の掘り込み1基、西壁寄りから長径40cm前後のピツ

ト状の掘り込み2基を検出した。

遺物 貯蔵穴内から須恵器杯1、椀2～5が出土した。埋没土中からは土錘の破片6が出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀第1四半期の所産と考えられる。

3区49号住居（第196～198図、P L 21・113・114）



住居

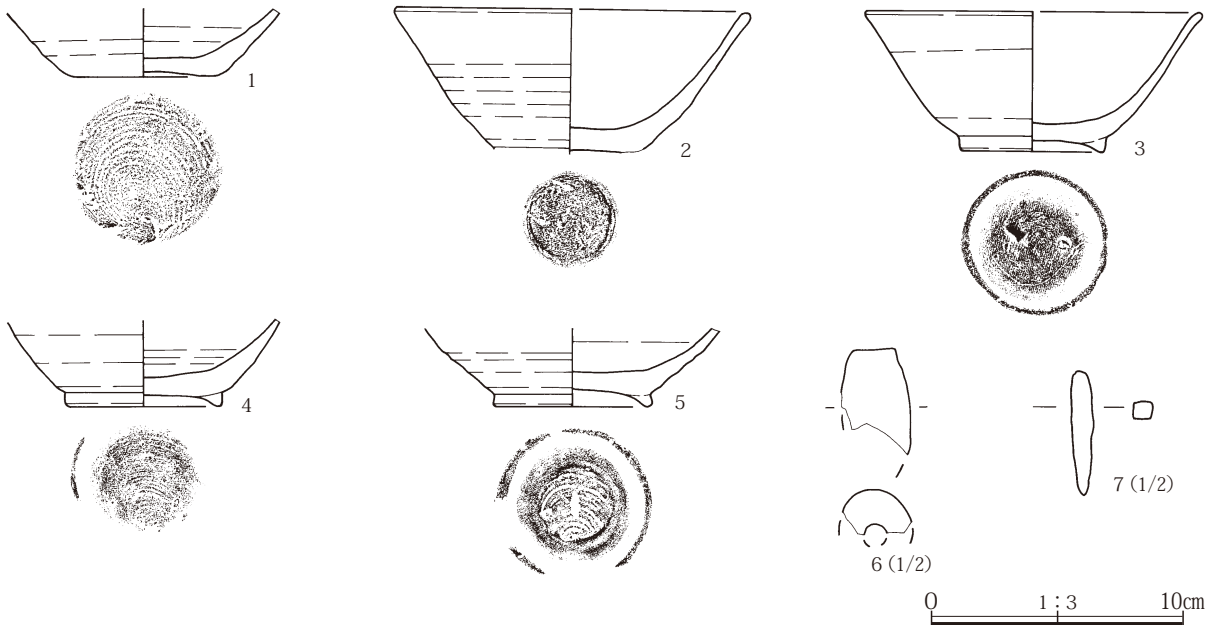
- 1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒極少量含む。(48号住居)
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5～20mm)少量混入。(48・49号住居掘り方)

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。
- 2 褐灰色土 粘質。ロームブロック(径5mm前後)少量混入。



第194図 3区48号住居



第195図 3区48号住居出土遺物 1-7

位置 455-485、490

主軸方位 E-10°-N 面積 計測不能

重複 47号住に先出、65号住に後出する。

形状 東側は47号住居との重複により削平されて

いるため全体の構造は判然としないが、長辺、短辺の差が小さく、正形状を呈すと考えられる。南北長3.28m、東西長3.08mが推定される。竈は検出されなかったが掘り方精査時の所見では東壁に敷設さ

れていたと想定している。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。南西部分では粘土ブロックの流入が認められた。

床 面 確認面から最大16cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

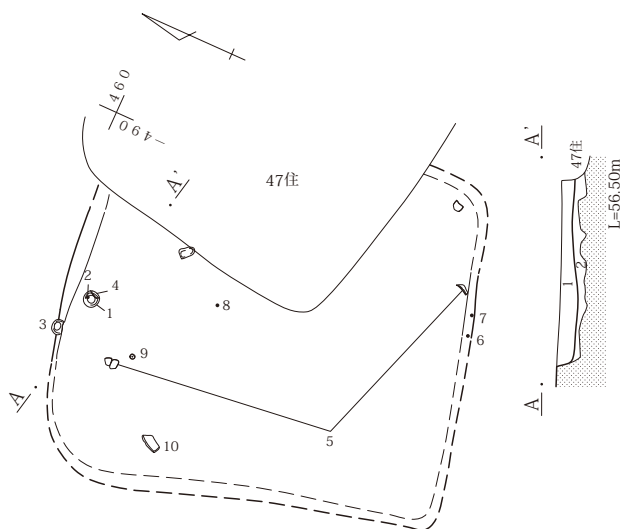
掘り方 西壁際から平面不整形の土坑状の掘り込み1基が検出された。黒褐色土で埋まっていた。

遺 物 住居中央やや北寄りの床面直上から土師器

甕8が出土している。北壁際の床面からは須恵器杯1・2・4が重なって出土、その北東からは須恵器杯3が床面から5cm離れて出土している。これらの土器からやや中央寄りの床面直上からは石製紡錘車9が出土している。埋没土中からは土錘7が出土している。

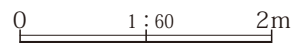
所 見 出土遺物の特徴から9世紀第3四半期と考えられる。

3区51号住居(第199・200図、P L 22・114)

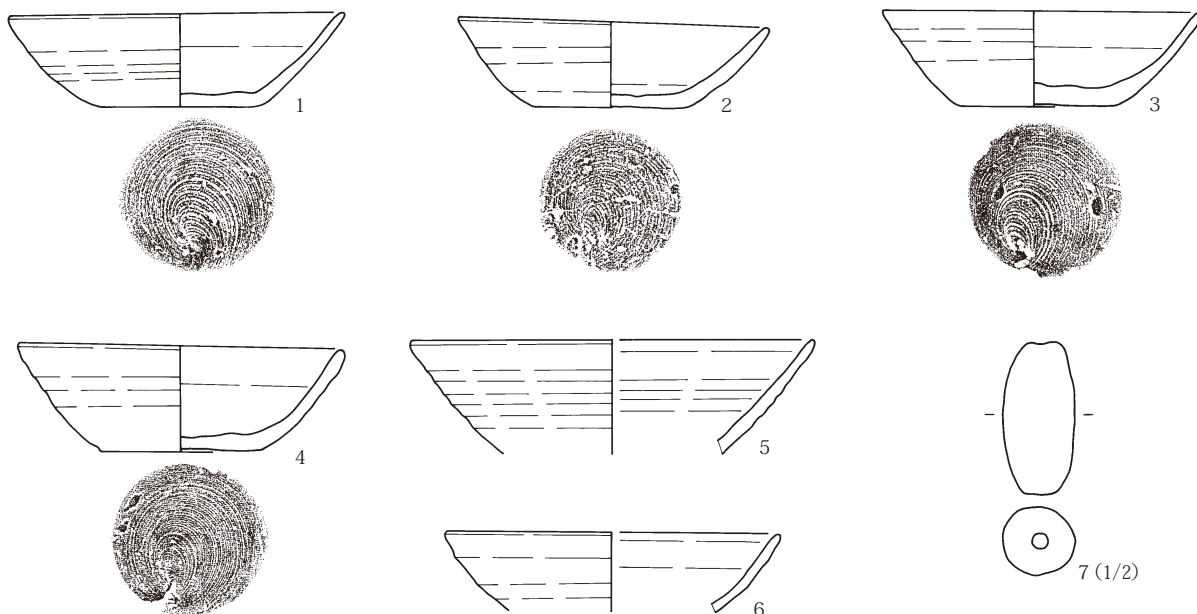


住居

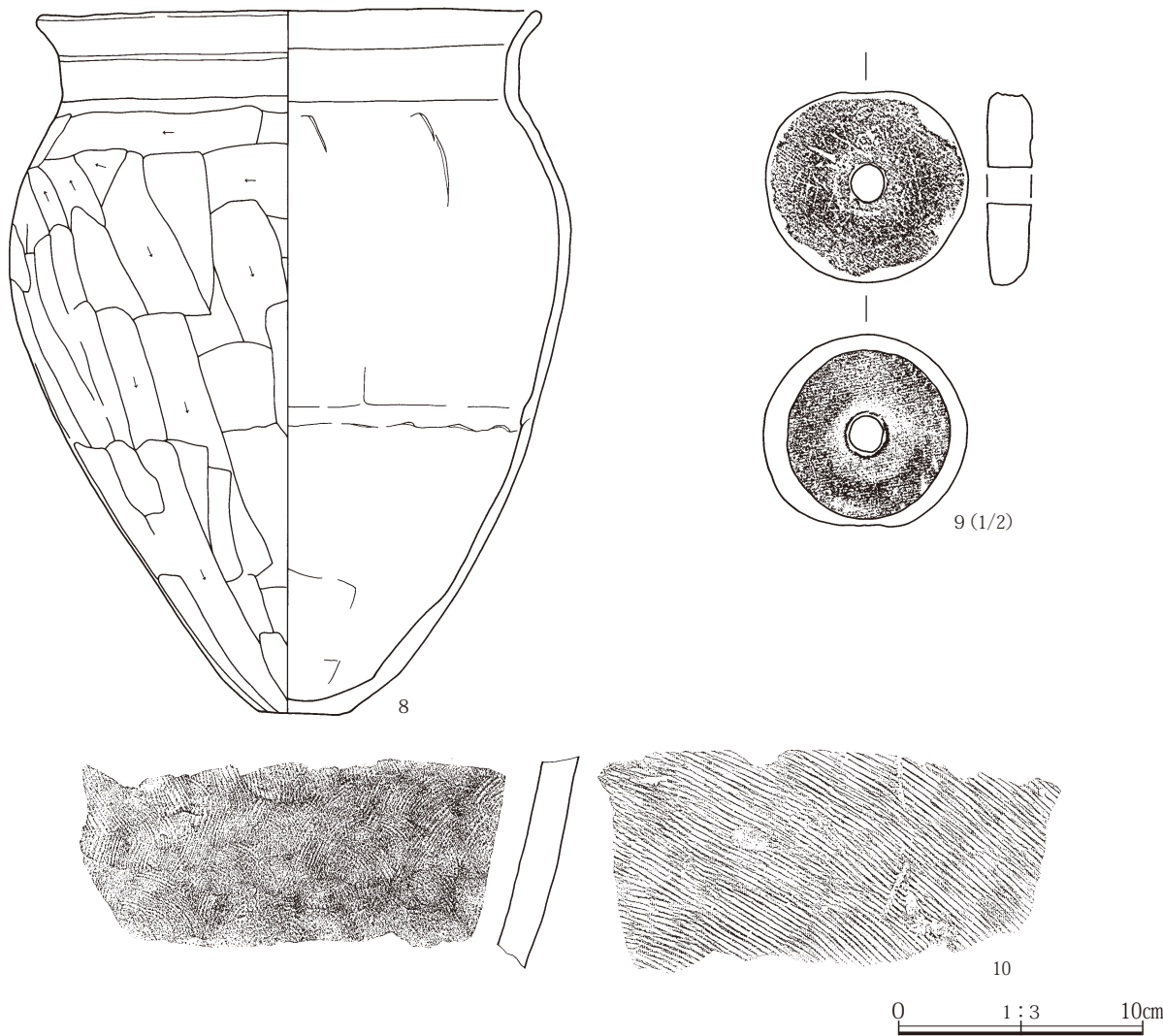
- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量に混入。



第196図 3区49号住居



第197図 3区49号住居出土遺物 1 1-7



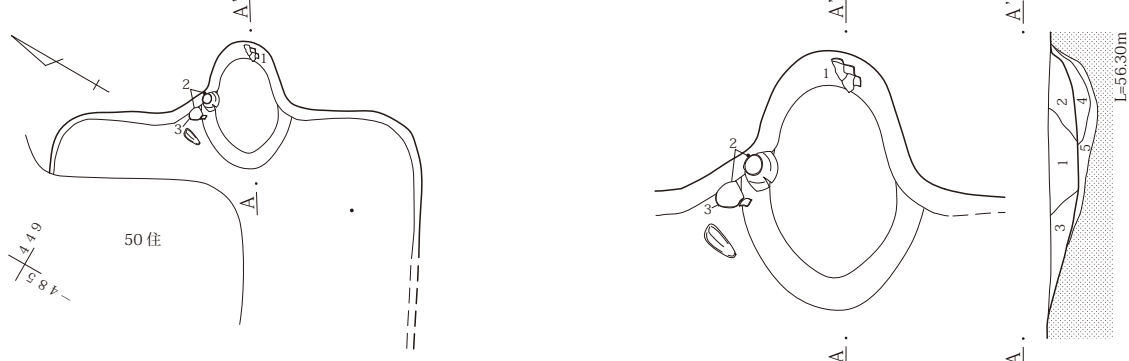
第198図 3区49号住居出土遺物 2 8-10

位置 445-480、485

主軸方位 E-28°-N 面積 計測不能

重複 72号住居に後出する。

形状 竈付近のみの検出のため、全体の構造は判



- 竈
- 1 暗褐色土 白色軽石少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。炭化物(径5mm前後)極少量含む。
 - 2 暗褐色土 焼土ブロック(径5~30mm)多量に混入。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒・炭化粒極少量含む。
 - 4 暗褐色土 ローム土少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量混入。
 - 5 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒・炭化粒極少量含む。



第199図 3区51号住居

然としない。壁面の立ち上がりもほとんど確認されなかった。

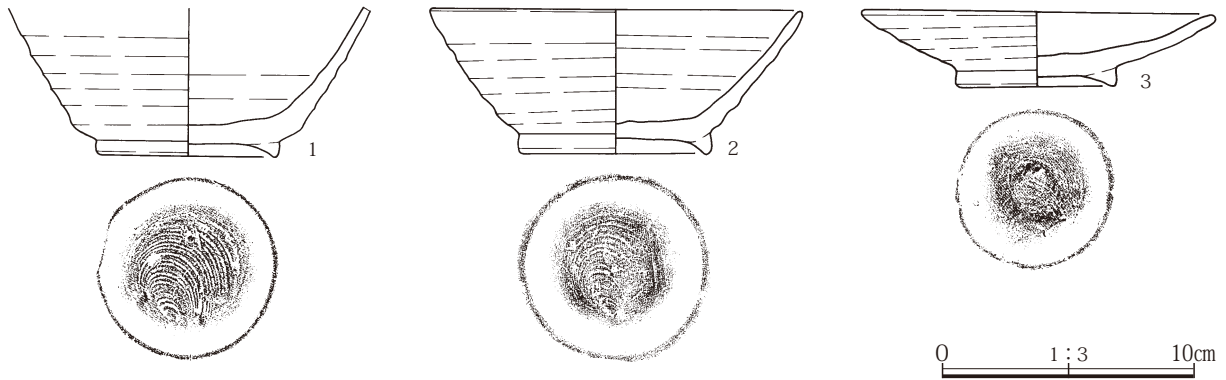
竈 東壁の中央で検出した。住居の壁面を掘り込んで構築された燃烧部の下半部分を検出したにとどまる。奥寄りで焼土ブロックの混入が認められた。規模は、確認長102cm、燃烧部長89cm、燃烧部

幅72cmを測る。

遺物 竈燃烧部の奥寄りから須恵器碗2、皿3が出土した。

所見 出土遺物の特徴から9世紀後半の所産と考えられる。

3区52号住居(第201・202図、P L 22)



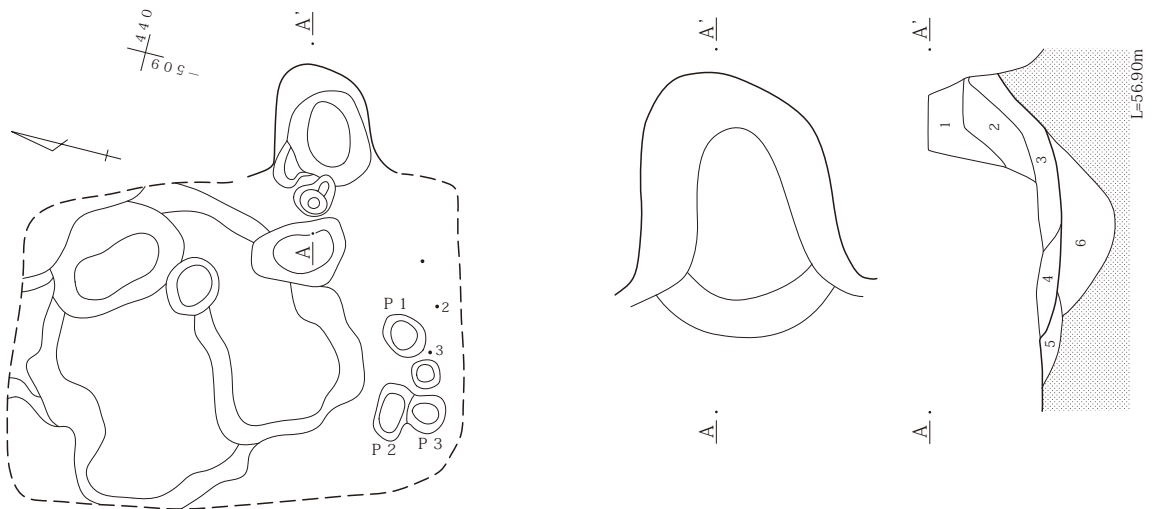
第200図 3区51号住居出土遺物 1-3

位置 435、440-505、510

主軸方位 E-8°-N 面積 計測不能

重複 38号、39号に後出する。

形状 38号、39号住居の構築により、壁面、床面の全ての部分が壊されてしまい残存していなかった。掘り方面の精査の結果、南北に長軸を有する横



竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。(竈に流入した土)
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径5~100mm)を50%混入。炭化物(径5mm)少量混入。ロームも20%混入。
- 4 黄褐色土 粘質。ロームが主体(90%)で、焼土粒(径5mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 5 暗黄褐色土 粘質。炭化物(径5~10mm)を30%混入。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。ローム粒(径5mm)均一に10%混入。
- 6 黄橙色土 粘質。焼土(40%)とローム(60%)の混土でうすい橙色。焼土ブロック(径10~30mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。

第201図 3区52号住居

長でやや隅丸の長方形を呈することが確認された。規模は長軸3.54m、短軸2.60mを測った。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の南側寄りで検出した。削平著しかったが、かろうじて燃焼部底面と奥側の煙道部へ移行する傾斜面を検出した。確認長104cm、燃焼部長84cm、燃焼部幅48cmを測る。

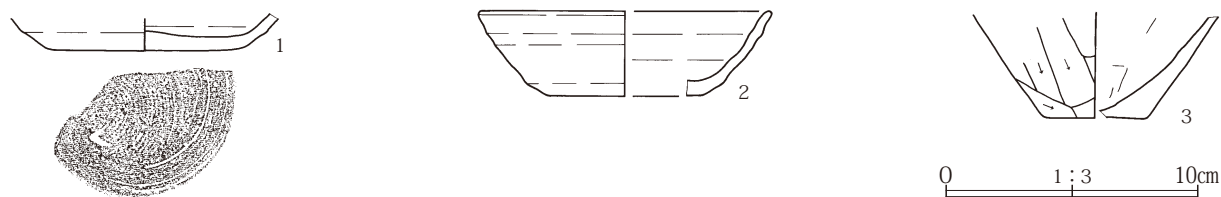
掘り方 竈の手前から北壁寄りの部分に大きな土坑状の掘り込みが検出された。基底面までの深さは

15cmから20cmである。南西隅寄りではピット状の掘り込みを4基確認した。いずれの箇所もやや粘質の暗褐色土で埋められていた。

遺物 掘り方埋土中から須恵器杯1・2が出土している。

所見 重複関係、出土遺物の特徴から9世紀後半の所産と考えられる。

3区53号住居(第203・204図、P L 22)



第202図 3区52号住居出土遺物 1-3

位置 440-510

主軸方位 N-4°-W 面積 計測不能

重複 39号住居に先出する。

形状 竈のみを検出したため全体の形状については不明である。

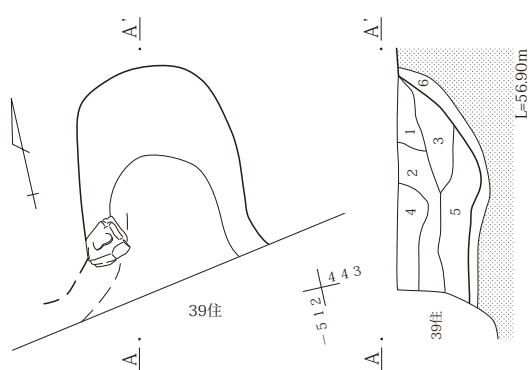
竈 39号住居により焚き口部手前まで削平を受けていた。平面、半円形の燃焼部を検出した。左側袖

部には長さ30cm程の棒状円礫を据え、焚き口部の構築材としていた。暗褐色土、暗黄色土が堆積していたが、焼土粒、炭化物の混入は顕著ではない。

遺物 須恵器杯1が出土している。

所見 平安時代の所産と考えられる。

3区55号住居(第205・206図、P L 22・114)



竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に20%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗黄色土 ロームブロック(径10~50mm)主体(80%)。焼土ブロック(径20mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径10~40mm)均一に20%混入。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径2mm)少量混入。
- 6 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。

第203図 3区53号住居カマド



第204図 3区53号住居出土遺物 1

位置 460、465-510、515

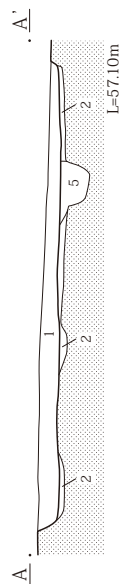
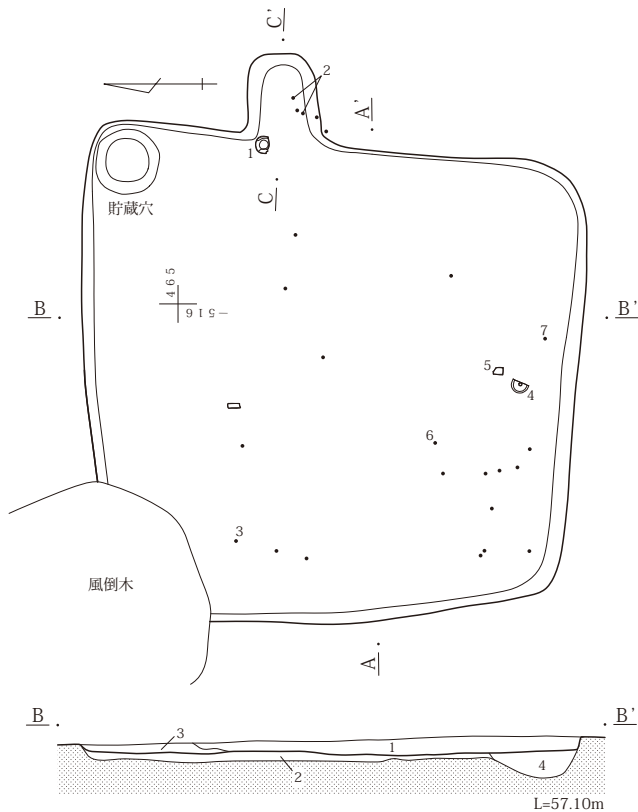
主軸方位 E-1°-N 面積 推定13.45㎡

形状 北西隅は風倒木により壊されている。正方形に近い形状であるが四隅が直角をなさず、対向す

る壁面の長さも異なっている。規模は南北4.05m、東西3.93mを測る。

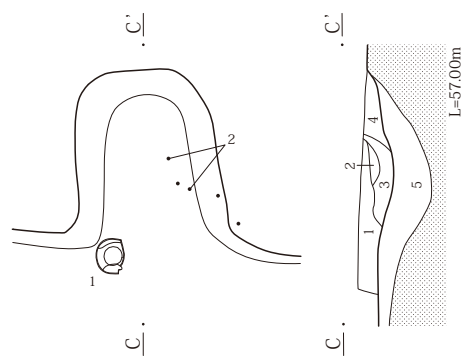
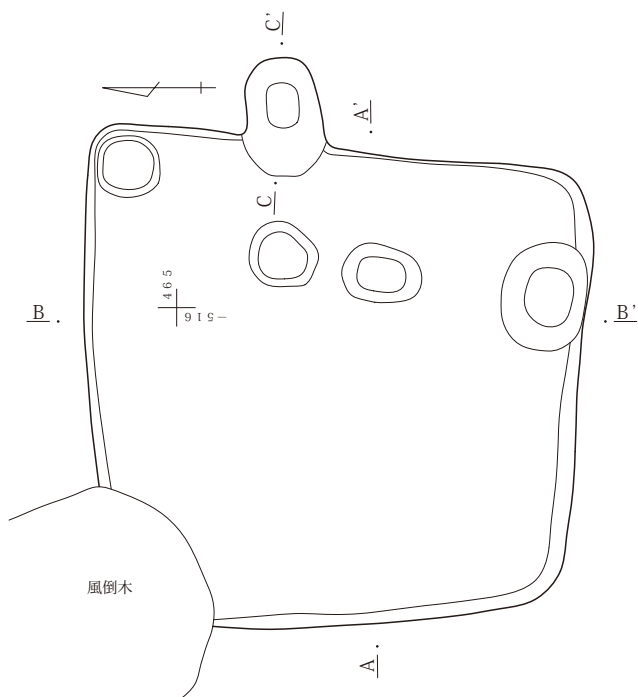
埋没土 粘質の暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大15cm掘り込んで床面を構築



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に10%混入。(55号住居)
- 2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径5mm)少量混入。(55号住居掘り方)
- 3 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm前後)均一に5%混入。焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。(55号住居)
- 4 暗褐色土 焼土粒(径2~5mm)不均一に混入(3%)。白色軽石(径1mm前後)不均一に混入(2%)。(1号土坑)
- 5 暗褐色土 焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。白色軽石(径1mm前後)均一に5%混入。ローム粒(径2~5mm)不均一に混入(3%)。(1号ピット)



竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 黄橙色 焼土ブロックの塊。
- 3 にぶい黄橙色 ロームと焼土が混じっていて軟らかい。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径10mm)を20%混入。

0 1:60(竈 1:30) 2m

第205図 3区55号住居

する。床面はわずかな起伏が見られる部分もあるが概ね平坦である。柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央から北側寄りで検出した。燃烧部は住居の壁面を掘り込み壁外に構築されていた。平面形は長方形に近い形状である。規模は、確認長77cm、燃烧部幅47cmを測る。

貯蔵穴 竈左側、住居北東隅で検出した。円形状を呈し、径52cm、深さ21cmを測る。焼土粒を含む黒褐色土が堆積していた。

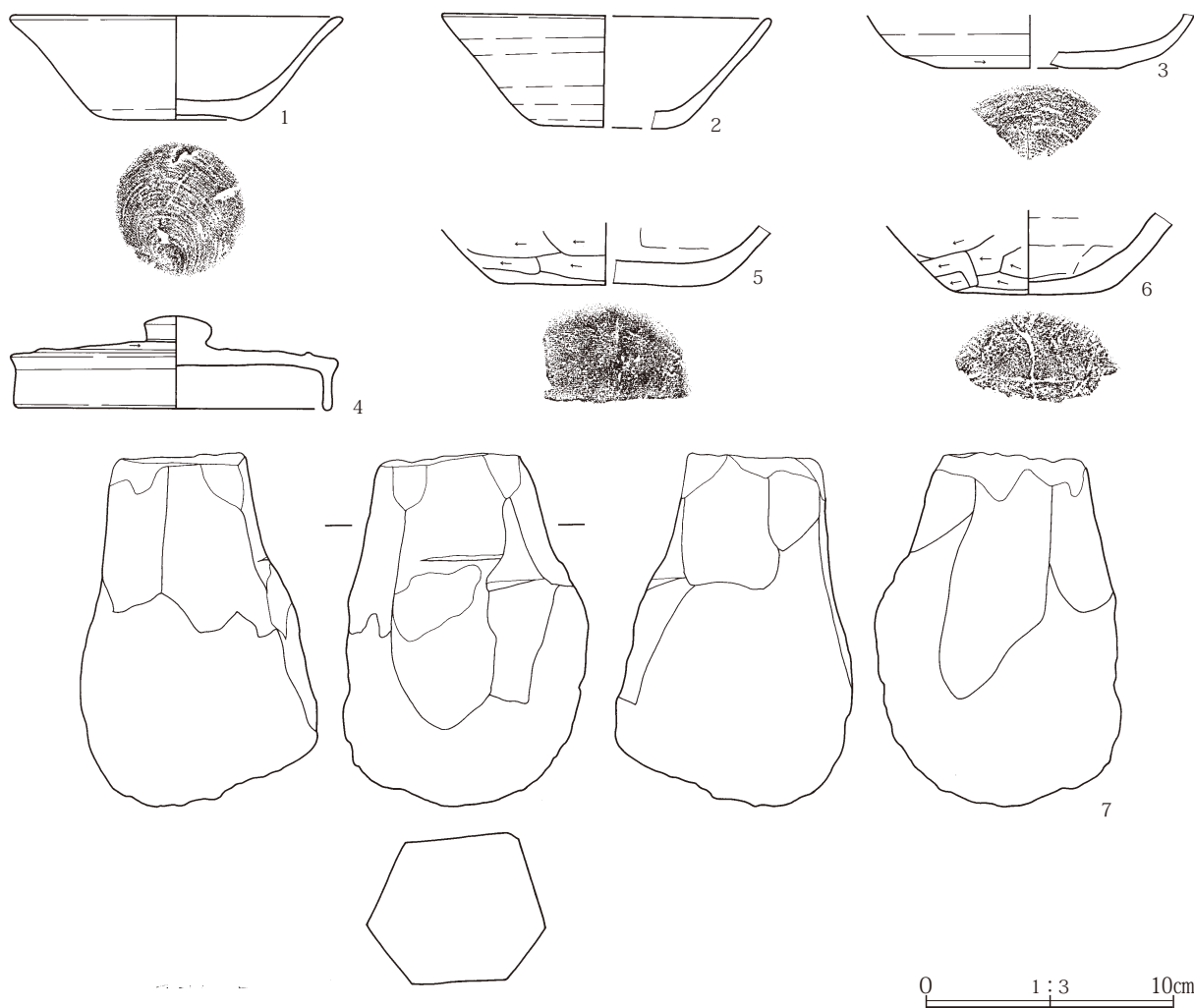
掘り方 床面下は全体的には厚さ5cm程で掘り方底

面に達する。床面の中央から東側では床下土坑3基が検出された。南壁際の掘り込みは長径88cm、深さ20cm、中央が長径65cm、深さ15cm、竈手前が長径55cm、深さ9cmである。いずれも粘質の暗褐色土が充填されていた。

遺物 竈焚き口部左側から須恵器杯1が、竈燃烧部内から須恵器杯2が出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

3区56号住居 (第207～209図、P L 23・114)



第206図 3区55号住居出土遺物 1-7

位置 460-515、520

主軸方位 E-6°-N 面積 計測不能

重複 41号、63号住居に先出する。

形状 東西方向に長軸を有する縦長の長方形を

呈す。北東隅は調査区域外におよび未検出である。

規模は東西3.81m、南北3.19mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大27cm、黒褐色土を掘り込ん

で床面を構築する。床面は概ね平坦であるが、竈の右側、南東隅はやや深く掘り込まれていた。柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央からやや南側寄りで検出した。燃烧部は住居の壁外に構築されていた。確認長128cm、燃烧部長100cm、燃烧部幅79cmを測る。

貯蔵穴 竈の右隅で検出。楕円形状を呈した。断面はややオーバーハングする。長径80cm、短径55cm、深さ20cmを測る。暗褐色土が堆積していた。

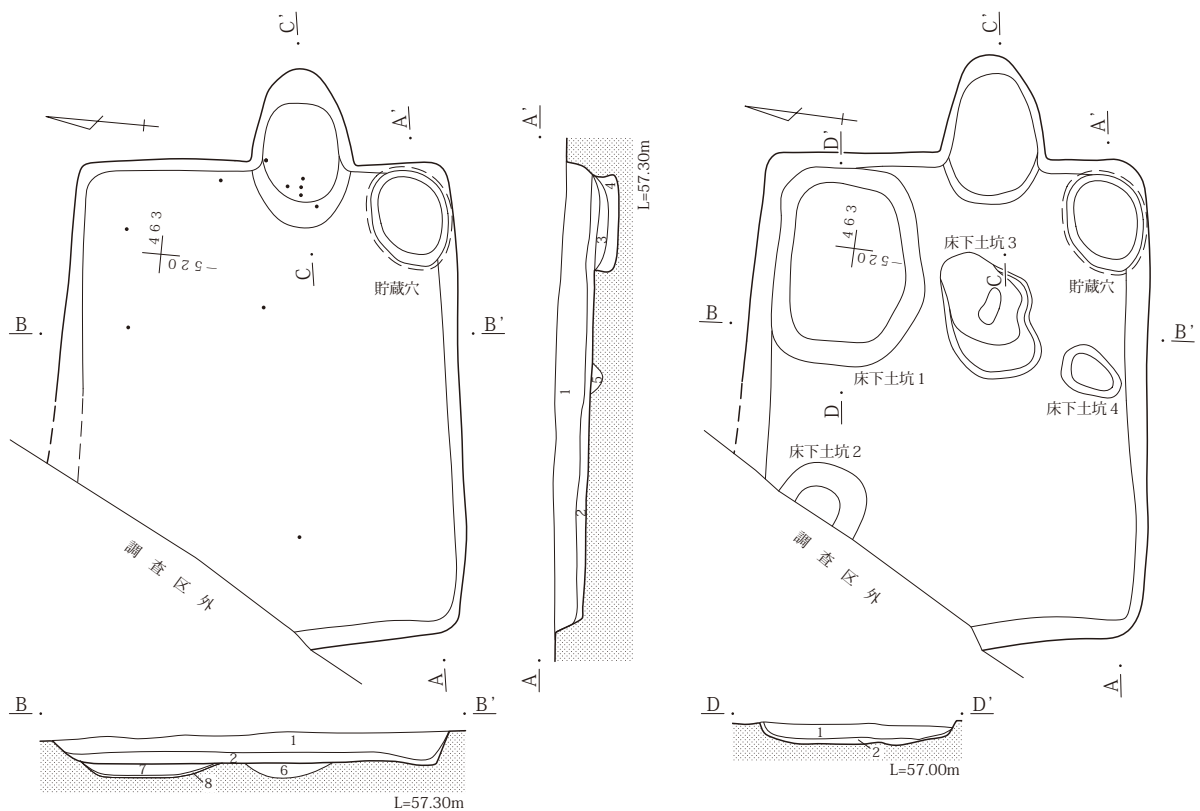
床下土坑 竈の左側、北東隅で楕円形状の床下土坑

を検出した。規模は、長径158cm、短径121cm、深さ16cmを測り、底面全面にロームを1cmほどの厚さで貼っている。竈の手前、南壁寄りの中央部分からも土坑状の掘り込みが検出された。最終使用面の下層には焼土が多く混入していた。

遺物 須恵器杯1が床面から10cmほど浮いた状態で出土している。3の土錘が竈内から出土した。

所見 出土遺物は8世紀第4四半期の特徴を有している。

3区58号住居 (第210～212図、P L 23・114)

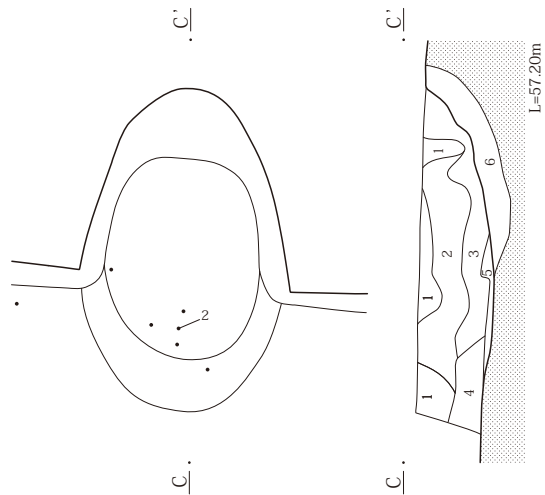


住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径3mm)均一に10%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)少量混入。
 - 2 暗褐色土 粘質。粘性が強く焼土粒(径2mm)を少量含む。
 - 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。ロームブロック(径5mm)少量混入。(貯蔵穴)
 - 4 暗褐色土 粘質。ローム粒(径5mm)少量混入。(貯蔵穴)
 - 5 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2mm)少量混入。焼土粒(径2mm)少量混入。(4号土坑)
 - 6 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2～5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10～50mm)少量混入。焼土粒(径3mm)少量混入。(3号土坑)
 - 7 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。(1号土坑) 黄褐色土 粘質。ローム土を貼って土坑使用面としている様である。(1号土坑)
 - 8 黄色ローム 意図的にロームを貼った。(1号土坑)
- ※ 1号土坑は、掘ったあとに、ロームを10mmぐらい全面にはってある。同じ様な土坑は3区から数基でている。1号土坑は、ロームが全面に貼ってあり、貯蔵穴かと思われる(下の床面に伴う)。

0 1:60 2m

第207図 3区56号住居

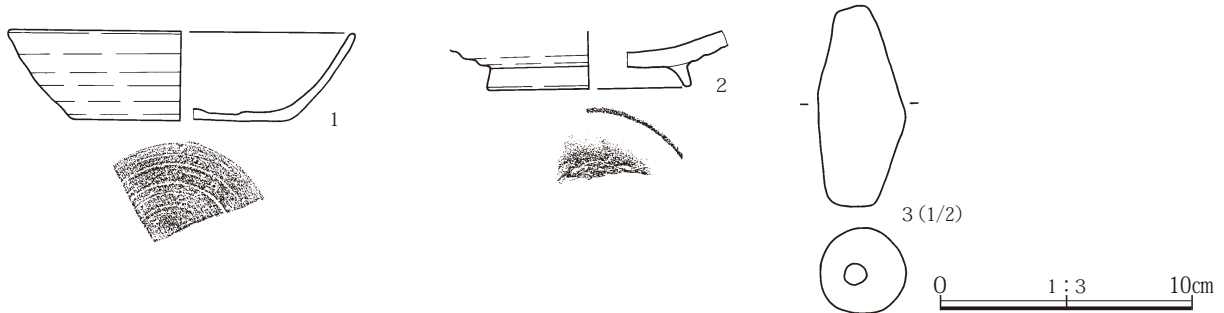


竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。ローム粒(径5mm)少量混入。
- 2 暗黄褐色土 粘質。ローム粒(径5mm)均一に10%混入。白色軽石(径5mm)少量混入。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。80%がロームで崩落した竈のローム。
- 3 赤褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)を均一に60%混入。ロームが20%混入。
- 4 黒褐色土 粘質。ローム粒(径5mm)少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に30%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 6 黒褐色土 粘性が強い 焼土粒(径2~5mm)少量混入。

0 1:30 1m

第208図 3区56号住居カマド



第209図 3区56号住居出土遺物 1-3

位置 450、455-515、520

主軸方位 E-2°-N 面積 計測不能

重複 42号、43号、57号、77号住居に後出する。

形状 東西方向に長軸を有する縦長の長方形を呈するものと考えられるが、西壁は遺構確認作業の際の試掘坑と重複してしまったためほとんど検出されなかった。規模は東西3.93m以上、南北2.87mを測る。

埋没土 暗褐色土1層が堆積していた。

床面 確認面から最大36cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央から北壁寄りで検出された。煙道部は燃焼部底面から緩やかに立ち上がり、10cmほどの高低差を有していた。燃焼部幅50cm、煙道部確認長100cmを測る。

貯蔵穴 竈右隅で検出した。平面形は楕円形状を呈し、長径64cm、短径52cm、深さ20cmを測る。暗褐色

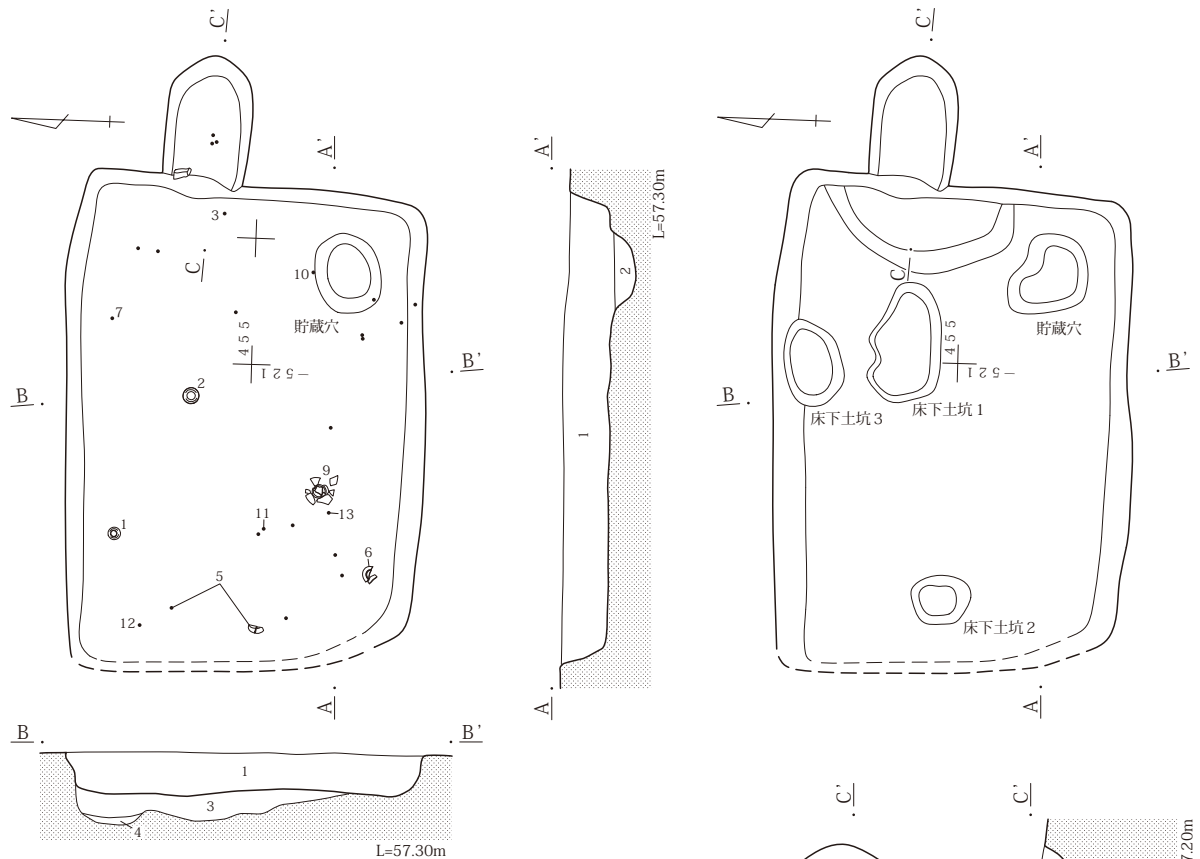
土が堆積していた。

掘り方 床面から掘り方底面までの深さは8から20cm程で、全体的に掘り込まれていた。竈の手前とその北側、北壁に接した位置、それに西壁寄りの3箇所土坑状の掘り込みが検出された。竈の手前の掘り込みは不整形を呈し、長径95cm、深さ5cmを測った。いずれの掘り込みも焼土、炭化物を含む暗褐色土が堆積していた。

遺物 床面直上からの出土は少量であった。床面中央からやや北壁寄りから須恵器杯2が出土している。土師器台付甕10は貯蔵穴際、床面近くからの出土である。床面中央から南西隅に寄ったところから双耳杯がつぶれた状態で出土したが、床面からは20cmほど浮いていた。埋没土中からは瓦12・13や鉄釘14が出土している。

所見 出土遺物の特徴から9世紀第3四半期の所産と考えられる。

3区61号住居 (第213・214図、P L 24・115)



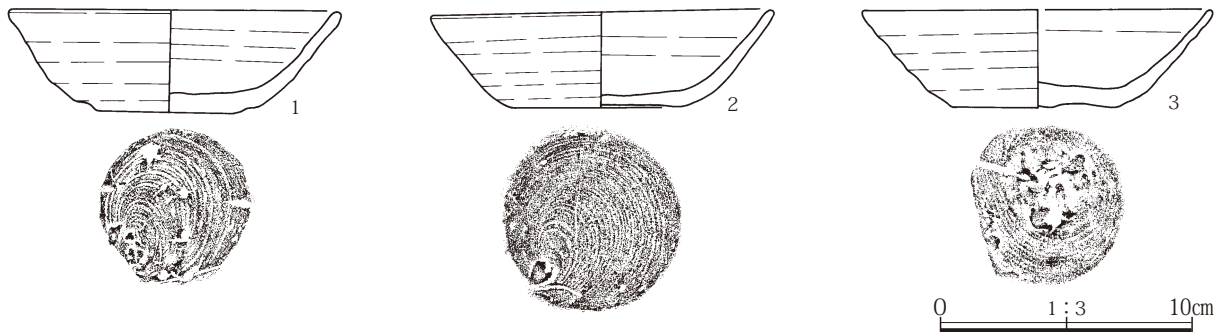
住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に混入(25%)。ローム粒(径3mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に15%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。(58号住居)
 - 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)を均一に15%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
 - 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。白色軽石(径1mm)少量混入。(43号住居)
 - 4 暗褐色土 粘質。(床下土坑3)
- ※58号住居が43号住居(古い)をきっている。

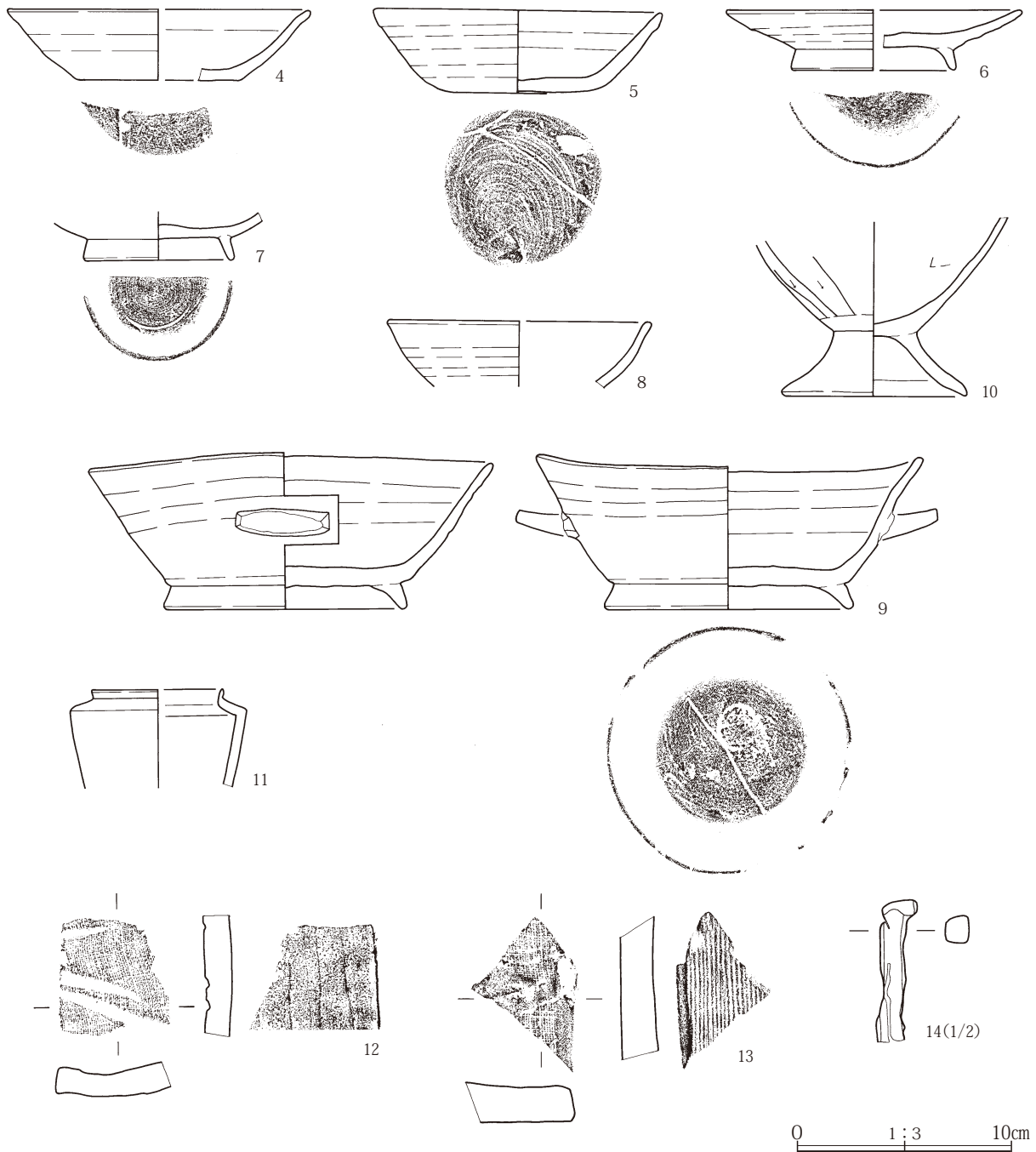
竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)を均一に10%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径3mm)均一に5%混入。白色軽石(径5mm)を少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)を均一に混入(80%)。ローム粒(径2~5mm)を均一に10%混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に30%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

第210図 3区58号住居



第211図 3区58号住居出土遺物 1 1-2



第212図 3区58号住居出土遺物2 4-14

位置 450-510

主軸方位 E-21°-N 面積 8.49㎡

重複 76号、83号住居に後出する。

形状 南北方向に長軸を有する横長の長方形を呈する。四隅はやや丸みをおびている。規模は南北3.60m、東西2.70mを測る。

埋没土 暗褐色土1層が堆積していた。

床面 確認面から最大16cm掘り込んで床面を構築

していた。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央からやや南側寄りで検出した。確認長は117cmである。燃焼部長75cm、燃焼部幅42cmを測る。両側の袖部とも芯材として瓦が利用されていた。左側6は立位の状態、右側7は寝かせた状態で検出された。右側は倒れた可能性も考えられる。奥寄りから壁体を構成していたと考えられる焼土ブ

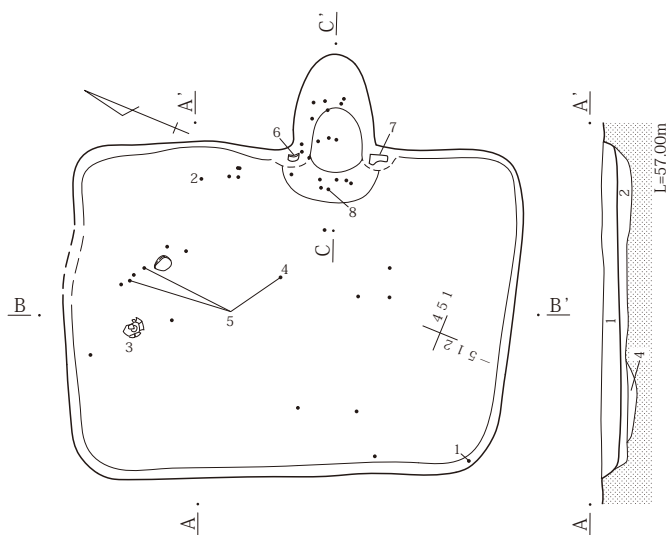
ロックが出土している。

掘り方 床面から掘り方底面までの深さは5から10 cm程で暗褐色土が堆積していた。北壁寄りには土坑状の掘り込み3基が見られた。竈右側の南東隅部分ではピット状の掘り込みが3基を検出した。いずれも暗褐色土が堆積していた。

遺物 須恵器杯1・2、椀3、土師器甕4等が出土したが床面直上の遺物はなく、いずれも床面から浮いた状態で出土している。

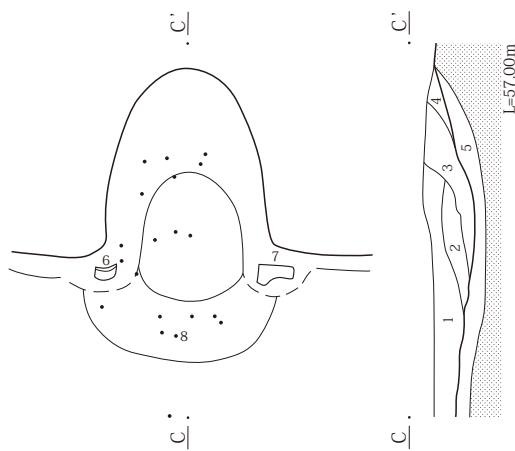
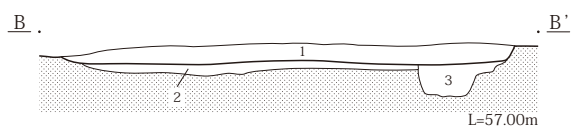
所見 出土土器の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

3区62号住居（第215・216図、P L 24・115）



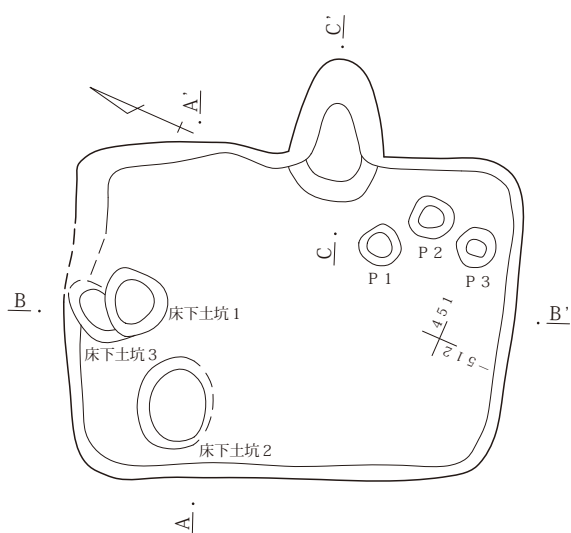
住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。炭化物(径2～5mm)均一に10%混入。白色軽石(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径2mm)均一に5%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10～50mm)均一に30%混入。



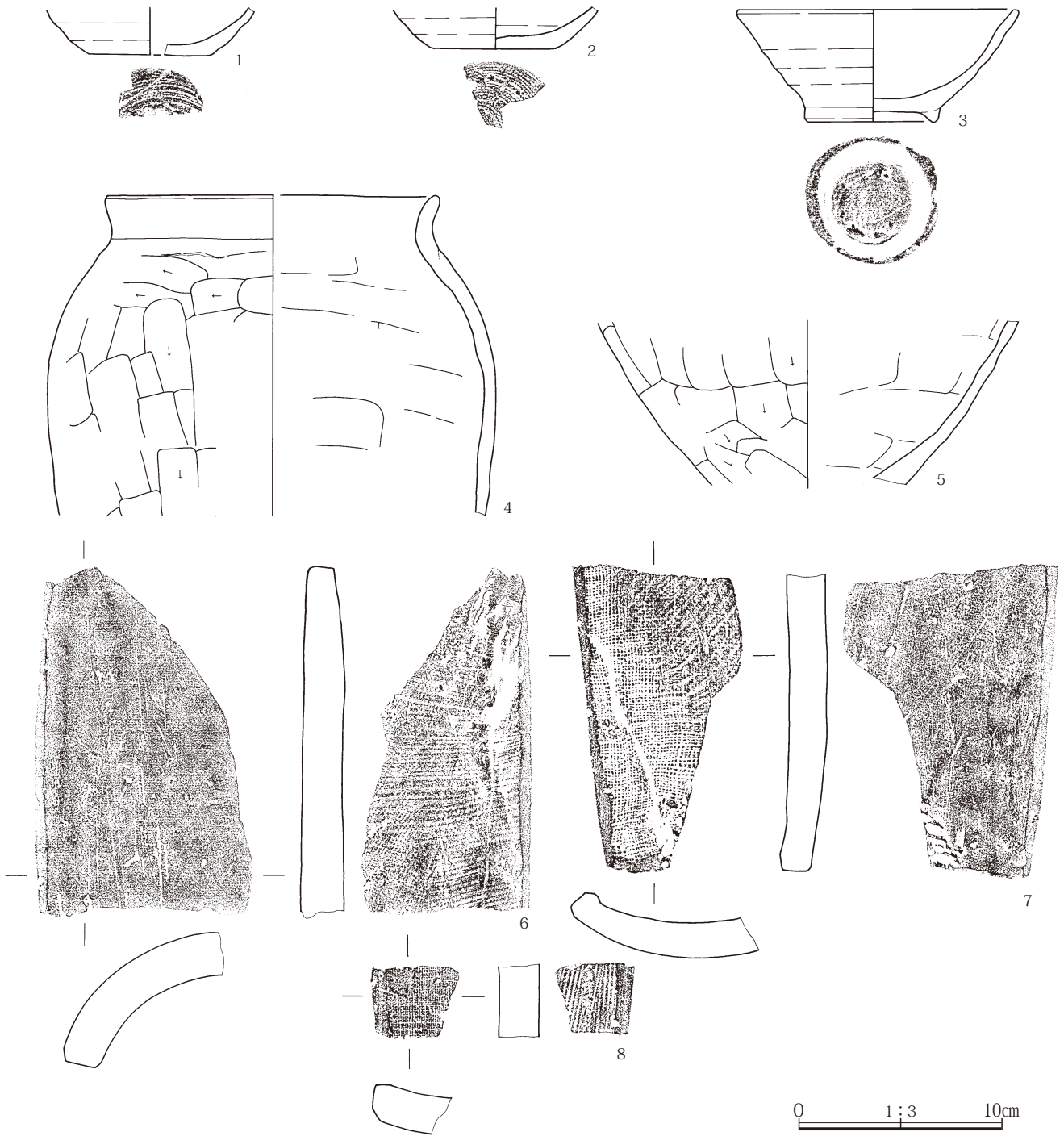
竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に10～20%混入。ローム粒(径5mm)均一に20%混入。ローム粒(径5mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5～10mm)を均一に混入(70%)。炭化物(径5mm)均一に20%混入。ローム粒(径5mm)少量混入。崩落した焼土が主体。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。ローム粒(径3mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。



0 1:60(竈 1:30) 2m

第213図 3区61号住居



第214図 3区61号住居出土遺物 1-8

位置 455-485

主軸方位 竈の方向をいれる 面積 計測不能
重複 47号、64号、65号住居に先出する。

形状 竈付近のみの検出のため、全体形状他については不明である。

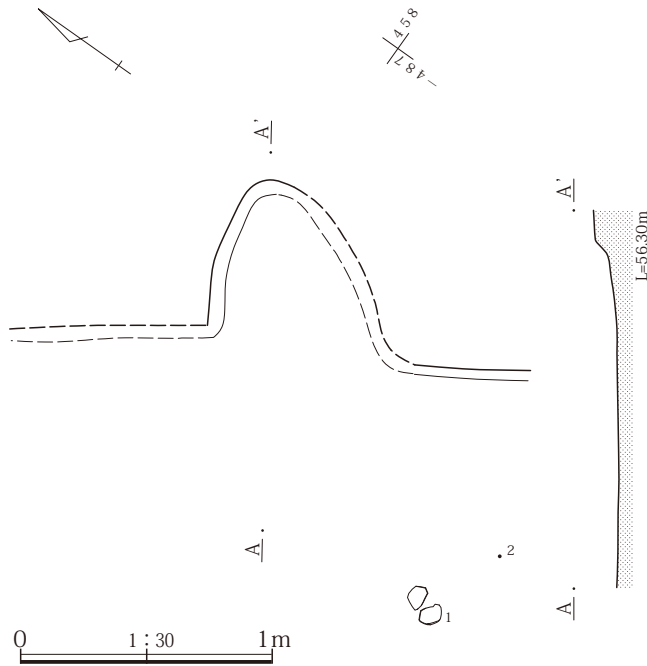
竈 住居の壁外に掘り込んだ燃焼部の左側部分を

検出した。

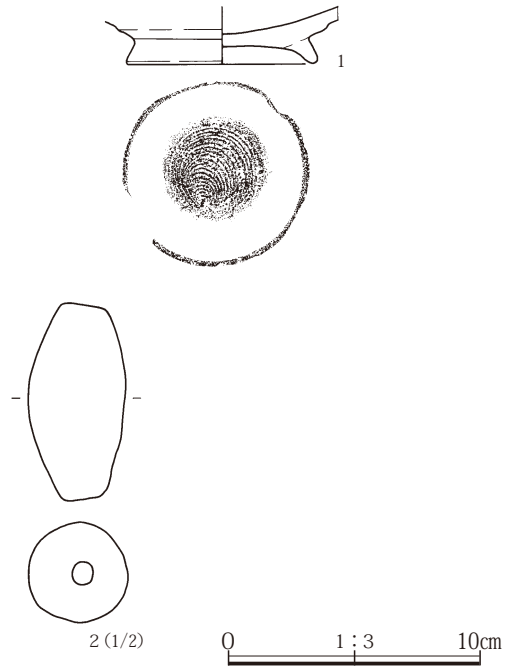
遺物 竈の手前、右側の床面直上から土錘2が、
床面から12cm離れて須恵器碗1が出土している。

所見 須恵器碗1の特徴を参考にすると9世紀後半の所産と考えられる。

3区64号住居 (第217~222図、P L 24・115・116)



第215図 3区62号住居カマド



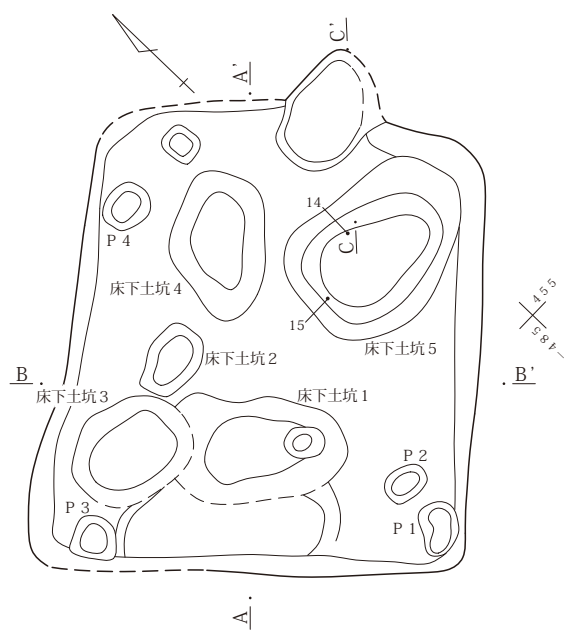
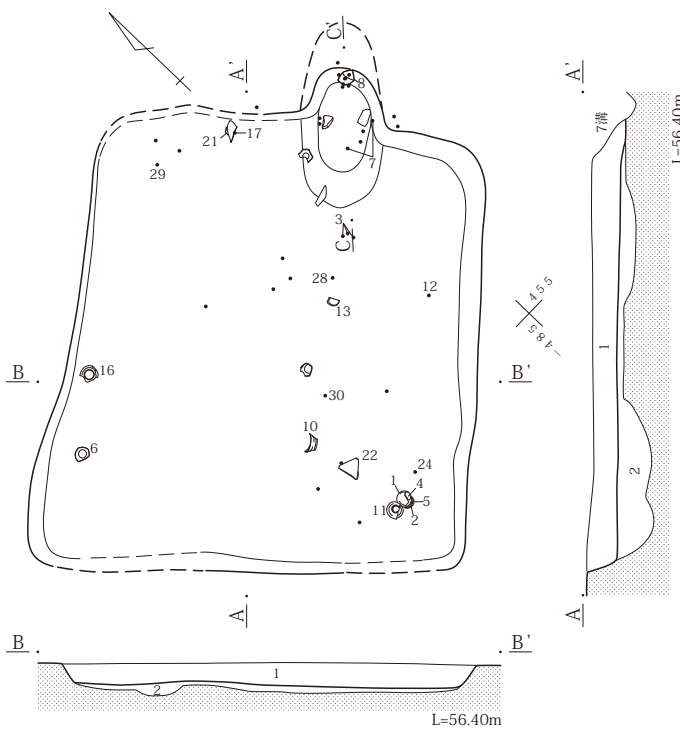
第216図 3区62号住居出土遺物 1-2

位置 450、455-480、485

主軸方位 E-43°-N 面積 推定10.80m²

重複 62号、65号、71号住居に後出する。

形状 東西方向に長軸を有する縦長の不整長方形



住居

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)少量混入。白色軽石極少量含む。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。炭化物(径5~10mm)少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)少量混入。焼土粒・炭化粒少量含む。(掘り方)

第217図 3区64号住居

状を呈す。他遺構との重複により東壁および西壁の一部は壁面の立ち上がりを確認することができなかった。規模は東西3.68m、南北3.15から3.49mを測った。

埋没土 暗褐色土1層が堆積していた。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央から南側寄りで検出した。煙道部は7号溝に壊されて残っていない。燃烧部の幅は68cm、皿状に掘り込んでいた。袖部の残存は確認できなかったが、左右の基部には礫を据えて補強が図られていた。

掘り方 全体にわたり床面下に2から5cm程掘り込んでいた。床面の中央寄りから土坑状の掘り込みが、各壁面寄りからピット状の掘り込みが検出された。

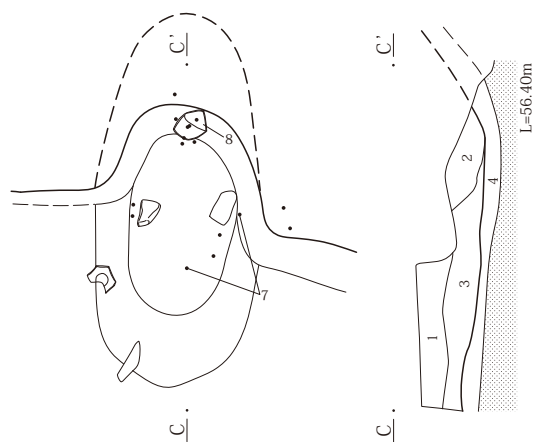
掘り込みの深さは4～21mである。いずれもロー

ムブロックを含む暗褐色土が堆積していた。

遺物 須恵器の杯・碗をはじめ多数の土器が出土したがいずれも床面から離れての出土が多かった。須恵器杯7と碗13は竈内からの出土である。床面近くから須恵器杯6と須恵器皿16が出土している。また床面から10cmほど浮いているが、住居南西隅では須恵器杯の2・4・5と黒色土器1が伏せた状態で4個体重なって出土している。その隣からは須恵器碗11がやはり伏せた状態での出土である。須恵器碗10・14・15は掘り方床下土坑内からの出土である。この他に須恵器双耳杯の耳部18、緑釉陶器碗の口縁部19、土錘6点24～29、砥石23、小刀の切先30、鉄釘31などが出土した。

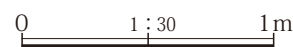
所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴などから10世紀前半の所産と考えられる。

3区65号住居 (第223・224図、P L 25・116)

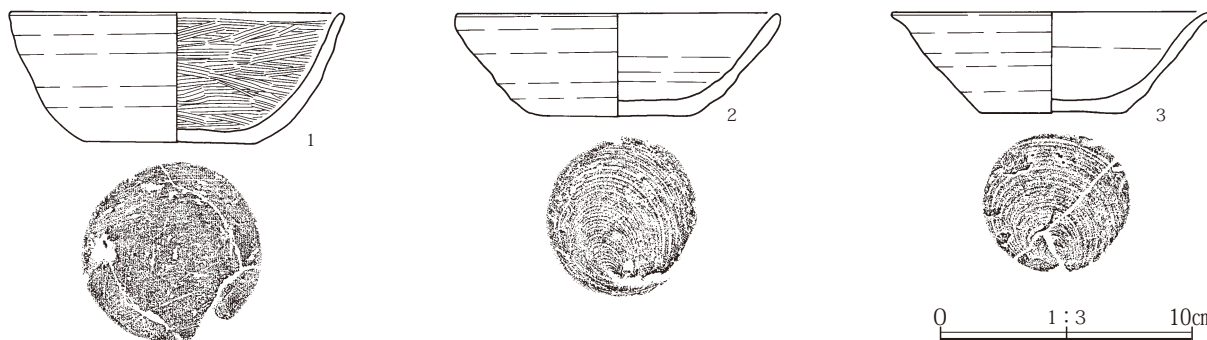


竈

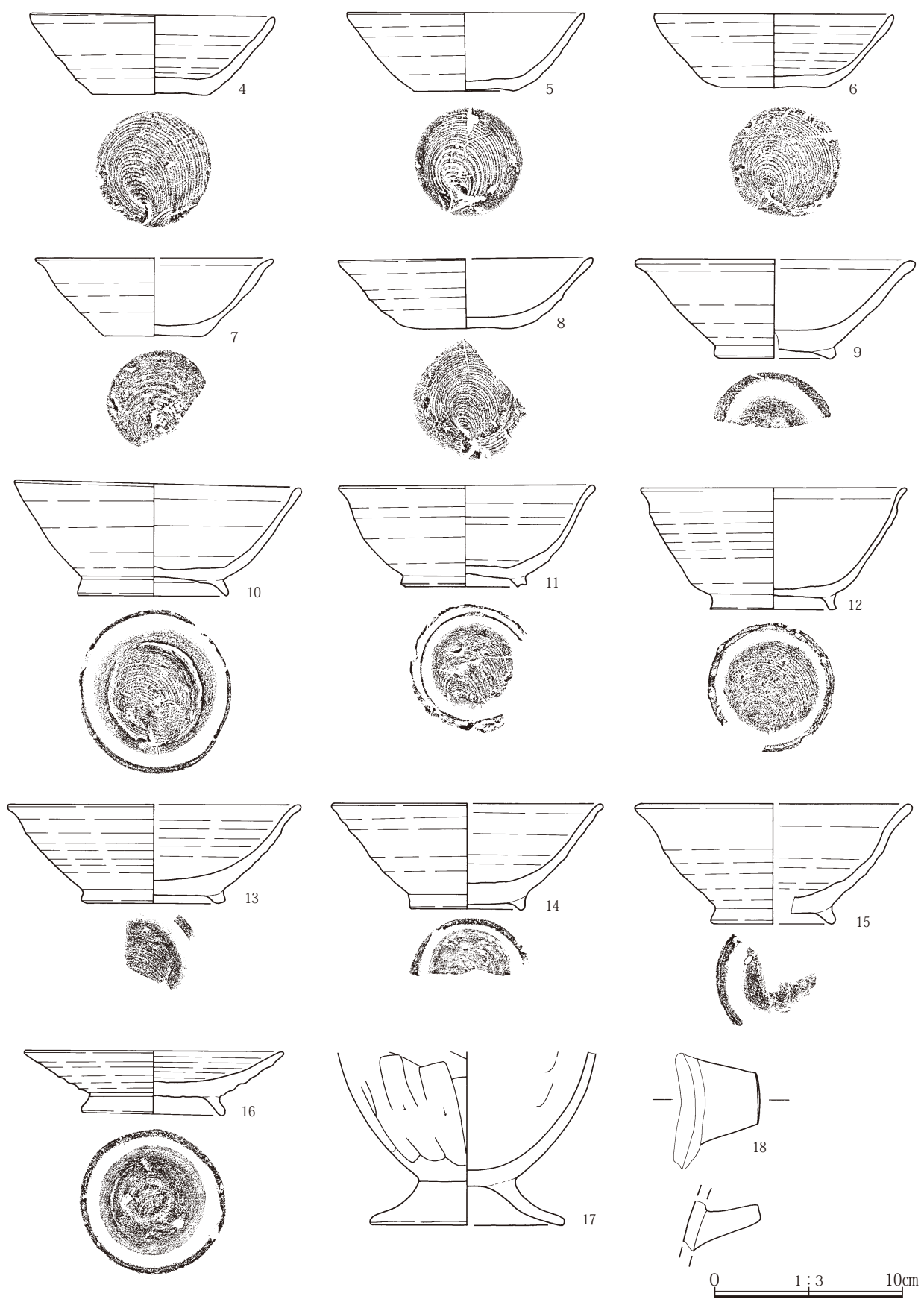
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)少量混入。白色軽石極少量含む。焼土ブロック(径5mm前後)中量含む。
- 2 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。焼土ブロック(径5～30mm)中量含む。
- 3 暗褐色土 粘質。白色軽石極少量混入。焼土粒・炭化粒極少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(径20mm前後)少量混入。粘質。焼土ブロック少量含む。



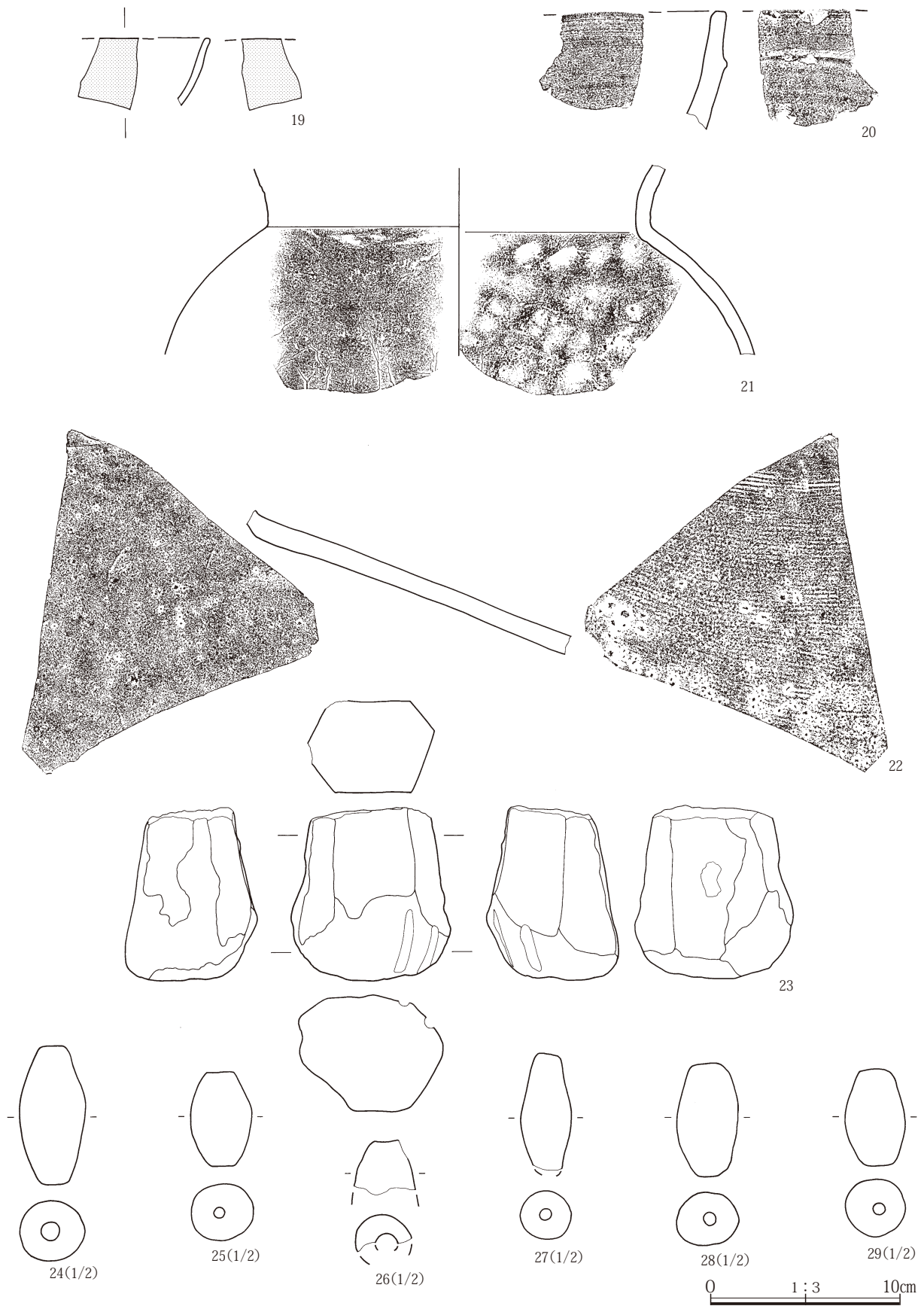
第218図 3区64号住居カマド



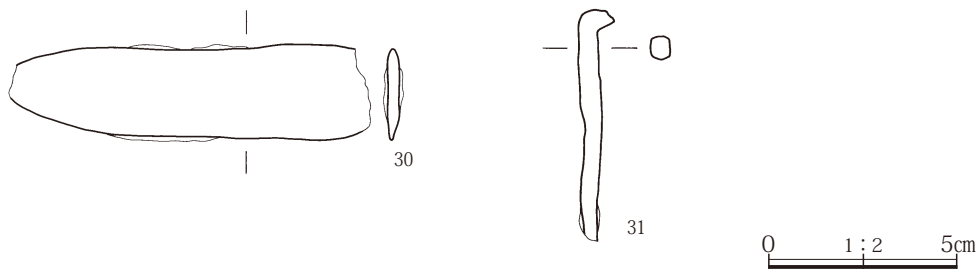
第219図 3区64号住居出土遺物 1 1-3



第220图 3区64号住居出土遺物2 4-18



第221图 3区64号住居出土遺物3 19-29



第222図 3区64号住居出土遺物 4 30-31

位置 450、455-485、490

主軸方位 E-22°-N 面積 計測不能

重複 11号、47号、49号、64号住居に後出する。

形状 47、49、64号住居に切られ、壁面の立ち上がりは南壁・西壁で一部検出したにとどまった。全体の構造は不明である。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大29cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 検出されなかった。他の住居により壊された

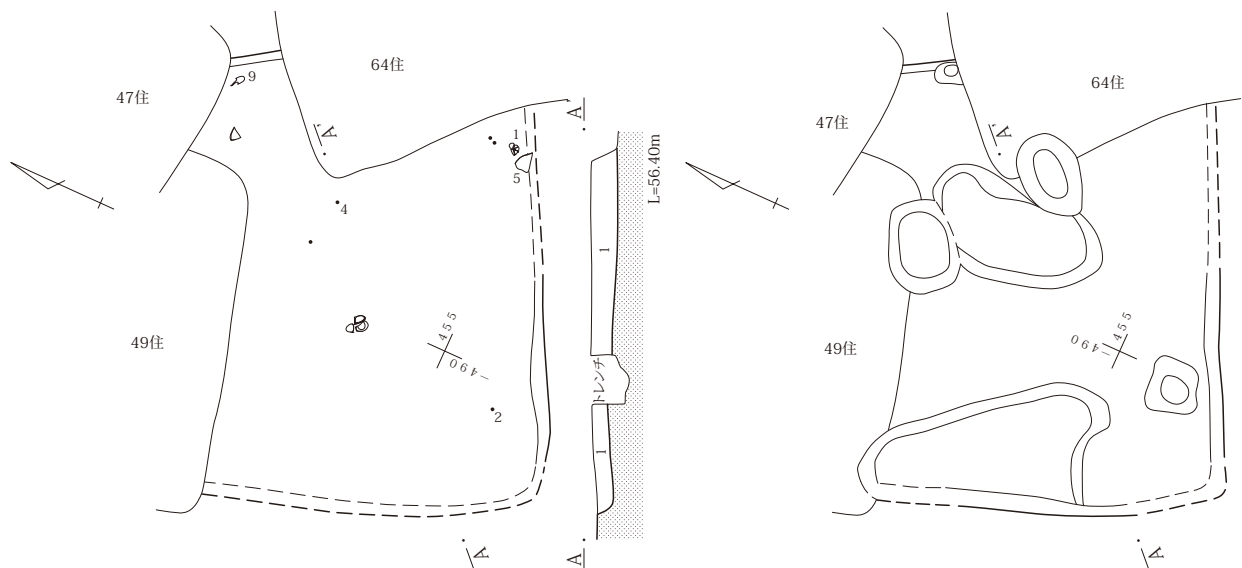
部分にあったと考えられる。

掘り方 5から20cm程の深さで掘り込まれていた。床面の中央、西壁寄りには土坑状の掘り込みが見られた。暗褐色土が堆積していた。

遺物 須恵器杯2が床直で出土している以外は、床面から浮いた状態で出土している。鉄鏃9は北東隅よりの床面から3cmの高さからの出土である。土錘6~8は埋没土中から出土した。

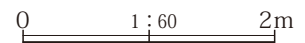
所見 他遺構との重複、出土遺物の特徴から9世紀前半の所産と考えられる。

3区66号住居 (第225・226図、P L 25・116)

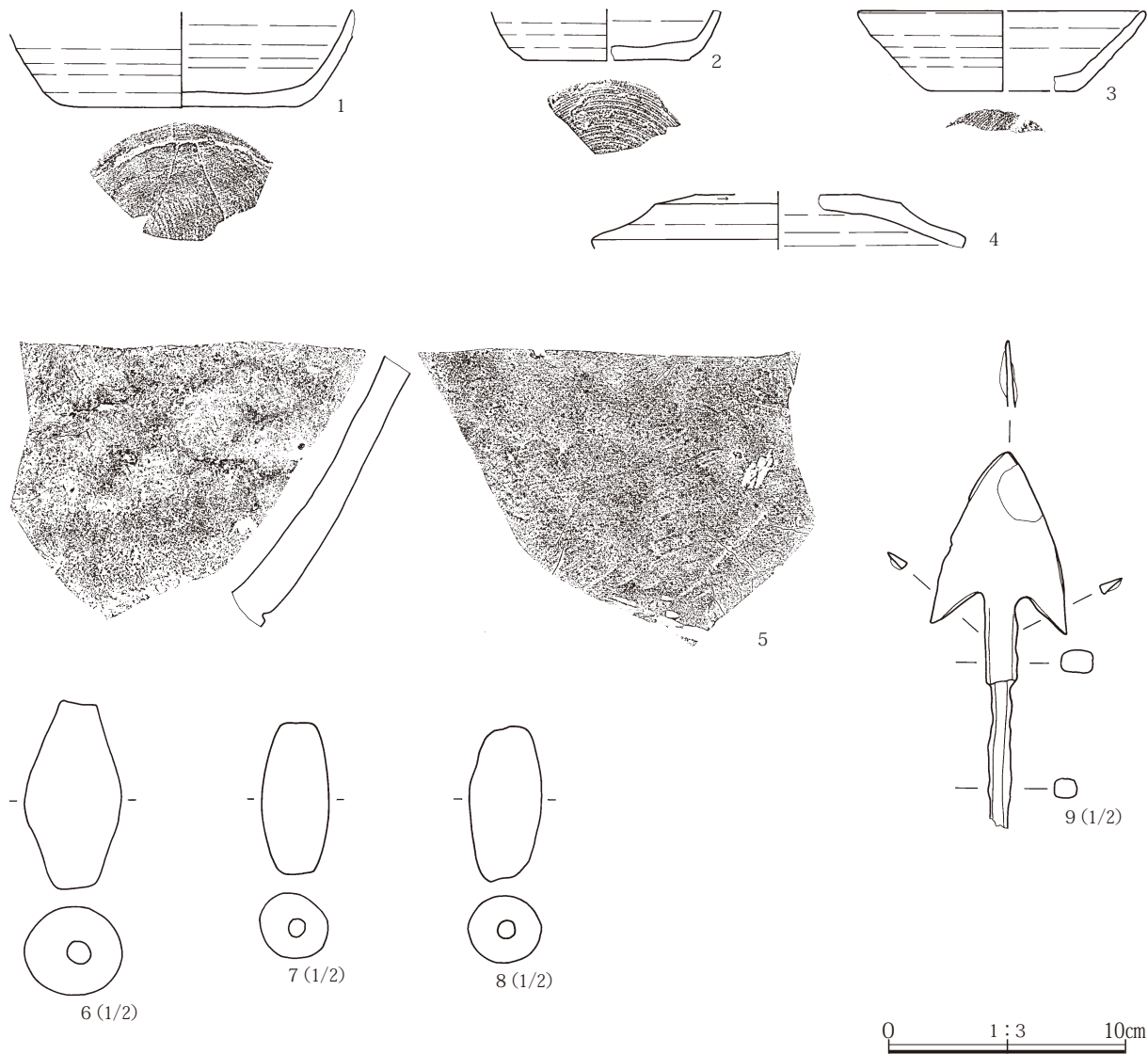


住居

1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒・炭化粒少量含む。



第223図 3区65号住居



第224図 3区65号住居出土遺物 1-9

位置 440、445-510

主軸方位 不明 面積 計測不能

重複 54号住居に後出する。34号住居とも重複する。

形状 南北方向に長軸を有する不整四角形を呈する。各辺の中央部分を結んだ規模は南北3.45m、東西3.32mを測る。北西隅は34号住居と重複した関係から未検出である。竈、貯蔵穴、柱穴、周溝はいずれも検出されなかった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

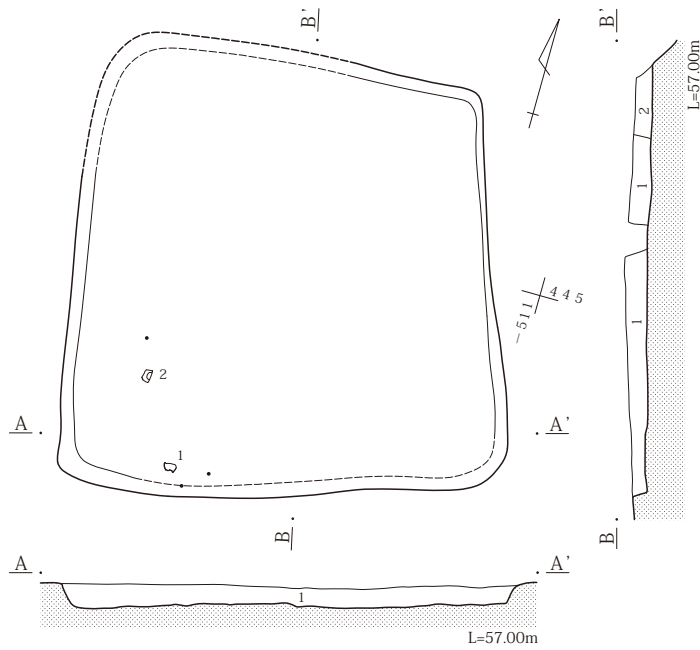
床面 54号住居の調査の途上にその存在を認識したため床面を面的に確認することができなかったよ

うである。土層断面図から見ると確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築している。床面は概ね平坦である。

遺物 須恵器の杯1、6世紀後半の須恵器杯蓋2、土錘3を出土している。

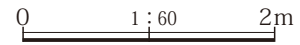
所見 本住居は構築範囲の大半が54号住居のそれと重複していた。竈が検出されず、遺物の出土状況も良好とは言えない。住居と認定するにはやや疑問な点も残るが調査時の土層観察を根拠にここに報告する。出土遺物から10世紀前半の所産と想定したい。

3区68号住居 (第227～229図、P L 25・116)

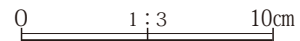
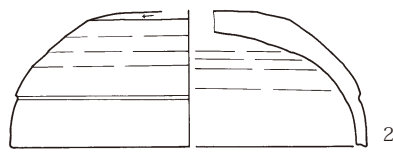


住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ロームブロック(径5~100mm)15%混入。炭化物(径5~10mm)10%混入。



第225図 3区66号住居



第226図 3区66号住居出土遺物 1-3

位置 445、450-515

主軸方位 E-1°-S 面積 7.15㎡

重複 69号、70号住居に後出する。

形状 南北方向に長軸を有するが、長辺、短辺の差は小さく、正方形状を呈す。四隅はやや丸みをおびている。規模は南北3.00m、東西2.80mを測る。

埋没土 暗褐色土1層が堆積していた。

床面 確認面から最大26cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。竈の右側、南東隅はやや深く掘り込まれていた。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁のほぼ中央で検出された。確認長88cm、燃焼部長76cm、燃焼部幅38cmを測る。左側の袖部には芯材として礫が用いられ、この上に被せるような状態で須恵器椀4が出土している。右側はピットと

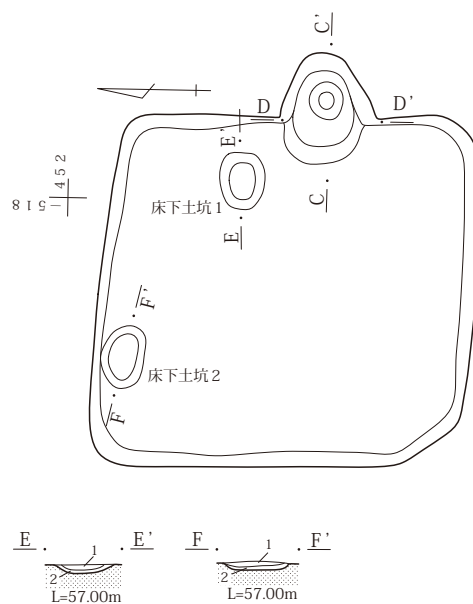
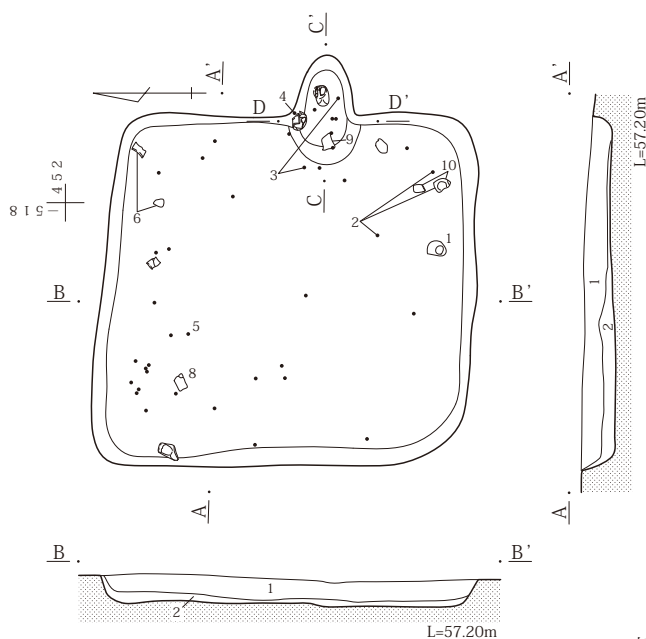
重複したため詳細は不明となっている。また、燃焼部奥寄りには長さ25cmの自然礫を用いた支脚が据えられていた。この支脚はピット状の掘り方を伴っていた。

床下土坑 2基が検出された。1号は竈の左手前、2号は北壁際の西寄りそれぞれ検出された。ともに楕円形状を呈し、1号は長径45cm、短径36cm、深さ7cm、2号は長径52cm、短径35cm、深さ6cmの規模である。それぞれ底面に1cmほど厚さでロームを全面に貼っていた。掘り方は全体的に床面から5・6cm程掘り込まれていた。

遺物 竈燃焼部から焚き口にかけて須恵器椀3が出土している。南東隅から南壁際の床面直上から須恵器椀1・2が、北東隅の床面近くから羽釜片8が出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

3区69号住居 (第230・231図、P L 25)



住居

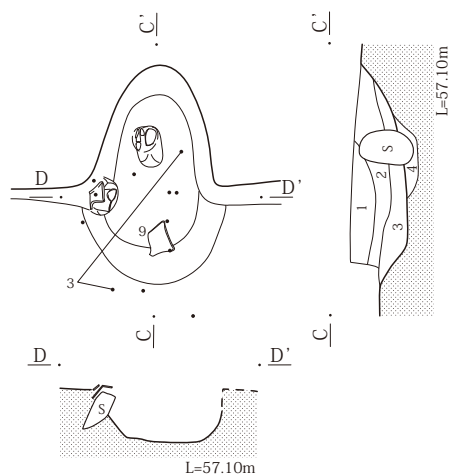
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径3mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。白色軽石(径1mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。

床下土坑1

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径3mm)少量混入。
- 2 暗褐色土のローム(ロームを10~20mm全面に貼っている)

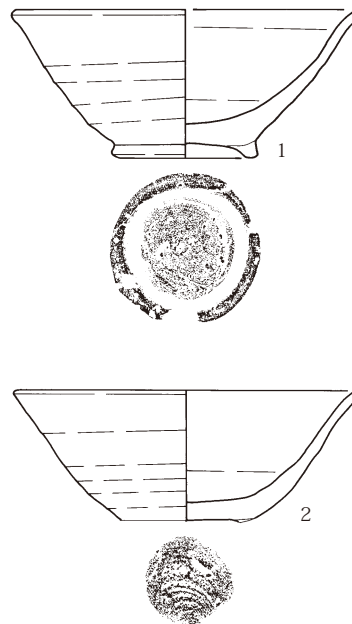
床下土坑2

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径3mm)少量混入。ローム粒(径3mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。
- 2 暗褐色土のローム(1号土坑と同様に掘ったあとにロームを1~20mm全面に貼っている)



竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に混入。白色軽石(径2mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

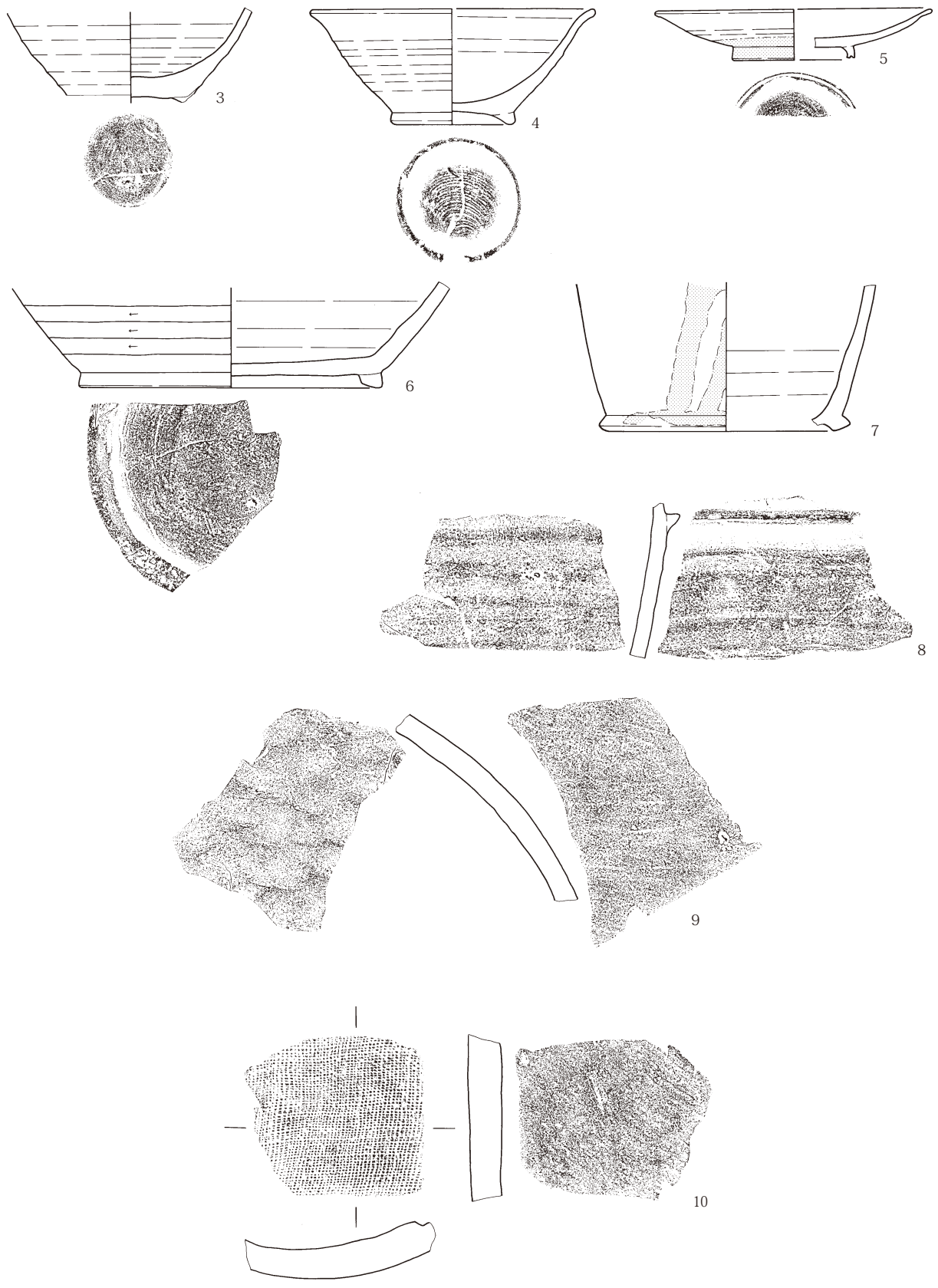


0 1:60(竈 1:30) 2m

第227図 3区68号住居

0 1:3 10cm

第228図 3区68号住居出土遺物 1 1-2



0 1:3 10cm

第229图 3区68号住居出土遺物2 3-10

位置 445、450-515

主軸方位 N-4°-E 面積 計測不能

重複 68号住居に先出する。

形状 68号住居に大部分を壊されているため竈と東壁の一部を検出するにとどまった。全体形状については不明である。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大13cm掘り込んで床面を構築

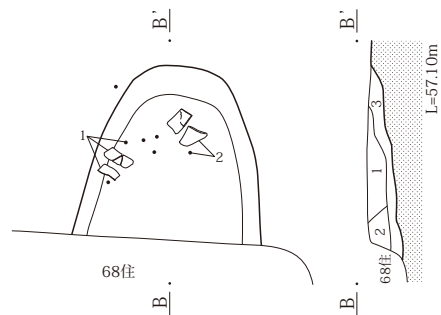
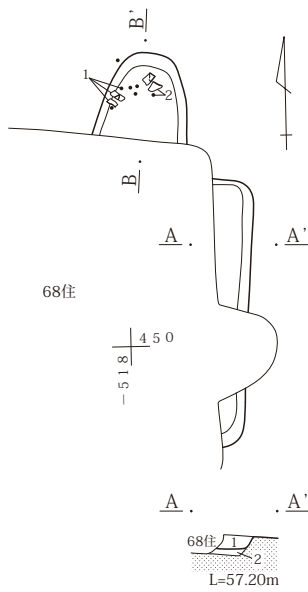
する。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 北壁、北東隅寄りで検出された。焚口部は68号住居に壊されている。確認長は71cmを測った。

遺物 竈燃焼部内から土師器甕1・2が出土している。埋没土中からは土錘3が出土している。

所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から10世紀後半の所産と考えられる。

3区70号住居 (第232～234図、P L 26・116)



住居

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径1mm)均一に10%混入。

2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径1mm)少量混入。ローム粒(径1mm)少量混入。

竈

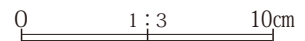
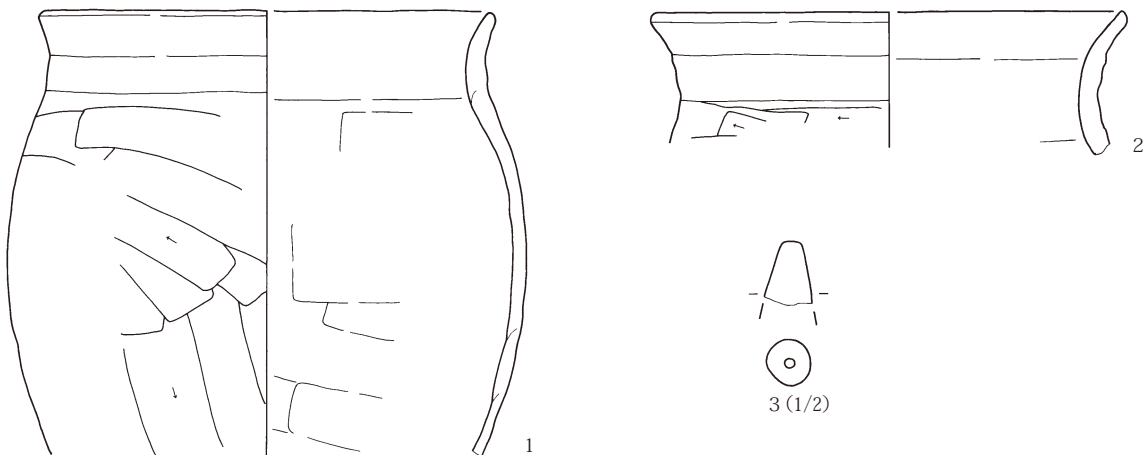
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に60%混入。

2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径3mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。



第230図 3区69号住居



第231図 3区69号住居出土遺物 1-3

位置 450-515、520

主軸方位 E-1°-S 面積 計測不能

重複 68号、69号住居に先出する。

形状 南壁が68号住居に壊されているため全体の構造は不明である。南北がわずかに長く長軸を有するが、長辺、短辺の差は小さく、正方形を呈すると思われる。規模は南北2.85m、東西2.75mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

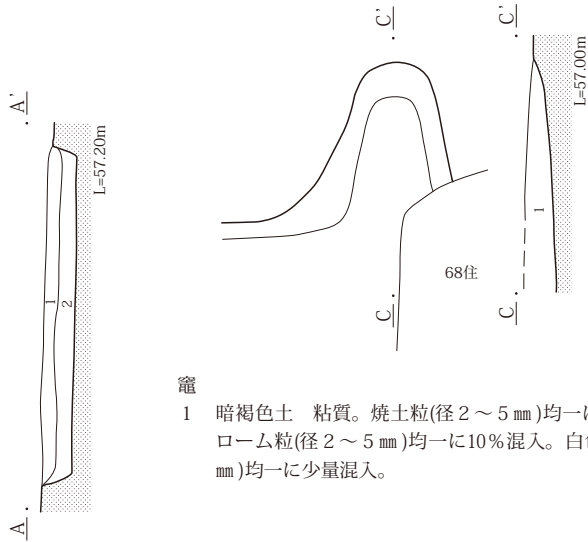
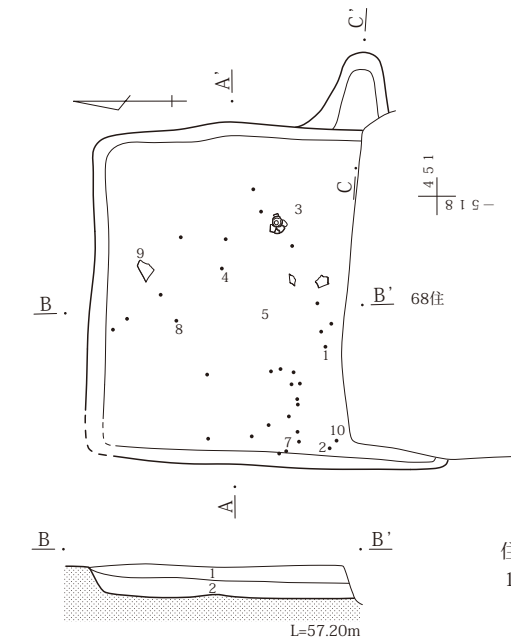
床面 確認面から最大24cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の中央から南側寄りに焼土が散布する箇所があり、ここに敷設されていたものと考えられるがその存在を明瞭なものにすることはできなかった。

遺物 床面直上から出土したものはなく、みな床面から浮いた状態で出土している。須恵器碗3は竈の手前で、床面から9cm離れての出土である。羽釜7、瓦9、刀子10も同様である。

所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から10世紀前半と考えられる。

3区71号住居 (第235・236図、P L 26・116・117)



竈

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径3mm)均一に少量混入。

住居

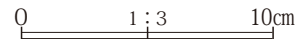
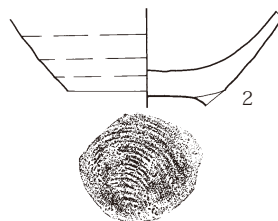
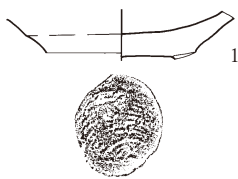
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。焼土ブロック(径10mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。

2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

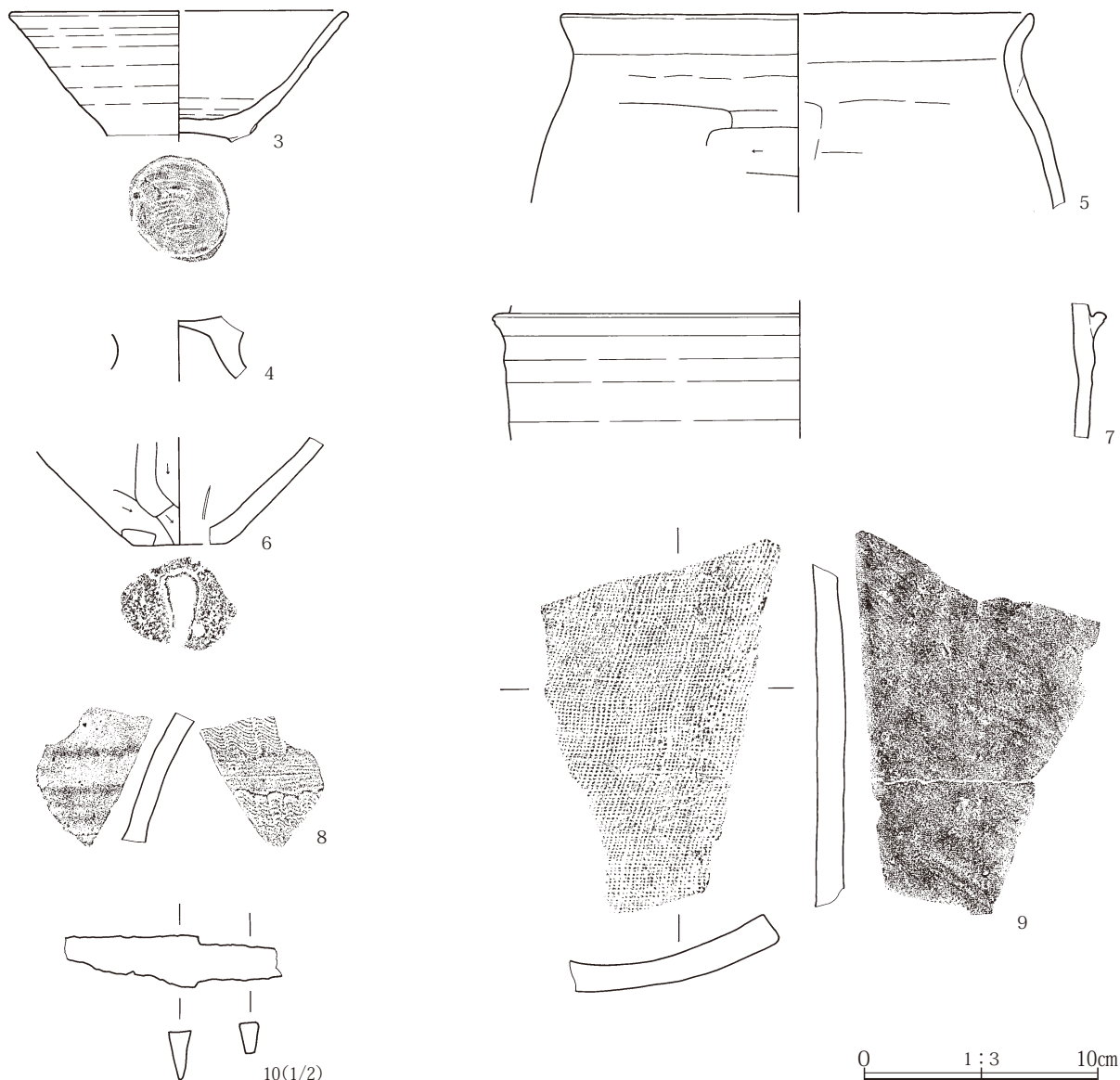
※70号住居は、竈がはっきり確認できなかったが、焼土の多い所を竈にした。

※68号住居(新しい)→69号住居→70号住居(古い)

第232図 3区70号住居



第233図 3区70号住居出土遺物 1 1-2



第234図 3区70号住居出土遺物2 3-10

位置 450、455-480、485

主軸方位 面積 計測不能

重複 64号住居に先出する。

形状 64号住居、7号溝により削平を受けており、南壁と西壁の南半部分を検出するにとどまった。全体の構造は不明である。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大10cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

竈 検出されなかった。

ピット 掘り方精査時に4基が検出された。それぞれ

の規模（長径×深さ）はP1が40×33cm、P2が28×28cm、P3が37×19cm、P4が32×30cmである。P3は位置的に見ると貯蔵穴の可能性も考えられる。

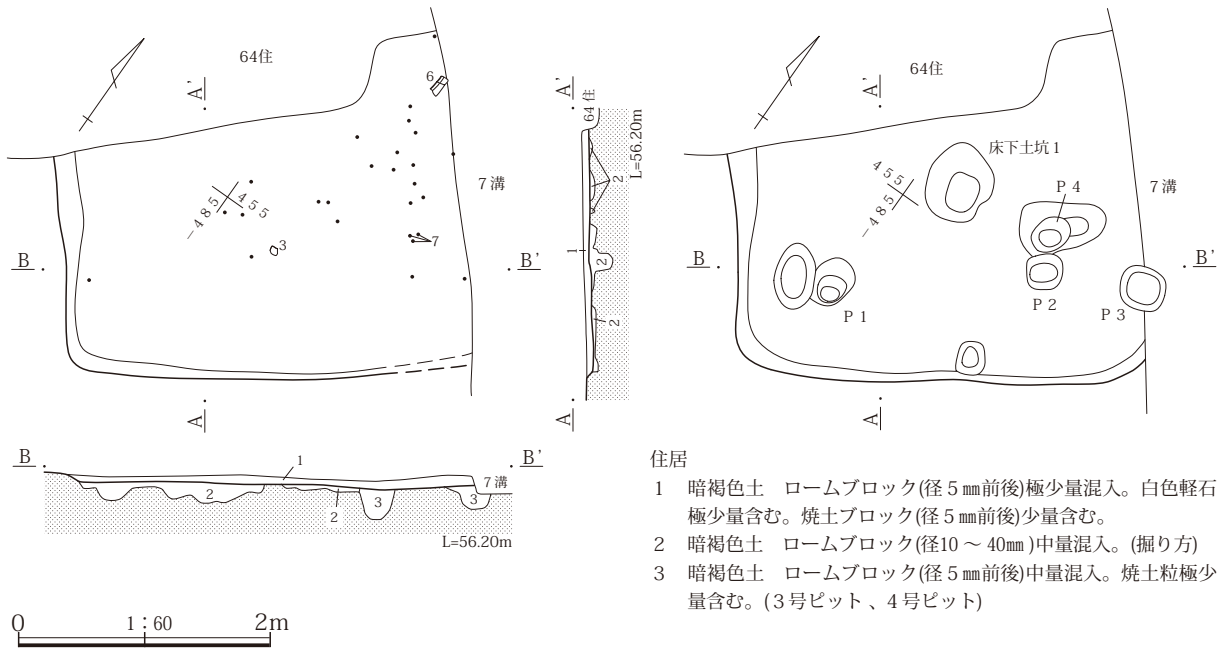
掘り方 ロームブロックを含む暗褐色土が堆積していた。土坑状の掘り込み2基を検出した。

遺物 土師器碗3、土師器甕7が床面付近から、土師器甕6が床面から6cm離れた状態で出土している。土師器杯1と碗4は掘り方埋没土中からの出土である。埋没土中から双耳杯の耳部片5、土錘8が出土した。

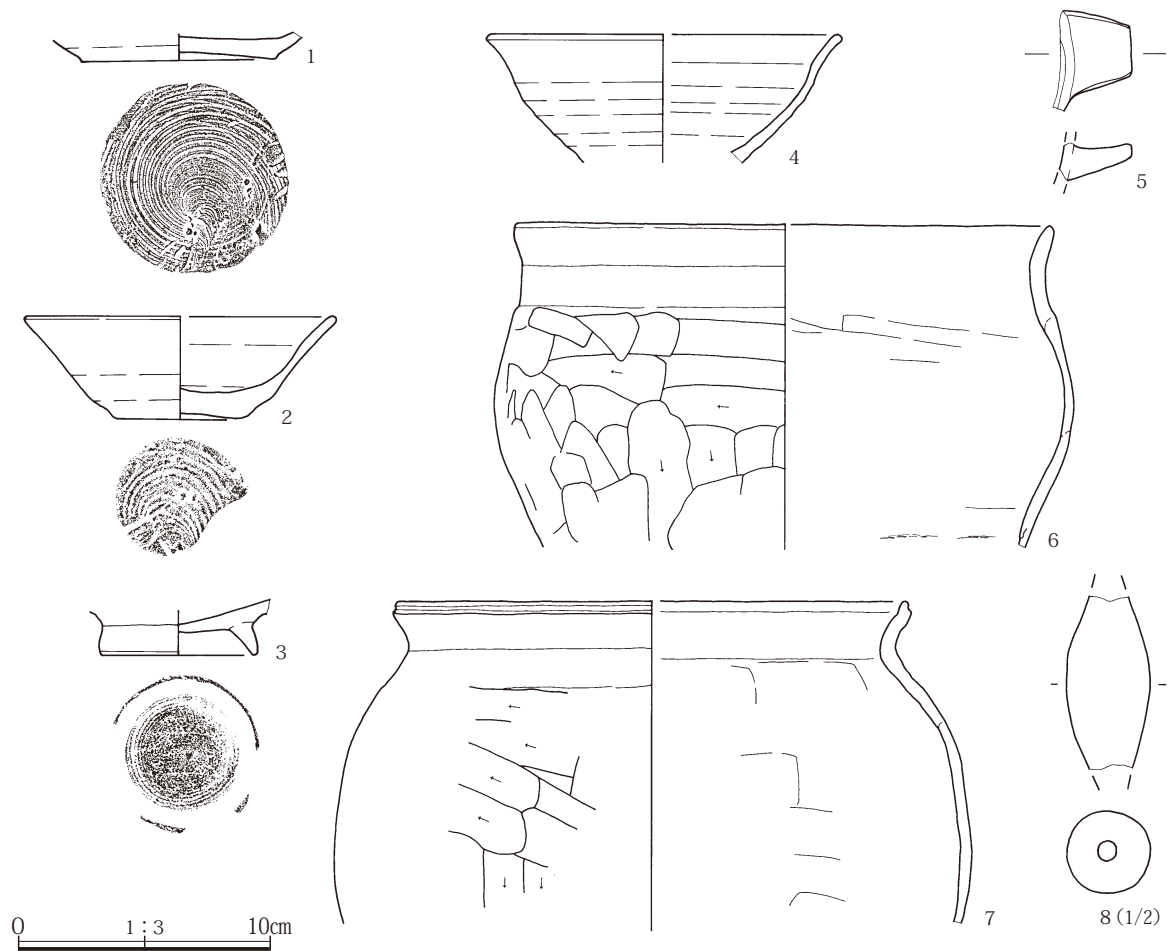
所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から10世

紀前半の所産と考えられる。

3区72号住居 (第237～239図、P L 27・117)



第235図 3区71号住居



第236図 3区71号住居出土遺物 1-8

位置 445、450-480

主軸方位 E-22°-N 面積 計測不能
重複 73号、79号住居に後出、51号住居に先出す

る。

形状 長方形の掘り込みを検出したが、西側部分を50号住居により壊されているため全体の構造は



第237図 3区72号住居

判然としない。規模は南北4.32mを測る。東西の残存長は3.42mである。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。混入物の相違から2層に分層された。

床 面 確認面から最大16cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴、周溝は検出されなかった。

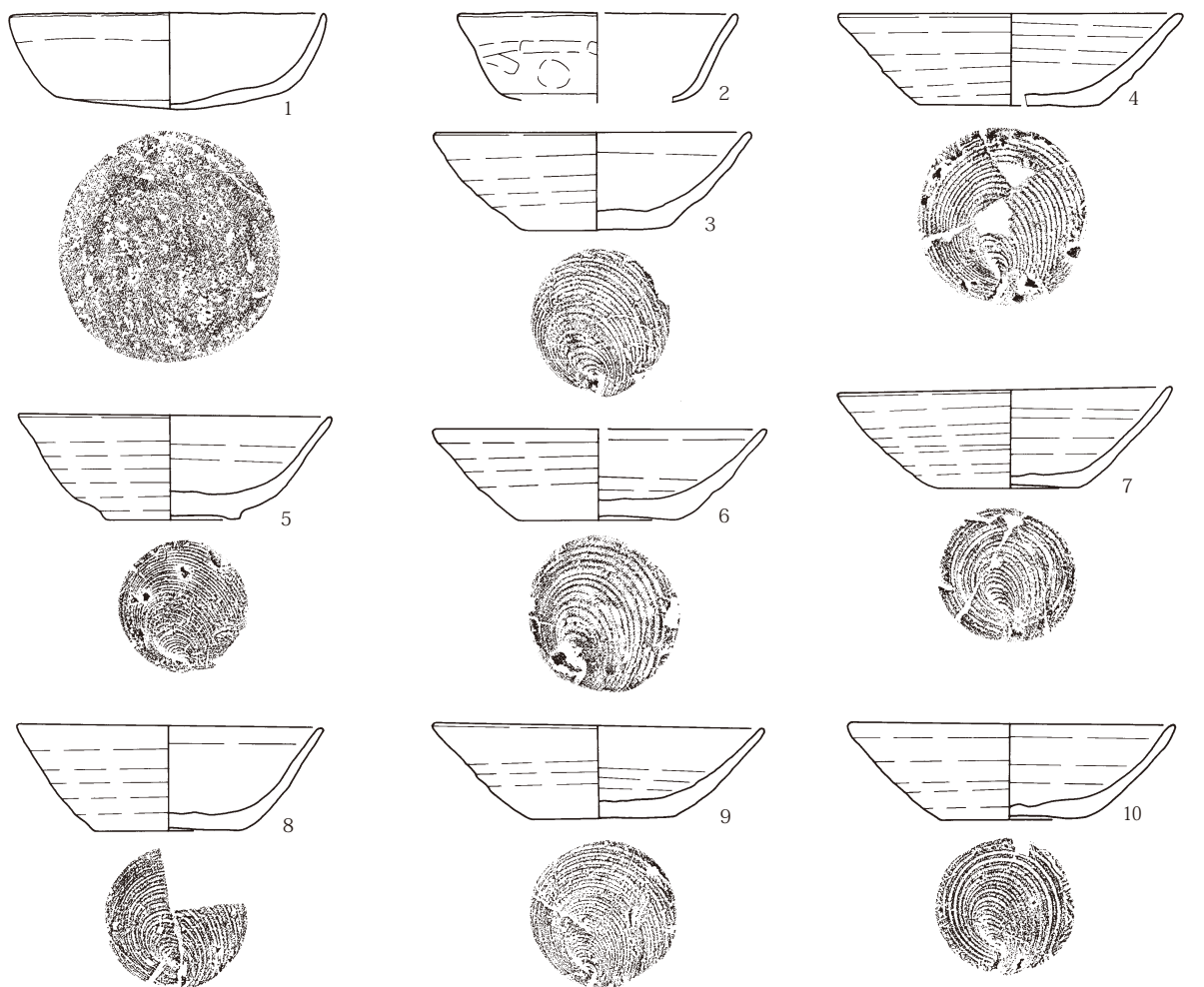
竈 東壁の南側寄りで検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込み壁外に構築されていた。袖部は両側ともわずかに残っており、住居内に短く突出していた。確認長148cm、燃烧部長120cm、燃烧部幅73cmを測る。埋没土の中層から土師器杯2ほかの土器片が出土している。

貯蔵穴 竈右隅で検出された。不整円形状を呈し、径80cm、深さ26cmを測る。暗褐色土が堆積していた。

掘り方 床面下は全体的に掘り込まれていた。底面は凹凸が激しく、南壁際には長径50から85cm程の土坑状の掘り込みが連なっていた。暗褐色土が堆積していた。

遺物 大量の遺物が出土しているが、須恵器杯4・5・7はじめ多くは床面から浮いた状態である。北壁際から出土した須恵器杯3が床面直上からの出土である。これに接して出土した土師器杯1は床面から8cm離れた出土である。須恵器皿20も床面直上の出土である。須恵器杯11と皿18・19が住居南東隅でまとまって出土しているが、床面からは10～15cmほど浮いている。土錘26は土師器杯1に近い床面上からの出土である。

所見 調査時の所見では埋没土中に焼土ブロック



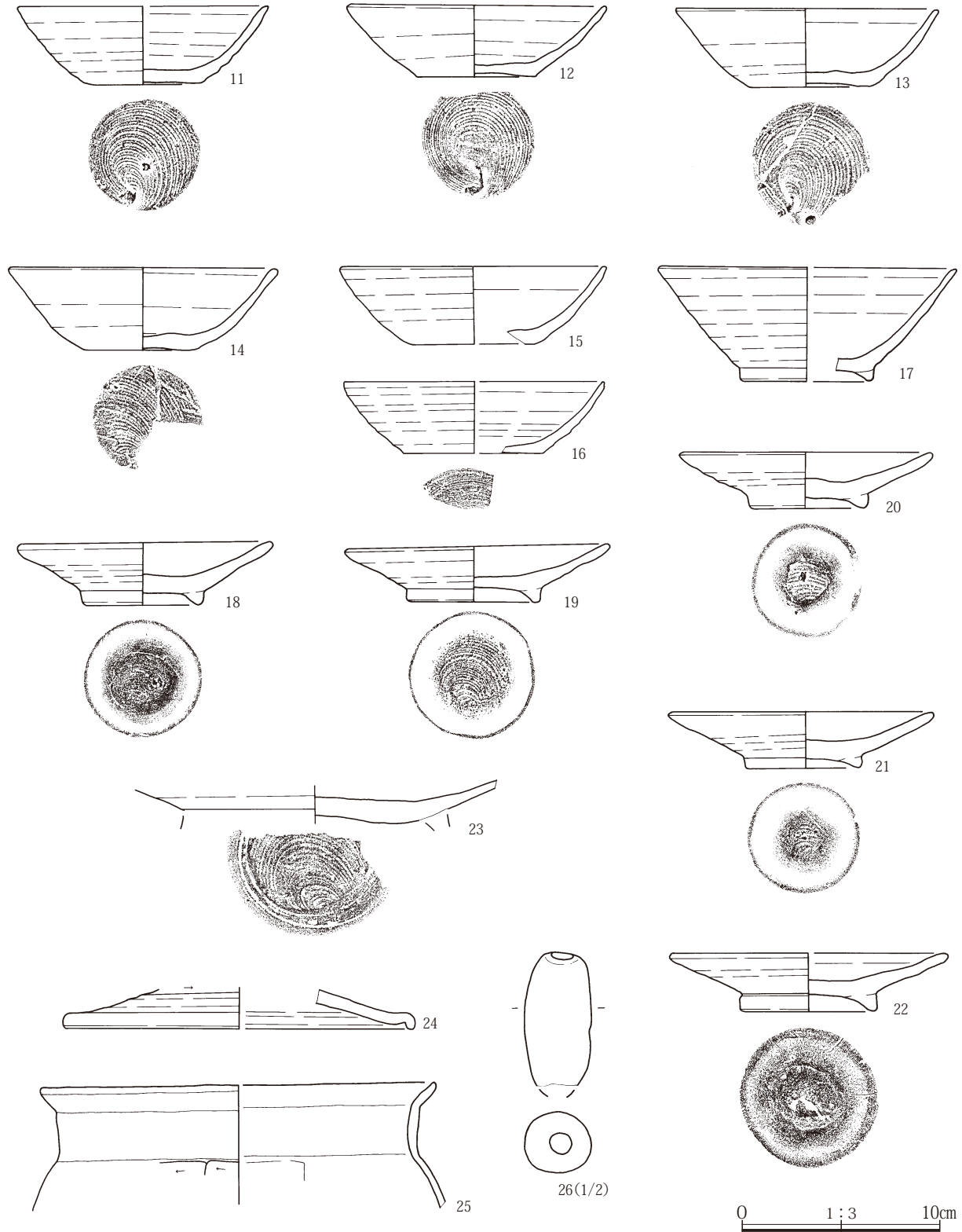
第238図 3区72号住居出土遺物 1 1-10

0 1:3 10cm

や炭化物の層が見られたことから本住居を焼失住居
と考えている。出土遺物の特徴から9世紀第4四半

期の所産と考えられる。

3区73号住居 (第240・241図)



第239図 3区72号住居出土遺物2 11-26

位置 450-480、485

主軸方位 E-24°-N

重複 79号住居に後出、71号、72号住居に先出する。

形状 北側を71号住居に、南側を72号住居に壊されているため東壁の竈周辺と北西隅周辺の検出にとどまった。全体の構造は不明である。規模は東西2.27mと小型である。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大10cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦であるが、北西隅から竈手前に向かって緩やかに下がっていた。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁で検出された。燃烧部は住居の壁面を掘

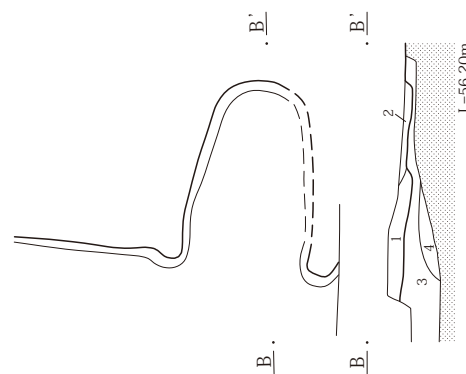
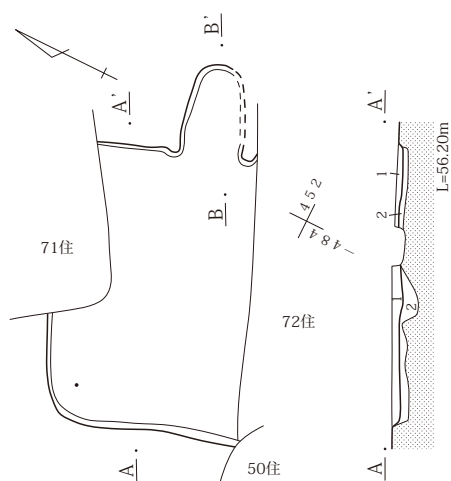
り込み壁外に構築されていた。右側は削平され、確認することができなかった。底面はわずかな段差を持って煙道部へ移行していたものと考えられる。袖部は両側とも住居内にわずかに突出して残存していた。ロームブロックを含む暗褐色土が使用されていた。右側は礫を芯材として補強が図られていたようである。確認長65cm、燃烧部幅44cmを測る。

掘り方 掘り方底面までは10から15cm程掘り込まれていた。暗褐色土が堆積していた。

遺物 北西隅から土師器高杯の破片1が出土している。

所見 遺構の重複関係から平安時代の所産と考えられる。

3区74号住居 (第242・243図、P L 26・117)



住居

1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石極少量含む。

2 暗褐色土 ロームブロック(径30~40mm)中量混入。

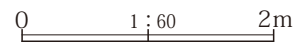
竈

1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒中量含む。

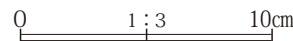
2 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土粒少量・炭化物少量含む。

3 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)中量混入。焼土粒・炭化粒極少量含む。

4 黒褐色土 ローム土少量混入。



第240図 3区73号住居



第241図 3区73号住居出土遺物 1

位置 450、455-505、510

主軸方位 E-23°-S 面積 推定7.88㎡

重複 84号、86号住居に後出する。

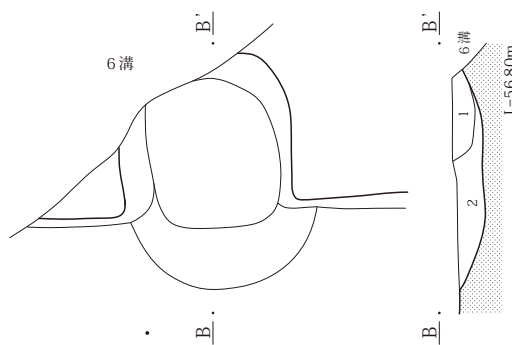
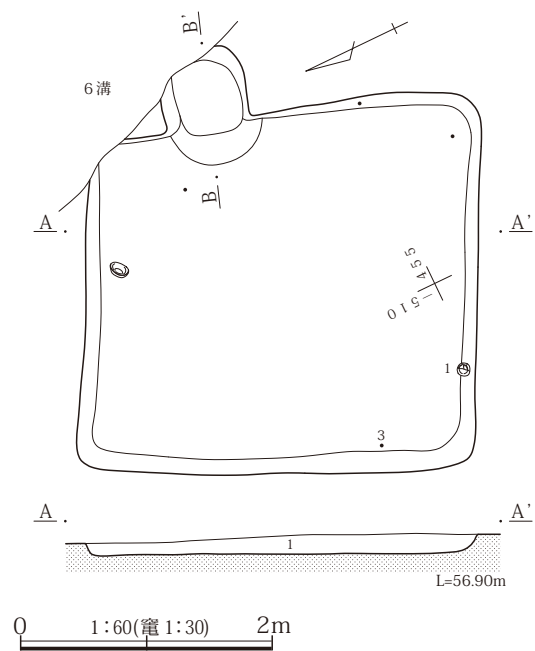
形状 北東隅と竈の一部を6号溝により削平されていた。規模は西壁で3.18mを測り、南北方向に長軸を有するが、東西方向も南壁で3.03mとほぼ同規模である。方形に近い平面形状であるが、南東隅が鋭角をなすため、東西壁の走行が平行ではない。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大16cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁の北東隅寄りで検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込み壁外に構築されていたと考えられるが、検出状況はあまり良好ではなかった。確認長は78cm、燃烧部幅は50cmである。

ピット 掘り方精査時に2基が検出された。P1は南西隅、P2は西壁際の中央から北側寄りで検出さ



住居

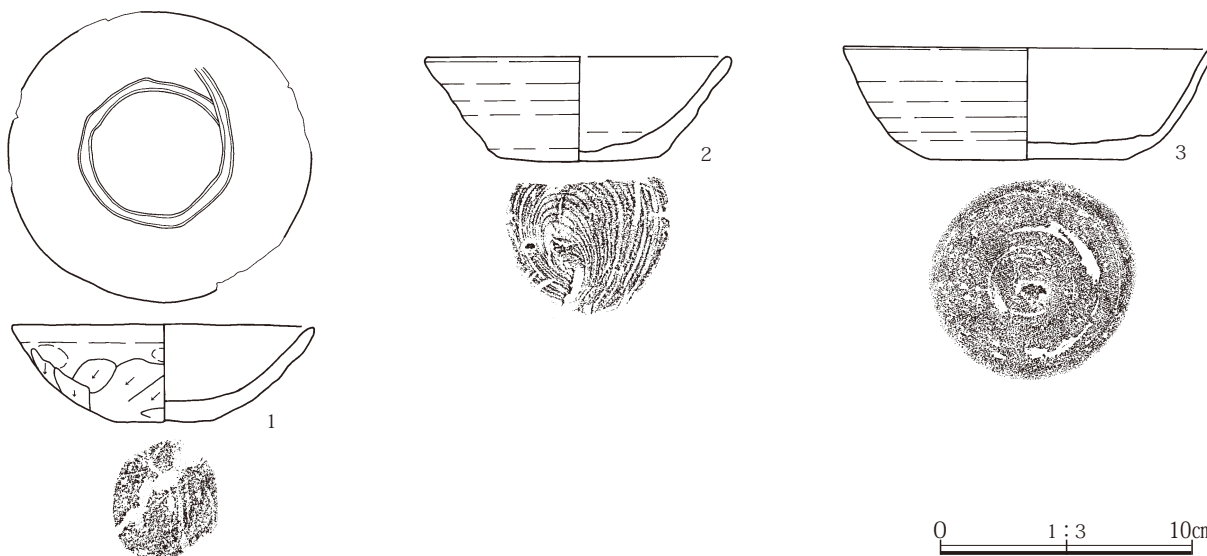
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。炭化物(径5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。

竈

1 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。焼土ブロック(径5~10mm)均一に10%混入。炭化物(径5~10mm)均一に10%混入。ロームが混じり黄色味を帯びている。白色軽石(径2mm)少量混入。(使用面)

2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

第242図 3区74号住居



第243図 3区74号住居出土遺物 1-3

れた。規模（長径×深さ）はP 1が30cm×15cm、P 2が33cm×36cmである。埋没土はともに焼土、ローム粒、炭化物を含む暗褐色土である。

遺物 土師器杯1が壁際、床面から20cmほど浮いた状態で、須恵器杯2が竈埋没土中、須恵器杯3が床面から4cm浮いた状態で出土した。

所見 所見を判断しうる出土状態の遺物に乏しいため判然としないが、9世紀代の所産と考えられる。

3区75号住居（第244～247図、P L 26・118）

位置 445、450-505

主軸方位 N-5°-W 面積 計測不能

重複 84号・86号住居に後出する。6号溝に先出する。

形状 南東隅、北東隅を含む東壁部分を6号溝に壊されている。規模は、南北3.97m、東西の残存長3.75mを測る。全体の構造については不明であるが、6号溝の東側に及んでいないことから正方形に近い平面形を呈していたものと推定される。

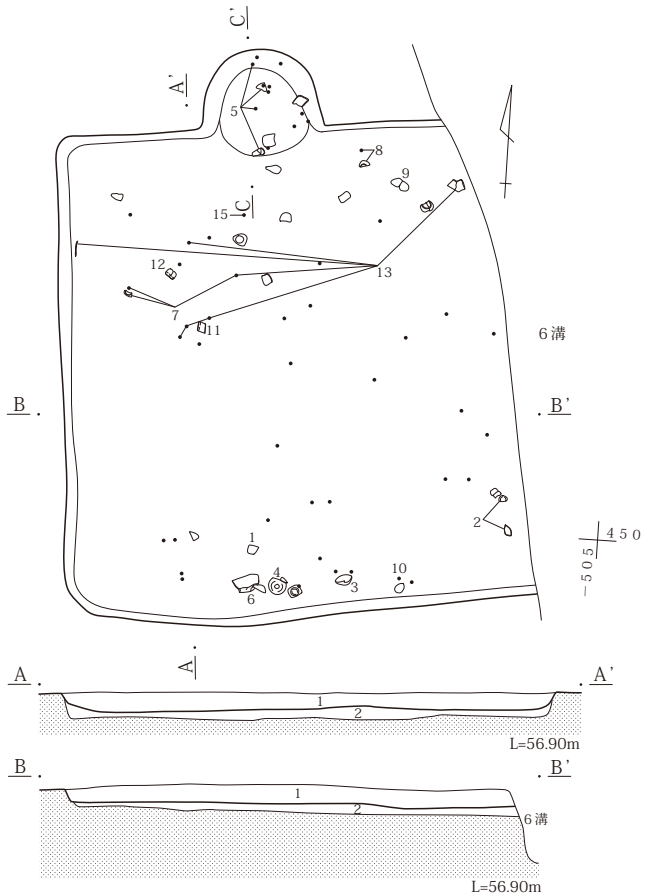
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大15cm掘り込んで床面を構築する。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 北壁で検出された。中央からやや西側に位置していたと考えられる。燃烧部は住居の壁面を掘り込み壁外に構築されている。確認長103cm、燃烧部長88cm、燃烧部幅70cmを測る。焚き口部の右手前の床面上には焼土が広範囲にわたり広がっていた。

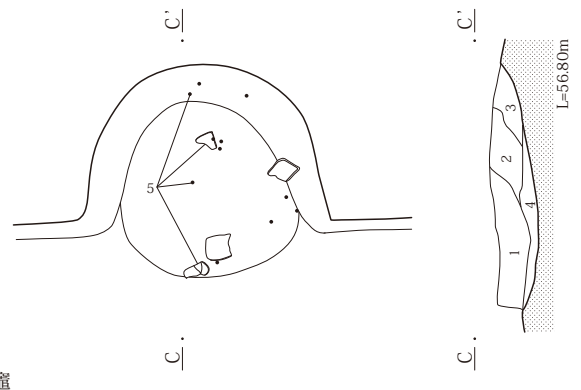
掘り方 竈前から住居の中央にかけて4基の床下土坑、2基のピット状の掘り込みが検出された。この他に南西隅、南東隅寄りからも各々1基の床下土坑、ピットが検出された。床下土坑1は長径97cm、深さ23cm、床下土坑2は長径93、深さ16cm、床下土坑3は長径78cm、深さ20cm、床下土坑4は長径55cm、深さ8cm、床下土坑5は長径90cm、深さ14cm、床下土坑6は長径84cm、深さ8cmである。ピットの深さはP 1が16cm、P 2が12cm、P 3が25cm、P 4が18cmである。埋没土はいずれも暗褐色土である。

遺物 床面直上から出土した遺物はなく、いずれ



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)均一に少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径3mm)少量混入。ローム粒(径2～5mm)少量混入。小礫(径3～5mm)均一に10%混入。



竈

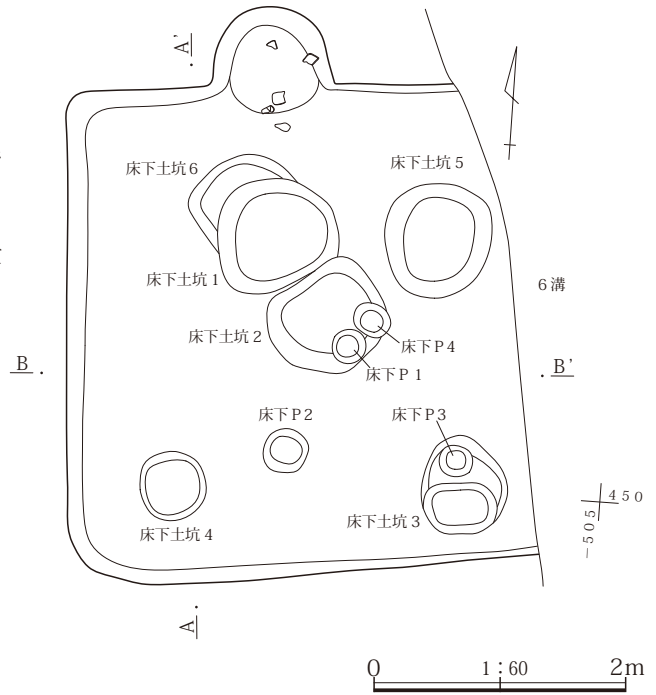
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。ローム粒(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～10mm)均一に20%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に20%混入。白色軽石(径2mm)微量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に40%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に20%混入。
- 4 黒褐色土 粘質。ローム粒(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。焼土粒(径2～5mm)少量混入。

0 1:60(竈 1:30) 2m

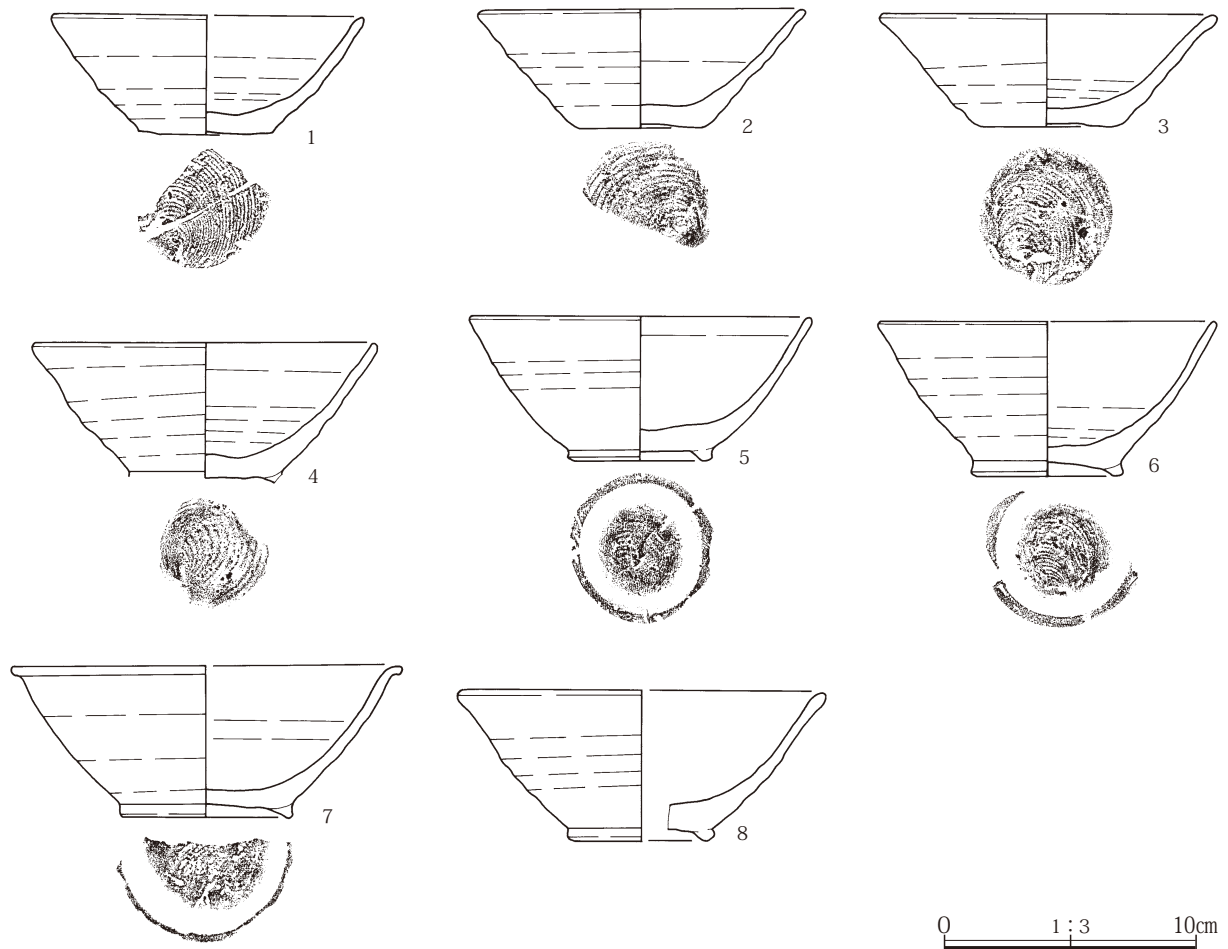
第244図 3区75号住居

も床面から浮いた状態で出土している。須恵器碗は
 竈中から出土したもののほか広範囲から出土したも
 のが接合している。須恵器杯3・碗4は南壁際から
 の出土である。土錘14・15は埋没土中からの出土で
 ある。

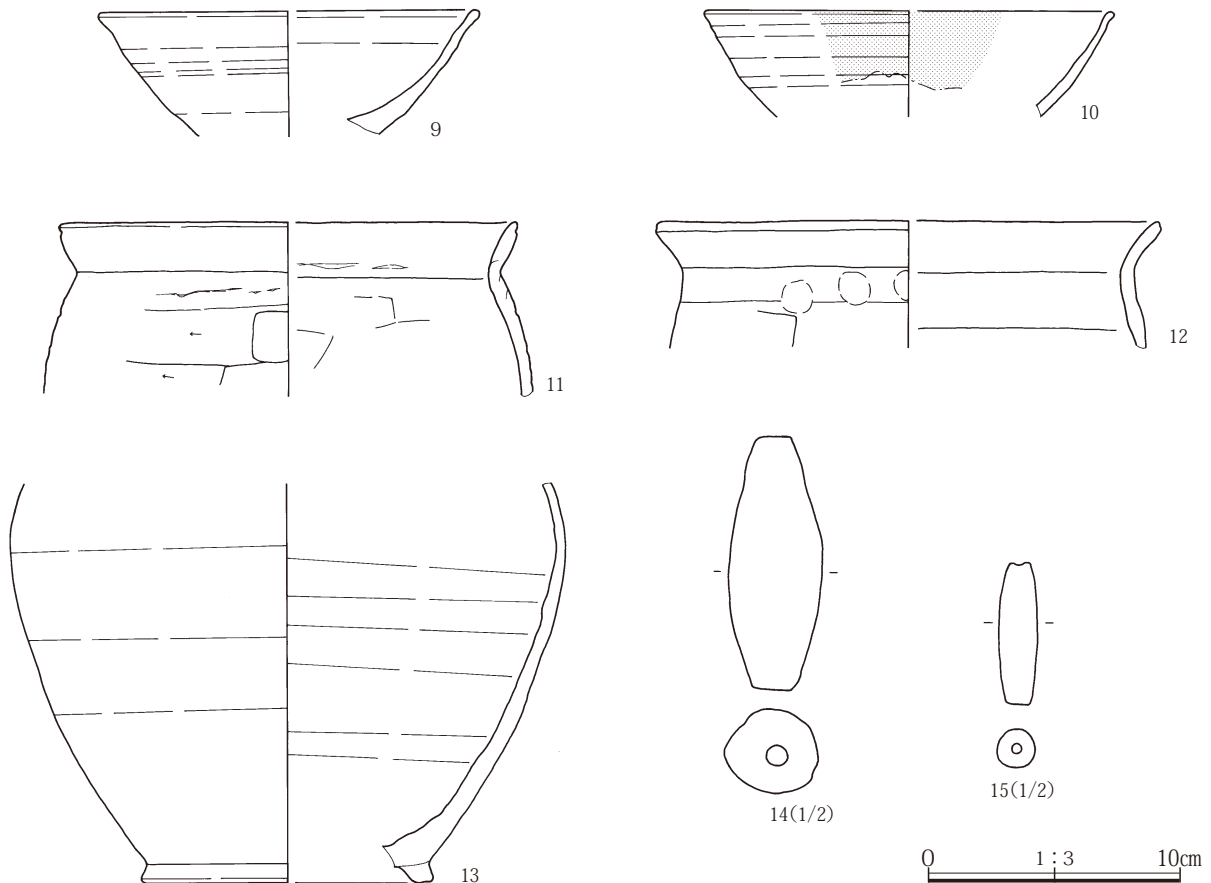
所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から10世
 紀第1四半期の所産と考えられる。



第245図 3区75号住居掘り方



第246図 3区75号住居出土遺物 1 1-8



第247図 3区75号住居出土遺物2 9-15

3区77号住居 (第248～250図、P L 28・118)

位置 450、455-515、520

主軸方位 E-1°-S 面積 計測不能

重複 57号、58号、70号住居に先出する。

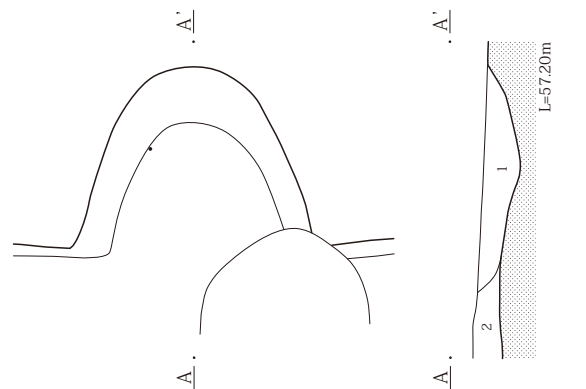
形状 57号、58号、70号住居によって大部分が壊されている。竈の敷設された東壁および南壁の一部を検出したにとどまったため全体の構造は不明である。

床面 壁面の立ち上がりは2から3cmほどしかない。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁で検出された。住居の壁面を掘り込んで燃焼部が構築されていた。燃焼部の幅は70cmを測る。

遺物 南壁中央付近の壁際から土師器甕4がまとまって出土している。床面直上の出土である。また、漆が付着した須恵器杯1・2が出土している。

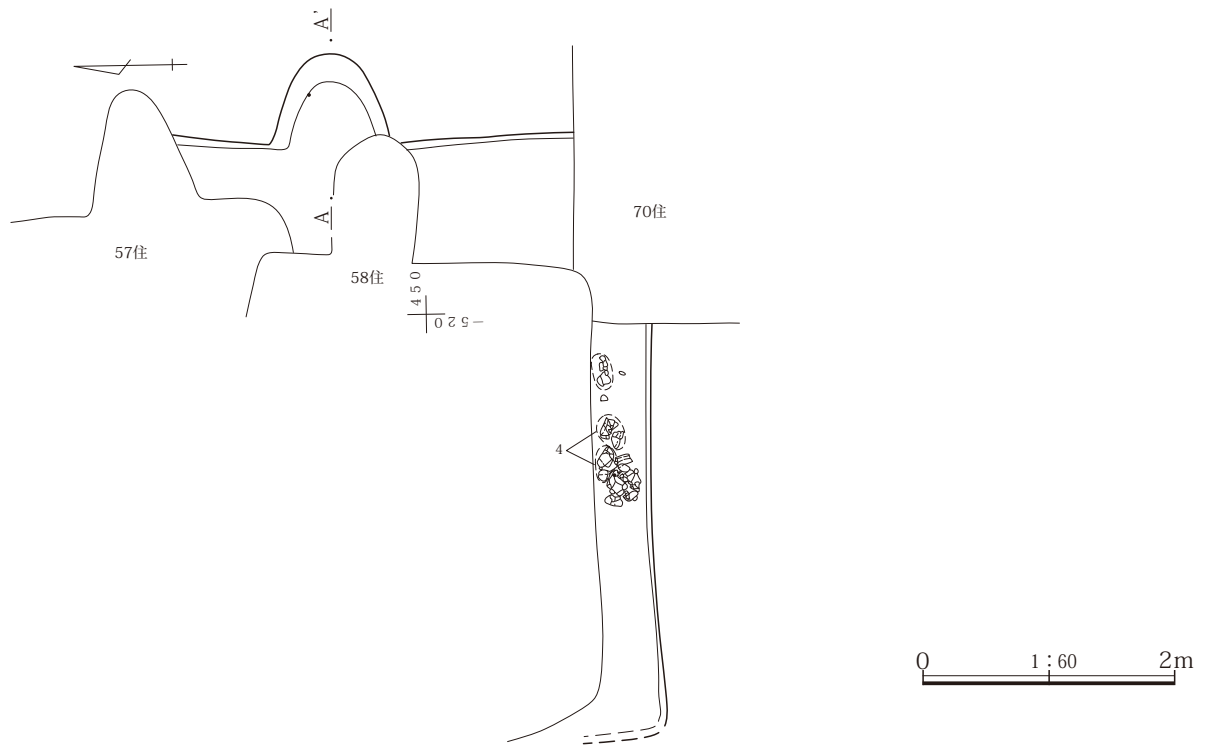
所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



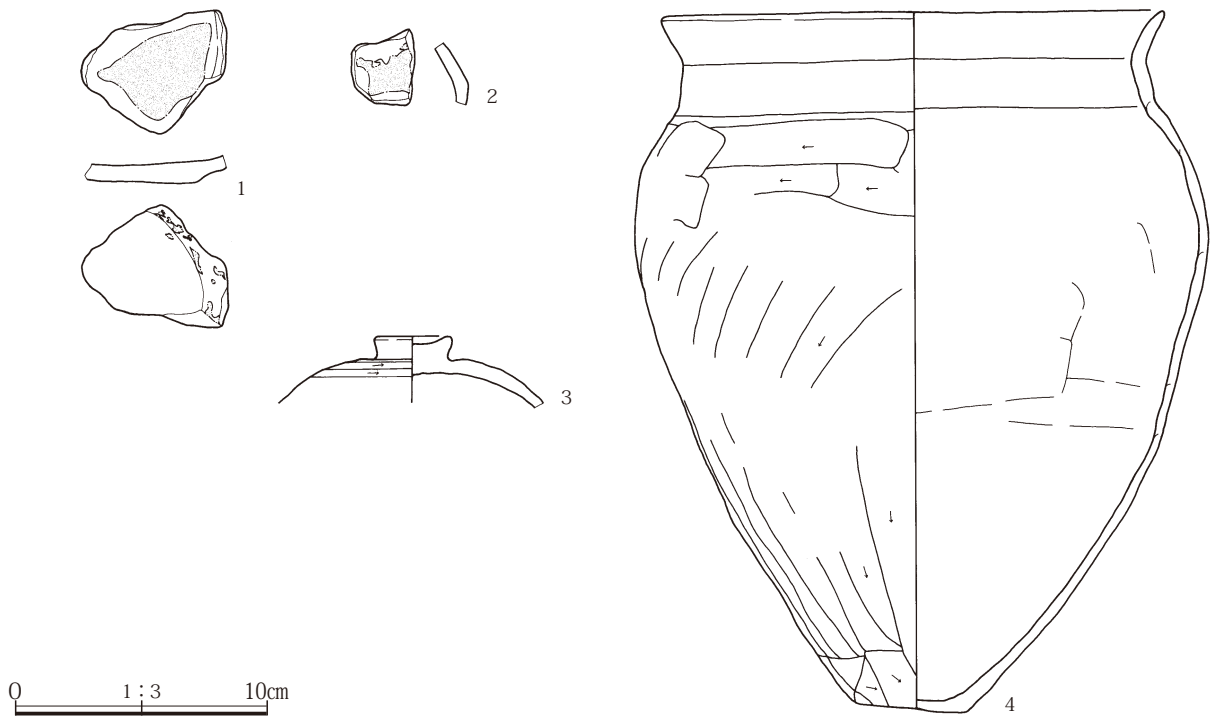
竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径3～5mm)均一に15%混入。焼土ブロック(径10mm)少量混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に10%混入。

第248図 3区77号住居カマド



第249図 3区77号住居



第250図 3区77号住居出土遺物 1-4

3区81号住居 (第251・252図、P L 28・118)

位置 440-525

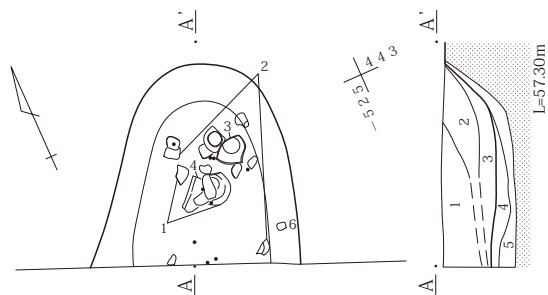
主軸方位 N-20°-E 面積 計測不能

形状 竈の燃焼部のみを検出にとどまった。住居本体は調査区外に及んでいた。

竈 住居の北壁に付設されていたものと考えられる。確認長は81cm、残存幅は85cmを測る。掘り方の精査を行ったところ直径12cm、深さ6cmに小ピットが検出された。支脚の設置痕の可能性が考えられるが断定はできない。

遺物 最終使用面の上層中から須恵器杯1・2、須恵器椀3、須恵器大甕の胴部破片5、土師器甕4、瓦片6が出土した。

所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。

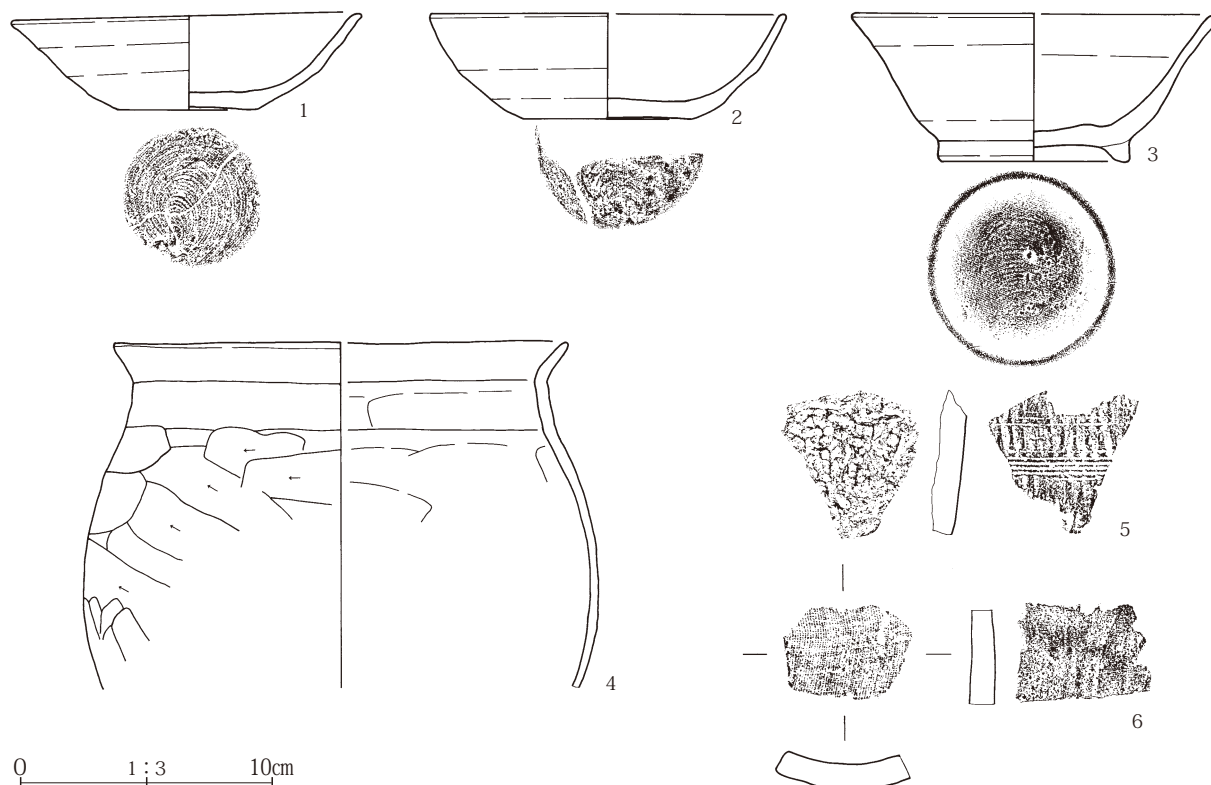


竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)を均一に40%混入。ローム粒(径2mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 3 黒色土 粘質。炭の多い層。
- 4 黒褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。
- 5 黒褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)微量混入。

0 1:30 1m

第251図 3区81号住居カマド



第252図 3区81号住居出土遺物 1-6

3区82号住居 (第253・254図、P L 28・119)

位置 450-515

主軸方位・面積 計測不能

重複 83号住居に先出する。

形状 76号住居により東側の大部分を壊されているため、全体の構造は不明である。西壁を中心に、北壁、南壁は一部を検出したにとどまった。小型であるが、検出された南西、北西の隅は精美な形状で

あった。規模は南北方向で2.10mを測った。東西方向の残存は1.42mである。

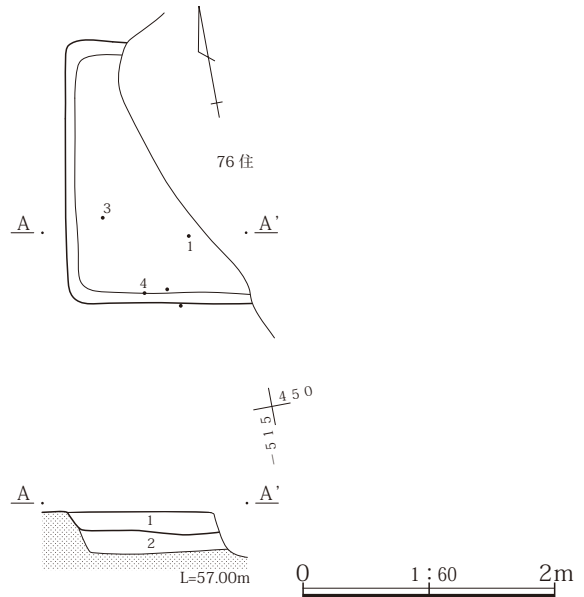
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大17cm掘り込んで床面を構築する。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。床面から掘り方底面までの深さは20cm程あったが大きな起伏などは認められなかった。

竈 調査範囲内から検出されなかった。削平を受けたものと考えられる。

遺物 黒色土器杯1、瓦3、砥石4を資料化した。床面直上から出土したものはなかった。土師器杯2は掘り方埋土中からの出土である。

所見 76号住居との重複関係、出土遺物の特徴から9世紀後半の所産と考えられる。



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。ローム粒(径10mm)少量混入。

第253図 3区82号住居



第254図 3区82号住居出土遺物 1-4

3区83号住居 (第255～257図、P L 28・119)

位置 445、450-510、515

主軸方位 N-55°-W 面積 計測不能

重複 76号、82号住居に後出する。

形状 後出した住居の削平、風倒木の影響を受けたため、四隅はかろうじて検出することができたもの

の、南壁を除く三辺の壁面は部分的な検出にとどまった。平面形は精美な辺と隅を有する長方形を呈する。規模は東西4.65m、南北3.68mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。床面から掘り方底面までの深

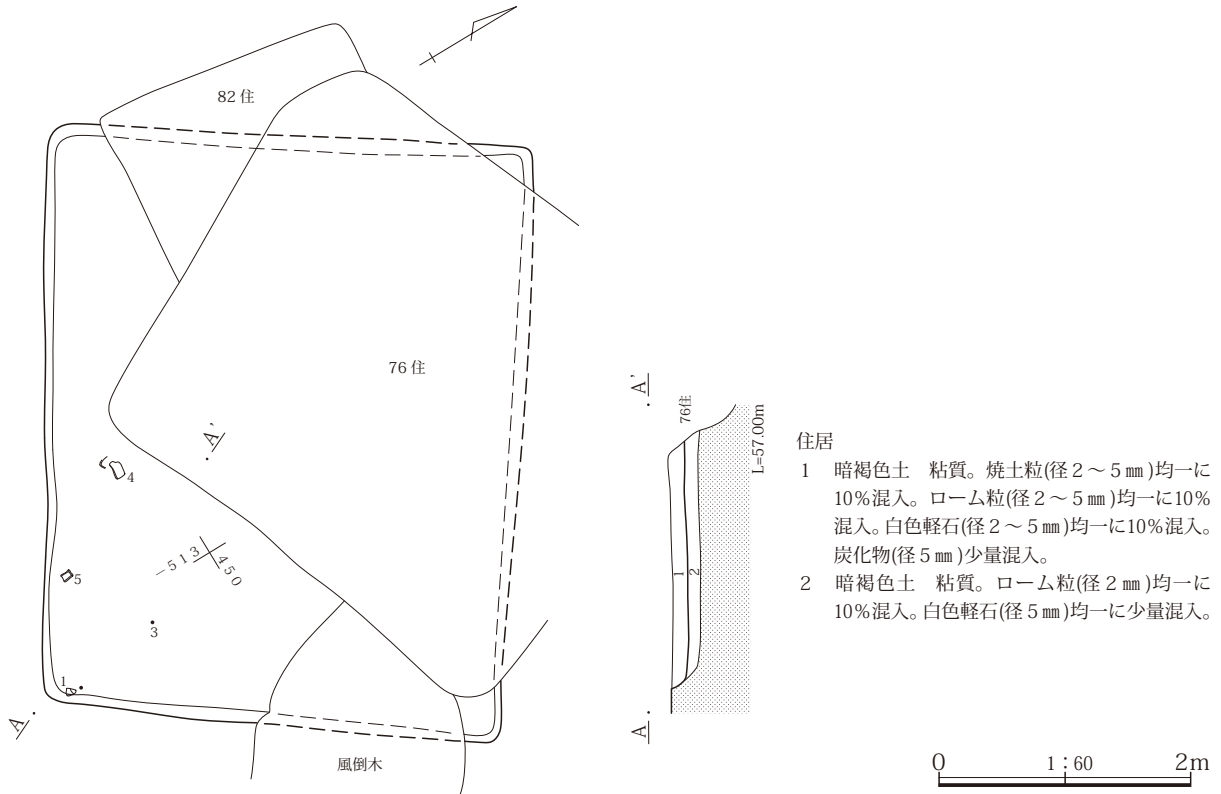
さは10から20cm程あったが大きな起伏などは認められなかった。

竈 調査範囲内からは検出されなかった。削平を受けたものと考えられる。

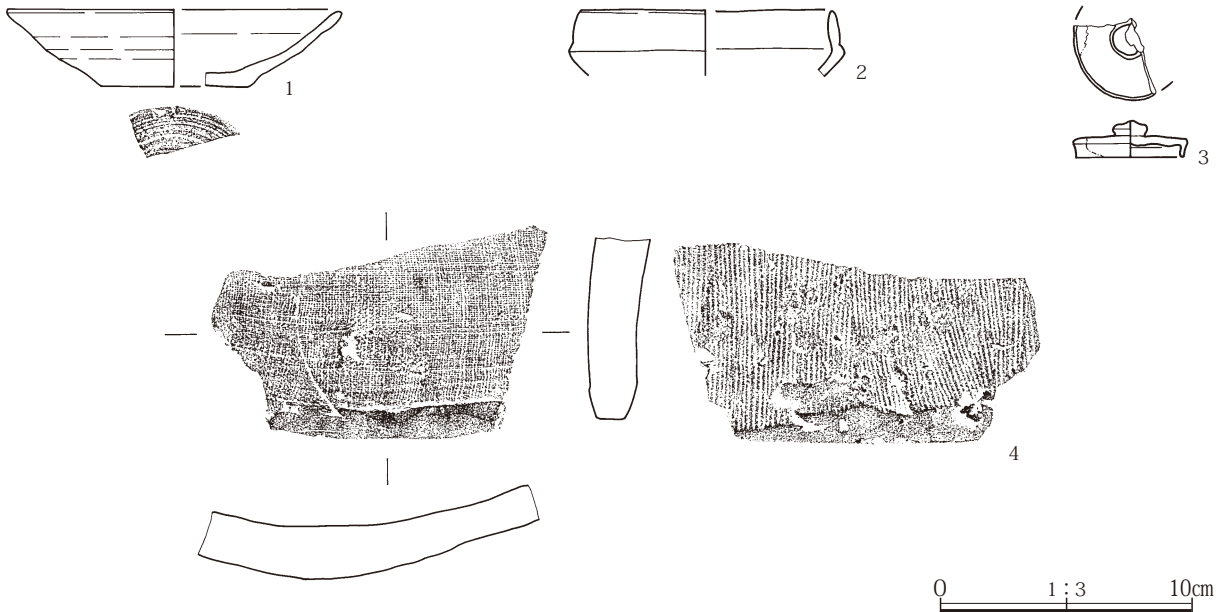
遺物 遺物の出土は少量でいずれも床面から離れ

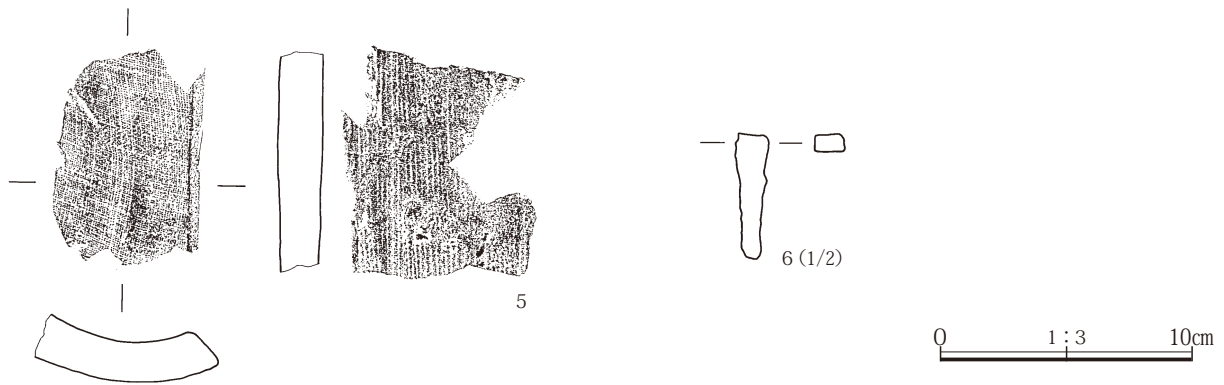
ての出土である。南東隅から出土した奈良三彩小壺蓋の破片も床面から15cm離れて出土したものである。

所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



- 住居
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
 - 2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径5mm)均一に少量混入。





第257図 3区83号住居出土遺物 2 5-6

3区84号住居 (第258～260図、P L 29)

位置 450、455-505、510

主軸方位 E-5°-N 面積 計測不能

重複 74号、75号住居、6号溝、139号土坑に先出する。

形状 74号住居により床面の中央から北壁部分が大きく削平を受けていた。平面形は正形状を呈していた。規模は南北3.78m、東西3.80mを測った。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

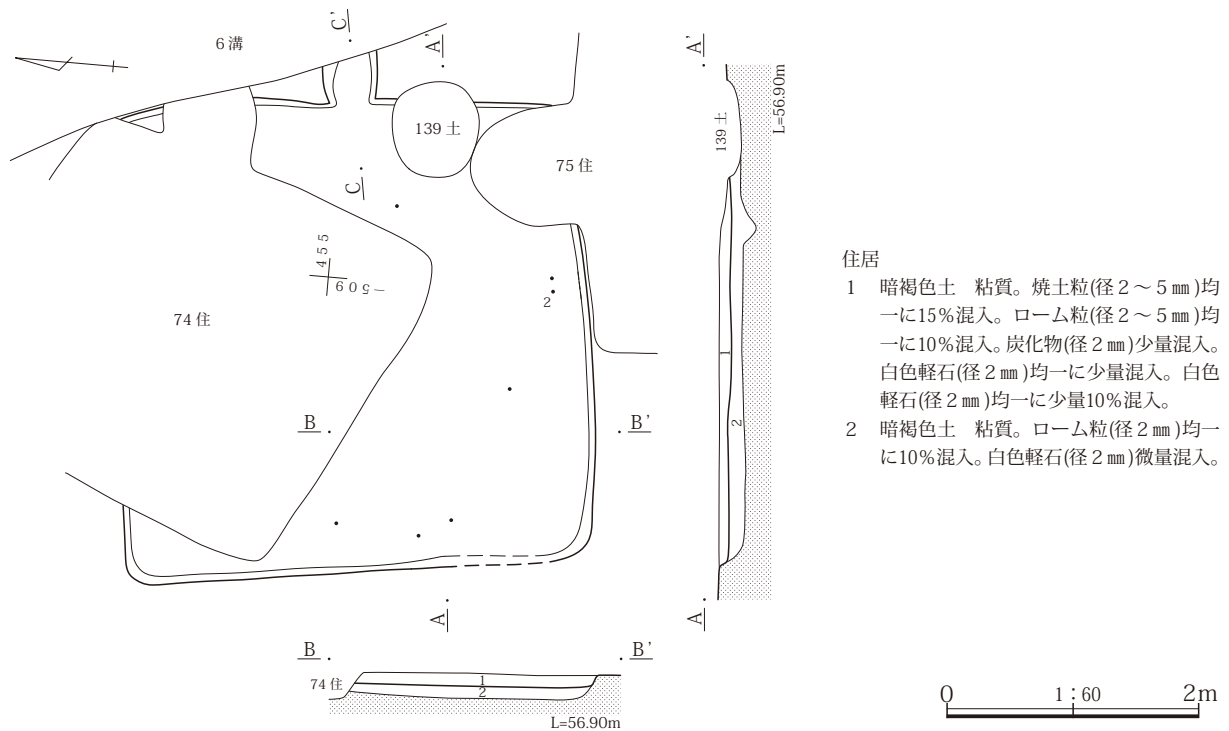
床面 確認面から最大10cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝

は検出されなかった。床面から掘り方底面までの深さは5から10cm程であった。竈の手前と北西隅に土坑状の掘り込みが認められた。

竈 東壁で検出された。ほぼ中央部分に付設されている。全体に残存状態は不良で、煙道部は6号溝に壊されていた。燃烧部の幅は25cmと狭い。

遺物 遺物の出土量は少量であった。須恵器椀2は南壁寄りの床面近くからの出土、須恵器杯1は掘り方内からの出土である。

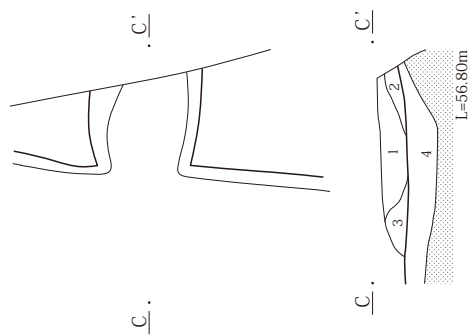
所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



住居

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に15%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。炭化物(径2mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。白色軽石(径2mm)均一に少量10%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

第258図 3区84号住居

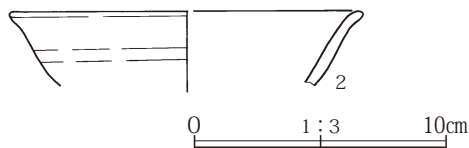
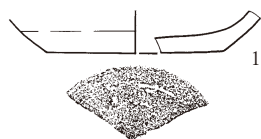


竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径10mm)を均一に30%混入。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径5mm)均一に少量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。



第259図 3区84号住居カマド



第260図 3区84号住居出土遺物 1-2

3区85号住居 (第261~263図、P L 29・119)

位置 465-495

主軸方位 面積 計測不能

重複 7号溝に先出する。

形状 南西隅のみの検出である。大半が調査区外に及んだため、全体の構造は不明である。

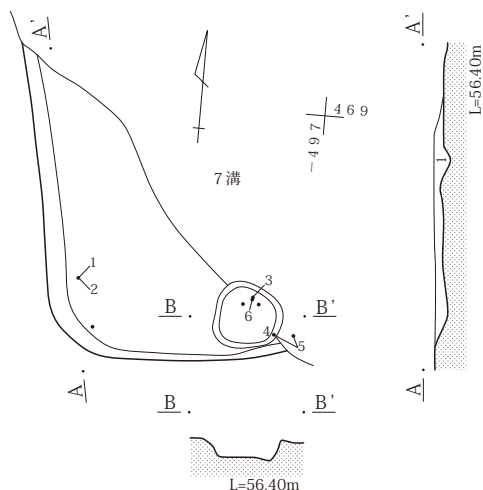
床面 床面は残っておらず、掘り方面のみの調査であった。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。掘り方部分には暗褐色土が堆積していた。

竈 調査範囲内からは検出されなかった。

掘り方 南壁際から床下土坑1基が検出された。不整形形状を呈し、径55cm、深さ16cmを測る。

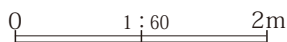
遺物 須恵器杯3~6が床下土坑内からまともに出て出土している。須恵器杯1・2、須恵器椀7は掘り方埋土中からの出土である。1・2は墨書土器である。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半と考えられる。

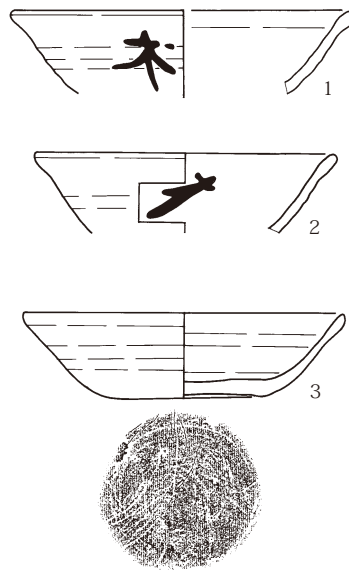


住居

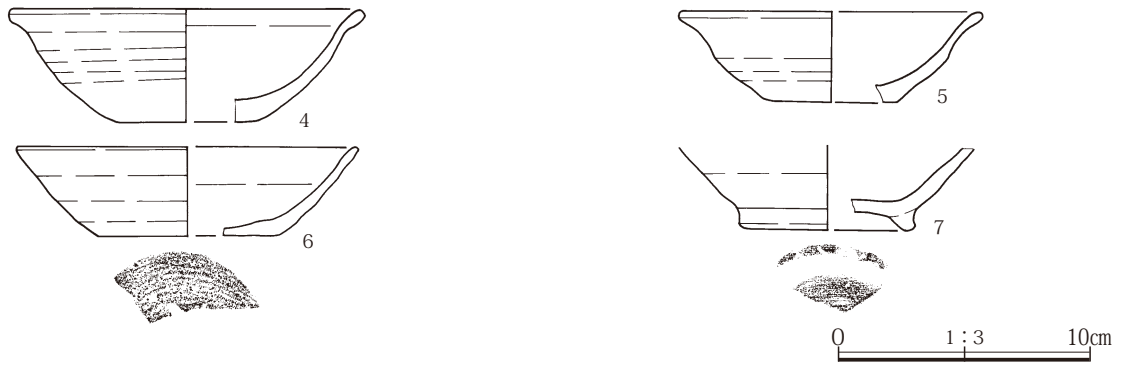
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(2~5mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10~30mm)均一に20%混入。炭化物(径5mm)少量混入。



第261図 3区85号住居



第262図 3区85号住居出土遺物 1 1-3



第263図 3区85号住居出土遺物 2 4-7

3区86号住居 (第264・265図、P L 29・119)

位置 445-505

主軸方位 面積 計測不能

重複 6号溝、141号・173号・188土坑に先出する。

形状 東側が6号溝により壊されているため全体の構造は判然としないが、範囲が6号溝の東側に及んでいないことから南北方向に長軸を有する長方形を呈していたと考えられる。南北長は3.62m、東西の残存長は3.00mを測る。

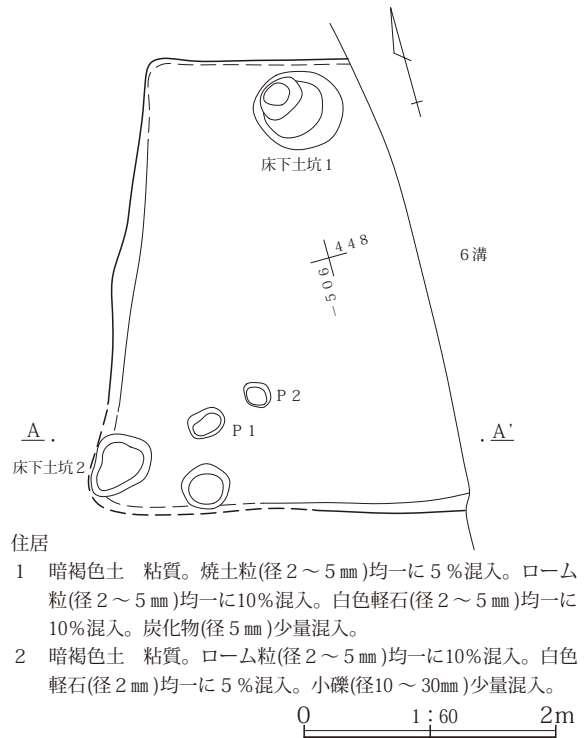
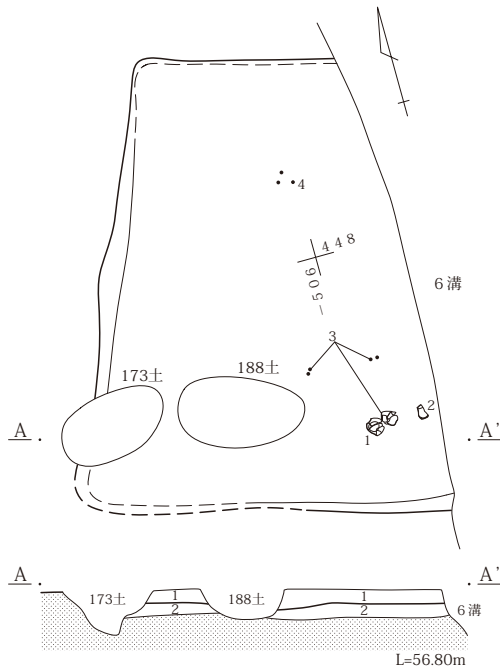
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大15cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 調査範囲内からは検出されなかった。削平されたものと考えられる。

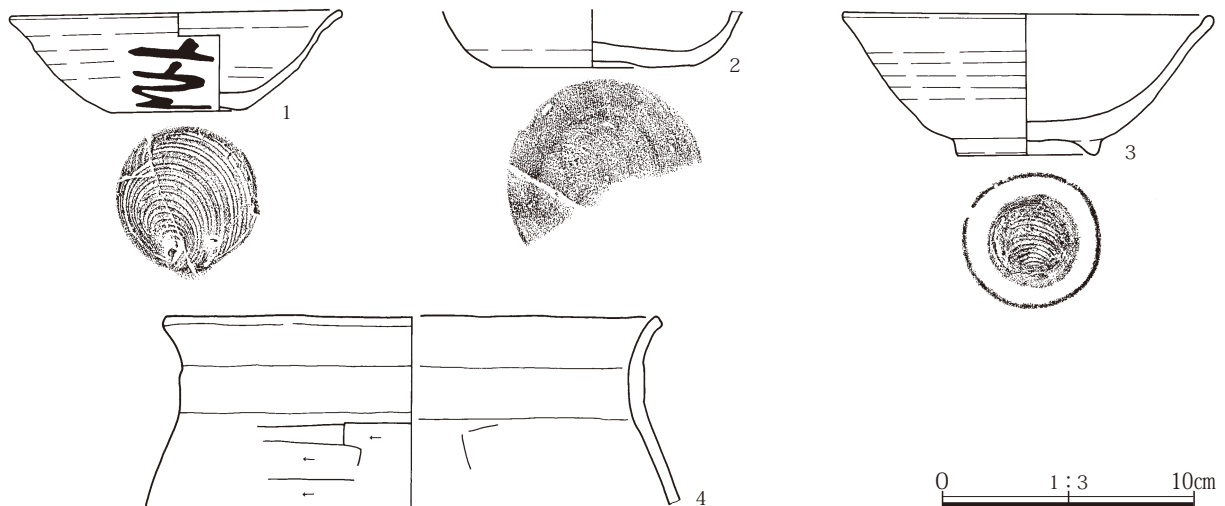
掘り方 床面から掘り方底面までは20cm程の深さを有する。暗褐色土が堆積していたが小礫が少量混入している。北壁寄りから1基、南西隅寄りから1基、床下土坑が検出された。北側の土坑は平面円形で長径73cm、深さ31cmを測る。暗褐色土が堆積していた。遺物 床面直上から出土した遺物はなく、みな床面から浮いた状態で出土している。須恵器杯1は外面に墨書が認められる。

所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



- 住居
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
 - 2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。小礫(径10~30mm)少量混入。

第264図 3区86号住居



第265図 3区86号住居出土遺物 1-4

4区1号住居 (第266～269図、P L 29・30・119)

位置 445、450-460、465

主軸方位 E-2°-N 面積 9.09㎡

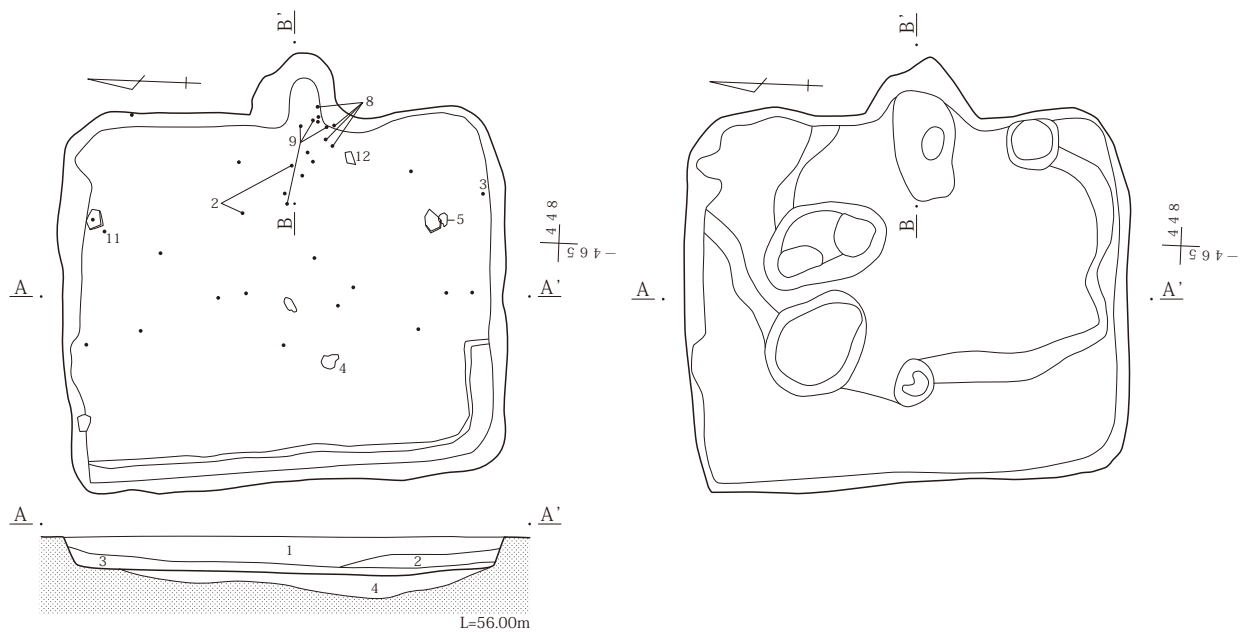
形状 南北方向に長軸を有する横長の長方形を呈す。四隅はやや丸みをおびる。規模は南北3.54m、東西3.03mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。混入物により分

層された。

床面 確認面から最大30cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

周溝 西壁と、これに続く南壁の3分の1程において検出された。幅15cm前後、深さ5cm弱を測る。埋没土は褐色土粒を少量混入する暗褐色土である。



住居

- 1 暗褐色土 白色軽石均一に混じる。炭化粒・焼土粒均一に少量混じる。
- 2 暗褐色土 1層にロームブロック少量混入。
- 3 暗褐色土 白色軽石少量。炭化物・焼土粒混入。ロームブロック(径10～30mm)を不均一に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(径5～30mm)混入。(掘り方)

※周溝は、西壁では明確である。南壁・北壁では西側の1/3を確認。

第266図 4区1号住居

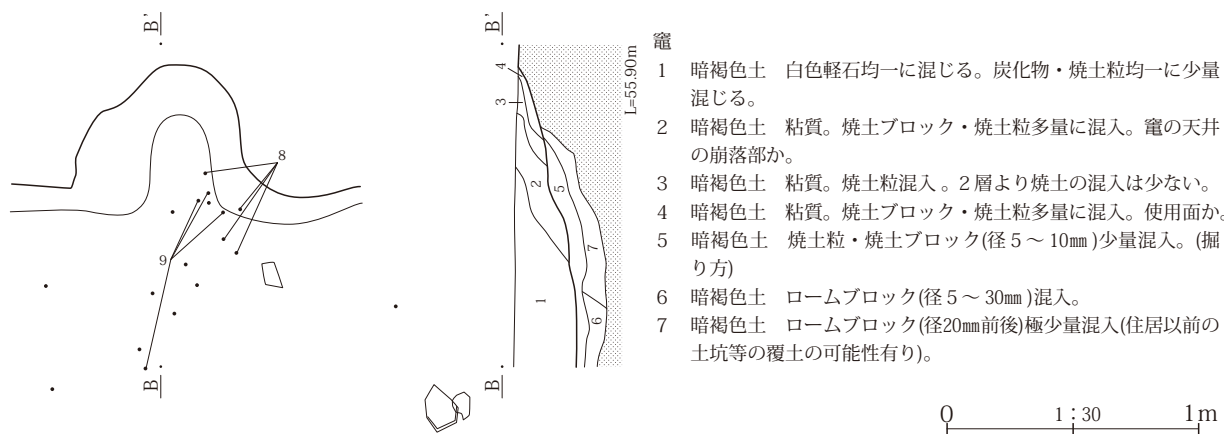
竈 東壁の中央で検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込み緩やかに立ち上がりながら煙道部へと移行している。底面は皿状に掘り込まれていた。右側の基部からはロームブロックが検出され、調査時には袖部の残存と考えられたようであるが、最終的には崩壊した構築材として理解した。確認長cm、燃烧部幅30cmを測る。

貯蔵穴 掘り方精査時に竈の右側で円形のピット状の掘り込みを検出した。位置的に見てその可能性が考えられる。規模は直径43cm、深さ5cmである。暗褐色土が堆積していた。調査時の所見でも貯蔵穴の可能性を指摘している。

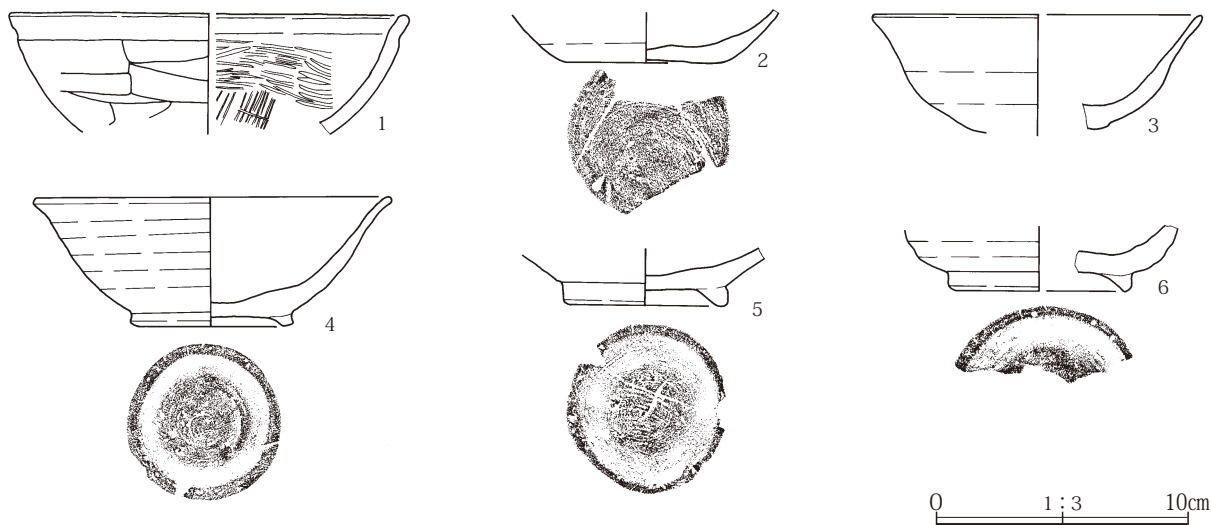
掘り方 床面の中央から東側が大きく下がっており、ピット、長円形の床下土坑状の掘り込みも重複していた。深さは20cm程である。埋土はロームブロックを混入する暗褐色土である。

遺物 東側を中心に少量出土した。竈の燃烧部から焚き口部手前からは土師器甕8・9が出土した。須恵器碗4は床面中央からやや西壁寄りの床面直上からの出土である。砥石11は北東隅寄りの北壁際、床面からやや離れた位置で出土している。埋没土中からは鉄釘13、刀子14が出土している。

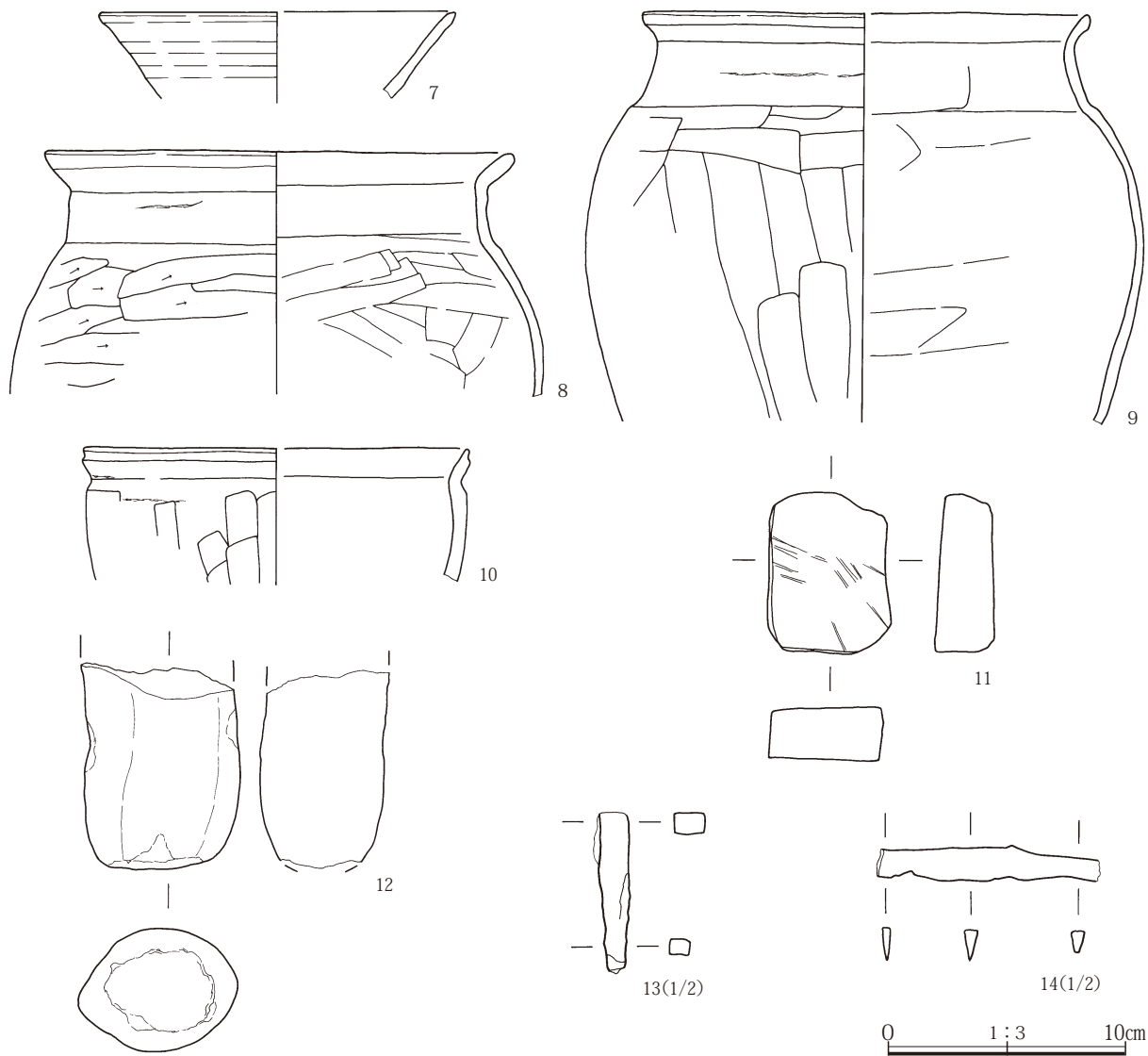
所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



第267図 4区1号住居カマド



第268図 4区1号住居出土遺物 1 1-6



第269図 4区1号住居出土遺物2 7-14

4区2号住居 (第270～274図、P.L30・120)

位置 455、460-470、475

重複

主軸方位 E-1°-S 面積 13.28㎡

形状 調査時の所見によれば本住居は、竈の付け替えが行われていると考えられている。最終使用時の竈の位置を元にとると南北方向に長軸を有する横長の長方形を呈していた。規模は南北4.57m、東西3.36mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大22cm掘り込んで床面を構築する。床面は多少の起伏が見られたものの概ね平坦

である。柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 第1竈は本住居廃棄時の竈である。東壁の中央からやや南側寄りで見出された。燃焼部は住居の壁面を掘り込み、壁外に構築されていた。奥側は緩やかに立ち上がり、幅18cmの煙道部に接続していた。規模は、確認長100cm、燃焼部長75cm、燃焼部幅34cmを測る。燃焼部の左右の基部には袖石が付設されていた。両方とも自然礫を使用しているが、右側の礫は上端が平坦に打ち搔かれている。燃焼部には角のある自然礫が支脚石として設置されており、いずれも良好な状態で検出された。

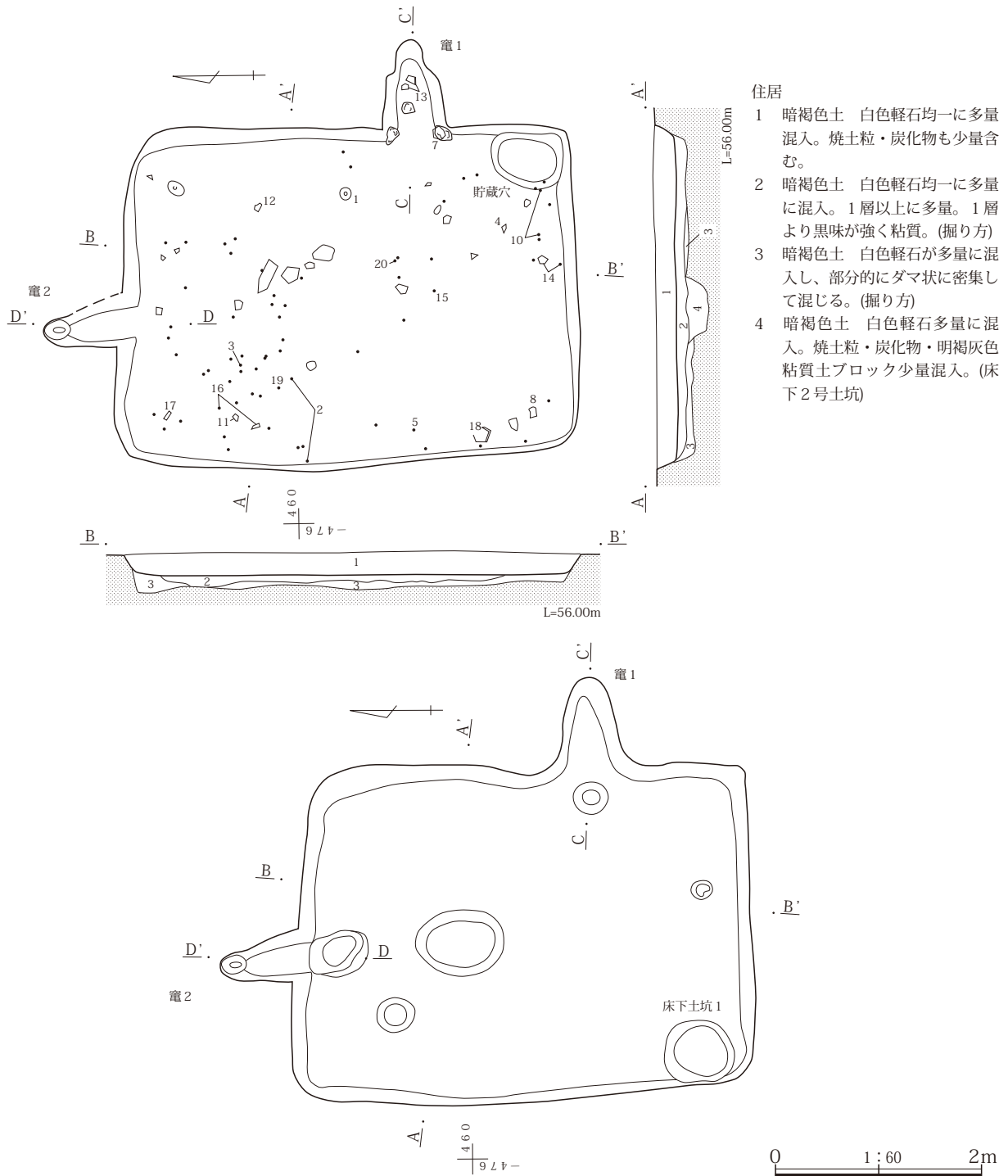
北壁において旧竈の可能性があると第2竈が調

査されている。確認長90cm、燃烧部幅30cmを測る。住居内から一部、住居の壁面を掘り込んで燃烧部を構築している。60cm程奥で立ち上がり、煙道部へ移行していた。燃烧部底面には皿状の掘り込みが認められた。

貯蔵穴 第1竈の右隅で検出された。楕円形状を呈

し、長径72cm、短径53cm、深さ10cmを測る。暗褐色土が堆積していた。第2竈に対応する貯蔵穴は検出されていない。

掘り方 床面から掘り方底面までは10から20cm程掘り込まれていた。床下土坑2基、ピット状の掘り込み2基を検出した。床下土坑1は南東隅で検出した。

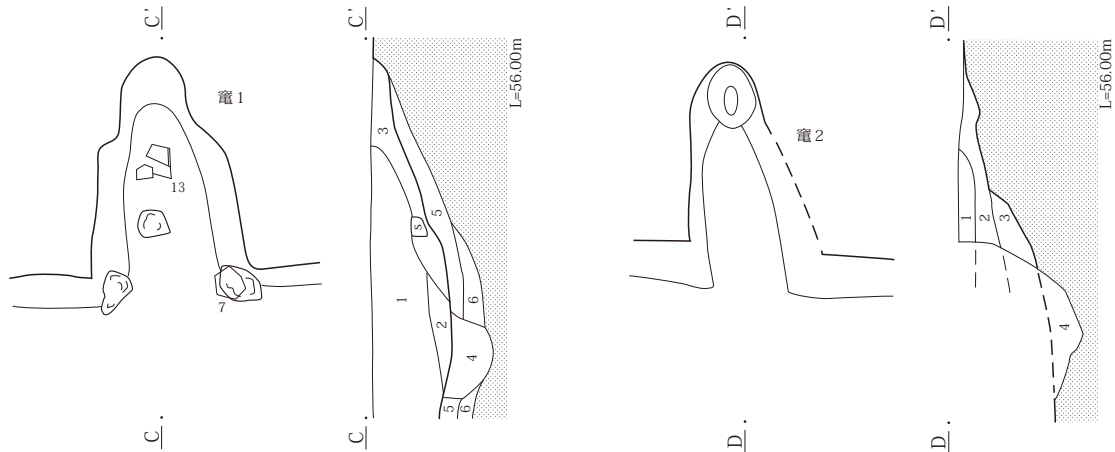


平面長円形で、規模は長径69cm、深さ21cmである。床下土坑2は床面中央からやや北寄りからの検出である。平面長円形で、規模は長径88cm、深さ12cmである。埋土はともに暗褐色土である。

遺物 90点を超える資料が出土したがその大半は住居が埋没する過程での混入と考えられ、破片の状態となっていた。第1竈右袖部の礫の上にはこれに

被るように須恵器椀7が置かれていた。床面中央から北東隅にやや寄ったところの床面直上からは須恵器耳皿12が出土している。埋没土中から土鍾19・20が出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀第3四半期の所産と考えられる。



竈1

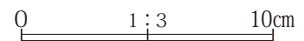
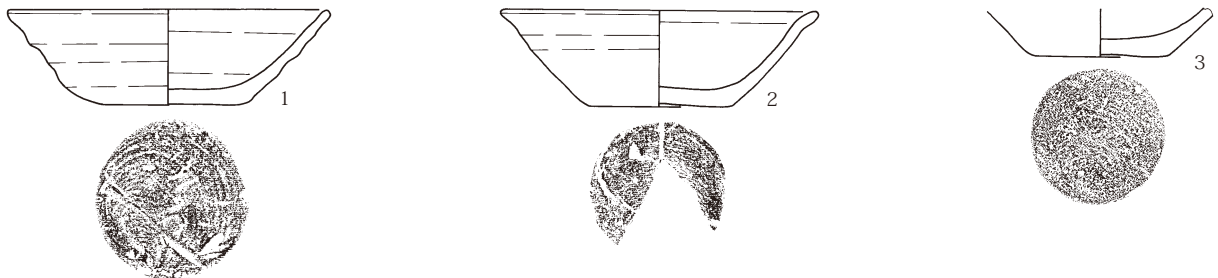
- 1 暗褐色土 白色軽石粒多量に混入。焼土粒混入。炭化物も極少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック(径5～10mm)多量に混入。炭化物少量含む。白色軽石粒も多量に含む。1層よりやや少なめ。
- 3 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量に混入(天井・煙道部崩落部か)。
- 4 黒褐色土 白色軽石多量に混入。炭化物(径5mm前後)・焼土粒少量含む。
- 5 暗褐色土 白色軽石多量に不均一に混入。焼土粒も少量含む。焚口部寄り、焼土粒・焼土ブロック(径5～10mm)多量に混入。炭化物少量含む。白色軽石粒も多量に含む。(掘り方)
- 6 暗褐色土 粘質。白色軽石粒多量に混入。焼土粒混入。

竈2

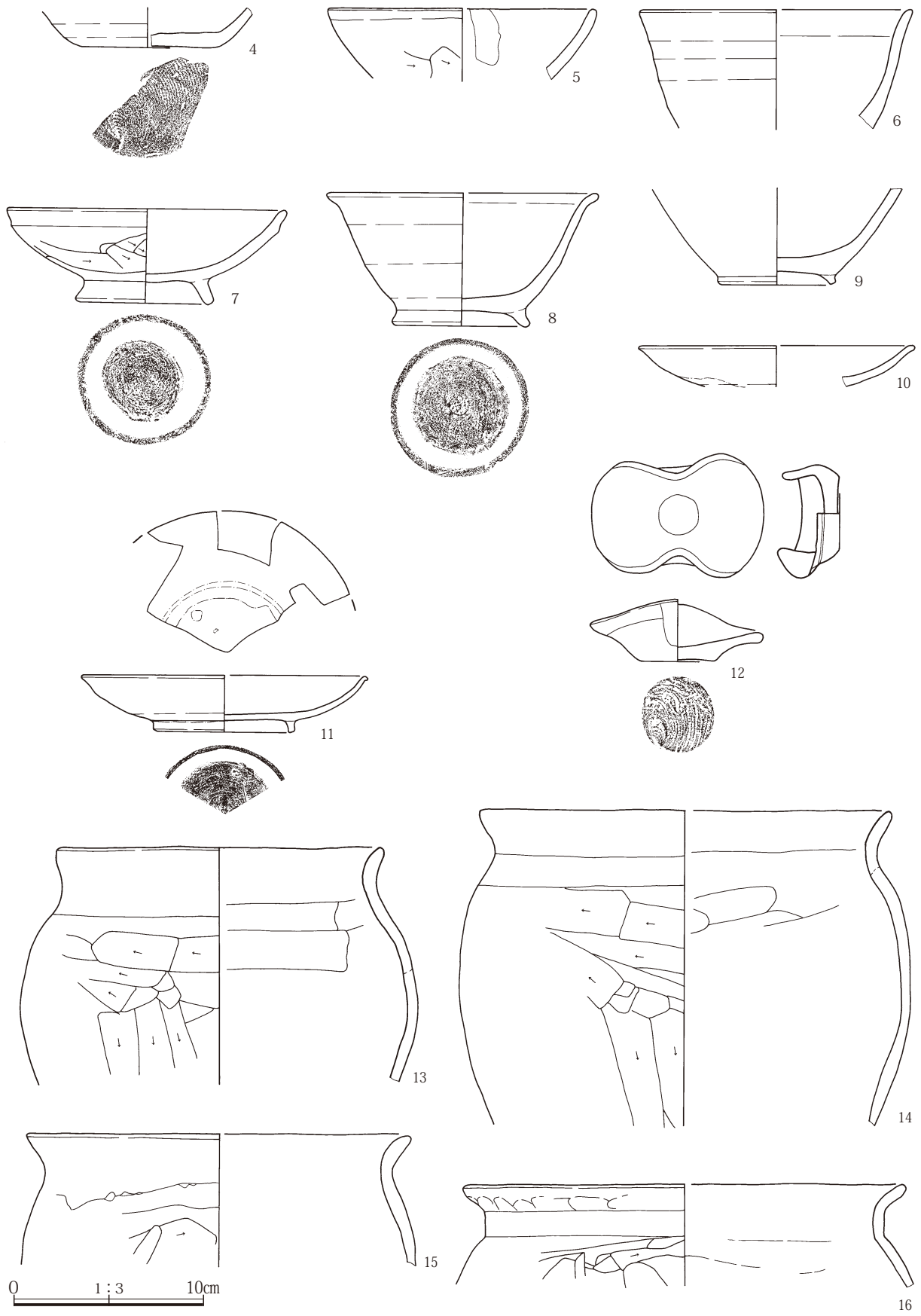
- 1 暗褐色土 白色軽石粒多量に混入。焼土粒混入。炭化物も極少量含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒混入。焼土粒・焼土ブロック混入(煙道部崩落部か)。
- 3 暗褐色土 白色軽石粒混入。焼土ブロック(径20～50mm)多量に混入。
- 4 掘り方
※竈の様に壁面から北壁外側に張り出していた。灰原部も焼土粒・灰等多かったため、竈として処理した。やや小さめなため竈がわからず、作り直した前の竈かもわからない。不明確。



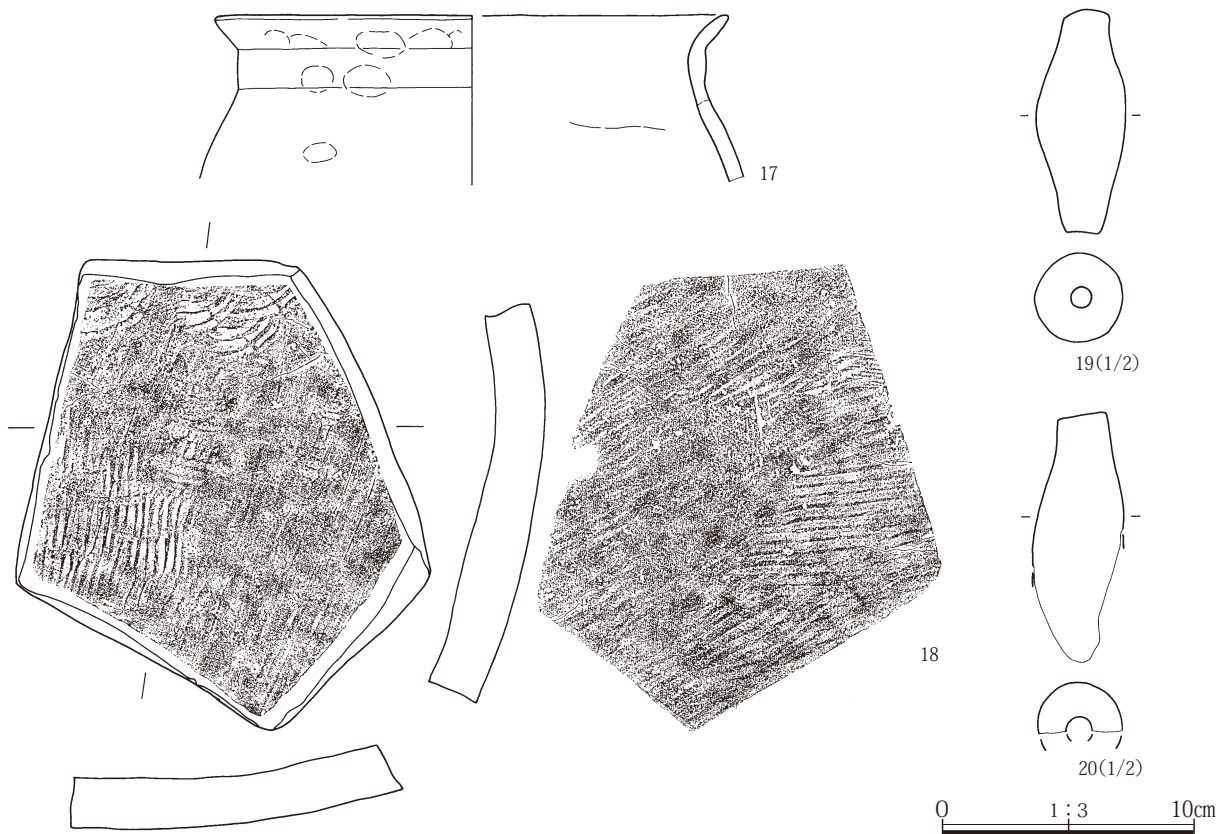
第271図 4区2号住居カマド



第272図 4区2号住居出土遺物1 1-3



第273图 4区2号住居出土遺物2 4-16



第274図 4区2号住居出土遺物3 17-20

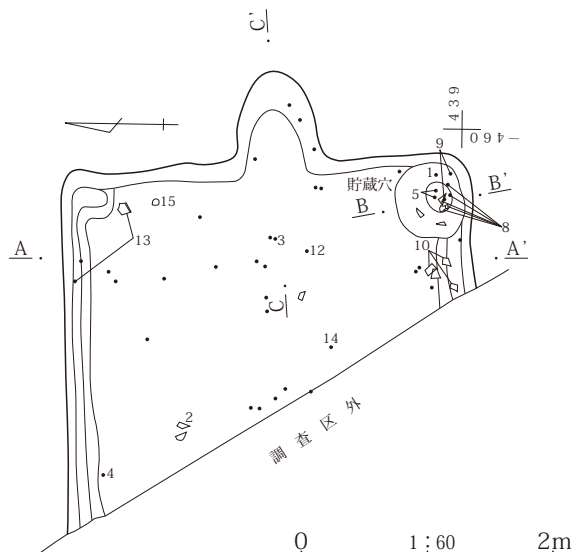
4区3号住居 (第275～278図、P L 31・120)

位置 435、440-460

重複 16号住居、17号溝に後出する。

主軸方位 E-2°-N 面積 計測不能

形状 西側部分が調査区外におよび、西壁、ならびに南西、北西の両隅を検出することができなかつ

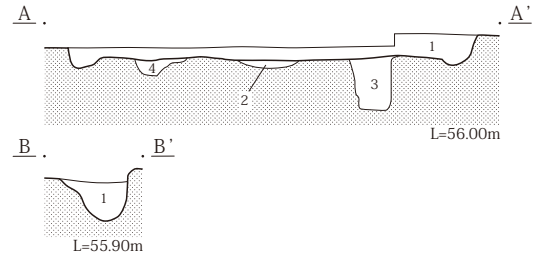


第275図 4区3号住居

た。全体の構造は不明であるが、平面形は縦長の長方形状を呈していたとも考えられる。規模は、南北3.30m、東西の残長2.74cmを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。



住居

- 1 暗褐色土 白色軽石・ロームブロック(径10～20mm)極少量混入。焼土粒少量混入。
- 2 暗褐色土 焼土粒(径3mm)均一に30%混入。炭化物(径3mm)均一に20%混入。オリーブ色のローム粒(径5mm)少量混入。(床下土坑1)
- 3 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径5～10mm)を均一に20%混入。炭化物(径5mm)を10%混入。(1号ピット)
- 4 暗褐色土 (掘り方)

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 オリーブ色のローム粒(径1～10mm)を均一に30%混入。焼土粒(径3mm)少量混入。土器片数点出土。

周溝 北壁及び南壁で検出された。幅15cmほど、深さ3cmほどを測る。

竈 東壁のほぼ中央で検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込み、住居の壁外に構築されている。確認長85cm、燃烧部幅53cmを測る。焚き口部手前からは径46cm、深さ18cmの円形の掘り込みが検出され、灰が堆積していた。調査時に掻きだしピットと呼ばれていた。

貯蔵穴 竈の右隅で検出された。不整円形状を呈し、径60cmほど、深さ32cmを測る。暗褐色土が堆積していた。埋没土中から須恵器つき1・3・5、須恵器

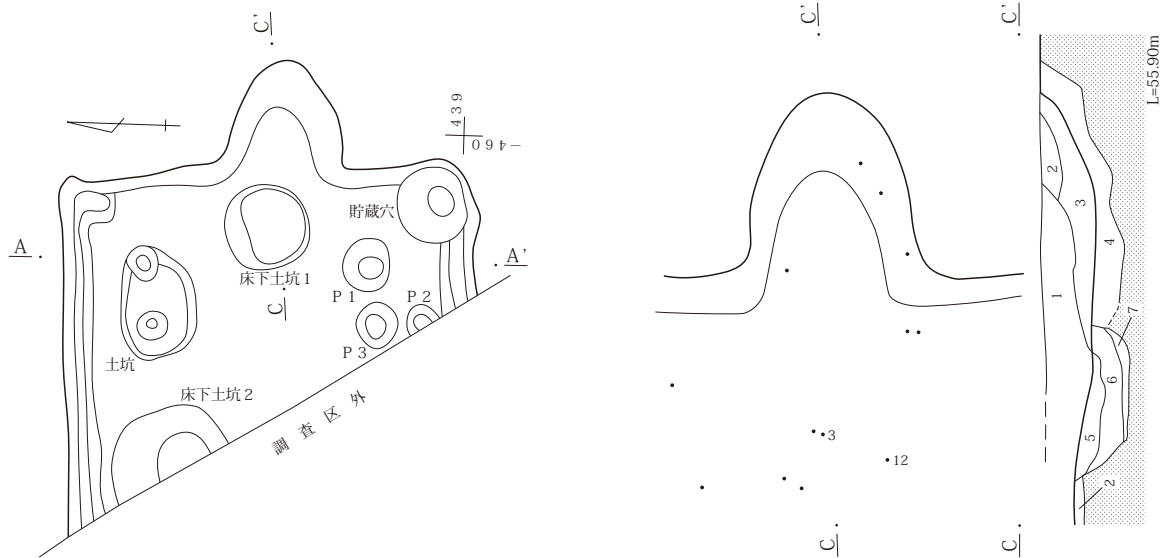
椀8・9が出土した。

柱穴 南東側で1基が検出された。長径42cm、深さ43cmを測る。暗褐色土が堆積していた。

掘り方 北壁寄りから床下土坑2基を検出した。いずれも暗褐色土で埋められていた。北東の床下土坑は深さ15cm、北西の床下土坑は深さ16cmを測る。

遺物 床面直上出土の資料としては北壁寄りからの須恵器杯2・4、北東隅寄りの土師器甕13、砥石14がある。土錘15は埋没土中からの出土である。

所見 遺構の重複関係と出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。

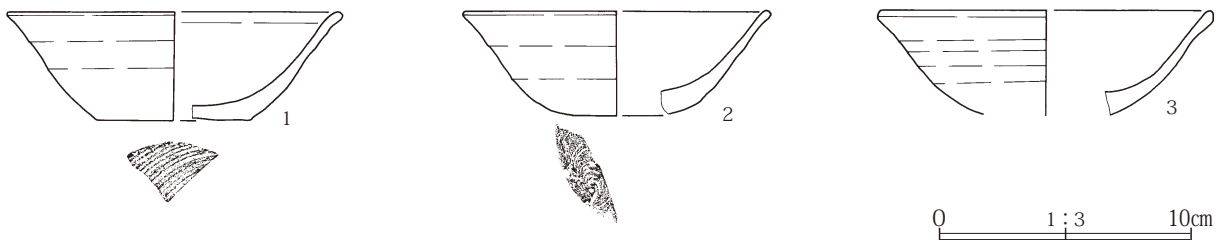


竈

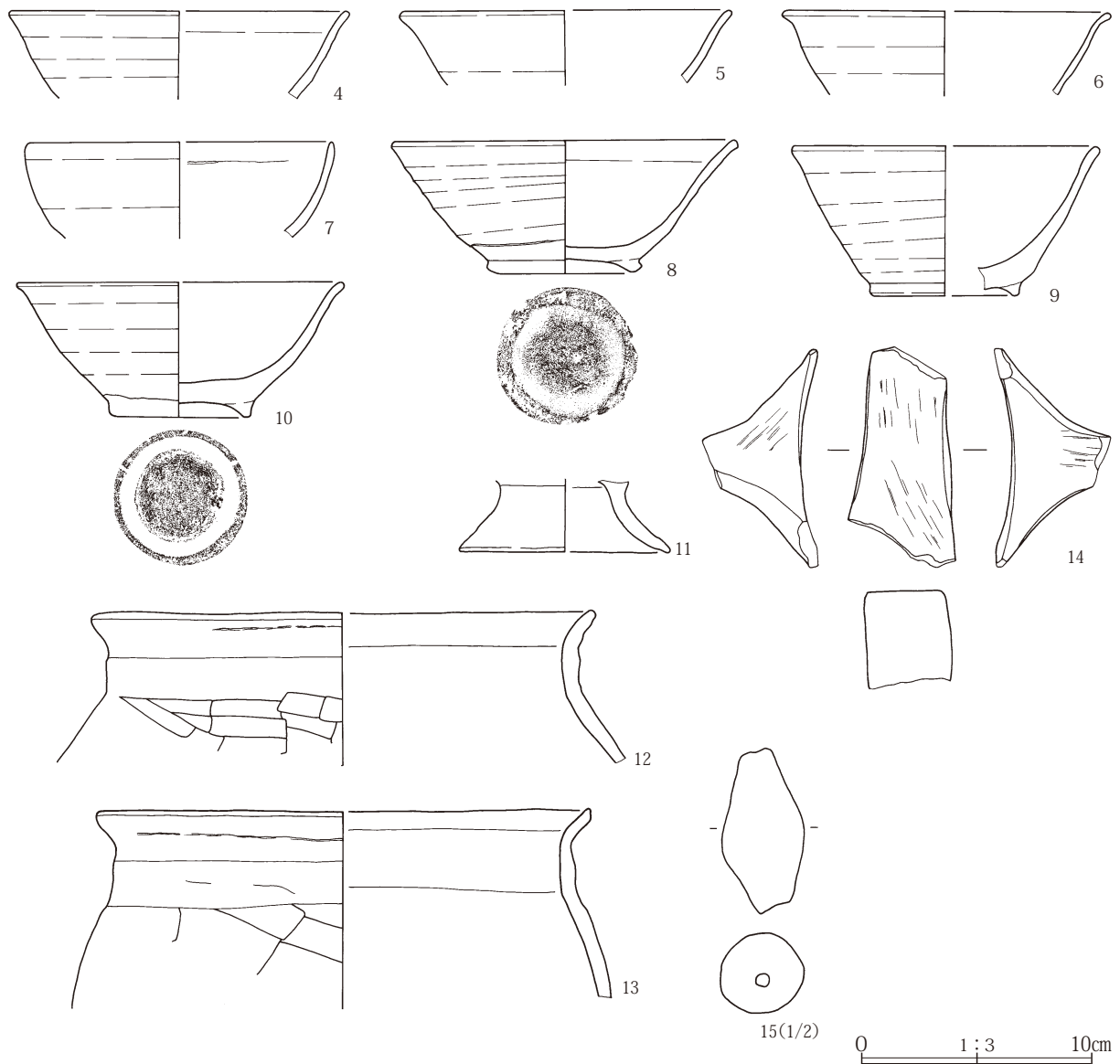
- 1 暗褐色土 焼土粒(径1~5mm)を均一に20%混入。白色軽石(径1~3mm)を均一に10%混入。ロームブロック(径20mm)少量混入。
- 2 焼土塊(壁面の崩落)。
- 3 赤褐色土 焼土(70%)と灰(30%)の混土。
- 4 暗褐色土 白色軽石(径2mm)を均一に10%混入。焼土粒(径3mm)を少量混入。
- 5 暗褐色土 焼土粒(径1~5mm)を均一に20%混入。白色軽石(径1~3mm)を均一に10%混入。ロームブロック(径20mm)少量混入。(掻き出しピット1号-1)
- 6 焼土塊(壁面の崩落)。(掻き出しピット1号-2)
- 7 焼土塊

0 1:60(竈1:30) 2m

第276図 4区3号住居カマド



第277図 4区3号住居出土遺物 1 1-3



第278図 4区3号住居出土遺物2 4-15

4区4号住居 (第279～281図、P L 31・32・120)

位置 440、445-460

重複 18号溝に後出する。

主軸方位 E-7°-N 面積 11.46㎡

形状 南北方向に長軸を有し、西側の2隅が鈍角をなす横長の台形状を呈する。各辺の中央部分における規模は南北4.25m、東西3.40mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大16cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴は検出されなかった。

周溝 竈から貯蔵穴までの部分を除き、ほぼ全周

する。幅20cm、深さ5cmほどを測る。

竈 東壁の中央から南側寄りで検出された。確認長120cm、燃烧部幅65cmを測る。焚き口部に長径32cm、深さ12cmの皿状の掘り込みが見られ、調査時に搔きだしピットと呼称されていた。灰が堆積していた。

貯蔵穴 竈右隅で検出された。楕円形状を呈し、長径79cm、短径72cm、深さ20cmを測る。焼土ブロックを含む暗褐色土が堆積していた。内部から須恵器杯5と棒状の鉄製品13が出土している。

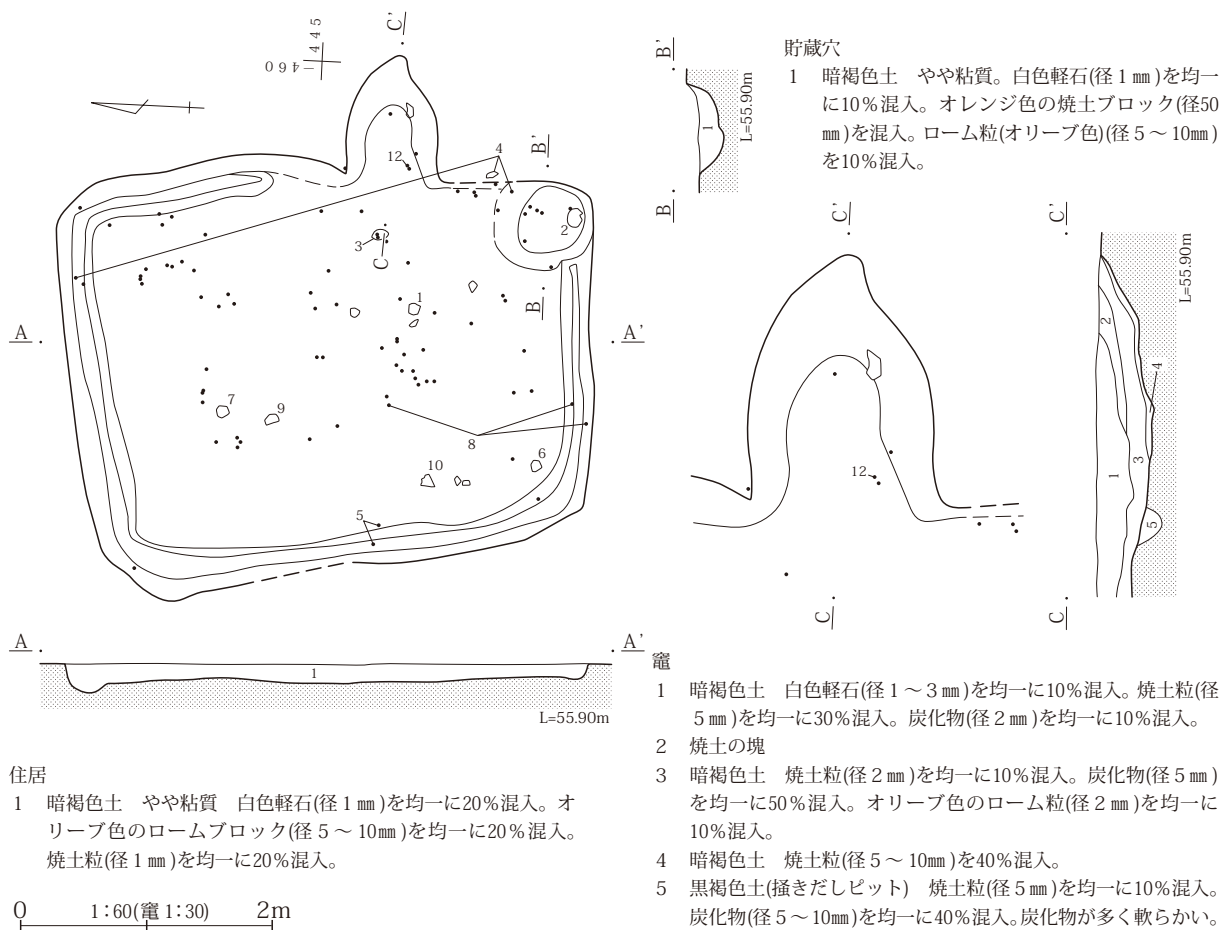
掘り方 北東隅で床下土坑1基を、南東部分から東壁寄りでもピット3基を検出した。南側部分にも18号溝との重複部分の南側に土坑状の掘り込みが認めら

れる。

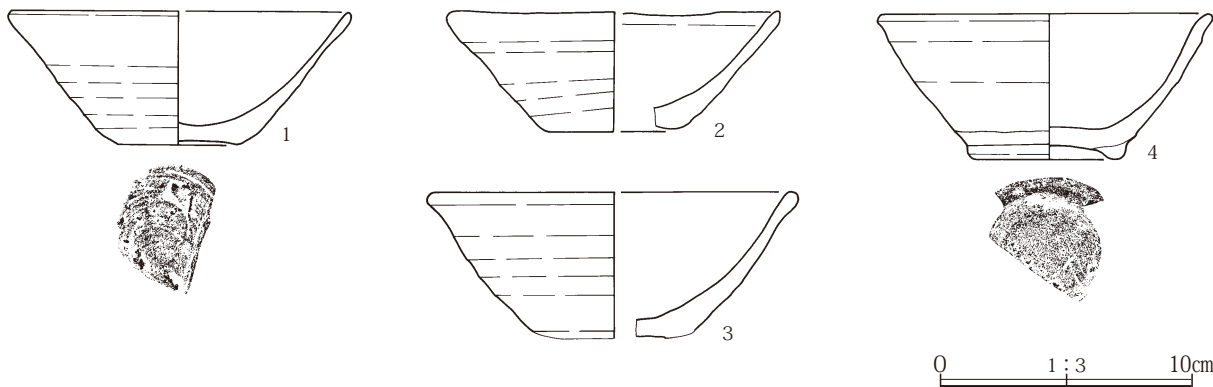
遺物 100点を超える資料を取り上げたがいずれも床面からやや離れた高さからの出土である。須恵器杯2や椀4、土師器甕9・10が床面直上からの出土であるが破片の状態であった。埋没土中から鉄釘11、刀子13が出土した。

所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。

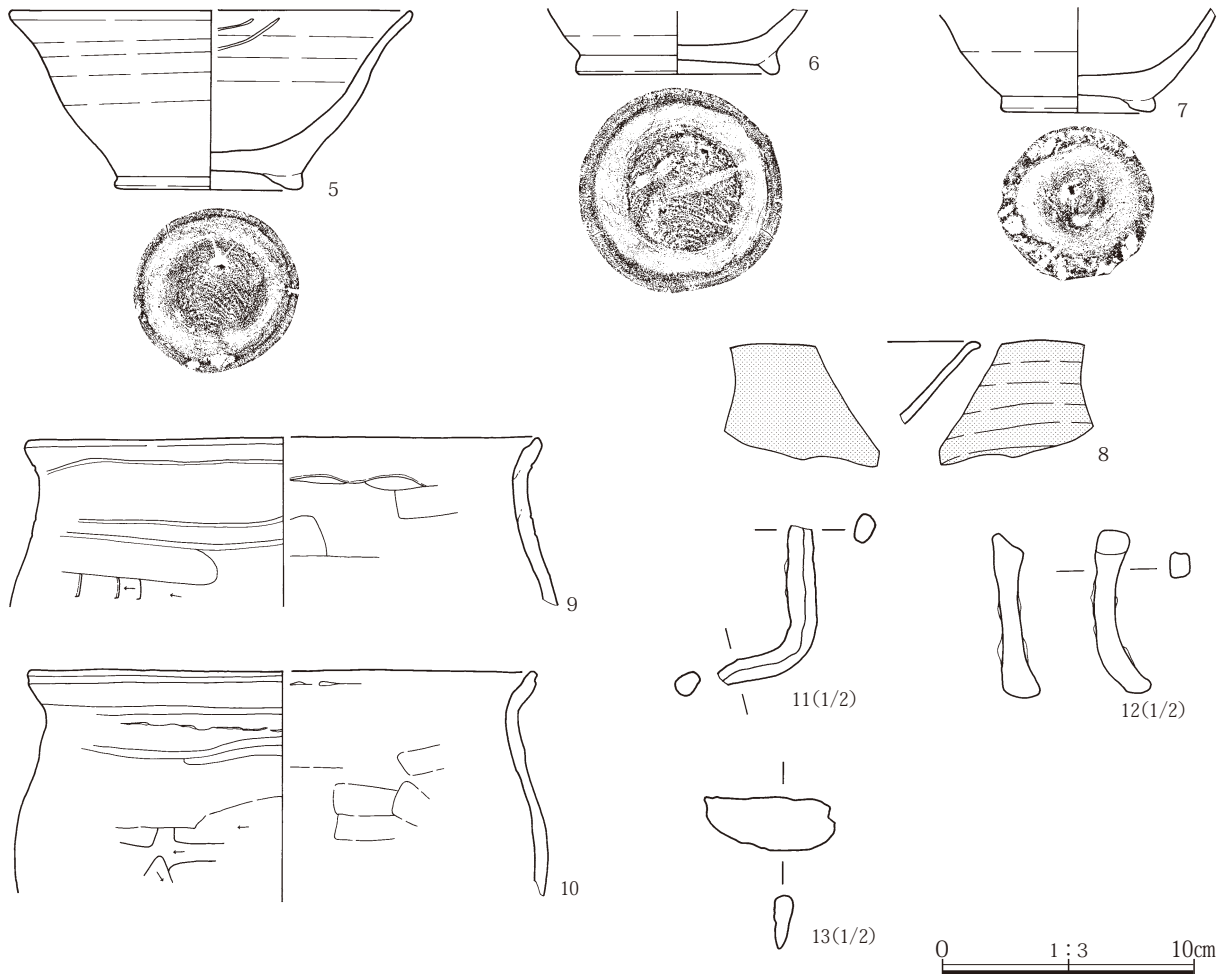
なお、竈と貯蔵穴の間で長径72cm、短径55cm、深さ3の土坑状の掘り込みが検出され、灰が堆積していた。掘り方が本住居外側に突出してしまうことから本住居に後出する別遺構が重複していたものと考えたい。



第279図 4区4号住居



第280図 4区4号住居出土遺物 1 1-4



第281図 4区4号住居出土遺物 2 5-13

4区5号住居（第282～284図、P L 32・121）

位置 460、465-480、485

重複 21号土坑に後出するか。

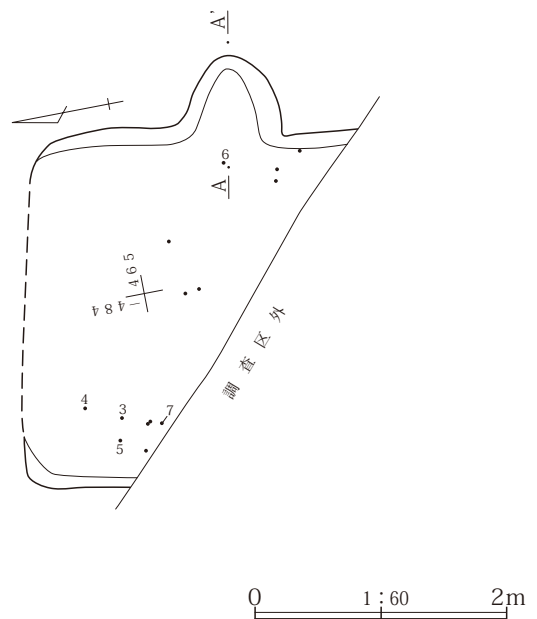
主軸方位 E-10°-S 面積 計測不能

形状 南壁と西壁のほとんどが調査区外におよんでいたため全体の構造については不明である。東西長は2.88m、南北の残長は2.60mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 大半の部分で壁面の掘り込みを確認することができず、残存状態は不良である。確認面から最大10cm掘り込んで床面を構築していた。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。掘り方底面までの深さは10cm程で多少の起伏が見られた程度である。

竈 東壁で検出した。燃烧部は住居内から一部住居の壁面を掘り込んで構築されていた。規模は、確



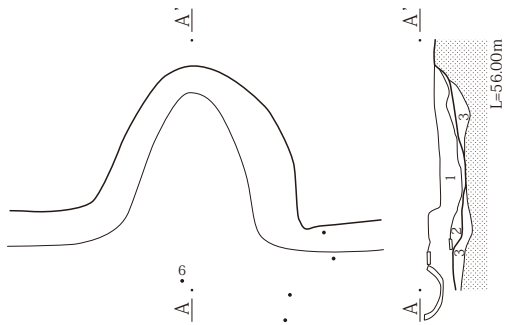
第282図 4区5号住居

認長77cm、燃烧部幅58cmを測る。

遺物 遺物の出土は少量であった。竈の焼き口部前から須恵器甕6が出土している。埋没土中から刀

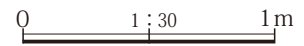
子8が出土している。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

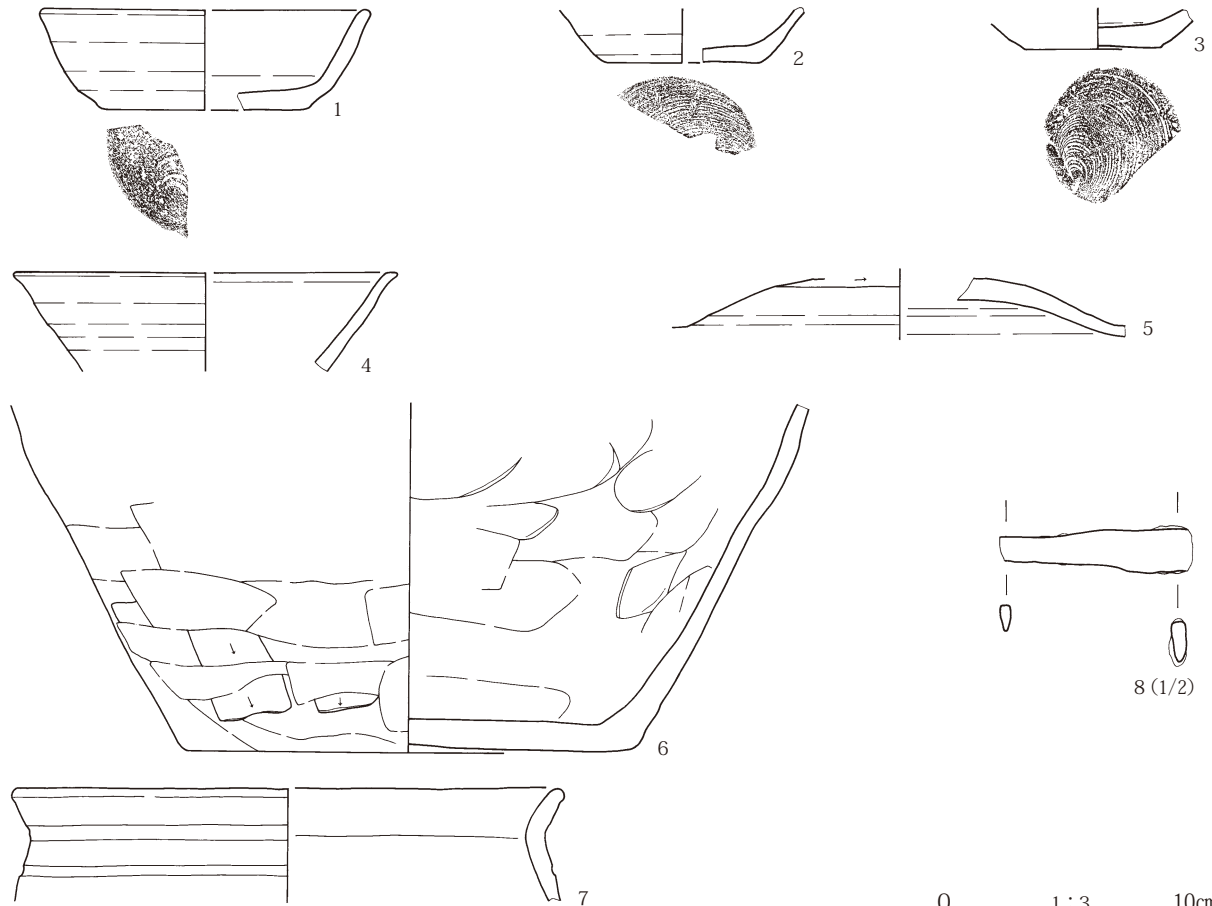


竈

- 1 赤褐色土 やや粘質。焼土粒(径5～20mm)を均一に30%混入。炭化物(径10～30mm)を20%混入。焚口部寄りでは70%の混入。白色軽石(径1mm)微量混入。硬い。
- 2 灰黄色土 やや粘質。白色軽石(径1mm)微量混入。焼土粒微量含む。
- 3 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径5～10mm)少量混入。(掘り方)



第283図 4区5号住居カマド



第284図 4区5号住居出土遺物 1-8

4区6号住居 (第285～287図、P L 32・121)

位置 450-455、460

重複 10号から13号住居に後出する。

主軸方位 E-10° -N 面積 10.68m²

形状 南北に長軸を有する。平面形は横長の長方形を基本としたものと考えられるが、全体がやや歪

み、北東、南西の両隅が鈍角をなす平行四辺形状を呈する。規模は南北が西壁で4.07m、東西が南壁で3.10mを測る。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床 面 確認面から最大23cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。

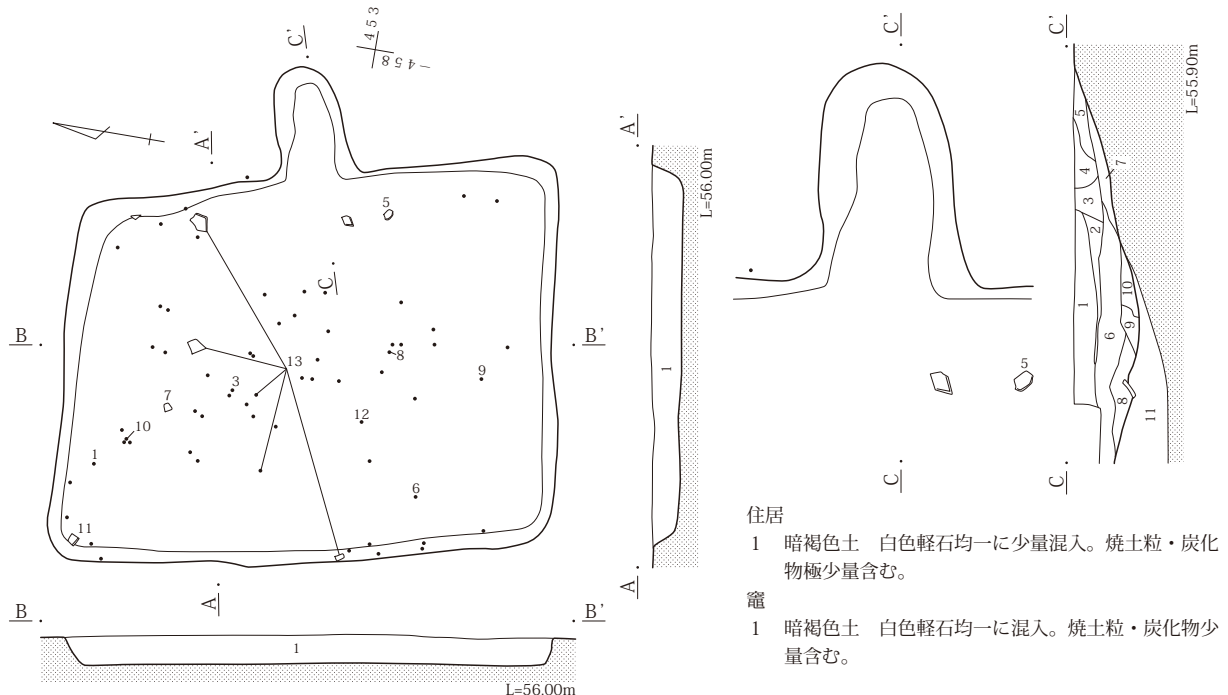
竈 東壁の中央で検出された。燃烧部は幅狭く、住居内から住居の壁面を掘り込み壁外に構築されている。緩やかな傾斜を持って煙道部に移行していつ

たものと考えられる。確認長92cm、燃烧部幅42cmを測る。

遺 物 床面全体から小破片の状態で出土している。須恵器杯1・2、椀6・9、土師器甕11が床面直上からの出土である。須恵器大甕13は床面各所から出土した破片が接合した。

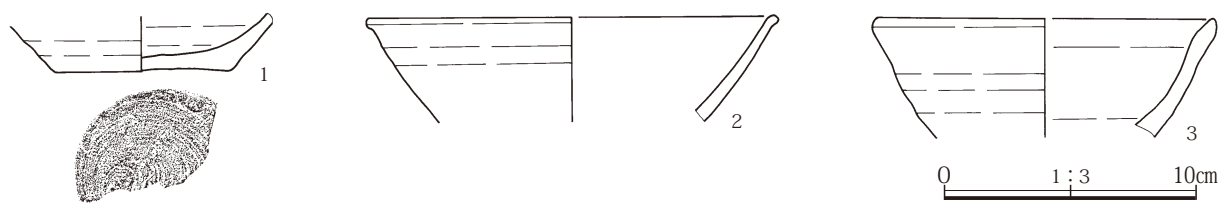
掘り方 重複する住居の埋没土を掘り込んでいたため判然と把握することが困難であった。

所 見 遺構の重複関係と出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。

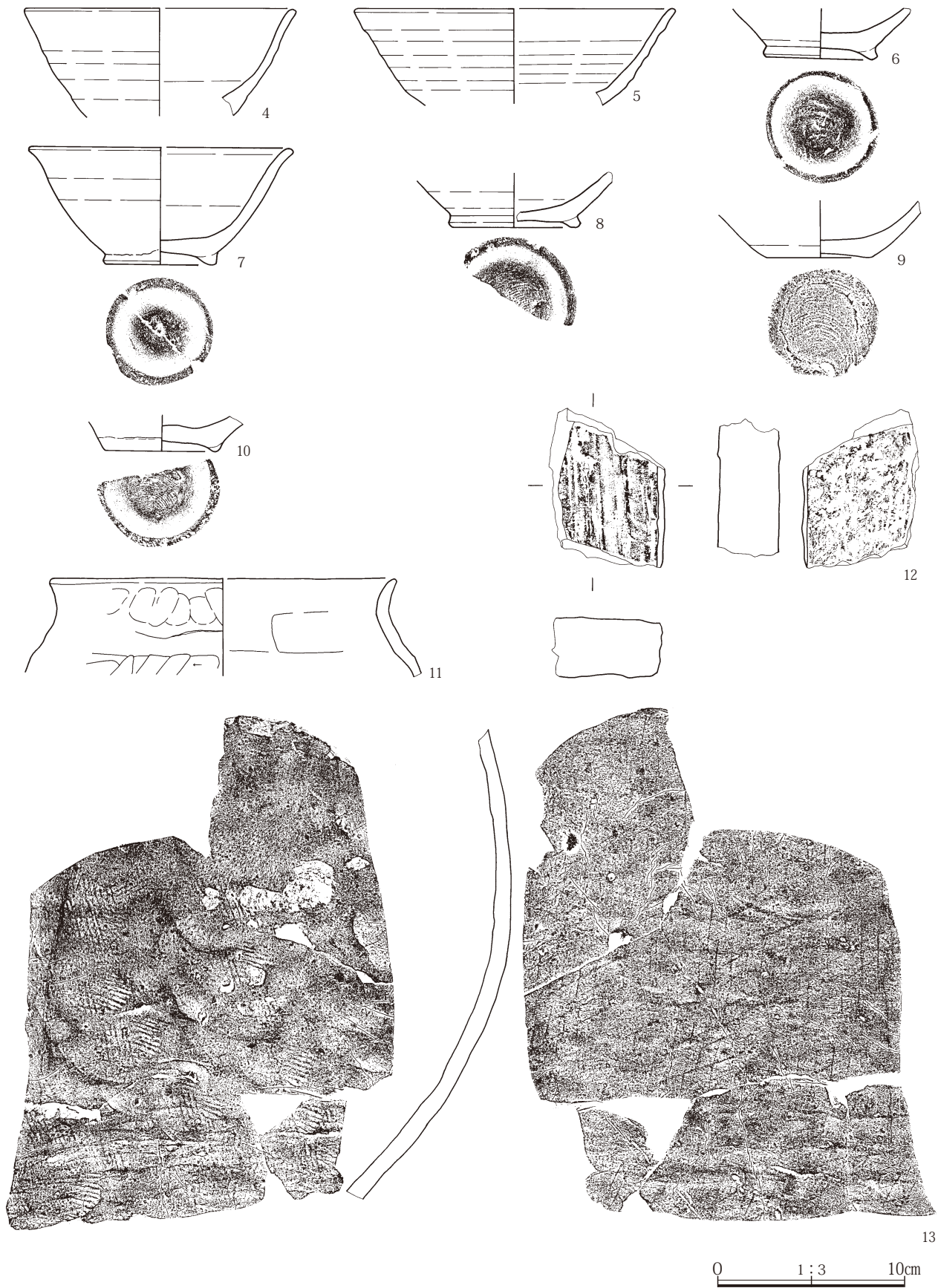


- 住居
- 1 暗褐色土 白色軽石均一に少量混入。焼土粒・炭化物極少量含む。
- 竈
- 1 暗褐色土 白色軽石均一に混入。焼土粒・炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石極少量・焼土ブロック(径5mm前後)・焼土粒多量に混入。
 - 3 暗褐色土 白色軽石極少量・焼土ブロック(径5~20mm)多量に混入。褐灰色粘質土もブロック状に混入。
 - 4 暗褐色土 白色軽石極少量・焼土ブロック(径5~10mm)多量に混入。2層によく似る。
 - 5 暗褐色土 白色軽石極少量・焼土ブロック(径5mm前後)混入。炭化物ブロック少量混入。
 - 6 暗褐色土 焼土ブロック(径5mm前後)混入。
 - 7 暗褐色土 焼土ブロック(径5mm前後)混入。6層より焼土多い。
 - 8 暗褐色土 炭化物含む。
 - 9 赤褐色土 焼土ブロック層。
 - 10 暗褐色土 白色軽石少量・焼土粒・炭化物少量含む。
 - 11 12号住居竈埋没土。(掘り方含む)

第285図 4区6号住居



第286図 4区6号住居出土遺物 1 1-3



第287图 4区6号住居出土遺物2 4-13

4区9号住居（第288・289図、P L 33・121）

位置 445、450-445、450

経過 本住居については、当初、1号竪穴遺構として調査を実施した後その下位に本住居が重複して存在したものと認識して調査が実施されている。今回の整理作業に際し両遺構を合わせて検討したところ同一の遺構である可能性が高いものと判断した。1号竪穴遺構の記録に残された規模は東西3.55m、南北3.29mを測り、9号住居の平面図中の規模より一回り大型である。他にも合致しない点があることから遺構の図面としては9号住居として記録されたものを掲載した。帰属の遺物としては調査時に9号住居出土としたものの他に1号竪穴遺構として取り上げた遺物についても本住居の帰属として扱った。

重複

主軸方位 E-1°-S 面積 計測不能

形状 東西方向に長軸を有する長形状を呈すると思われるが、壁面の検出状況が不良であったため詳細な部分の検討は困難である。規模は東西3.65m、南北3.10mを測る。貯蔵穴、柱穴は検出されな

かった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

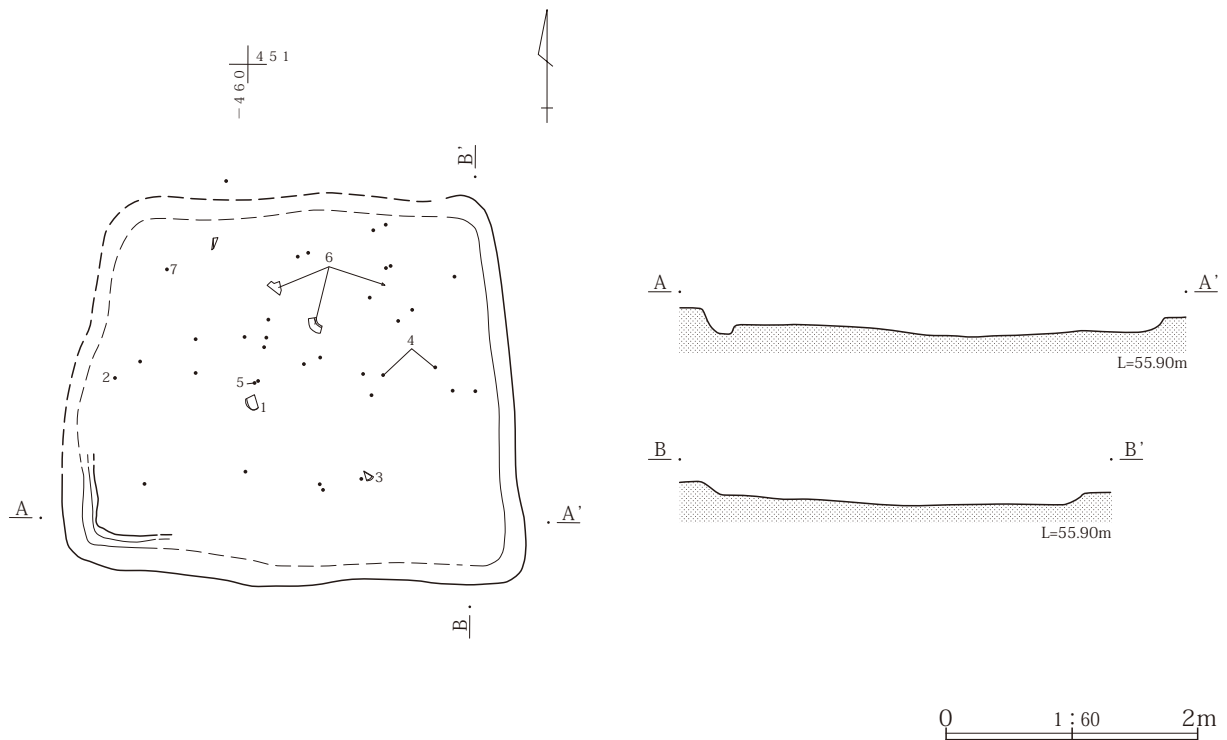
床面 確認面から最大18cm掘り込んで床面を構築する。東壁、西壁は地山のHr-FA泥流層を掘り込んでいるとの調査所見がある。床面は概ね平坦である。周溝 南西隅の壁際で一部確認した。幅10cm前後、深さ5cmである。

掘り方 床面の中央部分からピット状の掘り込み2基を検出した。西側が長径37cm、深さ7cm、東側が長径47cm、深さ33cmである。暗褐色土が堆積していた。

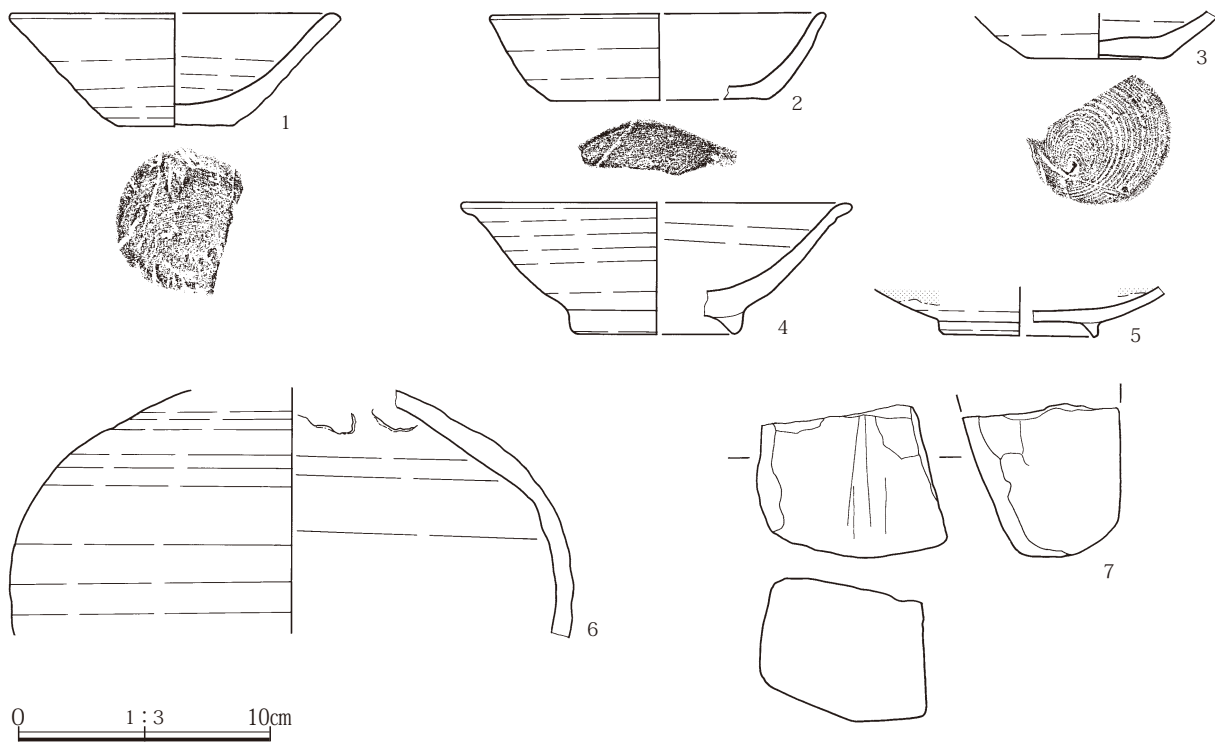
竈 出土遺物の特徴からは竈の付設が想定される時期であるが検出されなかった。

遺物 住居中央の床面直上から須恵器杯1が出土している。砥石7も北西隅寄りの床面近くからの出土である。

所見 竈が検出されなかった点が検討課題として残される。出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



第288図 4区9号住居



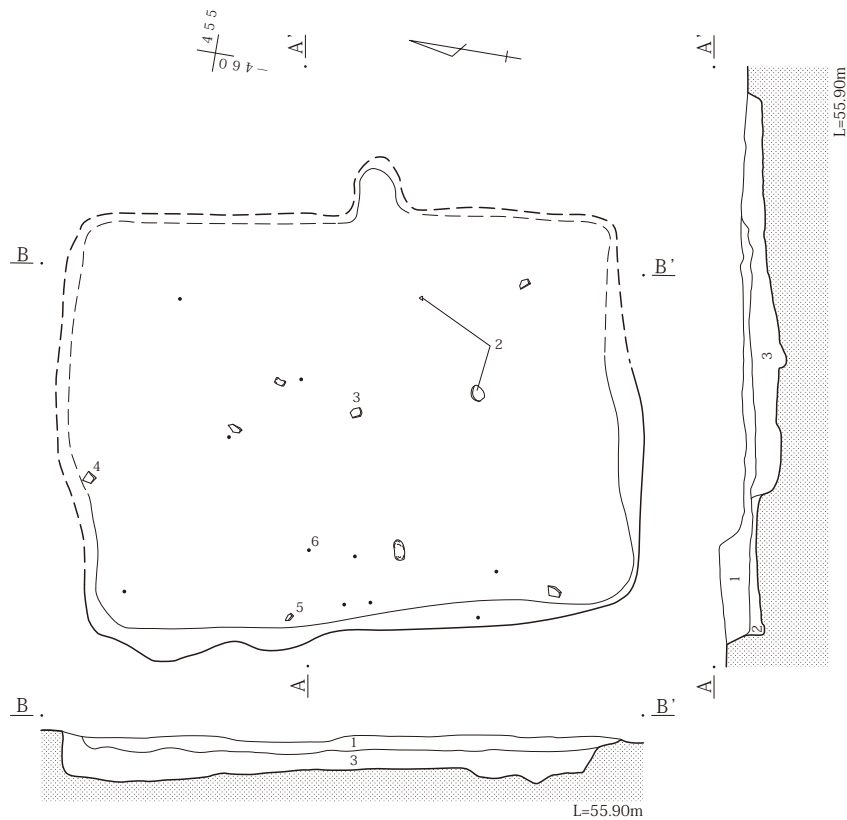
第289図 4区9号住居出土遺物 1-7

4区11号住居 (第290～293図、P L 33・121)

重複 12号住居に後出、10号住居に先出する。

位置 450、455-460

主軸方位 E-11°-N 面積 13.31㎡計測



住居

- 1 暗褐色土 白色軽石少量均一に混入。ロームブロック(径5～20mm)極少量含む。焼土粒・炭化物も少量混入。
- 2 暗褐色土 掘り方埋土。
- 3 暗褐色土 掘り方埋土。12住・13住埋没土。

第290図 4区11号住居

不能

形状 南北方向に長軸を有する横長の長方形を呈すると考えられる。西壁周辺の他は他住居と埋没土の識別が困難で、壁面の立ち上がりを検出することができなかった。規模は南北約4.45mを測った。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大26cm掘り込んで床面が構築されていた。概ね平坦であった。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。掘り方はピット状の掘り込みを検出したにとどまった。

周溝 掘り方精査時に西壁際で検出した。西南、

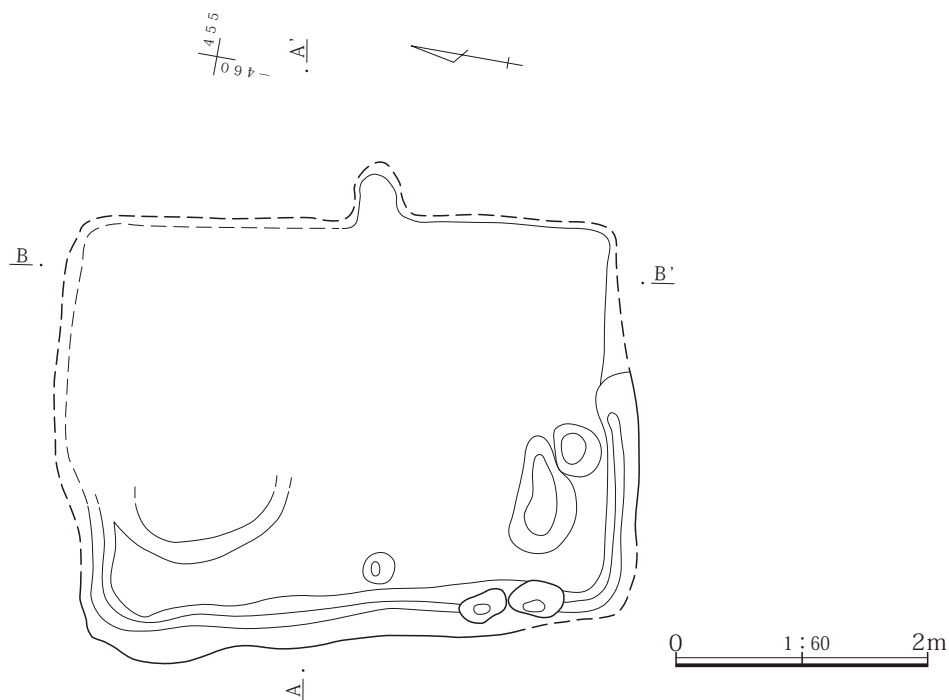
西北の両隅を越えて南壁、北壁際におよんでいた。幅は概ね10から20cmで、深さは3cmである。

竈 東壁の中央部分にその痕跡と考えられる部分が認められたが、詳細を把握するにはいたらなかった。

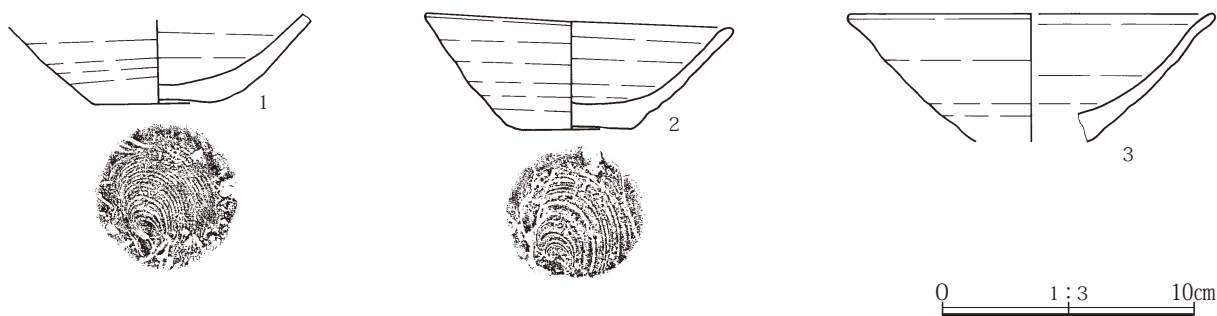
掘り方

遺物 出土遺物は少量であった。床面中央からやや南壁寄りの床面直上から須恵器杯2が出土している。埋没土中からは石製紡錘車6が出土している。

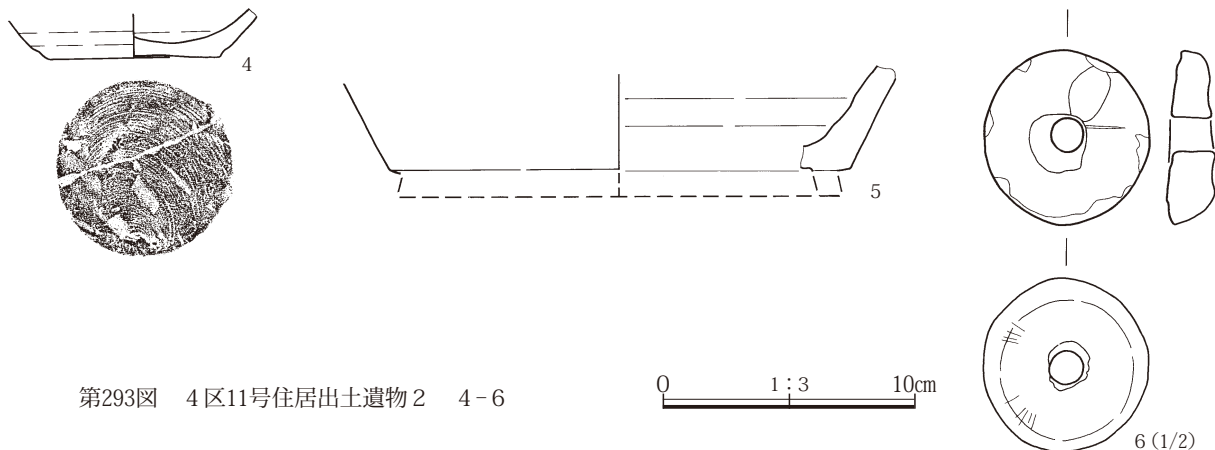
所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考えられる。



第291図 4区11号住居掘り方



第292図 4区11号住居出土遺物 1 1-3



第293図 4区11号住居出土遺物 2 4-6

4区12号住居 (第294～297図、P L 33・121)

位置 450、455-455、460

重複 13号住居に後出、11号住居に先出する。

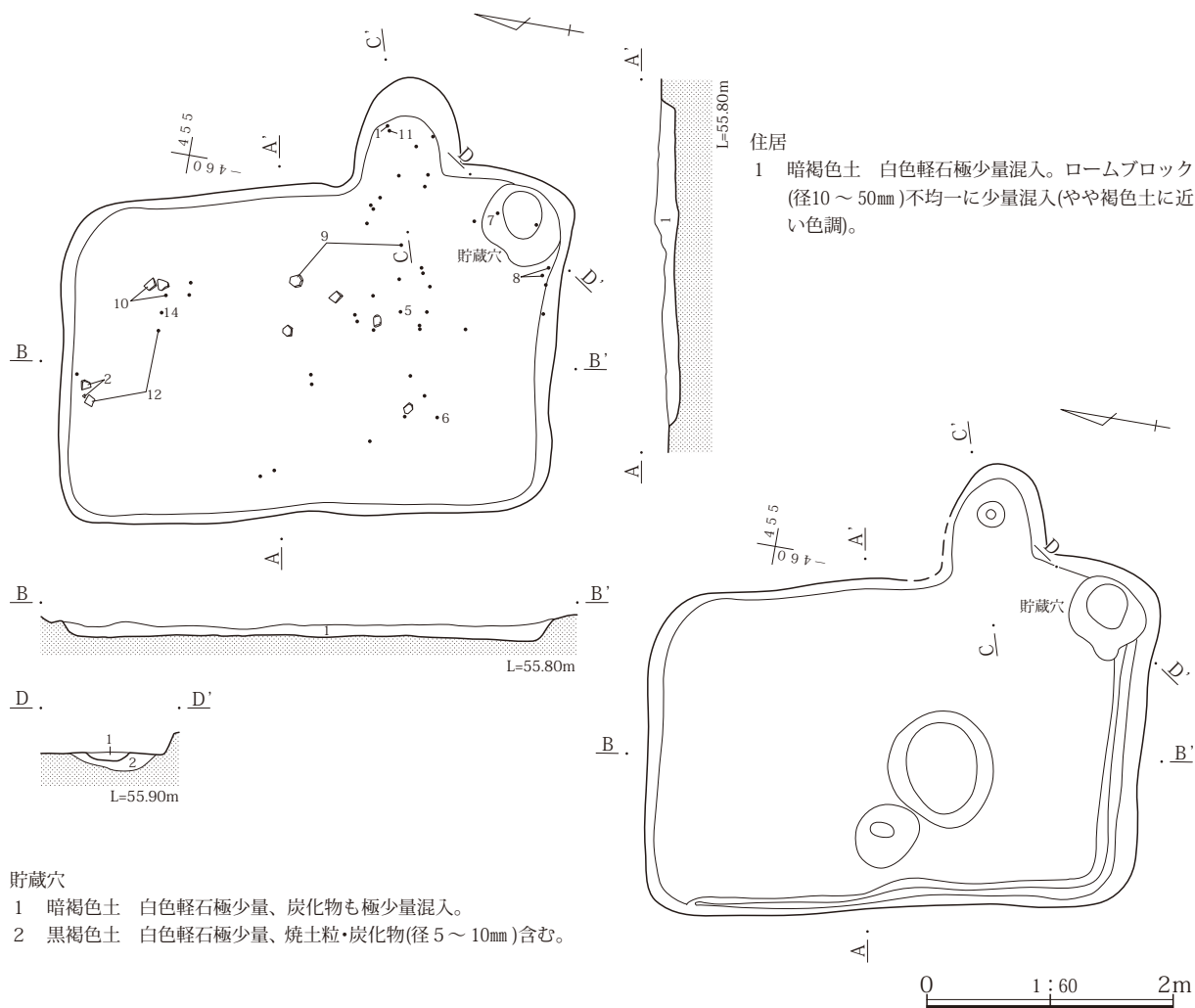
主軸方位 E-11°-N 面積 9.52㎡

形状 南北に長軸を有する横長の長形状を呈す

と考えられる。四隅は丸味をおびている。規模は南北4.11m、東西2.65mを測る。

埋没土 やや褐色土に近い色調をおびた暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大18cm掘り込んで床面が構築



住居
1 暗褐色土 白色軽石極少量混入。ロームブロック(径10～50mm)不均一に少量混入(やや褐色土に近い色調)。

貯蔵穴
1 暗褐色土 白色軽石極少量、炭化物も極少量混入。
2 黒褐色土 白色軽石極少量、焼土粒・炭化物(径5～10mm)含む。

第294図 4区12号住居

されていた。床面は概ね平坦であった。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

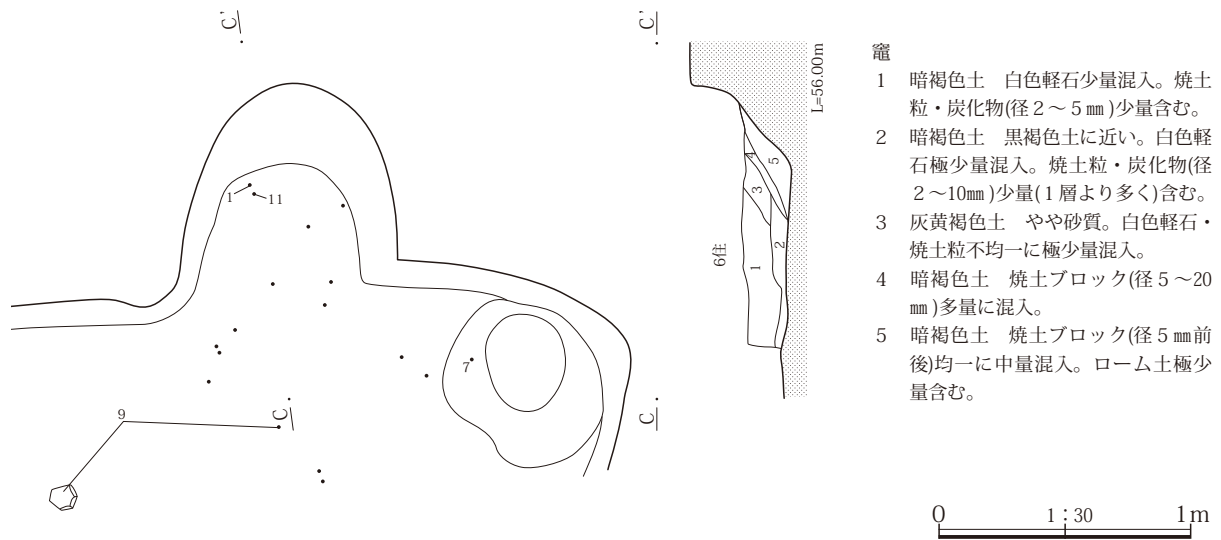
周溝 掘り方精査時に南壁・西壁際下から検出された。幅10から15cm、深さ3cm程であった。

竈 東壁の中央から南側寄りに位置していた。上層の住居との重複により基底部分の検出で終わった。燃烧部は住居の壁面を掘り込んで構築されていた。燃烧部は、残存長67cm、幅68cmと推定される。埋没土の下層には焼土ブロックの堆積が認められた。底面を精査したところ小ピットを検出した。支

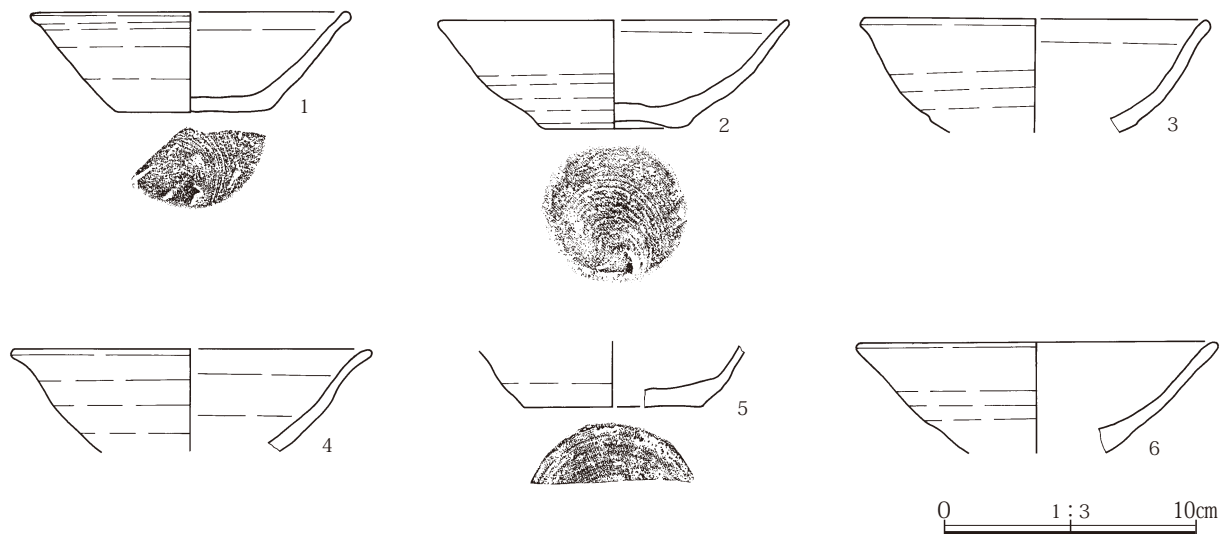
脚を抜き取った痕跡である可能性が考えられるが断定することはできなかった。

遺物 床面の南側を中心に遺物の出土が見られたが完形品は認められなかった。竈燃烧部内からは須恵器杯1・4、土師器台付甕の脚部11、鎌茎13が出土した。土師器甕10、須恵器大甕12は北東隅寄りの床面直上からの出土であるがいずれも破片である。近接して鉄製紡錘車の紡輪が出土している。

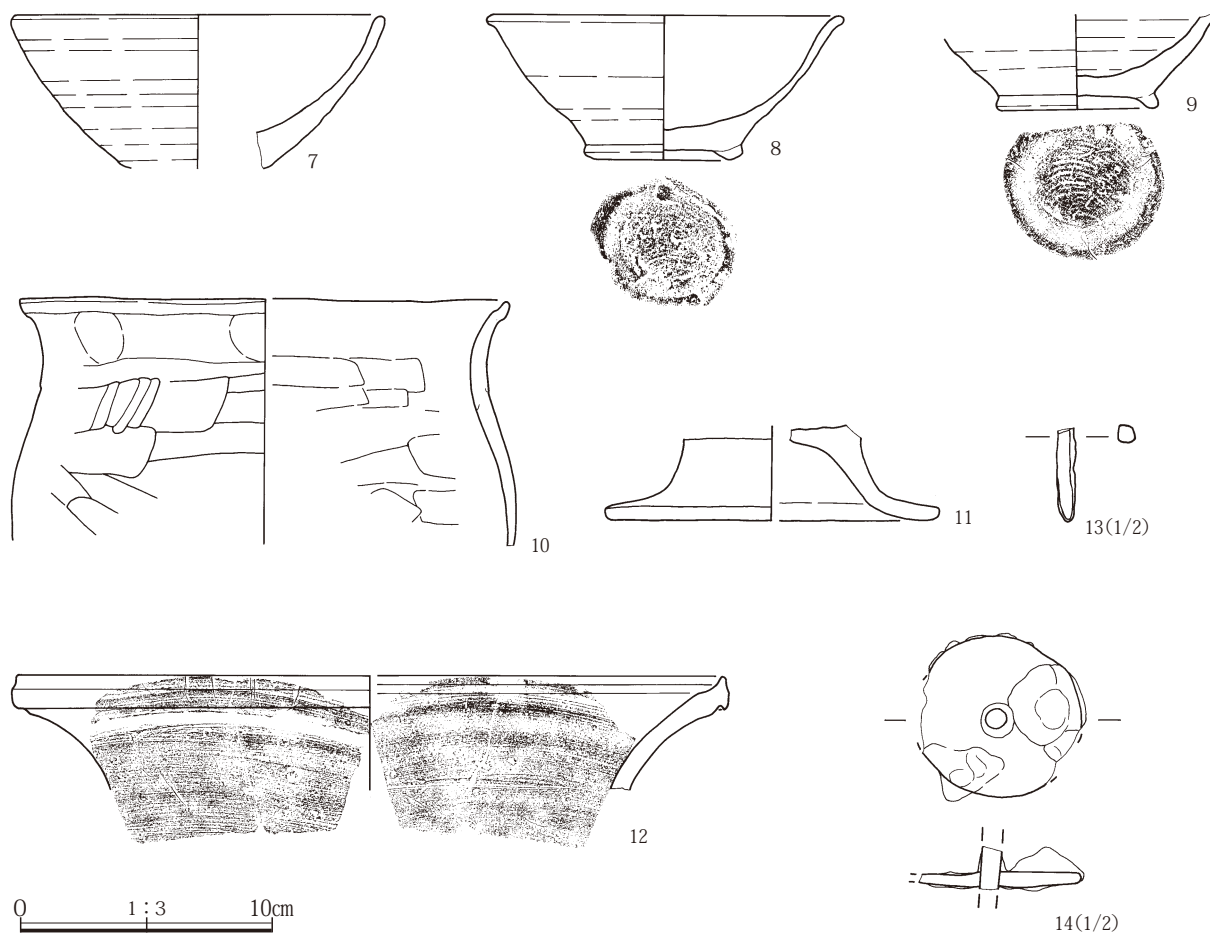
所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



第295図 4区12号住居カマド



第296図 4区12号住居出土遺物 1 1-6



第297図 4区12号住居出土遺物2 7-14

4区13号住居（第298・299図、P L 34・122）

位置 450、455-460

重複 12号住居に先出する。

主軸方位 E-3°-N 面積 9.69㎡

形状 南北に長軸を有する横長の長方形を呈する
と考えられる。上位の住居により削平を受けたため、
壁面の残存状況は不良であった。規模は、南北3.99
m、東西2.83mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大15cm掘り込んで床面が構築
されていた。西壁寄りでは南側の半分が幅40cm程、
他より4から8cm高く、段状を呈していた。柱穴は
検出されなかった。

周溝 南壁を除いた三方の壁際下で検出した。幅

は15cm前後、深さ3から5cmである。

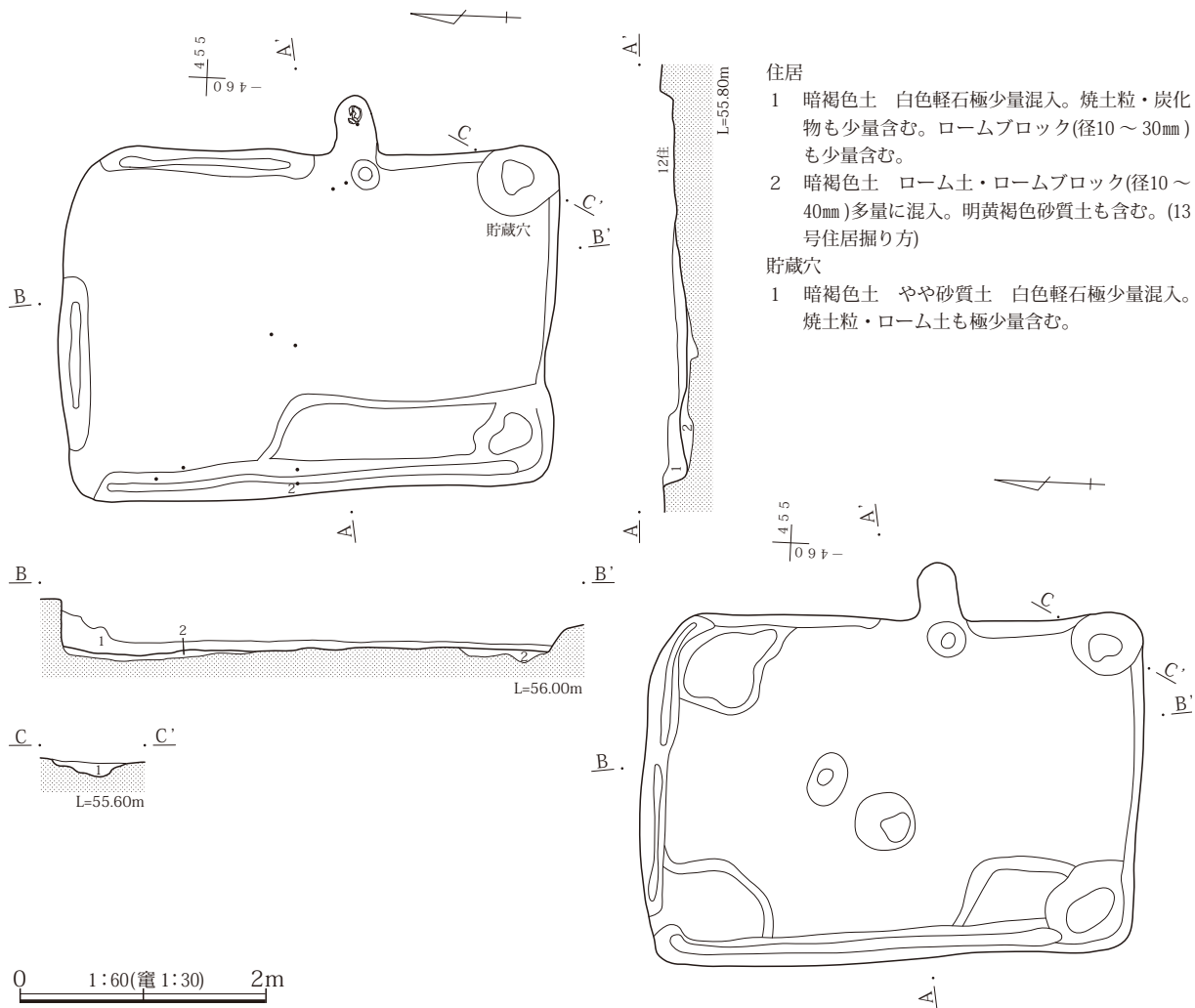
竈 調査時の所見では、東壁の中央に付設されて
いたと考えられた。検出された燃焼部は削平を受け
たためか掘り込みの幅が狭いものであった。土師器
甕の破片が出土したが資料するに足らなかった。

貯蔵穴 南東隅に位置していた。不整形で、長径
58cm、深さ18cmを測る。が堆積していた。

掘り方 四隅が土坑状に低くなる他、全体的に床面
から下っていた。暗褐色土が堆積していた。

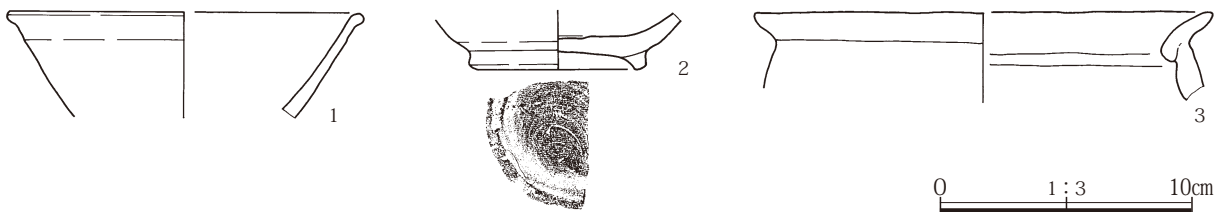
遺物 出土遺物は少量であった。土師器甕は貯蔵
穴埋没土中からの出土である。

所見 出土遺物の特徴から10世紀前半の所産と考
えられる。



- 住居
- 1 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土粒・炭化物も少量含む。ロームブロック(径10～30mm)も少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径10～40mm)多量に混入。明黄褐色砂質土も含む。(13号住居掘り方)
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土 やや砂質土 白色軽石極少量混入。焼土粒・ローム土も極少量含む。

第298図 4区13号住居



第299図 4区13号住居出土遺物 1-3

4区14号住居 (第300～302図、P L 34・122)

位置 465-470、475

重複 15号住居に後出する。

主軸方位 不明 面積 計測不能

形状 北側の大部分が調査区外のため全体の構造は不明である。検出された2隅が直角をなさないものの方形状を呈すると考えられる。規模は、東西3.60m、南北の残存長2.80mを測る。

埋没土 最上層に黒褐色土、それ以下に暗褐色土が堆積していた。暗褐色土中には焼土、炭化物が多く含まれ、部分的にブロック状に混入する。

床面 確認面から最大35cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。灰白色粘質土ブロックを含む暗褐色土で貼り床を施している痕跡が確認された。周溝は検出されなかった。

竈 調査範囲では検出されなかった。貯蔵穴との

位置関係から東壁に付設されていた可能性が考えられる。

貯蔵穴 南東角からやや南寄りで検出された。不整形円形状を呈し、長径58cm、深さ9cmを測る。暗褐色土が堆積、須恵器杯3や土師器甕12などの土器も出土している。

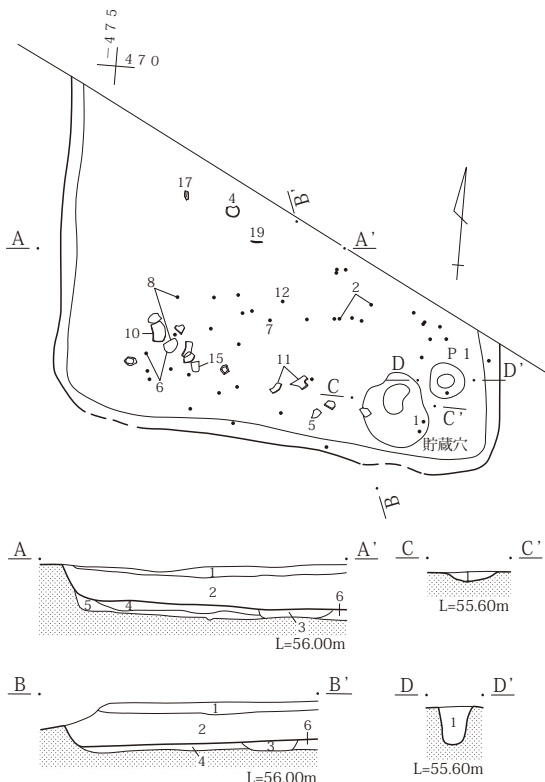
柱 穴 貯蔵穴の北西側で1基が検出された。径28cm、深さ31cmを測る。暗褐色土が堆積していた。

掘り方 床面から掘り方底面までの深さは10cm程で

ある。床下土坑は見られなかった。

遺物 まとまった数の遺物が出土したがいずれも破片で、5から10cm程度床面から離れた状態のものが多かった。南西隅寄りからは須恵器碗6・8などともに須恵器甕16の底部破片が出土している。埋没土中から土錘17・18、刀子20などが出土している。

所見 15号住居との重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



住居

- 1 黒褐色土 白色軽石(径1~5mm)少量混入。焼土粒・炭化物極少量混入。やや砂質土。
- 2 暗褐色土 白色軽石(径1~5mm)1層より多く混入。焼土粒・炭化物も1層より多く部分的にブロック状に混入。
- 3 暗褐色土 焼土粒極少量混入。ロームブロックも含む。(掘り方)
- 4 暗褐色土 白色軽石不均一に混入。灰白色粘質土ブロック(径10~30mm)不均一に含む。(掘り方)
- 5 灰黄褐色土 白色軽石極少量混入。黄褐色砂質土も含む。(掘り方)
- 6 黒褐色土 粘質土。白色軽石・焼土粒極少量混入。(掘り方)

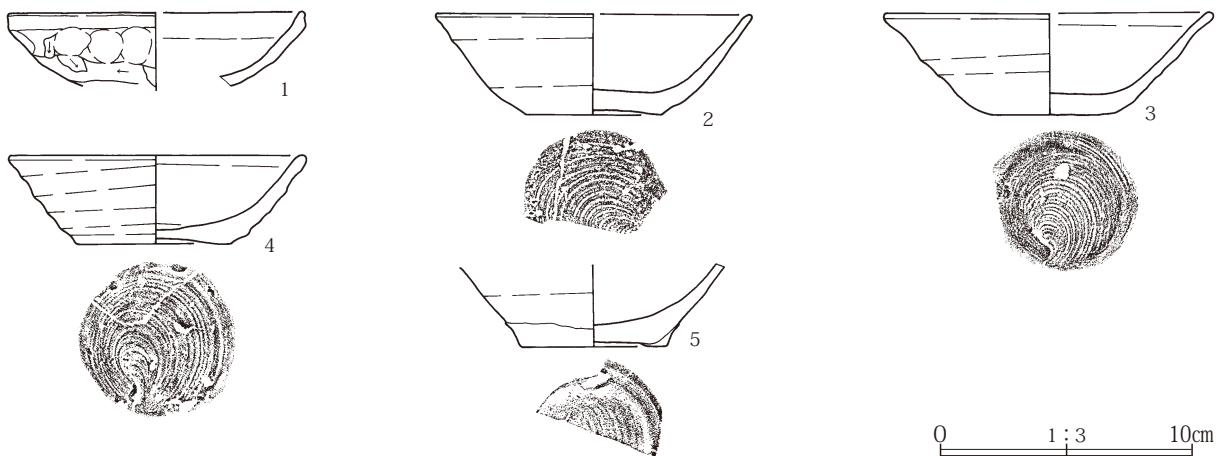
貯蔵穴

- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(FA)(径2mm)少量混入。炭化物(径5~10mm)を均一に10%混入。土器片数点出土。

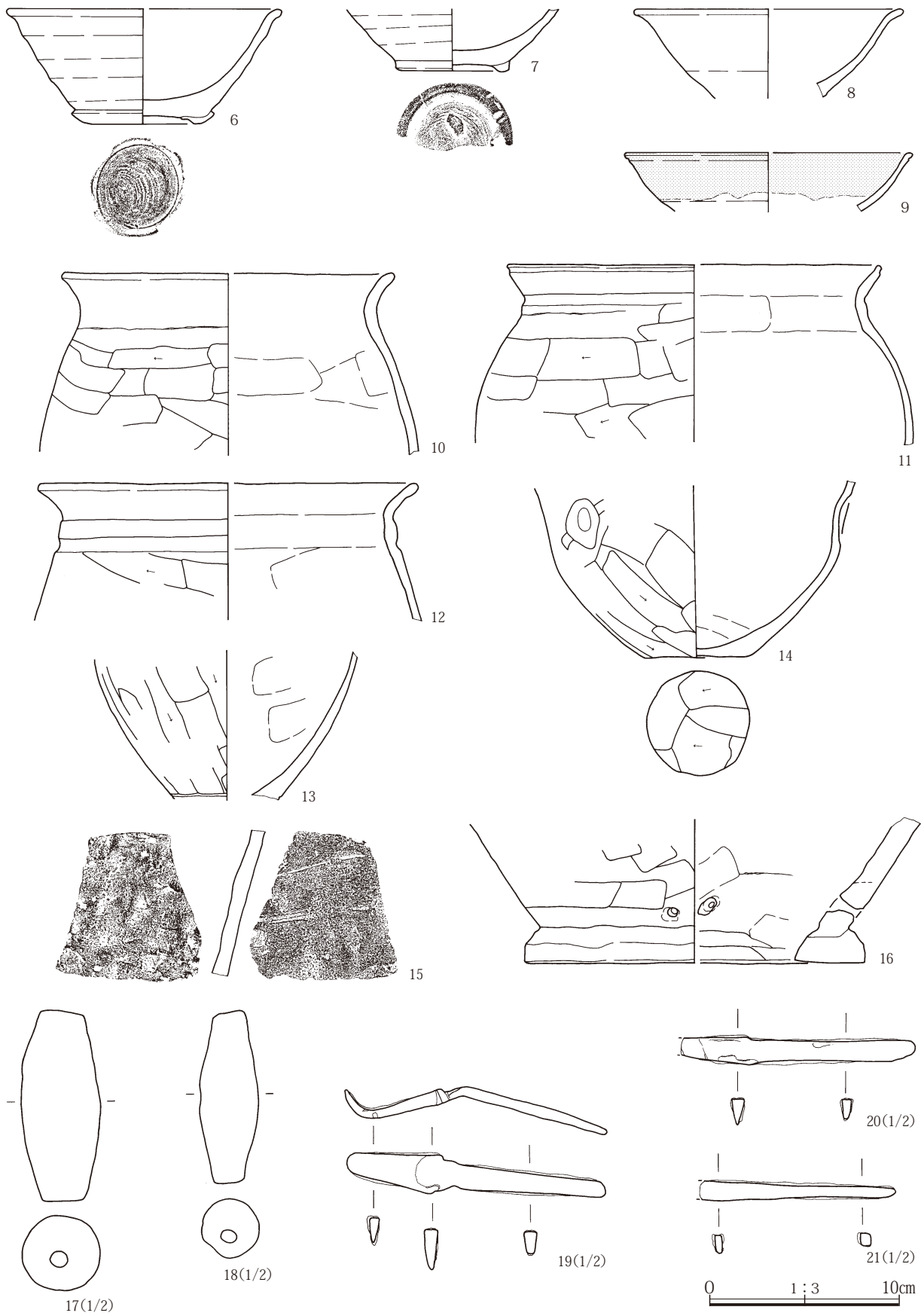
1号ピット

- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(FA)(径2mm)を均一に10%混入。焼土粒(径2mm)を均一に10%混入。炭化物(径2mm)を均一に10%混入。

第300図 4区14号住居



第301図 4区14号住居出土遺物 1 1-5



第302图 4区14号住居出土遺物 2 6-21

4区15号住居 (第303～305図、P L 34・122)

位置 465-465、470

重複 14号住居に前出する。

主軸方位 不明 面積 計測不能

形状 北側の大部分が調査区外のため全体の構造は不明であるが、ほぼ南北あるいは東西に主軸をもつ方形を呈する。南西隅は丸みをおびている。規模は東西5.10m、南北の残存長2.63mを測る。

埋没土 最上層に黒褐色土、それ以下に暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大34cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貼り床は認められなかった。柱穴、周溝は検出されなかった。

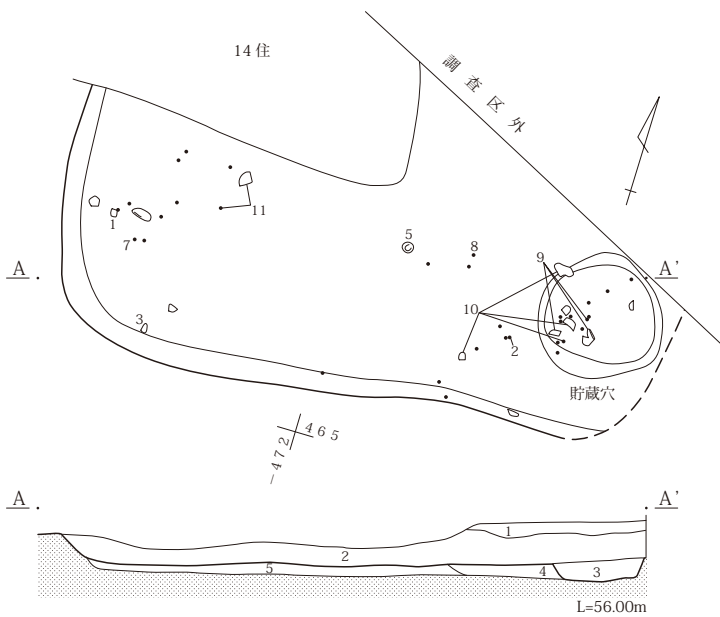
竈 調査範囲では検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅で検出された。円形状を呈し、径103cm、深さ22cmを測る。暗褐色土が堆積していた。土師器甕9・10が出土している。

掘り方 床面から掘り方底面までの深さは6から10cm程で床下土坑は見られなかった。暗褐色土が堆積していた。

遺物 貯蔵穴以外からの遺物の出土は少量であった。貯蔵穴から床面中央に寄った位置からは須恵器椀5が、南西隅寄りからは須恵器椀7、鉢11が、床面直上からの出土である。土錘12は埋没土中からの出土である。

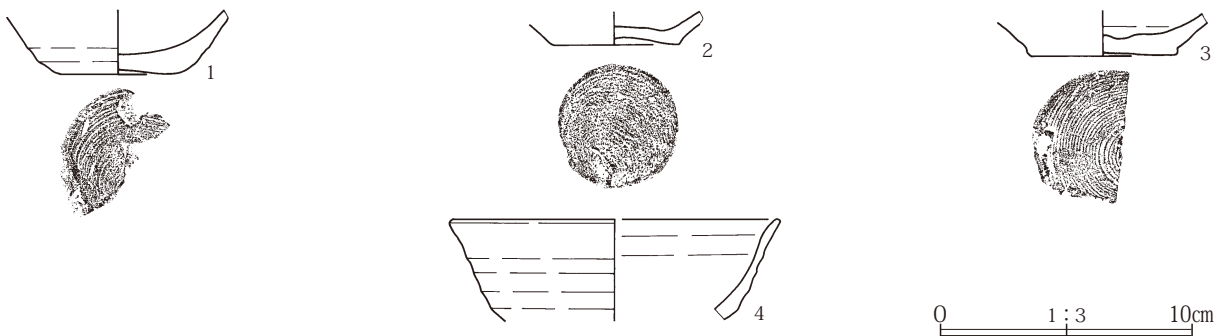
所見 14号住居との重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第3四半期の所産と考えられる。



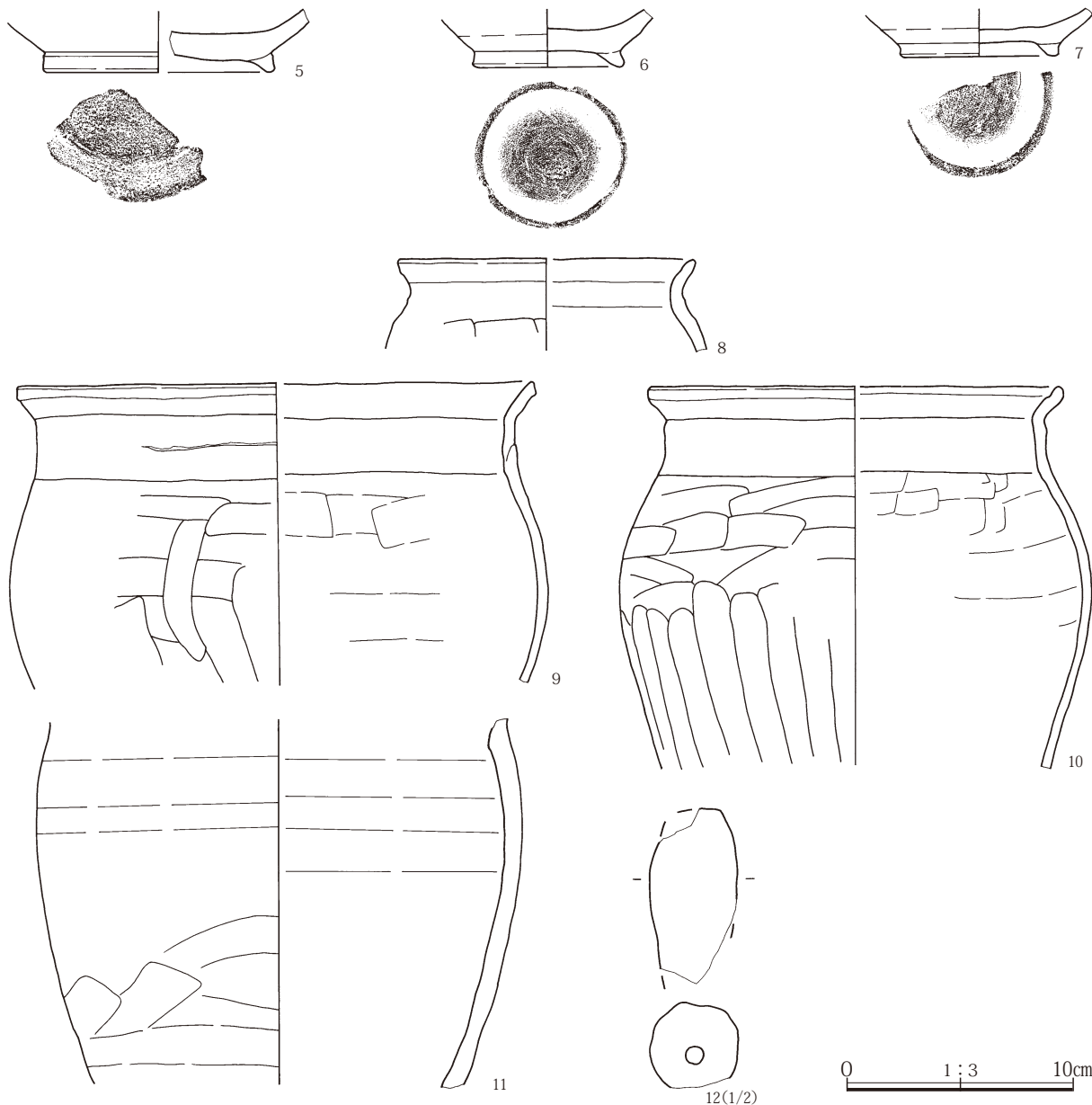
住居

- 1 黒褐色土 やや砂質土。白色軽石(径1～5mm)少量混入。焼土粒・炭化物極少量混入。
- 2 暗褐色土 やや砂質土。灰黄褐色土にやや近い。白色軽石(径1～10mm)不均一に混入。焼土粒・炭化物(径5mm前後)少量含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石混入。焼土粒・焼土ブロック(径10mm前後)少量、灰白色粘質土ブロック(径10～20mm)含む。(貯蔵穴)
- 4 暗褐色土 白色軽石均一に少量混入。焼土粒・炭化物(径5mm前後)少量含む。(掘り方)
- 5 暗褐色土 粘質土。白色軽石不均一に混入。炭化物(径5mm前後)極少量含む。灰白色粘質土ブロック(径10～50mm)不均一に含む。(掘り方)

第303図 4区15号住居



第304図 4区15号住居出土遺物 1 1-4



第305図 4区15号住居出土遺物 2 5-12

4区16号住居 (第306図、P L 35)

位置 440-460

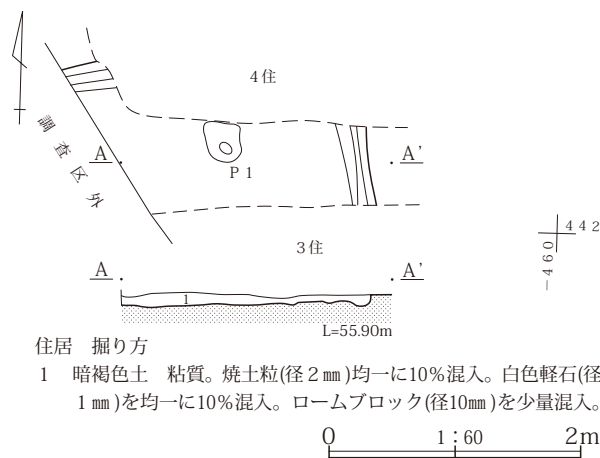
重複 3号、4号住居に前出する。

主軸方位 面積 計測不能

形状 南側の大部分を3号住居により削平を受けている。さらに西側部分が調査区外のため全体の構造は不明である。北壁及び東壁の一部が残るのみである。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大10cm掘り込んで床面を構築する。貯蔵穴は検出されなかった。



住居 掘り方

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。ロームブロック(径10mm)を少量混入。

第306図 4区16号住居

周溝 検出された。幅20cm、深さ3cmほどを測る。
 竈 調査範囲では検出されなかった。

柱穴 1基が検出された。長径32cm、深さ29cmを測る。

遺物 出土遺物は見られなかった。

所見 遺構の重複関係から10世紀前半の所産と考えられる。

4区18号住居 (第307～309図、P L 35・122)

位置 460-460、465

重複 19号、20号住居に後出する。

主軸方位 E-1°-S 面積 8.22㎡

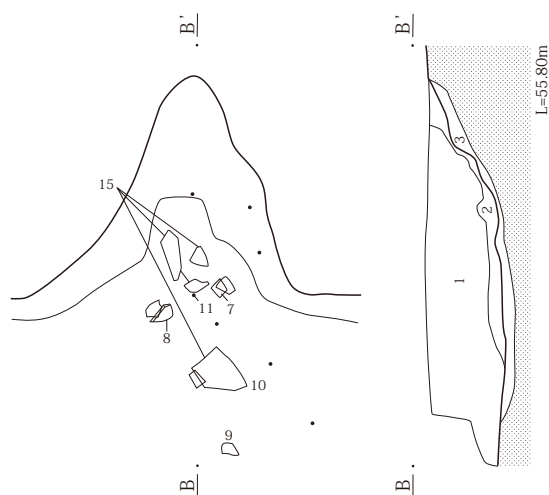
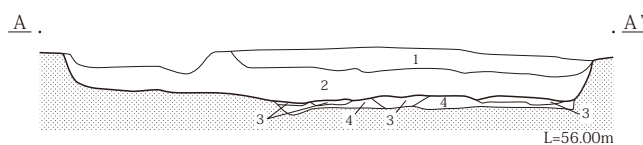
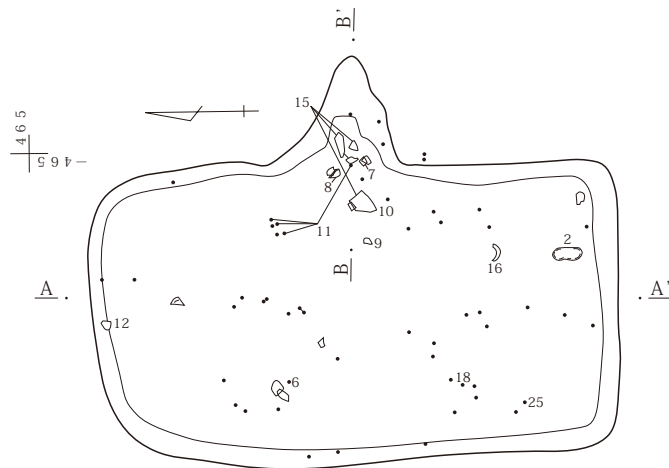
形状 南北方向に長軸を有する縦長の長方形を呈する。南側の2隅は直角を意識しているのに対し、北側の2隅は丸みをおびている。規模は南北4.22m、東西2.45mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大37cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁のほぼ中央で検出された。燃烧部は住居内から一部住居の壁面を掘り込んで構築されている。奥壁は強い傾斜で立ち上がり、煙道部へと移行している。規模は、確認長90cm、燃烧部長60cm、燃烧部幅82cm、煙道部の残長30cmを測る。燃烧部の最終使用面には灰が堆積していたが、使用時に手入れがなされていたためか掘り方底面までの堆積土は薄い。

遺物 出土遺物は住居全体から見られたが、破片の状態のものが多く、床面直上からの出土で完形品であったものはほとんどなかった。竈燃烧部内から焚き口部周辺からは須恵器碗7・8・10・11が出土している。北壁際からは灰釉陶器12の底部が、竈の右側、南壁寄りからは土師器甕16の大型破片が出土しており、これらが床面直上からの出土である。埋没土中からは羽釜17、土錘18から21の4点、砥石24、瓦22の小片、鉄釘23・25が出土している。



住居

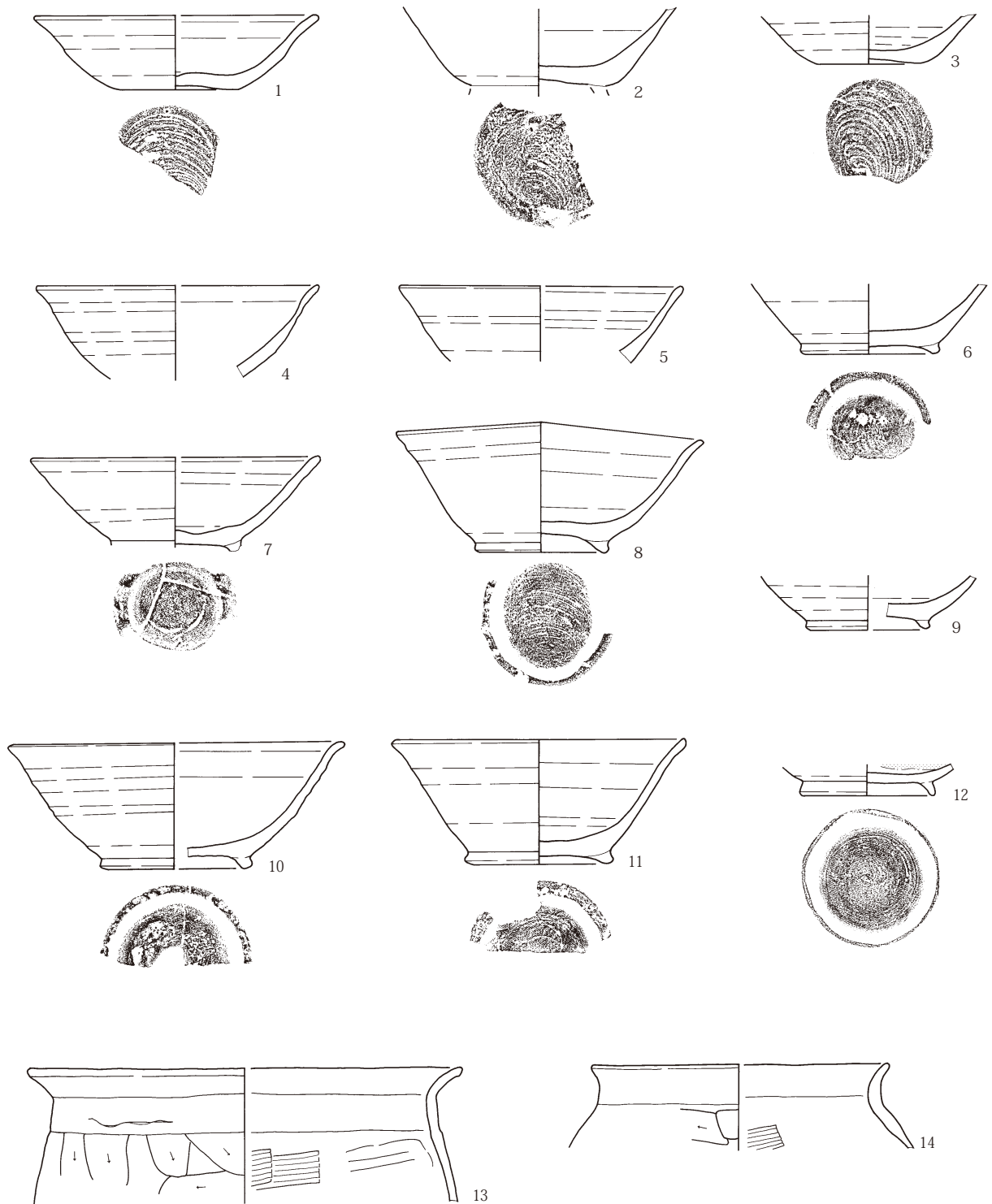
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石多量に均一に混入。焼土粒・焼土ブロック(径2～10mm)均一に含む。炭化物(径2～5mm)も均一に少量含む。
- 2 暗褐色土 粘質。白色軽石多量に不均一に混入。焼土粒・焼土ブロック(径5～20mm)少量不均一に含む。炭化物(径2～20mm)も含む。
- 3 暗褐色土 粘質。白色軽石不均一に少量混入。灰白色粘質土ブロック(径10～20mm)多量に含む。(掘り方)
- 4 灰黄褐色土 粘質。黄褐色土少量混入。(掘り方)

竈

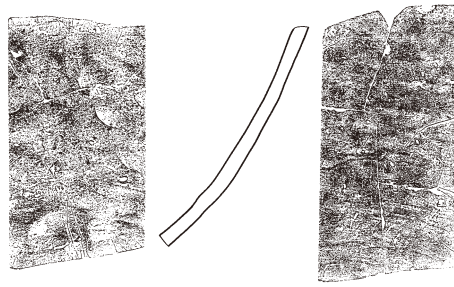
- 1 暗褐色土 白色軽石均一に混入。焼土粒(径5mm前後)少量含む。炭化物(径5mm前後)極少量含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土粒・炭化物(径3～5mm)・灰多量に含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土粒・焼土ブロック(径2mm前後)含む。

0 1:60(竈 1:30) 2m

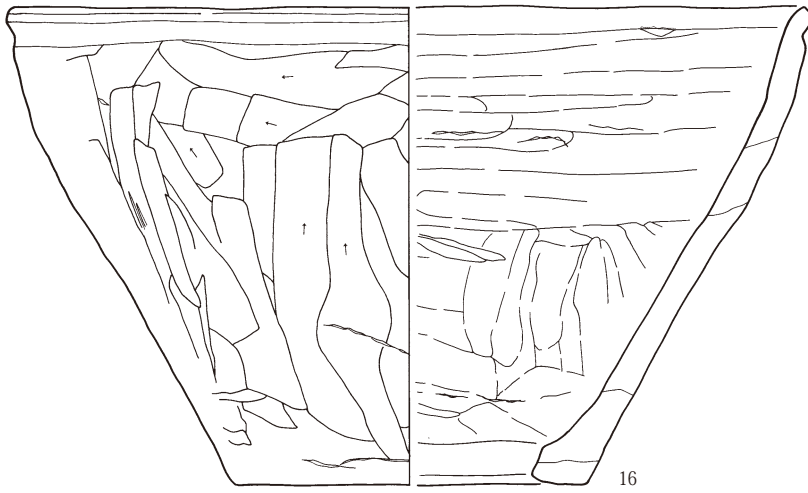
第307図 4区18号住居



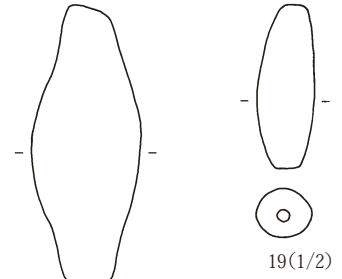
第308図 4区18号住居出土遺物 1 1-14



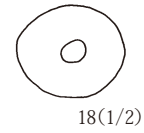
15(1/6)



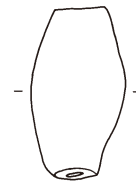
16



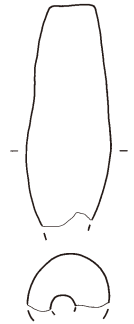
19(1/2)



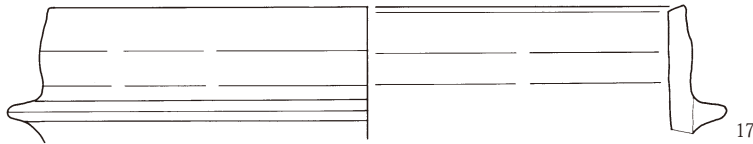
18(1/2)



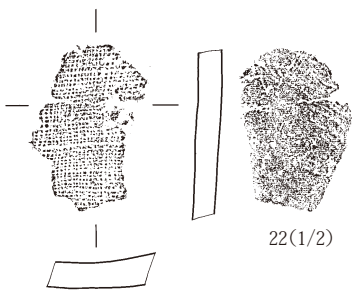
20(1/2)



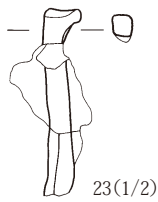
21(1/2)



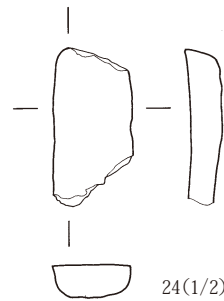
17



22(1/2)



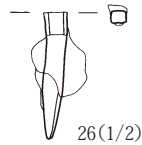
23(1/2)



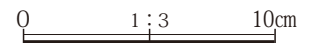
24(1/2)



25(1/2)



26(1/2)



第309图 4区18号住居出土遺物2 15-26

4区19号住居（第310・311図、P L 35・123）

位置 460-460、465

重複 20号住居に後出、18号住居に前出する。

主軸方位 E-1°-S 面積 7.29㎡

形状 東西方向に長軸を有する縦長の長方形を呈する。東壁は竈の左側でやや形状が乱れているが他の三辺は精美に形状である。規模は東西3.47m、南北2.58mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大45cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴は検出されなかった。

竈 東壁の中央からやや南側寄りで検出された。上層の遺構確認作業の影響を受けたため、上端の確認が困難であった。規模は、確認長94cm、燃烧部幅35cmを測る。

貯蔵穴 南東隅、竈右側で検出された。楕円形状を呈し、長径65cm、短径55cm、深さ20cmを測る。暗褐色土が堆積していた。埋没土の上層から須恵器杯3・

蓋8が出土している。

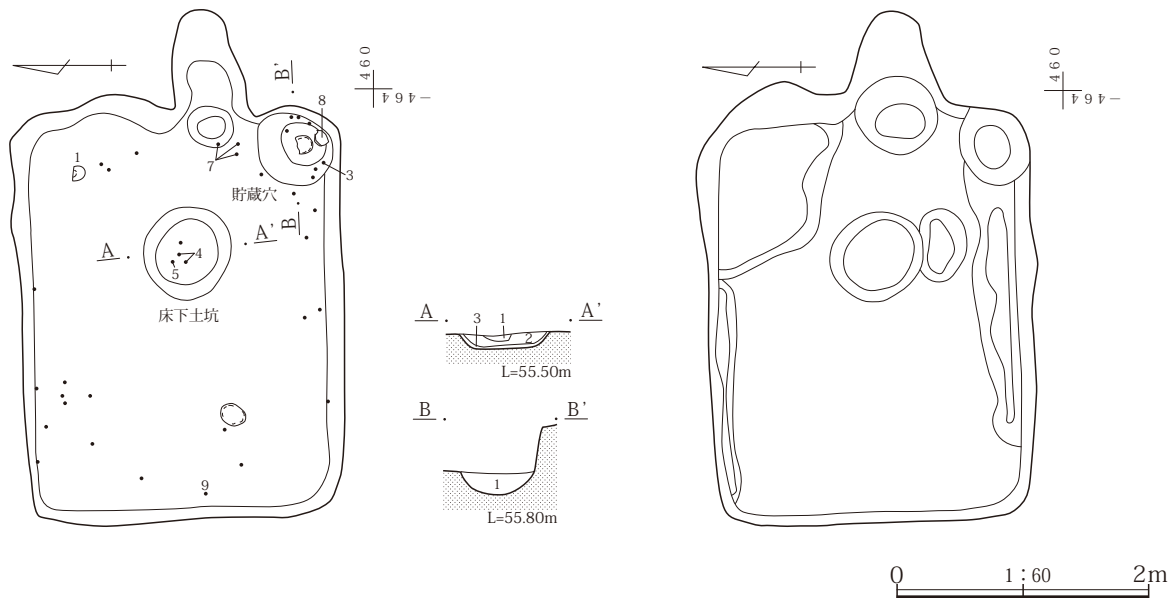
周溝 掘り方精査の段階で北壁西側部分と南壁中央部分の壁際に溝状の落ち込みを検出した。断定はできないがその可能性を考えたい。

床下土坑 住居中央やや東寄り、竈手前で1基検出された。楕円形状を呈し、長径75cm、短径68cm、深さ10cmで、底面に1cmほどの厚さでロームを全面に貼っていた。

掘り方 床面から掘り方底面までの深さは10cm弱であった。北東隅は不整形な土坑状に下がっていた。暗褐色土と灰黄褐色土が大ブロック状に堆積していた。

遺物 北東隅の床面直上から須恵器杯1が出土している。西壁際の埋没土中から砥石9が出土している。

所見 調査時に17号住居として調査を行った遺構とほぼ重複する関係にあることから同一遺構である可能性が高いと考えた。出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



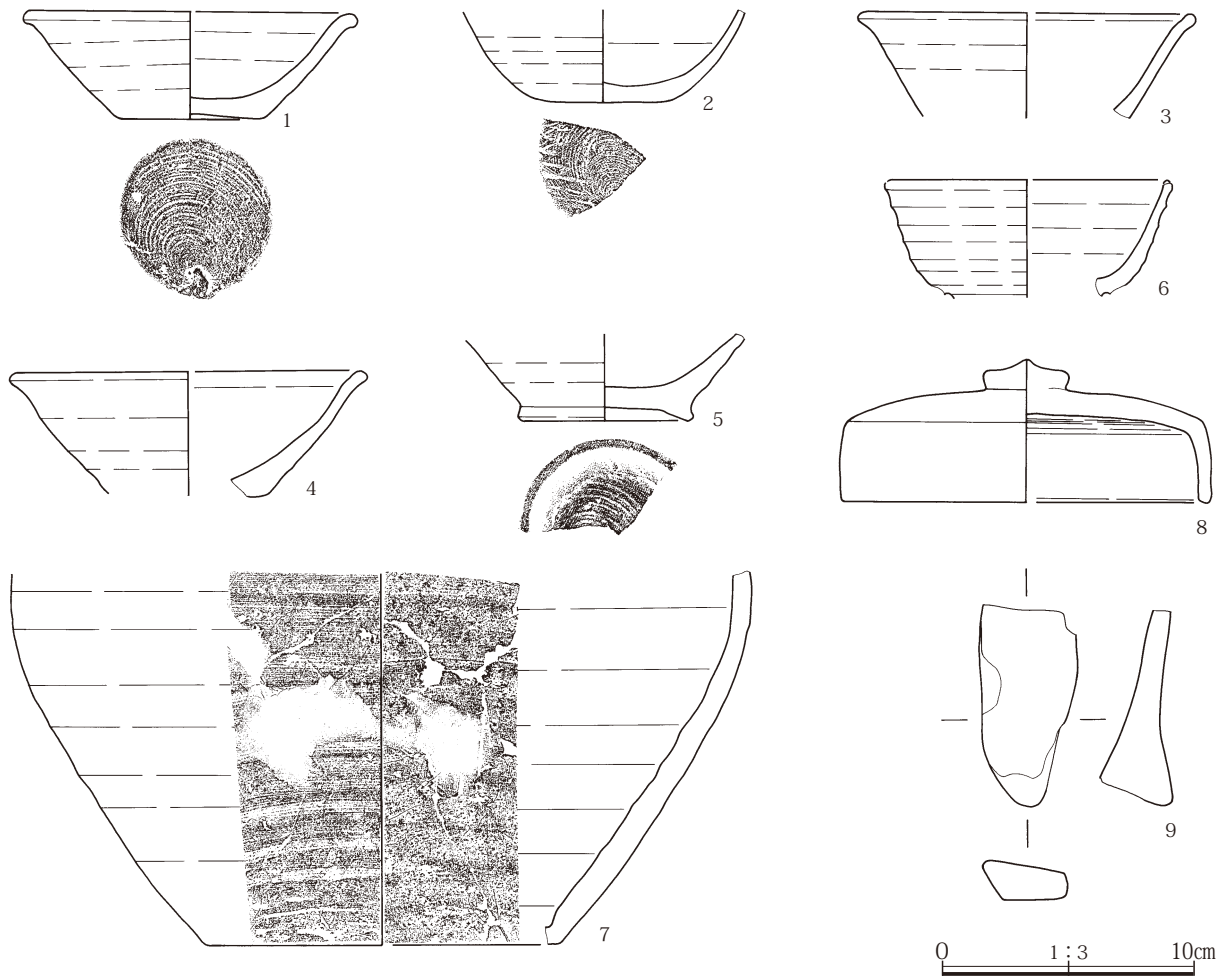
床下土坑

- 1 暗褐色土 炭化物(径5mm前後)焼土粒混入。
- 2 灰黄褐色土 粘質。焼土粒・ローム土少量混入。
- 3 黄褐色土 ローム貼り床。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 白色軽石少量混入。炭化物(径5～10mm)・焼土ブロック(径5～20mm)含む。ローム土も含む。

第310図 4区19号住居



第311図 4区19号住居出土遺物 1-9

4区20号住居 (第312・313図、P L 36・123)

位置 460-465

重複 18号、19号住居に前出する。

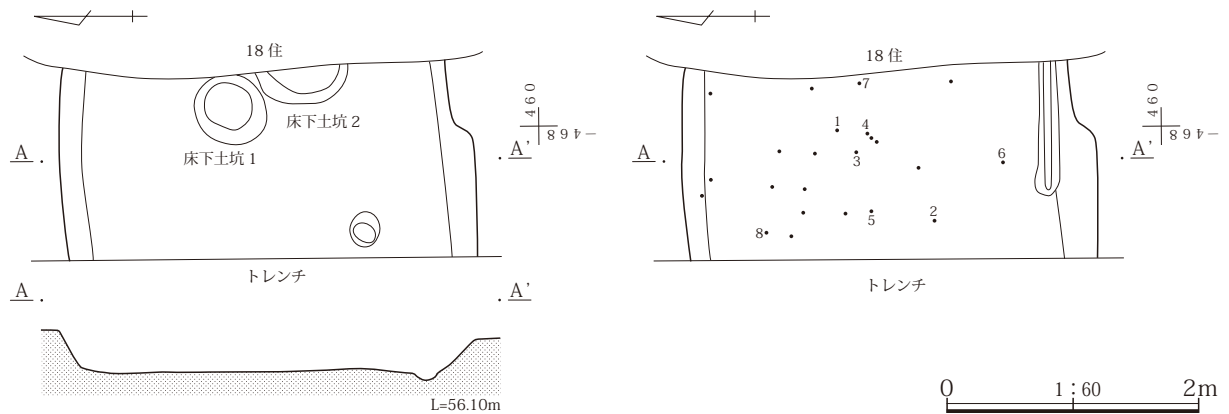
主軸方位 面積 計測不能

形状 東側を18号住居に切られ、西側をトレンチによって壊されているため全体の構造は不明だが、

南北あるいは東西に主軸をもつ方形状を呈すと考えられる。南北長は3.18mを測る。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大34cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。



第312図 4区20号住居

周溝 南壁の一部で検出された。幅15cm、深さ5cmほどを測る。

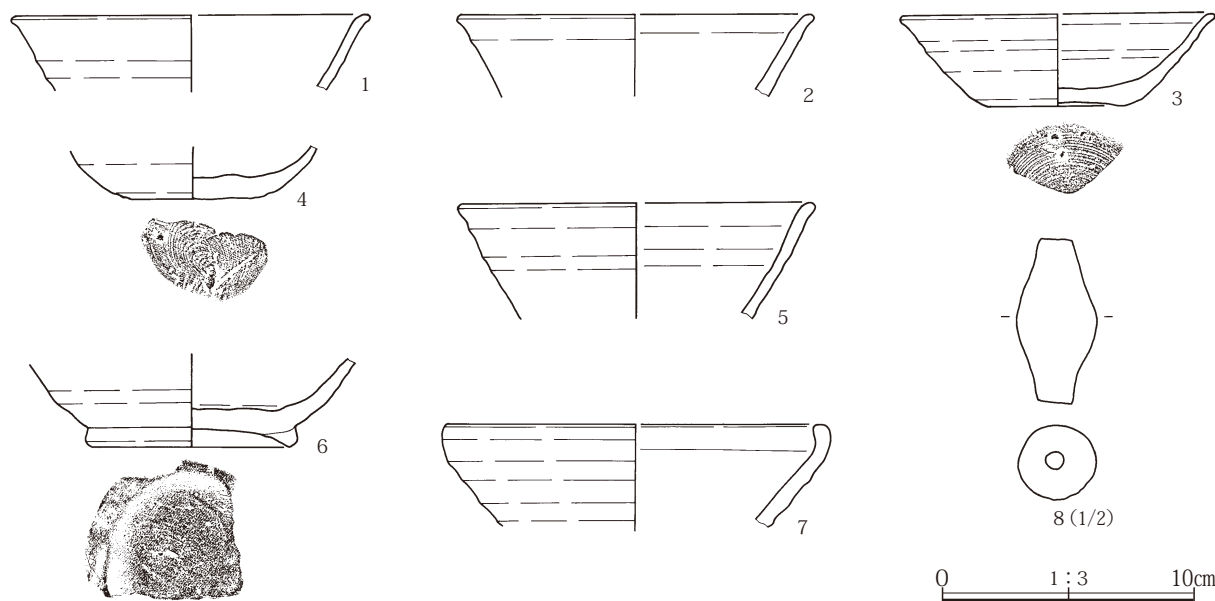
竈 検出されなかった。

掘り方 18号住居寄りで床下土坑を2基検出した。床下土坑1は長円形で、長径60cm、深さ21cmである。床下土坑2は2分の1程の検出で、長径78cm以上か、

深さ18cmを測った。

遺物 出土遺物は少量で、破片の状態になっていた。土錘8が床面直上からの他は埋没土中からの出土である。

所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第4半期の所産と考えられる。



第313図 4区20号住居出土遺物 1-8

4区22号住居 (第314・315図、P L 36・123)

位置 445-445

主軸方位 E-12°-N 面積 計測不能

形状 西側部分が調査区域外におよぶため全体の構造については把握できなかった。東西方向に長軸を有する長方形を呈していた可能性が考えられる。検出した各辺、東側の2隅の形状は精美である。規模は南北2.25m、東西の残長1.80mである。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大29cm掘り込んで床面が構築されていた。柱穴は検出されなかった。床面下は掘り方底面までが約10cmの深さであったが土坑状の掘り込みなどは見られなかった。

周溝 掘り方精査時に北壁、南壁の壁際下から周溝状の掘り込みが検出された。北側は幅20から25cm、深さ5cm以下であるが、南側は幅40cm、深さ6cmであることから掘り方の一部である可能性も考えられ

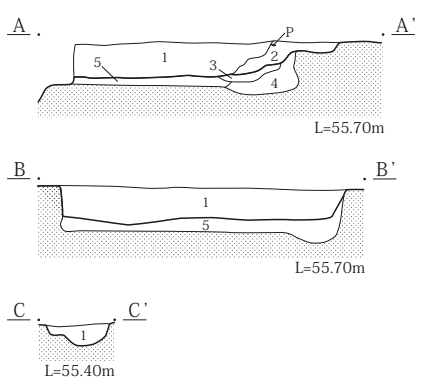
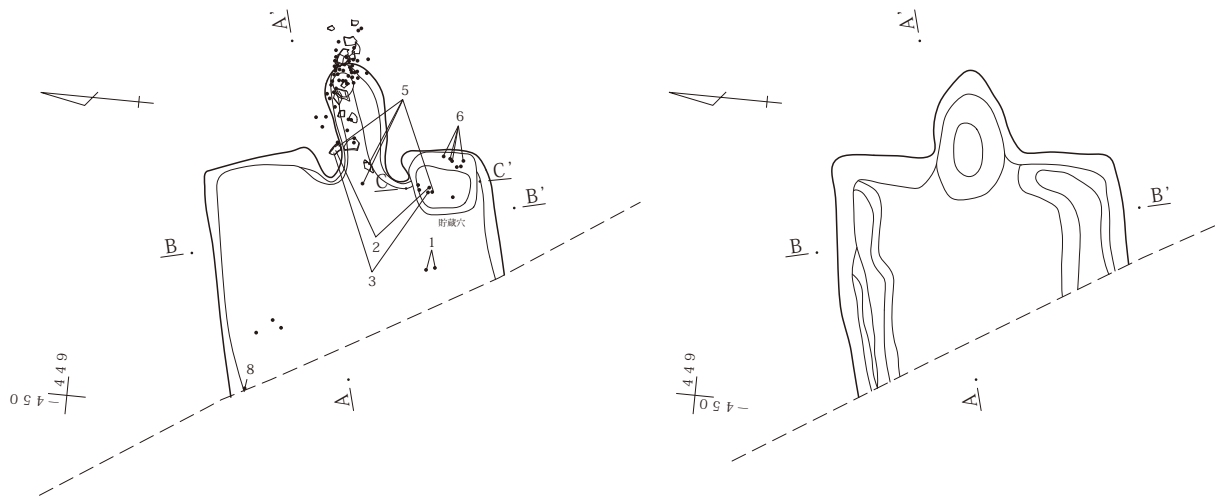
る。

竈 東壁の中央からわずかに南側に寄った位置に付設されていた。燃烧部は住居の壁面を掘り込み、壁外に構築されていた。奥側は斜めに立ち上がり煙道部へと移行していたと考えられる。燃烧部の基部にはロームブロックを含む暗黄褐色土を貼って造られた左右の袖部が一部検出された。確認長95cm、燃烧部幅38cmを測る。

貯蔵穴 床面精査時に竈の右側、南東隅で検出した。原形は平面円形であった可能性も考えられるが、検出時は隅丸四角形をていしていた。東西の幅50cm、深さ15cmであった。暗褐色土が堆積していた。

遺物 竈の周辺から土師器甕3~5・7が出土しているがいずれも完形品ではない。貯蔵穴から出土した土師器甕6と須恵器碗2は竈内から出土した破片と接合した。北壁際の床面直上からは石製紡錘車8が出土している。

所見 出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。

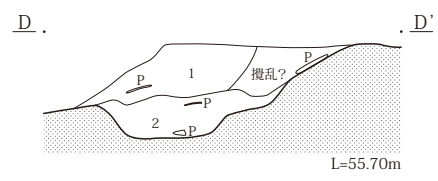
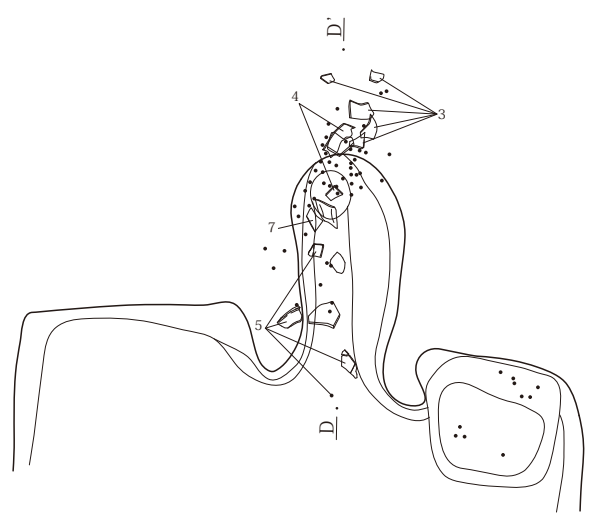


住居

- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~5mm)を均一に15%混入。焼土粒(径3mm)を均一に5%混入。炭化物(径5mm)を均一に5%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。
- 3 暗黄褐色土 粘質。ロームブロック(径30mm)を混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 4 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径1~10mm)を均一に20%混入。炭化物(径2~5mm)を均一に10%混入。
- 5 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を少量混入。焼土粒(径5mm)を少量混入。炭化物(径2mm)を少量混入。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)少量混入。炭化物(径5~10mm)少量混入。土器片少量出土。

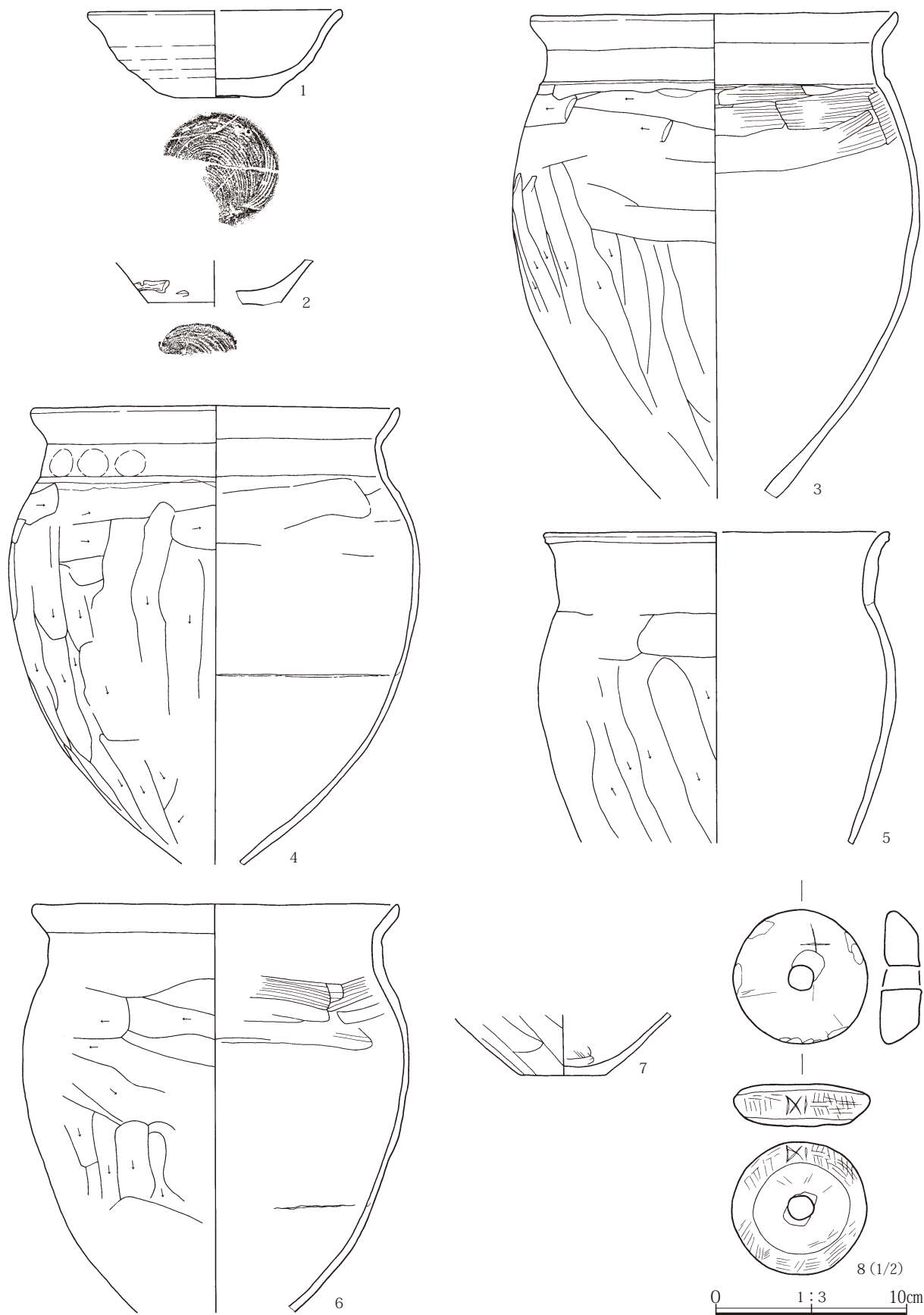


竈

- 1 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径100mm)を混入。
- 2 暗黄褐色土 粘質。焼土ブロック(径10mm)が30%混入。炭化物(径5~10mm)を少量混入。白色軽石(径1mm)微量混入。



第314図 4区22号住居



第315图 4区22号住居出土遺物 1-8

4区24号住居 (第316～318図、P L 37・123・124)

位置 455-450、455

重複 26号住居に後出する。

主軸方位 E-3°-S 面積 6.18㎡

形状 東西に長軸を有する縦長の長方形を呈する。西壁は中央部分で外方に弱く張り出している。規模は東西3.01m、南北2.48mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大30cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁中央で検出された。住居の壁面を掘り込んで燃焼部が構築されている。燃焼部から煙道部への移行は明確な段をもって立ち上がる。焚口部からその手前にかけて灰原が広がっていた。確認長110cm、燃焼部長48cm、燃焼部幅25cm、煙道部の残

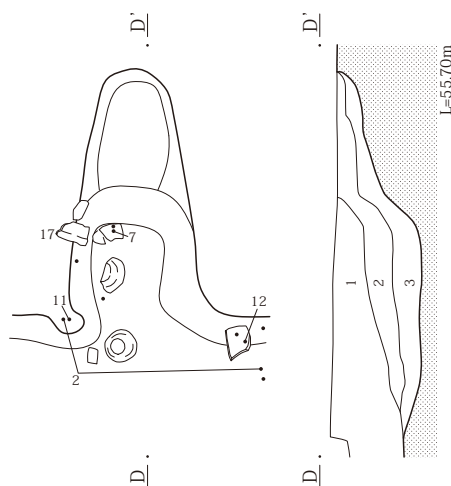
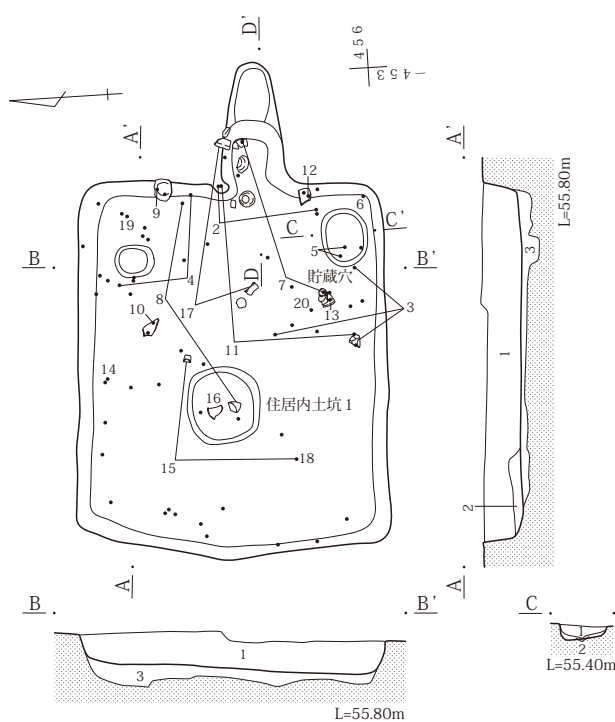
存長45cmを測る。

貯蔵穴 竈右隅で検出された。楕円形状を呈し、長径47cm、短径36cm、深さ11cmを測る。暗褐色土、黄褐色土が堆積していた。埋没土中から須恵器杯5が出土している。

掘り方 床面の南側部分は一段低く掘り込まれ、砂質の暗褐色土が堆積していた。深さは15から20cmほどである。

遺物 床面全体から万遍なく出土しているが、概して壁寄りの遺物は床面から離れる傾向が見られる。住居が埋没する過程で遺物が混入した様子がうかがわれる。竈の燃焼部とその周辺からは須恵器杯1・2、椀7、土師器甕17が出土している。土錘19・20の2点は埋没土中からの出土である。

所見 26号住居との重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



竈

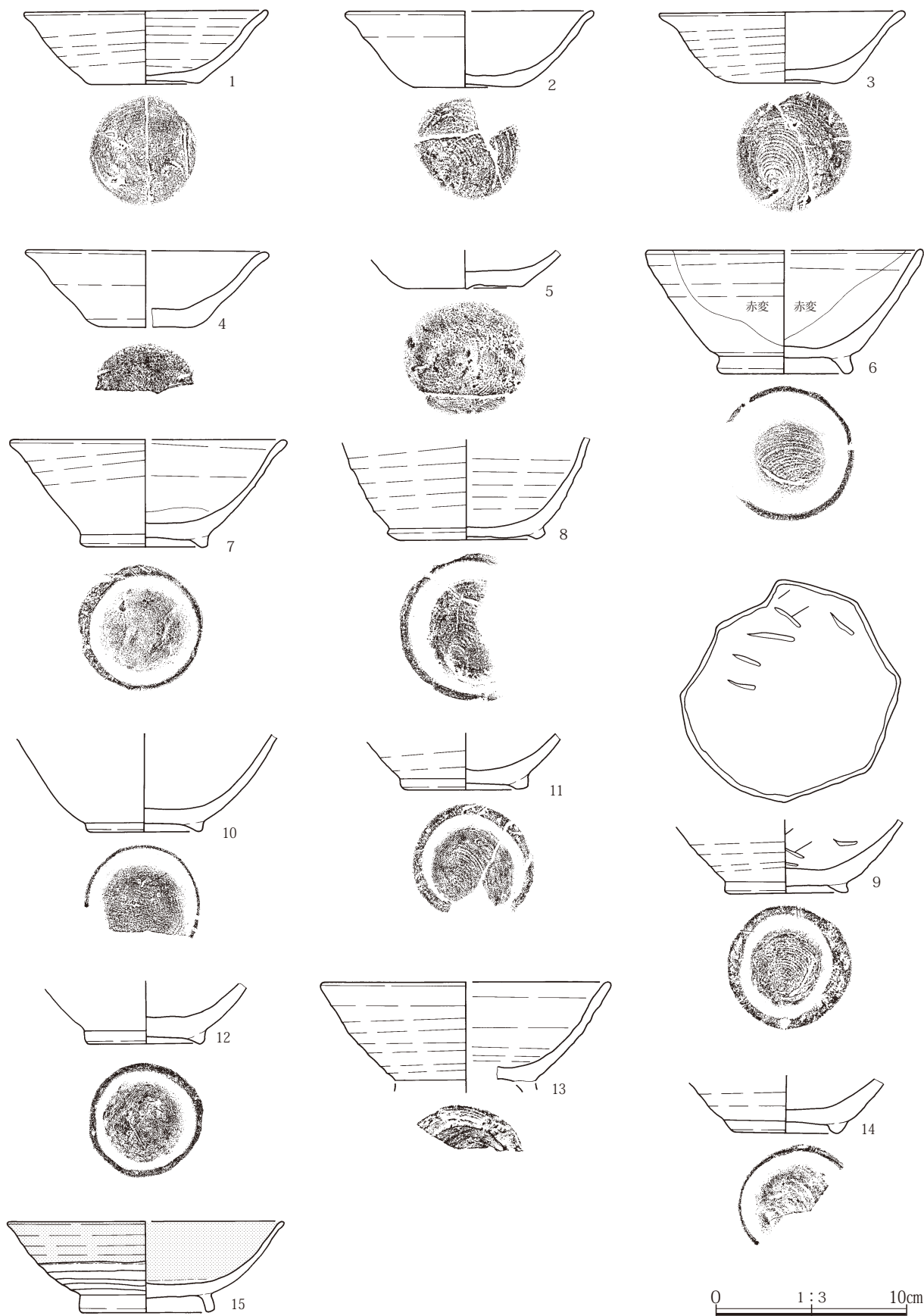
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1～3mm)20%混入。焼土粒(径2～5mm)を均一に20%混入。焼土ブロック(径10mm)を少量混入。炭化物(径2～5mm)を均一に10%混入。使用面。
- 2 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1～3mm)を均一に20%混入。焼土粒(径2mm)を均一に10%混入。炭化物(径2mm)を均一に5%混入。住居の覆土。
- 3 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～3mm)を均一に30%混入。炭化物(径2mm)を均一に10%混入。白色軽石(径1mm)を少量混入。(掘り方)

貯蔵穴

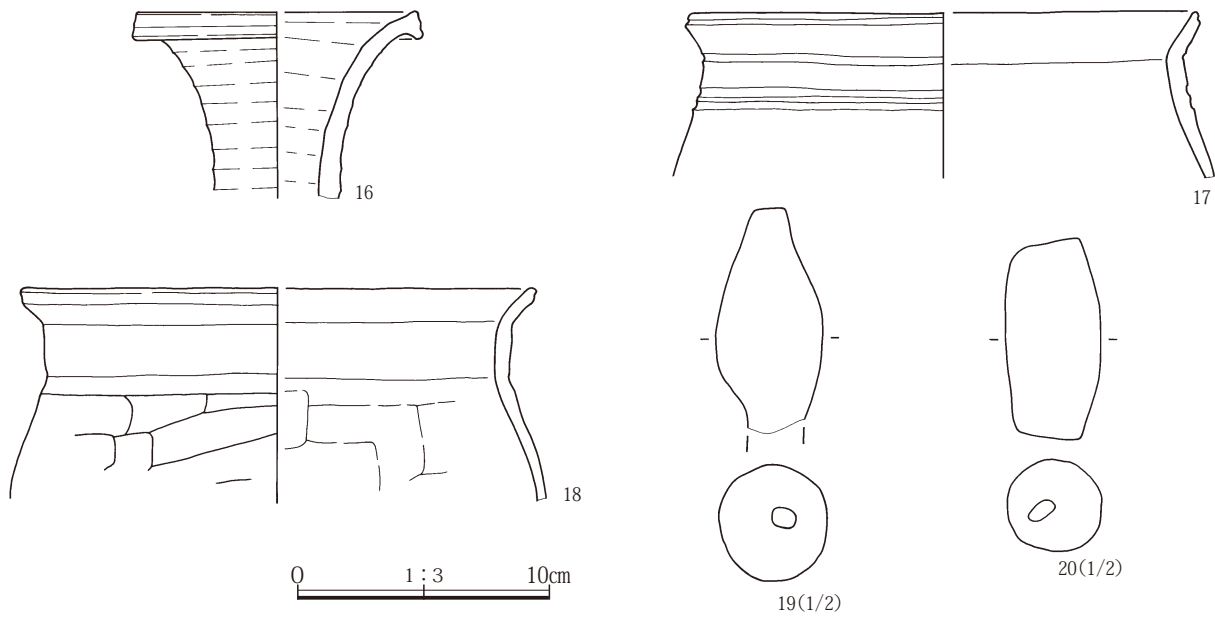
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に20%混入。焼土粒(径1mm)・炭化物(径1mm)微量混入。
- 2 黄褐色土 粘質。ロームブロック(径20～30mm)50%混入。

0 1:60(竈 1:30) 2m

第316図 4区24号住居



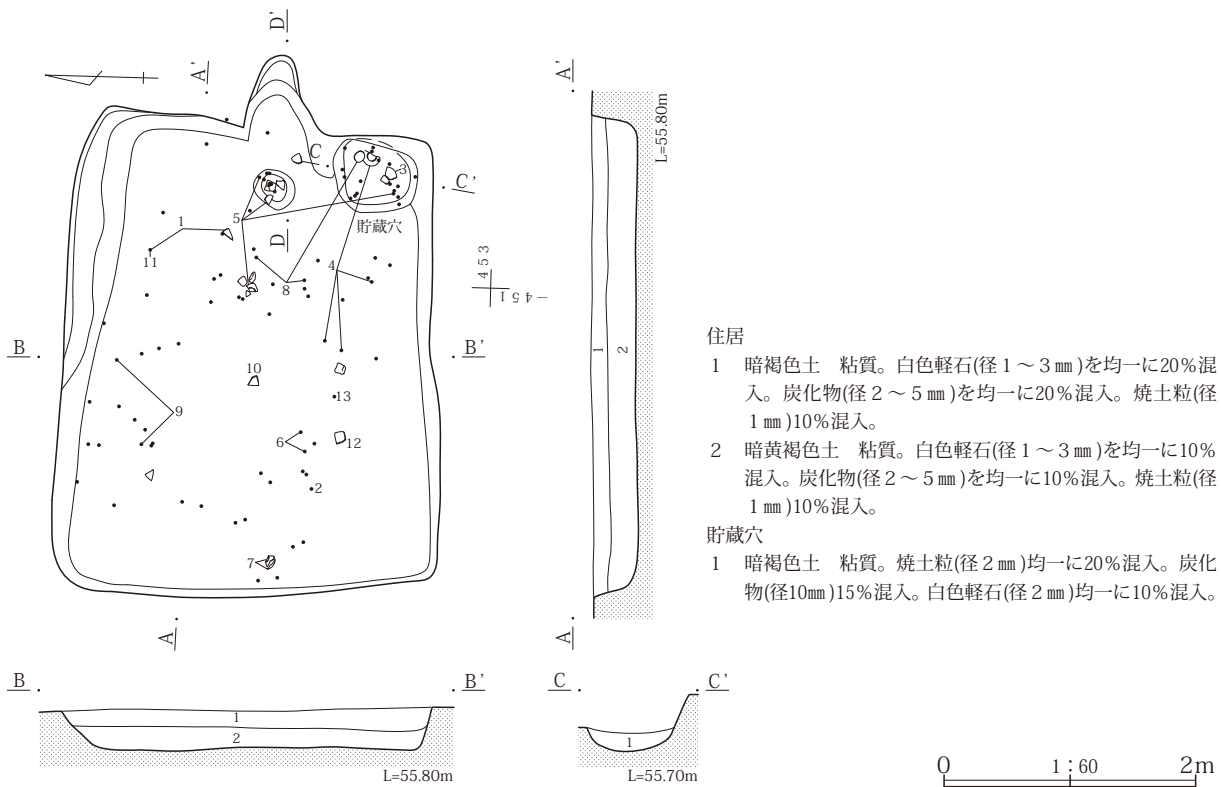
第317图 4区24号住居出土遺物 1-15



第318図 4区24号住居出土遺物 2 16-20

4区25号住居 (第319～322図、P L 37・38・124)
 位置 450、455-445、450
 重複 26号住居に後出する。
 主軸方位 E-1°-S 面積 9.32㎡
 形状 東西に長軸を有する縦長の長形状を呈する。規模は東西3.85m、南北3.08mを測る。北壁の

東半分は外方に大きく開きながら立ち上がっていた。
 埋没土 上層に暗褐色土、下層に暗黄褐色土が堆積していた。
 床面 確認面から最大36cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。柱穴、周溝は検出さ



第319図 4区25号住居

れなかった。

竈 東壁の中央部分で検出された。判然としない点もあるが右袖は住居床面方向に33cm突出していたようである。燃烧部には長径35cm、深さ10cmの掘り込みが見られ、調査時に掻き出しピットと呼称されていた。確認長98cm、燃烧部長65cm、燃烧部幅45cmを測る。煙道部の基部が一部残存していた。

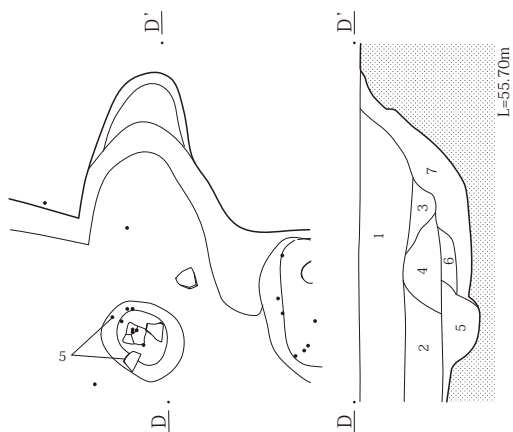
貯蔵穴 竈右隅で検出された。不整形あるいは隅丸矩形形状を呈し、長径68cm、短径55cm、深さ20cmを測る。東壁側は若干オーバーハングする。

掘り方 床面下の掘り込みはほとんど見られなかつ

た。竈と貯蔵穴の西側に各々1基ずつピット状の掘り込みが検出された。暗褐色土が堆積していた。

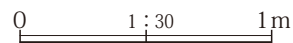
遺物 100点を超える遺物を取り上げたがその大半が埋没土中からの出土である。竈焚き口部前から出土した須恵器椀5は竈手前の床面と貯蔵穴内出土の破片が接合している。須恵器椀8も竈手前と貯蔵穴から出土した破片の接合した資料である。砥石13は床面中央から南壁に寄ったところの埋没土中からの出土である。

所見 26号住居との重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。

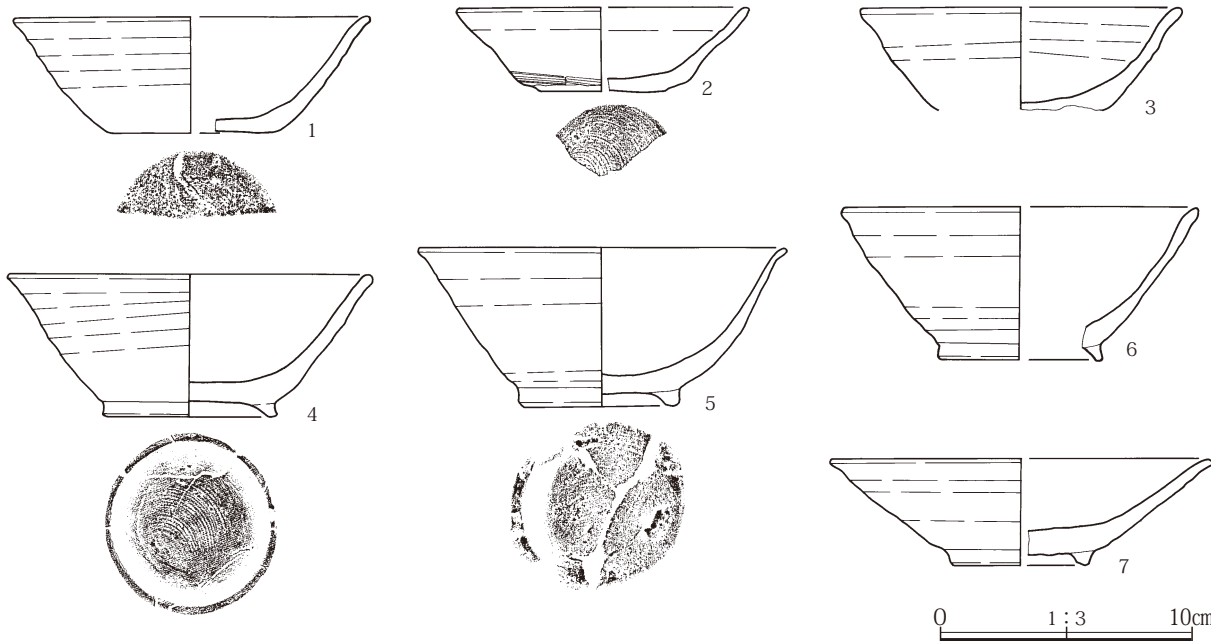


竈

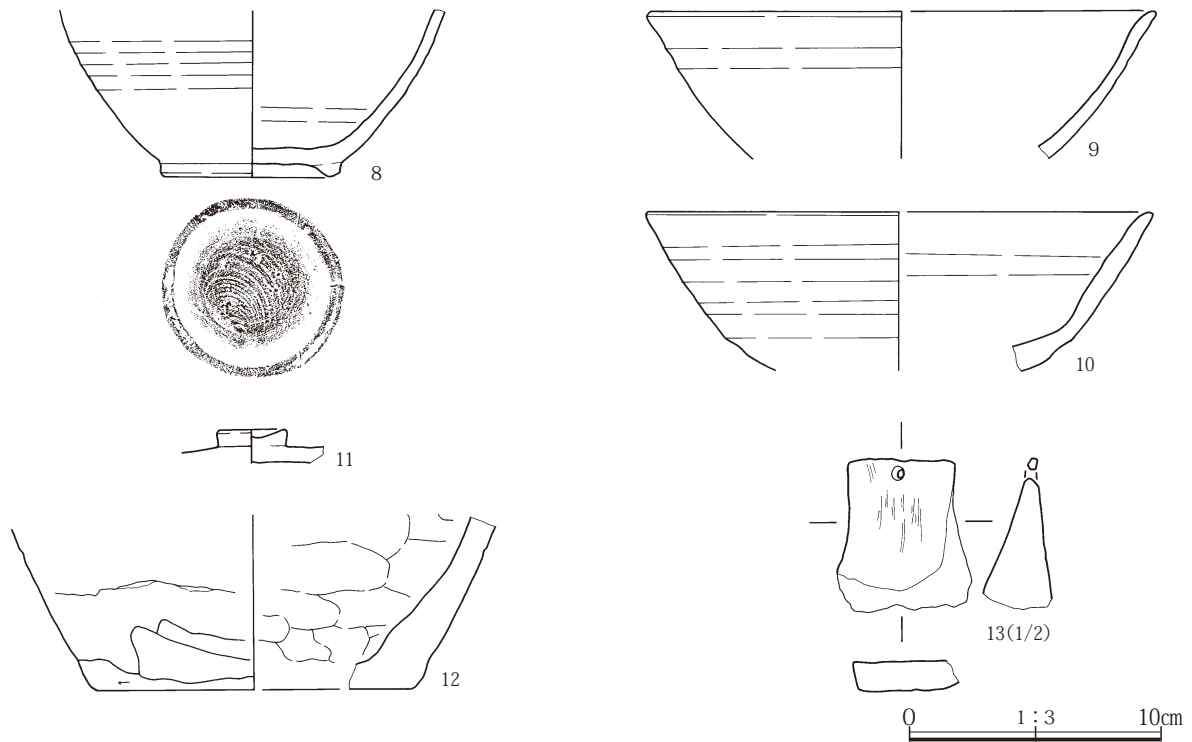
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~3mm)均一に30%混入。焼土粒(径1mm)・炭化物(径1mm)少量混入。
- 2 暗黄褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)均一に10%混入。
- 3 暗黄褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に20%混入。ロームブロック(径20mm)20%混入。
- 4 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)均一に10%混入。焼土ブロック(径30mm)を20%混入。炭化物(径2mm)少量混入。
- 5 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)を均一に30%混入。炭化物(径2~5mm)10%混入。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。
- 6 赤褐色土 焼土の塊の中に白色軽石(径2mm)を均一に10%混入。
- 7 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)少量混入。焼土粒(径5mm)を20%混入。炭化物(径2mm)少量混入。



第320図 4区25号住居カマド



第321図 4区25号住居出土遺物 1 1-7



第322図 4区25号住居出土遺物 2 8-13

4区26号住居 (第323～326図、P L 38・39・124)

位置 450、455-450

重複 24号、25号住居に前出する。

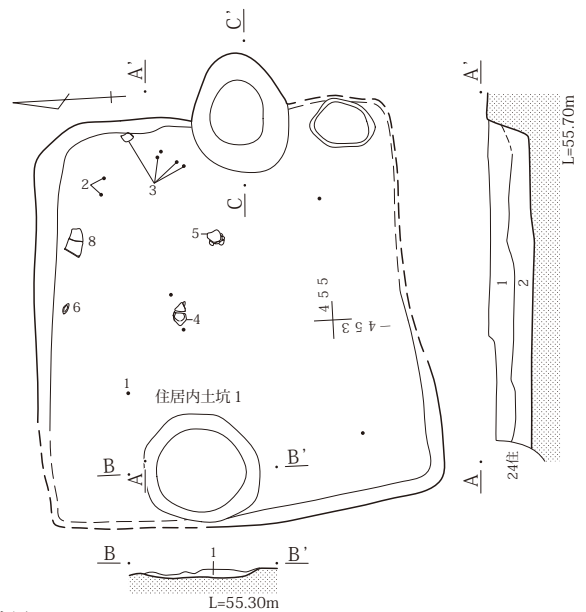
主軸方位 E-1°-S 面積 8.82㎡計測不能

形状 東西に長軸を有する縦長の方形状を呈し、長軸、短軸の差は小さい。北西隅と南東隅から南壁の東側部分は欠失していた。規模は東西3.27m、南北3.20mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。色調、しまり具合により分層された。

床面 確認面から最大38cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦であるが西壁から竈に向かって緩やかに傾斜していた。掘り方はほとんど見られなかった。柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁で検出された。大部分を25号住居に壊されているため、残存状態は不良で、下底面のみの検出であった。燃烧部は住居内から一部住居の壁面を掘り込んで構築されていた。確認長95cm、燃烧部幅77cmを測る。竈の右側、貯蔵穴にかけて掻き出された灰が散在していた。また、焚き口部の右斜め前に

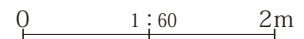


住居

- 1 暗褐色土(やや黒っぽい) 粘質。白色軽石(径1～3mm)を均一に30%混入。焼土粒(径2mm)を均一に10%混入。炭化物(径5mm)を少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。全体的に軟らかい。白色軽石(径1～3mm)を均一に20%混入。焼土粒(径2mm)を少量混入。炭化物(径5mm)を少量混入。

1号土坑

- 1 明黄褐色土 粘質。ロームを貼っている。ロームが主体で、白色軽石(径1mm)少量混入。砂も10%混じっている。



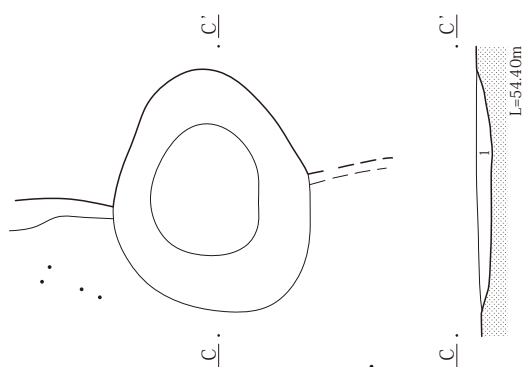
第323図 4区26号住居

は長53径cm、深5さcmの皿状の掘り込みが検出され、焼土ブロック、炭化物の堆積が確認された。調査時の掻きだしピットと認識されている。

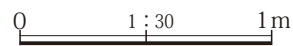
貯蔵穴 竈右隅で検出された。不整円形状を呈し、長径52cm、短径39cm、深さ14cmを測る。

床下土坑 西壁際で床下土坑1基が検出された。楕円形状を呈し、長径92cm、短径87cmで1cm～6cmほどの深さでロームを全面に貼っていた。

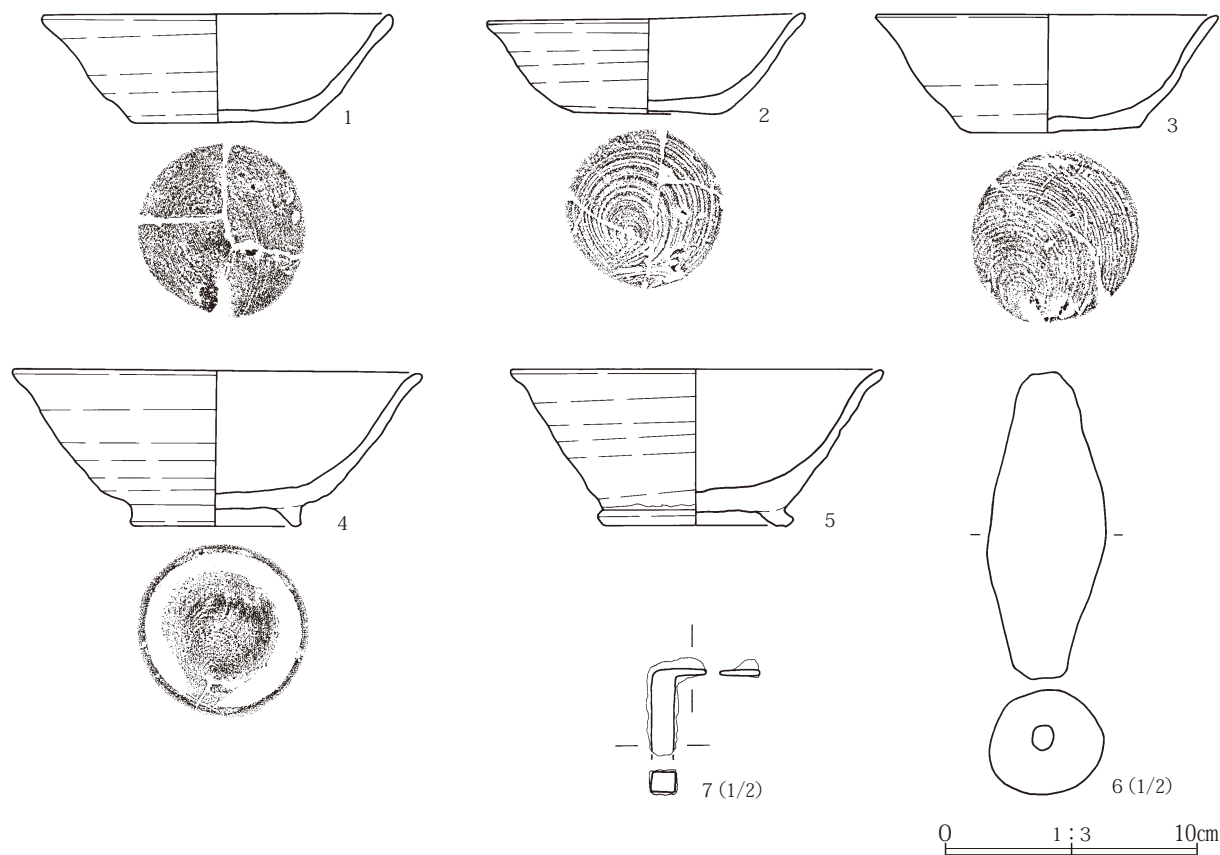
遺物 出土遺物は北東隅部分に少量見られた。床面直上の資料としては、竈の左側、東壁際から出土した須恵器杯3、中央寄りから出土した須恵器椀4・5がある。北東隅寄りから出土した須恵器杯2がある。北壁際の埋没土中からは土錘6が出土している。所見 遺構の重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



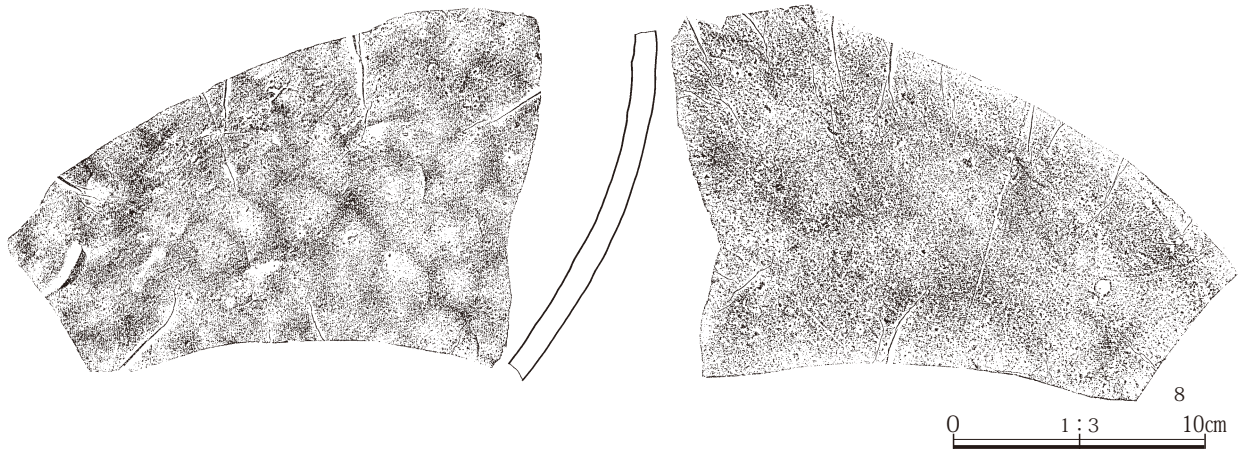
竈
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。焼土粒(径5mm)を少量混入。炭化物(径5mm)を少量混入。



第324図 4区26号住居カマド



第325図 4区26号住居出土遺物 1 1-7



第326図 4区26号住居出土遺物2 8

4区27号住居 (第327～330図、P L 39・124)

位置 405、410-440

重複 28号住居に後出する。

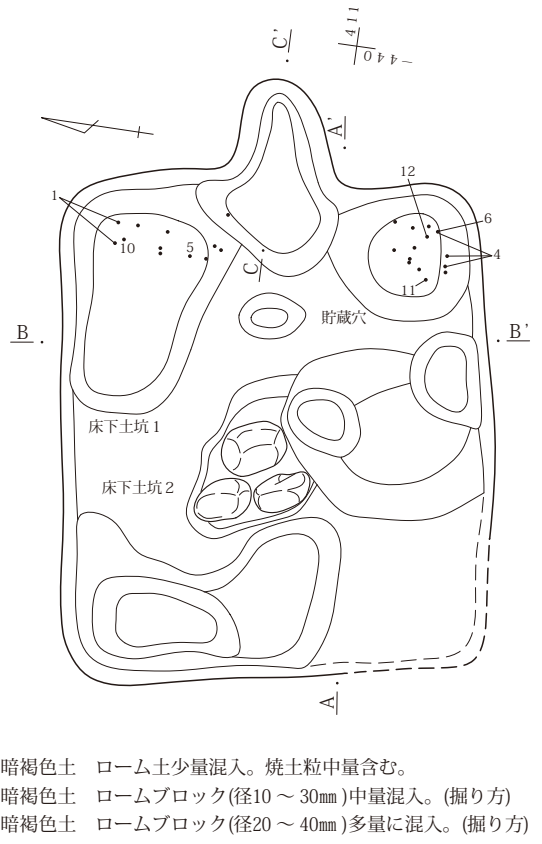
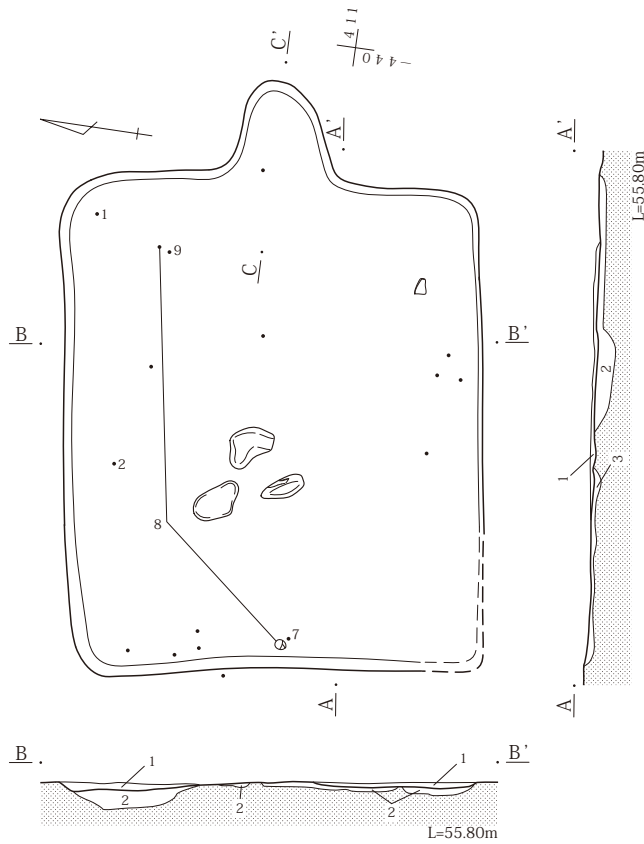
主軸方位 E-8°-N 面積 計測不能

形状 東西方向に長軸を有する縦長の長方形を呈する。南西隅は削平を受けている。規模は東西4.00m、南北3.36mを測る。柱穴、周溝は検出されなかつ

た。

埋没土 わずかに暗褐色土が堆積していた。

床面 上部がかなり削平されており、床面が明確にはとらえられていない。壁面の立ち上がりもかろうじて3～4cmほどが確認できたに過ぎない。床面の中央、やや西壁寄りでは長さ35から40cmの礫3石が下部を掘り方内に置く形で出土している。



住居

- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。焼土粒中量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径10～30mm)中量混入。(掘り方)
- 3 暗褐色土 ロームブロック(径20～40mm)多量に混入。(掘り方)

第327図 4区27号住居

別遺構が重複していた可能性も考えられるが、調査時の特別な所見もなく、その性格については不明である。

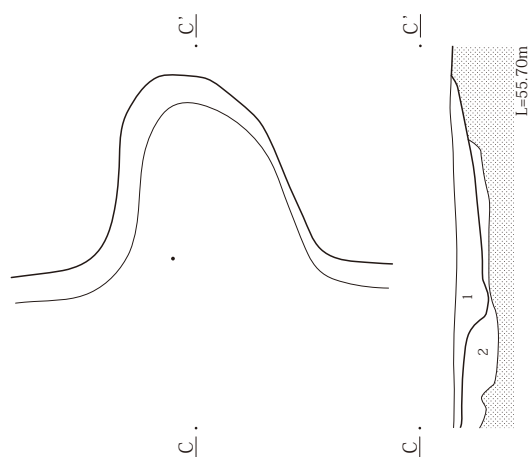
竈 東壁のほぼ中央で検出された。燃烧部は住居の壁面を掘り込んで壁外に構築されていたが残存状態が不良で基底部分を検出するにとどまった。確認長は80cm、燃烧部幅は75cmである。

貯蔵穴 掘り方精査時に竈の右側、南東隅で検出とされた。不整円形を呈し、長径106cm、深さ17cmを測った。暗褐色土が堆積していた。埋没土中から須恵器杯4・6、椀11、土師器甕12が出土しているがいずれも破片の状態であった。

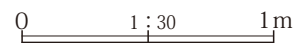
掘り方 北東隅、北西隅、床面中央から南壁寄りと土坑状の掘り込みがあり、掘り方底面は大小の起伏を有していた。埋土中から須恵器杯1・5、椀10が出土している。

遺物 貯蔵穴内の他に少量の遺物が破片の状態です。床面直上から出土している。西壁際中央からは須恵器椀7が出土、2分の1ほどの残存であった。埋没土中から鉄釘16や器種不明の鉄器13～15が出土している。

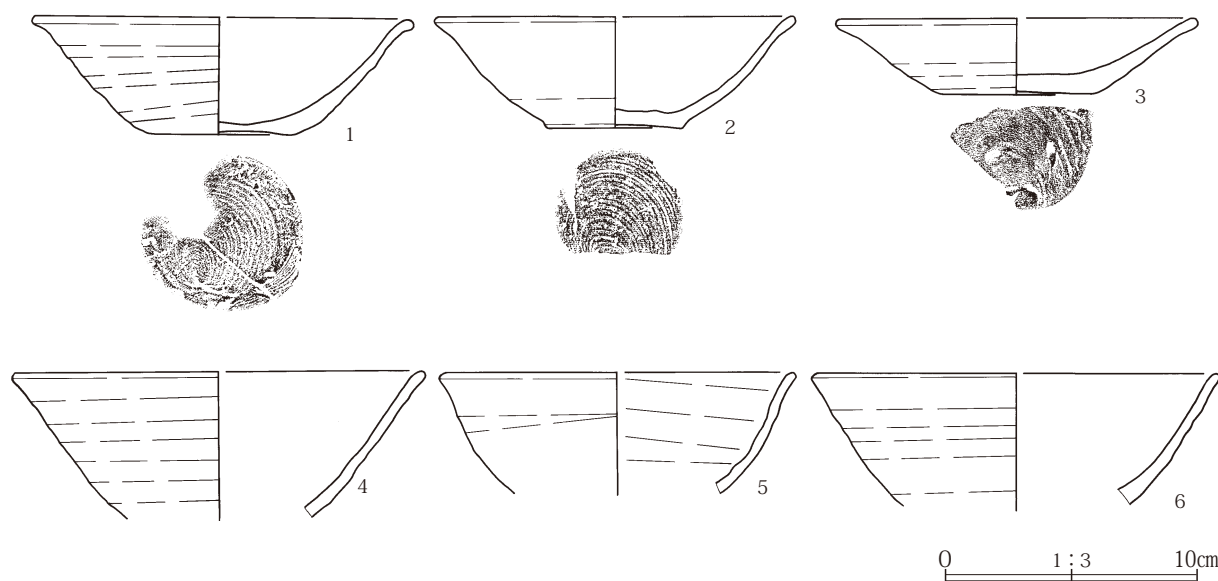
所見 28号住居との重複関係、出土遺物の特徴から10世紀第1四半期の所産と考えられる。



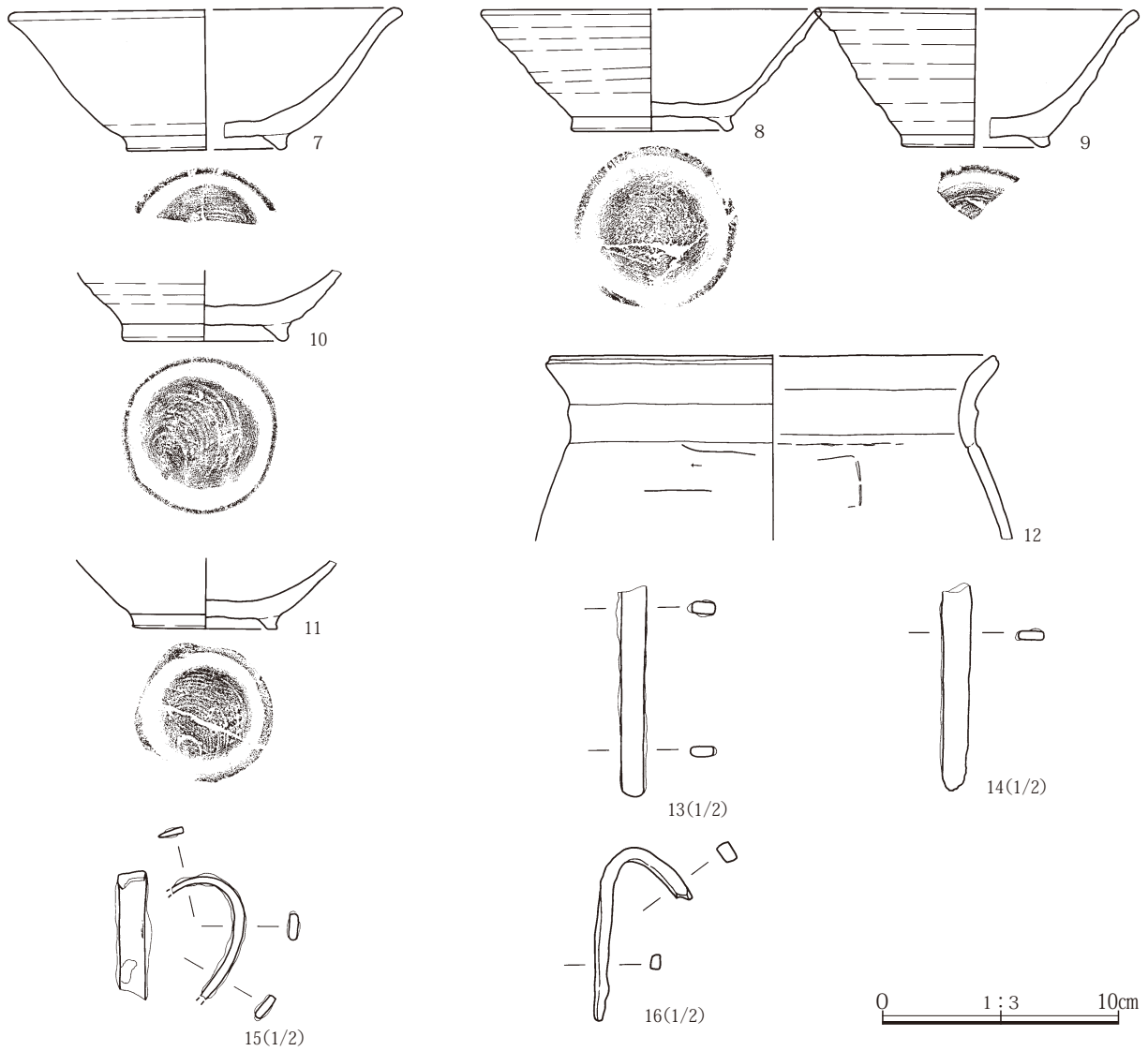
竈
1 暗褐色土 焼土ブロック(径5～20mm)焼土粒中量混入。(掘り方)
2 黒褐色土 ロームブロック(径5～30mm)中量混入。
※倒木痕も重複している。(掘り方)



第328図 4区27号住居カマド



第329図 4区27号住居出土遺物 1 1-6



第330図 4区27号住居出土遺物2 7-16

4区28号住居 (第331・332図、P L 39・124)

位置 405、410-445

重複 27号住居に前出する。

主軸方位 面積 計測不能

形状 西側が調査区外のため2分の1程の検出にとどまった。また、東壁は27号住居により削平を受けていた。全体の構造は不明であるが、東西あるいは南北方向に主軸をもつ方形を呈すると考えられる。規模は南北3.75m、東西の残長2.80mを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 27号住居と同様かなり削平されており、壁の立ち上がりが2~3cmしかない。床面は凹凸が著

しい。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

周溝 北壁で検出された。幅20cm、深さ10cm弱を測る。

竈 検出されなかった。

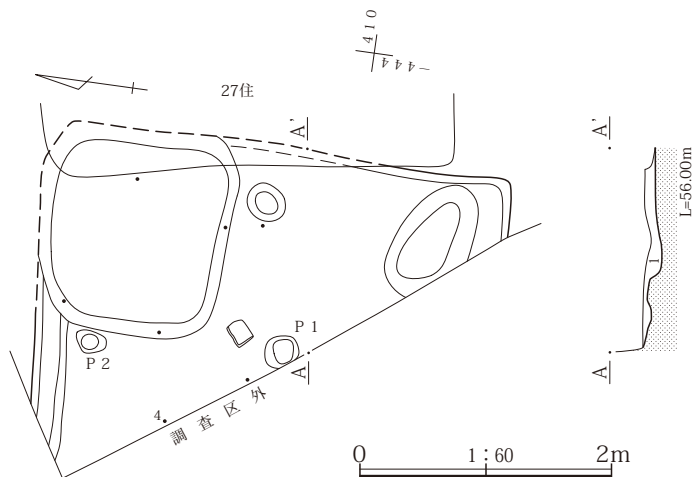
ピット 2基が検出された。規模(長径×深さ)は、P1が28×21cm、P2が25×18cmである。

掘り方 北東隅で隅丸四角形の土坑状の掘り込みが検出された。規模は長軸165cm以上、深さ16cmである。暗褐色土が堆積していた。埋土中から須恵器杯1が出土している。南西隅では長円形の掘り込みが検出された。規模は長径100cm、深さ17cmである。黒褐色土が堆積していた。

遺物 出土遺物は少量であった。床面中央から須恵器杯2・3、須恵器碗5が出土しているが、床面からやや離れた状態での出土である。埋没土中から

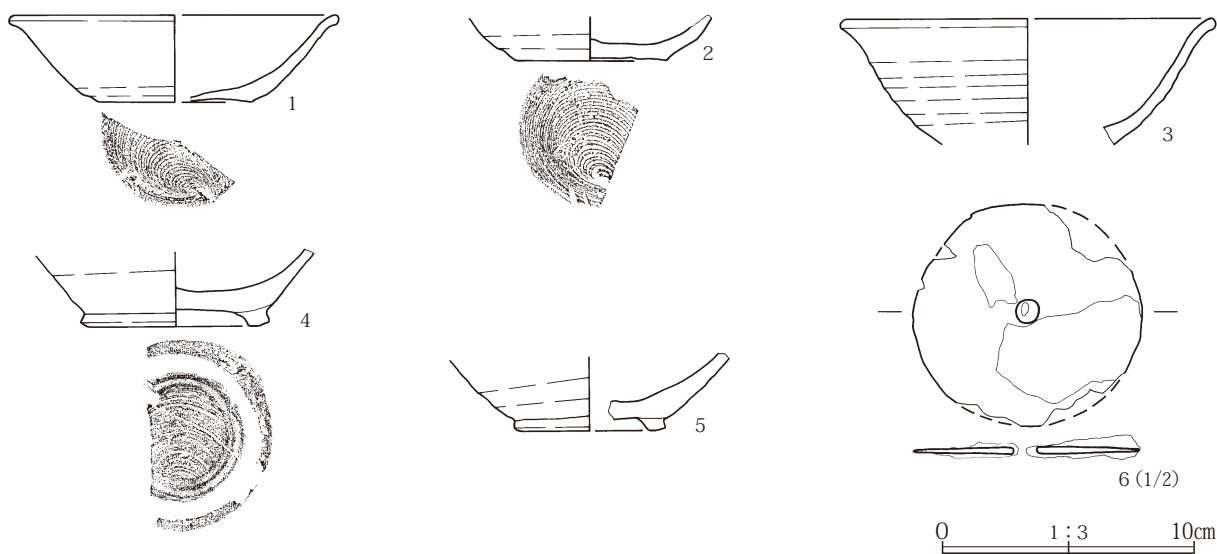
鉄製紡錘車6が出土している。

所見 27号住居との重複関係、出土遺物の特徴から9世紀第4四半期の所産と考えられる。



住居
1 暗褐色土 ローム土少量混入。焼土粒少量含む。
(掘り方)

第331図 4区28号住居



第332図 4区28号住居出土遺物 1-6

5区1号住居 (第333・334図、P L 40・124)

位置 500-410

重複 18号溝に前出する。

主軸方位 E-22°-S 面積 計測不能

形状 西側が調査区外、さらに南側を18号溝に壊されているため、北東隅を中心とする4分の1程の検出にとどまった。全体の構造は不明である。残存長は東西約2.50m、南北2.04mである。

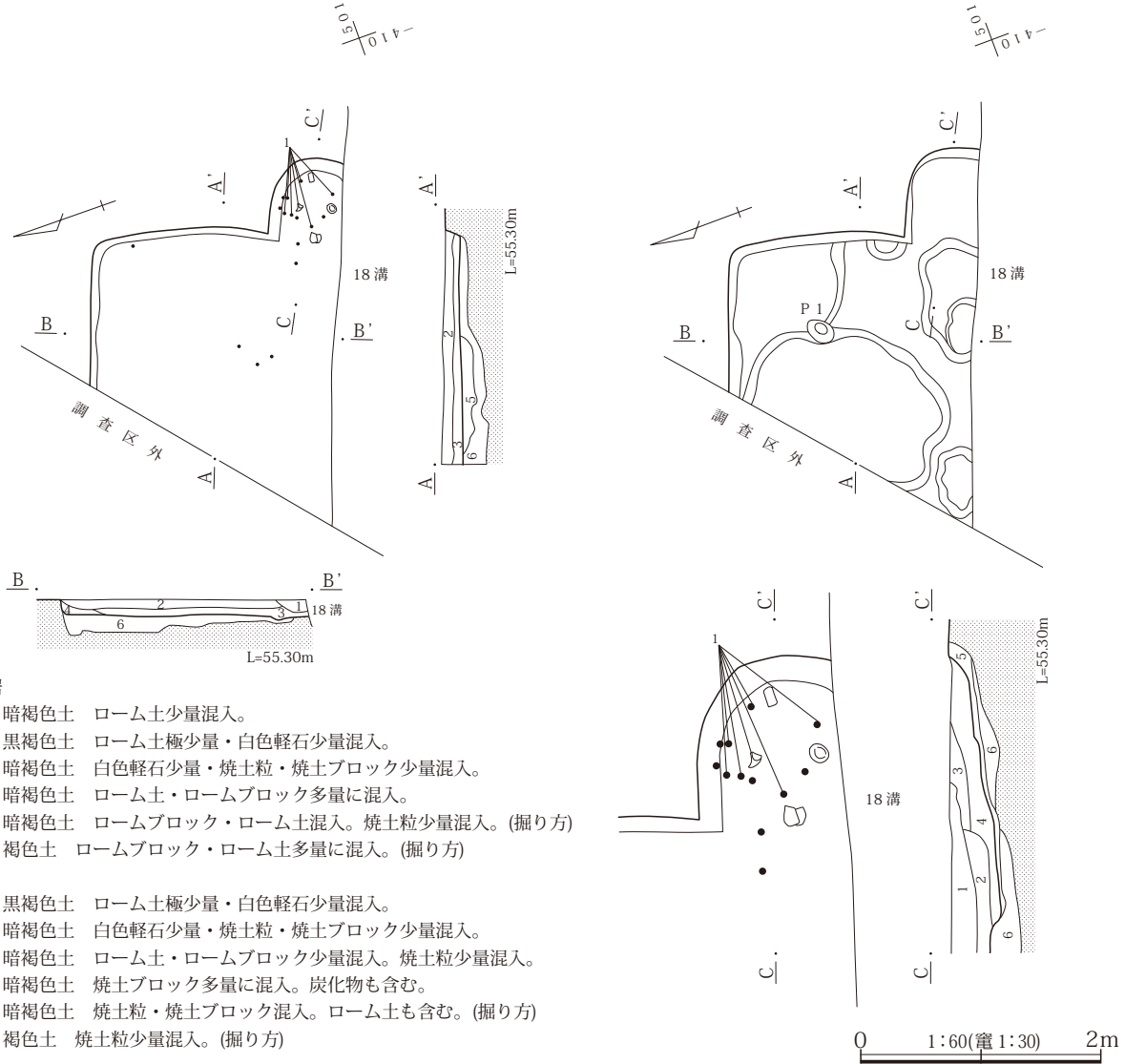
埋没土 上層に暗褐色土、下層に黒褐色土が堆積していた。

床面 確認面から最大15cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、柱穴、周溝は検出されなかった。

竈 東壁で検出された。燃焼部は住居の壁面を掘り込んで構築されていたが南側は18号溝に壊されている。確認長85cmを測る。

掘り方 ほぼ全面にわたり掘り方が見られた。埋土は暗褐色土や褐色土である。北東隅寄りでは直径20cm、深さ24cmの柱穴状の掘り込みが検出されたが柱穴と断定するにはいたらなかった。

遺物 少量の遺物が破片の状態出土した。
所見 出土遺物の特徴から9世紀代の所産と考えられる。竈燃焼炉内から出土した土器器甕1を資料化した。



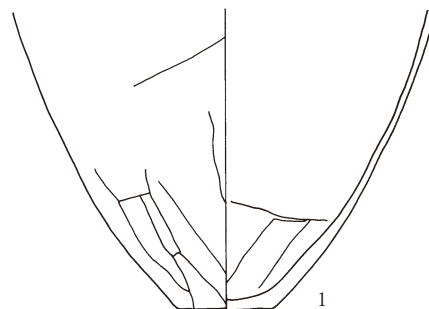
住居

- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。
- 2 黒褐色土 ローム土極少量・白色軽石少量混入。
- 3 暗褐色土 白色軽石少量・焼土粒・焼土ブロック少量混入。
- 4 暗褐色土 ローム土・ロームブロック多量に混入。
- 5 暗褐色土 ロームブロック・ローム土混入。焼土粒少量混入。(掘り方)
- 6 褐色土 ロームブロック・ローム土多量に混入。(掘り方)

竈

- 1 黒褐色土 ローム土極少量・白色軽石少量混入。
- 2 暗褐色土 白色軽石少量・焼土粒・焼土ブロック少量混入。
- 3 暗褐色土 ローム土・ロームブロック少量混入。焼土粒少量混入。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック多量に混入。炭化物も含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック混入。ローム土も含む。(掘り方)
- 6 褐色土 焼土粒少量混入。(掘り方)

第333図 5区1号住居



0 1:3 10cm

第334図 5区1号住居出土遺物 1

5区2号住居（第335～337図、P L 40）

位置 500-400、405

重複 25号溝に前出する。

主軸方位 面積 計測不能

形状 北壁から東壁の大部分が25溝に壊されているため全体の構造は不明であるが、ほぼ東西あるいは南北に主軸をもつ方形形状を呈する。規模は東西3.7m、南北の残長cmを測る。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。床面間近からは長さ30cmを越えるものも含む複数の炭化物がほぼ床一面から検出された。焼失住居の可能性が考えられる。

床面 確認面から最大20cm掘り込んで床面を構築する。床面は概ね平坦である。貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

竈 最終使用時の掘り込みは検出できなかったが、25号溝の法面において燃焼部掘り方の一部を検

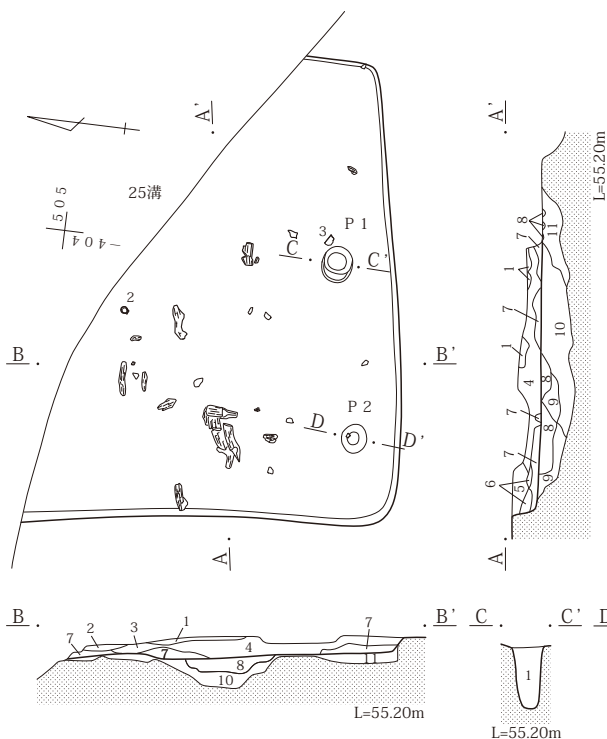
出し、灰の堆積も確認されたことから東壁に付設されていたものと考えられる。

ピット2基が検出された。それぞれの規模（長径×深さ）はP1：29×50cm、P2：24×17cmである。住居の平面形との関係からでは柱穴とは断定しがたい位置にある。P1は暗褐色土が、P2は黄褐色土が堆積していた。

掘り方 中央を中心に床面全体に土坑状の掘り込みが見られた。床面から掘り方底面までの深さは最深で25cm程である。埋土は暗褐色土、黄褐色土が堆積していた。

遺物 床面直上からの出土遺物は見られなかった。床面からやや離れて出土した須恵器蓋2や甕3を資料化した。

所見 焼失住居と考えられる。出土遺物の特徴から9世紀代の所産と考えられる。



住居

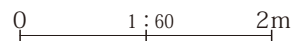
- 1 カクラン
- 2 暗褐色土 白色軽石(径2～5mm)少量混入。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック(径10～20mm)混入。
- 4 暗褐色土 3層よりも黒味をおびている。白色軽石(径0.5～2mm)混入。焼土粒(径2～5mm)混入。
- 5 暗褐色土 4層と同じ黒味をおびている。白色軽石(径1～5mm)少量混入。
- 6 暗褐色土 炭混入。
- 7 暗褐色土 焼土粒(径3～5mm)混入。炭混入。
- 8 暗褐色土 ロームブロック(径8～15mm)多量混入。焼土ブロック(径5～8mm)を含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック(径10～20mm)を50%含む。焼土ブロック(径10～12mm)を少量含む。
- 10 黄褐色土 暗褐色土40%混じる。
- 11 黄褐色土 暗褐色土20%混じる。焼土ブロック(径8～10mm)少量混じる。

ピット1 C-C'

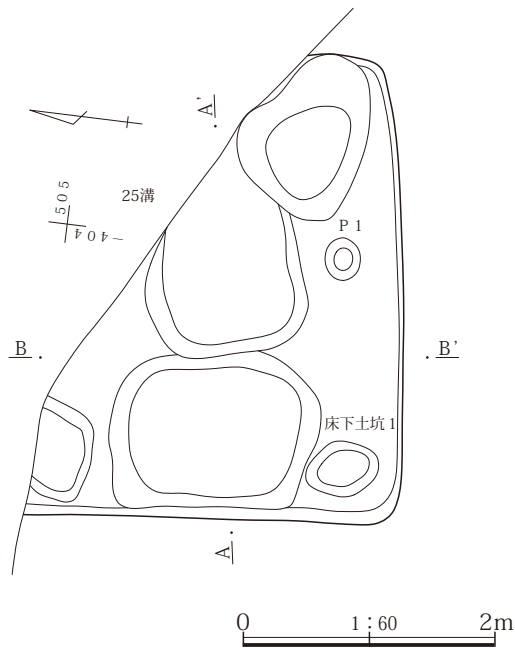
- 1 暗褐色粘質土 ロームブロック(径5～15mm)混入。ローム粒(径1～2mm)が全体に10%混じる。

ピット2 D-D'

- 1 暗褐色粘質土 白色軽石(径1～2mm)微量混入。ローム粒(径0.1～2mm)30%混入。ロームブロック(径10～15mm)30%混入。
- 2 黄褐色粘質土 1層土が混じる。



第335図 5区2号住居



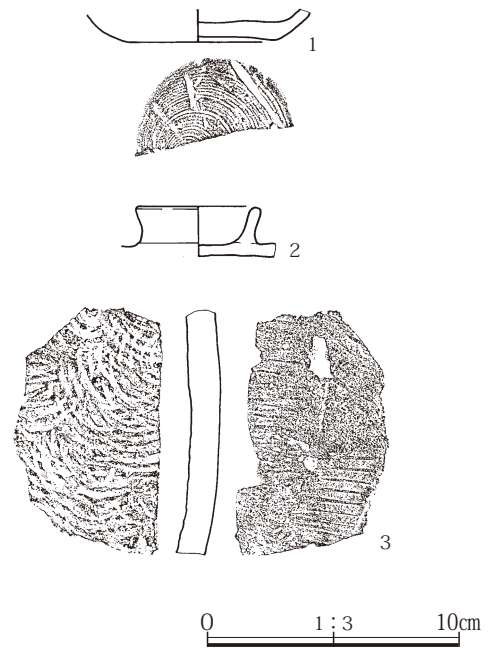
第336図 5区2号住居掘り方

6区1号住居 (第338～340図、P L40)

位置 350、355-270

主軸方位 E-40°-N 面積 計測不能

形状 南東部分が調査区外におよんだため2分の1程を検出したにとどまった。全体の構造は不明だが、方形状を呈するものと考えられる。検出された

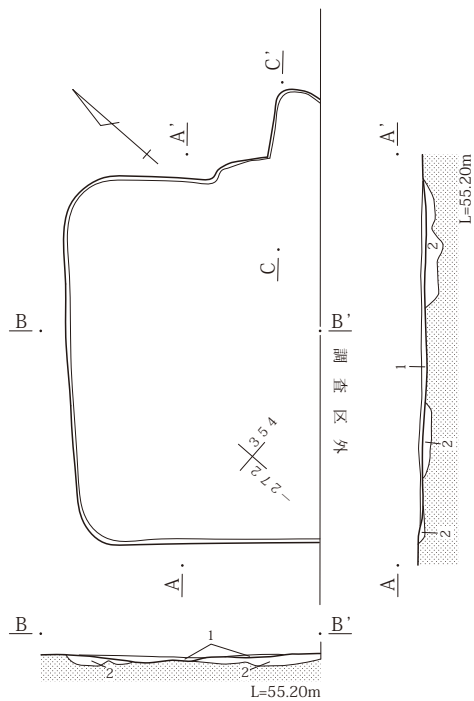


第337図 5区2号住居出土遺物 1-3

2つの隅は丸みを有していた。規模は東西2.94m、南北の残存長2.05mを測る。

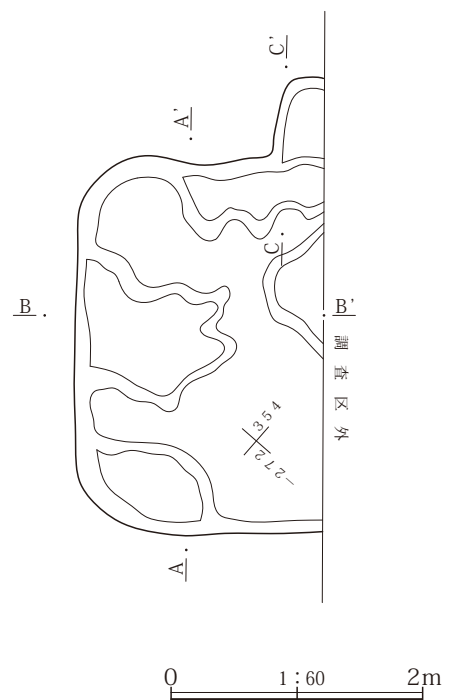
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

床面 上部がかなり削平されており、壁面の立ち上がりは5cm弱しかなかった。床面は遺存状態が非常に悪かったが、概ね平坦であった。貯蔵穴、柱穴、



住居

- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム土混入。炭化物・焼土粒少量混入。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量に混入。



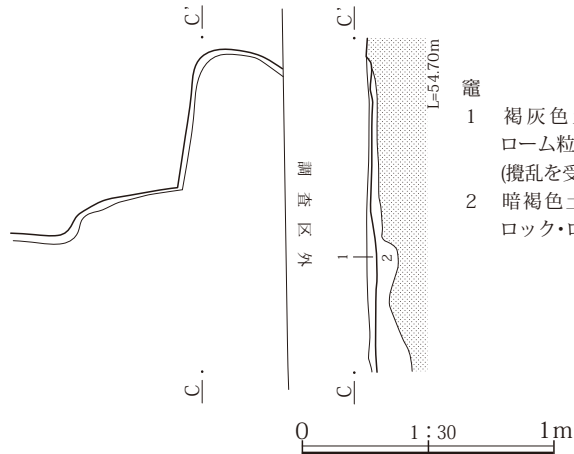
第338図 6区1号住居

周溝は検出されなかった。掘り方は全体に浅い掘り込みが見られた。底面までの深さは5から15cm程であった。

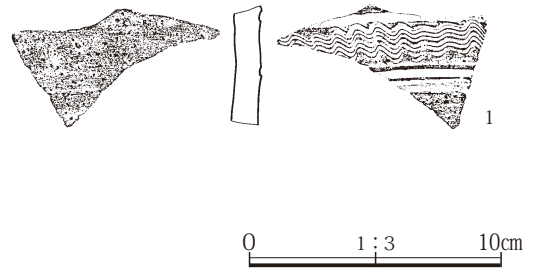
竈 東壁で検出された。遺存状態は悪く、住居の壁面を掘り込んで構築されていた燃烧部の最下部を

検出したにとどまった。南側は調査区域外に及んでいた。確認長75cmを測る。

遺物 埋没土中から須恵器甕1が出土している。所見 出土遺物の特徴から平安時代の所産と考えられる。



第339図 6区1号住居カマド



第340図 6区1号住居出土遺物 1

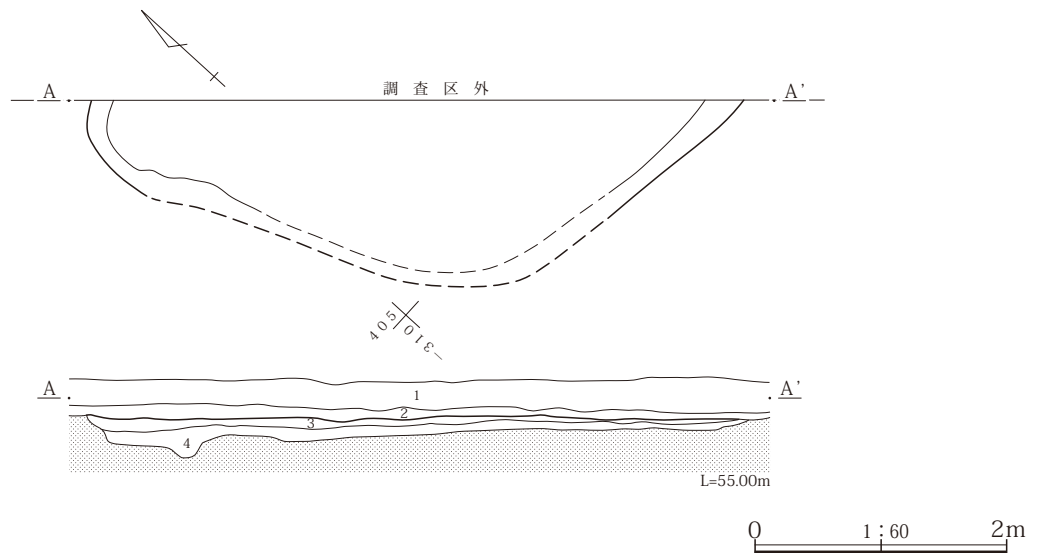
6区3号住居 (第341図)

位置 400、405-305、310

主軸方位 面積 計測不能

形状 東側が調査区域外におよんだため一部の調査にとどまった。壁面の明瞭な掘り込みは確認できなかったが、南北約5.10m、東西1.50mの範囲にわ

たり硬化面が確認されたことから住居の存在が想定された。床面は概ね平坦である。竈は検出されなかった。周溝、貯蔵穴、柱穴なども検出されなかった。遺物 資料化に足る出土遺物は見られなかった。所見 詳細な時期は判然としない。



住居

- 1 表土
- 2 暗褐色土 小礫極少量含む(やや耕作等の影響を受けている)。
- 3 黒褐色土 ローム土極少量含む(3層上面が3号住居の床面と考えられる。明確な貼り床ではないが硬化面確認)。
- 4 暗褐色土 ローム土・ロームブロック少量混入。(掘り方)

第341図 6区3号住居

6区4号住居 (第342図、P L 40)

位置 410、415-315、320

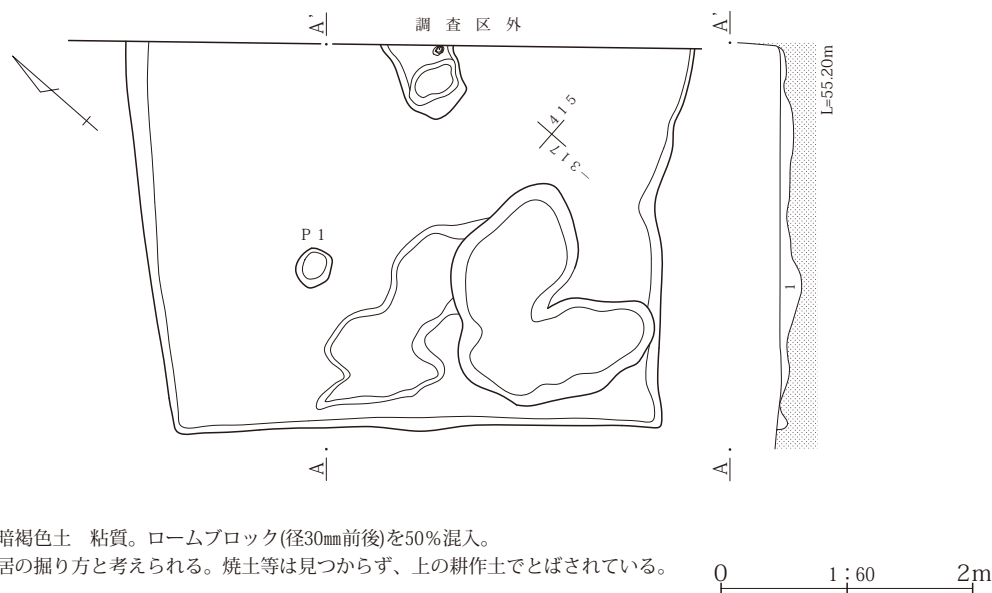
主軸方位 不明 面積 計測不能

形状 北東部分が調査区外におよぶため全体の構造は不明である。上層からの著しい削平を受けたため床面は存在していない。掘り方の埋土の一部と掘

り方底面を検出したにとどまった。掘り方面での規模は、南北4.12m、東西で残長3.07mを測る。竈、貯蔵穴、柱穴、周溝などの諸施設は検出されなかった。

遺物 資料化に足る出土遺物は見られなかった。

所見 詳細な築造時期については不詳である。



住居

1 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径30mm前後)を50%混入。

※住居の掘り方と考えられる。焼土等は見つからず、上の耕作土でとばされている。

第342図 6区4号住居

3 掘立柱建物

概要

ピットの検出は1面では4区だけに限られたが、2面の調査区においては3区から6区までいずれの調査においても検出された。その中、掘立柱建物として認識できたものは3区で3棟、6区で1棟である。

3区の3棟は調査区の東側、中央、西側のそれぞれから各1棟検出されている。1号掘立柱建物は調査区の南東端寄りで検出された。周辺からは多数のピットが検出されている。竪穴住居との重複はない。2号掘立柱建物は調査区南西寄りで検出された。南側が調査区域外におよぶが南北方向に主軸を有する建物である。掘り方が土坑状を呈する。22号、34号住居が重複、近接する。

3号掘立柱建物は、調査区の中央で検出された。掘り方はやや不揃いであるが3×3間の建物であ

る。竪穴住居との重複はない。2号掘立柱建物、本建物ともに周辺に土坑、ピットが多数存在することから他にも掘立柱建物が存在していた可能性が高い。

6区2号掘立柱建物は、調査区北寄りで検出した。6区は竪穴住居の検出数が少ないことから集落内における位置づけなどについては検討できなかった。

1号は欠番である。

3区1号掘立柱建物 (第343・344図、P L 41)

位置 415、420-455、460

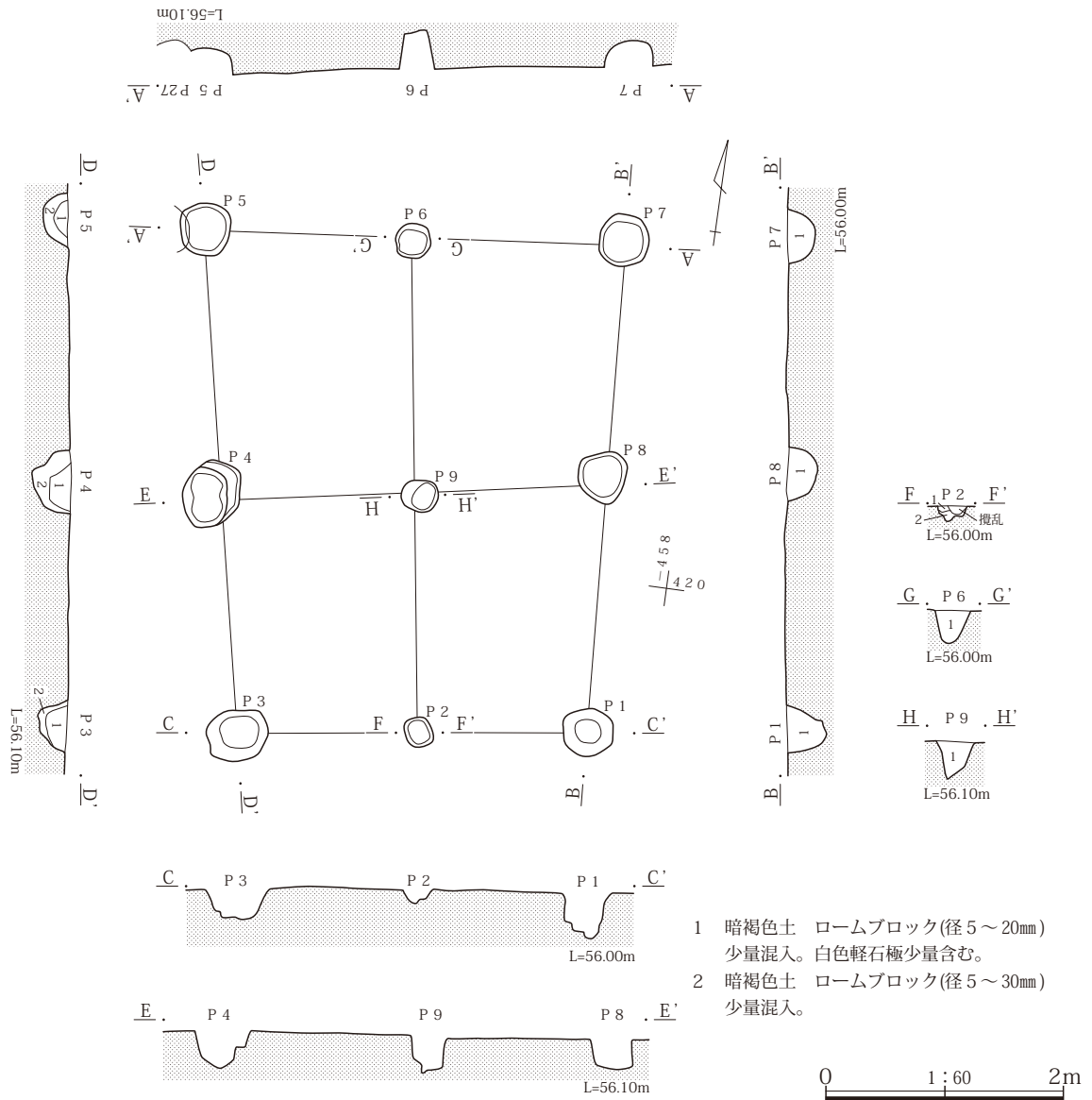
主軸方位 N-9°-W 面積 13.46㎡

形状 2×2間(東辺4.08m、南辺2.94m)、総柱の南北棟と考えられる。南辺と北辺の規模が均等でなく、全体構造が歪んでいる。桁行と梁行の差は1mを超える。

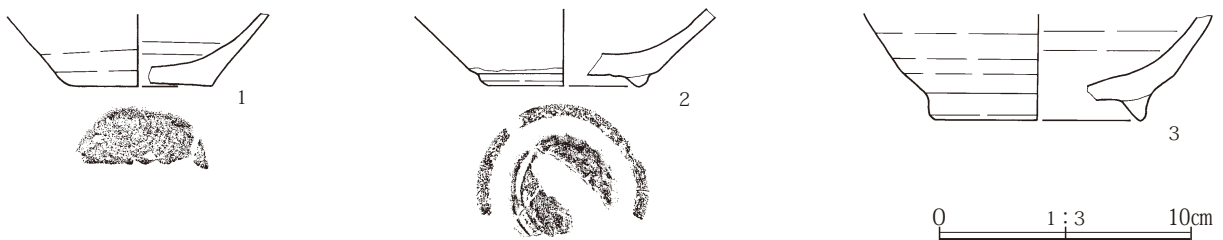
柱穴 平面形が長円形を呈するものと円形を呈す

るものがあり、規模も合わせ統一性が認められない。長径は30から56cm、深さは11から34cmである。特にP2は掘り込みが浅かった。埋没土は暗褐色土が堆積していた。柱痕は認められなかった。

遺物 P3の埋没土中から須恵器杯1と椀2が、P8から須恵器椀3が出土している。
所見 詳細な掘削時期は不詳である。



第343図 3区1号掘立柱建物



第344図 3区1号掘立柱建物出土遺物 1-3

第8表 3区1号掘立柱建物計測値

建物全体規模		2×2間		面積	13.46㎡	
主軸方向		N-9°-W		庇	無し	
桁・梁行の規模 (m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次柱穴との間隔 (m)
		長径	短径	深さ		
東辺 4.08	P 1	41	39	34	円形	1.40
南辺 2.94	P 2	25	22	11	隅丸方形	1.51
西辺 4.23	P 3	50	42	24	長円形	2.01
北辺 3.53	P 4	56	48	32	長円形	2.23
	P 5	44	40	21	円形	1.72
	P 6	28	28	33	円形	1.80
	P 7	45	42	22	円形	1.97
	P 8	42	42	27	不整形	P 1→2.13
	P 9	30	27	34	長円形	P 8→1.53
						P 4→1.75
						P 2→1.97
						P 6→2.13

3区2号掘立柱建物 (第345～348図、P L 41・125)

位置 440、445-490、495

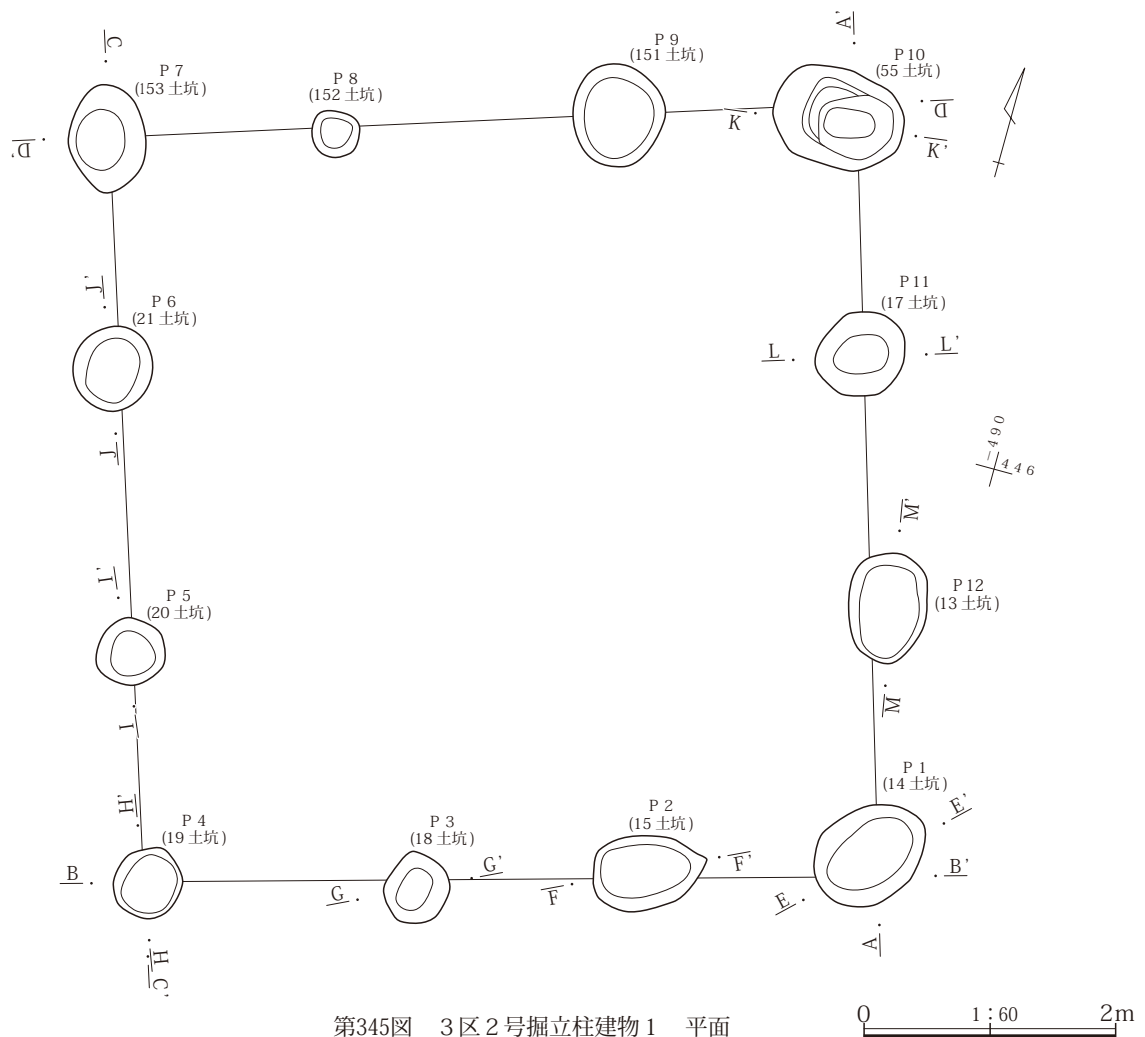
重複 22号住居と重複する。

主軸方位 N-17°-W 面積 35.26㎡

形状 3×3間 (東辺5.80m、南辺5.67m) の棟

である。桁行と梁行の長さがほとんど変わらないため、棟の方向は断定しがたく、どちらを梁としていたのか不詳である。P 2とP 3、P 3とP 4の間隔は他の柱間と比較して乱れが大きい。

柱穴掘り方の平面形は長円形のものと同円形のもの

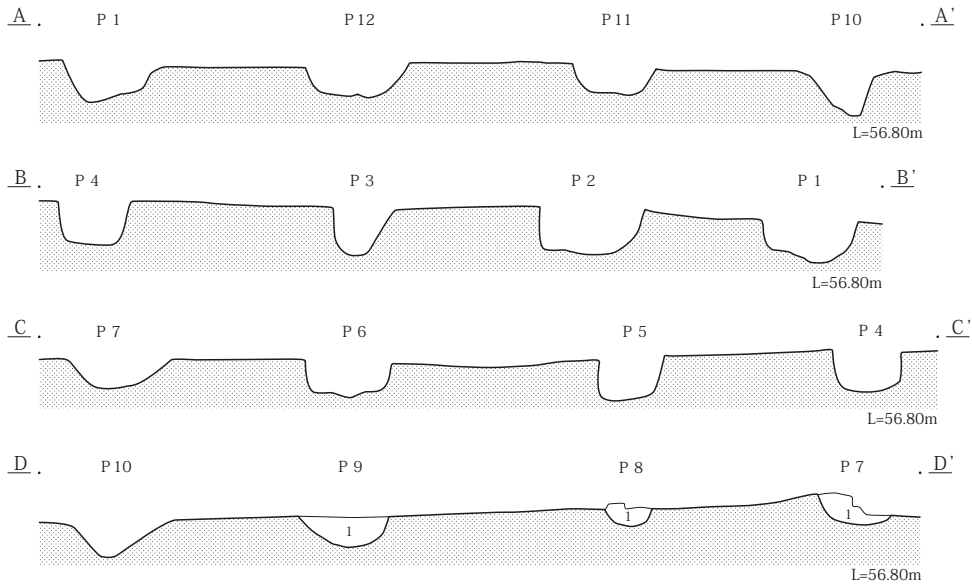


第345図 3区2号掘立柱建物1 平面

のが混在している。長円形のは長径54から75cm、円形のは長径38から65cmである。西辺の各掘り方は形状が比較的整っていた。深さは17から40cmである。P 2とP 12は掘り方の長軸の向きが建物の辺の方向とほぼ一致していたが、南東隅のP 1は軸線が建物の向きとずれていた。北東隅のP 10は底面に

段を有することから柱の立て替えがあった可能性が考えられる。埋没土には暗褐色土が堆積していた。柱痕は認められなかった。

遺物 P 5から須恵器杯1が出土している。
所見 詳細な掘削時期は不詳である。



P 7

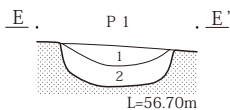
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

P 8

1 暗褐色土 焼土粒(径2mm)微量混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石微量混入。

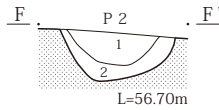
P 9

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。



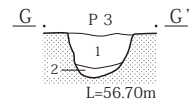
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。

2 暗褐色土 粘質。ローム少量混入。焼土粒(径2mm)微量混入。



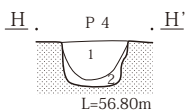
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~10mm)を均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。ローム粒(径2mm)を均一に10%混入。

2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ロームブロック(径10~50mm)20%混入。



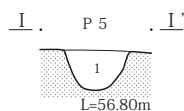
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)少量混入。焼土粒(径2mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。

2 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ロームブロック(径10mm)30%混入。

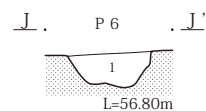


1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に5%混入。ローム粒(径5mm)少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。

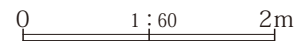
2 暗褐色土 粘質。ローム30%混入。



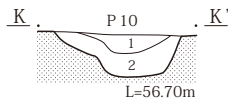
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に5%混入。ローム粒(径5mm)少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。



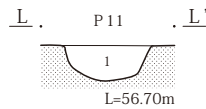
1 暗褐色土 粘質。炭化物(径2~10mm)を均一に5%混入。白色軽石(径1mm)少量混入。ローム粒(径1~5mm)少量混入。焼土粒(径1mm)微量混入。



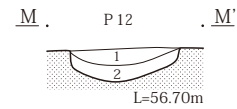
第346図 3区2号掘立柱建物2 断面



- 1 黒褐色土 炭化物(径5mm前後)・焼土ブロック(径5mm前後)少量混入。
2 灰黄褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。

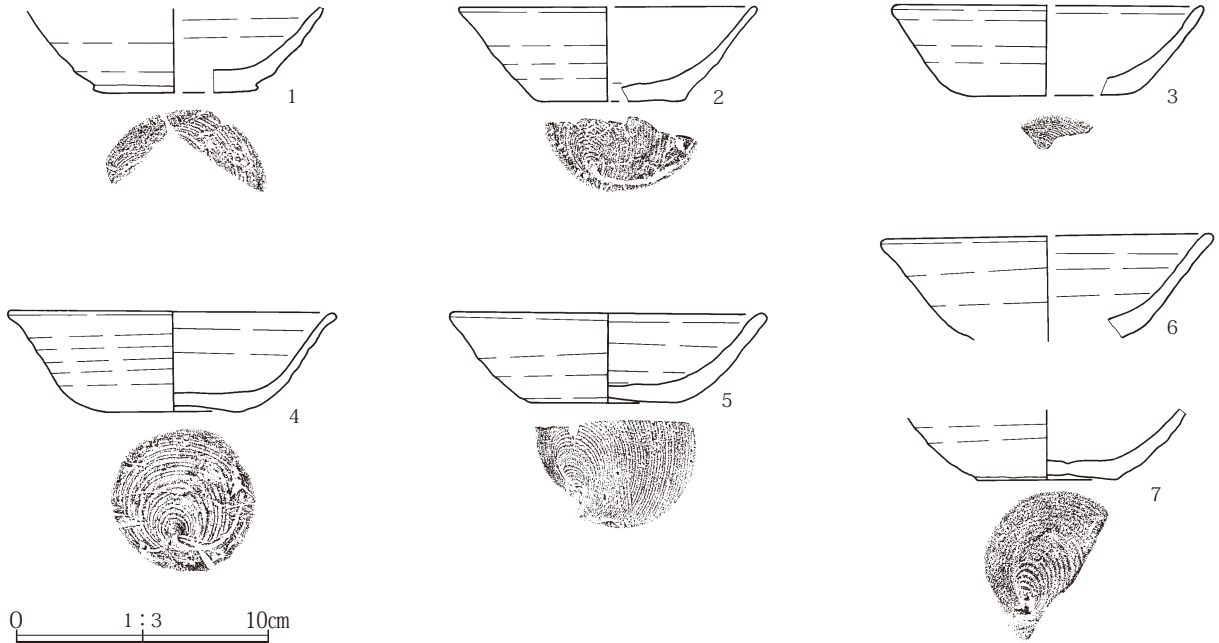


- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。白色軽石(径1mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。



- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。
2 暗褐色土 粘質。ローム少量混入。焼土粒(径2mm)微量混入。

第347図 3区2号掘立柱建物3 断面2



第348図 3区2号掘立柱建物出土遺物 1-7

第9表 3区2号掘立柱建物計測値

建物全体規模		3×3間			面積	35.26㎡	
主軸方向		N-17° -W			庇	無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No	規模(cm)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 5.80	P 1 14坑	95	72	30	長円形	1.80	
南辺 5.67	P 2 15坑	88	59	40	長円形	1.75	
西辺 5.88	P 3 18坑	54	48	38	長円形	2.12	
北辺 5.83	P 4 19坑	55	52	35	円形	1.82	
	P 5 20坑	53	52	34	円形	2.25	
	P 6 21坑	65	62	29	円形	1.78	
	P 7 153坑	85	60	22	長円形	1.80	
	P 8 152坑	38	35	17	円形	2.25	
	P 9 151坑	80	71	28	長円形	2.30	
	P 10 55坑	103	75	36	長円形	1.85	
	P 11 17坑	70	65	23	長円形	2.03	
	P 12 13坑	88	60	27	長円形	1.96	

3区3号掘立柱建物 (第349～351図、P L 41・125)

位置 435、440-515、520

重複 29号住居に先出する。

主軸方位 N-10° -W 面積 計測不能

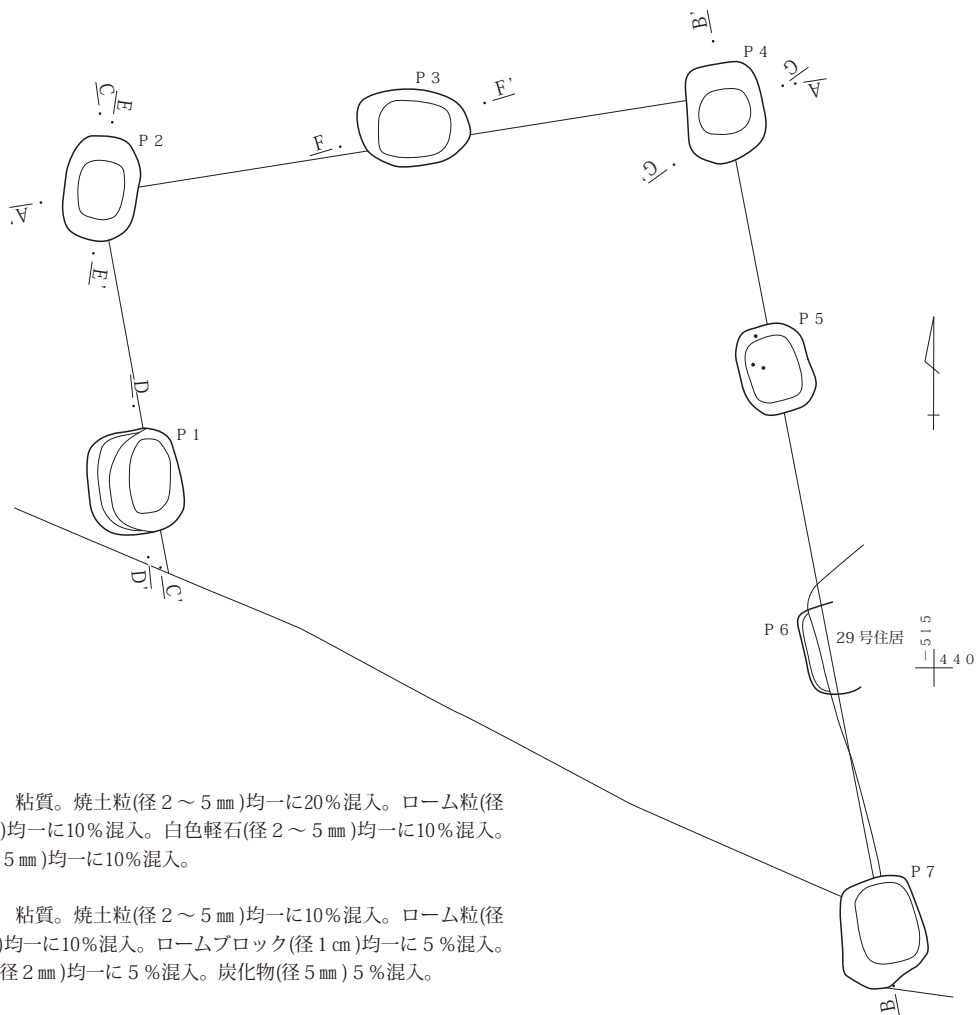
形状 南側部分が調査区域外におよんだため全体構造については把握できなかった。3間以上×2間(東辺の残長6.50m、北辺4.97m)の南北棟である。北辺中央のP 2はその配列からやや外方に外れてい

た。

柱 穴 1号・2号掘立柱建物と比較すると平面の規模、深さなどにばらつきが小さく、比較的均質であった。平面形は隅丸の長方形あるいは長円形である。長軸の長さは71から88cm、深さは40から69cmを

測った。P 1は掘り直しが図られた可能性がある。埋没土には暗褐色土が堆積していた。柱痕は認められなかった。個別表をいれること。

所 見 詳細な掘削時期は不詳である。

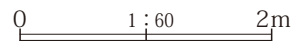
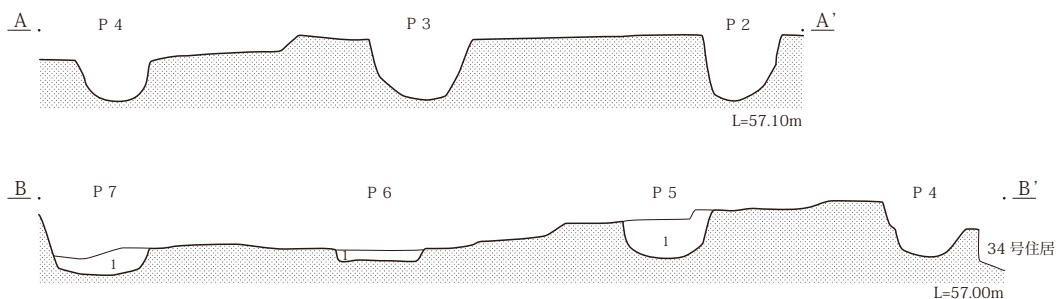


P 5・P 6

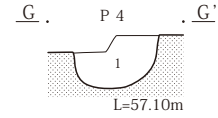
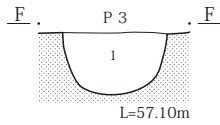
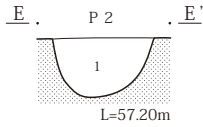
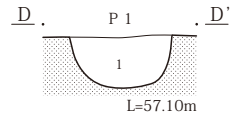
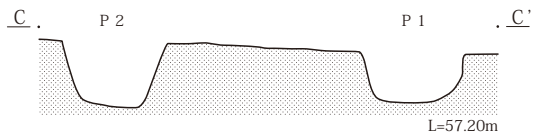
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2～5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に10%混入。

P 7

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2～5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2～5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径1cm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)5%混入。



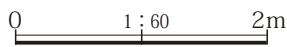
第349図 3区3号掘立柱建物1 平面



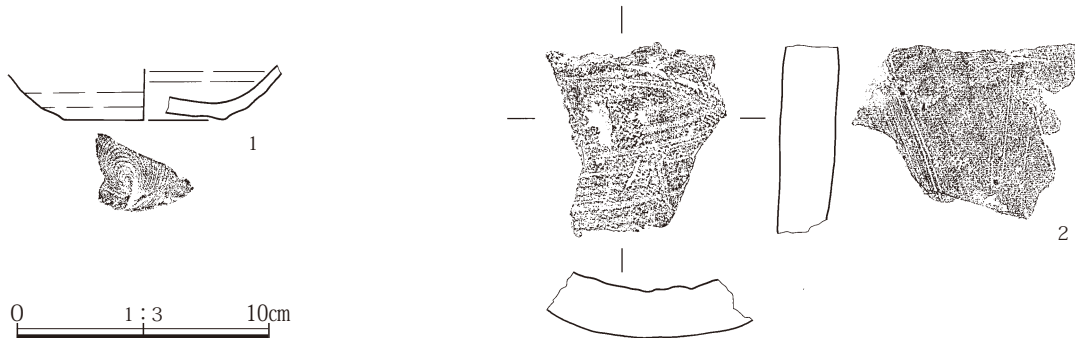
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に10%混入。

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。



第350図 3区3号掘立柱建物2 断面



第351図 3区3号掘立柱建物出土遺物 1-2

第10表 3区3号掘立柱建物計測値一覧

建物全体規模	3以上×2間			面積	計測不能	
主軸方向	N-10°-W			庇	無し	
桁・梁行の規模 (m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
東辺 (6.50)	P 1	81	72	40	長円形	2.31
南辺 -	P 2 224坑	83	58	52	隅丸長方形	2.53
西辺 (2.31)	P 3	88	60	46	隅丸長方形	2.44
北辺 4.97	P 4	78	61	43	隅丸長方形	2.06
	P 5	71	55	40	隅丸長方形	(2.33)
	P 6	(70)	-	11	隅丸長方形	2.18
	P 7	86	65	69	隅丸長方形	-

6区2号掘立柱建物 (第352図、P L 41)

位置 415、420-320、325

重複 36号土坑と重複する。

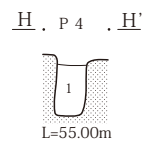
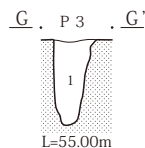
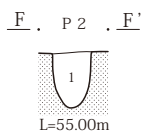
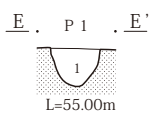
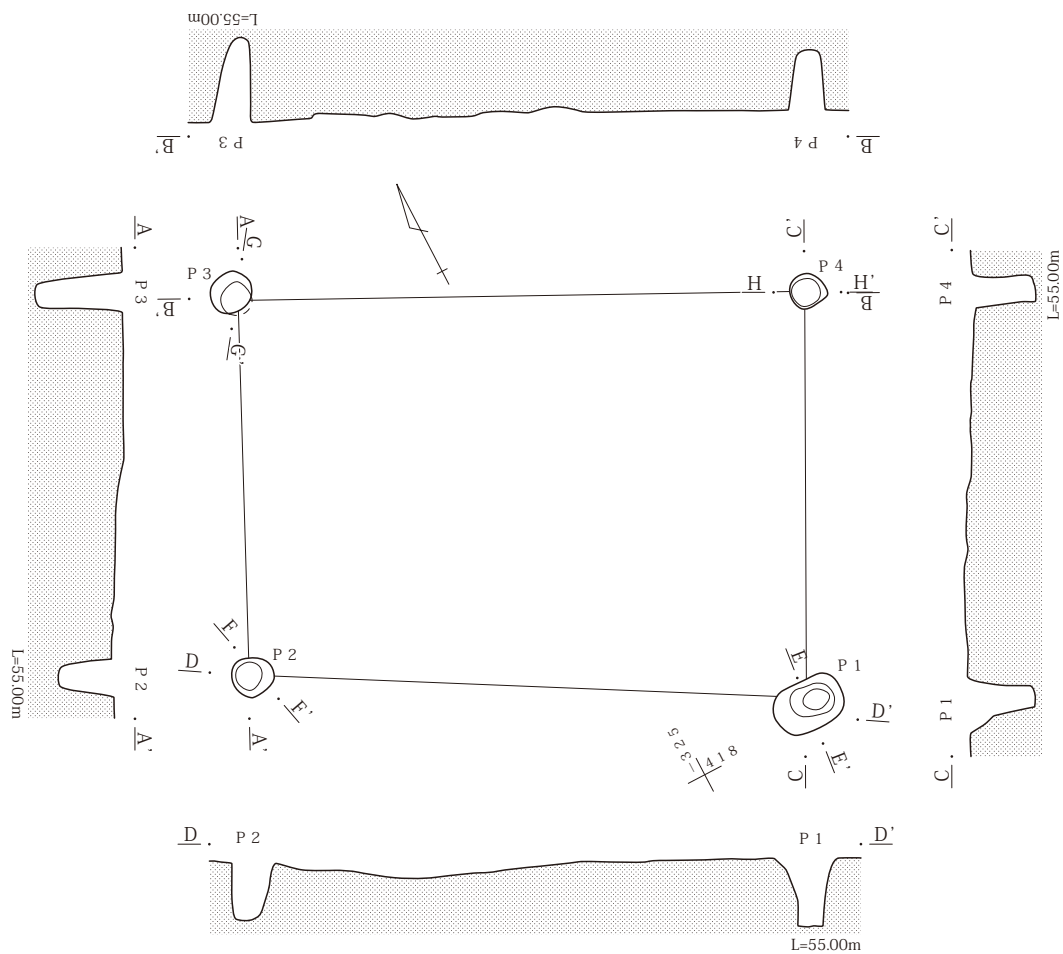
主軸方位 N-63°-W 面積 14.35㎡

形状 1×1間(南辺4.48m、東辺3.21m)の東西棟であると考えられる。全体の構造はやや歪んで

いる。

柱穴掘り込みはいずれもしっかりしていた。平面形は円形を基本としている。長軸の長さは26から56cm、深さは25から38cmを測った。埋没土については記載を漏らした。柱痕についても不詳である。

所見 詳細な掘削時期は不詳である。



1 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径5~10mm)混入。

1 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~2mm)5%混入。

1 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~5mm)5%混入。

1 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~10mm)5%混入。

0 1:60 2m

第352図 6区2号掘立柱建物

第11表 6区2号掘立柱建物計測値一覧

建物全体規模		1×1間		面積		14.35㎡	
主軸方向		N-63°-W		底		無し	
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(cm)			形状	次柱穴との間隔(m)	
		長径	短径	深さ			
東辺 3.21	P 1	56	38	55	長円形	-	
南辺 4.48	P 2	32	32	48	円形	-	
西辺 4.50	P 3	32	30	67	円形	-	
北辺 2.98	P 4	26	25	52	円形	-	

4 竪穴状遺構

概要

本遺構の呼称については調査時に付されたものをそのまま使用している。調査者として煮沸施設が検出できず、竪穴住居として断定することに躊躇した遺構に対する取り扱いを意図したものと考えられる。3区で2棟、4区で1棟、6区で1棟を検出した。

3区1号竪穴（第353図、P L 42）

位置 435-465

重複 2号竪穴に後出、7号溝に先出する。

主軸方位 N-33°-W（西壁）

形状 平面形は竪穴住居状の四角形を呈していた可能性が考えられるが、調査区の設定、他遺構との重複により、西壁とこれに続く南西隅を検出したに

とどまった。全体の構造は不明である。残存規模は南北4.00m、東西0.95mを測る。底面は確認面から10cm掘り込んで形成されていた。底面は概ね平坦であった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

所見 形状、規模から見ると竪穴住居の可能性も考えられるが、竈をはじめ住居と断定するための諸施設の検出もなかった。遺構の性格、掘削時期については不詳である。資料化するに足る遺物の出土はなかった。

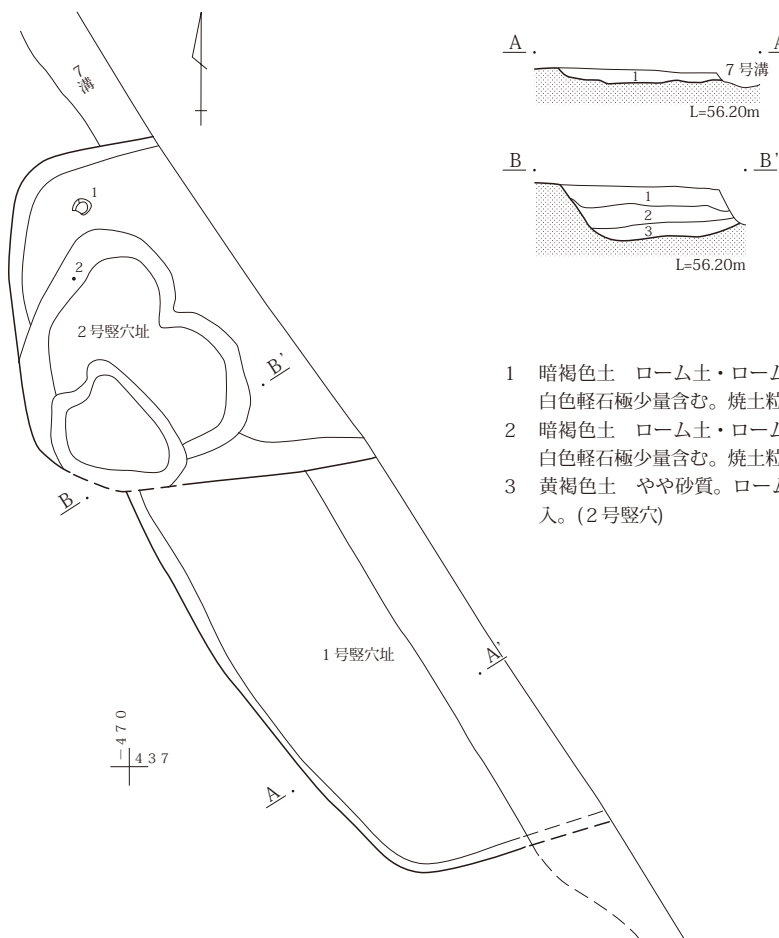
3区2号竪穴（第353・354図、P L 42・125）

位置 435、440-465、470

重複 1号竪穴、7号溝に先出する。

主軸方位 N-1°-W（西壁）

形状 東西方向に長軸を有する長方形の掘り込みである。四隅はやや丸みを呈していたものと考え



第353図 3区1号2号竪穴

られる。東側部分は、調査区の設定、7号溝との重複により検出できなかったため全体の構造は不明である。規模は南北2.77m、東西の残長2.68mである。底面は確認面から17cm程掘り込んで構築されていた。南西隅寄りには土坑状に掘り込まれていた。埋没土 上層に暗褐色土が、下層に黄褐色土が堆積していた。

遺物 北西隅寄り、床面から8cm離れた高さから須恵器杯1が出土している。

所見 小型の竪穴住居の可能性もあるが竈をはじめ住居と断定するための諸施設を検出することはなかった。遺構の性格は不詳である。掘削時期については出土した須恵器杯1の特徴から9世紀代の可能性が考えられるが断定することは困難と考えられる。



第354図 3区2号竪穴出土遺物 1-2

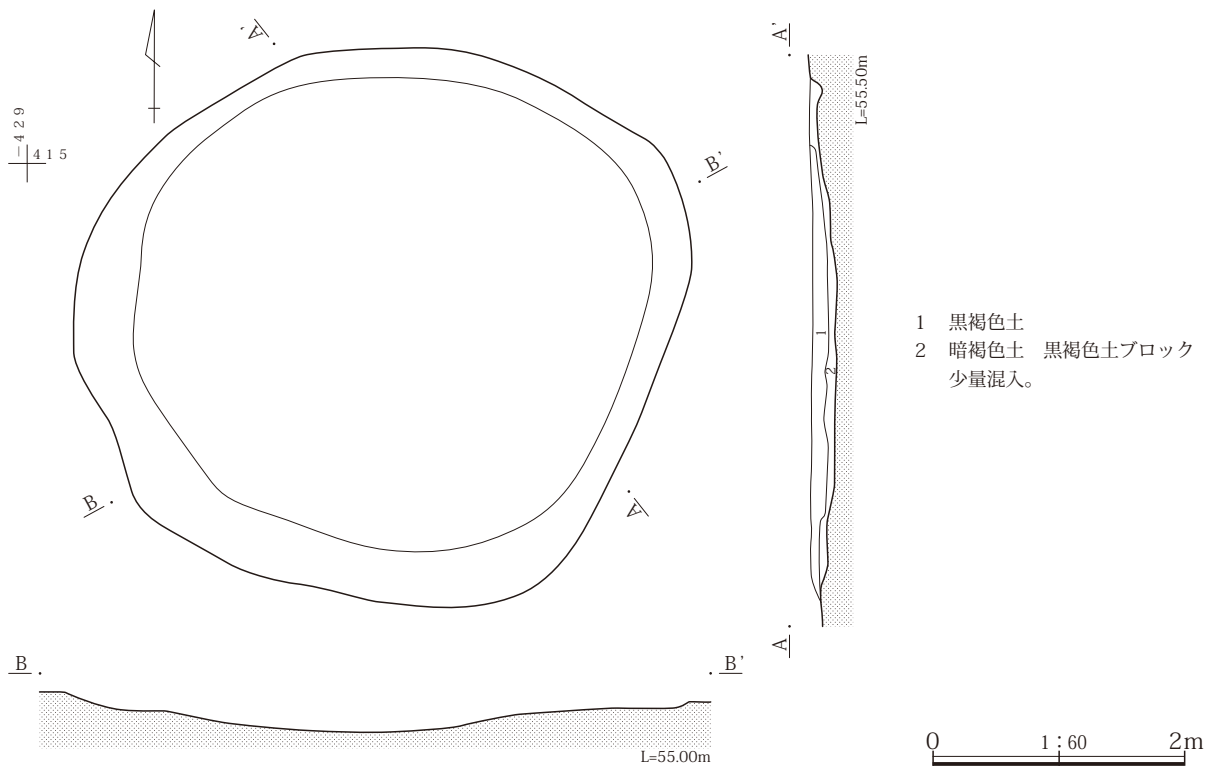
4区2号竪穴 (第355図、P L 42)

位置 410、415-420、425

重複

主軸方位 N-70° - E

形状 平面形は不整円形状を呈する。残存状況が不良で、上層からの削平を受けたためか掘り込みは



第355図 4区2号竪穴

浅く、壁面の立ち上がりは検出されなかった。底面は中央に向かって緩やかに下がっていた。規模は南北4.56m、東西4.80m、深さ20mを測る。

埋没土 黒褐色土、暗褐色土が堆積していた。

所見 平面形状、掘り込みの状況から竪穴住居とは考えがたい。遺構の性格、掘削時期については不詳である。埋没土中から縄文土器が出土している。

6区1号竪穴 (第356図、P L 42)

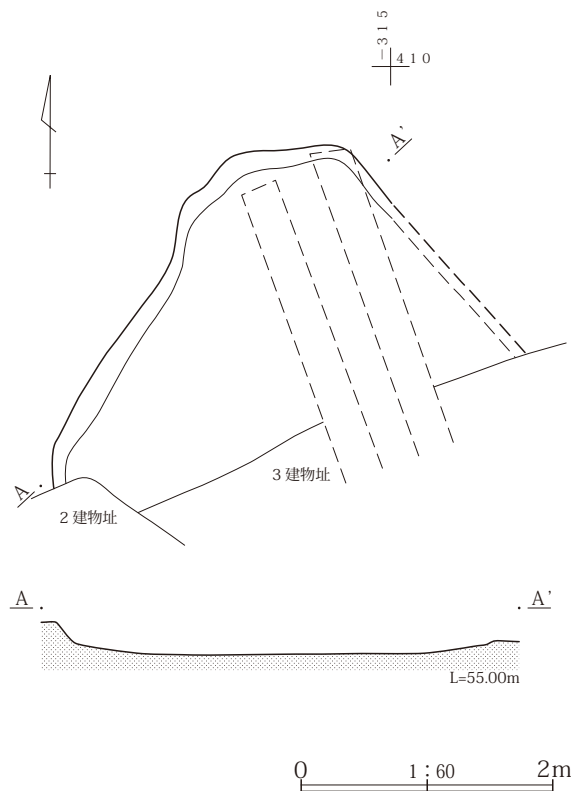
位置 405-310、315

重複 2号建物址、3号建物址に先出する。

主軸方位 不詳

形状 南側は2号・3号建物址との重複関係から検出することができなかった。平面形は不整形で、北東から南西に伸びる壁面とこれに続く底面を検出したにとどまった。全体構造は不明である。西辺の長さは約3.5mである。壁際おける確認面からの深さは12から15cmであるが、壁際から内側、3号建物に向かって10cm程下がっている。

所見 遺構の性格、掘削時期については不詳である。



第356図 6区1号竪穴

5 柵列

概要

4-1区で1条を確認した。ピットの形状からは柵列ではなく耕作痕、あるいは溝底部の残存痕のようにも考えられる。

4区1号柵列 (第357図、P L 42)

位置 430-415 ~ 435

重複 重複関係は認められない。

形状 東西方向に列をなすピット状の掘り込みを14基検出した。両端の間隔は直線距離で13.52mである。弱く蛇行するものの全体的には直線を指向しているように見える。東側から中央部分における列

の方向はE-5°-Nである。西側部分はほぼ東西方向である。

個々のピットは、平面形、規模、間隔とも統一性を欠いている。

柱穴 個々のピットの規模(長径×深さ)は以下のようなものである。P 1は27×10、P 2は18×3 cm、P 3は25×2 cm、P 4は32×5 cm、P 5は37×6 cm、P 6は55×2 cm、P 7は36×5 cm、P 8は20×2 cm、P 9は30×6 cm、P 10は42×2 cm、P 11は40×6 cm、P 12は38×4 cm、P 13は46(残長)×7 cm、P 14は32×5 cmである。埋没土は暗褐色土が堆積していた。

所見 詳細な掘削時期を知ることは困難であった。

6 土坑

概要

2面の調査で検出された土坑は294基である。調査時には338基を土坑として扱った。1面の場合と同様、整理作業時の検討から遺構として認定し難いものを除外して報告を行う。これらの土坑は、一部については住居や溝などと同様、個別に調査結果を掲載するが、その他は全体を一覧表にまとめて掲載した。個々の形態、規模などについてはこれを参照願いたい。

3区の概要

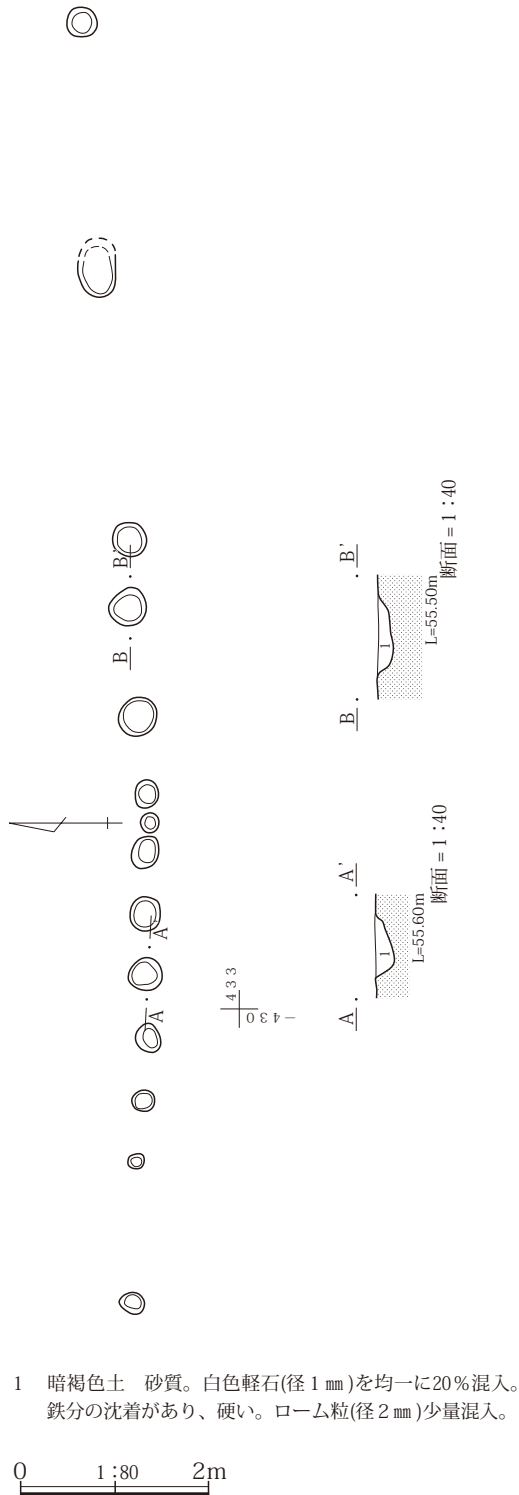
3区では190基を検出した。調査時に土坑として認定、番号を付した数量は252基であったが、後日、掘立柱建物を構成する柱穴に変更されたものが13基ある。また、45基については整理作業時に遺構の扱いから除外をした。

検出状況を見ると調査区のほぼ全域に分布しているものの、濃淡の差が見られた。調査区の西半部分は住居が多数検出され、掘立柱建物の存在も確認された部分であるが、この部分から多数の検出があった。ピットの検出状況も土坑と同様であった。東半部分は全体的に希薄であった。-470ライン以東ではピットが多数検出されたものの、土坑の検出数は4基であった。

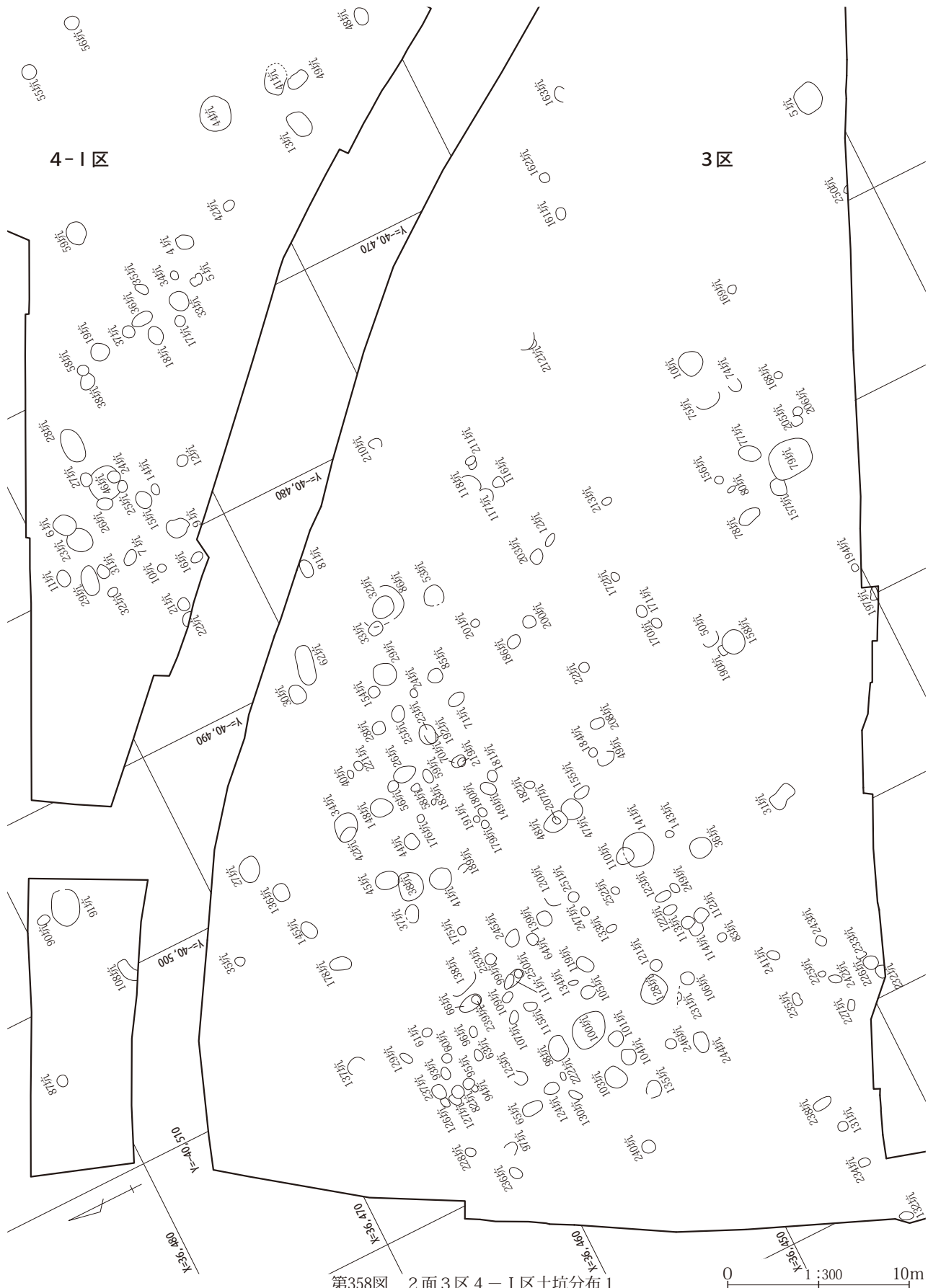
平面形状を見ると円形あるいは長円形の事例が多数見られた。四角形を基本とするものは少数である。23号が底面の形状を見るとその可能性が考えられる。

規模については長軸の計測できた事例142基の平均値は83cmであったが、長軸100cm以下が142基を数えた。62号、79号、80号、86号、100号の5基が長軸200cmを越える事例である。

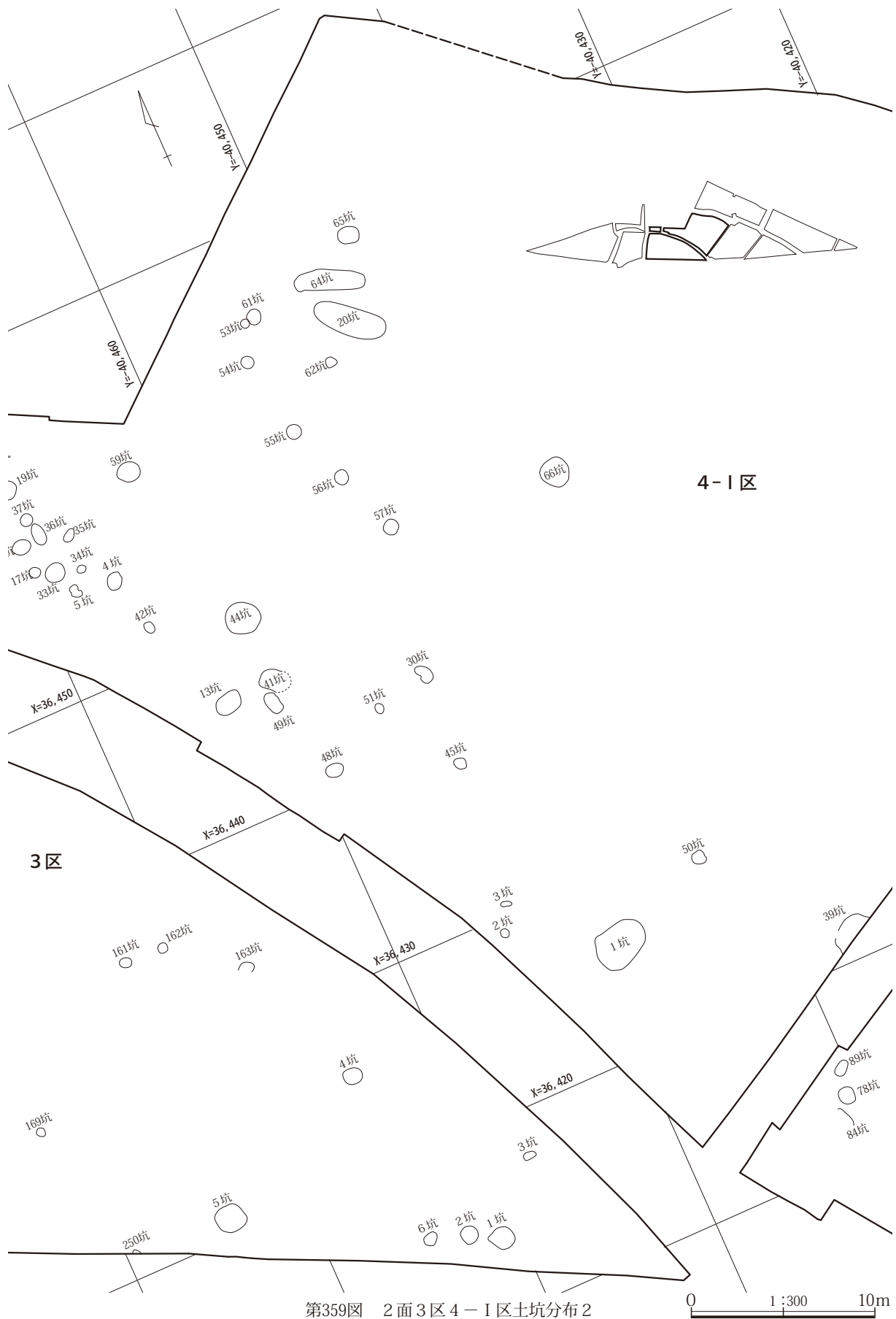
一部を除き、掘り込みは浅く、断面形は、凸レンズ状を呈するものが大半であった。44号、157号、250号のように、深く、壁面の立ち上がりが明瞭な事例は少数である。埋没土は、大半が1層からなり、

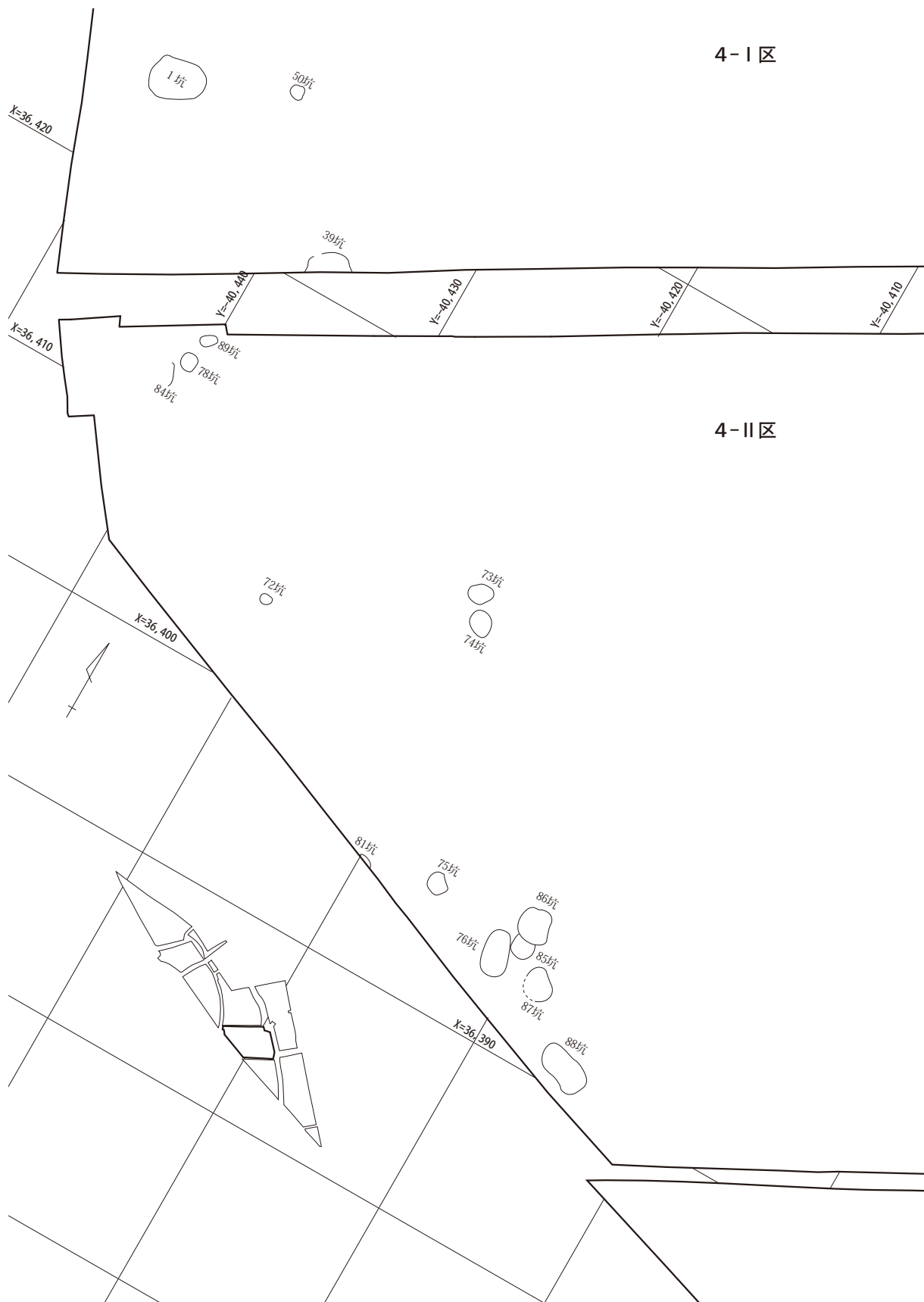


第357図 4区1号柵列



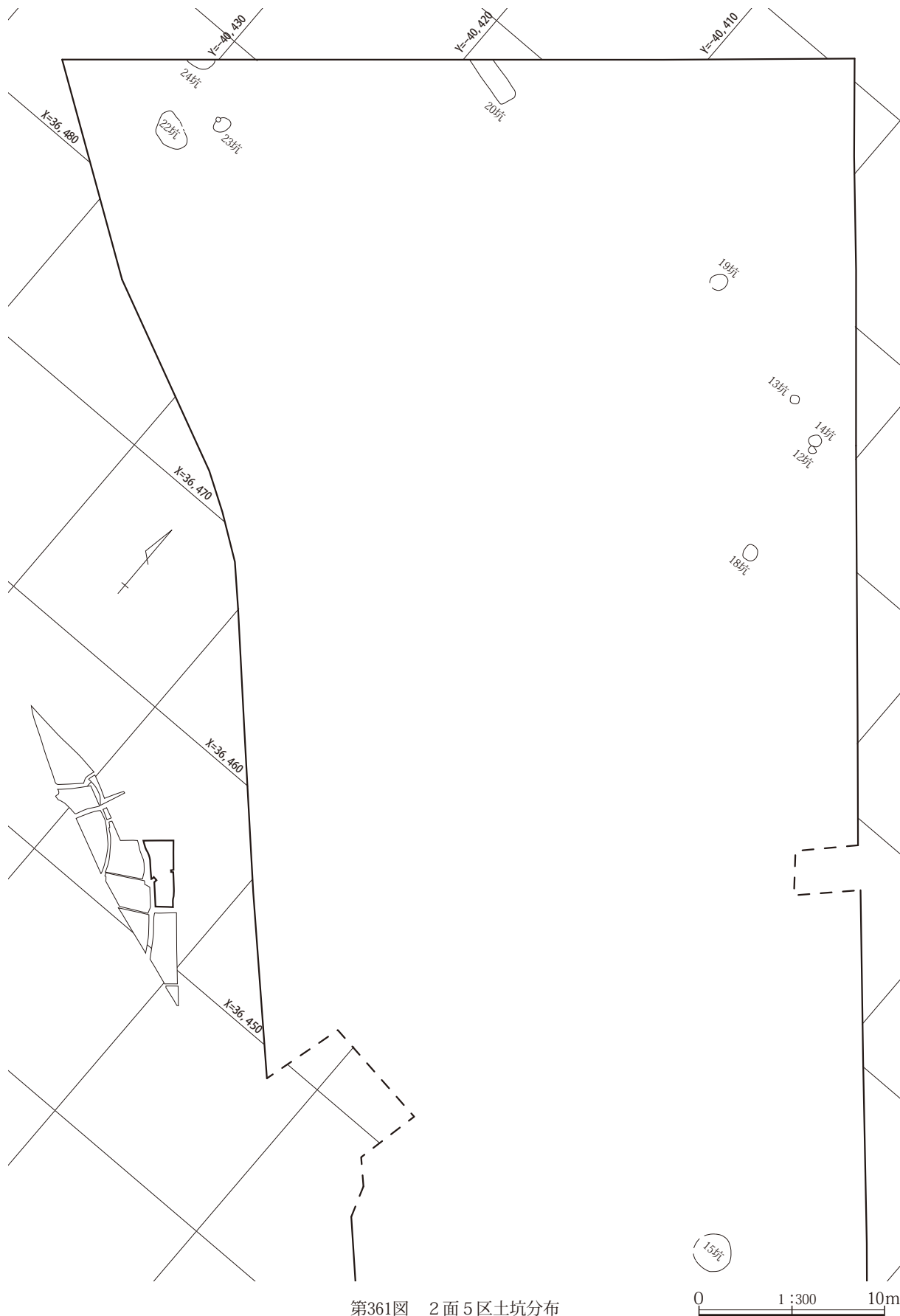
第358图 2面3区4-I区土坑分布1



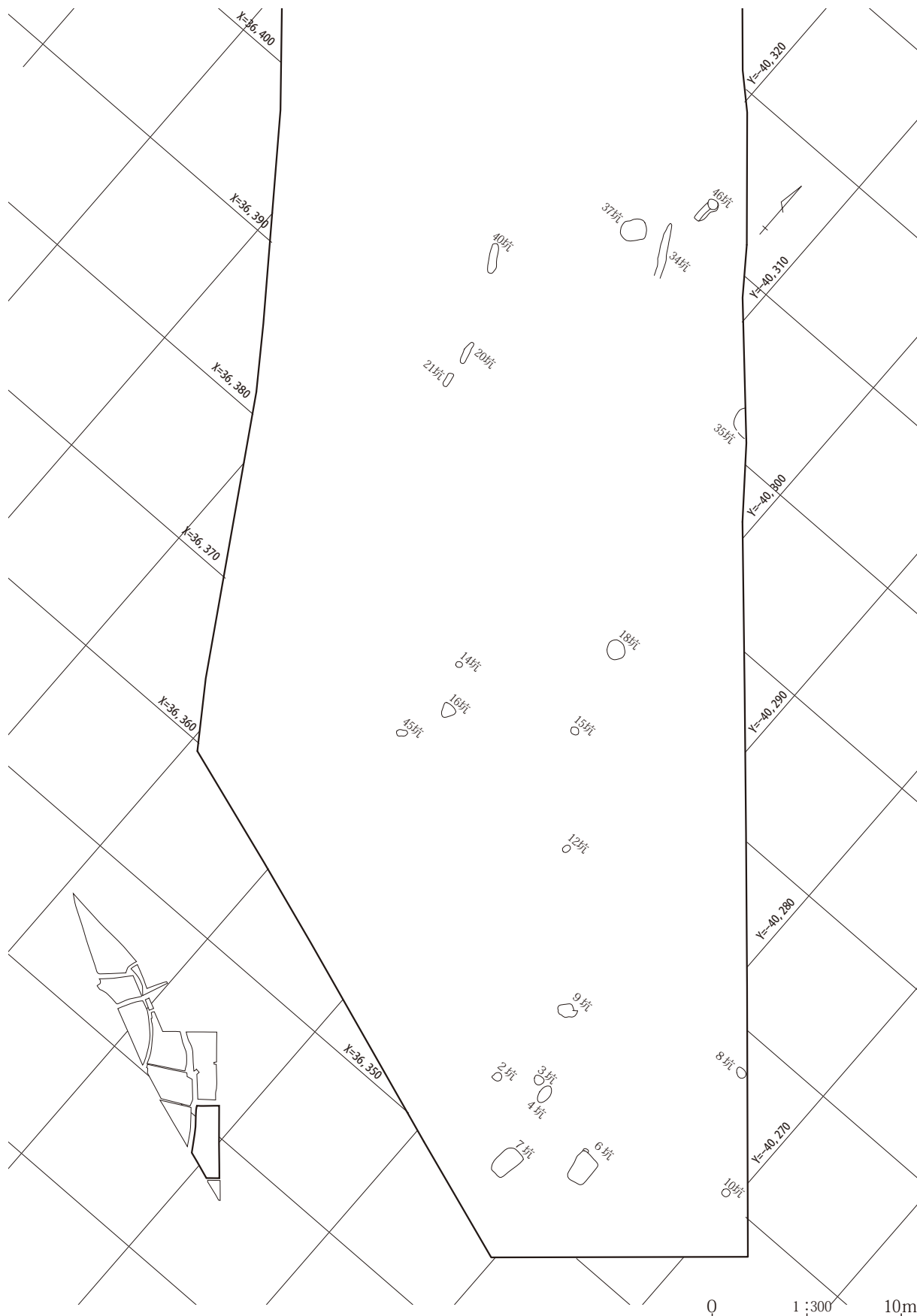


第360图 2面4-II区土坑分布

0 1:300 10m



第361图 2面5区土坑分布



第362图 2面6区土坑分布

暗褐色土あるいは黒褐色土が堆積しているものが主体的であった。

個別に報告するものは10号、23号、34号、38号、79号、148号、157号、250号の8基である。

4区の概要

4区では72基を検出した。調査時に土坑と認定した数量は49基である。4-I区で31基、4-II区で10基である。4-III区では検出されなかった。4-I区における45号、47号、50号、51号の4基については住居群確認面の下層で検出された7号溝を初めとした溝群の調査時（ここでは確認面下面）に検出したものである。41号、49号もその可能性が考えられる。その他の25基は住居群と同一面（確認面上面）からの検出である。

4-I区の確認面上面は調査区の西側から東側に向かって緩やかに傾斜していた。検出した土坑は調査区の西側に多く見られ、標高56.70mの等高線の西側に分布が集中していた。特に、-465ライン以西に集中する傾向が見られ、東側に移るにつれて希薄な状況にある。これはピットの検出状況とほぼ同様である。

住居や溝と重複関係にあるものも多くあるが前後関係が判然としないものが大半であった。調査時の所見によれば24号から27号は46号土坑と重複しており、4区で検出された土坑群の掘削が複数時期におよんでいることが分かる。

4-II区では中央を東西方向に横断する36号溝以南に分布が見られ、特に調査区南端に沿うように検出された。こちらもピットの分布と概略重なっている。

4区で検出された土坑は、形状、規模、長軸の方向などにおいて特段の共通点を見いだせるような状況にはなかった。一部を除き、掘り込みは浅く、断面形は凸レンズ状を呈するものが大半で、壁面の立ち上がりが明瞭な事例は少数である。埋没土は、大半が1層からなり、暗褐色土あるいは黒褐色土が堆積しているものが主体的であった。

個別に報告をするものは6号、16号、46号、62号の4基である。

5区の概要

5区では11基を検出した。調査時に10号、16号17号、21号の4基については整理作業時に除外した。22号土坑については個別に報告する。

これらは、調査区の北東部分、18号溝の近接地で12号から14号、18号から20号の6基を、北西部分から22号、南東部分で11号、15号の2基を検出した。いずれも散在的である。

18号溝の東側にはピットの分布が認められたが、12号から14号の掘り方もピット状を呈していた。

14号、18号、19号は平面形が円形あるいは長円形を呈していた。埋没土に共通性は認められない。15号土坑は、平面形が他よりも大型の円形を呈していた。断面形は上位が大きく外傾するものである。21号土坑は、平面形が長軸の長い長方形である。形状とすると近世以降にも多く見られるものであるが2面からの検出である。

6区の概要

6区では21基を検出した。17号、31号、41号、43号、44号の5基については整理作業時に除外した。

調査時にこれらの土坑は調査区の南半部分の南側に8基、北側に6基、北半部分の中央に5基とややまとまって分布する傾向が見られたが、それぞれにおいては他の調査区同様、形状、規模、長軸の方向などに規則性、共通性を見出し難いものであった。

南半部分、南側で検出された2号、3号、10号は平面形が円形を基本としている。4号、8号は長円形である。7号は平面形が隅丸の長方形を呈しており、直立気味に立ち上がる壁面を有していた。埋没土は底面近くに黄褐色土をそれより上位には暗褐色土が堆積、混入物により分層された。同様のものは遺跡全体を見渡しても類例は少ない事例である。

南半部分、北側では自然流路の東側縁辺で16号・42号の2基を検出した。これより東側で検出した12

号他の4基は散在的な分布状態であった。埋没土は暗褐色土や黒褐色土である。

北半部分では20号、21号、40号が長軸の規模が大きいものであった。34号は溝と呼称しても違和感のないものである。35号は全掘されていないが、やや規模が大きく、平面形は長円形または隅丸長方形を基本としていたものと考えられる。他は、平面形が円形あるいは長円形の掘り込みである。埋没土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土などで特記に値するものではない。

3区10号土坑 (第364図、P L 43)

位置 430-480

重複 6号、7号住居と重複する。

長軸方位 N-47° -W

形状 調査区の東半部分に位置する。周辺には土坑は少ない。平面形は円形を基本とするが、形状は乱れている。規模は長軸141cm、短軸132cmを測る。深さは12cmで、残存状態は不良である。壁面は皿状に立ち上がる。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 底面直上から埋没土中にかけて土器片が出土している。須恵器杯1・3・4、椀2を資料化した。

所見 住居の掘り方の可能性も考えられるが判然としなかった。掘削時期は不詳である。

3区23号土坑 (第364図、P L 43)

位置 455-495

重複

長軸方位 N-85° -E

形状 調査区の北西部分に位置する。周辺には土坑、ピットが多く見られる。平面形はやや隅丸の長方形を基本とするが上端は崩落のためか長円形を呈している。規模は長軸115cm、短軸86cmを測る。深さは45cmで、壁面は斜め上方に向かって立ち上がる。

埋没土 暗褐色土1層が堆積する。

遺物 出土していない。

所見 掘削時期は不詳である。

3区34号土坑 (第365図、P L 43・125)

位置 460-495

重複 17号、30号住居、33号住居に先出し、42号土坑に後出する。

長軸方位 N-78° -W

形状 調査区の北西部分に位置する。周辺には土坑、ピットが多く見られる。平面形は長円形を基本とするが、形状はやや乱れている。規模は長軸155cm、短軸125cmを測る。深さは19cm、壁面は外傾して立ち上がる。

埋没土 暗褐色土1層が堆積する。

遺物 底面から2・3cm離れた出土した須恵器杯1、椀2・3を資料化した。

所見 掘削時期は不詳である。

3区38号土坑 (第365図、P L 44・125)

位置 455-500

重複 279号、280号ピットと重複する。

長軸方位 N-88° -E

形状 調査区の北西部分に位置する。周辺には土坑、ピットが多く見られる。平面形は長円形を基本とするが形状はやや乱れている。規模は長軸150cm、短軸132cmを測る。深さは27cm、壁面は外傾して立ち上がる。

埋没土 暗褐色土が堆積する。2層に分層される。

遺物 底面から上方、2から18cm離れた高さから土器が出土した。須恵器杯1、土師器杯2・3、甕4を資料化した。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

3区79号土坑 (第367図、P L 44・125)

位置 430-490

重複

長軸方位 N-0°

形状 調査区の東半部分の南側寄りに位置する。平面形は隅丸の長方形を原形としたと考えられる形状はやや乱れている。規模は長軸234cm、に対し短軸200cmと横幅を有するものであった。深さは24cm、南壁はだらだらとして立ち上がる。

埋没土 暗褐色土、1層が堆積していた。

遺物 南側を中心に底面から上方、2から14cm離れた高さから土器が出土している。土師器杯1・2を資料化した。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

3区141号土坑 (第372図、P L 46・126)

位置 445-505

重複 110号土坑に後出、86号住居、188号土坑に先出する。

長軸方位 N-85°-W

形状 調査区の南西部分に位置する。周辺には土坑、ピットが多く見られる。平面形は円形を呈している。規模は長軸180cm、短軸170cmを測った。深さは29cm、壁面は斜め上方に向かって立ち上がる。

埋没土 暗褐色土、1層が堆積していた。

遺物 北西部分を中心に多数の土器が出土した。須恵器杯3・4・2、椀5は底部を上にして重なって、須恵器椀6・7は口縁部を上に入れ子状になって出土した。これらと近接して検出された須恵器杯1、椀8は口縁部を上にしていた。いずれも床面から20cm程離れたの出土である。他に須恵器甕9、壺10も資料化した。

所見 掘削時期は平安時代と考えられる。

3区148号土坑 (第373図、P L 46・126)

位置 455-495

重複 17号住居、214号、217号土坑に後出する。351号ピットと重複する。

長軸方位 N-22°-E

形状 調査区の北西部分に位置する。周辺には土坑、ピットが多く見られる。平面形は卵形を呈していた。規模は長軸125cm、短軸100cmを測る。深さは41cm、壁面は直立気味に立ち上がる。

埋没土 暗褐色土、2層が堆積していた。

遺物 東壁寄りの底面から5cm離れた高さから須恵器杯1が出土した。埋没土中から出土した土錘2とともに資料化した。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

3区157土坑 (第373図、P L 46)

位置 430-490

重複 79号土坑と重複するか。

長軸方位 N-22°-E

形状 調査区の中央部分南側寄りに位置する。平面形は円形を呈していた。規模は長軸125cm、短軸122cmを測る。深さは74cmが残存していた。壁面は底面から約40cm上方に最大径を有する。その規模は長軸123cm、短軸117cmである。

埋没土 暗褐色土が堆積、3層に分層された。礫が多く含まれていた。

遺物 埋没土中から須恵器甕1が出土している。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

3区250号土坑 (第379図、P L 47)

位置 455-505

重複 74号住居、111号土坑に後出する。

長軸方位 N-0°

形状 調査区の西側部分に位置する。平面形は長円形を呈していた。規模は長軸55cm、短軸50cmを測る。深さは72cmが残存していた。確認面の直径よりも底面の直径のほうが大きく、断面形は袋状を呈している。底面の長軸は73cm、短軸は64cmである。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 埋没土中から多数の礫とともに須恵器杯1、蓋2が出土している。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

4区6号土坑 (第380図、P L 48・126)

位置 465-475

重複 23号土坑、55ピットに後出する。15号溝と重複する。

長軸方位 N-34°-E

形状 4-I区の北西部分に位置する。平面形は長円形を呈していた。規模は長軸132cm、短軸104cmを測る。深さは13cmの残存で。断面形は浅い皿状を呈していた。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 壁面の立ち上がりから底面の広い範囲にわたり土器が出土している。底面からの高さは3から11cm離れていた。須恵器杯1・2、土師器甕3、土

錘4を資料化した。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

4区16号土坑 (第380図、P L 126)

位置 460-480

重複 重複関係は認められない。

長軸方位 N-14° -W

形状 4-I区の北西部分に位置する。平面形はやや形の乱れた長円形を呈していた。規模は長軸75cm、短軸53cmを測る。深さ7cmが残存していた。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 底面から上方、7から10cm離れて出土した須恵器椀1、杯2、土師器台付甕3、甕4を資料化した。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

4区46号土坑 (第383図、P L 49・50・126)

位置 465-475

重複 24号から27号土坑に先出する。

長軸方位 N-85° -E

形状 4-I区の北西部分に位置する。底面の平面形は長円形を呈していた。確認面においては隅丸四角形に近い。規模は長軸262cm、短軸233cmを測る。深さ131cmが残存していた。断面形は、上方に向かって弱く外傾して立ち上がる。底面から上方約30cmの位置には段状の変換点が見られる。

埋没土 上層に暗褐色土が、中層から下層ににぶい黄褐色土がレンズ状に堆積していた。埋没土中には長さ20cm程の礫も多数含まれていた。

遺物 上層を中心に須恵器、土師器、土錘などが多数出土した。須恵器杯9点、椀3点、甕4点、壺1点、土師器甕1点、小型甕2点、台付甕1点、土錘7点を資料化した。鹿骨も出土している

(第3章第3節参照)。

所見 井戸の可能性も考えられる。掘削時期は平安時代と考えられる。

4区62号土坑 (第384図、P L 51・127)

位置 460-450

重複 重複関係は認められない。

長軸方位 N-90° -E

形状 4-I区の西側部分に位置する。平面形は不整形を呈していた。規模は長軸62cm、短軸55cmを測る。深さは12cmの残存で。断面形は浅い皿状を呈していた。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 掘り込みの中央、底面に貼りついた状態で須恵器杯1が出土している。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

5区22号土坑 (第386図、P L 53・127)

位置 480-425

重複 重複関係は認められない。

長軸方位 N-47° -W

形状 調査区の北西側部分に位置する。平面形は長円形に近い不整形を呈していた。規模は長軸183cm、短軸135cmを測る。深さは17cmと残存状態は不良であった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。炭化物を多量に含んでいた。

遺物 掘り込みの中央部分から多数の土器が出土している。底面からは10cm以上離れて出土している。この中から須恵器杯1から4、須恵器椀5、甕8、土師器甕7、台付甕6を資料化した。

所見 掘削時期は平安時代の可能性がある。

5区23号土坑 (第386図)

位置 485-425

主軸方位 N-24° -E

形状 南北方向に長軸を有する長円形を呈する。掘り込みは浅く、底面は平坦であった。壁面の被火熱の度合については不詳である。規模は長径0.88m、短径0.63m、深さ7cmである。

埋没土 焼土粒を含む褐灰色土が堆積、底面に少量の灰が見られた。

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 調査時、5区1号屋外炉として呼称、調査された遺構である。遺構の性格、詳細な掘削時期は不詳である。

5区24号土坑 (第386図、P L 127)

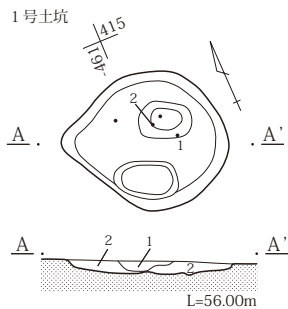
位置 485-430

主軸方位 計測不能

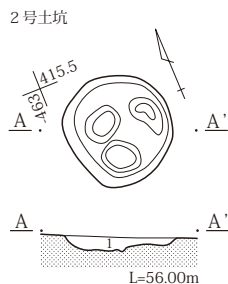
形状 北側部分が調査区域外におよぶため全体の形状を把握することはできなかった。検出部分から長円形を呈していたと考えられる。底面の一部はピット状に下がっていた。壁面の被火熱の度合については不詳である。東西の残存長は1.05mである。検出部分では壁面の残存は認められなかったが、土層の堆積状況から深さ14cmの掘り込みが確認された。埋没土 焼土、炭化物を含む褐灰色土が堆積していた。

遺物 埋没土中から須恵器杯1、土師器甕2・3が出土している。

所見 調査時、5区2号屋外炉として呼称、調査された遺構である。遺構の性格、詳細な掘削時期は不詳である。



- 1 暗褐色土 ローム土少量含む。炭化物・焼土粒も少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量含む。焼土粒も少量含む。



- 1 暗褐色土 ロームブロック(径50mm前後)多量に混入。

6区46号土坑 (第388図)

位置 410-315

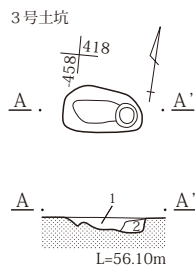
主軸方位 N-3°-E

形状 ピット状の掘り込みと柄杓の柄状をした長方形の掘り込みが結合したような形状である。土層の観察から2遺構が重複したのではなく、単一の遺構であることが判明した。長方形部分は西側に比して東側の壁面が大きく外傾して立ち上がるものであった。規模は長さ1.94m、ピット状部分の長径0.93m、深さ43cm、長方形部分の幅0.65m、深さ8から18cmであった。

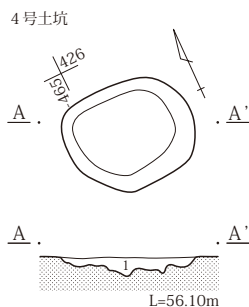
埋没土 ピット状の掘り込み部分の上層に焼土、炭化物の混入が認められた。それ以外には暗褐色土が堆積していた。

遺物 埋没土中から19点の遺物が出土しているが小破片のため資料化に足るものではなかった。

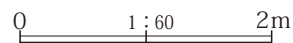
所見 調査時、6区屋外炉として呼称、調査された遺構である。壁面は特段、火熱を受けた様子は認められなかった。性格、詳細な掘削時期は不詳である。



- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。炭化物・焼土粒も少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径50mm前後)多量に混入。

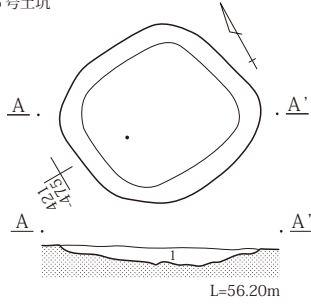


- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5~40mm)中量混入。白色軽石少量含む。焼土粒も極少量含む。



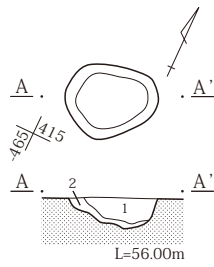
第363図 2面3区土坑1 1-4号

5号土坑



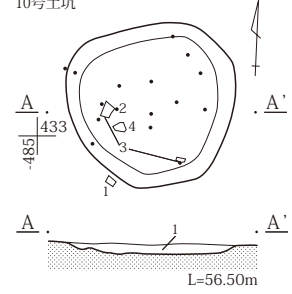
1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石極少量含む。炭化物・焼土粒も極少量含む。

6号土坑



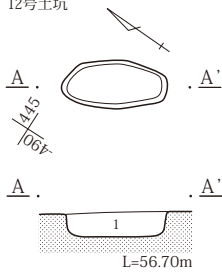
1 黒褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石も極少量含む。焼土粒も極少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック(径5~40mm)少量含む。

10号土坑



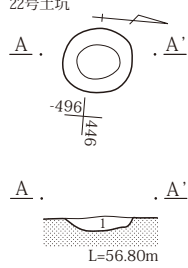
1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2~5mm)を均一に20%混入。炭化物(径2~5mm)を均一に10%混入。白色軽石(径2mm)を少量混入。

12号土坑



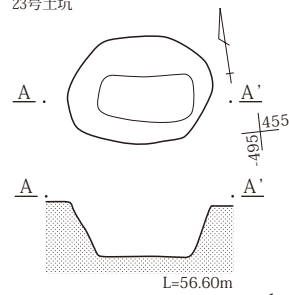
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。

22号土坑



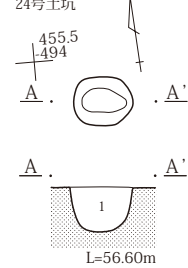
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1~5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)少量混入。焼土粒(径1mm)微量混入。

23号土坑

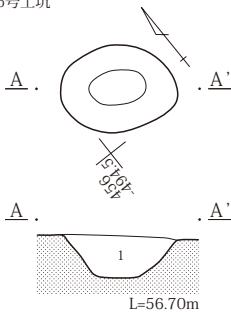


1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)少量混入。炭化物(径5mm)・焼土粒(径2mm)微量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。

24号土坑

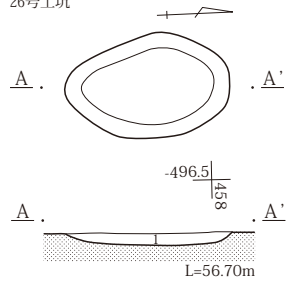


25号土坑



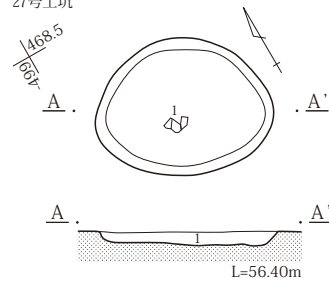
1 暗褐色土 白色軽石少量混入。焼土粒・炭化粒も極少量含む。

26号土坑



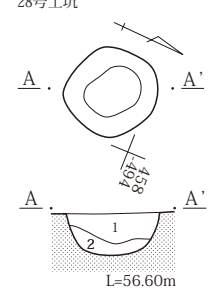
1 暗褐色土 白色軽石少量混入。焼土粒・炭化物少量含む。

27号土坑



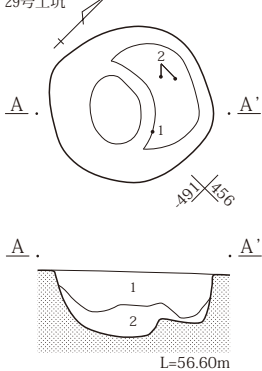
1 暗褐色土 ロームブロック(径5mm前後)極少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒も少量含む。

28号土坑



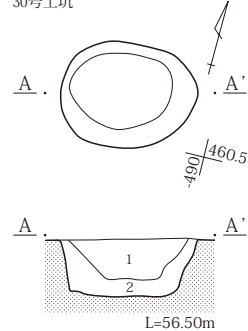
1 暗褐色土 白色軽石少量混入。焼土粒極少量含む。
2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径20~40mm)少量混入。

29号土坑

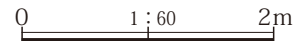


1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)極少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒も極少量含む。
2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径5~40mm)少量混入。

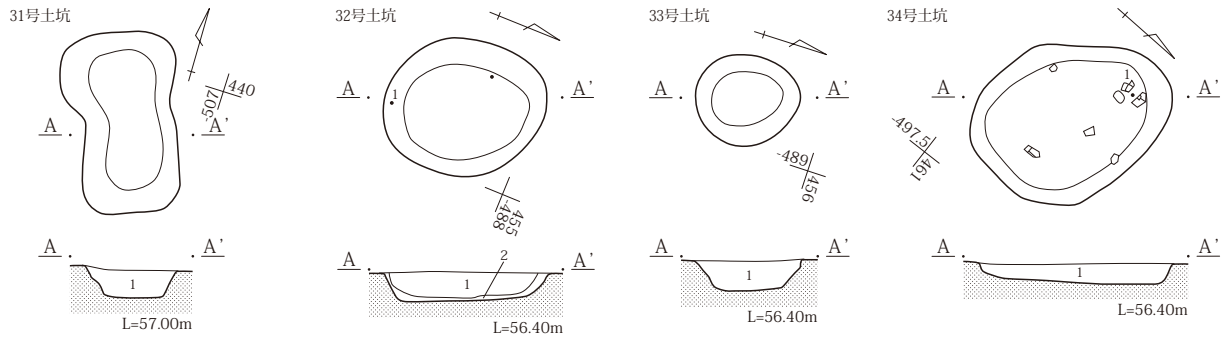
30号土坑



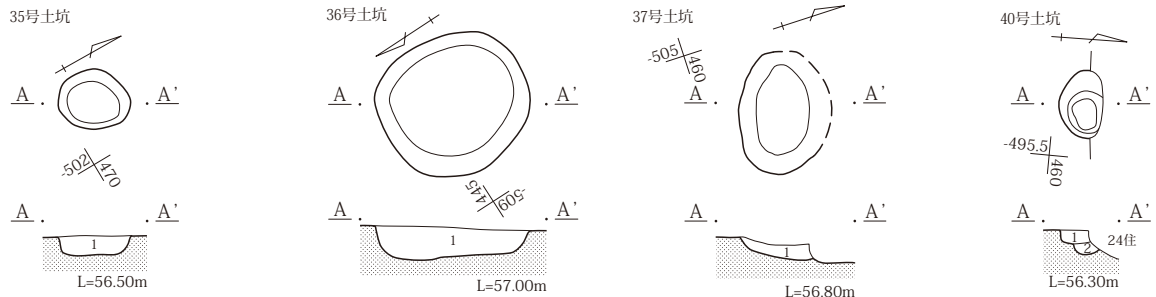
1 暗褐色土 ロームブロック(径5~50mm)中量混入。焼土粒も極少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。



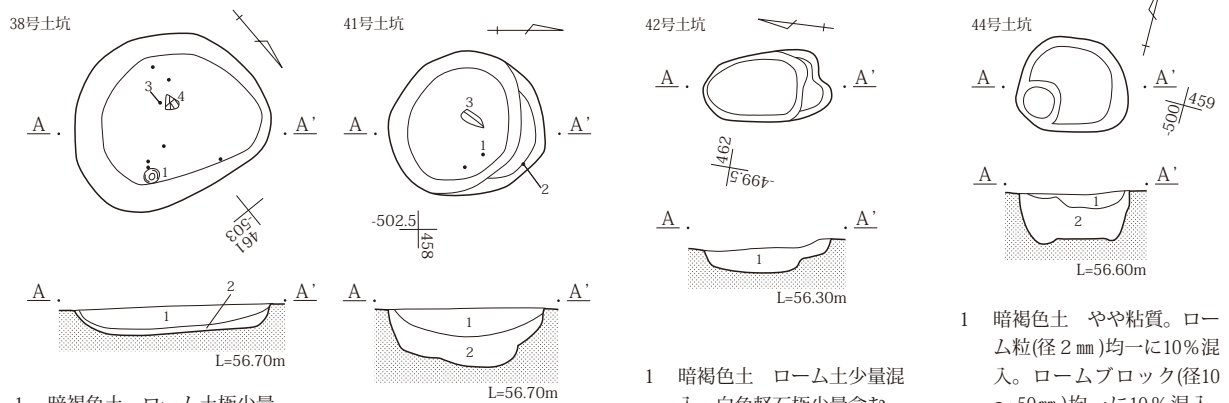
第364図 2面3土坑2 5-30号



- 1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2mm)微量混入。ロームブロック(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)少量混入。
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。ローム粒(径5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)均一に10%混入。
- 2 ロームを貼った層。
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%含む。ローム粒(径2~5mm)均一に20%含む。白色軽石(径2mm)均一に10%含む。炭化物(径5mm)少量含む。



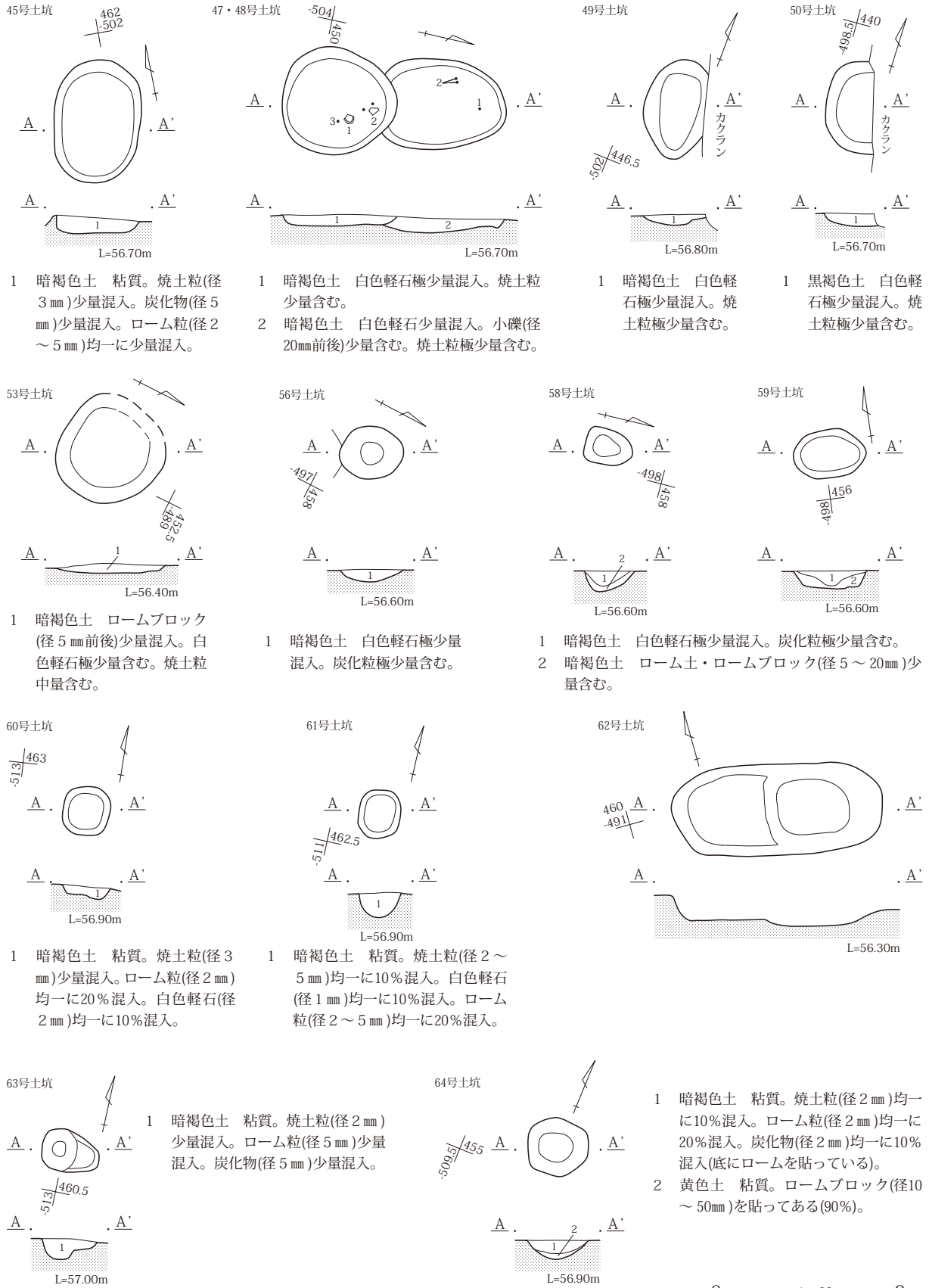
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。白色軽石極少量含む。
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。
- 1 暗褐色土 ローム土極少量混入。焼土粒・炭化物も少量含む。
- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径5~20mm)少量混入。



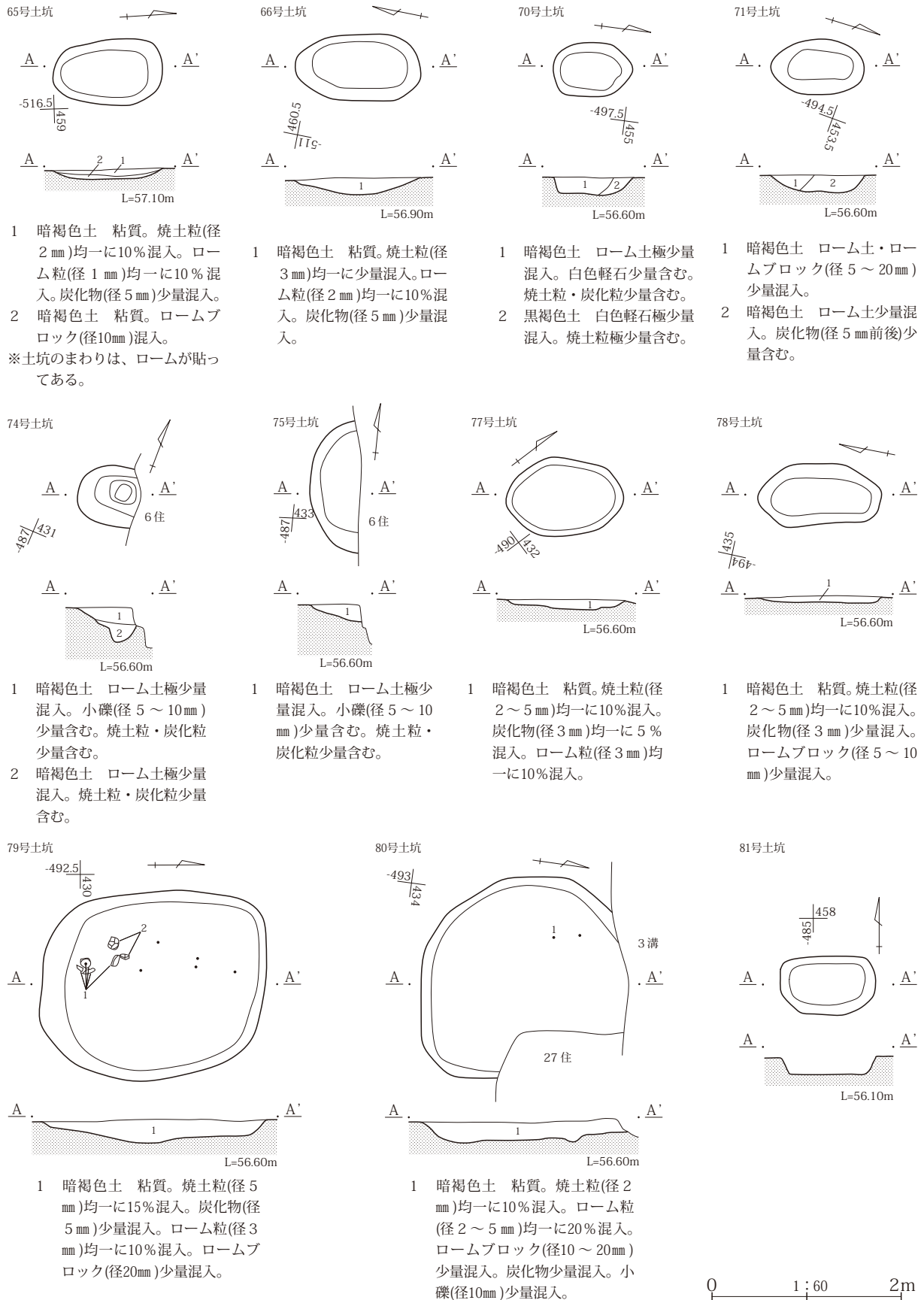
- 1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石極少量含む。焼土粒も極少量含む。炭化物(径5mm前後)少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径20mm前後)少量混入。
- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石少量含む。炭化物(径5mm前後)少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5~30mm)少量混入。
- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。※33号住居 42号土坑との切り合いは、42号土坑の方が新しく掘り間違い42号土坑より8c後半頃と思える。須恵器の坏の底部が出た。
- 1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10~50mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量含む。焼土粒(径2mm)少量含む。
- 2 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2mm)少量含む。ロームブロック(径10mm)少量含む。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。炭化物(径5mm)少量混入。



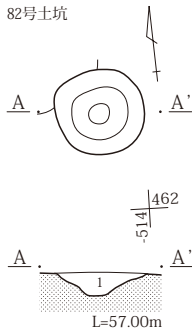
第365図 2面3区土坑3 31-44号



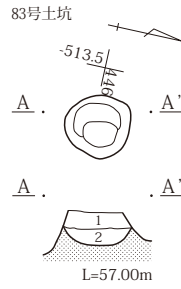
第366図 2面3区土坑4 45-64号



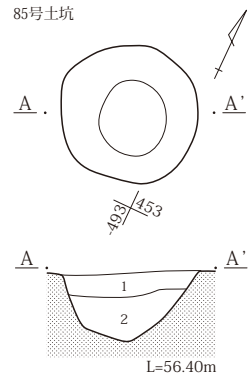
第367図 2面3区土坑5 65-81号



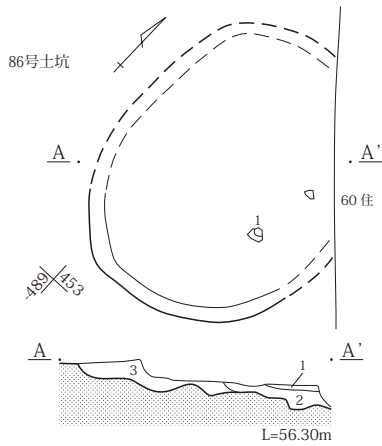
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に15%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)均一に10%混入。



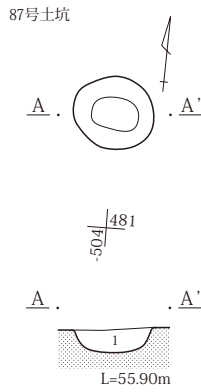
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。
2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。



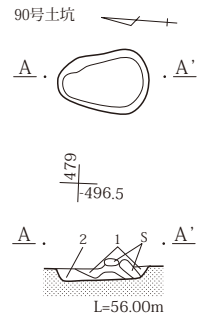
- 1 暗褐色土 白色軽石少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)少量含む。
2 暗褐色土 ローム土少量混入。焼土粒少量含む。



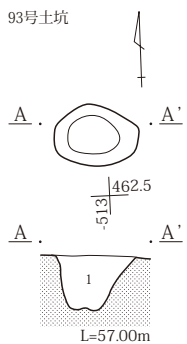
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。焼土ブロック(径5mm前後)中量含む。炭化物(径5mm前後)中量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック(径20mm前後)中量混入。
3 暗褐色土 ローム土極少量混入。焼土粒極少量含む。白色軽石極少量含む。



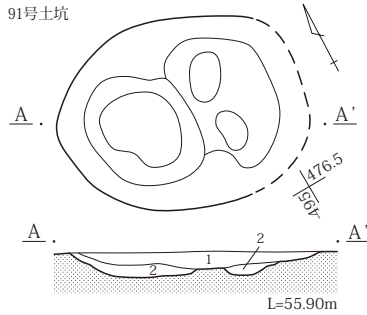
- 1 灰黄褐色土 粘質。白色軽石少量混入。



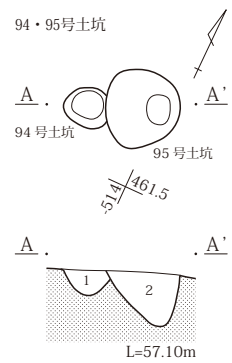
- 1 灰黄褐色土 砂質。ローム土少量混入。白色軽石少量含む。
2 灰黄褐色土 砂質。ロームブロック(径5~20mm)中量混入。



- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。



- 1 暗褐色土 砂質。白色軽石少量混入。焼土粒極少量含む。
2 暗褐色土 砂質。褐灰色粘質土ブロック(径20~50mm)中量混入。

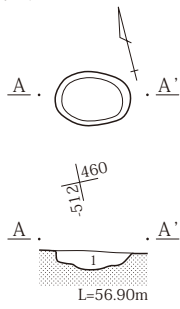


- 1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。焼土粒(径2mm)均一に5%混入。炭化物(径5~10mm)均一に5%混入。
2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径2mm)均一に5%混入。

第368図 2面3区土坑6 82-95号

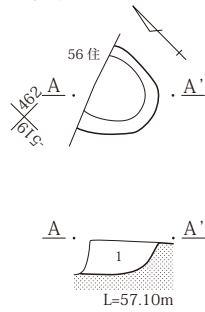


96号土坑



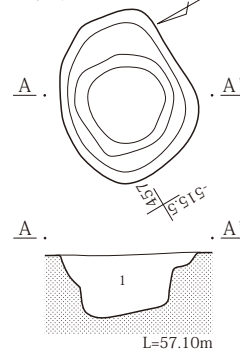
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に5%混入。炭化物(径2mm)少量混入。

97号土坑



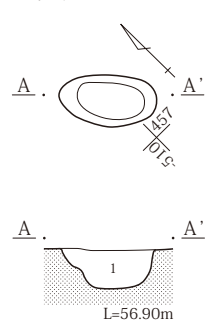
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。
※56号住居の竈に切られている(左部分)。

98号土坑



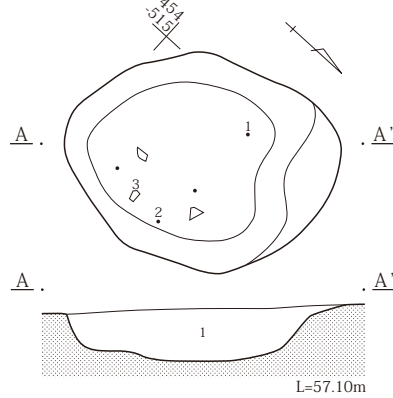
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。

99号土坑



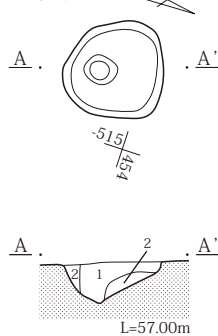
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~10mm)均一に20%混入。焼土粒(径2mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。

100号土坑



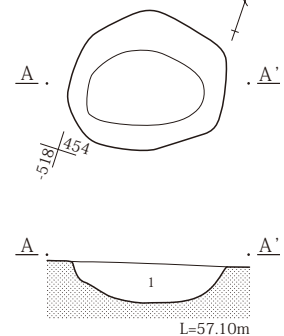
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。

101号土坑



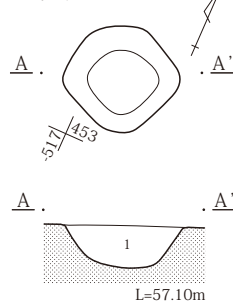
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
2 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10~100mm)均一に混入。

103号土坑



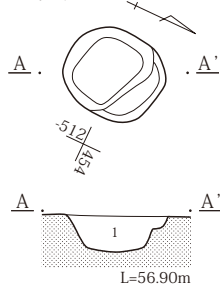
1 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。焼土粒(径2mm)少量混入。

104号土坑



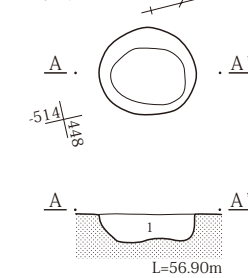
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

105号土坑



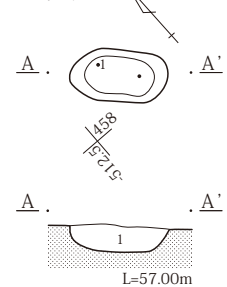
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。焼土ブロック(径10mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。土器片10点余り出土。

106号土坑

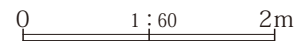


1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径3mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。

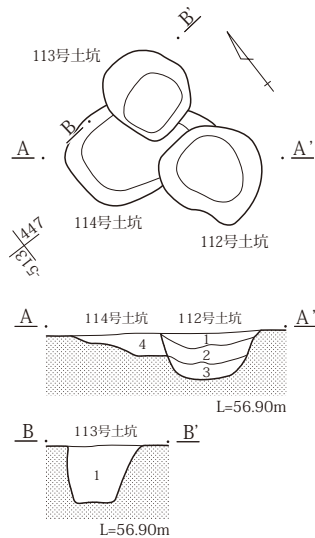
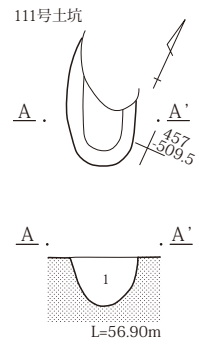
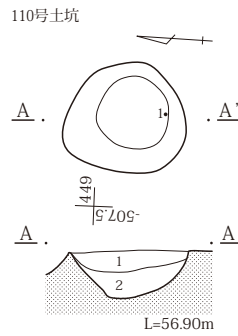
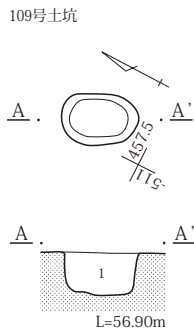
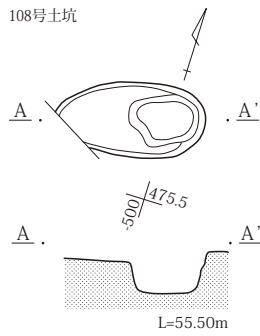
107号土坑



1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に5%混入。炭化物(径5~10mm)5%混入。



第369図 2面3区土坑7 96-107号



109号土坑

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 3 mm)均一に少量混入。ローム粒(径 2 mm)均一に 10%混入。ロームブロック(径 5 ~ 10 mm)均一に 5%混入。炭化物(径 5 mm)極少量混入。

110号土坑

1 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径 5 mm)均一に 5%混入。ローム粒(径 5 mm)均一に 10%混入。炭化物(径 5 mm)少量混入。

2 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径 5 mm)少量混入。ロームブロック(径 50 mm)少量混入(ローム中心)。

111号土坑

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2 mm)均一に 5%混入。ローム粒(径 2 ~ 5 mm)均一に 10%混入。白色軽石(径 2 mm)均一に 5%混入。

112・114号土坑

1 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径 2 mm)均一に 5%混入。ローム粒(径 2 mm)均一に 5%混入。炭化物(径 5 mm)少量混入。白色軽石(径 1 mm)微量混入。

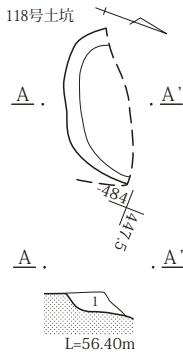
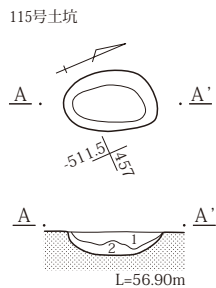
2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 3 mm)少量混入。ローム粒(径 2 mm)微量混入。

3 暗褐色土 粘質。ローム粒(径 5 mm)少量混入。

4 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2 mm)少量混入。白色軽石(径 2 mm)均一に 5%混入。

113号土坑

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2 ~ 5 mm)均一に 5%混入。ローム粒(径 2 ~ 5 mm)均一に 5%混入。白色軽石(径 2 ~ 5 mm)均一に 5%混入。炭化物(径 5 mm)少量混入。



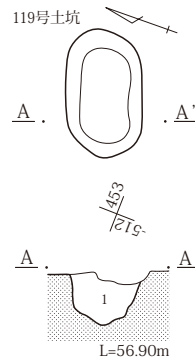
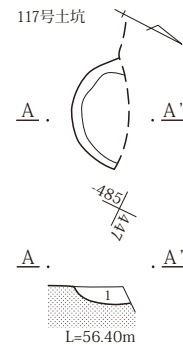
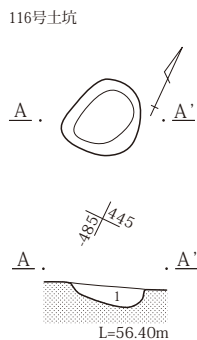
115号土坑

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2 mm)均一に少量混入。ローム粒(径 2 mm)少量混入。白色軽石(径 1 mm)均一に少量混入。

2 黒褐色土 粘質。ローム粒(径 5 mm)少量混入。焼土粒(径 2 mm)少量混入。

118号土坑

1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒極少量含む。



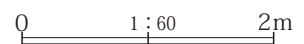
119号土坑

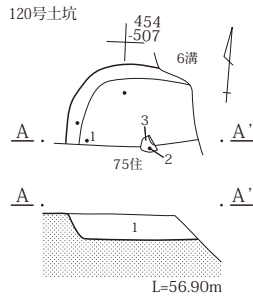
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2 ~ 5 mm)均一に 20%混入。ローム粒(径 2 ~ 5 mm)均一に 10%混入。白色軽石(径 2 mm)均一に少量混入。小礫(径 10 ~ 20 mm)少量混入。

116・117号土坑

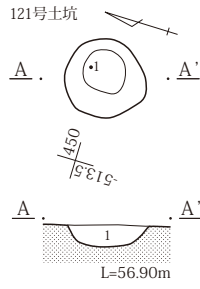
1 暗褐色土 ローム土極少量混入。白色軽石少量含む。焼土粒極少量含む。

第370図 2面3区土坑 8 108-119号

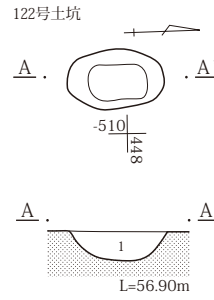




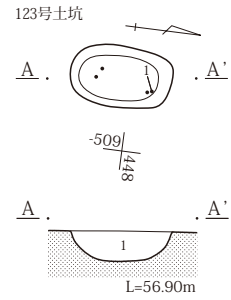
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームブロック(径30mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。炭化物混入。



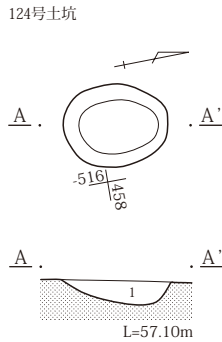
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。



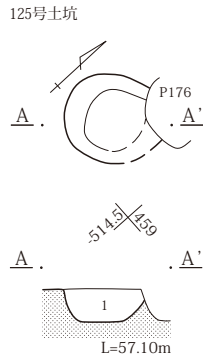
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)極少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に少量混入。白色軽石(径3mm)均一に少量混入。



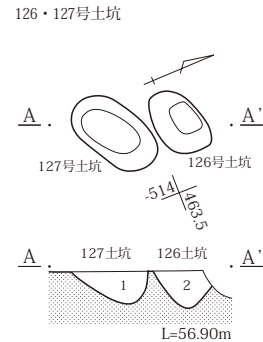
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。



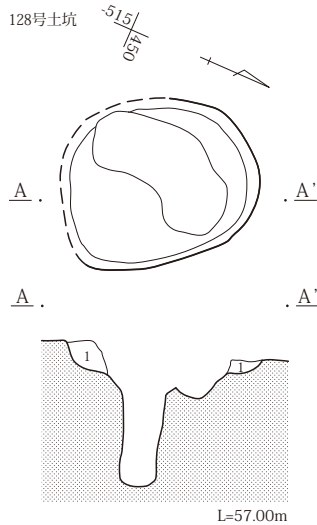
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~4mm)均一に5%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径3mm)均一に5%混入。炭化物少量混入。



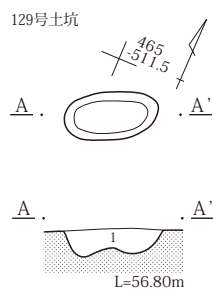
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)均一に少量混入。



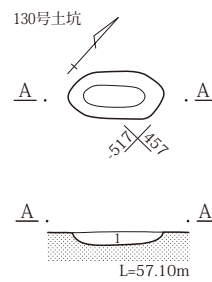
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径10~30mm)少量混入。白色軽石(径1mm)少量混入。
2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。



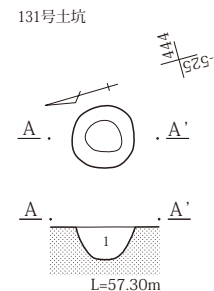
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2mm)少量混入。小礫(径10mm)少量混入。



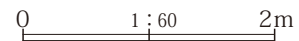
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。



1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。

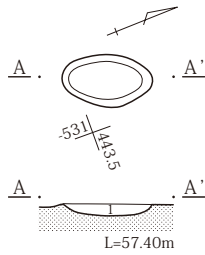


1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に15%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。



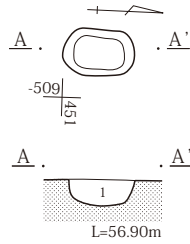
第371図 2面3区土坑9 120-131号

132号土坑



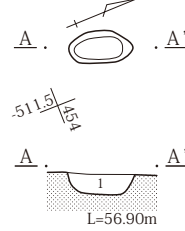
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径3mm)少量混入。

133号土坑



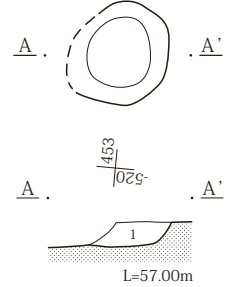
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。

134号土坑



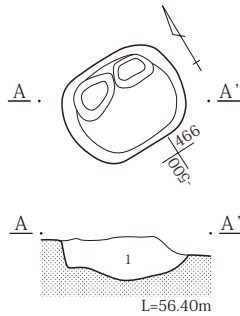
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

135号土坑



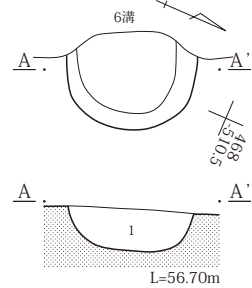
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に5%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

136号土坑



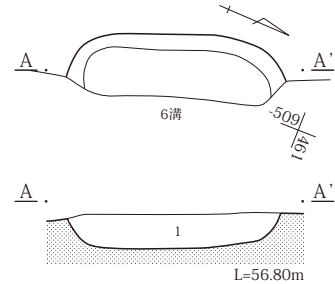
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10~50mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

137号土坑



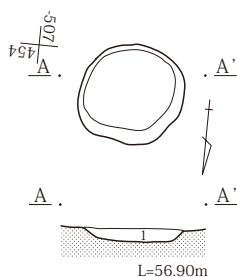
1 黒褐色土 粘質。ローム粒(径2mm)少量混入。小礫(径30mm)少量混入。
※縄文土器2片出土。古代より古い土坑。

138号土坑



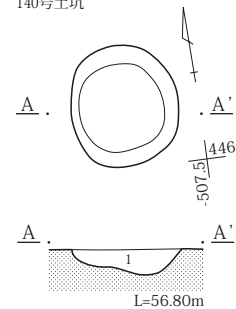
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~3mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

139号土坑



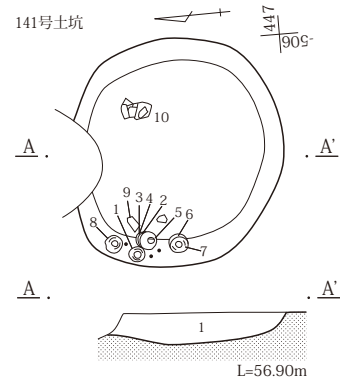
1 暗褐色土 粘質。焼土ブロック(径5~10mm)均一に20%混入。ロームブロック(径5~10mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

140号土坑



1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

141号土坑

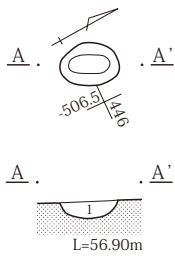


1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に20%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に10%混入。上層に炭化物(径10~100mm)を中量混入。中層にローム(黄色)の層が少量あり。

0 1:60 2m

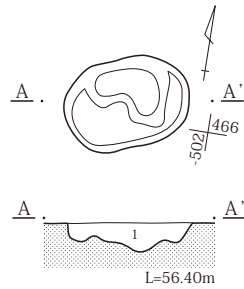
第372図 2面3区土坑10 132-141号

143号土坑



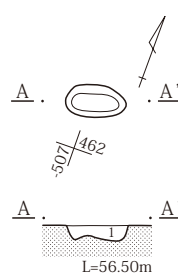
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

145号土坑



- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)極少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に15%混入。ロームブロック(径10~30mm)均一に10%混入。白色軽石微量混入。

147号土坑

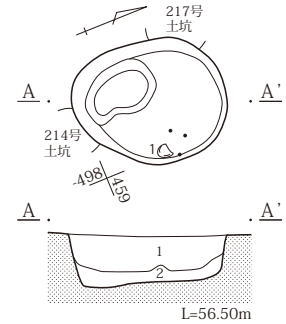


- 147号土坑
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に30%混入。

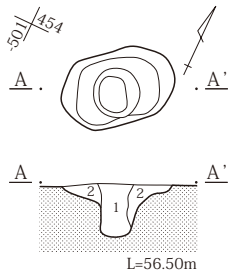
148号土坑

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10~50mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。
2 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10~50mm)を均一に70%混入。

148号土坑



149号土坑



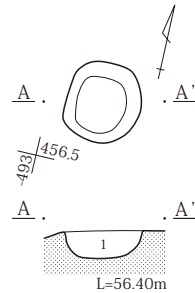
149号土坑

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。炭化物(径2~10mm)均一に20%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10mm)極少量混入。
2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10~30mm)均一に10%混入。

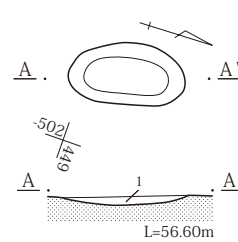
154号土坑

- 1 黒褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。

154号土坑

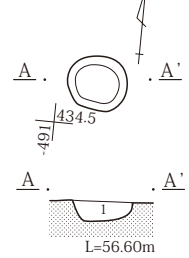


155号土坑



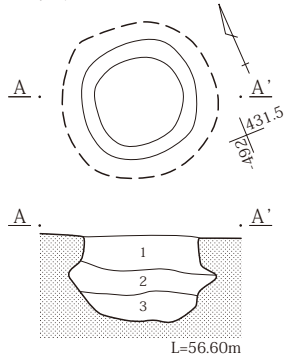
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。小礫(径10mm)少量混入。

156号土坑



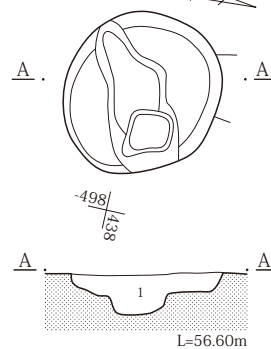
- 1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

157号土坑



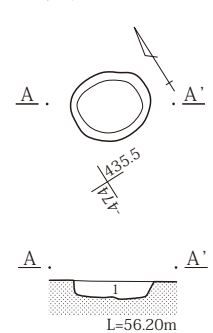
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径3mm)均一に少量混入。白色軽石(径3mm)均一に少量混入。
2 黄褐色土 粘質。ロームブロック(径10~50mm)均一に50%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。
3 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10~50mm)少量混入。焼土粒(径2mm)少量混入。

158号土坑



- 1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。小礫(径10mm)少量混入。

161号土坑

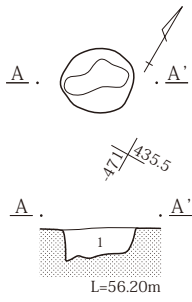


- 1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。

第373図 2面3区土坑11 143-161号

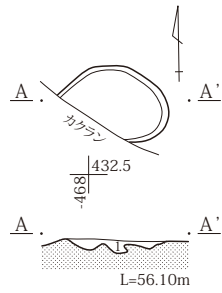
0 1:60 2m

162号土坑



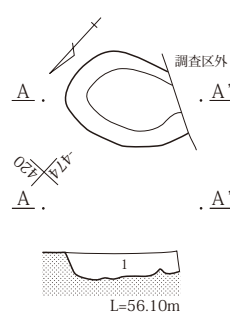
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 3mm)均一に少量混入。ローム粒(径 2~5mm)均一に 20%混入。ロームブロック(径 10~50mm)均一に 10%混入。炭化物少量混入。

163号土坑



1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2mm)均一に 10%混入。炭化物(径 5mm)均一に 10%混入。ローム粒(径 2mm)均一に 10%混入。白色軽石(径 2mm)均一に 5%混入。

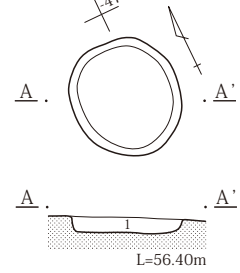
164号土坑



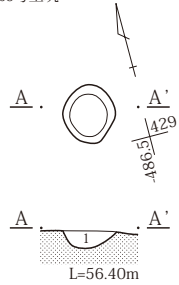
164・165号土坑

1 黒褐色土 粘質。黒色粘質土でローム粒(径 2mm)少量混入。

165号土坑

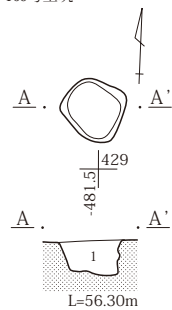


168号土坑



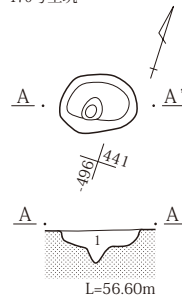
1 暗褐色土 やや粘質。炭化物(径 3~5mm)均一に 5%混入。白色軽石(径 2mm)均一に少量混入。小礫(径 5mm)少量混入。

169号土坑



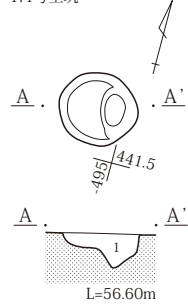
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2mm)均一に少量混入。白色軽石(径 2mm)均一に少量混入。ローム粒(径 2mm)均一に 10%混入。ロームブロック(径 10mm)少量混入。

170号土坑



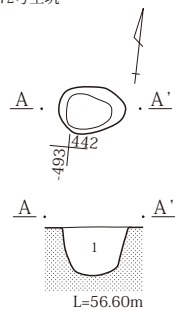
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径 2mm)均一に 10%混入。小礫(径 5mm)均一に少量混入。

171号土坑



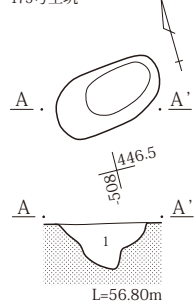
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径 2mm)均一に 10%混入。小礫(径 5mm)均一に少量混入。ロームブロック(径 10mm)少量混入。

172号土坑



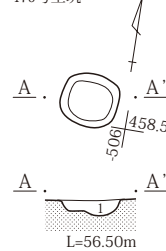
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径 2mm)均一に 10%混入。ロームブロック(径 10~30mm)均一に 10%混入。白色軽石(径 2mm)均一に少量混入。

173号土坑



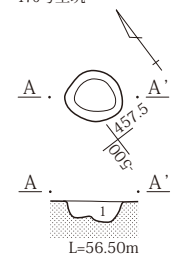
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2~5mm)均一に 10%混入。ローム粒(径 2~5mm)均一に 10%混入。白色軽石(径 2mm)均一に 10%混入。炭化物(径 5mm)少量混入。

175号土坑



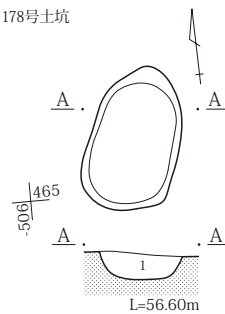
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径 2~5mm)均一に 10%混入。炭化物(径 5mm)少量混入。

176号土坑



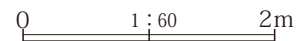
1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径 2mm)少量混入。ローム粒(径 2mm)少量混入。炭化物(径 2mm)少量混入。

178号土坑

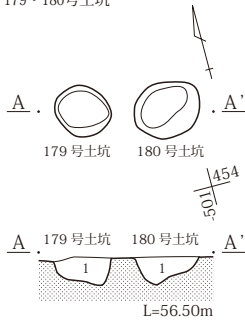


1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径 2~5mm)少量混入。炭化物(径 2~5mm)少量混入。ローム粒(径 5~10mm)均一に 15%混入。

第374図 2面3区土坑12 162-178号

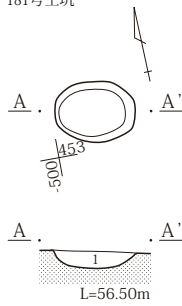


179・180号土坑



1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

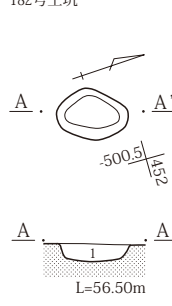
181号土坑



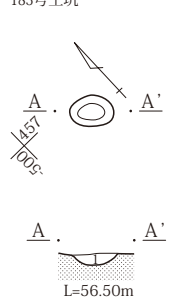
181・182号土坑

1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10~50mm)下層に混入。

182号土坑

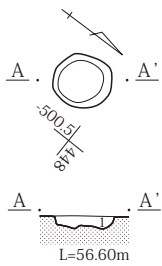


183号土坑



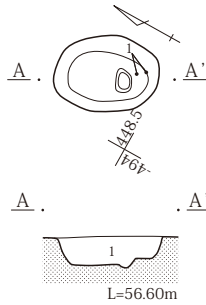
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)微量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。

184号土坑



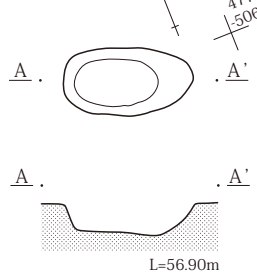
1 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径20~50mm)20%混入。

186号土坑

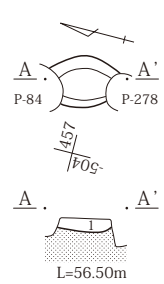


1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に少量混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)微量混入。ロームブロック(径10~50mm)20%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

188号土坑

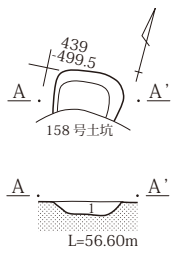


189号土坑



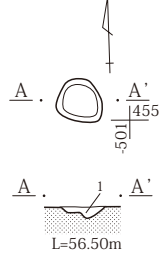
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。

190号土坑



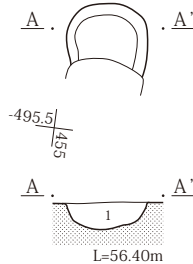
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。

191号土坑



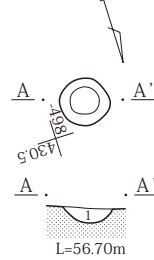
1 暗褐色土 粘質。ローム(50%)との混土。小礫(径5mm)少量混入。

192号土坑



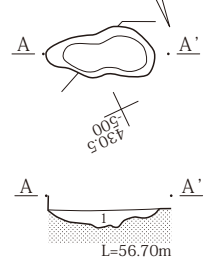
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10~100mm)均一に10%混入。

194号土坑

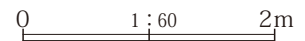


1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。

197号土坑

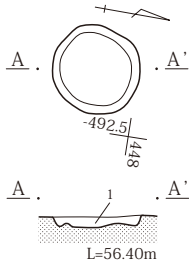


1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。



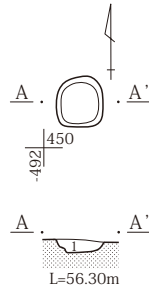
第375図 2面3区土坑13 179-197号

200号土坑



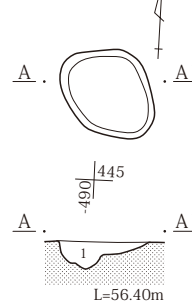
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)少量混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。焼土粒(径2mm)微量混入。

201号土坑



1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。ロームブロック(径10mm)20%混入。

203号土坑



203号土坑

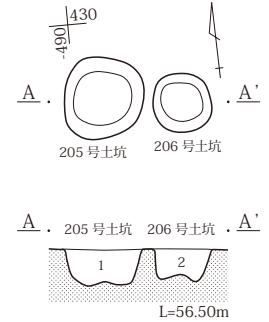
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。ロームブロック(径50mm)10%混入。

205号・206号土坑

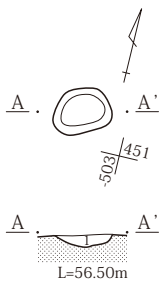
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)微量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径20~50mm)均一に20%混入。小礫(径10~80mm)均一に10%混入。

2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)均一に20%混入。ロームブロック(径100mm)少量混入。小礫(径10mm)少量混入。

205・206号土坑

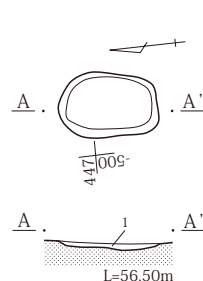


207号土坑



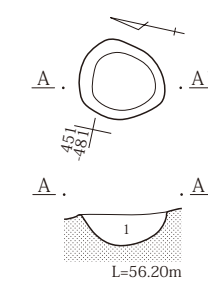
1 黒褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)少量混入。小礫(径10~20mm)均一に20%混入。

208号土坑



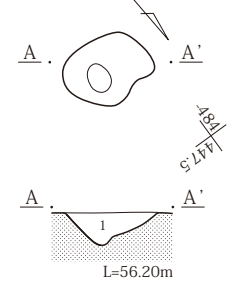
1 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10~20mm)20%混入。小礫(径10mm)小礫混入。

210号土坑



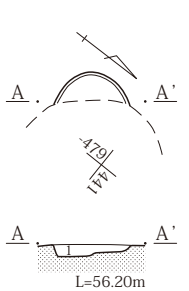
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径20mm)を少量混入。炭化物(径5mm)を少量混入。

211号土坑



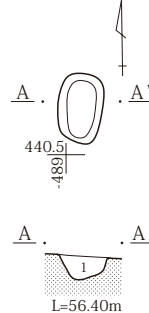
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径20~50mm)20%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

212号土坑



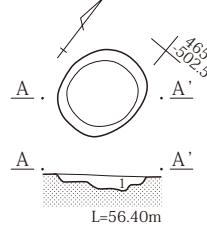
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。炭化物(径2mm)均一に少量混入。

213号土坑



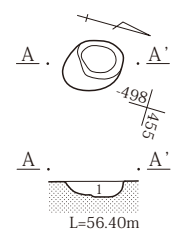
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10~20mm)均一に10%混入。炭化物(径3mm)少量混入。

218号土坑

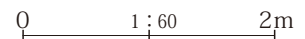


1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10~50mm)20%混入。

219号土坑

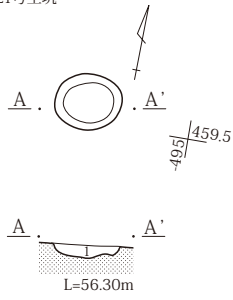


1 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径5~10mm)均一に20%混入。



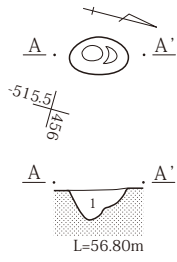
第376図 2面3区土坑14 200-219号

221号土坑



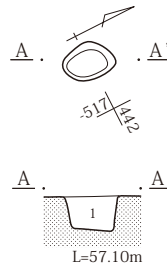
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10~20mm)10%混入。

222号土坑



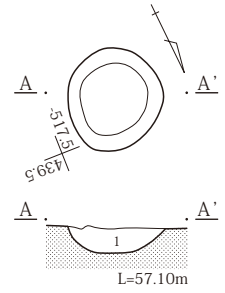
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に少量混入。

225号土坑



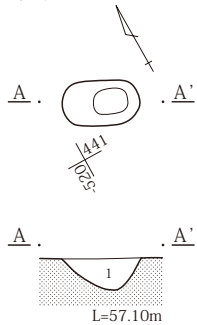
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)均一に混入。炭化物(径2mm)微量混入。

226号土坑



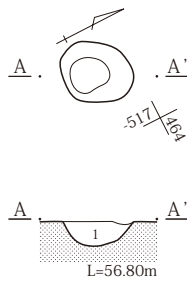
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。炭化物微量混入。

227号土坑



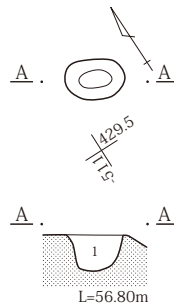
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。

228号土坑



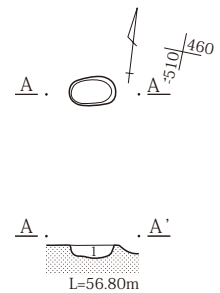
1 暗褐色土 やや粘質。白色軽石(径2mm)少量混入。ロームブロック(径10~50mm)40%混入。

229号土坑



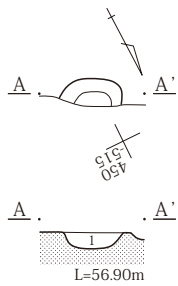
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

230号土坑



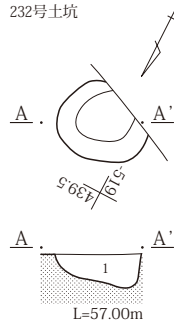
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

231号土坑



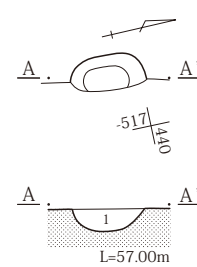
1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。小礫(径10mm)少量混入。

232号土坑



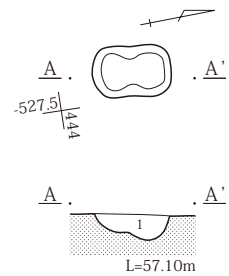
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に混入。白色軽石(径3mm)少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。

233号土坑

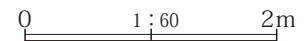


1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)微量混入。炭化物(径2mm)微量混入。

234号土坑

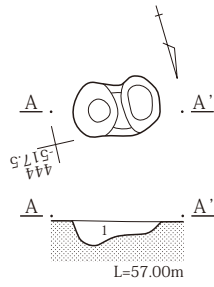


1 暗黄褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。



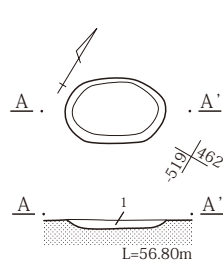
第377図 2面3区土坑15 221-234号

235号土坑



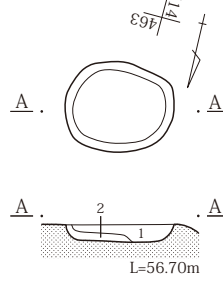
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2~5mm)均一に少量混入。炭化物(径2~5mm)均一に少量混入。

236号土坑



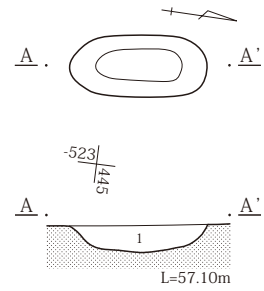
1 暗褐色土 やや粘質。ロームブロック(径5~10mm)均一に30%混入。炭化物(径3mm)微量混入。

237号土坑



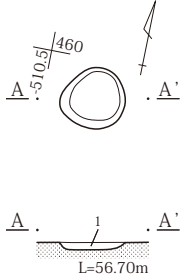
1 黒褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)微量混入。
2 暗黄褐色土 やや粘質。ソフトロームが均一に40%混入。

238号土坑



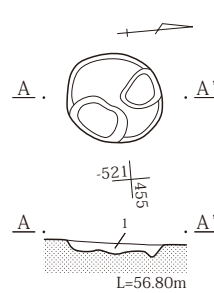
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に5%混入。ローム粒(径2mm)均一に5%混入(粘性が強い)。

239号土坑



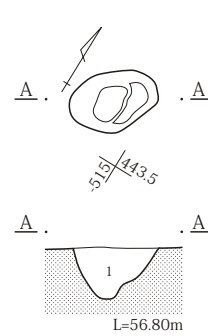
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径1mm)少量混入。

240号土坑



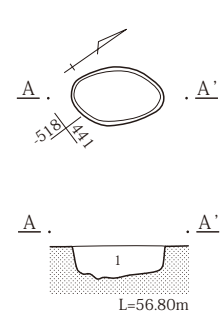
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)微量混入。ロームブロック(径10~30mm)均一に20%混入。

241号土坑



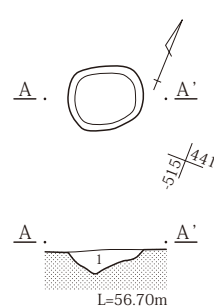
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径3mm)均一に少量混入。砂礫(径2mm)均一に10%混入。

242号土坑



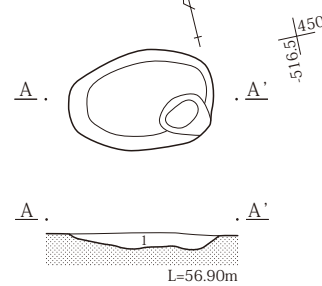
1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径3mm)均一に少量混入。砂礫(径2mm)均一に10%混入。

243号土坑



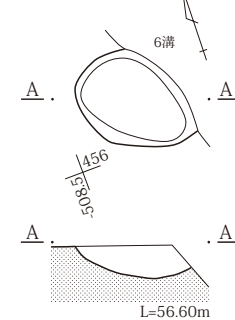
1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径1mm)微量混入。ロームブロック(径10mm)均一に混入。砂(径1~2mm)均一に10%混入。

244号土坑



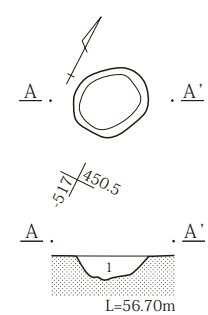
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

245号土坑



1 黒褐色土 やや粘質。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10mm)20%混入。小礫(径5~10mm)少量混入。

246号土坑



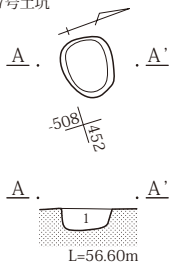
1 暗褐色土 やや粘質。ロームブロック(径10~30mm)20%混入。

0 1:60 2m

第378図 2面3区土坑16 235-246号

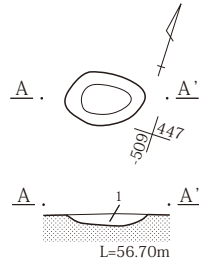
3区

247号土坑



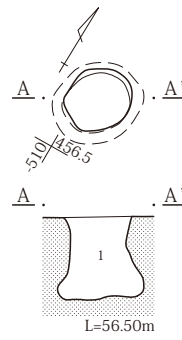
1 暗褐色土 焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に5%混入。小礫(径5mm)均一に5%混入。

249号土坑



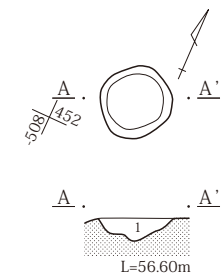
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径3mm)微量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

250号土坑



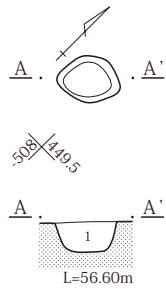
250号土坑
1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。小礫(径5~10mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
※遺物は、須恵器の蓋の破片が上面~中層で3点出土。下層で縄文土器と思われる1点出土。形は袋状土坑である。

251号土坑

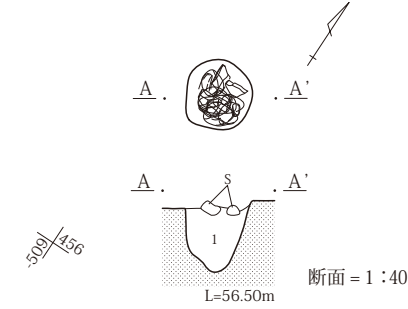


251号土坑
1 暗褐色土 ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。小礫(径5mm)均一に10%混入。

252号土坑



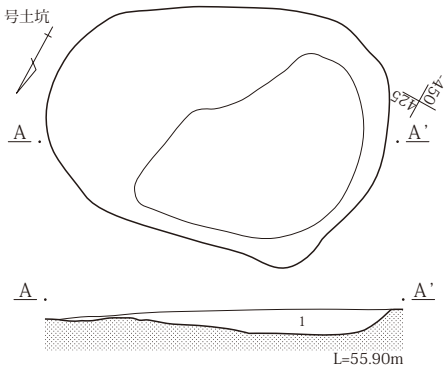
253号土坑



252号土坑
1 暗褐色土 焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。小礫(径5mm)均一に10%混入。
253号土坑
1 暗褐色土 やや粘質。小礫(径10~20mm)少量混入。ローム粒(径3mm)少量混入。

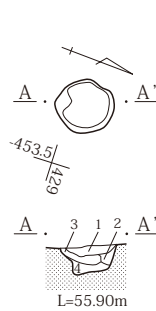
4区

1号土坑

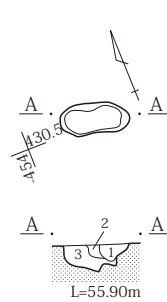


1号土坑
1 黒褐色土 やや粘質 白色軽石(径1~3mm)を均一に10%混入。炭化物(径2mm)を少量混入。ローム粒(径5mm)を少量混入。土器数点出土。
2号土坑
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)微量混入。
2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)10%混入。
3 暗黄褐色土 粘質。ロームブロック(径50mm)を60%混入。
4 黄褐色土 粘質。ローム粒(径2~20mm)を均一に80%混入。残りは暗褐色土。

2号土坑

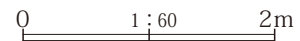
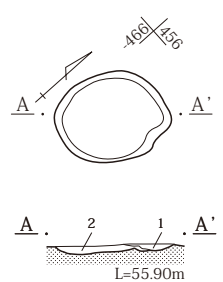


3号土坑

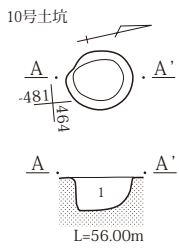
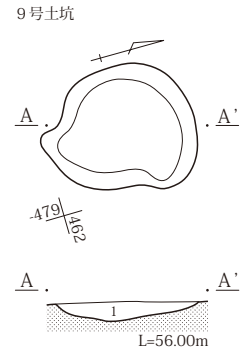
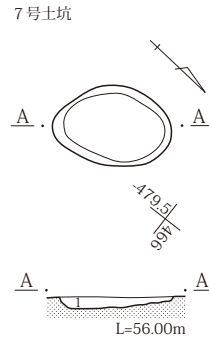
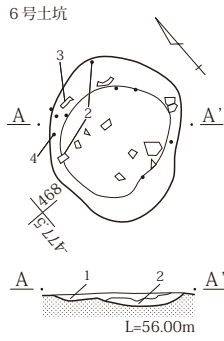
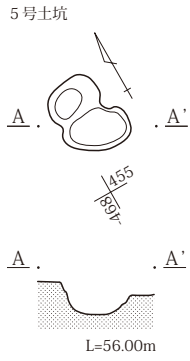


3号土坑
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を少量混入。
2 灰褐色土 粘質。ロームブロック(径10~30mm)を50%混入。
3 黄褐色土 粘質。ロームブロック(径10~50mm)を80%混入。
4号土坑
1 暗褐色土 白色軽石極少量混入。ロームブロック(径20~30mm)不均一に混入。
2 暗褐色土 白色軽石・焼土粒少量混入。

4号土坑



第379図 2面3区4区土坑17 247-4号



6号土坑

1 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック均一に多量に混入。白色軽石・炭化物も少量含む。

2 暗褐色土 白色軽石・焼土粒少量混入。不均一に混じる。

7号土坑

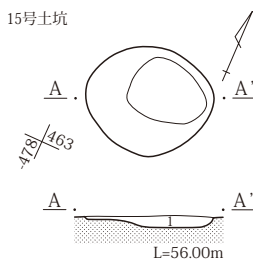
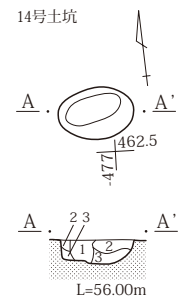
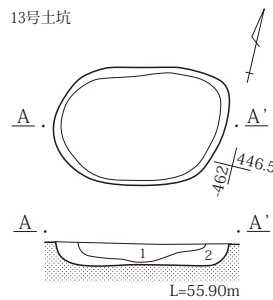
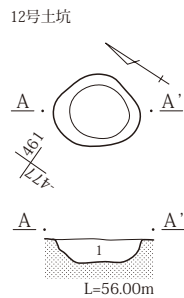
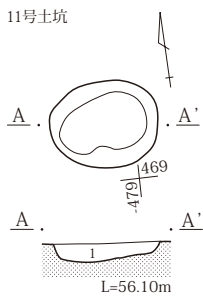
1 暗褐色土 白色軽石・焼土粒均一に混入。炭化物極少量含む。

9号土坑

1 暗褐色土 白色軽石均一に少量混入。焼土粒・炭化物(径2~5mm)極少量含む。

10号土坑

1 暗褐色土 白色軽石が不均一に多量に混入。焼土粒少量含む。



11号土坑

1 暗褐色土 白色軽石が不均一に多量に混入。焼土粒少量含む。

12号土坑

1 暗褐色土 白色軽石が不均一に多量に混入。焼土粒少量含む。

13号土坑

1 暗褐色土 白色軽石・ローム土少量混入。焼土粒も不均一に極少量含む。

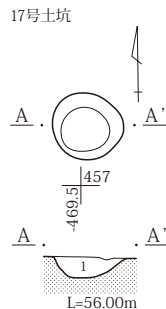
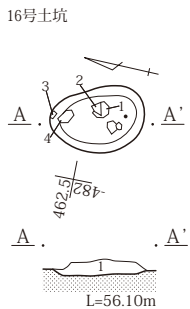
2 暗褐色土 白色軽石・焼土粒極少量混入。ロームブロック(径10~40mm)混入。

14号土坑

1 暗褐色土 黒味が強く粘質。白色軽石・焼土粒混入。

2 暗褐色土 白色軽石均一に混入。焼土粒少量混入。

3 暗褐色土 白色軽石2層より多量に混入。



15号土坑

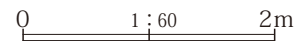
1 暗褐色土 白色軽石均一に混入。焼土粒少量混入。

16号土坑

1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径10~30mm)を均一に20%混入。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。炭化物(径10mm)を少量混入。

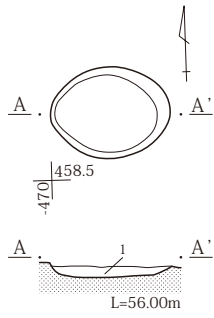
17号土坑

1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)を均一に20%混入。焼土粒(径2mm)を少量混入。炭化物(径2mm)を少量混入。



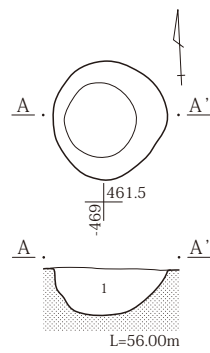
第380図 2面4区土坑18 5-17号

18号土坑



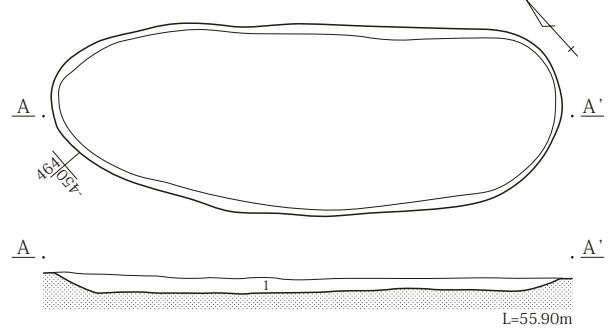
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~3mm)を均一に20%混入。黄色ロームブロック(径10~20mm)を10%混入。焼土粒(径2mm)を少量混入。

19号土坑



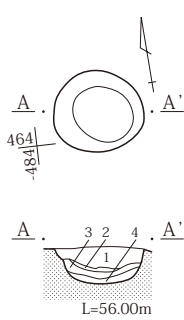
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~3mm)均一に40%混入。焼土粒(径5mm)を均一に10%混入。炭化物(径10mm)を少量混入。

20号土坑



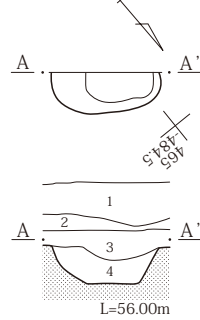
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。炭化物(径10~50mm)を均一に40%混入。焼土極少量混入。

21号土坑



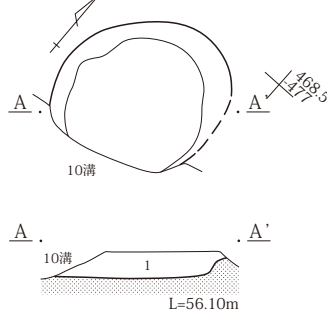
1 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量混入。
2 暗褐色土 焼土ブロック(径10~40mm)多量に混入。
3 褐灰色土 粘質土。
4 黒褐色土 粘質土。

22号土坑



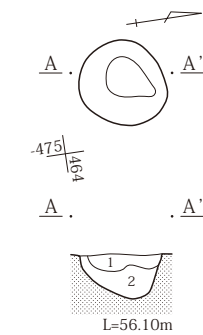
1 表土
2 客土
3 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土粒・炭化物(径5~20mm)少量含む。
4 暗褐色土 粘質土。ロームブロック(径5~30mm)不均一に混入。

23号土坑



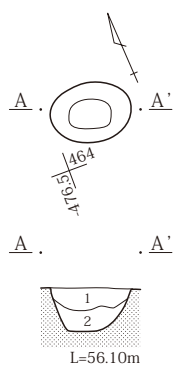
1 暗褐色土 白色軽石粒・焼土粒均一に混入。炭化物(径5mm前後)極少量含む。

24号土坑

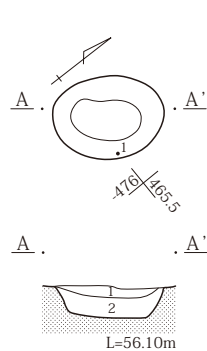


1 暗褐色土 白色軽石均一に混入。焼土粒・焼土ブロック(径5~30mm)多量に含む。
2 暗褐色土 白色軽石・炭化物・焼土粒極少量混入。

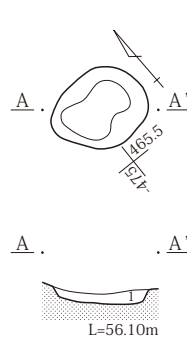
25号土坑



26号土坑



27号土坑



25号土坑

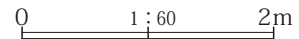
1 暗褐色土 白色軽石・焼土粒少量、不均一に混入。炭化物も極少量含む。
2 暗褐色土 白色軽石・焼土粒極少量混入。1層よりやや粘性が強く、明るい色調。

26号土坑

1 暗褐色土 白色軽石均一に少量混入。礫(径60mm前後)を含む。
2 暗褐色土 白色軽石均一に少量混入。焼土ブロック(径5~20mm)・炭化物も極少量含む。

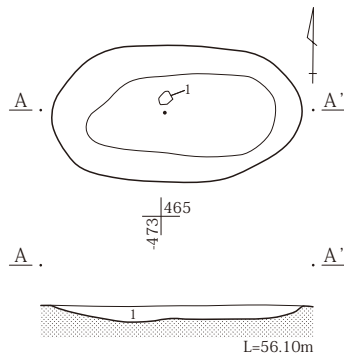
27号土坑

1 暗褐色土 礫(径20~50mm)多量に混入。



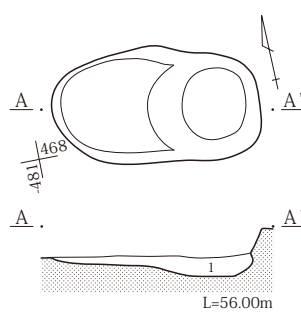
第381図 2面4区土坑19 18-27号

28号土坑



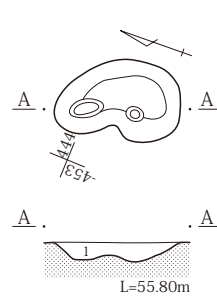
1 暗褐色土 白色軽石粒・焼土粒均一に混入。炭化物(径5mm前後)極少量含む。

29号土坑



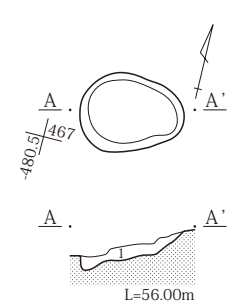
1 暗褐色土 白色軽石・焼土粒均一に少量混入。ロームブロック(径5~10mm)も極少量含む。

30号土坑



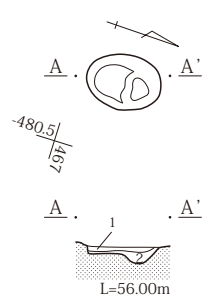
1 暗褐色土 やや粘質。白色軽石(径1~3mm)を均一に20%混入。焼土粒(径3mm)を少量混入。炭化物(径2mm)を少量混入。

31号土坑



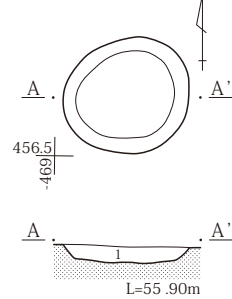
1 暗褐色土 白色軽石。

32号土坑



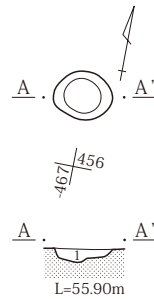
1 暗褐色土 白色軽石少量混入。焼土粒・炭化物極少量含む。
2 暗褐色土 ローム土極少量混入。

33号土坑



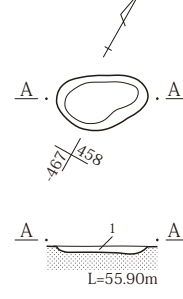
1 暗褐色土 白色軽石均一に少量混入。焼土粒(径2~5mm)・炭化物(径3~10mm)を少量含む。

34号土坑



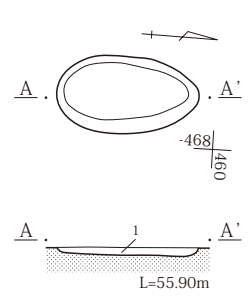
1 暗褐色土 白色軽石極少量混入。焼土粒極少量含む。

35号土坑



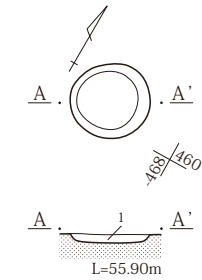
1 暗褐色土 白色軽石均一に混入。焼土ブロック極少量含む。

36号土坑



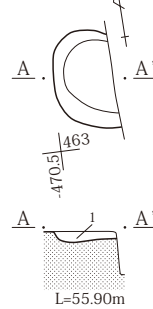
1 暗褐色土 白色軽石多量に不均一に混入。焼土粒・炭化物極少量含む。

37号土坑



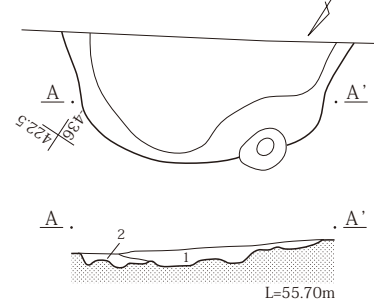
1 暗褐色土 白色軽石多量に不均一に混入。炭化物(径10~20mm)多量に含む。

38号土坑



1 暗褐色土 白色軽石均一に少量混入。焼土粒(径2~5mm)・炭化物(径3~10mm)を少量含む。

39号土坑



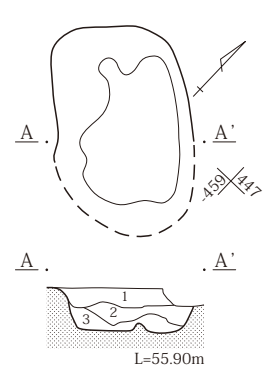
39号土坑

1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。ローム粒(径5mm)を20%混入。
2 黄褐色土 粘質。ローム粒(径1~10mm)を均一に60%混入。

41号土坑

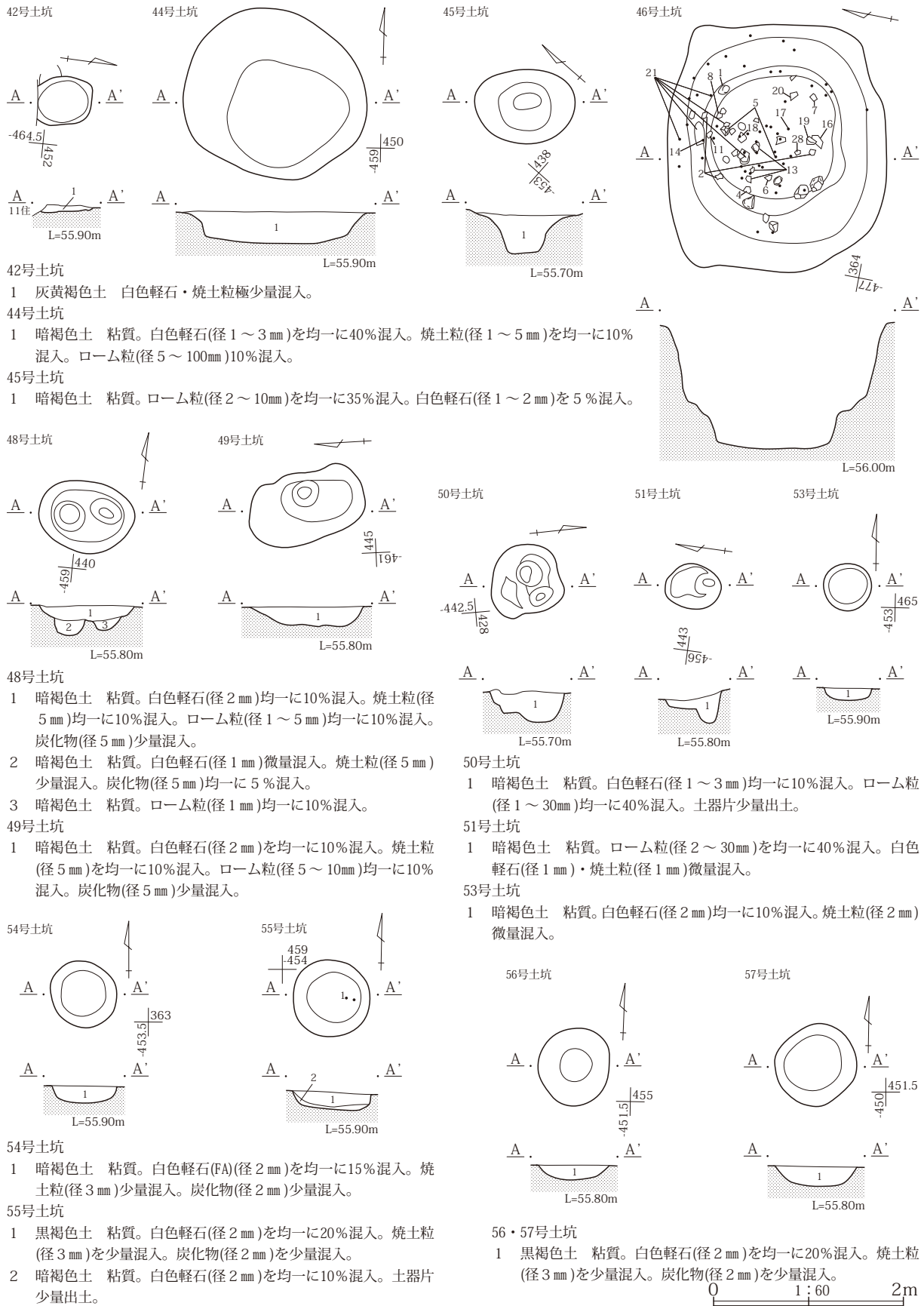
1 暗褐色土 粘質。炭化物(径2mm)少量混入。
2 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)微量混入。ローム粒(径1~10mm)を20%混入。炭化物(径2mm)少量混入。
3 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1~10mm)を均一に混入。炭化物(径2mm)少量混入。

41号土坑

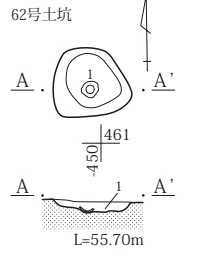
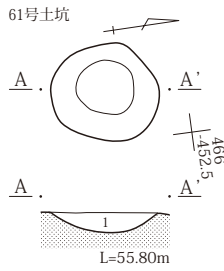
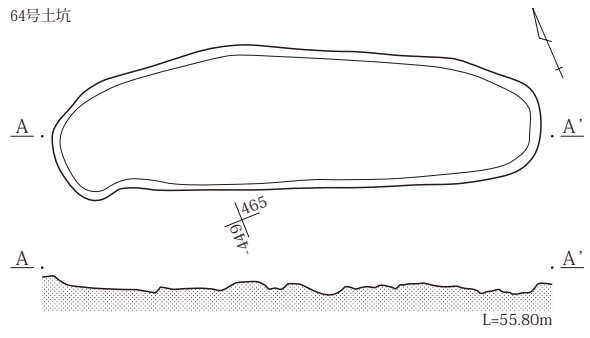
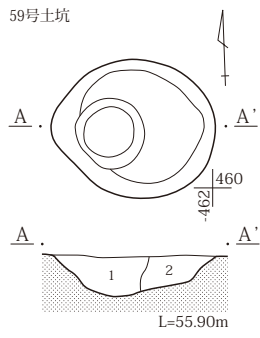
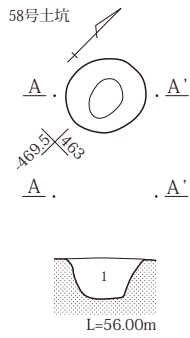


0 1:60 2m

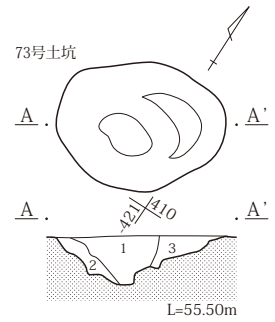
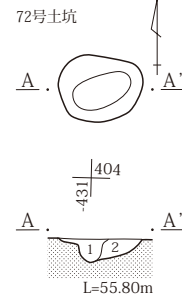
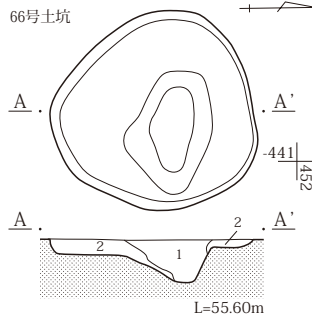
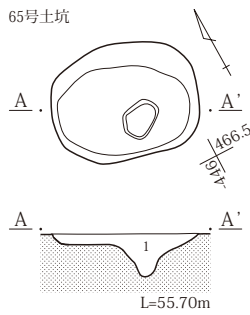
第382図 2面4区土坑20 28-41号



第383図 2面4区土坑21 42-57号

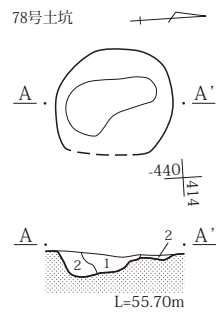
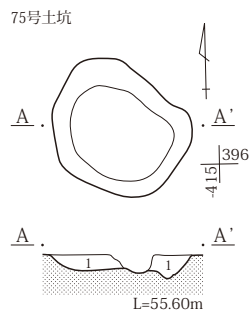
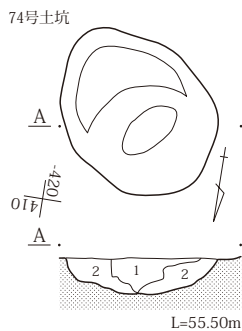


- 58号土坑
1 暗褐色土 白色軽石(径2~10mm)均一に混入。焼土粒極少量含む。
- 59号土坑
1 灰黄褐色土 粘質。白色軽石少量混入。ローム土も極少量含む。
2 暗褐色土 白色軽石均一に混入。焼土粒・炭化物(径5mm前後)少量含む。
- 61号土坑
1 暗褐色土 白色軽石少量均一に混入。焼土粒極少量含む。
- 62号土坑
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)少量混入。焼土粒(径1mm)微量混入。炭化物(径1mm)少量混入。



- 65号土坑
1 黒褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。炭化物(径1mm)・焼土粒(径1mm)微量混入。
- 66号土坑
1 暗褐色土 粘質土。白色軽石極少量不均一に混入。炭化物極少量含む。
2 褐灰色土 粘質土。白色軽石極少量不均一に混入。鉄分の沈着も極少量見られる。

- 72号土坑
1 黒褐色土 ローム土少量混入。
2 黒褐色土 ロームブロック(径20~30mm)中量混入。
- 73号土坑
1 暗褐色土 ローム土少量混入。
2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径20~30mm)少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック(径20~30mm)少量混入。白色軽石極少量含む。



- 74号土坑
1 灰黄褐色土 ローム土・ロームブロック(径20~60mm)中量混入。
2 黒褐色土 ローム土少量混入。
- 75号土坑
1 黒褐色土 ローム土少量混入。

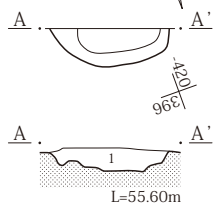
- 76号土坑
1 暗褐色土 ローム土少量混入。白色軽石極少量含む。
2 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径20~30mm)少量混入。
- 78号土坑
1 暗褐色土 ロームブロック(径20~30mm)中量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック(径20~50mm)多量に混入。

第384図 2面4区土坑22 58-78号



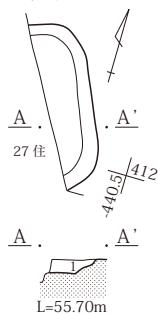
4区

81号土坑



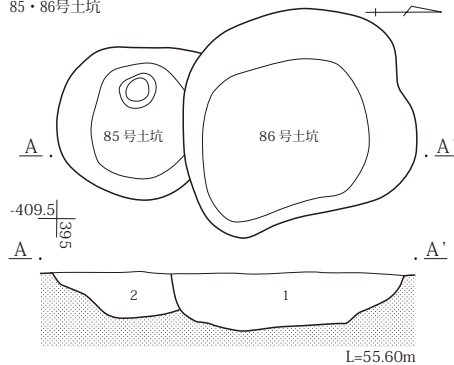
1 黒褐色土 ローム土少量混入。

84号土坑



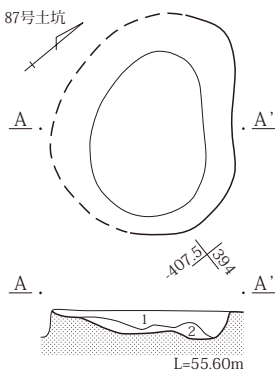
1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量混入。焼土粒も少量含む。

85・86号土坑



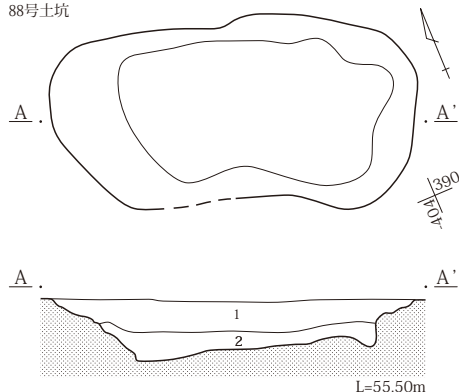
1 黒褐色土 ローム土極少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック(径20~30mm)中量混入。

87号土坑



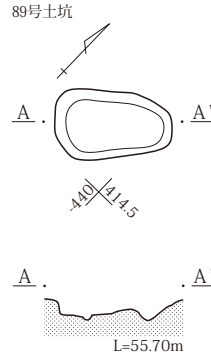
1 暗褐色土 ロームブロック(径20~30mm)少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック(径50mm前後)多量に混入。

88号土坑



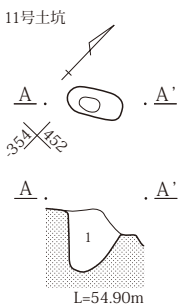
1 暗褐色土 ロームブロック極少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック(径20~30mm)中量混入。

89号土坑

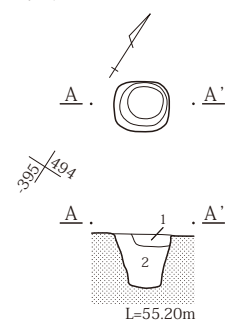


5区

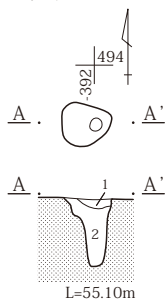
11号土坑



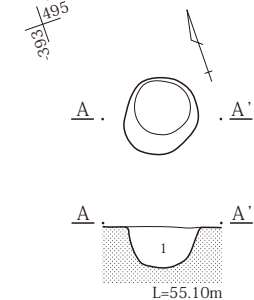
13号土坑



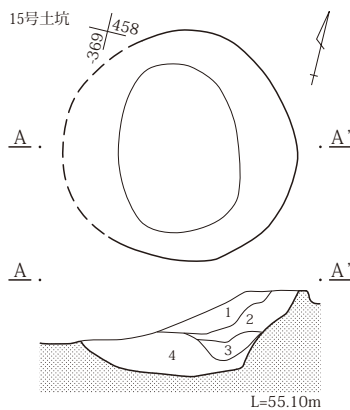
12号土坑



14号土坑



15号土坑



15号土坑

1 褐色土 やや粘質。ローム粒(径3mm)や小礫(径10mm)が少量混入。
2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1~5mm)が均一に40%混入。
3 暗褐色土 粘質。2層より大きいロームブロック(径10mm)が均一に50%混入。
4 黄褐色土 粘質。ロームブロック(径10~50mm)が均一に60%混入。

11号土坑

1 暗褐色土 粘質土。ローム粒少量含む。

12号土坑

1 黒褐色土 ロームブロック混入。
2 黒褐色土 ロームブロック(1層より小さい)・ローム粒多量に混入。
1・2層とも人為的な埋土。

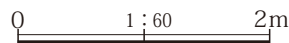
13号土坑

1 暗褐色土 As-B混土多量に含む。
2 暗褐色土 炭化物混入。ローム土少量混入。

14号土坑

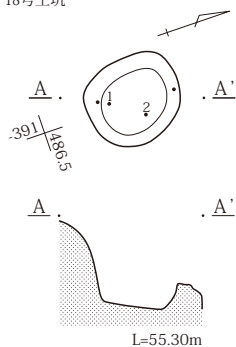
1 黒褐色土 ロームブロック・ローム土混入。

第385図 2面4区5区土坑23 81-15号

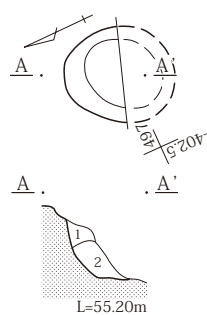


5区

18号土坑

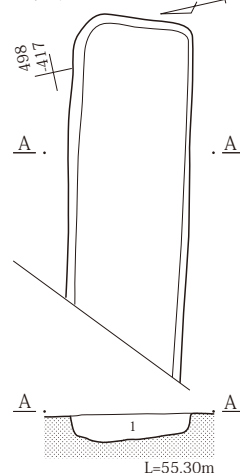


19号土坑

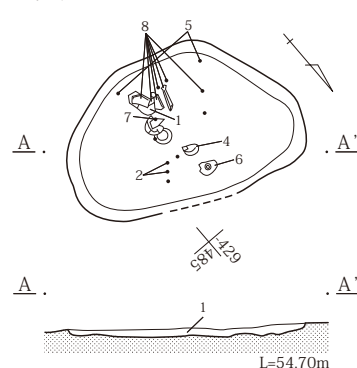


- 1 茶褐色粘質土 ロームブロック(径20~30mm)混入。
- 2 茶褐色粘質土 ロームブロック(径2~5mm)30%混入。

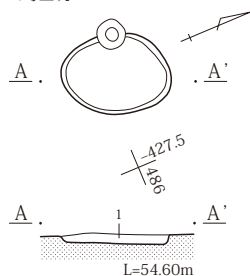
20号土坑



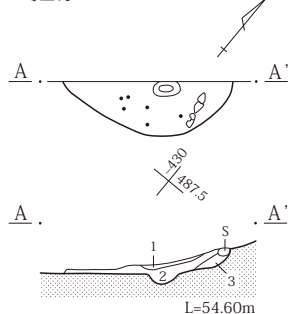
22号土坑



23号土坑



24号土坑



20号土坑

- 1 暗褐色粘質土 白色軽石(径1~2mm)微量混入。ローム少量混じる。

22号土坑

- 1 暗褐色土 粘質土。炭化物多量に含む。

23号土坑

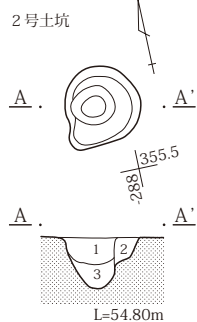
- 1 褐灰色土 粘質土。焼土粒含む。底部に灰少量。

24号土坑

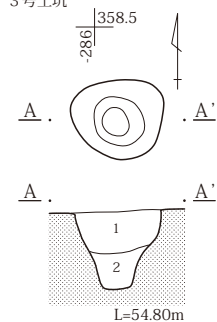
- 1 褐灰色土 焼土ブロック・焼土粒多量に含む。炭化物も少量混入。
- 2 褐灰色土 焼土粒・炭化物多量に含む。
- 3 褐灰色土 砂質土。炭化物少量含む。

6区

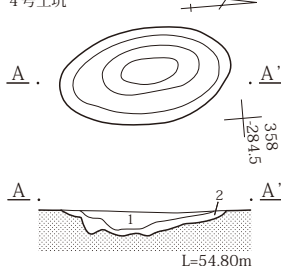
2号土坑



3号土坑



4号土坑



2号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。炭化物少量混入。
- 2 褐色土 ロームブロック多量に混入。
- 3 暗褐色土 ローム土少量混入。

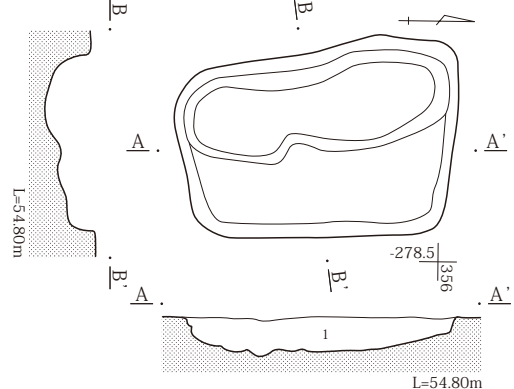
3号土坑

- 1 暗褐色土 粘質土。
- 2 暗褐色土 ローム土・炭化物含む。

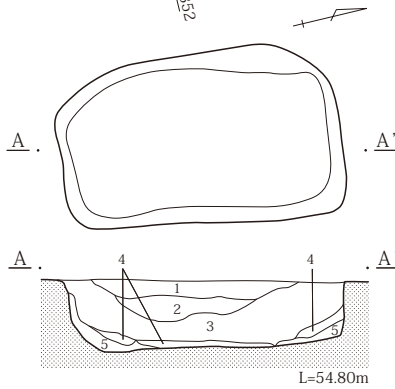
4号土坑

- 1 黒褐色土 ローム土少量混入。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・ローム土混入。

6号土坑



7号土坑



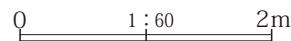
7号土坑

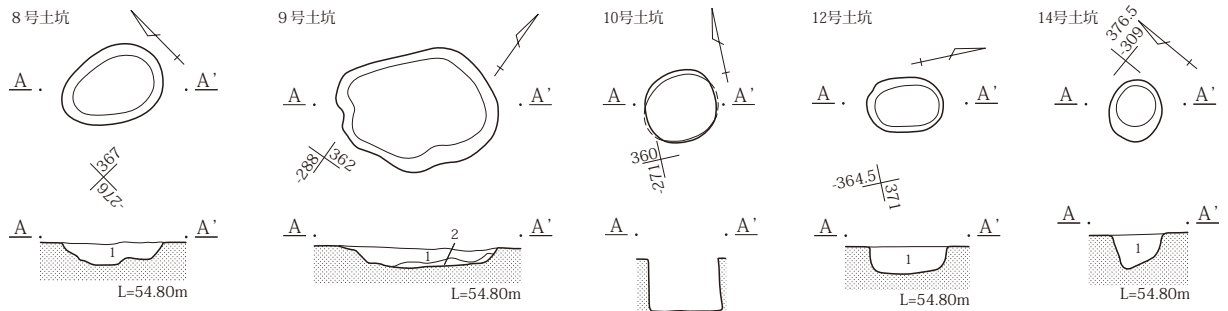
- 1 暗褐色土 白色軽石(径1~2mm)10%混入。黄褐色土粒(径0.5~1mm)30%混入。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒(径0.5~5mm)30%混入。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径10~30mm)40%混入。全体に黄褐色土粒(径0.5~3mm)が混じる。黒褐色土5%混じる。
- 4 黄褐色土 暗褐色土30%混じる。
- 5 黄褐色土 暗褐色土20%混じる。

6号土坑

- 1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1~2mm)が均一に70%混入。ロームブロック(径5~80mm)が均一に20%混入。1層でロームの混入土。

第386図 2面5区6区土坑24 18-7号



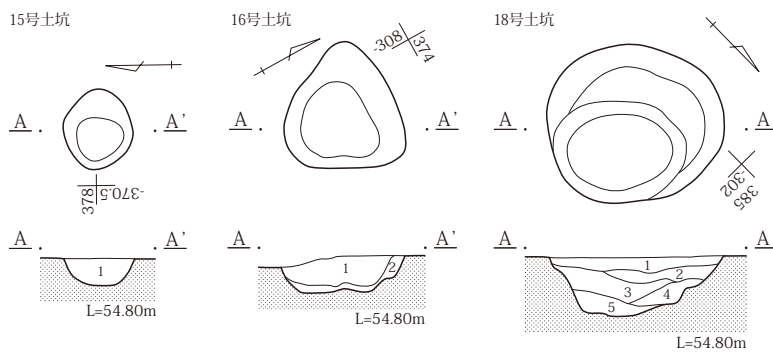


8号土坑
1 黒褐色土 ローム粒混入。炭化物極少量含む。

9号土坑
1 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径10~30mm)20%混入。黄褐色土粒(径0.1~2mm)50%混入。
2 黄褐色土 暗褐色土10%混入。

12号土坑
1 暗褐色土 黄褐色土粒(径1~2mm)全体に均一に5%混じる。黄褐色土ブロック(径10~30mm)少量混じる。

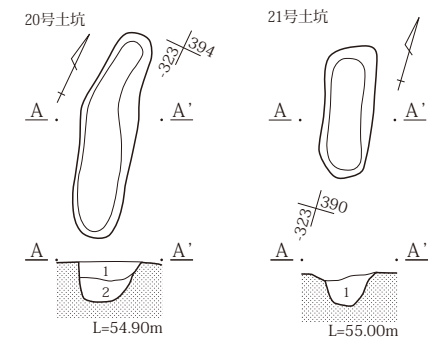
14号土坑
1 黒褐色土 黄褐色土粒(径0.5~2mm)10%混入。黄褐色土ブロック(径10~30mm)30%混入。



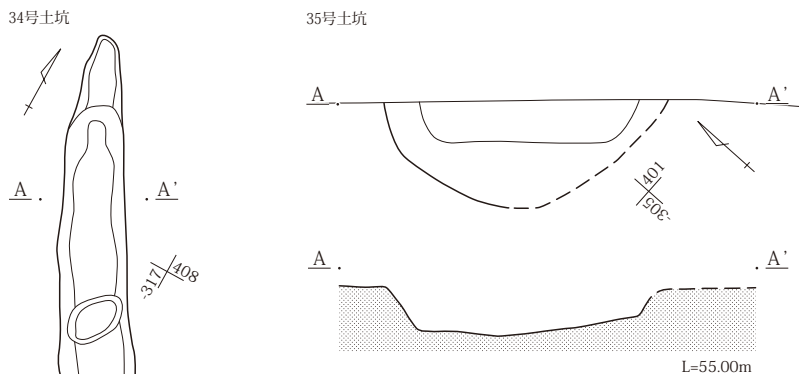
15号土坑
1 暗褐色土 粘質土。黄褐色土粒(径0.1~2mm)全体に均一に40%混入。

16号土坑
1 黒色粘質土 谷地の土。
2 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径5~20mm)少量含む。黄褐色土粒(径0.5~1mm)20%含む。

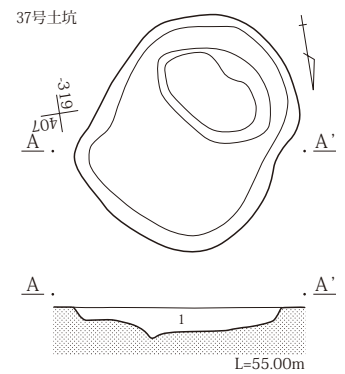
18号土坑
1 黒褐色土 白色軽石粒極少量混入(遺物は18号土坑の窪んだ所に入り込んだものと考えられる)。
2 黒褐色土 白色軽石粒少量混入。ロームブロック含む。
3 黒褐色土 白色軽石粒少量・小礫少量・暗褐色土ブロック多量に含む。
4 黒褐色土 小礫・砂利多量に混入。
5 黒褐色土 小礫少量混入。



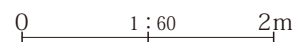
20号土坑
1 黒褐色土 ローム土・小礫少量混入。
2 黒褐色土 砂質土。
21号土坑
1 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径15~20mm)少量混入。黄褐色土(砂質)全体に均一に20%混入。



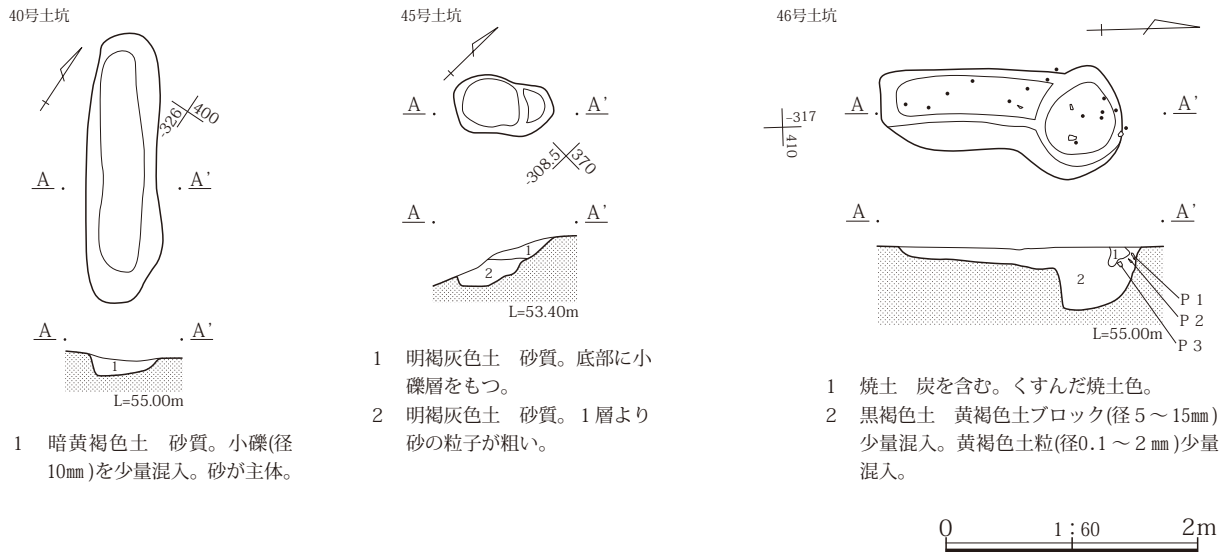
34号土坑
1 黒褐色土 ローム土極少量含む。
2 黒褐色土 ロームブロック・ローム土多量に混入。



37号土坑
1 暗褐色土 黄褐色土粒(径0.1~2mm)10%混入。黄褐色土ブロック(径10~80mm)20%混入。



第387図 2面6区土坑25 8-37号



1 暗黄褐色土 砂質。小礫(径10mm)を少量混入。砂が主体。

- 1 明褐灰色土 砂質。底部に小礫層をもつ。
- 2 明褐灰色土 砂質。1層より砂の粒子が粗い。

- 1 焼土 炭を含む。くすんだ焼土色。
- 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径5～15mm)少量混入。黄褐色土粒(径0.1～2mm)少量混入。

第388図 2面6区土坑26 40-46号

土坑出土の遺物

本項で対象とした294基の土坑の中でほとんどの土坑については遺物の出土が見られないか、埋没土中から破片資料が出土したに過ぎなかった。その中、ある程度形状が把握できる土器、土錘、瓦、鉄製品、砥石について掲載した。個々の資料については遺物観察表を参照願うこととして、ここではその概略について述べてみたい。

3区では1号土坑以下36基から出土した資料について掲載した。多くは須恵器の杯、椀である。5号土坑1の杯は底部にヘラ調整を施していた。

27号坑1の杯は器面に漆と考えられる付着物が見られた。100号土坑1の内面にも同様の付着物が見られた。141号土坑4の内面の付着物にもその可能性が指摘されている。

34号土坑からは低い高台の付いた椀2・3とともに小型の杯1が出土している。

38号土坑からは杯1と共に土師器杯2・3、甕4が出土している。9世紀前半の所産と考えられる。49号土坑1の須恵器杯は底部内面に「東」の文字が墨書されていた。79号土坑からは内面に棒状工具によるミガキを施した土師器杯1と丸底の杯2が出土している。

前述の141号土坑からは8点の椀と須恵器甕の口

縁部破片9、須恵器壺体部10が出土している。

1号土坑2と30号土坑4からは棒状鉄製品が出土しており、釘と考えられる。

土錘は29号、30号、47号、80号、91号、136号、148号土坑から各1点、41号から2点が出土している。

91号、110号土坑からは砥石が出土している。

4区では1号土坑以下15基から出土した資料を掲載した。

46号土坑からは底部が回転糸切り離し未調整の須恵器杯1から9の9点、椀の破片10・11、皿12、壺の把手17、壺の底部18、甕の口縁部破片19から21の3点、土師器甕の口縁部13・14、台付甕の脚台部15、甕の底部16が出土している。

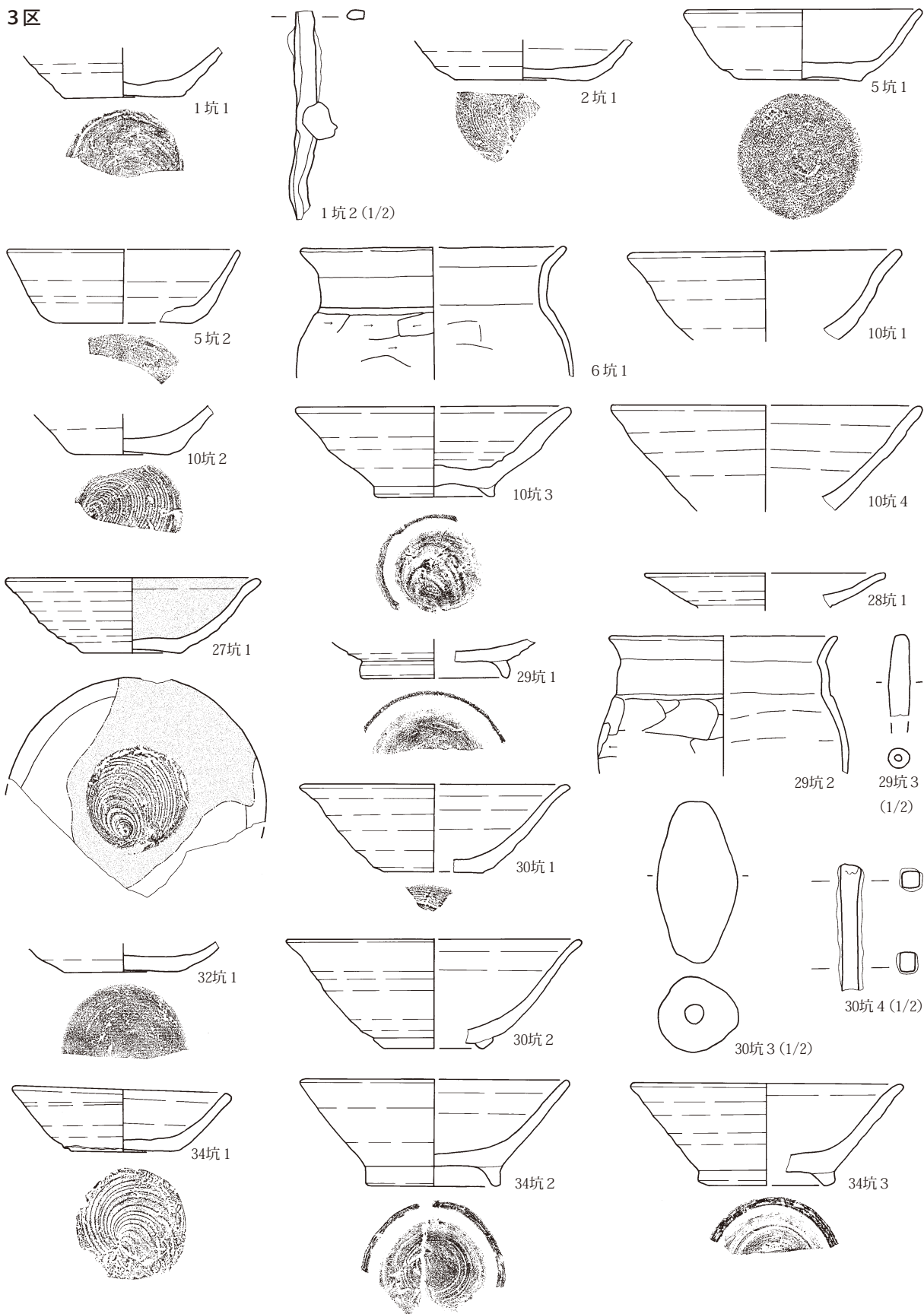
31号土坑からは平瓦の破片2が出土している。

土錘は16号土坑から1点、46号土坑から7点が出土している。

64号土坑からは刀子1が出土している。

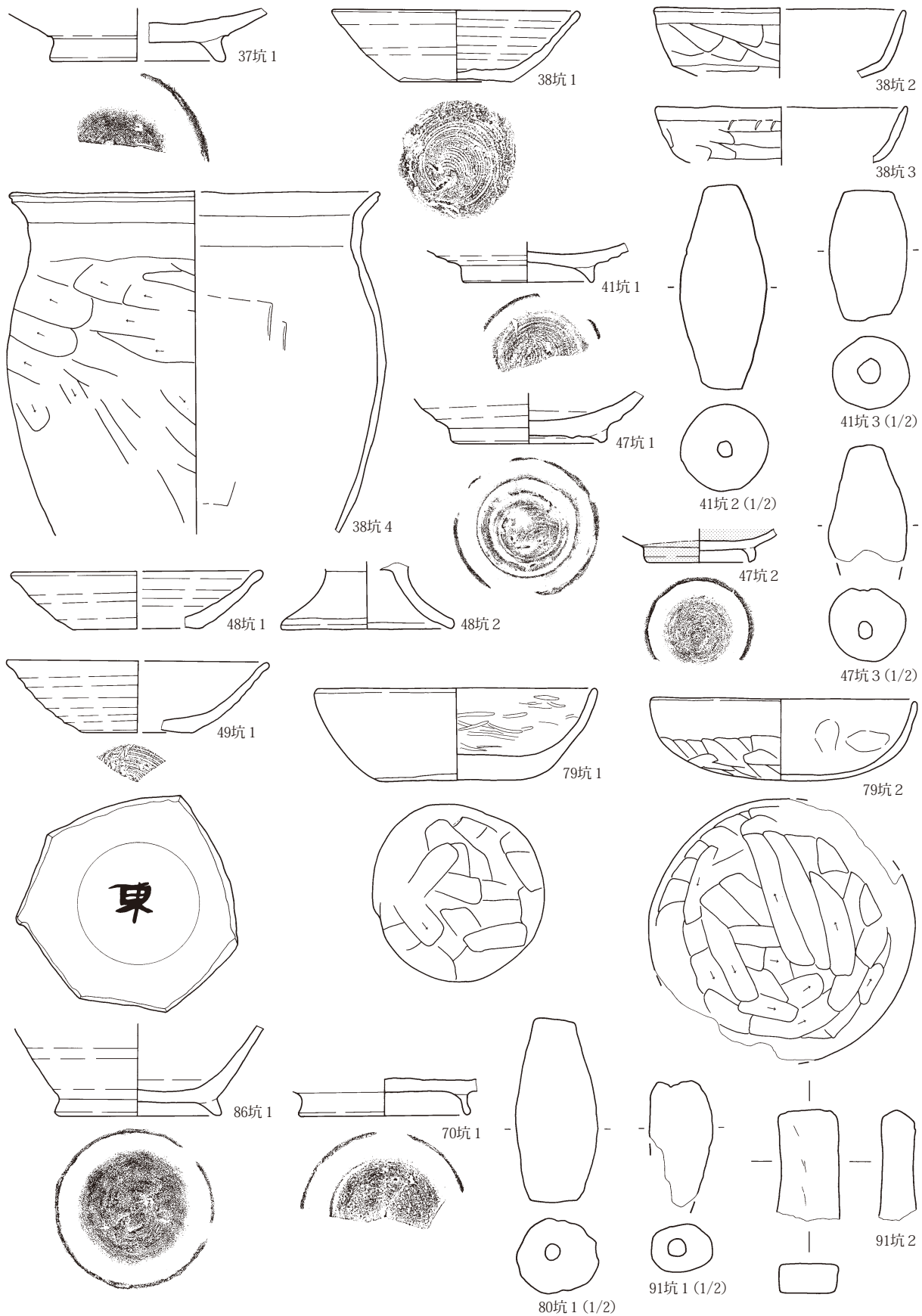
5区からは18号、22号、24号の3基土坑から出土した資料について掲載を行った。18号土坑は埴1と高杯の破片2が出土している。これらの特徴から古墳時代の所産の可能性はある。22号土坑出土の須恵器3は割れ口が片口状を呈しており、二次調整が加えられている可能性がある。

3区



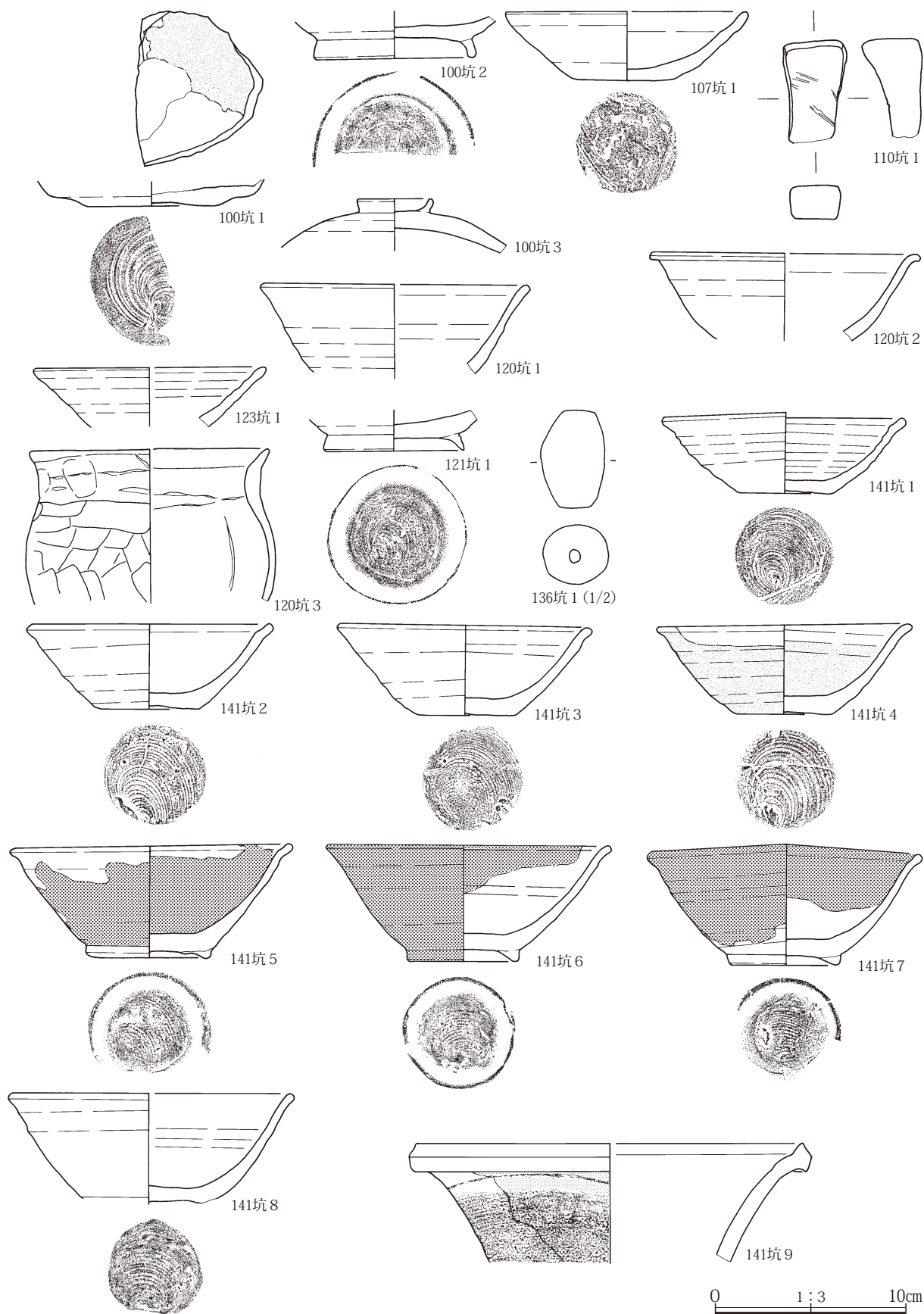
第389图 2面3区土坑出土遺物 1

0 1:3 10cm

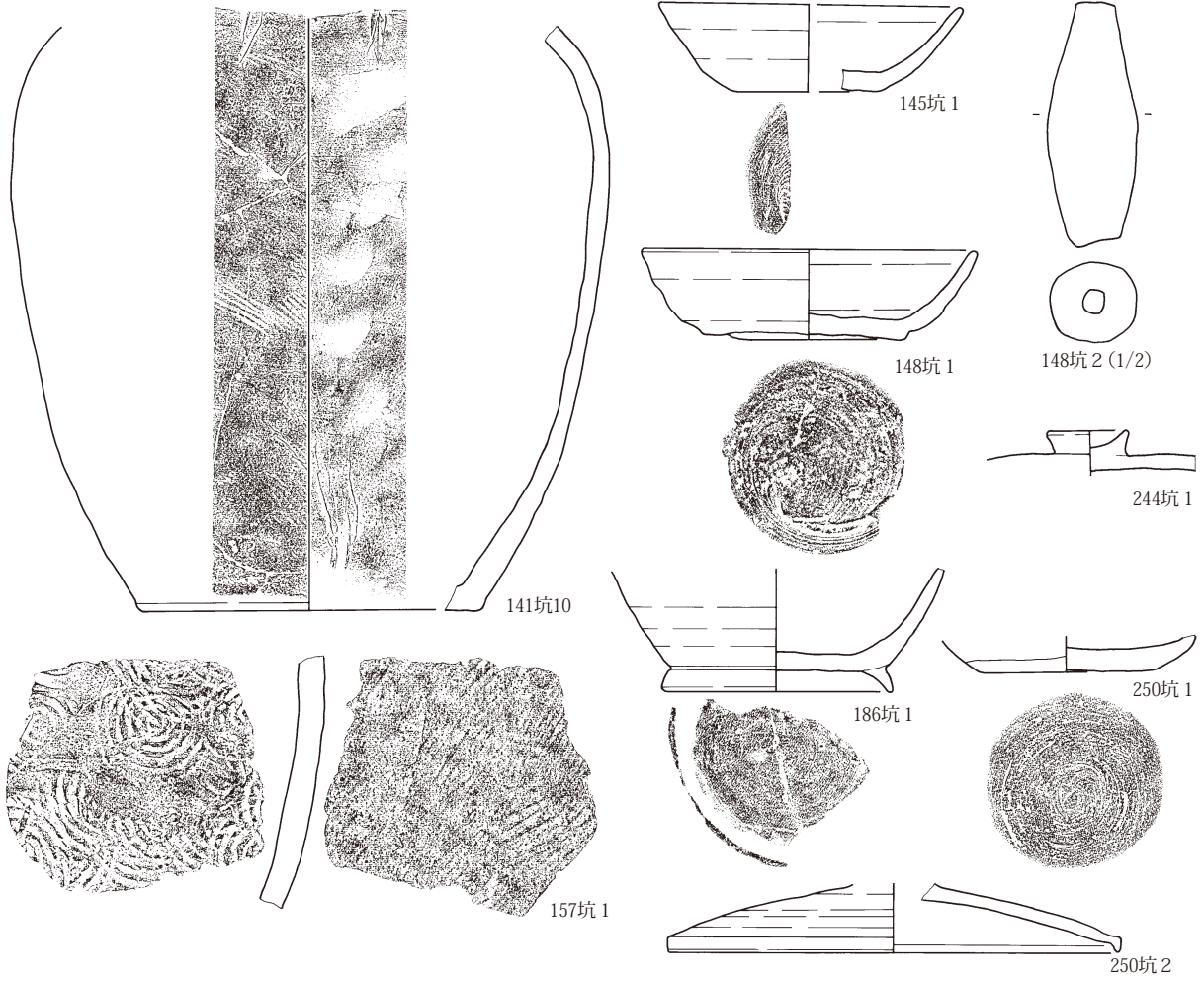


第390图 2面3区土坑出土遗物2

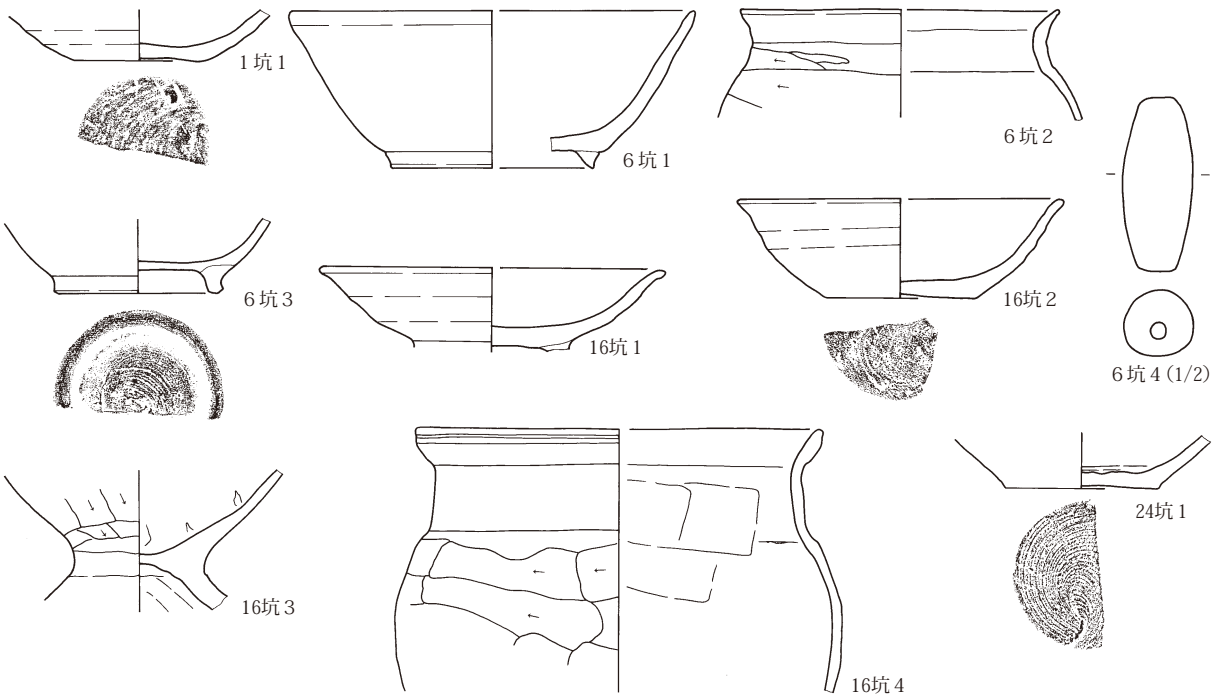
0 1:3 10cm



第391图 2面3区土坑出土遗物 3

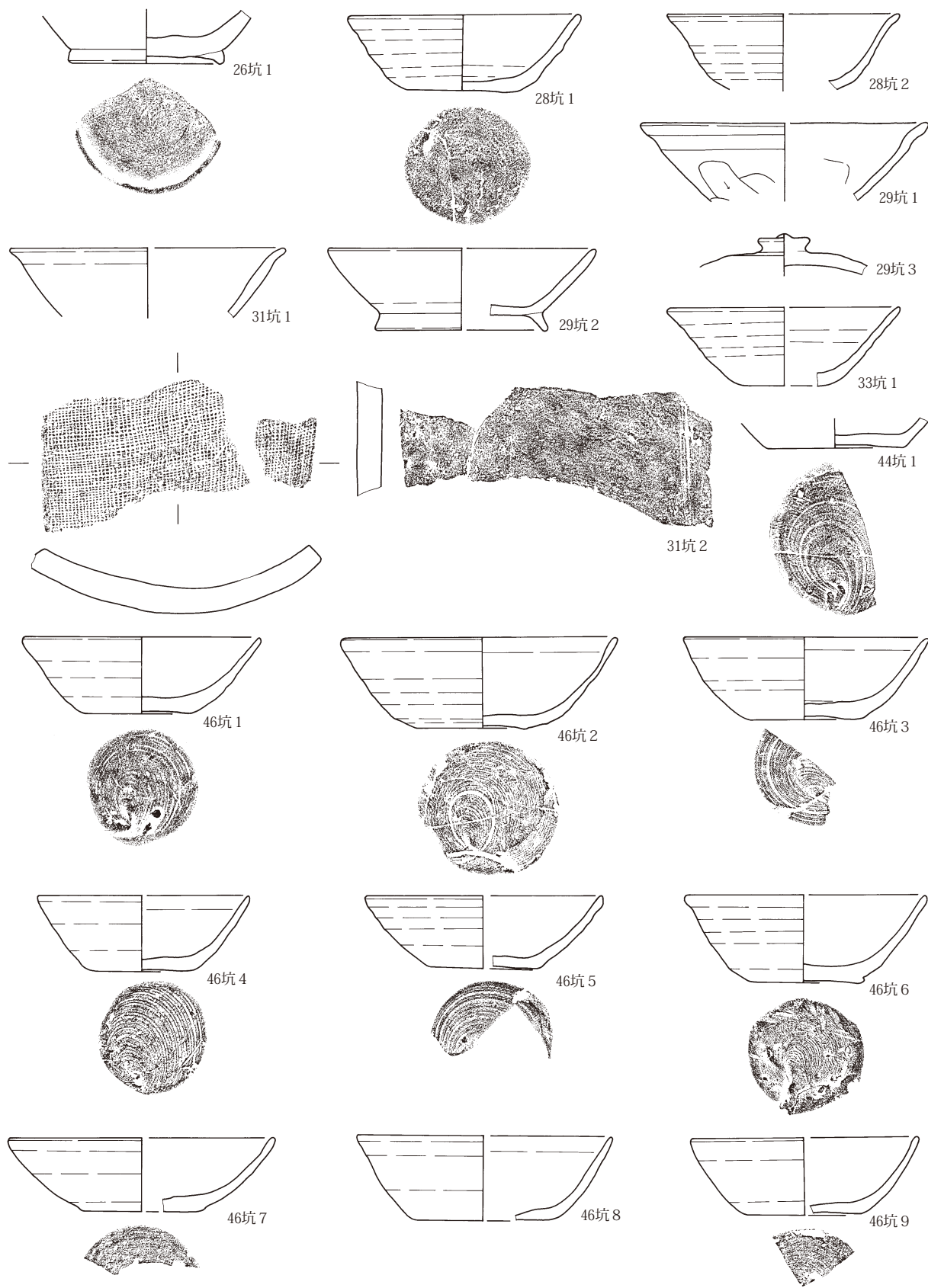


4区



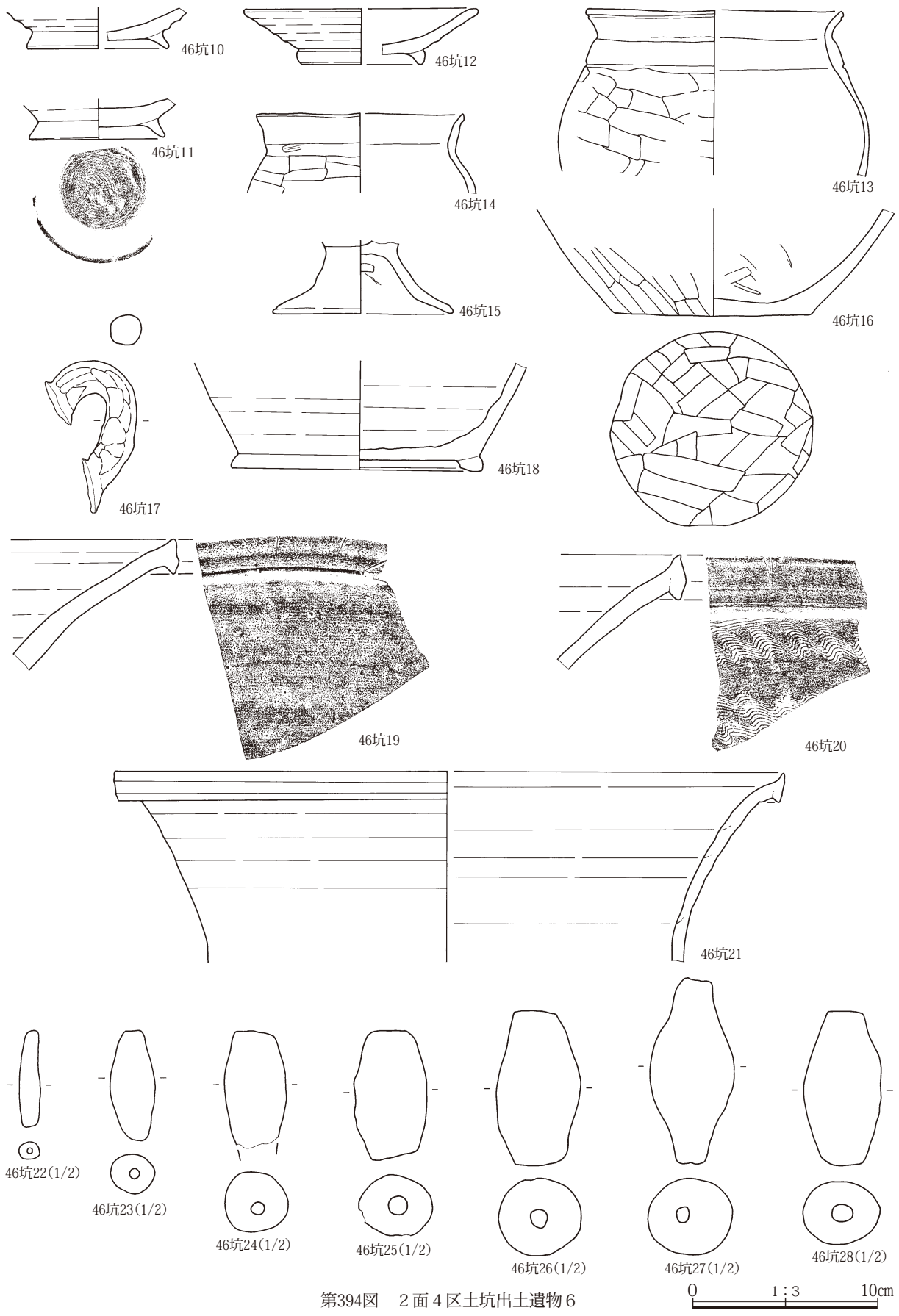
第392图 2面3区4区土坑出土遗物4

0 1:3 10cm



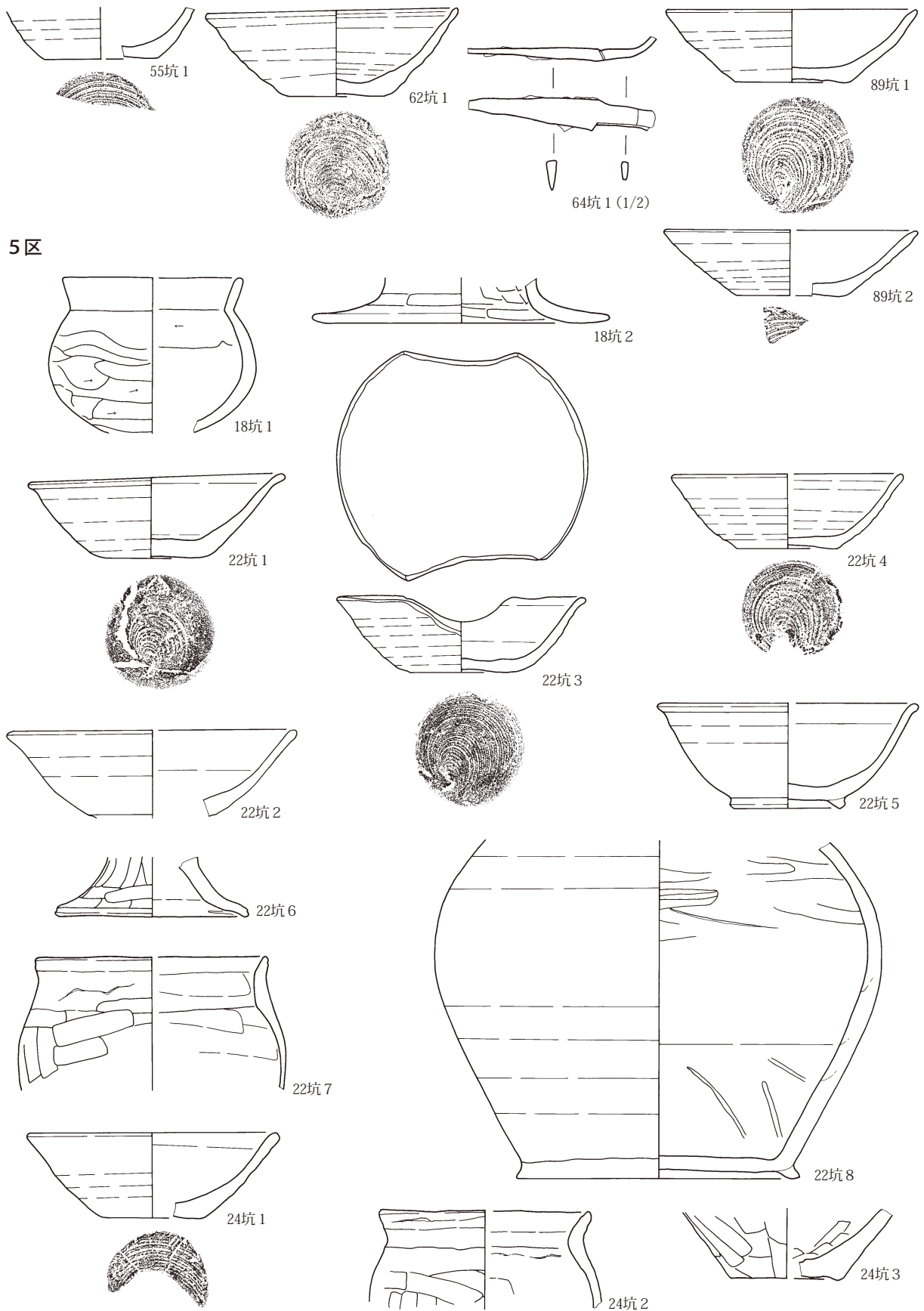
第393图 2面4区土坑出土遺物5

0 1:3 10cm



第394图 2面4区土坑出土遗物6

0 1:3 10cm



第395图 2面4区5区土坑出土遗物7

7 ピット

概要

各調査区の2面においてピットを検出したのは3区、4-I・II区、5区、6-I・II区である。3区では476本、4区では110本、5区では25本、6区では34本を検出している。

全体的な分布状況を見ると各区の高位部で検出されていることが分かる。概括的には住居や土坑の分布と重複している部分が多く見られる。

3区の概要

概要 3区2面を確認面としたピットは合計476本を検出した。

分布 分布状況を見ると粗密の差は有りながらも調査区全域から検出された。1号掘立柱建物が検出された南東部分では本のピットが検出されたが、1号掘立柱建物以外の遺構を確認することはできなかった。この一群の北側でも2号住居から2号掘立柱建物までの間にピットの分布が見られるが、南東部分、あるいは北半部分と比較すると量的には少量で、散在的な分布状況となる。

調査区の北半部分では多数の住居や土坑が検出された。これらの遺構と重複したことによりこの部分において実際に掘削されたピットの数は検出数を大きく上回っていたものと考えられる。そのことを差し置いても検出数は476本であった。

形状 平面形は他の区と同様に円形あるいは長円形を基本としたものが主体的であるが、P378、P437、P442、P448などは記録内容からは隅丸方形と考えることもできる例であるが判然としたものである。残存状態が良好な事例は少数で、大半の事例は掘り込みが浅く、レンズ状、皿状の断面形を呈するものも見られた。掘り込みの良好な事例としてはP128やP411などを挙げることができる。

埋没土 大半の事例が暗褐色土で埋没していた。その他に黒褐色土や黄褐色土が堆積していた事例があったが、量的にはごく少量である。柱痕を確認で

きた事例はない。P128は土層の堆積が中心と壁際で分層することができたが柱痕と断定するにはいたらなかった。

遺物 P80から須恵器杯1が、P130と灰釉陶器椀1が、P148から大刀1が、P207から須恵器椀1が出土している。

所見 建物遺構の一部を構成するような状況は認められなかった。掘削時期、性格などについては不明である。

4区の概要

概要 4-I区では住居群を確認したのと同一直面上（ここでは確認面上面と呼称）で48本、4-II区で62本を検出した。なお、4-II区確認面下面においては検出されていない。

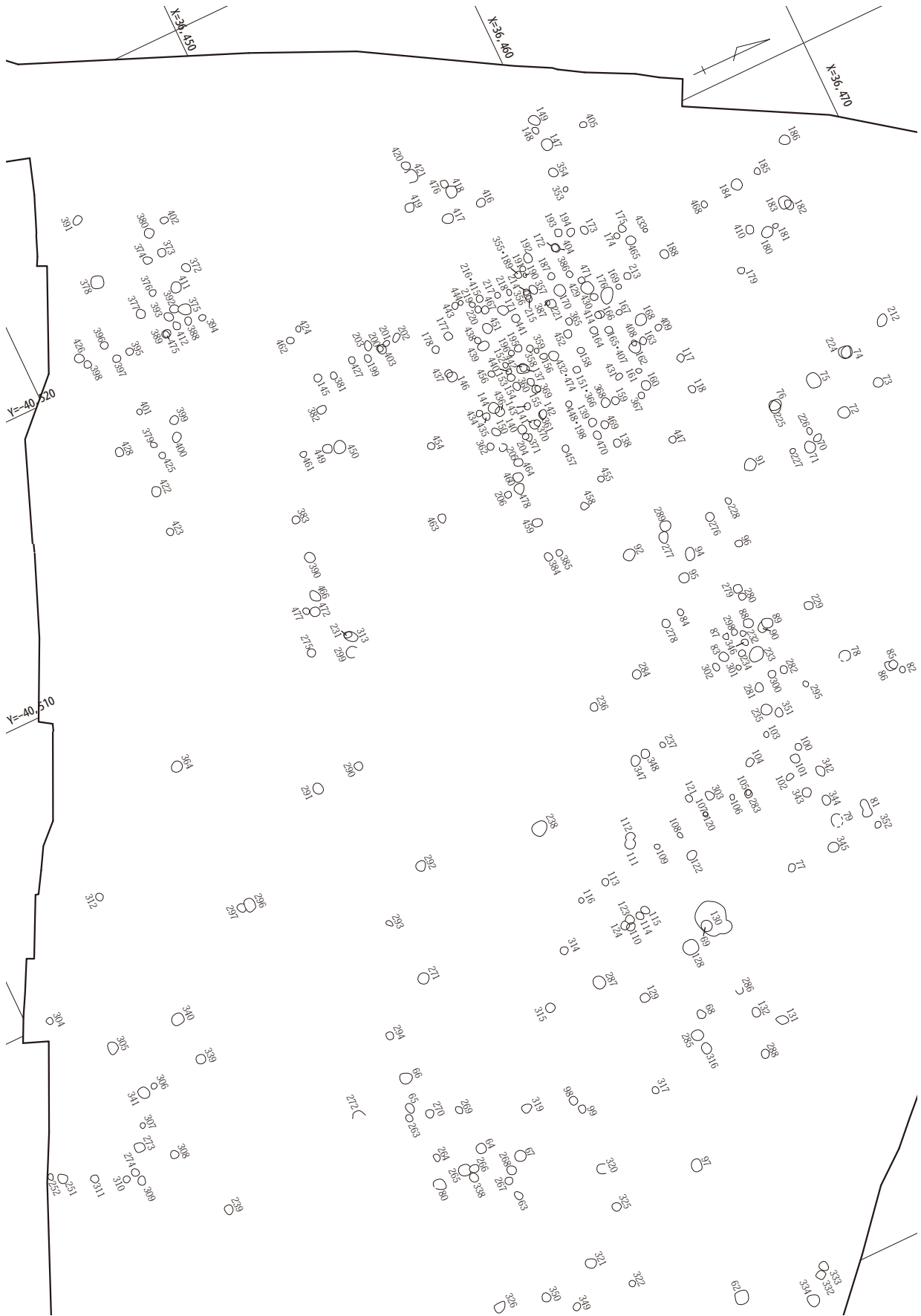
分布 4-I区の確認面上面は調査区の西側から東側に向かって緩やかに傾斜していた。検出したピットは調査区の北西部分に多く見られ、同一面上の住居や土坑の分布と重なっていた。調査区の南西部分は散在的な分布で、現道を挟んでピットが密集していた3区南西部分に隣接する地点であるが様相を全く異にしていた。東半部分では皆無であった。

4-II区においては調査区の中央部分で検出した36号溝の南側に分布が認められた。土坑と混在状態を呈する。1面のピットの状況と比較すると多少その範囲を広げている。

形状 平面形は円形、長円形を基本としているが不整形を呈するものが多数含まれている。四角形を呈するものは見られなかった。残存状態は4-I区、II区ともにあまり良好でなく、深さは浅いものが多く、II区の事例はいずれも深さ65cm以下であった。その中、P44、P56、P60は比較的良好な掘り方を呈していた。

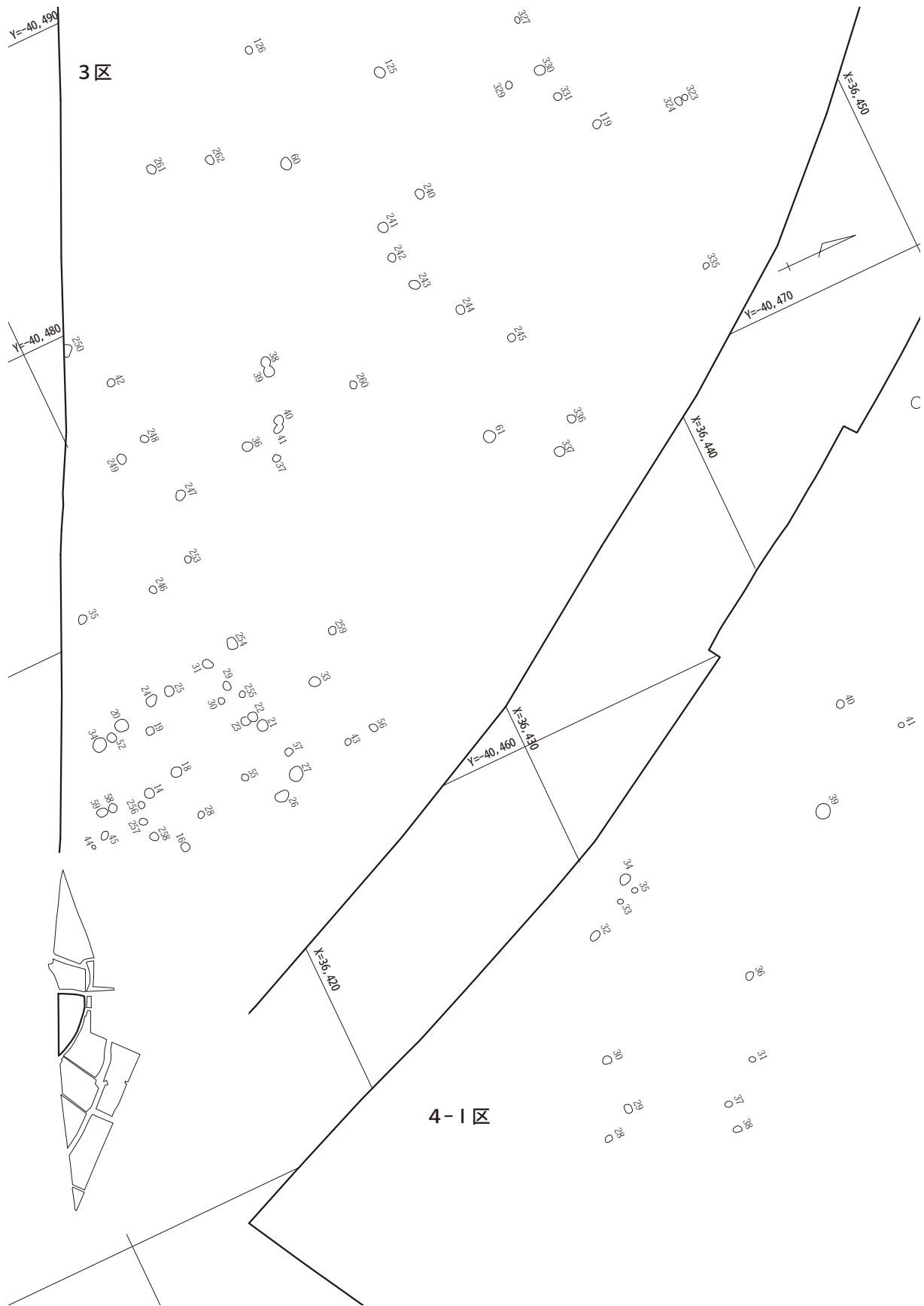
埋没土 暗褐色土が堆積するものが主体的であるがこの他に黒褐色土が堆積するものが少数見られた。柱痕の存在が確認されたものはないが、埋没土の分層からはP44にその可能性が考えられる。

遺物 資料化に足るものは出土していない。



第396図 2面ピット分布 1 3区 1

0 1:200 10m

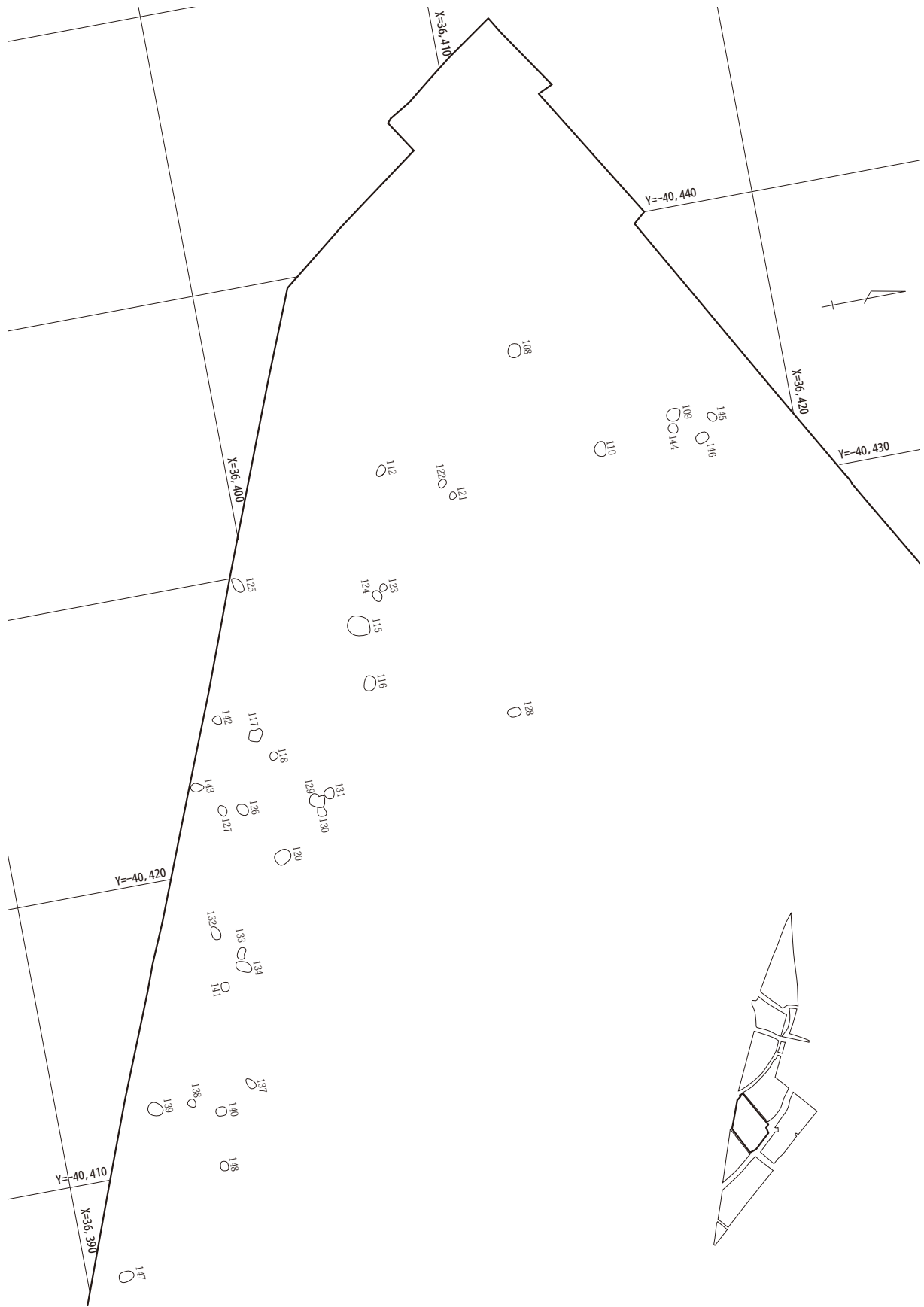


第397図 2面ピット分布2 3区2

0 1 : 200 10m

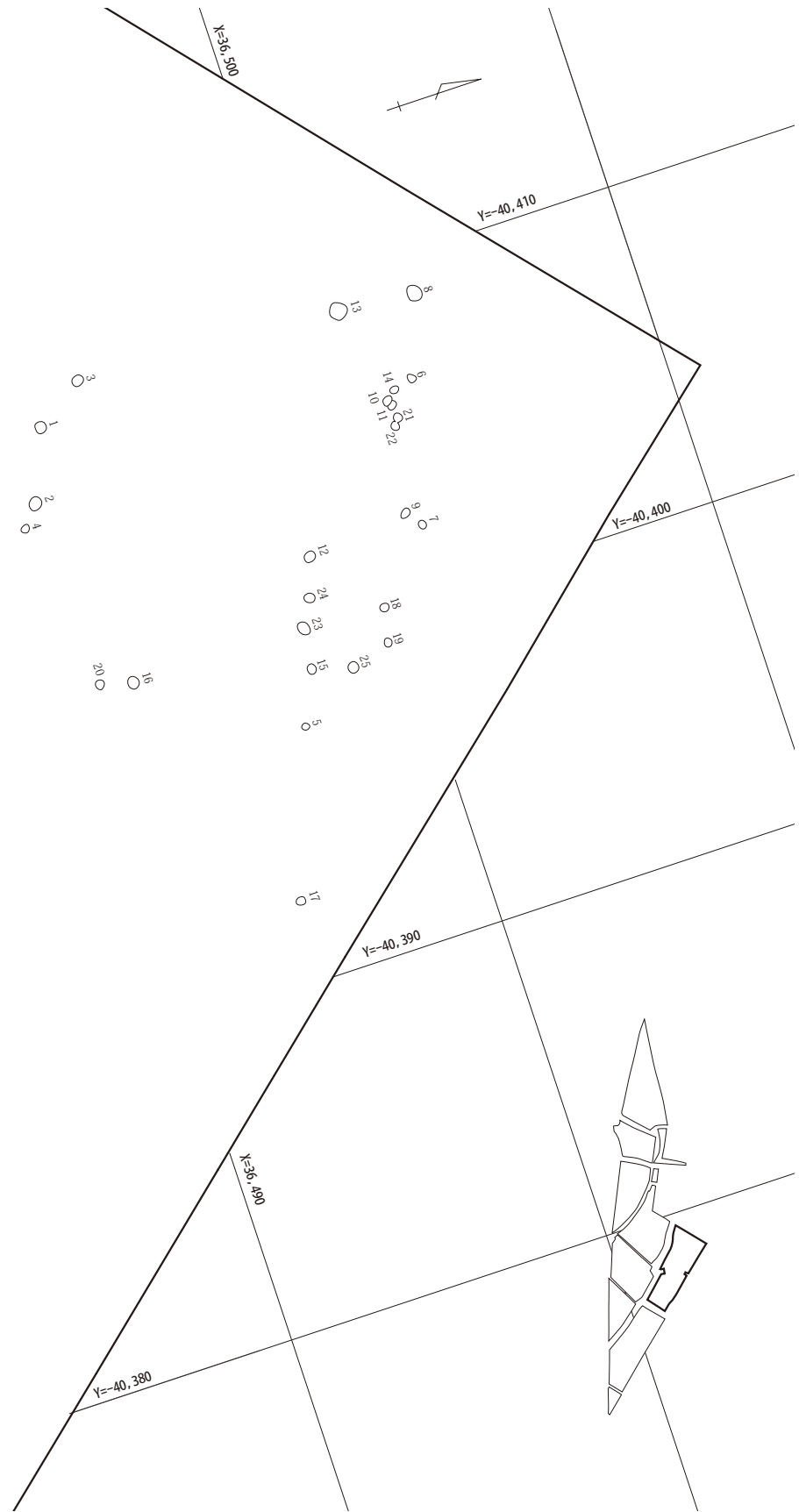


第398図 2面ピット分布3 4-I区



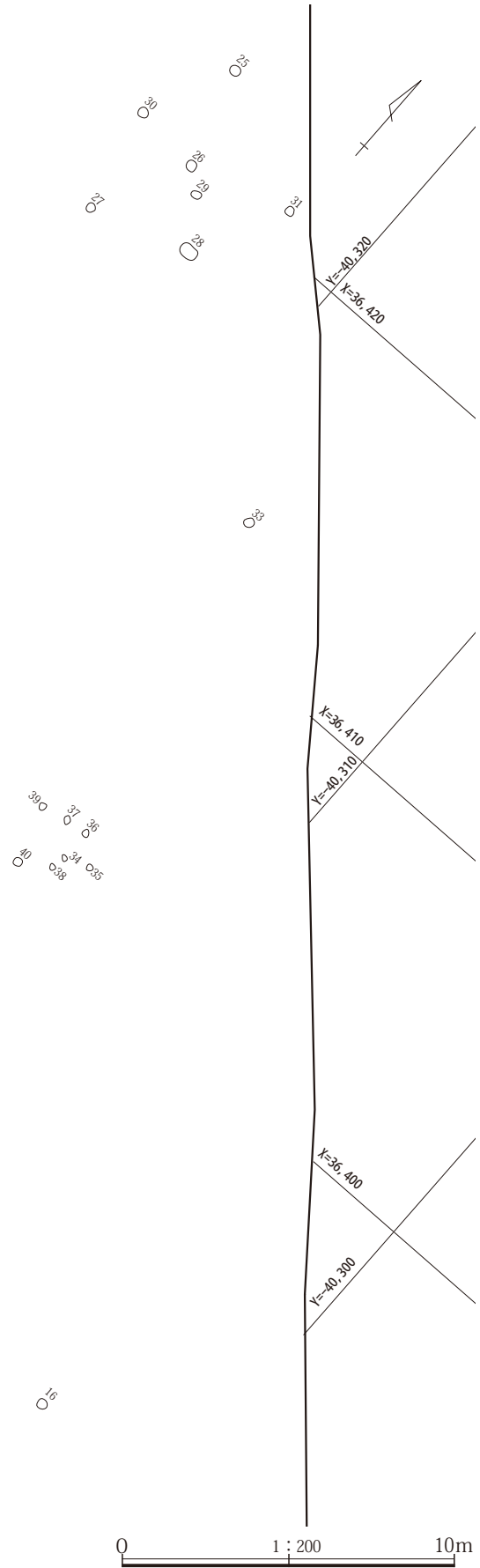
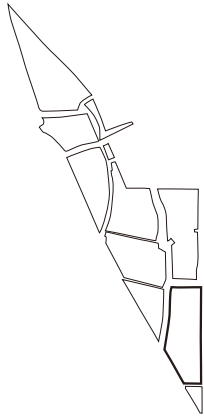
第399図 2面ピット分布 4-Ⅱ区

0 1:200 10m

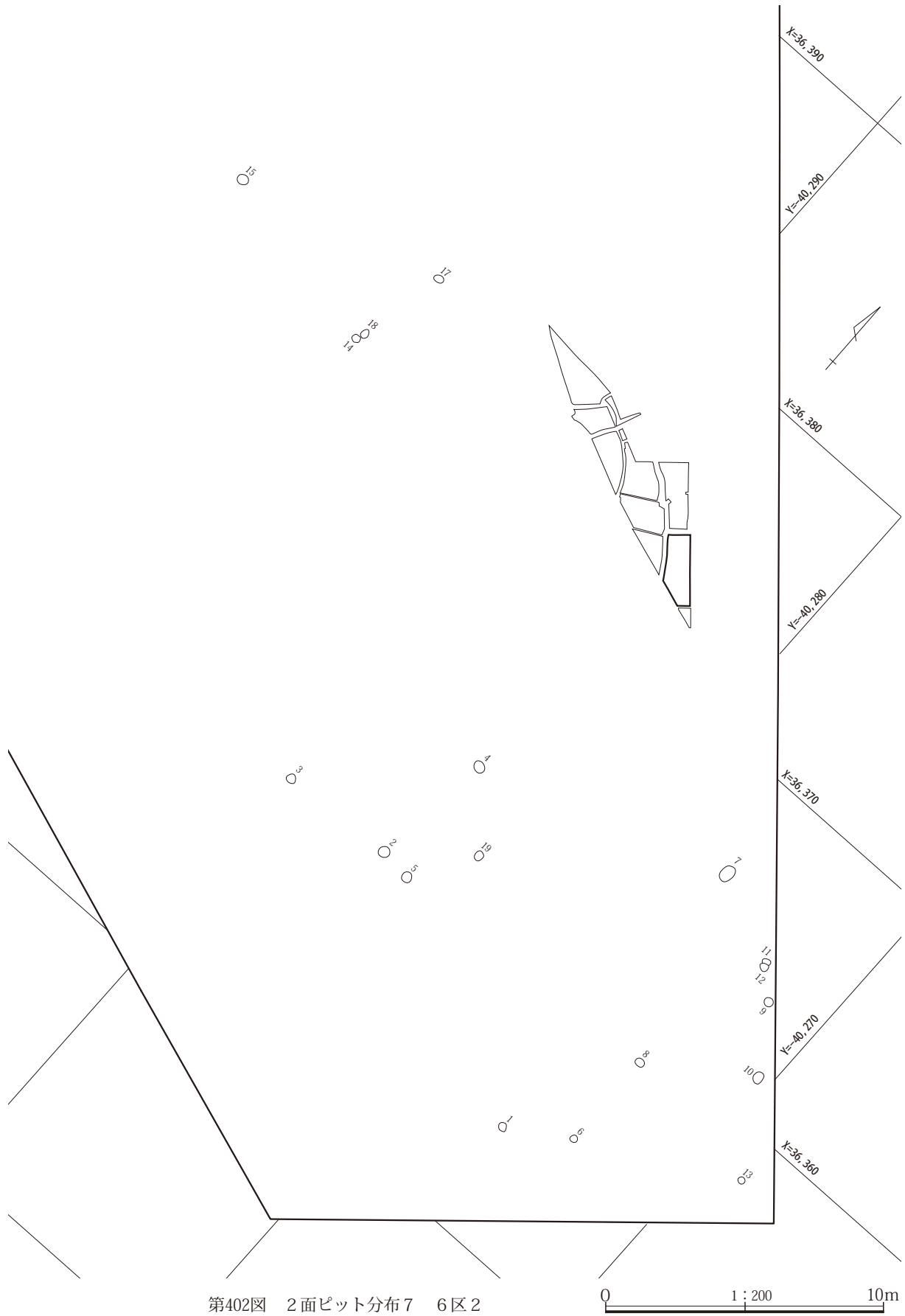


第400図 2面ピット分布 5 5区

0 1 : 200 10m



第401図 2面ピット分布6 6区1



第402図 2面ピット分布 7区6区

所見 建物遺構の一部を構成するような状況は認められなかった。掘削時期、性格などについては不明である。

5区の概要

概要 5区2面を確認面とするピットは合計25本を検出した。

分布 分布状況を見ると、いずれも、調査区の中央を北西から南東方向に延びる旧地形の凹地の東側微高地上に位置している。P1からP4の4本は凹地の縁辺寄りから検出されたが特段規則性などは認められなかった。P16、P20の2本は同じ2面上で掘削が確認された18号溝の西側で検出された。この他の19本は18号溝の東側からの検出である。本調査区の土坑が18号溝東側の南東部分にまとまりが見られるのに対し、ピットは中央から北西寄りに分布していたが数量的には散在的であった。

形状 平面形は長円形あるいは円形を基本としている。正円の事例はないものの不整形の事例も見られなかった。四角形を基本とするものも皆無である。深さはP4の19cmからP23の65cmまでであったが、P2やP15のような良好な掘り込みを有するものもあった。P8は壁面下位が張り出し、断面がフラスコ状を呈していた。

埋没土 暗褐色土が堆積していたものが多数見られた。粘性を伴うものが多かった。1層で埋没していたものが大半であった。柱痕が確認できた事例はなかったが、P3は土層観察で、中心と壁際の暗褐色土が分層できた。これが柱痕の可能性が考えられる事例である。

遺物 P13からは高坏1～4が出土している。これらの土器のもつ特徴は古墳時代中期のものと考えられるが、本項で報告する。

所見 建物遺構の一部を構成するような状況は認められなかった。掘削時期、性格などについては不明である。

6区の概要

概要 6区2面を確認面とするピットは合計34本を検出した。

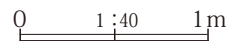
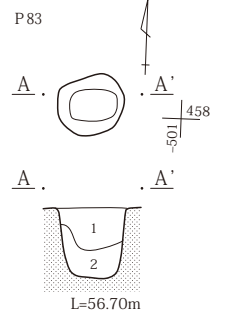
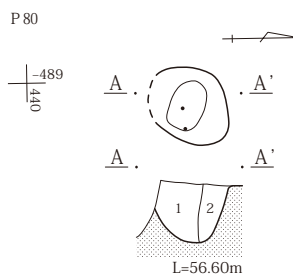
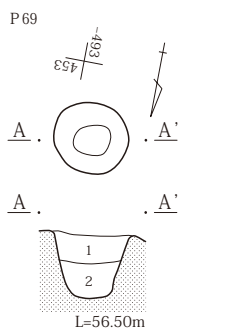
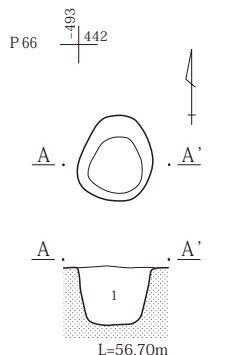
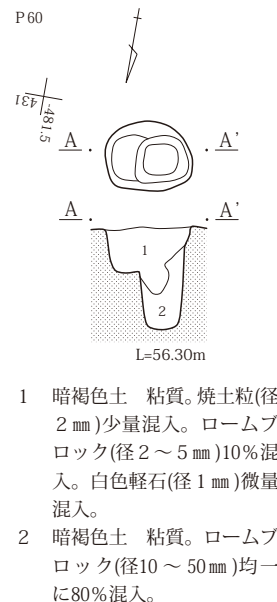
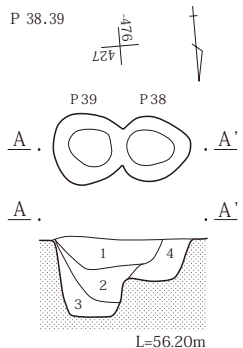
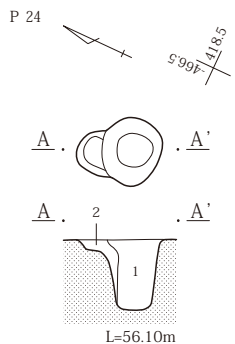
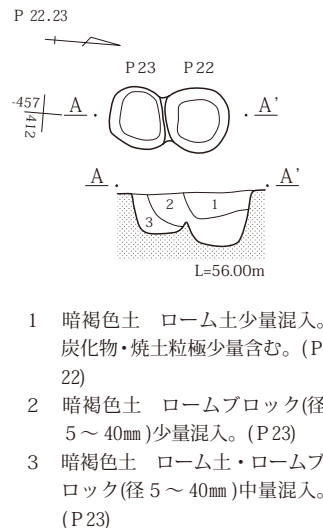
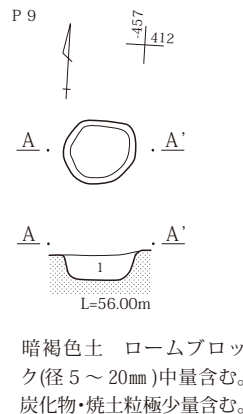
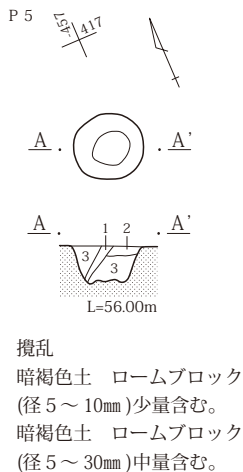
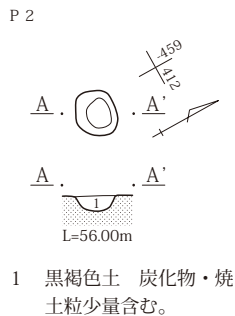
分布 検出されたのは6-I・II区で、III区からは検出されていない。6-I・II区では北西から南東方向に延びる自然流路の東側部分に分布していた。土坑の分布状況とほぼ重なっていた。全体的には散在する状況であったがその中でも多少の粗密の差が見られ、南側では、東山道駅路南側側溝周辺、北側の2号・3号建物址の周辺に他より多く見られた。

形状 平面形は長円形あるいは円形を基本としている。断面形は下端が先細りとなるものが多く、良好な状況ではない。深さは、P1の21cmからP25の70cmで、P3やP9・P10などを除くと掘り込みの残存はあまり良好ではなかった。

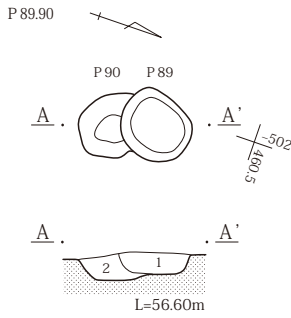
埋没土 暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土が堆積していた。1層で埋没していたものが大半である。

遺物 資料化に足るものは出土していない。

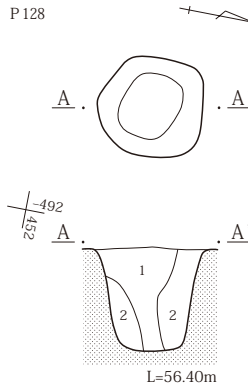
所見 建物遺構の一部を構成するような状況は認められなかった。掘削時期、性格などについては不明である。



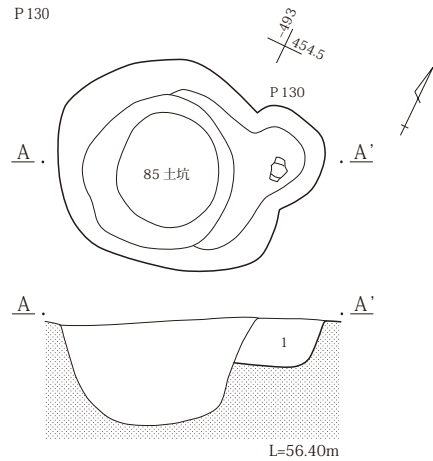
第403図 2面3区ピット1 2-83



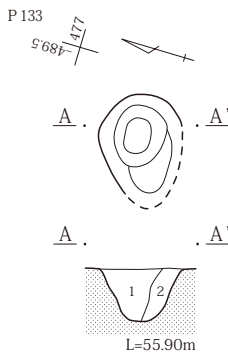
- 1 暗褐色土 焼土粒(径2mm)少量混入。白色軽石(径1mm)微量混入。ロームブロック(径30mm)を少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)均一に少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。



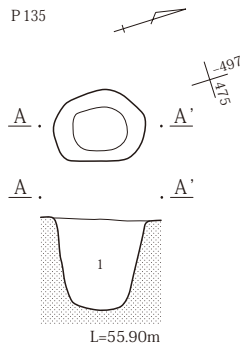
- 1 暗褐色土 白色軽石少量混入。炭化粒極少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)少量混入。炭化粒極少量含む。



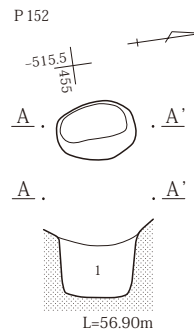
- 1 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(径5~20mm)中量混入。



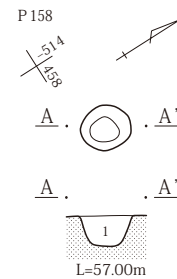
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径20~50mm)中量混入。白色軽石少量含む。



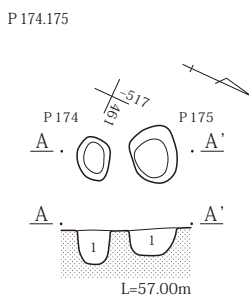
- 1 褐灰色土 粘質。ロームブロック(径20mm前後)少量混入。



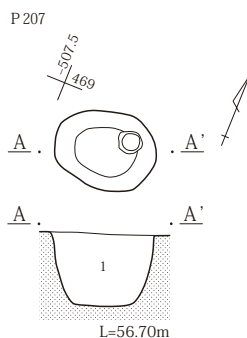
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径3mm)少量混入。



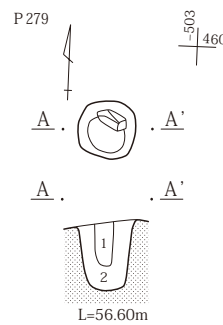
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径1mm)少量混入。



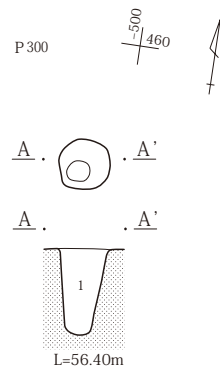
- 1 黄褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。ロームの混じりが多い。



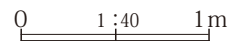
- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。ロームブロック(径10~40mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。



- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。ローム粒(径2mm)少量混入。炭化物(径2mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径5~10mm)均一に50%混入。

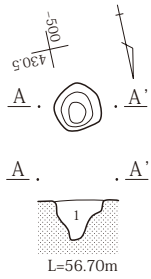


- 1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に少量混入。ロームブロック(径10~50mm)30%混入。



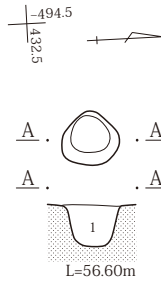
第404図 2面3区ピット2 89-300

P 304



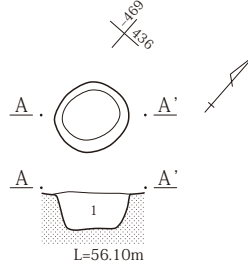
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。

P 308



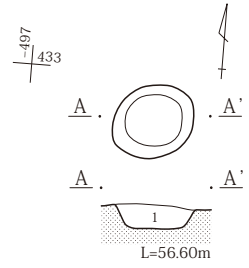
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。

P 337



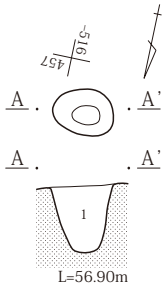
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に5%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。炭化物(径5mm)少量混入。白色軽石(径2~5mm)均一に少量混入。

P 341



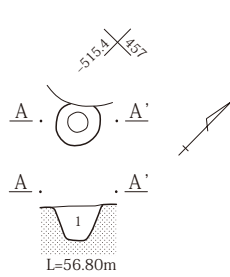
1 黄褐色土 やや粘質。ソフトローム50%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。

P 356



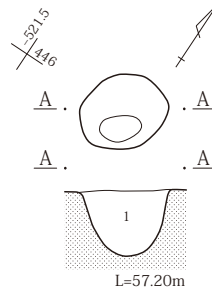
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。

P 358



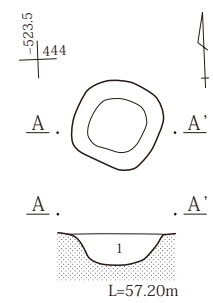
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

P 375



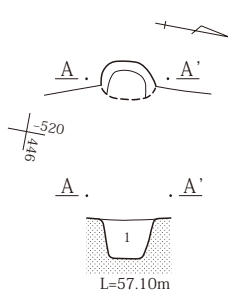
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。小礫(径5mm)を少量混入。

P 378



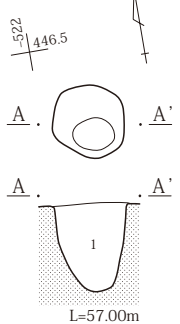
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。小礫(径5mm)を少量混入。

P 394



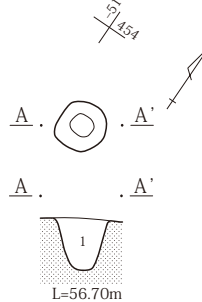
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に少量混入。鉄分均一に少量混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。炭化物(径3mm)微量混入。

P 411



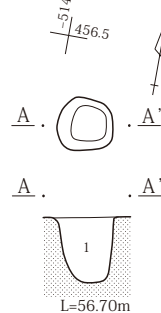
1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。白色軽石(径2mm)均一に少量混入。鉄分を多く含む。

P 437

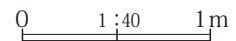


1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2~5mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)少量混入。炭化物(径3mm)少量混入。白色軽石(径2mm)少量混入。

P 442



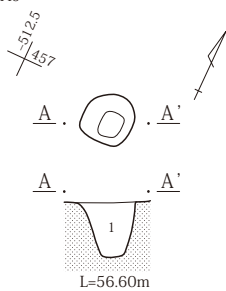
1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2~5mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)少量混入。ロームブロック(径10mm)20%混入。



第405図 2面3区ピット3 304-442

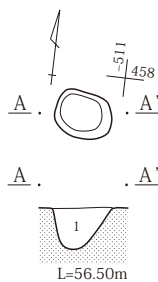
3区

P 448



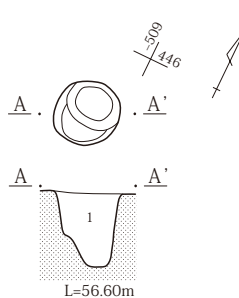
1 暗褐色土 やや粘質。焼土粒(径2~5mm)少量混入。ローム粒(径2~5mm)少量混入。ロームブロック(径10mm)20%混入。

P 469



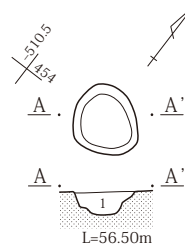
1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に20%混入。

P 472



1 暗褐色土 ローム粒(径2~5mm)均一に少量混入。小礫(径3~5mm)均一に30%混入。炭化物(径3mm)微量混入。

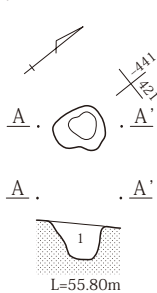
P 478



1 暗黄褐色土 やや粘質。ローム30%と暗褐色土の混土。

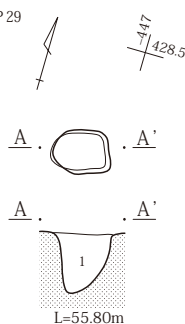
4区

P 27



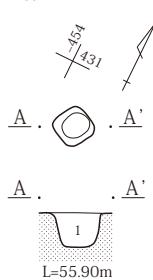
1 暗褐色土 褐色ロームブロック少量・白色軽石粒極少量混入。

P 29



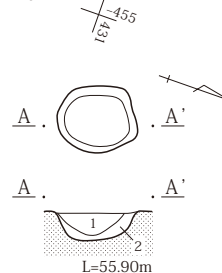
1 暗褐色土 褐灰色ロームブロック(径5~30mm)混入。白色軽石極々少量含む。

P 33



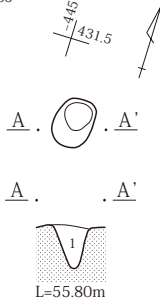
1 暗褐色土 ロームブロック(径5~20mm)を混入。炭化物少量含む。

P 34



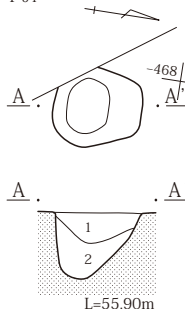
1 暗褐色土 褐色ロームブロック(径10mm前後)混入。白色軽石粒・焼土粒・炭化物極々少量含む。
2 暗褐色土 褐色ロームブロック(径20~50mm)を不均一に混入。炭化物も極少量含む。

P 38



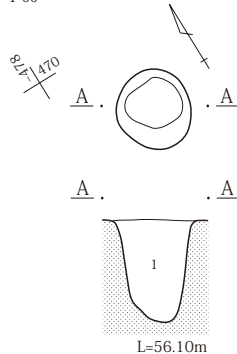
1 暗褐色土 白色軽石粒少量・褐灰色水性ロームブロック極少量混入。

P 54



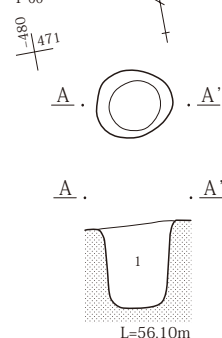
1 暗褐色土 褐色ロームブロック(径5~20mm)不均一に混入。
2 暗褐色土 褐色ロームブロック(径20~40mm)不均一に混入。

P 56

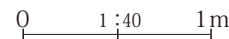


1 暗褐色土 白色軽石・焼土粒・炭化物(径2~10mm)混入。

P 60

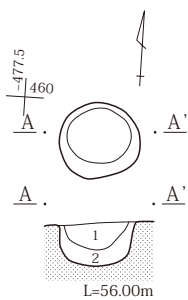


1 暗褐色土 白色軽石・焼土粒・炭化物(径2~10mm)混入。



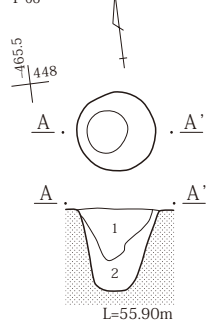
第406図 2面3区4区ピット4 448-60

P61



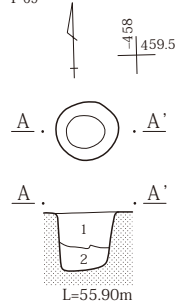
- 1 暗褐色土 白色軽石多量に混入。焼土粒・炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 砂質。白色軽石混入(砂質土がブロック状に多量に混入)。

P68



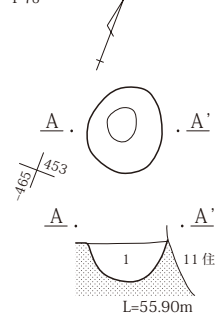
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)を均一に10%混入。焼土粒・炭化物(径5mm)を均一に10%ずつ混入。ローム粒(径3mm)を均一に10%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。ロームブロック(オリーブ色)径5~20mm)を均一に50%混入。

P69



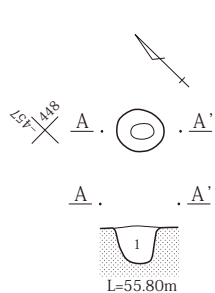
- 1 暗褐色土 砂質土。白色軽石極少量混入。
- 2 暗褐色土 やや粘質。白色軽石極少量混入。

P78



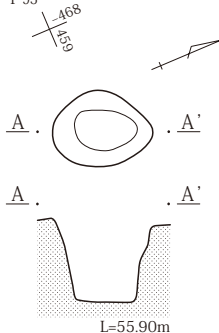
- 1 暗褐色土 焼土粒極少量混入。ロームブロック(径10~30mm)不均一に含む。

P86

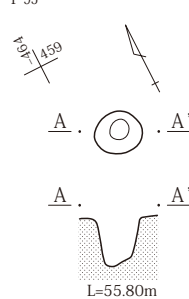


- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)均一に混入。焼土粒(径2mm)10%微量混入。炭化物(径2mm)微量混入。

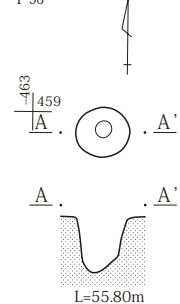
P93



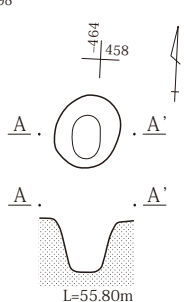
P95



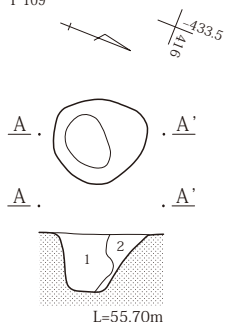
P96



P98

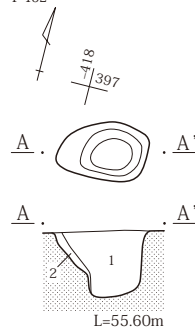


P109



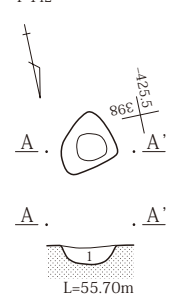
- 1 黒褐色土 ローム土少量混入。
- 2 黒褐色土 ロームブロック(径20~30mm)中量混入。

P132

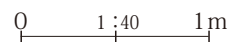


- 1 暗褐色土 ローム土少量混入。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径20~30mm)中量混入。

P142

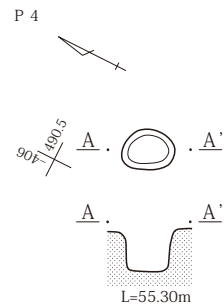
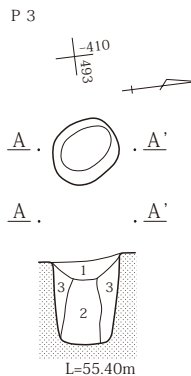
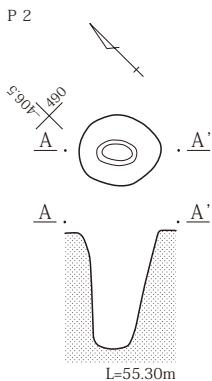
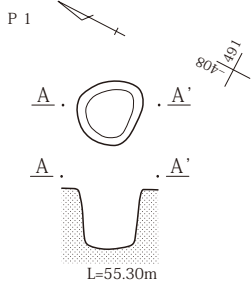


- 1 黒褐色土 ローム土少量混入。

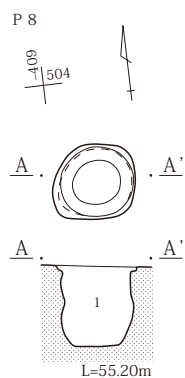
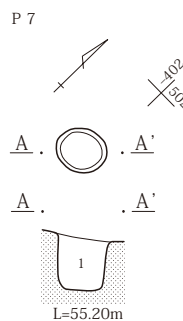
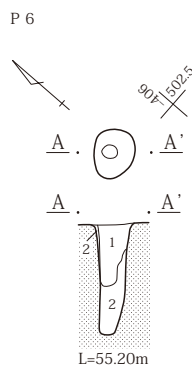
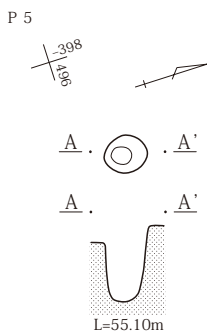


第407図 2面4区ピット5 61-142

5区



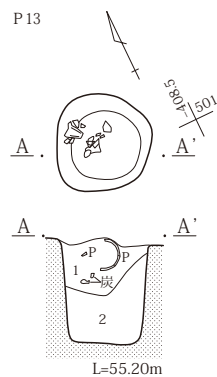
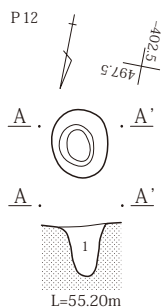
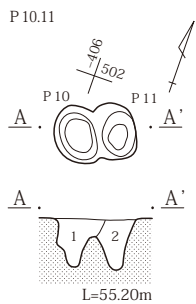
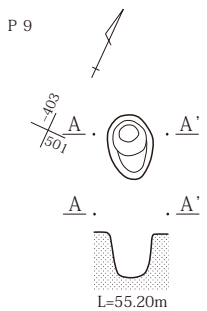
- 1 暗褐色粘質土 ローム粒(径0.1～3mm)10%混入。
- 2 暗褐色粘質土 ローム40%混じり。
- 3 暗褐色粘質土 ローム80%混じり。



- 1 黒褐色粘質土 ローム粒(径0.1～2mm)を少量含む。
- 2 詳細不明。

- 1 黒褐色粘質土 ローム粒(径1～3mm)20%混入。

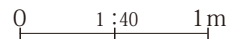
- 1 灰茶褐色粘質土 ローム混じり。



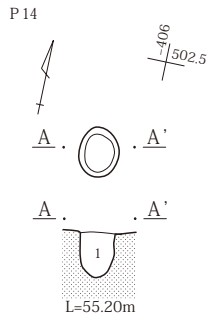
- 1 暗褐色粘質土 ローム粒(径1～3mm)少量混入。
- 2 暗褐色粘質土 ローム30%混じり。

- 1 茶褐色粘質土 ロームブロック(径1～5mm)30%混入。

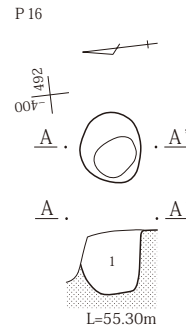
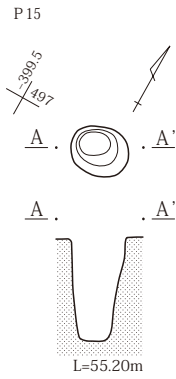
- 1 暗褐色土 粘質中。炭(径15mm)2片混入。ローム粒(径2～4mm)混入。
- 2 暗褐色土 粘質中。ローム粒(径1～5mm)50%混入。ロームブロック(径30～40mm)50%混入。



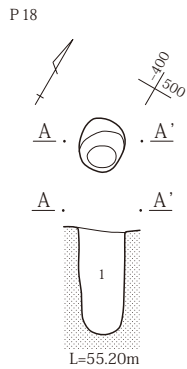
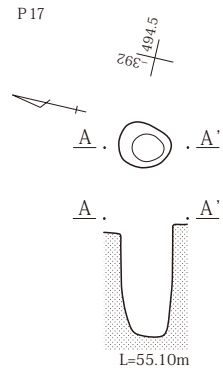
第408図 2面5区ピット6 1-13



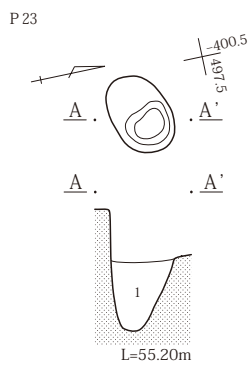
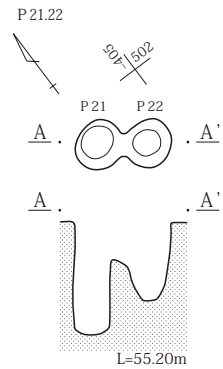
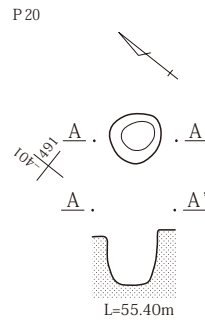
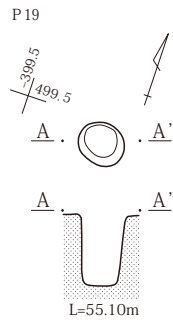
1 暗褐色粘質土 ローム
30%混じり。



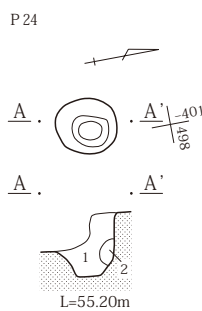
1 暗褐色土 白色軽石(径0.1
~ 2 mm) 5%混入。ローム
粒(径1~8 mm)20%混入。



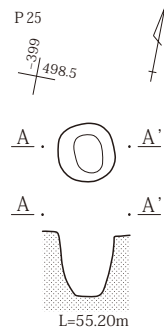
1 暗褐色粘質土 ローム粒
(径1~2 mm)少量混入。
ロームブロック(径10~
20mm)混じる。



1 暗褐色粘質土 ローム粒
(径1~3 mm)少量混入。
ローム20%混じり。



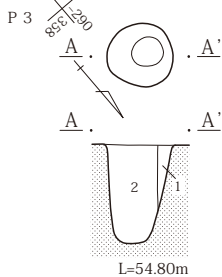
1 暗褐色粘質土 ローム粒
(径1~3 mm)少量混入。
2 暗褐色粘質土 ローム50%
混じり。



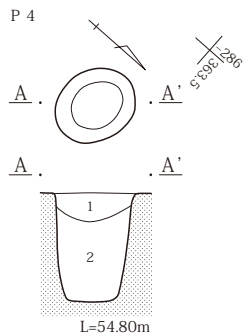
0 1:40 1m

第409図 2面5区ピット7 14-25

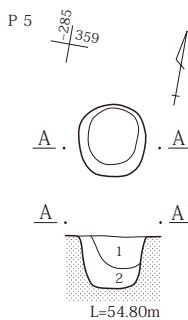
6区



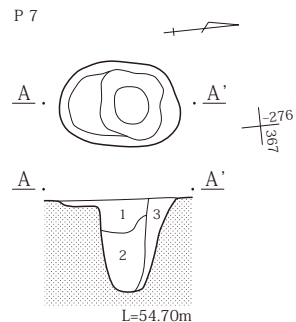
- 1 暗褐色土 ロームブロック混入。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量混入。



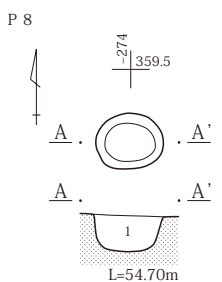
- 1 暗褐色土 ロームブロック(径10～30mm)10%混入。
- 2 暗褐色土 ローム全体50%に均一に混じる。



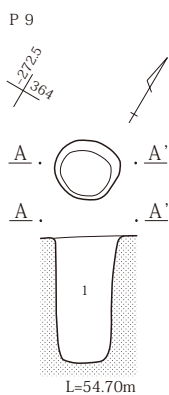
- 1 黒褐色土 ローム土混入。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量混入。



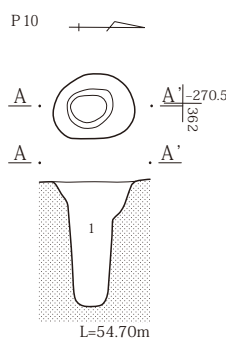
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径3～10mm)20%混入。黄褐色土粒(径1～2mm)少量混じる。
- 2 暗褐色土 黄褐色土50%混じる。
- 3 暗褐色土 黄褐色土80%混じる。



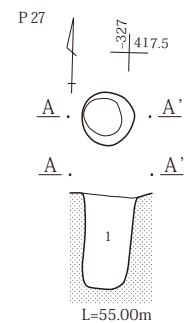
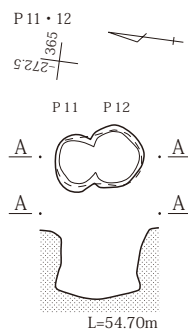
- 1 黒褐色土 ローム土少量混入。炭化物極少量混入。



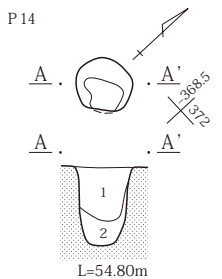
- 1 暗褐色粘質土 黒味を帯びている。黄褐色土粒(径2～3mm)5%混入。



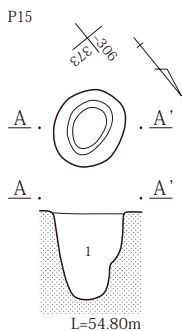
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(径1～3mm)20%混入。



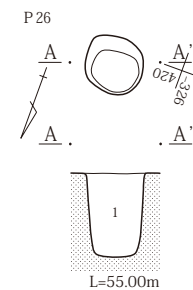
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック(径3～10mm)10%混入。



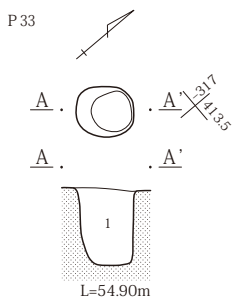
- 1 暗褐色土 黄褐色粒(径2～5mm)5%混入。黄褐色ブロック(径10～15mm)少量含む。



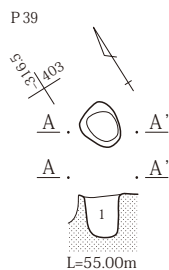
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒(径1～5mm)10%混入。黄褐色土ブロック(径10～30mm)20%混入。



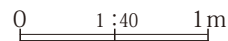
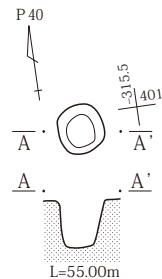
- 1 暗褐色土 粘質中。



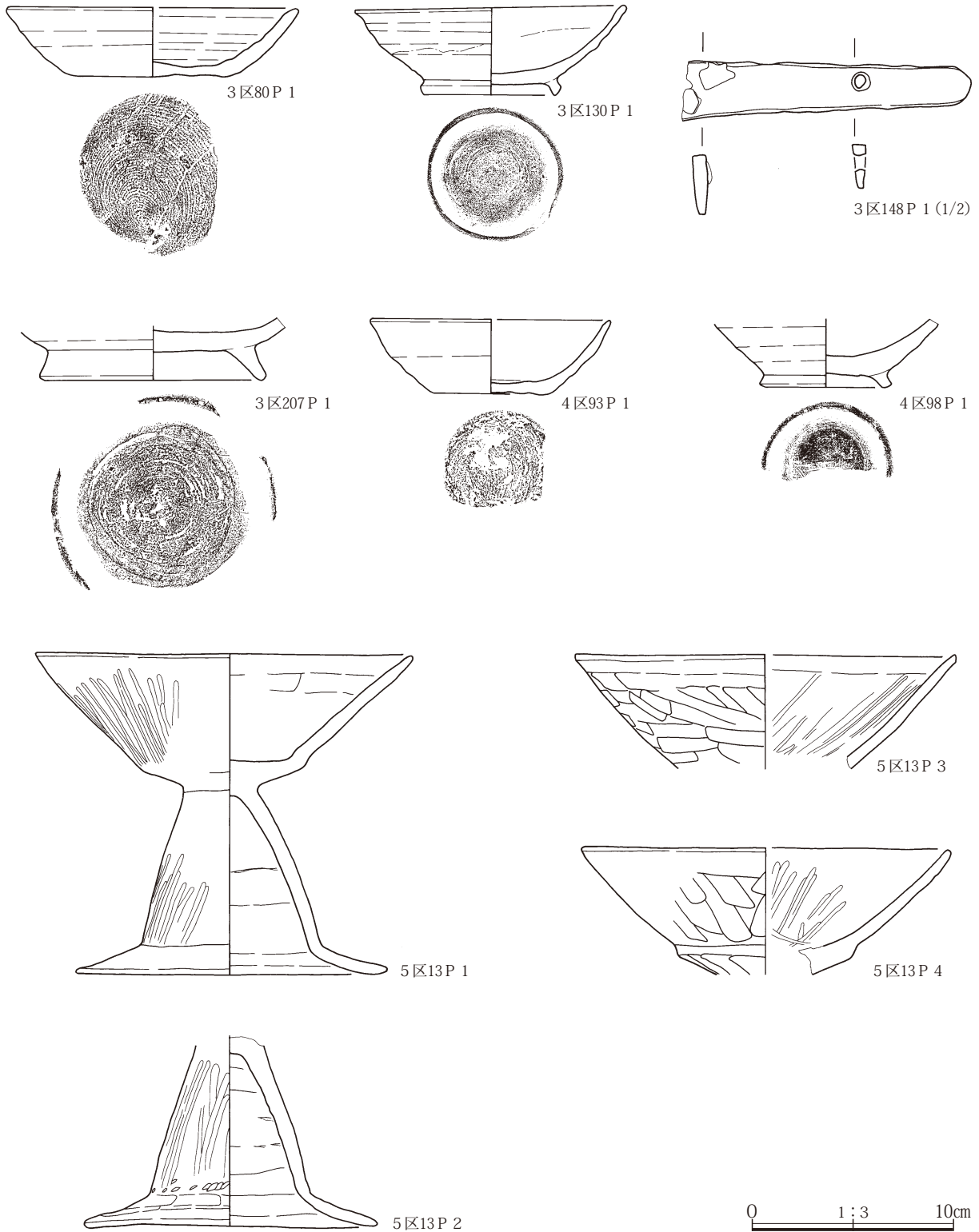
- 1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1～5mm)を均一に20%混入。ロームブロック(径100mm)を数個混入。



- 1 黄褐色土 粘質。ローム粒(径1mm)を均一に50%混入。ロームブロック(径50mm)を少量混入。



第410図 2面6区ピット8 3-40



第411図 2面3区4区5区ピット出土遺物

8 溝

概要

本項で報告する溝は各調査区の第2面で確認され、調査が実施されたものである。出土遺物が少量であったことから掘削時期を特定することができたものは少ない。4-I区で検出した溝群は平安時代の住居の下層に位置している。他の区においても古墳時代の遺物を包含する事例も見られるがそれらも本項で報告した。

3区の概要

3区2面では5条の溝を検出した。7号溝の走向は、調査区境、すなわち現道に沿ったものであり、古い段階で現在の土地区割りができあがっていたことを想起させるものである。1面で1号や5号溝が検出されていることと合わせて考えると同じ位置に継続して用水路が設定されていたことが確認された。10号溝は1面の2号溝と、11号溝は1面の4号溝と走向が近い。

3区7号溝（第413・414図、P L 63・127・128）

位置 425-460（東端）、460-490（西端）
重複 1号・2号竪穴址、8号溝に後出する。45号、46号、49号、71号、85号住居他と重複する。
形状 調査区境に沿う形で検出されたため、大半が片側（西あるいは南側の壁面）の立ち上がりを検出したにとどまった。全体が緩やかな弧を描いている。検出した走長は61.45mである。断面形は土層の堆積状況の記録からは底幅の広い箱形状を呈していたものと想定されるが断定できない。調査区境側に底面がもう一段下がる部分が見られるが、これは埋没が進行した後に掘り直しをした痕跡、あるいは新たに掘削された別溝の掘り方である可能性も考えられる。この部分の深さは良好な地点で0.27mを測った。

走行方位 N-46°-W（北側）、N-30°-W（南側）

埋没土 地点ごとに土層が異なるが、暗褐色土、褐灰色土などが堆積している。

遺物 埋没土中から土師器甕1、須恵器杯7、甕2、土錘4から6、円筒埴輪2、鉄釘8などが出土している。

所見 現道あるいはその前身の道路に沿って検出された。用水路の可能性が考えられる。平安時代の遺物が出土しているが掘削時期の確定は困難である。

3区8号溝（第413・414図、P L 63）

位置 425-460（南端）、445-475（北端）
重複 7号溝に先出する。9号溝と重複する。
形状 西北方向から南東方向に延びる溝である。大きく2回蛇行している。北端は掘り込みが浅くなり、不明瞭になって検出ができなくなっていた。南端では7号・9号溝と重複している。検出された走長は22.84mである。上層からの削平が著しく、壁面の残存は良好な地点で0.11mであったため断面の形状については不詳である。残存する上幅は1.28から1.44m、下幅は0.10から0.28mである。南側寄りでは底面がさらに一段、4から6cm程低くなる部分が見られた。

走行方位 N-28°-W（北側）

埋没土 褐灰色土が堆積していた。砂質であるが締まりを有している。流水の有無は確認されていない。

遺物 埋没土中から鉄釘と考えられ棒状鉄製品1が検出された。

所見 性格、掘削時期については不詳である。

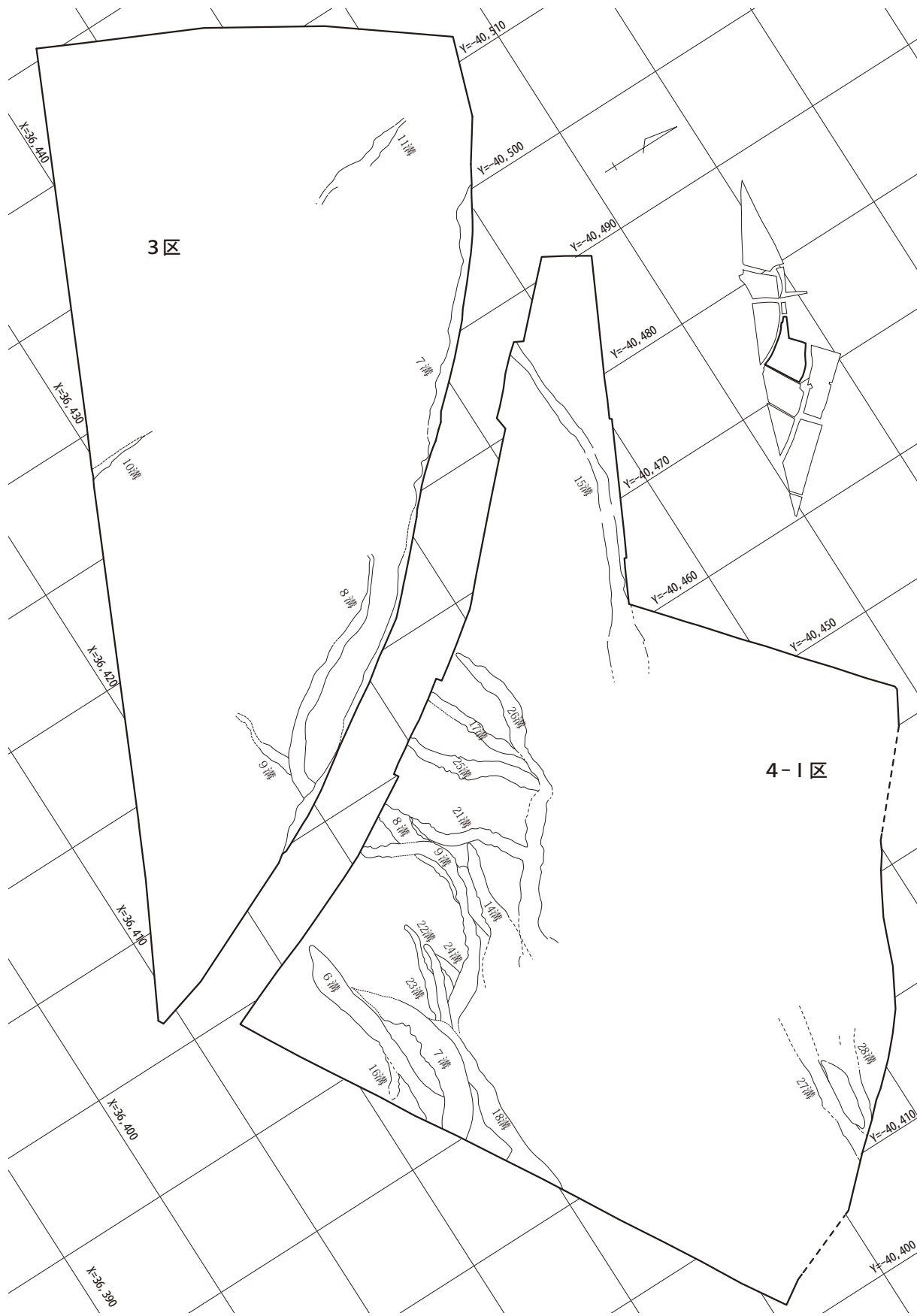
3区9号溝（第413図、P L 63）

位置 425-495
重複 8号溝と重複する。
形状 東西方向の溝と考えられるが東端は8号溝に合流するように重複している。西端は上層からの削平を受け不明瞭となっている。

走行方位 N-28°-W

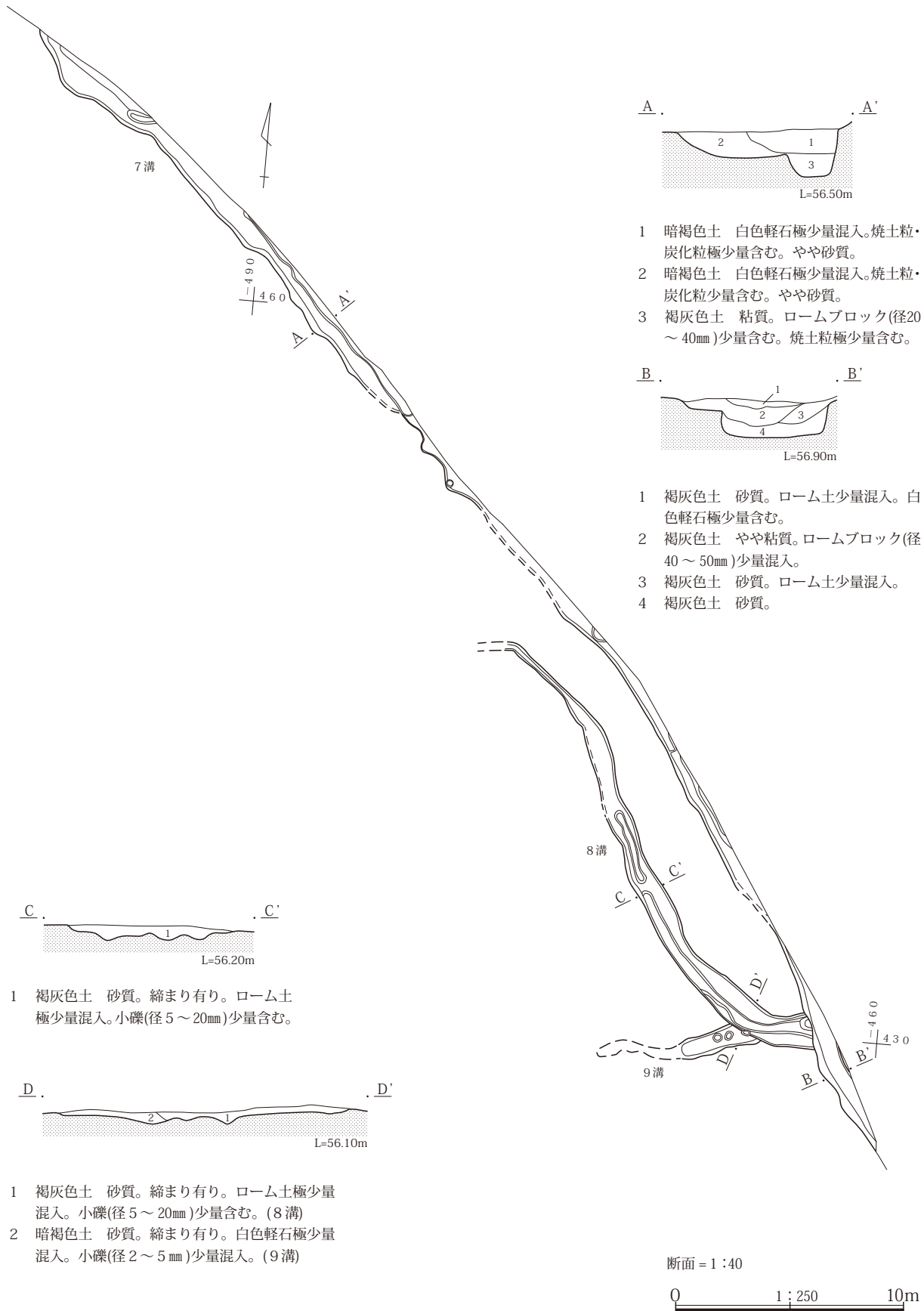
埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 出土していない。



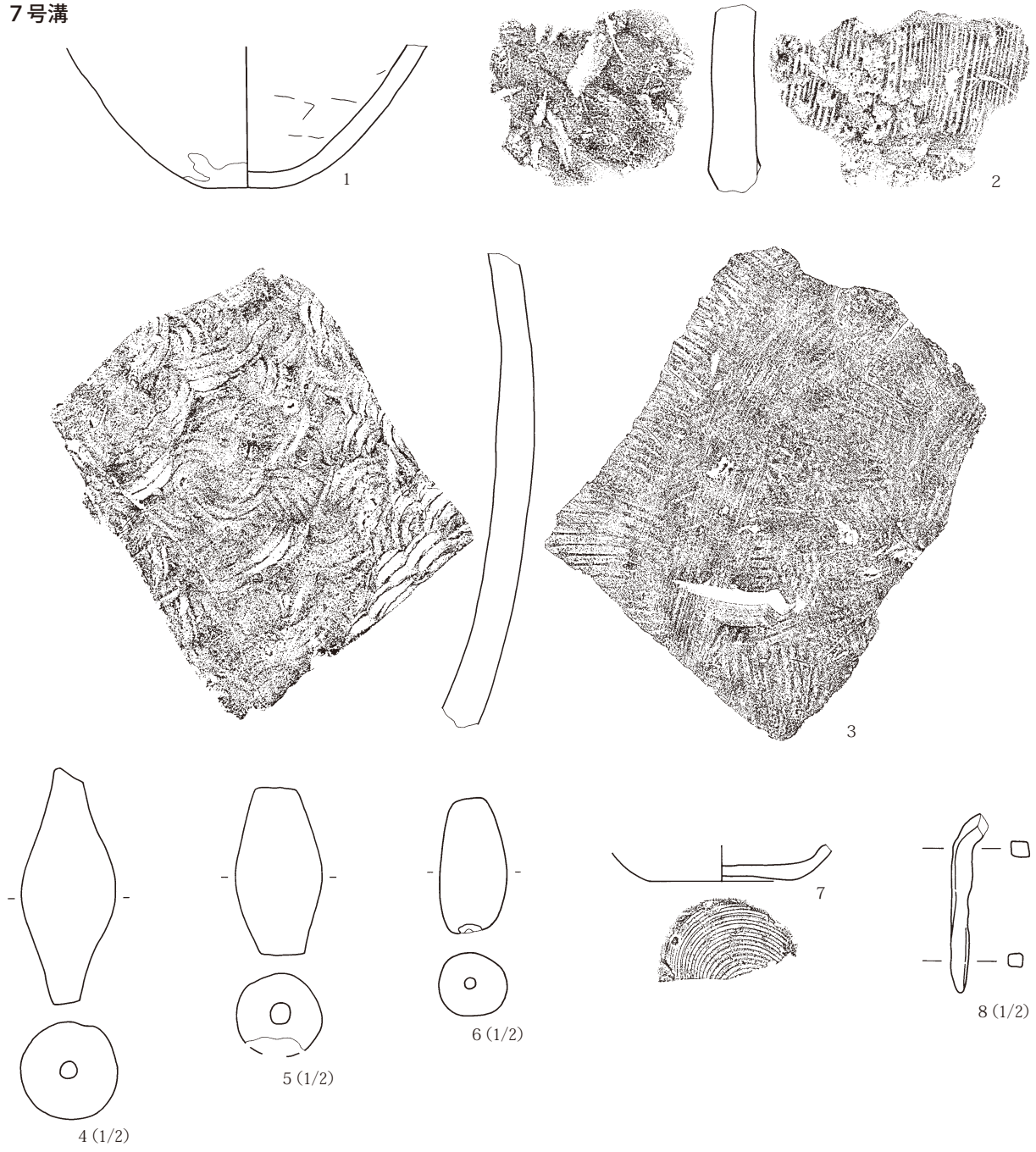
第412图 2面3区4-I区沟分布

0 1:500 20m

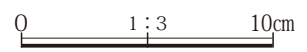
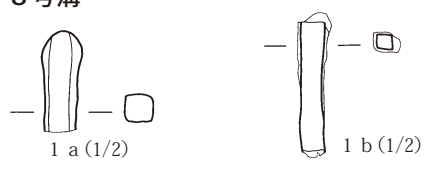


第413図 2面3区溝1 7-9溝

7号溝



8号溝



第414図 2面3区溝出土遺物1 7-8溝

所見 性格、掘削時期については不詳である。

3区10号溝 (第415・416図、P L 63・128)

位置 425、430—495

重複 2号溝に先出する。

形状 南北方向の溝であるが、走向をほぼ等しくする2号溝の掘削により大半が欠出、東壁の一部を検出したにとどまった。検出長は5.56mである。上幅の残存は0.54から0.74m、深さは0.19mである。

走行方位 N—5°—W

埋没土 浅間B混土を含む暗褐色土が堆積していた。流水の有無は確認されていない。

遺物 埋没土中から須恵器杯1と土錘3が出土している。

所見 平安時代の遺物が出土しているが性格、掘削年代については不詳である。

3区11号溝 (第417・418図、P L 63)

位置 460、465—505

重複 18号住居、147号・175号土坑と重複する。

形状 南北方向の溝である。平面形は小さく蛇行する形状であるが、両端とも不明瞭なまま立ち上がって収束している。検出長は8.41mである。断面形は浅く、底幅のある箱形を呈するものと考えられる。土層確認箇所では底面の東側が一段と低くなっていたようである。規模は、上幅0.80から1.14m、下幅0.28から0.50m、深さ0.20mである。

走行方位 N—10°—W

埋没土 暗褐色土が堆積していた。流水の有無は確認されていない。

遺物 埋没土中から須恵器杯1から2が出土している。

所見 性格は不詳である。掘削時期についても平安時代の遺物が出土しているが不詳である。

4区の概要

4区2面では合計22条の溝が検出された。

1区では調査区の西側部分で20条が検出された。同じ2面の調査で検出された平安時代の住居群よりも古い時期の遺構である。1区西側部分は、調査区の南西から北西に向かって傾斜する微地形の縁辺にあたり、検出された溝群の走向は、この傾斜面と直交、あるいはそれに近いものであった。

26号溝は傾斜地の下端、縁辺の形状に沿った流路を取っているようであるが調査の途中で自然流路の痕跡と認識されたためか、検出が途中で打ち切られており、詳細は不明である。北西部分で検出した15号溝も縁辺を下りきったところまでの調査である。7号溝や16号溝は調査区外におよぶ様相であるが、II区の36号溝との同一性については不詳である。

底面にピット状の凹みが連続するものが多く見られた。水流により作り出された可能性が考えられる。埋没土中から平安時代の遺物が出土している。

重複する溝には前後関係があるようであるが、全体を通しての前後関係について把握することはできなかった。

II区では36号溝の1条のみを検出した。III区では遺構の検出はなかった。6区から西進するはずの東山道駅路の側溝を検出することもなかった。この部分の地形が谷地状を呈し、周囲より低かったことも影響しているのであろうか。

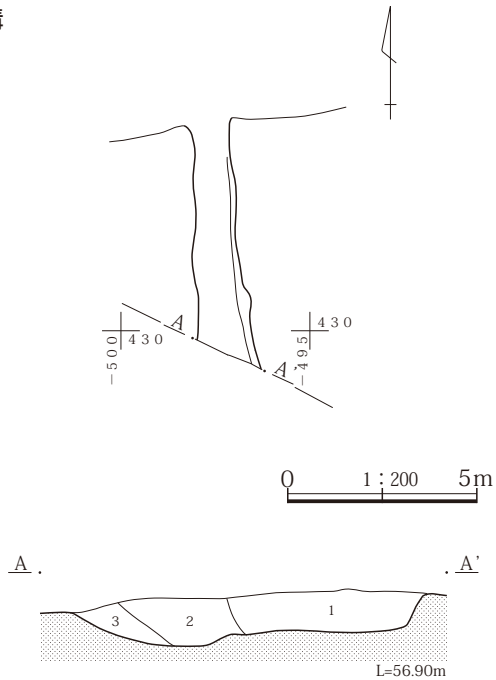
4区1号溝 (第420図、P L 63)

位置 370—350 (南端)、380—355 (北端)

重複 2号溝と重複。

形状 4—III区の東側部分で検出された南北方向の溝である。北端は2号溝と重複、その先の走向は不明である。2号溝から分岐しているようにも見えるが埋没土に関する記載がなく異同の判断ができない。南端は東西方向の遺構確認のためのトレンチまでで途切れている。検出された走長は8.92mである。断面形は浅い凸レンズ状を呈していたと考えられる。規模は、上幅0.64から1.16m、下幅0.32から0.64m、深さ0.9mである。底面の標高は南端で54.49m、北端で54.65mである。

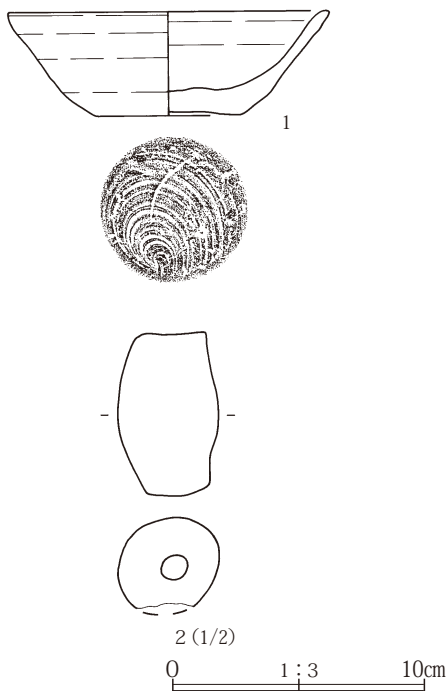
10号溝



断面 = 1 : 40

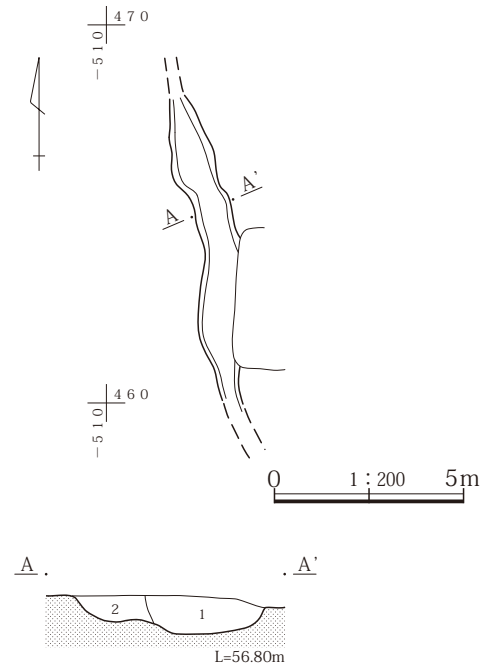
- 1 暗褐色土 砂質。As-B混土(30%)。焼土粒(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。焼土粒(径5mm)均一に10%混入。ローム粒(径3mm)均一に10%混入。
- 3 暗褐色土 粘質。粘性が強く粘りがある。

第415図 2面3区溝2 10溝



第416図 2面3区溝出土遺物2 10溝

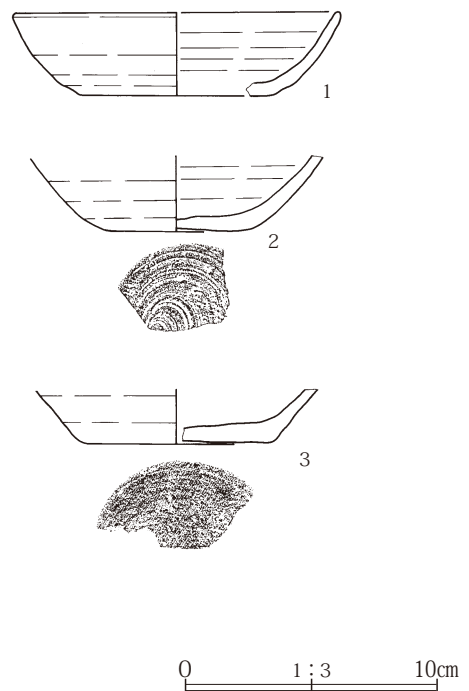
11号溝



断面 = 1 : 40

- 1 暗褐色土 粘質。焼土粒(径2~5mm)均一に15%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。炭化物(径5mm)少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~5mm)均一に少量混入。ロームブロック(径10mm)少量混入。

第417図 2面3区溝3 11溝



第418図 2面3区溝出土遺物3 11溝

走行方位 N-43° -W

埋没土 不詳である。

遺物 遺物は検出されなかった。

所見 性格、掘削時期については不詳である。

4区2号溝(第420図、P L 63・64・128)

位置 375-335(南端)、400-355(北端)

重複 1号・3号溝と重複する。3号溝に後出する。

形状 4-Ⅲ区の東側部分で検出された南北方向の溝である。東側、6区との調査区境を画する現道に沿うようにして北西から南東に向かって伸びていたため、東西の両壁面を検出できたのは南側の9m弱である。南端は緩やかに彎曲し、走向を東方向に変えている。検出した走長は33.10mである。

断面形はいわゆる箱葉研状を呈している。外傾して立ち上がる壁面は底面から40cm程の高さに変換点を有していた。規模は、上幅1.68から1.80m、下幅0.18から0.26m、深さ0.90mを測った。底面は南側に向かって緩やかに下がっていた。

走行方位 N-28° -W

埋没土 灰黄褐色土、灰褐色土が堆積していたが、いづれの層中にも砂粒、小礫が混入しており、継続して流水があったものと考えられる。

遺物 埋没土中から須恵器杯1から8、椀9などが出土している。

所見 用水路として使用されていたものと考えられる。出土遺物は平安時代の所産であるが掘削時期は不詳である。

4区3号溝(第420図)

位置 380-340

重複 2号溝に先出する。

形状 4-Ⅲ区の東側部分で検出された。検出された走長は0.73mであるが、調査段階で溝と認定された。西側は2号溝の西壁方向に伸びていない。上幅は0.74から0.86m、下幅0.42から0.72mである。

走行方位 N-50° -E

埋没土 暗褐色土が堆積していた。流水のあった状

況は確認できない。

遺物 遺物は検出されなかった。

所見 性格・掘削時期は不詳である。土坑の可能性も考えられるか。

4区4号溝(第421図、P L 64)

位置 375-335(南端)、400-355(西端)

重複 重複関係は認められない。

形状 4-Ⅲ区の中央部分で検出された。西側は緩やかに蛇行しながらも全体としては東西方向に延びる走向であったものが、380-350グリッド内ではほぼ直角に曲がり、南北方向に転じている。検出された走長は42.83mである。断面形は上方に大きく開く逆台形状を呈していたと考えられる。規模は、上幅0.64から1.10m、下幅0.44から0.64m、深さ0.28mを測った。底面の標高は西端で54.73m、直角に曲がる隅部分で54.25m、南端で54.41mである。

走行方位 N-88° -W(西側)、N-7° -E(南側)
埋没土 暗褐色土が堆積していた。下層は砂質である。流水の有無は確認されていない。

遺物 遺物は検出されなかった。

所見 性格・掘削時期は不詳である。

4区6号溝(第421図、P L 64)

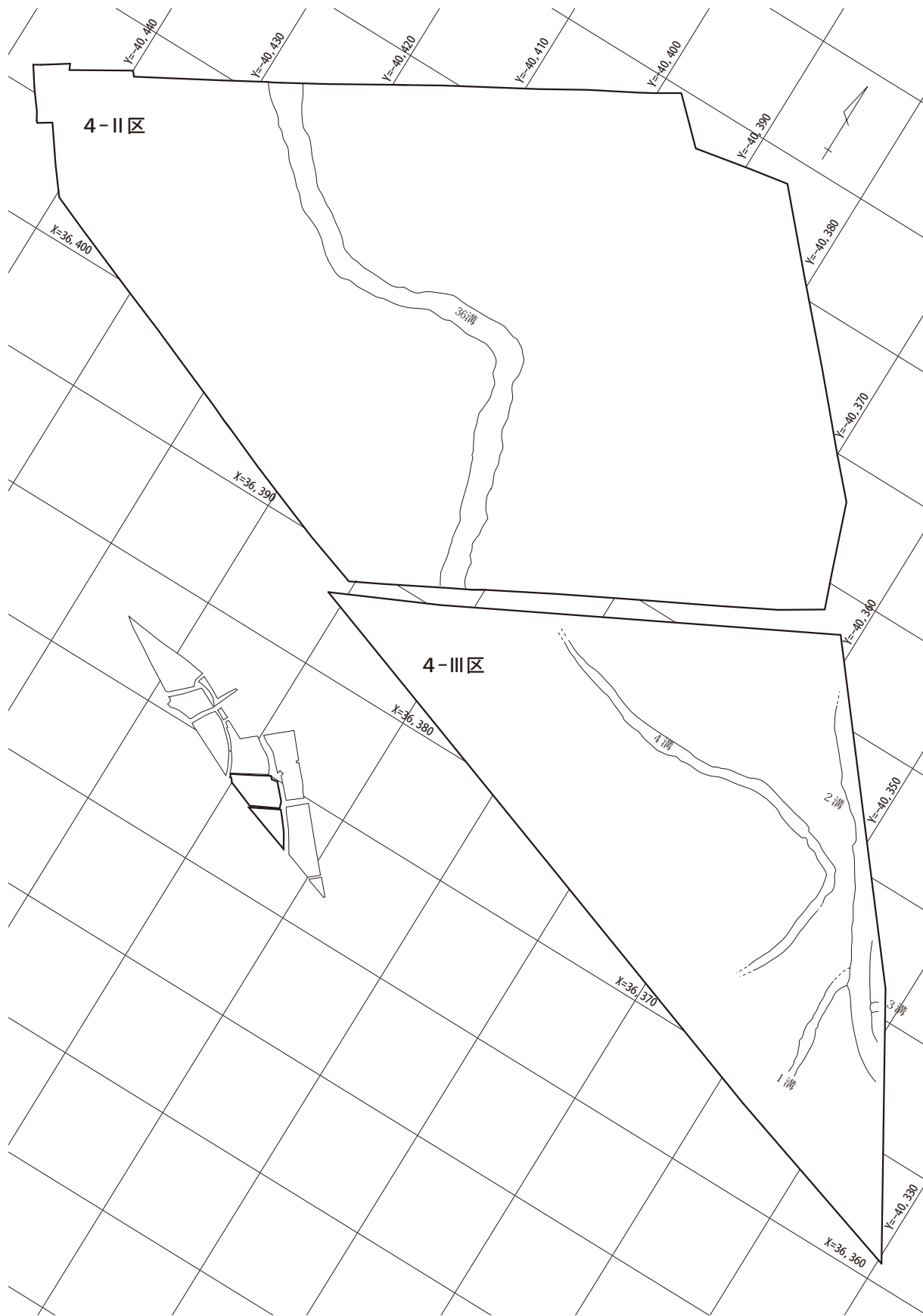
位置 420-430(東端)、420-450(西端)

重複 16号溝に先出する。7号溝と重複。

形状 4-I区の南側で検出した東西方向の溝である。東端は7号溝と重複している。検出された走長は19.84mである。東側部分の底面には平面長円形のピット状の凹凸が連続して形成されている。凹凸の規模は長径約0.70から1.00m、深さ約5から20cmである。流水によるものと考えられる。横断面の規模は上幅1.64から2.32m、下幅0.52から1.20m、深さ0.40mである。底面の標高は西端から東端に向かって55.33m、55.20m、55.35mと変化している。

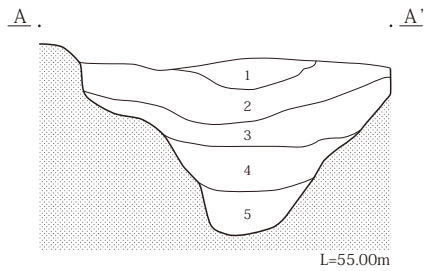
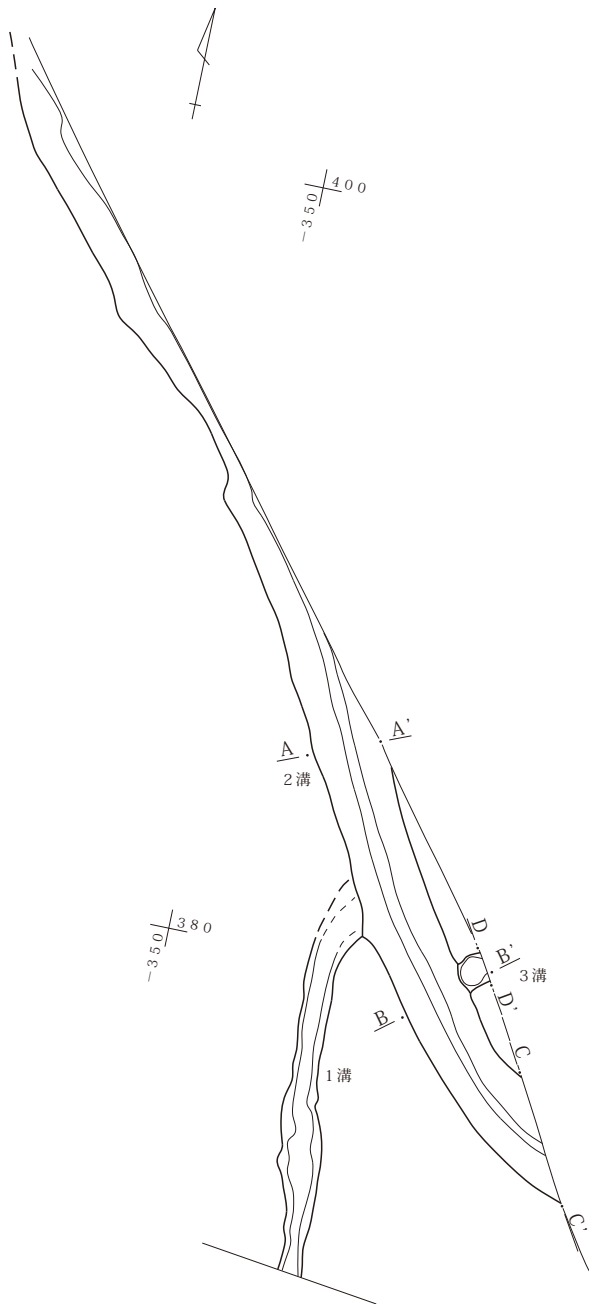
走行方位 N-84° -E

埋没土 上・中層に暗褐色土が堆積する。下層の灰褐色土は砂粒を主体としており、流水があったこと

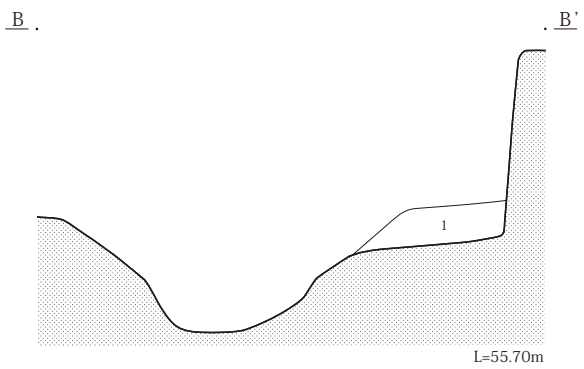


第419图 2面4-II区4-III区溝分布

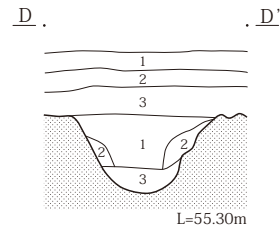
0 1:500 20m



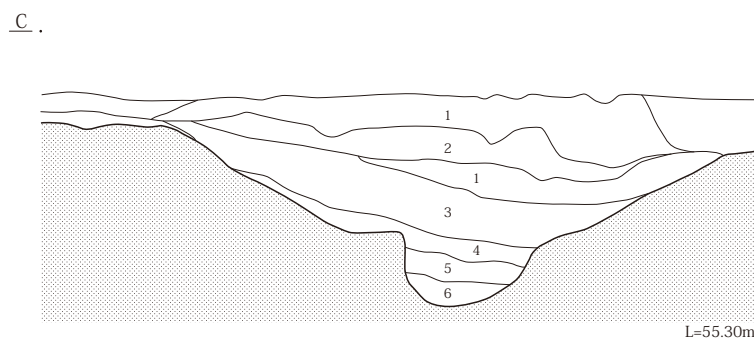
- 1 灰黄褐色土 砂礫層。小礫(径 5 ~ 10mm)を 50% 含む。白色軽石(径 5 mm)を少量 10% 混入。
- 2 灰褐色土 砂と灰褐色土の混土。白色軽石(径 5 mm)を 10% 混入。
- 3 灰褐色土 粘質。小礫(径 5 mm)を底に 10% 含む。
- 4 灰褐色土 粘質。砂層が 1 層入る。小礫(径 5 mm)少量混入。
- 5 灰黄褐色土 粘質。削られたロームと As-YP(30%)の混土で、底の部分。



- 1 暗褐色土 粘質。炭化物(径 5 mm)を少量混入。白色軽石(径 1 mm)を少量混入。



- 1 暗褐色土 やや粘質。ローム粒(径 1 ~ 3 mm)混入。白色軽石(径 1 mm)を少量混入。
- 2 暗褐色土 やや粘質。ロームブロック(径 10mm)を少量混入。
- 3 暗褐色土 やや粘質。ロームブロック(径 10 ~ 30mm)を 40% 混入。



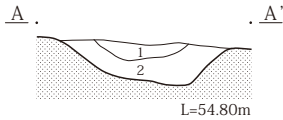
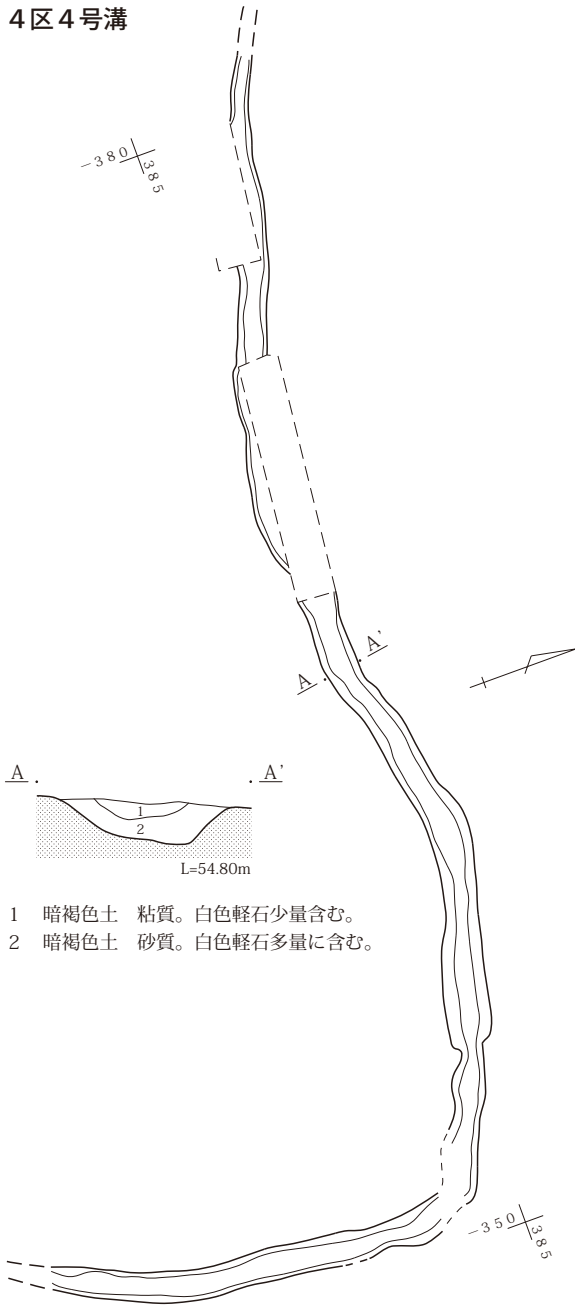
- 1 灰褐色土 やや粘質。白色軽石(径 1 ~ 10mm)を 20% 混入。砂も 30% 混入。
- 2 灰褐色土 粘質。白色軽石(径 1 mm)微量混入。
- 3 灰褐色土 やや粘質。礫(径 50 ~ 100mm)を少量混入。
- 4 黒褐色土 粘質。ローム粒(径 3 mm)少量混入。
- 5 灰褐色土 粘質。ローム粒(径 2 mm)を少量混入。砂も少量混入。
- 6 黄褐色土 粘質。ローム粒(径 3 mm)を均一に 40% 混入。

断面 = 1 : 40

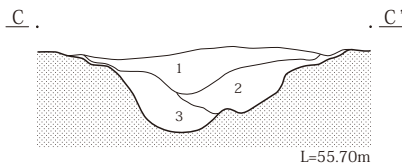


第420図 2面4区溝4 1-3溝

4区4号溝

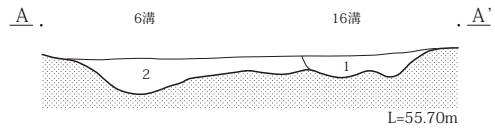
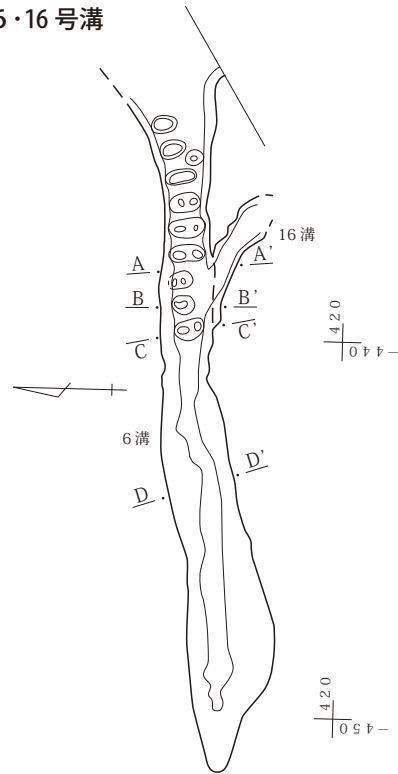


- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石少量含む。
- 2 暗褐色土 砂質。白色軽石多量に含む。

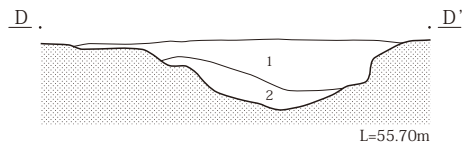
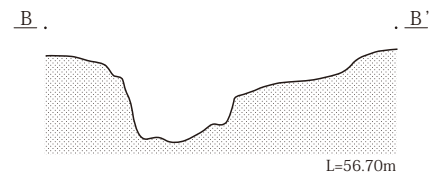


- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。ローム粒(径1mm)を均一に10%混入。
- 2 暗褐色土(やや黒め) 砂質。白色軽石(径2mm)を少量混入。ローム粒(径1~10mm)を均一に30%混入。砂も均一に30%混入。
- 3 灰褐色土 砂質。砂70%とローム粒(径2~10mm)20%の混入。白色軽石(径2mm)微量混入。

4区6・16号溝

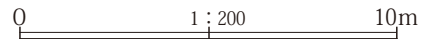


- 1 暗褐色土 ローム土。ロームブロック(径5~20mm)混入。
- 2 暗褐色土 粘質土。白色軽石少量混入。ローム土・ロームブロック(径5~10mm)を含む。



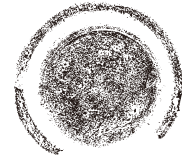
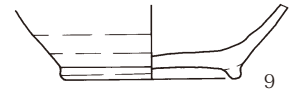
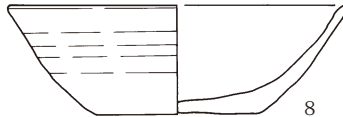
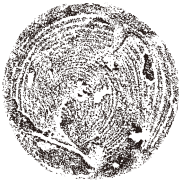
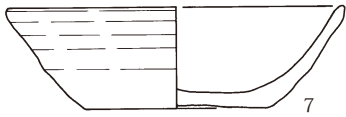
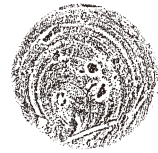
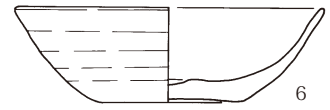
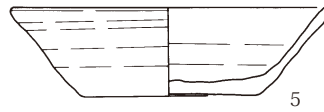
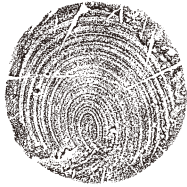
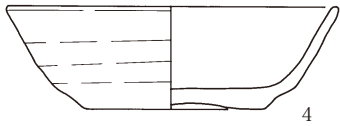
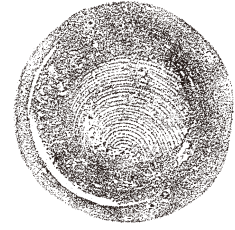
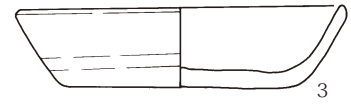
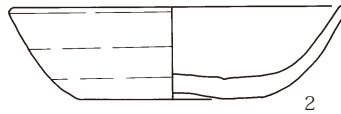
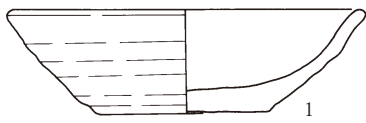
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径5mm)を均一に10%混入。ローム粒(径1~10mm)を均一に20%混入。
- 2 暗褐色土 砂質。白色軽石(径5mm)を均一に5%混入。炭化物(径5mm)を少量混入。ローム粒(径1~10mm)を均一に50%混入。

断面 = 1 : 40

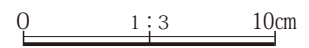
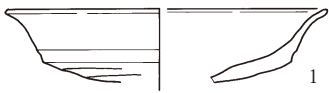


第421図 2面4区溝5 4-16溝

2号溝



6号溝



第422図 2面4区溝出土遺物4 2-6溝

が知られる。

遺物 埋没土中から土師器杯1の破片が出土している。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は平安時代と考えられるが詳細は不明である。

4区16号溝 (第421・422図、P L 64)

位置 420—435

重複 6号溝に後出する。

形状 4—I区南側で検出された。—440ラインで6号溝から分岐するように南東方向に伸びている。新旧関係から6号溝と重なるように西方向にも伸びていた可能性が考えられるが土層の観察からは識別されていない。南端の先は4区—II区では検出されていない。検出された走長さは2.17mである。横断面の上幅は0.56から0.76m、下幅0.41から0.61m、深さ0.15mである。底面には小さな凹凸が見られた。

走行方位 N—60°—W

埋没土 暗褐色土が堆積していた。流水の有無は確認されていない。

遺物 土師器の破片1点が出土したが、資料化するに足らなかった。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区7号溝 (第423図、P L 64)

位置 425—430 (南端)、425—440 (西端)

重複 6号・18号溝と重複。

形状 4—I区南西側部分で検出した。南側に6号・16号溝がある。走向は北側に弧を張る。検出された走長は13.52mである。断面形は凸レンズ状を呈する。規模は、上幅1.40から2.38m、下幅0.72から1.94mを測る。東端部分における深さは0.50mである。底面の標高は西端で55.42m、東端で54.71mである。

走行方位 N—80°—W

埋没土 灰褐色土が堆積している。下層には砂粒、小礫が堆積しており、流水があったことが認められる。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えている。その形成時期は不詳である。

4区18号溝 (第423図、P L 64)

位置 425—420 (東端)、425—435 (西端)

重複 19号溝に先出する。7号溝と重複する。

形状 7号溝の北側で検出された東西方向の溝である。南壁は7号溝が掘り込まれていたことにより削平著しい状態であった。430ラインと—430ラインの交点付近では、北側の壁面の下端および上端近くに合計13本の木杭が打ち込まれていた。詳細な記録がないことから機能などについては不詳である。

検出された溝の走長は15.80mである。断面形は凸レンズ状を呈していたと考えられる。規模は、上幅1.22から2.30m、下幅1.28から1.70m、深さ0.32mを測る。底面の標高は西端で55.01m、東端で55.08mである。

走行方位 N—89°—W

埋没土 黄褐色土が堆積していた。下層に小礫が堆積しており、流水があったことが認められる。

遺物 遺物は検出されていない。

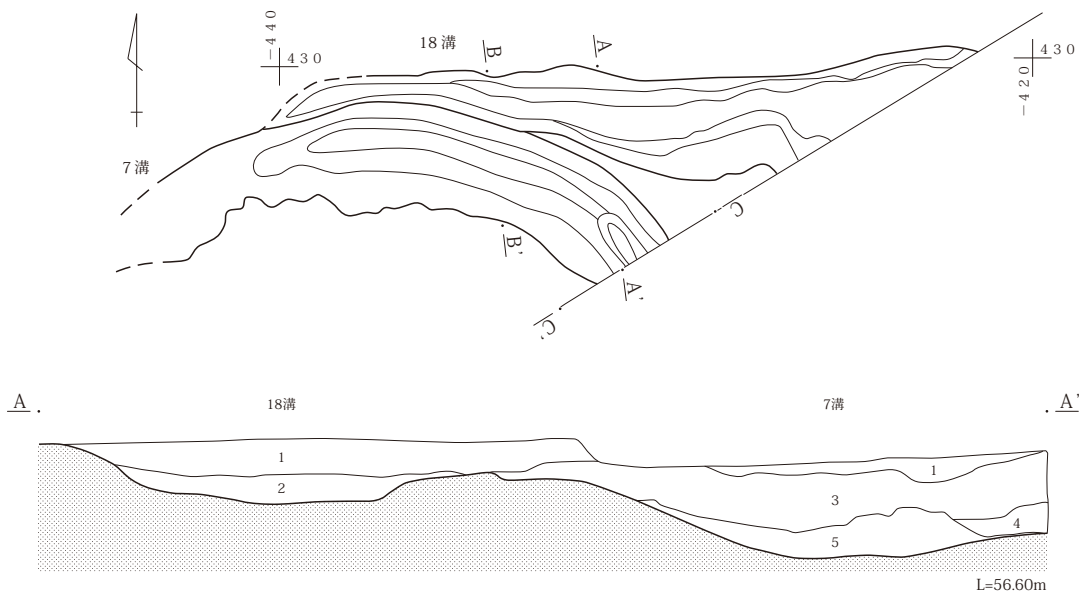
所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区8号溝 (第424図、P L 64)

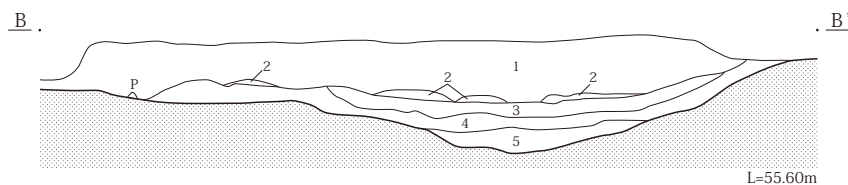
位置 435—445 (東端)、430—455 (西端)

重複 9号・14号・21号溝と重複。9号溝に先出か。

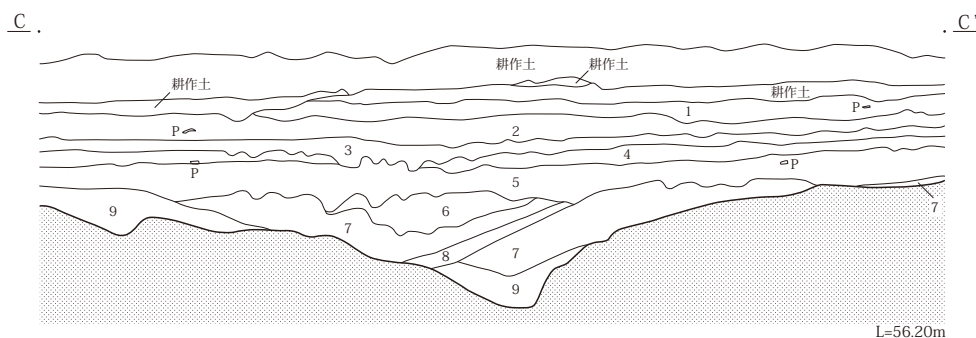
形状 4—I区南西側部分で検出した。南側に9号溝がある。北側に14号・21号溝がある。西端は調査区域外におよぶ。北側に弱い弧状を呈する東西方向の溝である。検出された走長は13.92mである。断面形は一定しない。西側寄りでは逆三角形に近いが底面が北壁寄りに偏っていた。中央部分では掘り込みが浅い。底面は所々ピット状に掘り込まれている。ウォーターホールであろうか。中位規模は、上



- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)少量混入。(オリーブ色)ロームブロック(径30~50mm)少量混入。
- 2 黄褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)を均一に20%混入。(黄色)ローム粒(径2mm)を均一に10%混入。下層に礫層がある。
- 3 灰褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)微量混入。砂が混じりシャリシャリしている。
- 4 灰褐色土 砂質。細かい砂の層。
- 5 灰褐色土 砂質。砂(粗い)と小礫(径5~10mm)の層。砂は縞状に堆積し固く締まっている。



- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~5mm)を均一に10%混入。
- 2 灰白色 粘質。Hr-F A泥流層の残り。
- 3 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 4 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)微量混入。ロームブロック(径10mm)を均一に20%混入。黄色軽石(径10mm)を少量混入。
- 5 暗褐色土 砂質。小礫(径10mm)と黄色軽石(径10mm)を中央部に40%混入。砂も20%混入。



- 1 暗褐色土 やや粘質。白色軽石(径3mm)を少量混入。ローム粒(径2mm)を少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。As-B混土。As-Bの混入は少なく粘性がある。白色軽石(径2mm)を均一に10%混入。
- 3 暗褐色土 砂質。As-B混土。2層よりAs-B軽石が多くシャリシャリしている。
- 4 黒褐色土 粘質。As-B混下、黒ネバ層。白色軽石(径1mm)を少量混入。
- 5 灰褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。
- 6 灰褐色土 粘質。粘性が強く、鉄分の沈着がある。
- 7 灰褐色土 粘質。6層より砂が多く混入。
- 8 灰褐色土 粘質。粗い砂の層。
- 9 灰褐色土 砂質。小礫(径5~10mm)を均一に20%混入。黄色軽石(径5mm)を少量混入。

断面 = 1 : 40

0 1 : 200 10m

第423図 2面4区溝6 7-18溝

幅1.58から1.98m、下幅1.16から1.44m、深さ0.52mである。底面は西端から東端に向かって約30cm下がっている。

走行方位 N-77° -E

埋没土 暗褐色土が堆積、混入の内容により分層された。砂粒や礫の混入は認められない。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区14号溝 (第424・426図、P L 64・65)

位置 435-440 (東端)、435-450 (西端)

重複 8号溝と重複する。

形状 8号溝の北側に位置する東西方向の溝である。東端はその幅を広げながら26号溝と合流するようであるが判然としない。西端は急に立ち上がり、掘り込みが認められなくなる。検出された走長は8.57mである。断面形は逆台形状を呈していたのであろうか。規模は、上幅0.64から1.64m、下幅0.38から0.60m、深さ0.98mである。底面は西端から東端に向かって約10cm下がっていた。

走行方位 N-77° -W

埋没土 最下層に灰黄褐色の砂粒が堆積しており、流水があったことが分かる。

遺物 埋没土中から土師器杯の破片1が出土している。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。出土した須恵器は古墳時代の所産と考えられるが本溝の形成時期については不詳である。

4区21号溝 (第424図、P L 66)

位置 435-455 (南端)、440-445 (北端)

重複 8号・9号溝と重複する。

形状 8号・14号溝の北側に位置する。南西から蛇行しながら北東方向に延びていく溝である。東端は26号溝と合流していたようである。西端は8号溝と接する付近で掘り込みが不明瞭になっている。検出された走長は11.41mである。断面形は外傾き著

しい逆台形状を呈している。規模は上幅0.82から1.30m、下幅0.34から0.52m、深さ0.45mである。西端にいたるまで上幅に大きな変化は認められない。底面からは6号溝と同様、平面長円形状の凹凸が多数検出された。流水の作用により形成されたものと考えられる。底面は西端から東端に向かって約20cm下がっていた。

走行方位 N-55° -E (西側)、N-25° -E (東側)

埋没土 暗褐色土が堆積している。砂粒の堆積は確認されていない。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区9号溝 (第425図、P L 65)

位置 430-455 (東端)、430-455 (西端)

重複 8号溝に後出か。22号・23号・24号溝と重複か。

形状 西から東方向に延びる溝であるが、その走向は半円の弧に近いくらい強く彎曲している。検出された走長は22.27mである。東端は23号と合流しているように見える。断面形は逆台形を基本としているようであるが、東端寄りでは底面の幅を広めている。中位から西側寄りの底面にはピット状の凹凸が連続して残されていた。6号溝、21号溝と同様の形状である。底面は西端から東端に向かって約80cm下がっていた。

走行方位 N-70° -W (東側)、N-35° -E (西側)

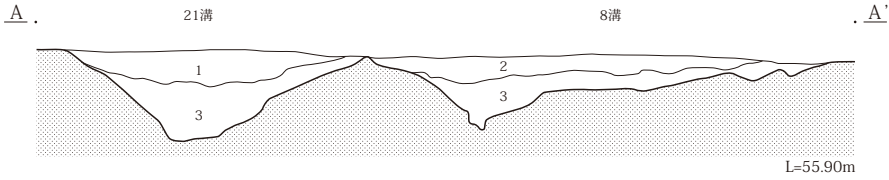
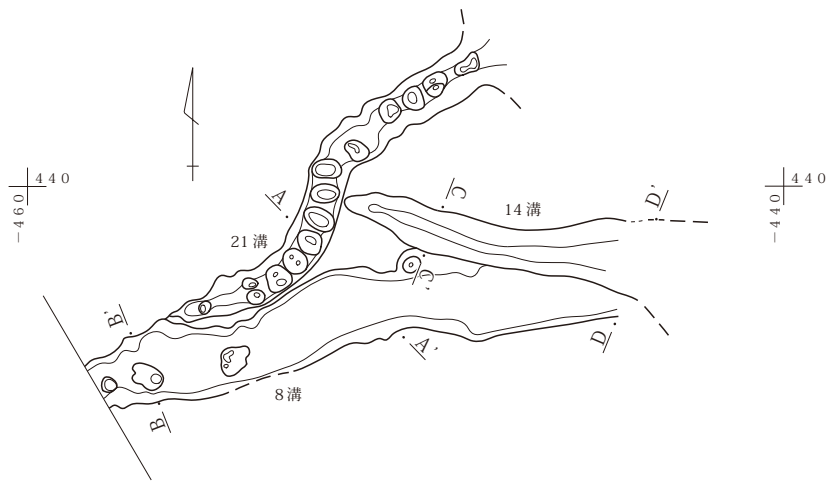
埋没土 暗褐色土が堆積していた。東端寄りでは最下層に砂粒の堆積が確認されており、流水があったことが分かる。

遺物 遺物は検出されていない。

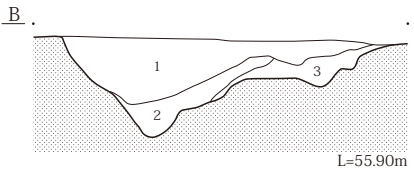
所見 調査の所見では自然流路と考えられた。調査経過に従うと8号溝が埋没した後に形成されたものとなる。その形成時期は不詳である。

4区15号溝 (第425・426図、P L 65)

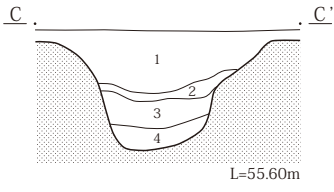
位置 460-455 (東端)、435-450 (西端)



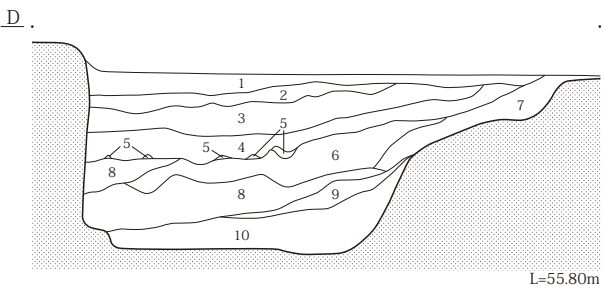
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~5mm)を均一に25%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。
- 3 暗褐色土 粘質。ローム粒(径2~10mm)を均一に35%混入。白色軽石(径1~2mm)を5%混入。



- 1 暗褐色土 ローム粒不均一に少量混入。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径20~50mm)多量に混入。
- 3 褐色土 暗褐色土ブロック(径30~50mm)混入。



- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~5mm)を均一に20%混入。ローム粒(径1~5mm)を均一に20%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。(粘性の強い)ローム粒(径1mm)を均一に10%混入。
- 3 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1~10mm)を均一に30%混入。砂も20%混入している。
- 4 灰黄褐色土 砂質。砂が主体(90%)で、ローム粒(径3mm)が少量混入。



- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を少量混入。
- 2 暗褐色土 粘質。ローム粒と砂が少量混入。
- 3 暗褐色土 粘質。粘性が強い。
- 4 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~3mm)を均一に10%混入。ロームも少量混入。やや粘性が強い。
- 5 白黄色土 Hr-F A 軽石。
- 6 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)少量混入。砂も少量混入しシャリシャリしている。
- 7 暗褐色土 砂質。ロームブロック(径3~10mm)を30%混入。
- 8 暗褐色土 粘質。鉄分の沈着があり、粘性が極めて強い。
- 9 灰黄褐色土 砂質。ロームと砂(90%)の混土。
- 10 灰褐色土 砂が縞状に堆積し、非常にかたい。



第424図 2面4区溝7 8-14-21溝

重複 10号溝に後出する。14号・15号・18号・19号住居と重複する。

形状 4-I区の北西部分で検出した東西方向の溝である。走向は北側に弱く張り出す弧を描いている。検出された走長は29.76mである。西端は調査区域外におよぶが3区ではその延長先は検出されていない。断面形は逆台形が崩れ、壁面は緩やかに彎曲しながら立ち上がっている。規模は上幅0.56から3.28m、下幅0.22から2.81m、深さ0.23mである。-465ライン以西は上幅1m未満であるが東端では箒の先のようにその幅が急に増している。底面の標高は西端で55.79m、東端で55.72mである。

走行方位 N-87°-E(西側)、N-66°-W(東側)
埋没土 暗褐色土が堆積していた。砂質であることから流水があったものと考えられる。

遺物 埋没土中から須恵器杯1・2、椀3・5、灰釉陶器4などが出土している。

所見 性格は不詳、出土土器は平安時代の所産であるが、形成時期も不詳である。

4区17号溝(第426・427図、P L 65・128)

位置 445-450(東端)、440-460(西端)

重複 4号住居、26号溝に先出、25号溝に後出する。

形状 4-I区西側部分で検出された東西方向の溝である。南側に25号溝、北側に26号溝が位置する。西側はほぼ直線的に、東側は緩やかに彎曲する走向である。西端は調査区域外におよんでいた。検出された走長は、12.77mである。断面形は逆台形状であるが、上半部はより外傾を増している。規模は、上幅0.56から1.18m、下幅0.28から0.58m、深さ0.49mを測る。底面にはピット状の凹凸が連続して見られた。内部に礫が見られた箇所もある。底面は西端から東端に向かって約70cm下がっていた。

走行方位 N-66°-E

埋没土 上・中層に暗褐色土が、下層に灰褐色土が堆積、下層には砂粒が多く含まれていた。東側寄りの地点では上層にHr-FAの軽石、Hr-FA泥流によるアッシュの堆積が記録されている。

遺物 埋没土中から須恵器杯1、鉄釘2が出土している。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳であるが古墳時代に及ぶ可能性もある。25号溝との関係は前後関係でなく、同時存在の2溝が合流している可能性も考えられるが判然としない。

4区25号溝(第427図、P L 66)

位置 445-450(東端)、440-460(西端)

重複 3号住居、17号溝、48号土坑に先出する。

形状 南西から北東方向に伸びる東西方向の溝である。北側にほぼ同様の走向で伸びる17号溝がある。西側部分は徐々に幅を狭め、西端は調査区域外におよんでいる。検出された走長は14.18mである。断面形は逆台形状を呈するが、中位に稜を有し、それから上位の壁面は外傾著しく立ち上がる形状である。規模は、上幅0.74から1.72m、下幅0.52から1.46m、深さ0.50mを測った。西側部分では底面にピット状の凹凸が連続して見られた。底面は西端から東端に向かって約30cm下がっていた。

走行方位 N-49°-E

埋没土 17号溝の堆積状況と類似する。上・中層に暗褐色土が、下層に灰褐色土が堆積、下層には砂粒が多く含まれていた。東側寄りの地点では上層にHr-FAの軽石、Hr-FA泥流によるアッシュの堆積が記録されている。

遺物 遺物は検出されていない。

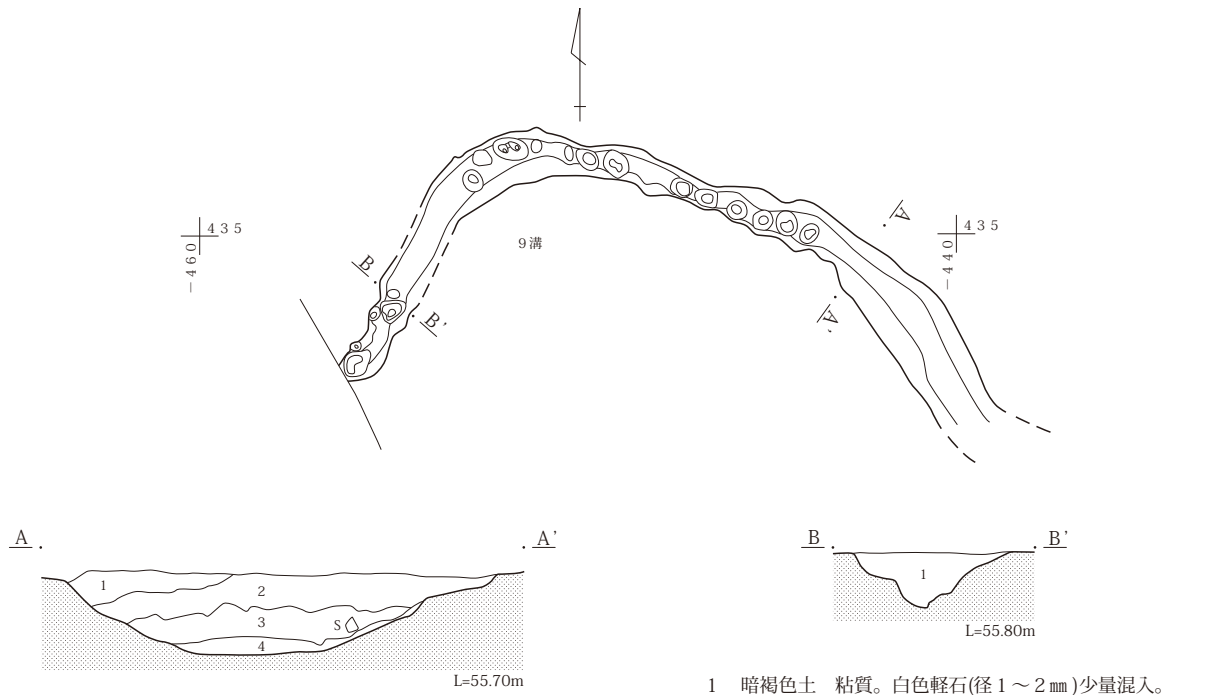
所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳であるが古墳時代に及ぶ可能性もある。

4区22号溝(第428図、P L 66)

位置 425-435(東端)、430-445(西端)

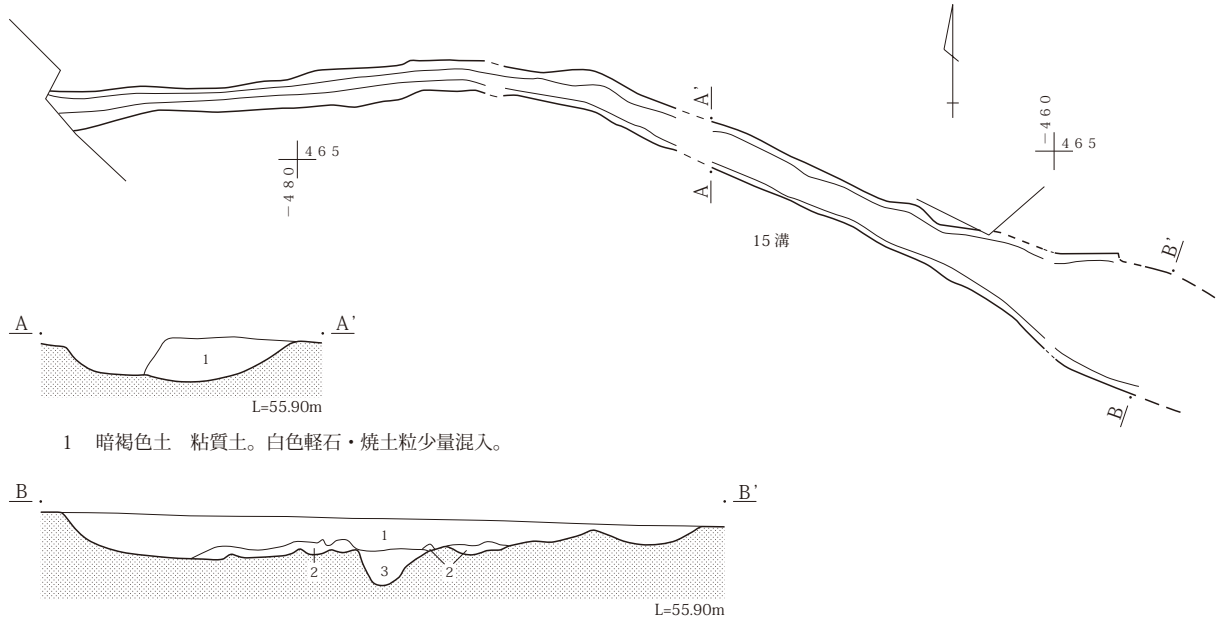
重複 9号・18号・19号・23号・24号溝と重複する。

形状 4-I区南側で検出された東西方向の溝である。南側に23号溝、北側に24号溝が位置する。掘り込みが浅く、西端は徐々に浅くなり立ち上がって



1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~2mm)少量混入。

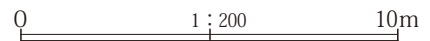
- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)を均一に5%混入。
- 2 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 3 暗褐色土 砂質。白色軽石(径2mm)均一に10%混入。ローム粒(径1~10mm)を均一に50%混入。砂も混入。
- 4 暗褐色土 砂質。白色軽石(径2mm)を均一に5%混入。ローム粒(径1~5mm)均一に30%混入。残りは砂。



1 暗褐色土 粘質土。白色軽石・焼土粒少量混入。

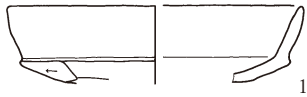
- 1 暗褐色土 砂質土。白色軽石少量混入。(15号溝覆土)
- 2 淡黄色土 Hr-FA泥流層か。
- 3 暗褐色土 砂質土。白色軽石・焼土粒極少量混入。

断面 = 1 : 40

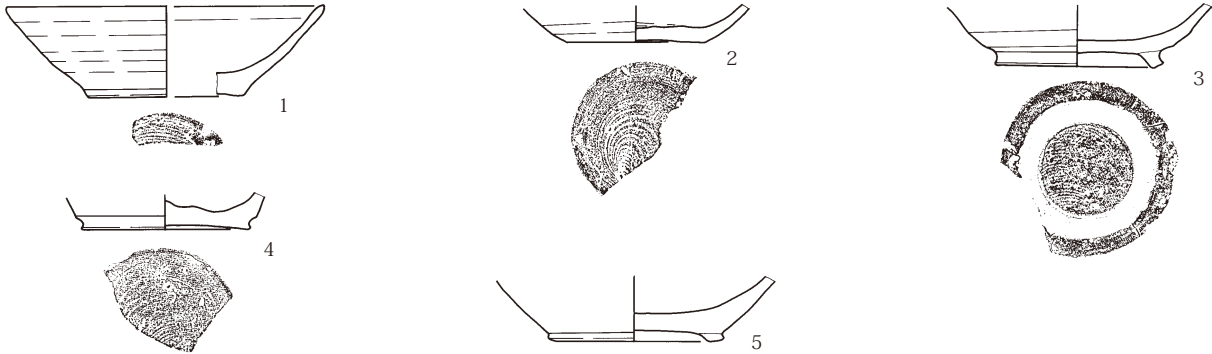


第425図 2面4区溝8 9-15溝

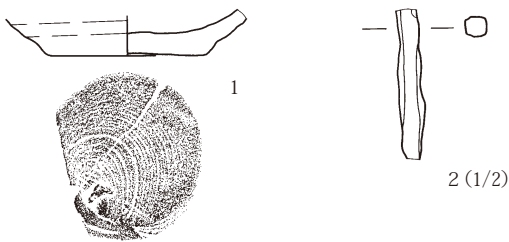
14号溝



15号溝

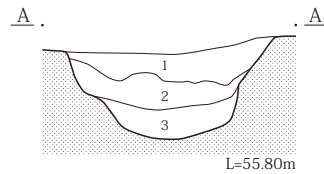
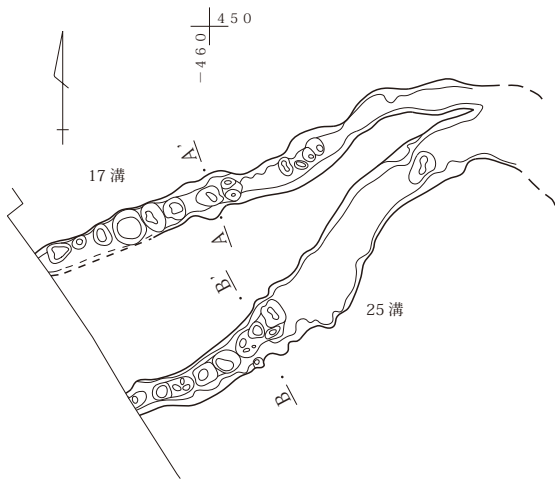


17号溝

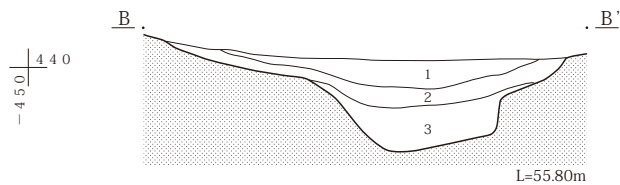


0 1:3 10cm

第426図 2面4区溝出土遺物5 14-17溝



- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)を均一に10%混入。
- 2 暗褐色土 やや砂質。白色軽石(径1mm)を均一に混入。(オリーブ色)ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。砂も30%含む。鉄分の沈着あり。
- 3 灰褐色土 砂質。(オリーブ色)ローム粒(径2~30mm)を均一に20%混入。砂も多く含みかたく締まっている(50%)。



- 1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~3mm)均一に10%混入。ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。Hr-F A泥流少量含む。鉄分の沈着あり。
- 2 暗褐色土 やや砂質。白色軽石(径1mm)を均一に混入。(オリーブ色)ローム粒(径2~5mm)均一に10%混入。砂も30%含む。
- 3 灰褐色土 砂質。(オリーブ色)ローム粒(径2~10mm)を均一に40%混入。小礫(径5~10mm)を少量含む。砂も多くシャリシャリして締まっている。かたい(40%)。

断面 = 1:40

0 1:200 10m

第427図 2面4区溝9 17-25溝

収束している。東側は18号あるいは19号溝と走向が重なってしまう。検出された走長は7.40mである。規模は、上幅0.60から0.84m、下幅0.32から0.56m、深さ0.15mである。底面には全体にわたりピット状の凹凸が見られる。底面は西端から東端に向かって約50cm下がっていた。

走行方位 N-67° -W

埋没土 下層には砂粒を多く含む暗褐色土が堆積しており、流水があったことがうかがえる。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区23号溝 (第428図、P L 66)

位置 425-440 (東端)、430-445 (西端)

重複 9号・18号・22号溝と重複する。

形状 22号溝の南側に位置する東西方向の溝である。検出された走長は8.80mである。掘り込みが浅く、西端は徐々に浅くなり立ち上がって収束している。東側は18号あるいは9号溝と走向が重なってしまう。断面形は凸レンズ状である。規模は上幅0.52から0.88m、下幅0.30から0.42m、深さ0.07mを測る。底面には所々にピット状凹みが見られた。底面は西端から東端に向かって約40cm低くなっていた。

走行方位 N-78° -W

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区24号溝 (第428図、P L 66)

位置 430-440

重複 9号・22号溝と重複する。

形状 22号溝の北側で検出された東西方向の溝である。西端は22号溝と接しその先は不明瞭となっている。東端は9号溝と重なっているようである。検出された走長は2.32mである。規模は上幅0.66から0.88m、下幅0.41から0.72m、深さ0.10mである。

底面にピット状の凹凸が見られた。

走行方位 N-76° -E

埋没土 不詳である。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区26号溝 (第428・430図、P L 66・128)

位置 440-440 (東端)、445-465 (西端)

重複 1号、9号住居、17号溝と重複する。

形状 4-II区の中央部分で検出された。西側部分は緩やかに彎曲するものの東西方向に走向を取っている。東側部分は、-450ライン付近で向きを南東方向に変え進んでいた。途中、21号・25号溝と合流している。また、17号・14号溝とも合流あるいは重複の関係にある。西端は調査区域境に接する位置で立ち上がっていた。東端はさらに東方向に延びていたようである。検出された走長は26.28mである。断面形は逆台形を呈していたようである。規模は、上幅1.16から2.04m、下幅0.22から0.50m、深さ0.73mである。底面は西端から東端に向かって約70cm下がっていた。

走行方位 N-86° -E (西側)、N-57° -W (東側)

埋没土 全体的ではないが、上層にHr-FA泥流の堆積する部分があったことが記録されている。最下層の灰褐色土は砂粒や小礫を主体としており、流水があったことがうかがえる。

遺物 埋没土中から瓦(1)が出土している。

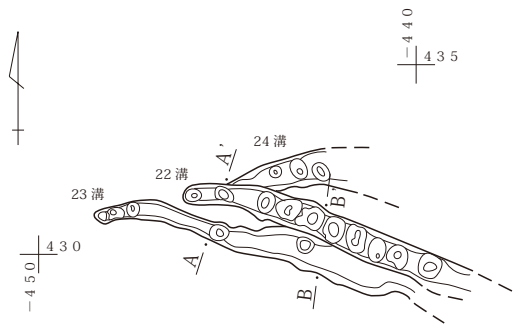
所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区27号溝 (第429図、P L 66)

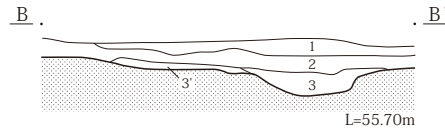
位置 450-410 (東端)、450-415 (西端)

重複 28号溝と重複する。

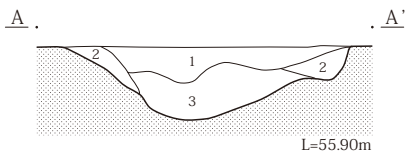
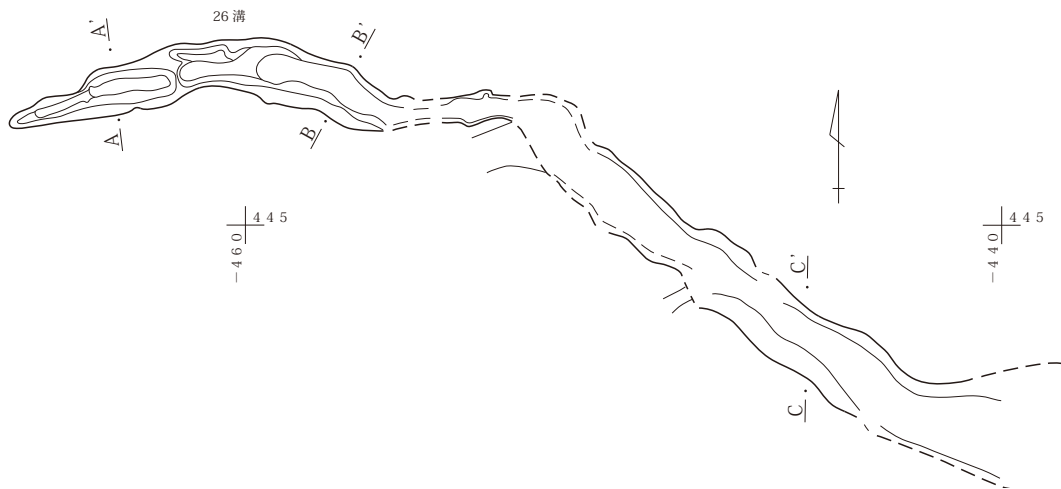
形状 4-I区東側部分で検出された東西方向の溝である。北側に平行して28号溝が位置する。走向はほぼ直線的である。東端は調査区域外におよぶ。西端はさらに西側方向に延びていたものと考えられ



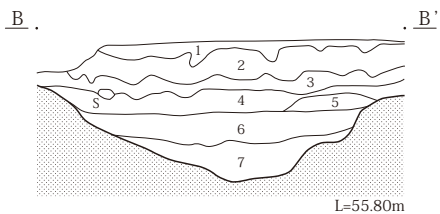
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)を均一に5%混入。



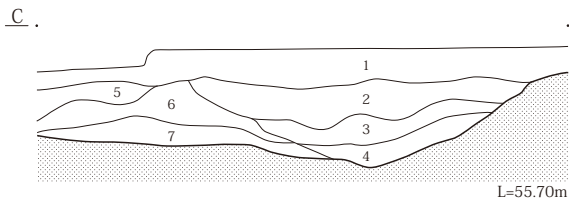
1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)微量混入。鉄分の沈着あり。
 2 暗褐色土 粘質。覆土は1層と同じで粘性が弱い。
 3 暗褐色土 砂質。白色軽石(径1mm)微量混入。



1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径1~5mm)均一に10%混入。ローム粒(径1~5mm)均一に5%混入。
 2 暗褐色土 粘質。(オリーブ色)ローム粒(径1~50mm)を均一に50%混入。
 3 暗褐色土 砂質。白色軽石(径5mm)少量混入。(オリーブ色)ローム粒(径1~5mm)均一に混入。砂も20%混入。

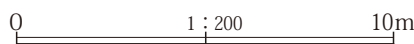


1 暗褐色土 粘質。白色軽石(径2mm)均一に40%混入。
 2 灰白色 Hr-F A 軽石堆積層。砂も20%混入。Hr-F A 泥流層。
 3 灰白色 Hr-F A 軽石のアッシュ層。白色軽石(径5mm)下層に少量混入。Hr-F A 泥流層。
 4 暗褐色土 粘質。砂が少量混入しているが粘性が強くやわらかい。シルト。
 5 暗褐色土 砂質。小礫(径5mm)30%と砂20%との混土。
 6 暗褐色土 砂質。白色軽石(径1~5mm)5%混入。砂40%と小礫(径5mm)10%混入。ローム粒(径2mm)均一に10%混入。シャリシャリしている。
 7 灰褐色土 砂質。砂70%と小礫(径5~10mm)20%とローム粒(径3mm)10%混入。かたくひきしまっている。



1 暗褐色土 白色軽石少量混入。
 2 灰褐色土 白色軽石少量混入。やや砂質。(26号溝覆土か)
 3 褐灰色土 白色軽石極少量混入。砂質土。鉄分極々少量沈着。(26号溝覆土か)
 4 褐灰色土 砂質土。3層より粒が粗い。(26号溝覆土か)
 5 褐灰色土 白色軽石極少量混入。砂質土。暗褐色砂質土ブロック少量含む。
 6 褐灰色土 砂質土。4層より更に粒が粗く不均一。
 7 灰褐色土 砂質土。鉄分の沈着したロームブロックを少量混入。砂の粒もかなり不均一。

断面 = 1 : 40



第428図 2面4区溝10 22-26溝

る。検出された走長は10.12mである。断面形は逆台形状を呈している。底面の南側寄りにはピット状の凹凸が認められる。これに対し、北側寄りは底面がさらに一段下がって小溝状を呈している。土層の堆積状態も合わせて考えると調査段階では単一の遺構と考えられていたが、2本の溝が重複していた可能性も考えられる。規模は、上幅1.16から1.36m、下幅0.71から0.99m、深さ0.52mである。

走行方位 N-88°-W

埋没土 褐灰色土、にぶい黄褐色土が堆積していた。いずれも砂質である。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区28号溝 (第429図、P L 66)

位置 455-410、415

重複 27号溝と重複する。

形状 4-I区東側部分で検出された東西方向の溝である。27号溝との関係は不詳である。東端は調査区域外におよんでいる。西端は幅を広めながらさらに西側方向に延びていたようである不詳である。検出された走長は6.41mである。上幅は0.48から1.08m、下幅0.46から0.82m、深さ0.45mである。

走行方位 N-79°-W

埋没土 にぶい黄褐色土、灰黄褐色土が堆積していた。いずれも砂質である。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 調査の所見では自然流路と考えられた。その形成時期は不詳である。

4区36号溝 (第430・431図、P L 66・67・128)

位置 420-425 (南端)、420-425 (北端)

重複 重複関係は認められない。

形状 4-II区の中央部分で検出された。北端は調査区域外におよんでおり、4-I区で検出された7号・22から24号溝のいずれかと同一遺構である可能性が考えられる。南端も調査区域外におよぶがそ

の先は4-III区では検出されていない。検出された走長は54.21mである。走向は、北端から約16mの間は北東から南西方向に向かい、415-410グリッド内で左に折れ、向きを東西方向にする。さらに約17m東進の後、直角に屈折してほぼ南方向に向かい、約21mで南端にいたっている。断面形は底面と壁面の変換点あまり明瞭でなく、凸レンズ状を呈していたようである。規模は、上幅1.36から2.42m、下幅0.56から1.34m、深さ0.49mを測った。底面の標高は北端で55.10m、南端で54.33mである。

走行方位 N-52°-W (北側)、N-80°-E (南側)
埋没土 いずれの土層観察面からも黒褐色土、灰褐色土、灰黄色土の堆積が確認されている。最下層の灰黄色土には砂粒、小礫の混入が認められ流水があったことを示している。

遺物 埋没土中から須恵器杯1・2、土師器器台3が出土している。

所見 調査時の所見では微高地縁辺を巡る自然流路と考えられた。出土遺物が古墳時代の所産であることからその形成時期も古墳時代にさかのぼる可能性も考えられるが、詳細は不明である。

5区の概要

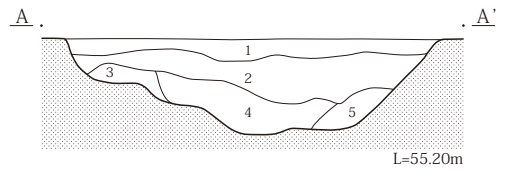
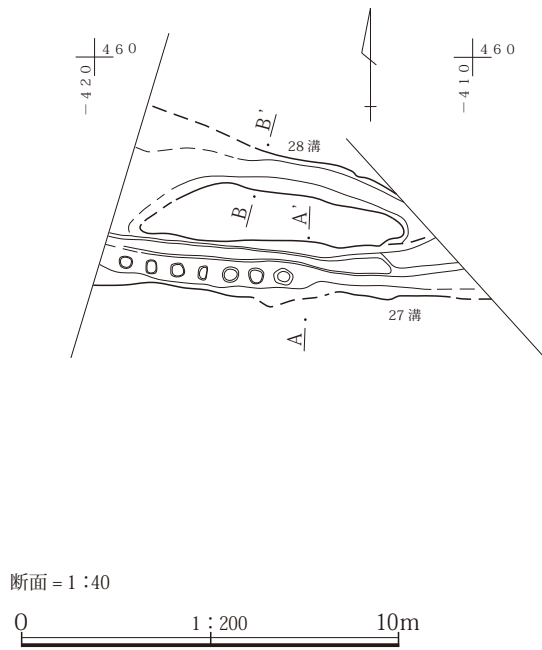
5区2面では溝が8条検出された。26号、27号、28号溝を除く各溝は、調査区の中央部分を北西から南東方向に延びる旧地形の凹地に沿って延びていた。2号、18号溝などである。31号、32号は調査区の境界、現道に沿った走向を取っていた。

5区2号溝 (第433・434・436図、P L 67・68・128・129)

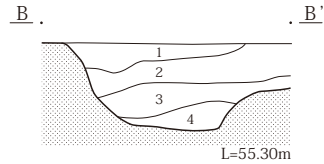
位置 440-345 (南端)、470-370 (北端)

重複 7号溝・11号土坑に後出する。8号・15号・16号・19号溝に先出する。26号溝と重複する。

形状 調査区の南東部分で検出された溝である。全体の走向は北西から南東方向に延びるものであるが、470-370グリッド内で屈曲、向きを南北方向に変えて調査区域外におよんでいる。また、南側部分



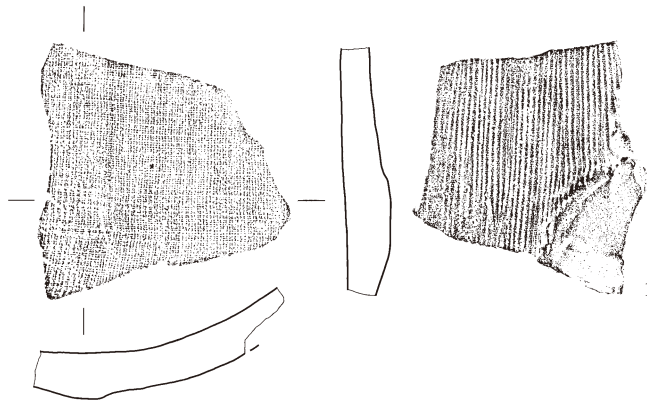
- 1 灰黄褐色土 やや砂質。白色軽石極々少量混入。
- 2 褐灰色土 やや砂質かつ粘質。鉄分の混入少量見られる。
- 3 褐灰色土 砂質。ロームブロック極少量混入。(27号溝覆土)
- 4 褐灰色土 粘質。(27号溝覆土)
- 5 にぶい黄褐色土 砂質。(27号溝覆土)



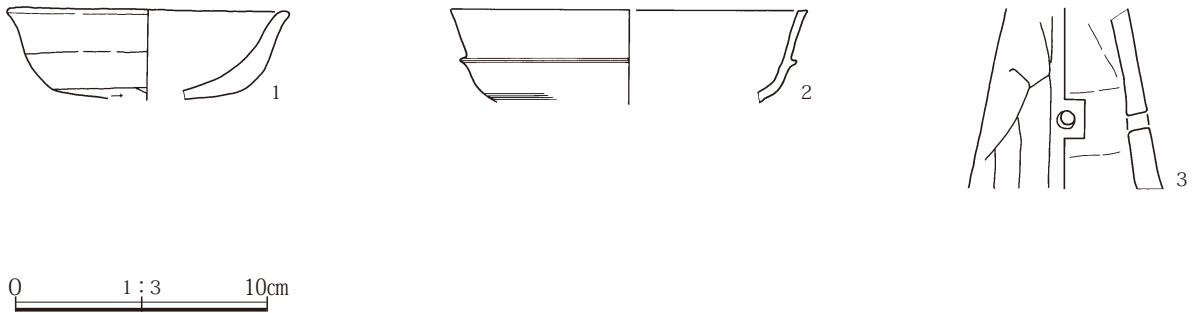
- 1 褐灰色土 粘質。(Hr-F A 泥流)灰白土ブロック(径50 ~ 200 mm)多量に混入。
- 2 褐灰色土 やや砂質。
- 3 にぶい黄褐色土 砂質。鉄分の沈着が見られる。(28号溝覆土)
- 4 灰黄褐色土 砂質。ロームブロック(径5 ~ 20mm)少量混入。(28号溝覆土)

第429図 2面4区溝11 27-28溝

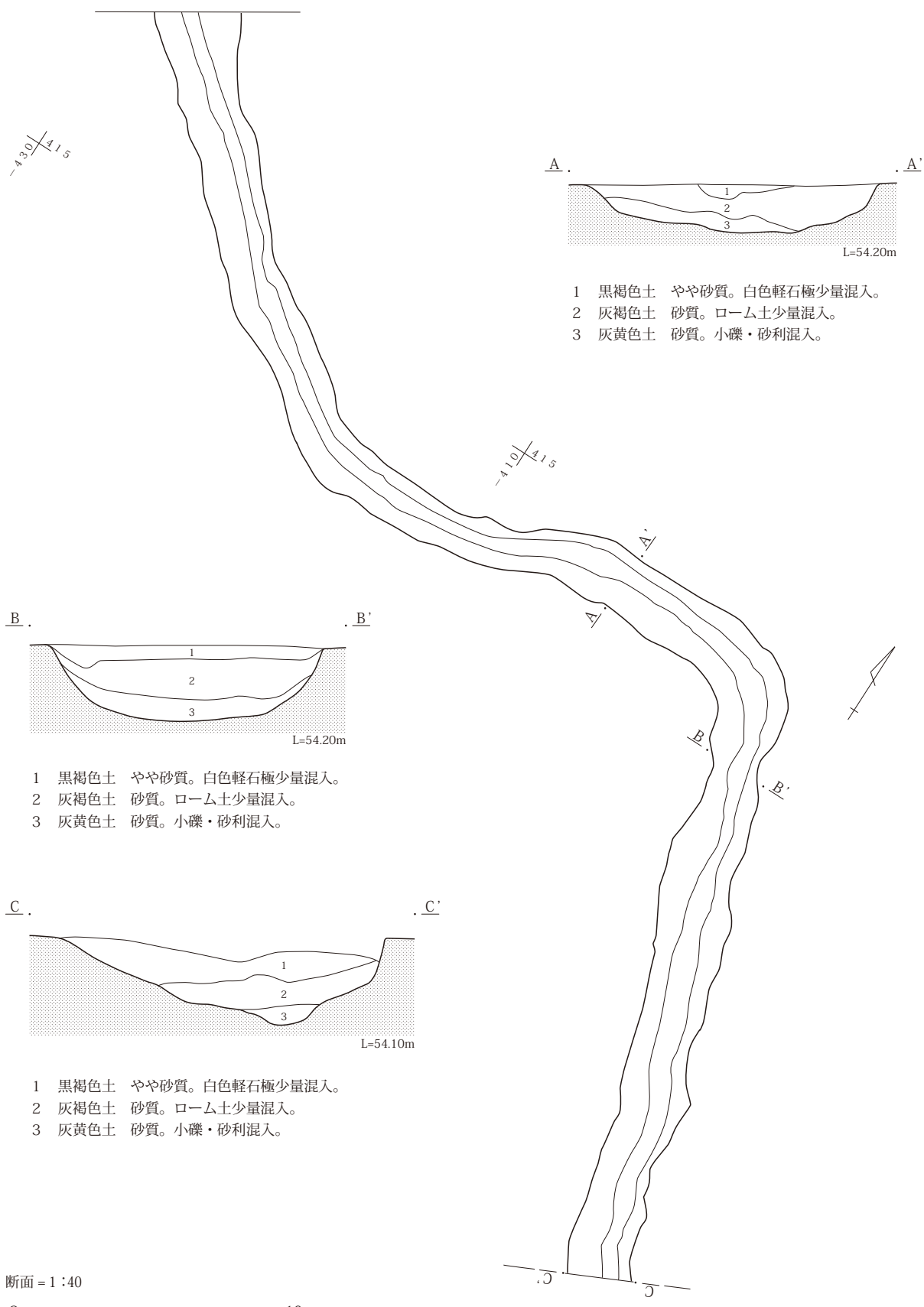
26号溝



36号溝



第430図 2面4区溝出土遺物6 26-36溝



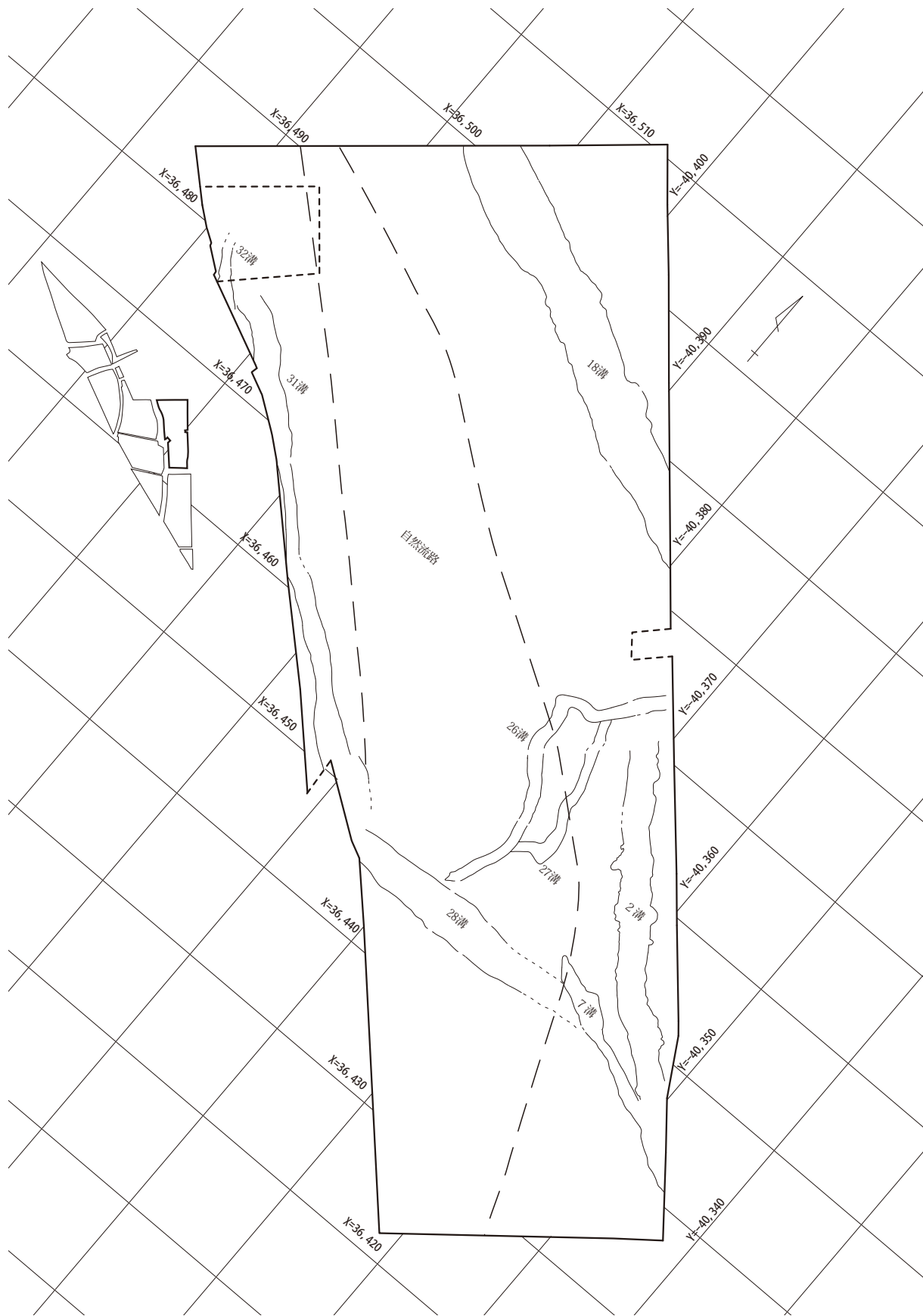
- 1 黒褐色土 やや砂質。白色軽石極少量混入。
- 2 灰褐色土 砂質。ローム土少量混入。
- 3 灰黄色土 砂質。小礫・砂利混入。

- 1 黒褐色土 やや砂質。白色軽石極少量混入。
- 2 灰褐色土 砂質。ローム土少量混入。
- 3 灰黄色土 砂質。小礫・砂利混入。

- 1 黒褐色土 やや砂質。白色軽石極少量混入。
- 2 灰褐色土 砂質。ローム土少量混入。
- 3 灰黄色土 砂質。小礫・砂利混入。

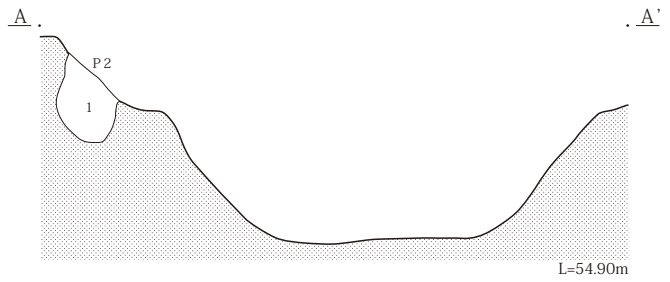
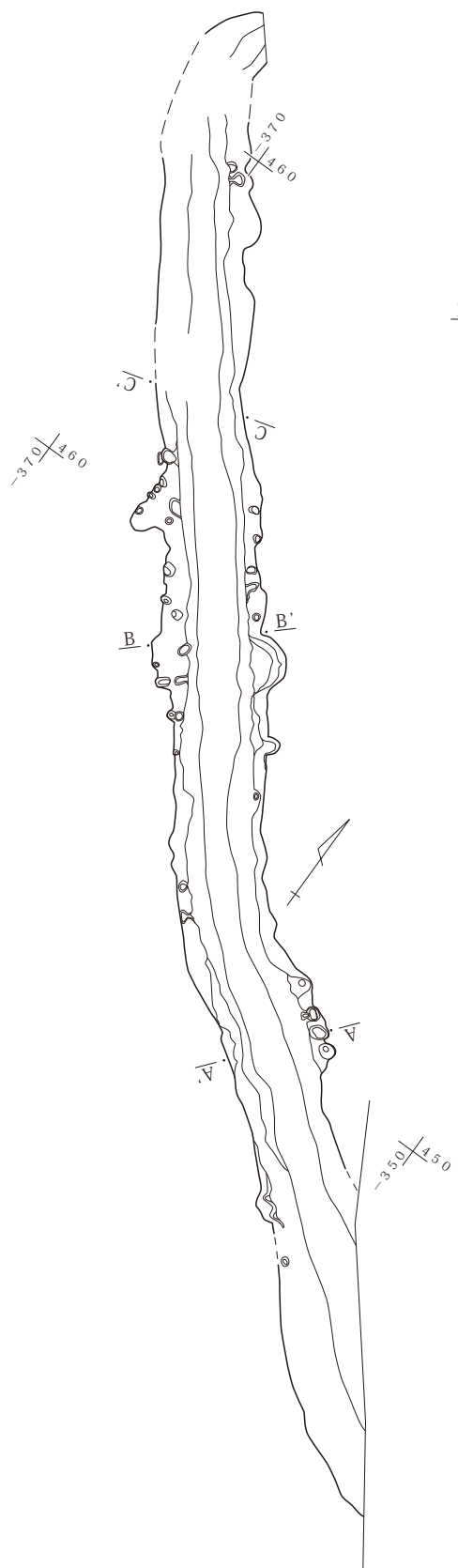
断面 = 1 : 40
 0 1 : 200 10m

第431図 2面4区溝12 36溝

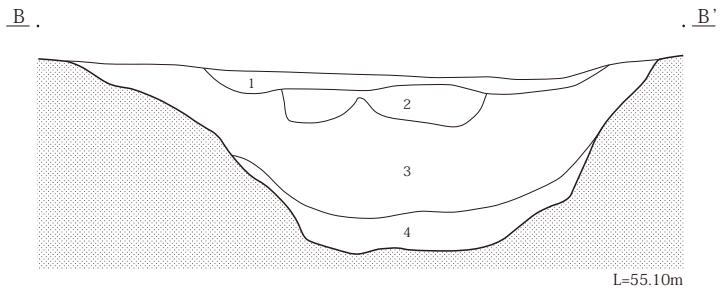


第432图 2面5区溝分布

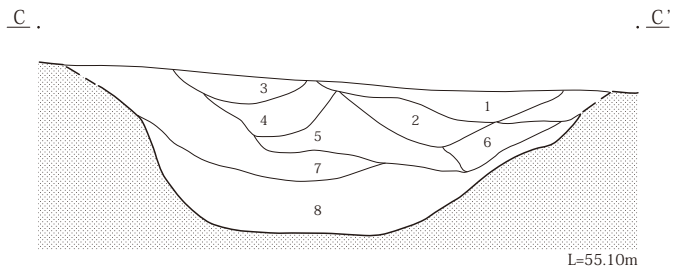
0 1:500 20m



1 暗褐色土 粘質。ローム粒(径1~10mm)を均一に40%含む。

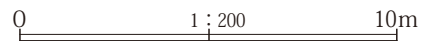


- 1 暗褐色土 やや砂質。白色軽石(径1mm)微量混入。As-B混少量。
- 2 黒褐色土 砂質。As-B混土。溝の続きと考えられる。
- 3 暗黄褐色土 粘質。ローム粒(径1~20mm)を均一に50%混入。下部にロームブロック(径50mm)を数個混入。
- 4 黄褐色土 粘質。ローム粒はほとんど含まず底に小礫がある。

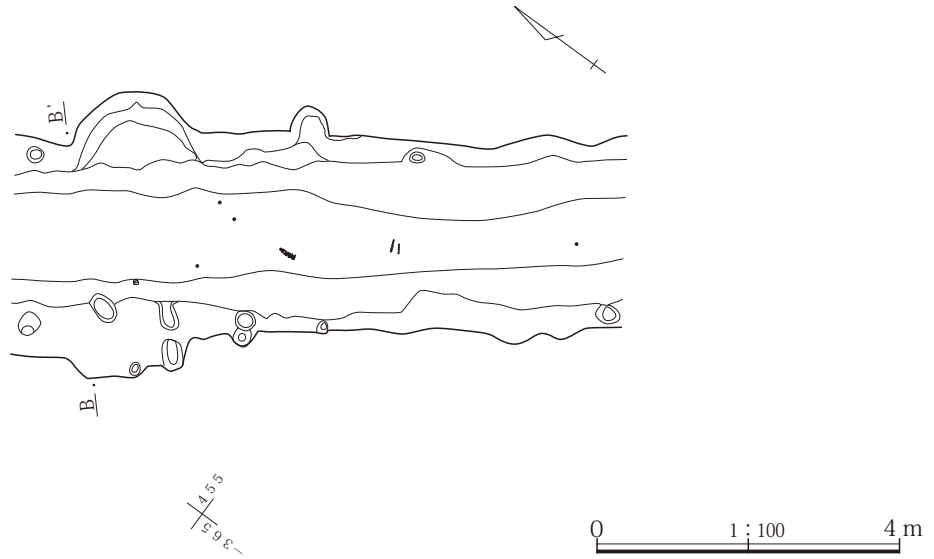


- 1 黒褐色土 やや粘質。礫(径10~40mm)少量混入。As-B混少量。
- 2 黒褐色土 白色軽石(径1~2mm)極々少量混入。
- 3 暗褐色土 締めり有り。白色軽石(径1~2mm)極々少量、ローム粒少量混入。
- 4 暗褐色土 やや粘質。礫(径5~30mm)混入。
- 5 暗褐色土 4層よりやや粘性強い。4層よりやや明るい色調。
- 6 黒褐色土 2層より黒みが強く、ローム土極少量含む。
- 7 暗褐色土 砂利層。礫・砂多量に混入。
- 8 暗黄褐色土 砂質。礫(径30mm前後)少量混入。ローム粒も含む。

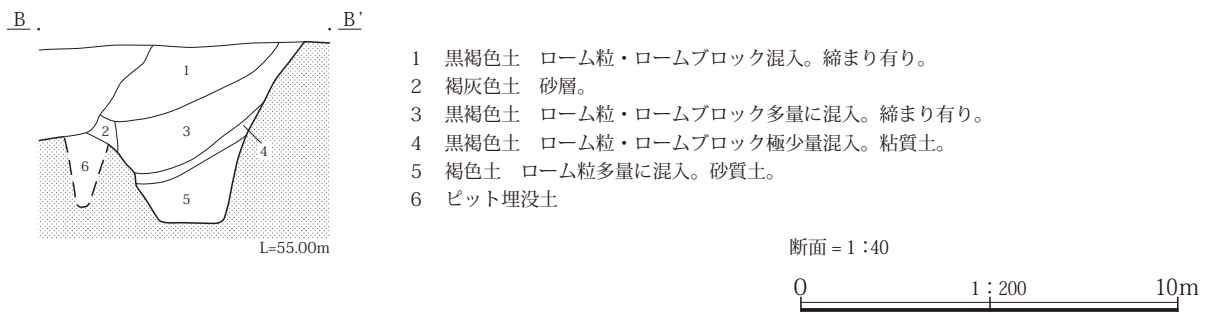
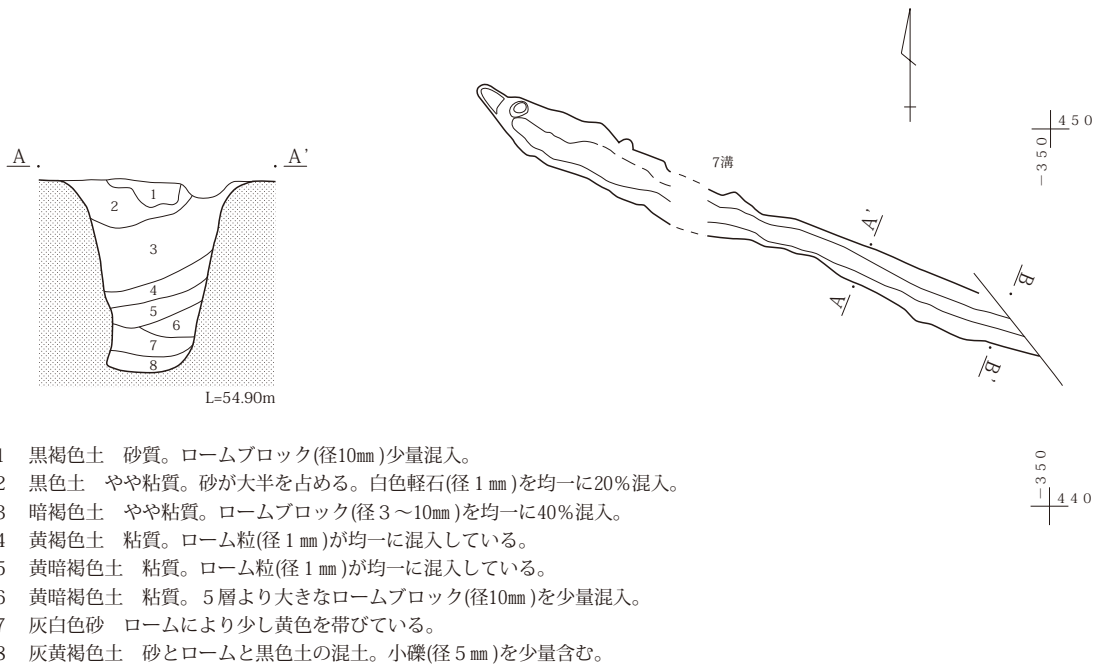
断面 = 1 : 40



第433図 2面5区溝13 2溝

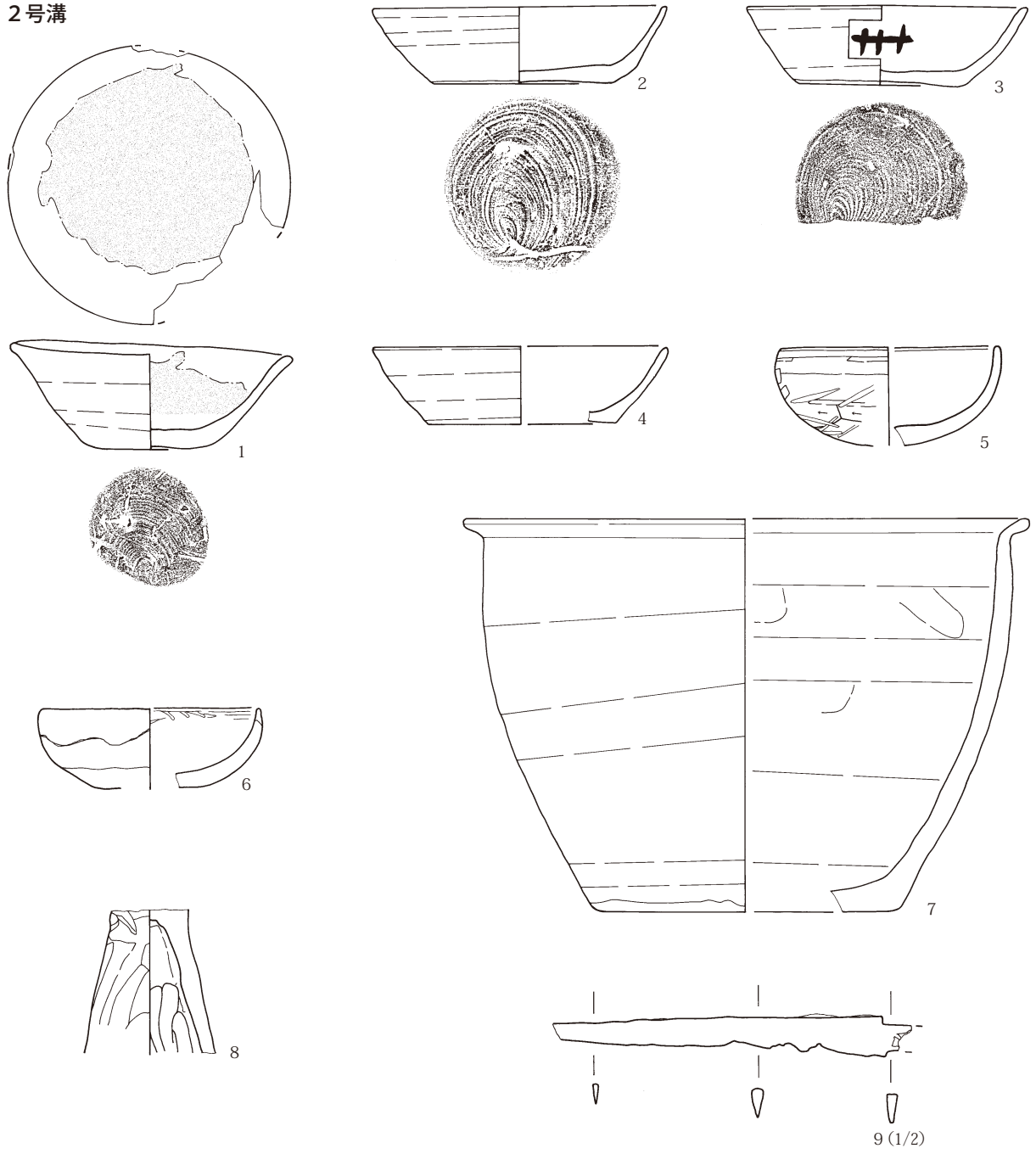


第434図 2面5区溝14 2溝遺物出土状態



第435図 2面5区溝15 7溝

2号溝



7号溝



0 1:3 10cm

第436図 2面5区溝出土遺物7 2溝7溝

の450-355グリッド内でも向きを東寄りに変えている。検出された走長は41.37mである。断面形は底面が平坦な逆台形状を呈している。壁面の上位は大きく外傾している。その規模は、上幅1.14から3.68m、下幅0.82から1.32m、深さ1.02mである。北端部分でその幅が著しく狭まる他は上幅2.5m前後、下幅は1m前後と整っている。底面の標高は北端で54.56m、南端で53.60mと南側に向かって徐々に低くなっていた。壁面にはピット状の掘り込みが多数認められた。位置的には上端近くにあるものが多い。掘り込みの直径は20から60cm前後、深さは20から40cm前後である。東壁、450-355グリッド内には4本の掘り込みが列をなしている。南から2本目は長径58cm、深さ46cmで、暗褐色土が堆積していた。壁面の養生のために杭などが打ち込まれていた可能性が考えられるがその痕跡を確認することはできなかった。走行方位 N-37°-W(南側)、N-52°-W(北側)

埋没土 中位からやや北側における土層断面では中位に礫・砂粒を多量に含む暗褐色土が堆積しており、流水があったことがうかがえる。

遺物 埋没土中から出土した須恵器杯1から4、鉢3、土師器杯5・6、土師器高杯8、刀子9を資料化した。須恵器3は墨書土器である。

また、455-365グリッド内の埋没土中の2箇所から馬歯が出土している。北側出土のNo.1は底面から約40cm上位、南側出土のNo.2は底面から20cm上位からの出土である。

(馬歯については第3章第3節を参照)

所見 大規模な用水路と考えられる。走向を考えると大道西遺跡に至っているものと推測される。掘削時期は平安時代と考えられる。

5区7号溝(第435・436図、P L 68・129)

位置 440-350(東端)、450-360(西端)

重複 2号に先出する。28号溝と重複する。

形状 調査区の南東部分、6号溝の西側で検出された溝である。小さな蛇行が見られるものの、原形は直線を指向していたものと考えられる。検出され

た走長は22.78mである。東端は2号溝により削平を受けているがさらに調査区域外におよんでいたものと考えられる。西端は比高差約70cmを持って急激に立ち上がり、その先は不明となってしまう。断面形は深さのある逆台形状を呈している。その規模は、上幅0.68から1.50m、下幅0.42から0.78m、深さ1.01mである。底面の標高は、西端53.80m、東端53.99mと西側に向かって低くなっている。

走行方位 N-65°-W

埋没土 中位からやや東端寄りにおける土層断面では下層に灰白色砂層や砂粒・ローム・黒色土が混土された灰黄褐色土が堆積していたが、他の箇所では流水があったことを想定させるような堆積状況は認められなかった。中・上層では一方側から土砂が流入して堆積した様子がかがえた。

遺物 埋没土中から出土した土師器小型壺1、鉄釘と考えられる鉄製品2を資料化した。

所見 性格は不詳である。出土遺物の中には古墳時代中期の土器が出土しているが、詳細な掘削時期については不詳である。

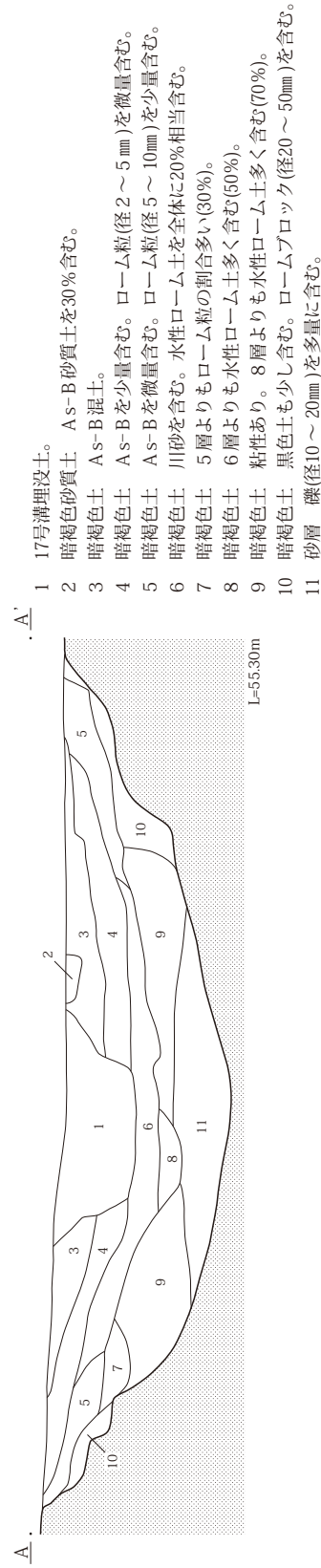
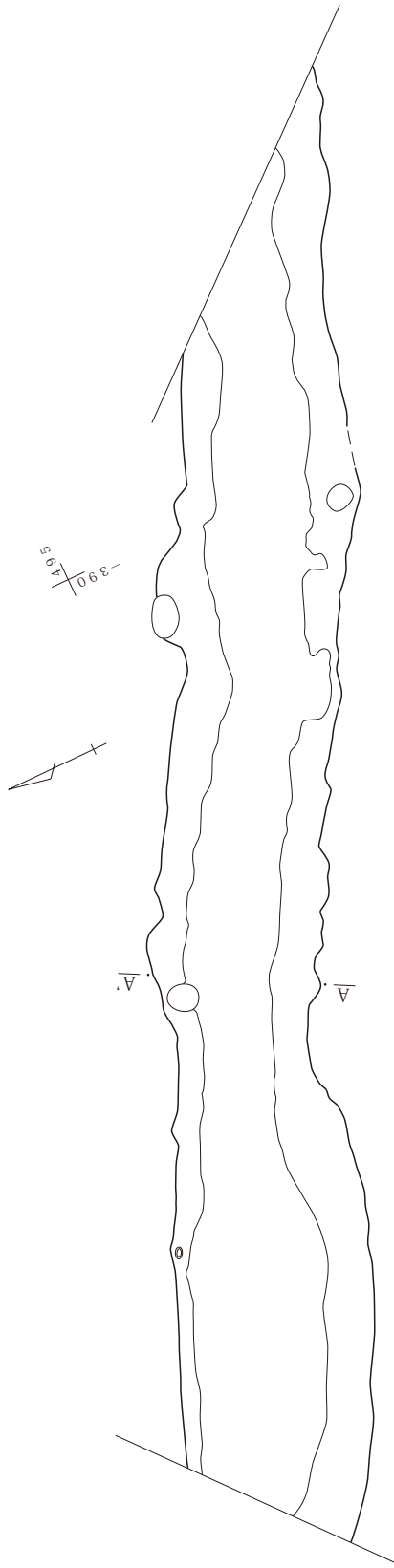
5区18号溝(第437～443図、P L 69・129・130)

位置 485-380(東端)、500-410(西端)

重複 1号住居に後出、17号溝に先出する。10号・18号・19号土坑と重複する。

形状 調査区の北東部分で検出された東西方向の溝である。検出された走長は39.31mである。両端とも調査区域外におよんでいる。特に東側は大道西遺跡の方向に延びている。走向の原形は直線を指向していたようであるが、東西両端ともわずかに彎曲する様子が見られることからその延長先上で、蛇行あるいは弧を描いていることも考えられる。断面形は立ち上がりの緩やかな逆台形状を呈していたものと考えられる。その規模は、上幅3.70から5.42m、下幅2.34から4.16m、深さ1.04mである。底面の中央には上幅0.9m前後で、深さ10から15cm程の小溝が掘り込まれていたようである。

なお、北側の壁面で、490-390グリッド内、10号

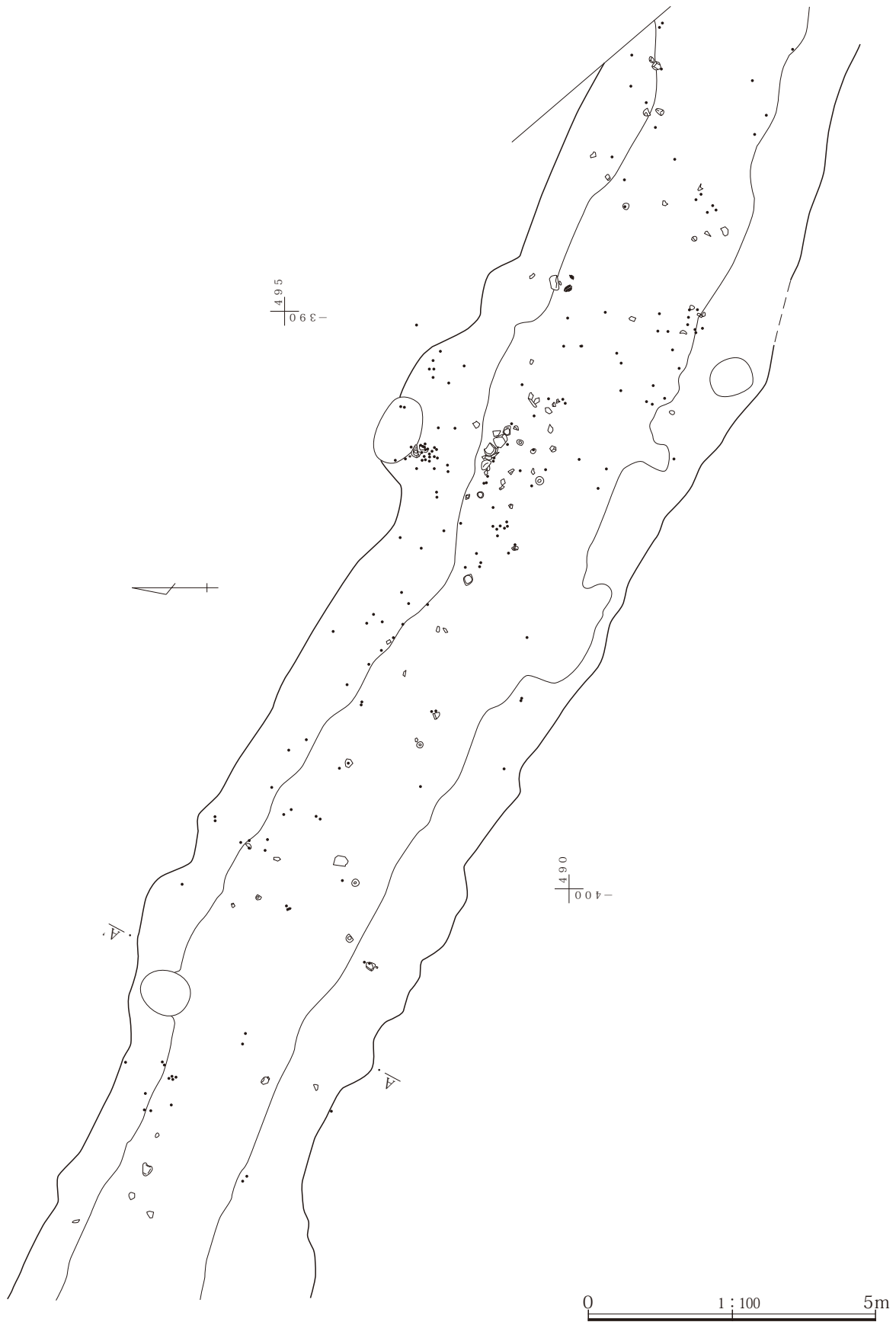


- 1 17号溝埋没土。
- 2 暗褐色砂質土 As-B砂質土を30%含む。
- 3 暗褐色土 As-B混土。
- 4 暗褐色土 As-Bを少量含む。ローム粒(径2～5mm)を微量含む。
- 5 暗褐色土 As-Bを微量含む。ローム粒(径5～10mm)を少量含む。
- 6 暗褐色土 川砂を含む。水性ローム土を全体に20%相当含む。
- 7 暗褐色土 5層よりもローム粒の割合多い(80%)。
- 8 暗褐色土 6層よりも水性ローム土多く含む(50%)。
- 9 暗褐色土 粘性あり。8層よりも水性ローム土多く含む(70%)。
- 10 暗褐色土 黒色土も少し含む。ロームブロック(径20～50mm)を含む。
- 11 砂層 礫(径10～20mm)を多量に含む。

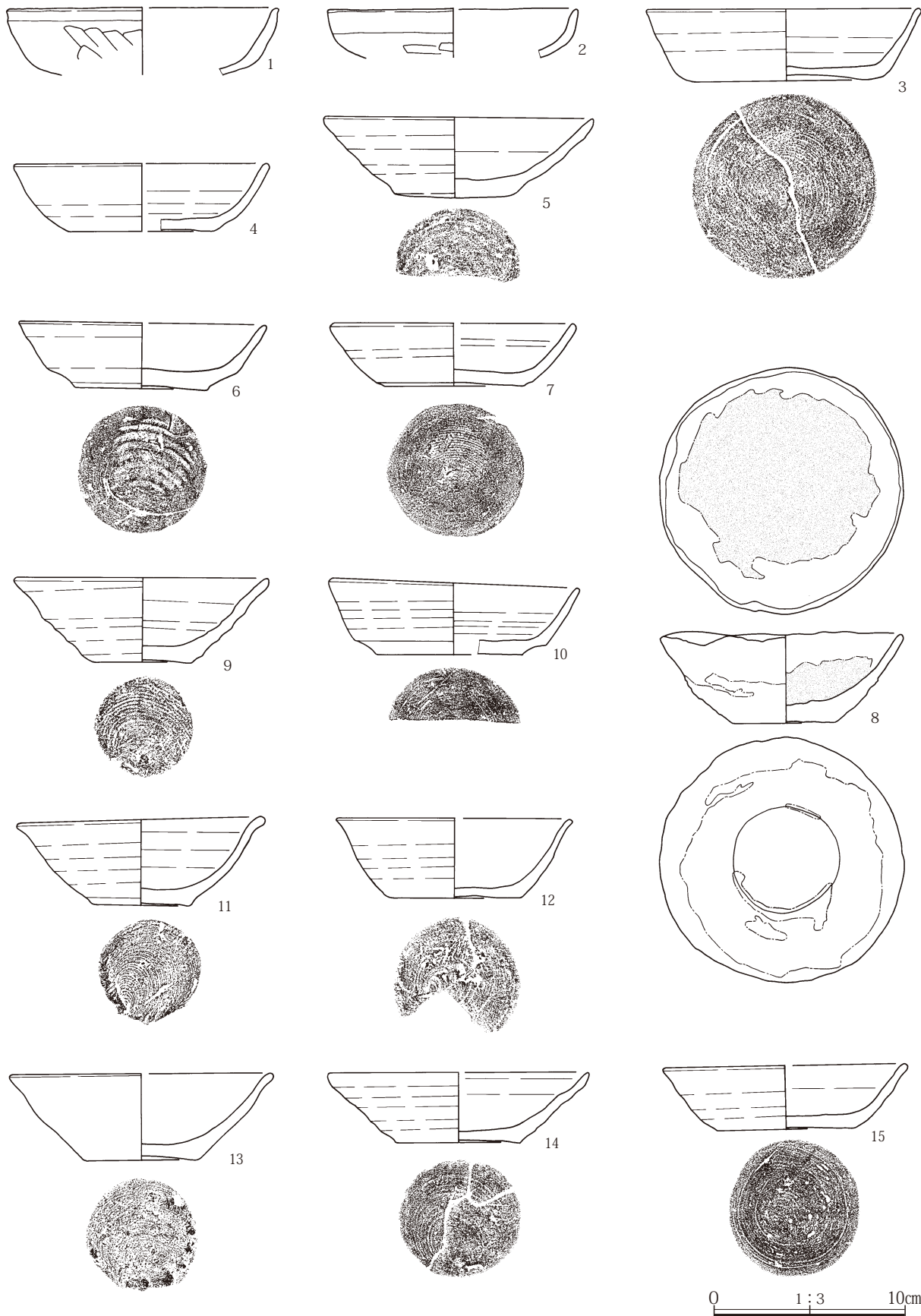
断面 = 1 : 40



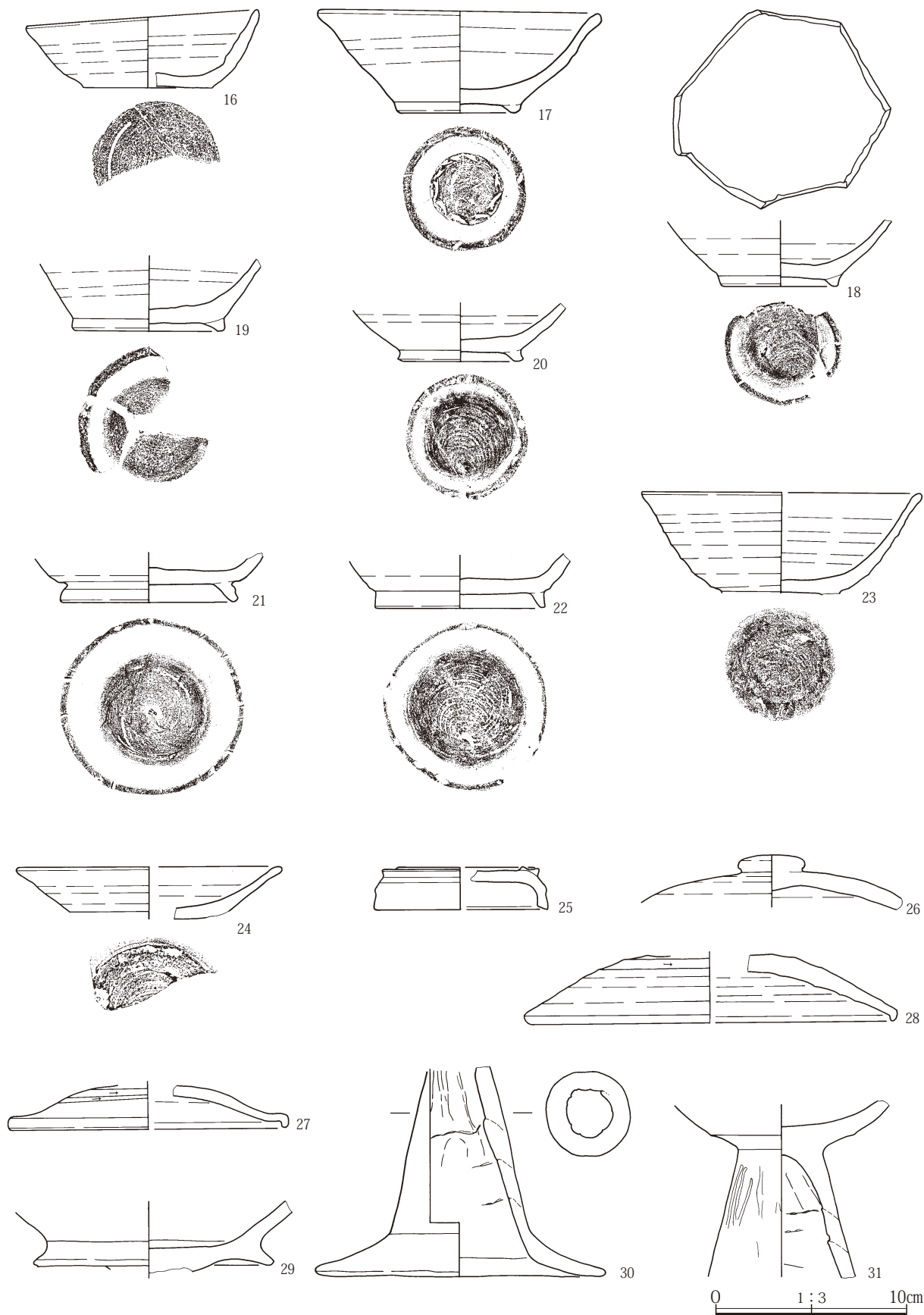
第437図 2面5区溝16 18溝



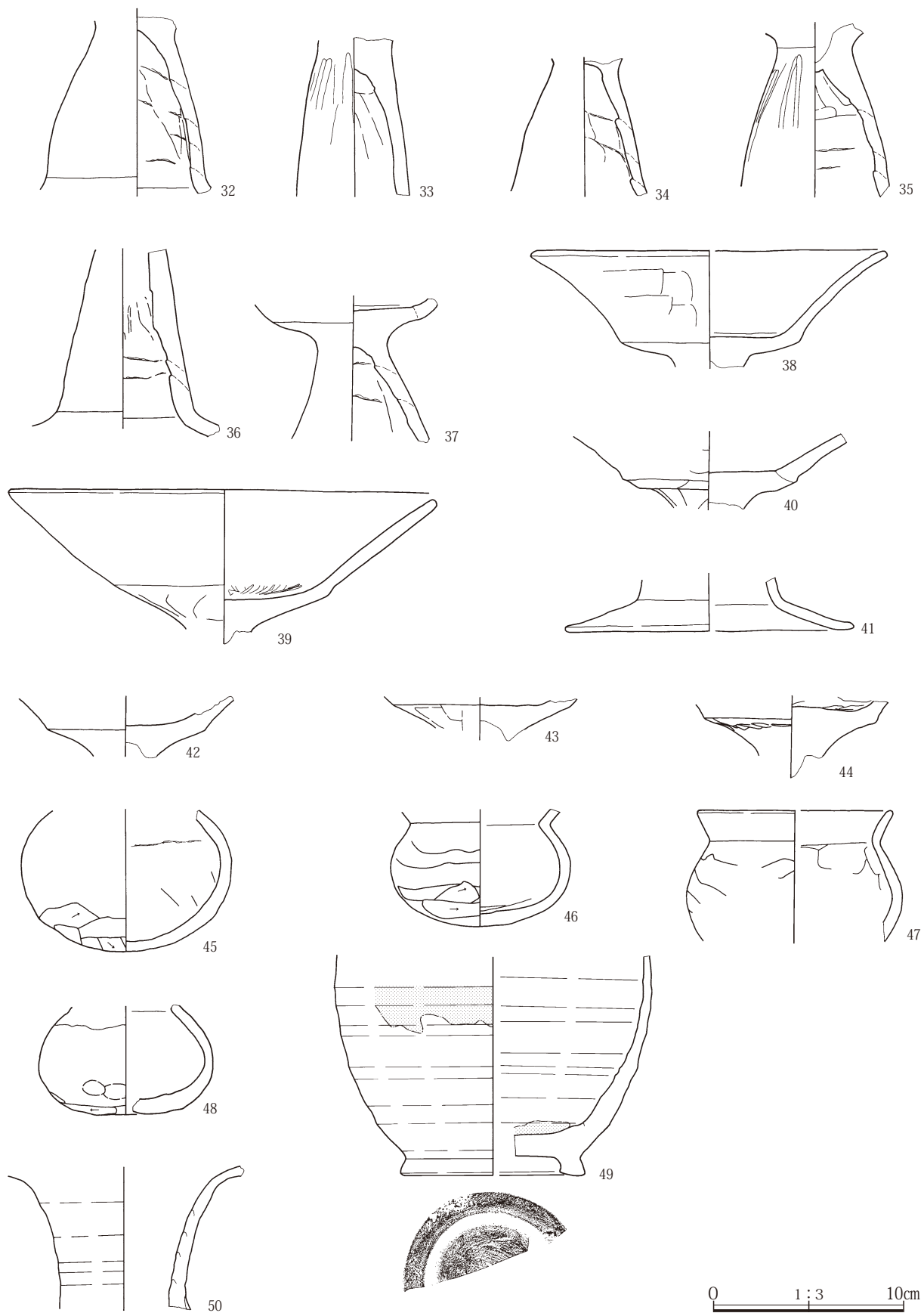
第438图 2面5区溝17 18溝遺物出土状態



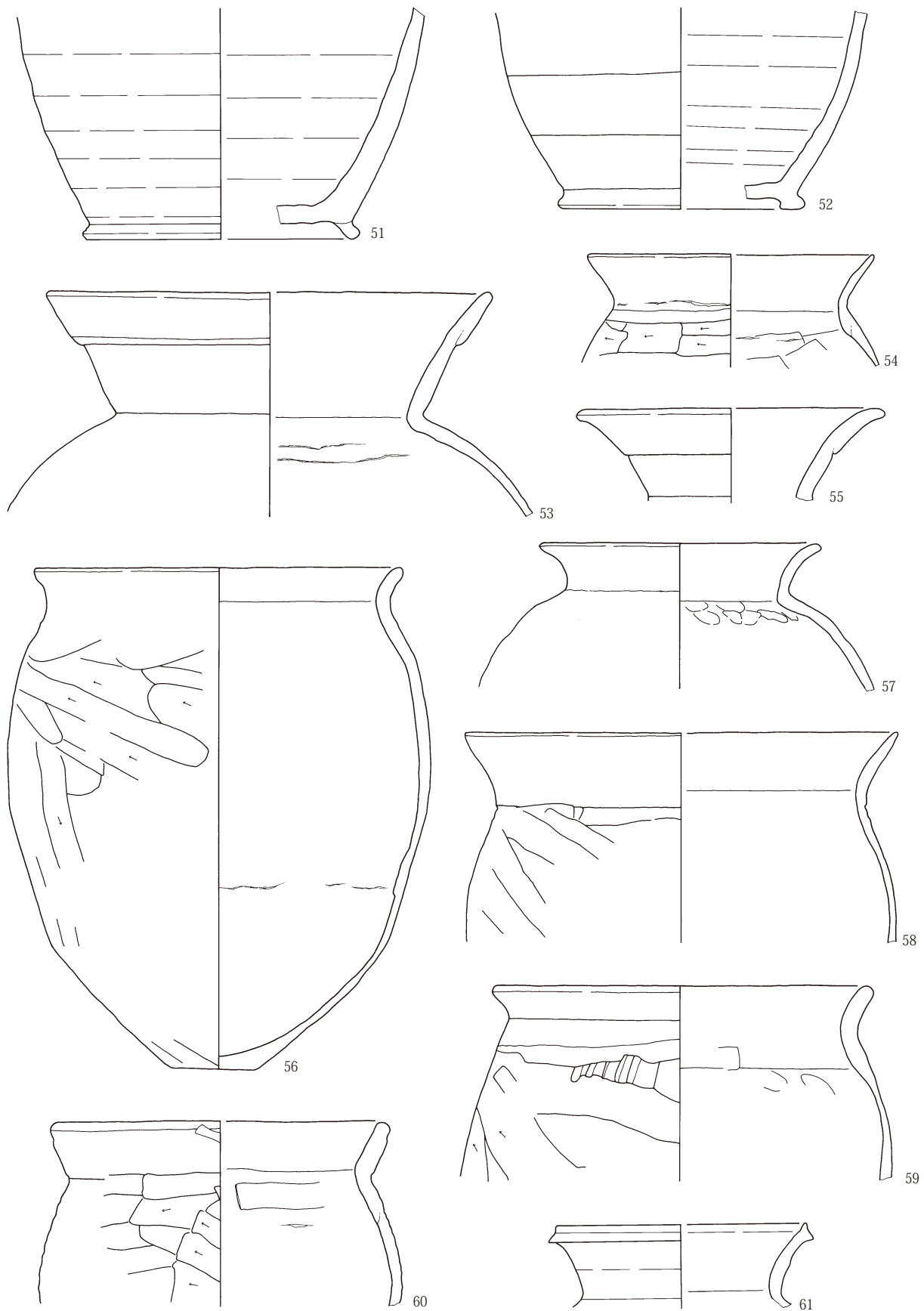
第439图 2面5区沟出土遗物8 18沟 1-15



第440图 2面5区沟出土遺物9 18溝 16-31

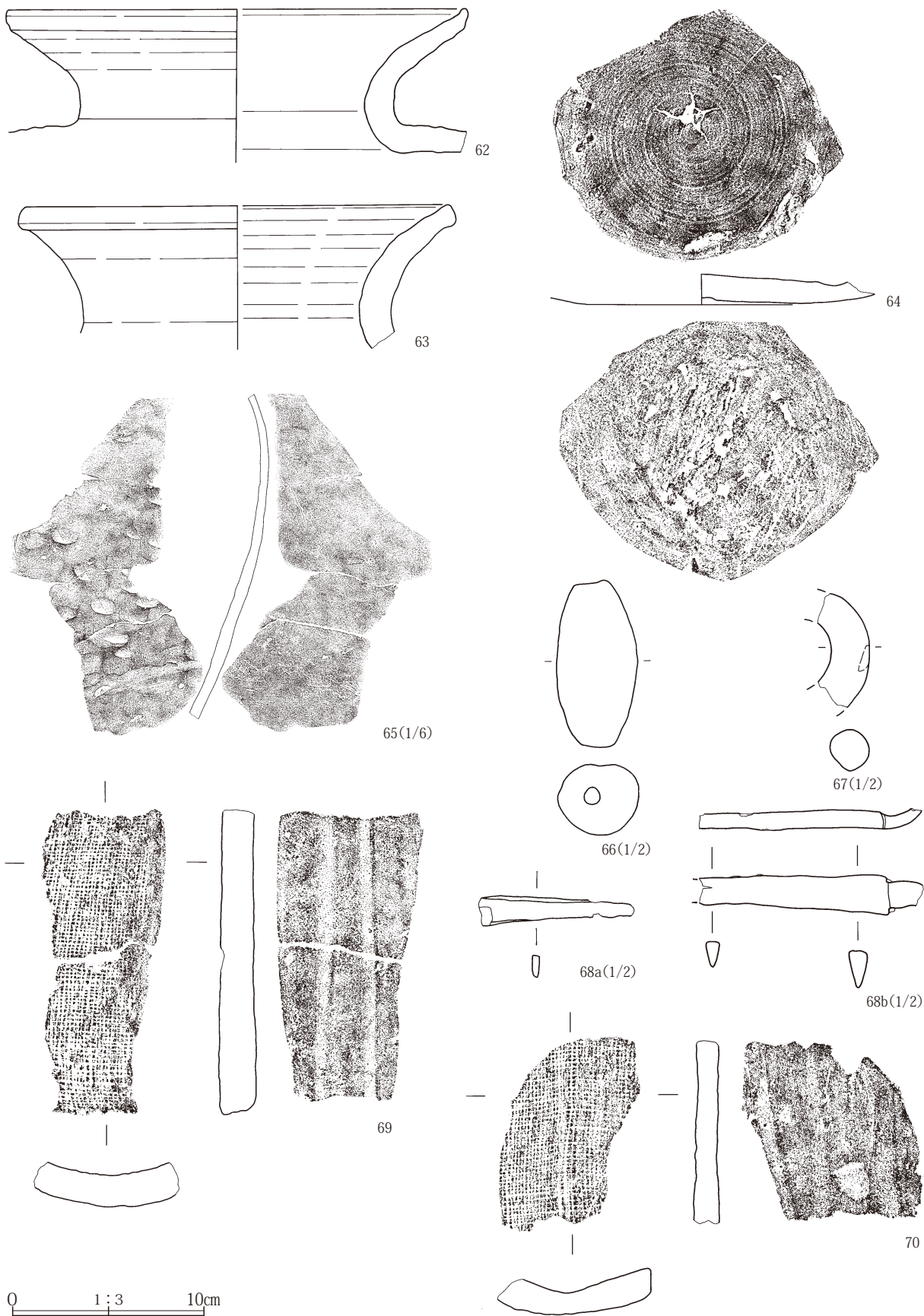


第441图 2面5区沟出土遗物10 18沟 32-50



第442图 2面5区沟出土遺物11 18溝 51-61

0 1:3 10cm



第443图 2面5区沟出土遺物12 18溝 62-70

土坑と重複した部分は調査時に水場遺構として認識された。これは、上端が三日月状に外方に張り出した部分の法面に、平坦な面が見られたことによるものであろう。底面側にはその縁辺部を護るかのよう
に走向方向に沿って自然石4石が検出されている。この法面とその周辺からは多数の土器片が出土している。

走行方位 N-65° -W

埋没土 最下層に小礫を多量に含む砂層が堆積しており、流水があったことがうかがえる。

遺物 埋没土中から多量の遺物が出土している。その中から土師器杯1・2、須恵器杯3他13点、椀17・22他5点、蓋26他3点、土師器高杯30他14点、甕54他6点、埴45他3点、須恵器壺49他3点、甕61他4点、瓦69・70、土錘66、刀子68を資料化した。

他に馬歯が4箇所から出土している。490ラインと-390ラインの交点から東に40cmの位置に2箇所、南に20cm、西に50cmの位置で1箇所と490ラインと-440ラインの交点から南に20cm、西に5cmの位置から1箇所である。いずれも底面から離れた高さからの出土である。

(馬歯については第3章第3節を参照)

所見 大型の用水路であったものと考えられる。掘削時期は、埋没土中から古墳時代中期の土師器が多数出土しているが、平安時代の所産と考えられる。2号溝は本溝からの分水が想定される。

5区26号溝 (第444・447図、P L 69)

位置 450-380 (南端)、470-370 (北端)

重複 2号・27号溝と重複する。

形状 調査区の南東部分、2号溝の西側に位置する南北方向の溝である。走向はL字・S字のクランク状に屈曲をくり返している。検出された走長は29.23mである。北端は調査区域外におよんでいた。南端は掘り込みが浅くなり不明瞭になっている。断面形は逆台形である。中位に稜をなし、それより上位が外傾を増していた。その規模は、上幅1.24から1.50m、下幅0.42から0.92m、深さ0.78mである。

底面の標高は北端で54.39m、南端54.30mである。底面で最も低いのは460ラインの位置で、54.05mである。

走行方位 N-34° -W(南側)、N-40° -E(北側)

埋没土 暗褐色砂粒を主体に、調査時の所見にHr-FAと注記される軽石を含む茶褐色土が堆積していた。流水は確認でない。

遺物 北側部分を中心に底面近くの埋没土中から土師器・須恵器が小破片となり出土している。須恵器杯1を資料化した。

所見 性格、掘削時期は不詳である。

5区27号溝 (第444図、P L 70)

位置 455-370 (南端)、465-375 (北端)

重複 26号溝と重複する。

形状 調査区の南東部分、2号溝の西側で検出した溝である。走向は南北方向であるが、455-370グリッドで西方向に強く屈曲している。検出された走長は12.34mである。南北両端とも26号溝と接するところまで検出されてその先へは延びていない。断面形は外傾の著しい逆台形である。その規模は、上幅0.76から3.90m、下幅0.42から2.74m、深さ0.28mである。底面は南側に向かって緩やかに下がっていた。

走行方位 N-50° -E(南側)、N-16° -W(北側)

埋没土 上層に褐色土、下層に褐色の砂層が堆積していた。ともにHr-FAの混土を含んでいた。下層の堆積状況から流水があったことが想定される。

遺物 埋没土中から少量の土師器が検出されたが資料化するに足るものは検出されなかった。

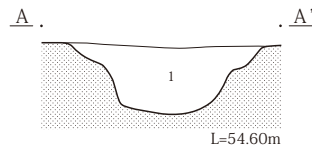
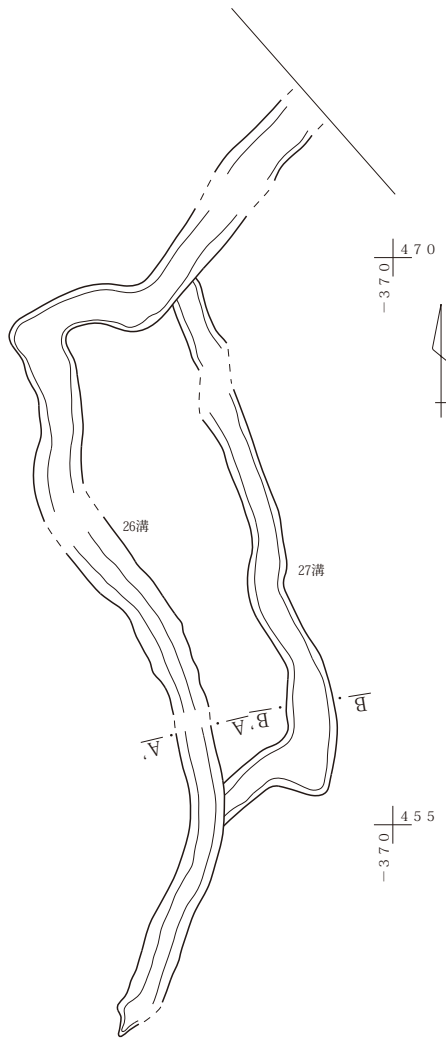
所見 性格、掘削時期は不詳である。

5区28号溝 (第444図、P L 70)

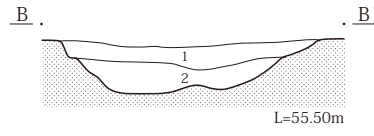
位置 445-360 (東端)、445-385 (西端)

重複 7号・31号溝と重複する。

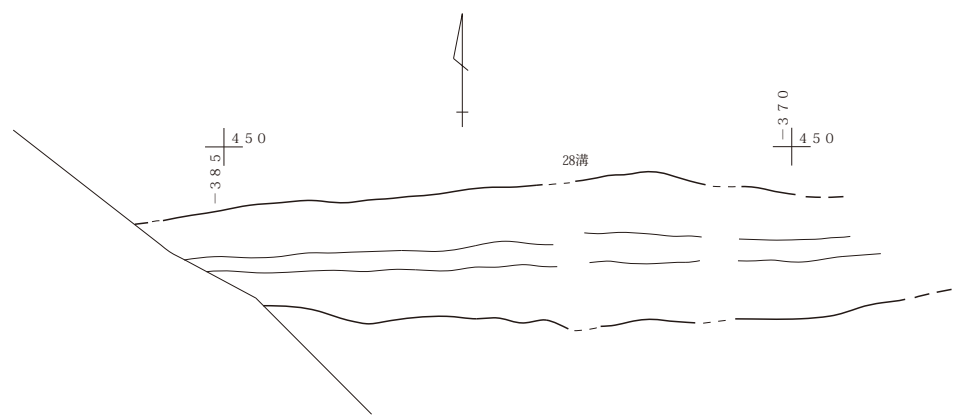
形状 調査区の南側部分に位置する東西方向の溝である。検出された走長は18.84mである。西端は調査区域外におよんでいる。東端は7号溝と接した



1 茶褐色砂質土 Hr-F A 軽石(径 1 ~ 4 mm)20% 混入。暗褐色砂質土が主体。



1 褐色土 粘質。Hr-F A 混土。(Hr-F A と思われる)白色軽石(径 1 ~ 2 mm)少量混入。
 2 褐色土 砂質。砂層で Hr-F A 混土。Hr-F A は少量混入。



第444図 2面5区溝18 26-28溝

先は1面の諸溝により削平を受けている。断面の規模は、上幅2.74から3.90m、下幅0.42から0.76m、深さ0.19mである。

走行方位 N—87°—E

埋没土 不詳である。

遺物 埋没土中から灰釉陶器の破片が出土したが、資料化するには足りなかった。

所見 2面で検出された溝としては掘り込みが浅く不自然な形状をしている。1面に相当する溝の最下部を検出した可能性も考えられる。溝として扱うこともやや疑問視される遺構である。性格、掘削時期については不詳である。

5区31号溝 (第445～447図、P L 70・131)

位置 450—385 (東端)、475—420 (西端)

重複 28号・32号溝と重複する。

形状 調査区の西側から南西部分に位置する東西方向の溝である。北端の先で検出された32号溝とは重複関係にあると考えられる。走向は調査区の境界に沿うように北西から南東方向に延びている。そのため460ラインから475ラインの間は西側の先端が未検出である。南端は調査区域外におよんでいる。検出された走長は43.16mである。断面形は薬研に近い逆台形状を呈していた。その規模は、上幅1.04から2.12m、下幅0.28から1.42m、深さ0.97mである。底面は多少の起伏はあるものの、南東端に向かって徐々に低くなっていた。底面の標高は北西端で54.23m、南東端で53.48mである。

走行方位 N—56°—W (北側)、N—48°—W (南側)

埋没土 全体ではないが下層、最下層に褐灰色の砂層が堆積していることから流水があったことがうかがえる。

遺物 埋没土中から出土した須恵器杯1から3、椀4、土師器高杯5・6を資料化した。

所見 用水路として機能していたものと考えられる。平安時代の土器を出土しているが掘削時期については不詳である。

5区32号溝 (第445・447図、P L 70・131)

位置 475—420、425

重複 31号溝とは実質的に重複関係にあったものと考えられる。

形状 調査区の西側部分、2号溝の西側に位置する溝である。走向は31号溝とほぼ同様である。南側は調査区域外におよんでいる。検出された走長は5.32mである。断面形は逆台形状を呈していたと考えられる。その規模は上幅0.66から1.12m、下幅0.44から0.82m、深さ0.93mである。

走行方位 N—32°—W

埋没土 上・中層にはHr-FA起源の軽石の混入が調査時の所見として記録されている。下層に砂粒の混入が見られることから流水があったことがうかがえる。遺物 埋没土中から遺物2点が出土している。その中から土師器高杯1を資料化した。

所見 用水路として機能していたものと考えられる。古墳時代中期の土器を出土しているが掘削時期は不詳である。

6区の概要

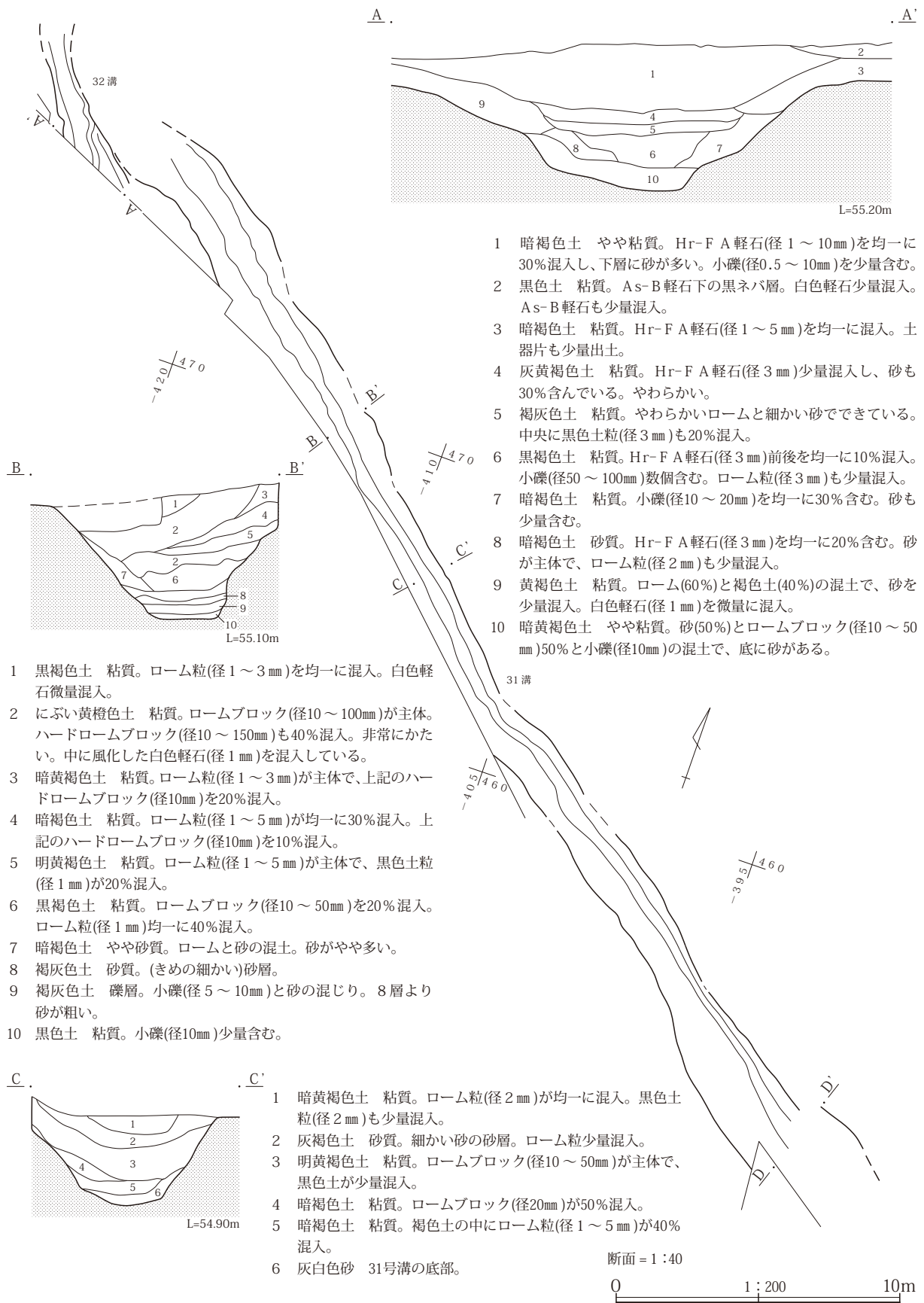
6区2面では5条の溝が検出された。調査区の西側部分には南東から北西方向に自然流路が延びていた。この流路は調査時の土層観察により東山道駅路の南側側溝を削平していることが確認されている。この凹地の東側縁辺から13号、14号、15号溝が検出された。15号、16号溝も東側縁辺に近い位置にある。16号溝は西側縁辺から検出された。11号溝は西側の自然流路の走向を意識して掘削されている。方形区画の北西、南西の各辺を画していたものと考えられる。

6区11号溝 (第449図、P L 71)

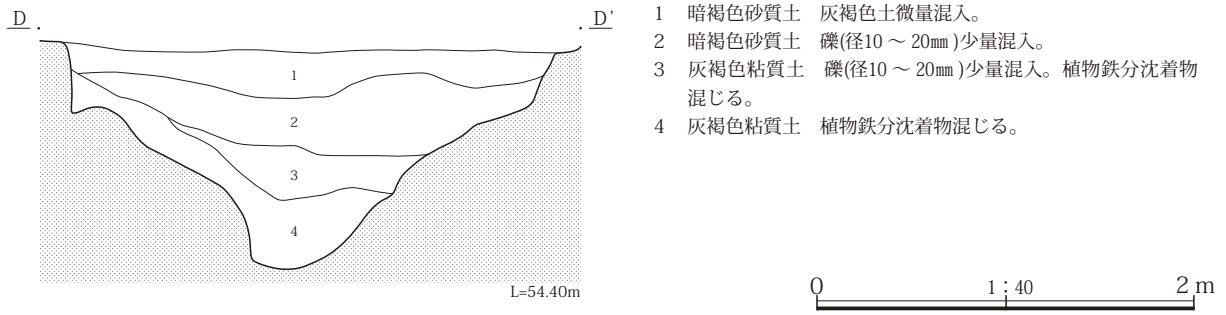
位置 390—325 (南端)、415—315 (北端)

重複 10号溝に後出する。

形状 6—I・II区の北側部分から検出された。西側の自然流路の東縁に沿って北西から南東方向に延びている。走長は34.41mである。405と—335

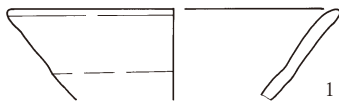


第445図 2面5区溝19 31溝32溝

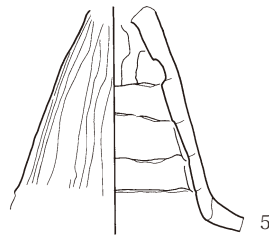
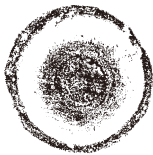
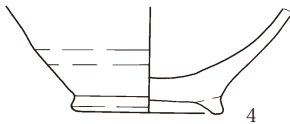
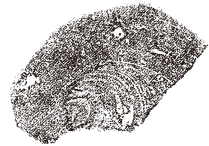
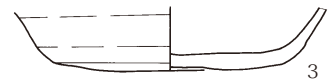
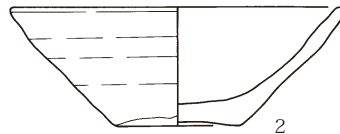
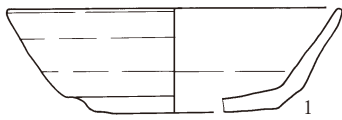


第446図 2面5区溝20 31溝断面

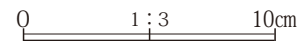
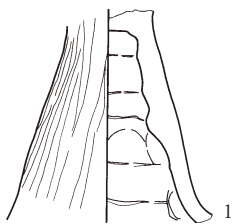
26号溝



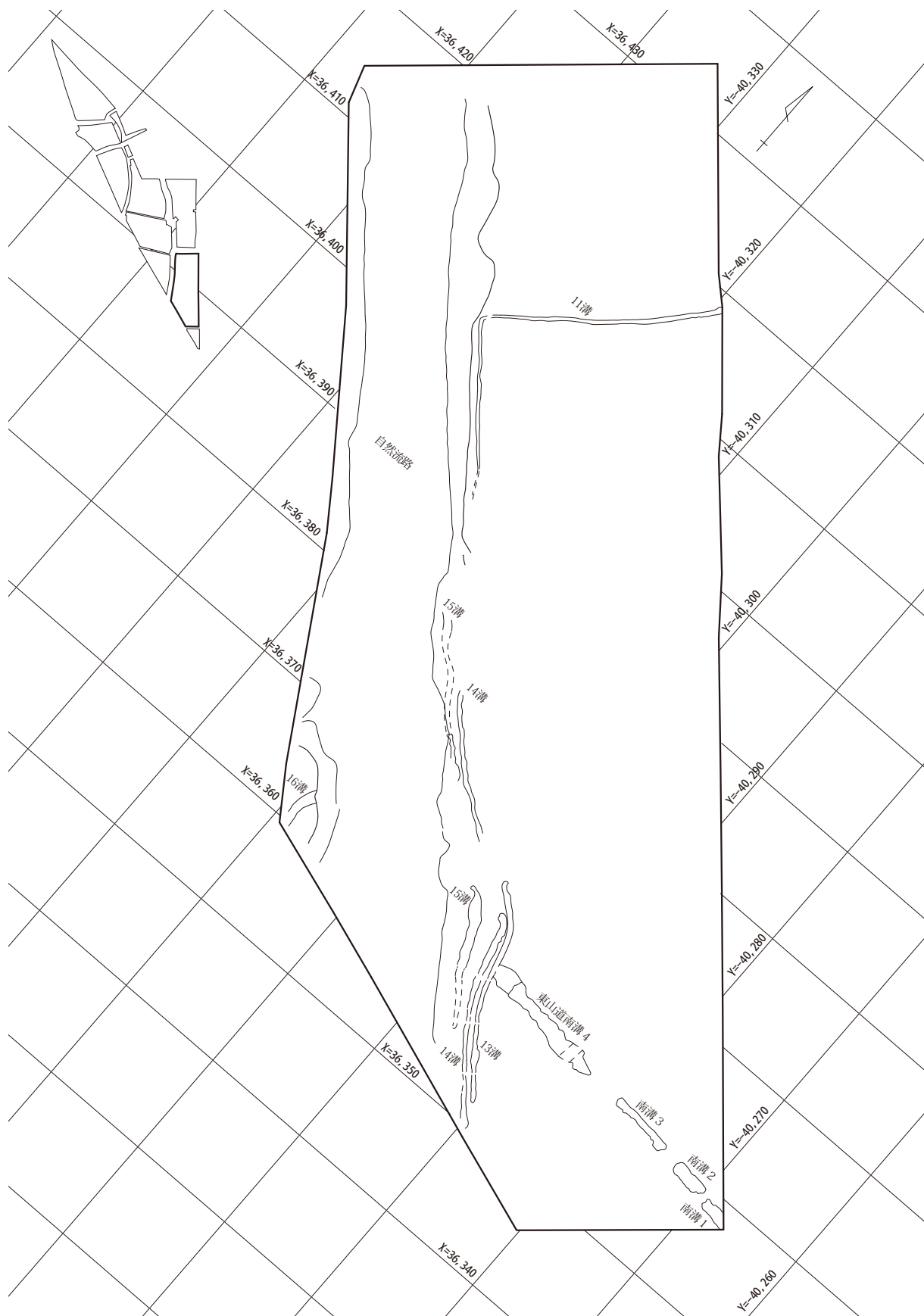
31号溝



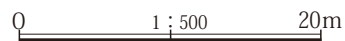
32号溝

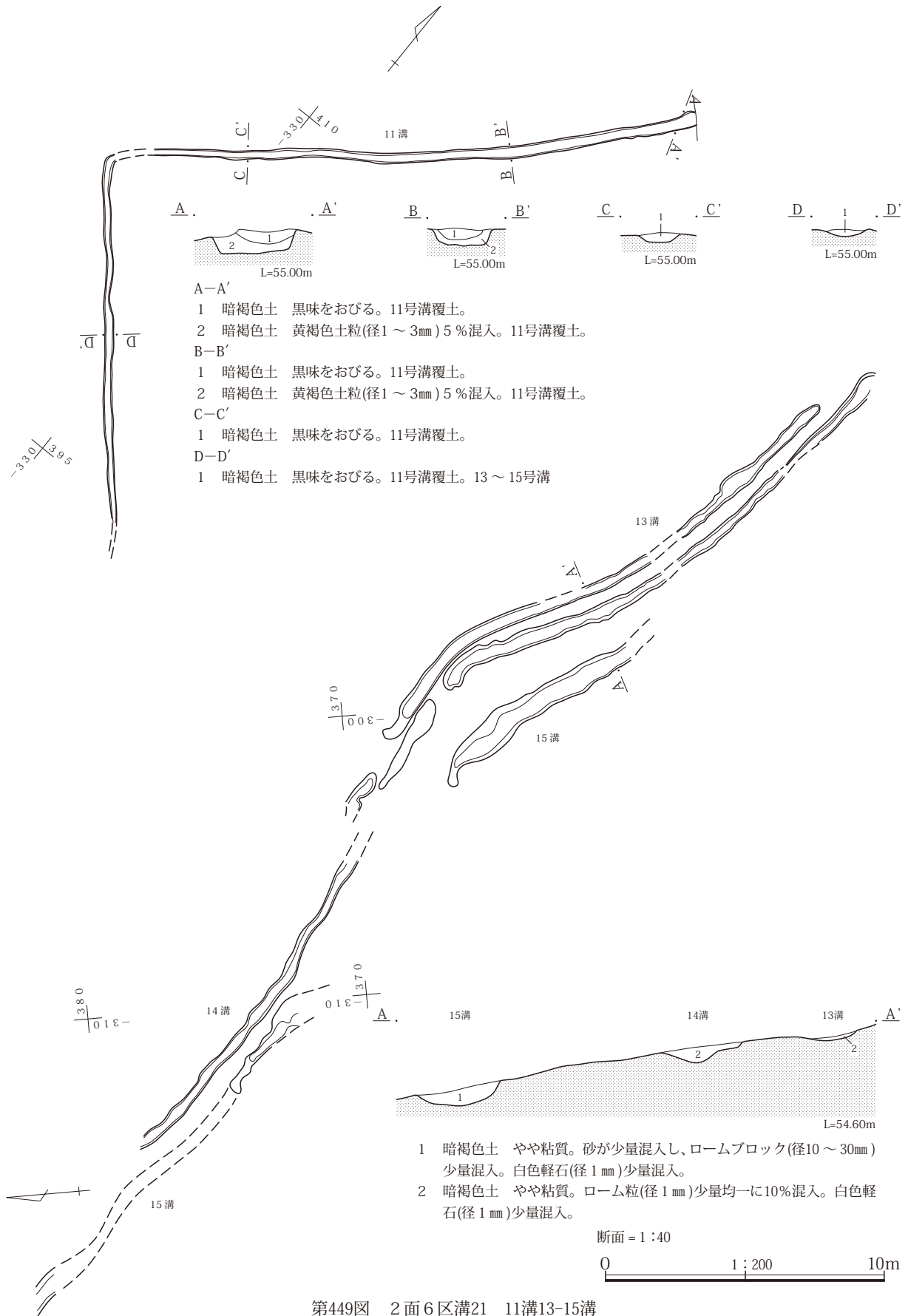


第447図 2面5区溝出土遺物13 26溝31溝32溝



第448图 2面6区溝分布





第449図 2面6区溝21 11溝13-15溝

の交点から南東寄りではほぼ直角に屈曲して向きを変えている。北溝も直線を指向しており、その走長は13.14mである。東端は調査区域外におよんでいる。北溝から南方向27.5mの位置には北溝と平行するように標高54.80mの等高線が南西から北東方向に延びており、溝の掘削こそないものの、この周辺に何か区割りが存在していたものと考えられる。

検出した総延長は34.41mである。断面形は底面が平坦面をなす箱形である。横幅の規模に大きな差はないが、西溝より、北溝のほうがやや幅広であった。その規模は、上幅0.50から0.58m、下幅は0.10から0.16である。上層からの削平が進行していたためか深さは0.19mであった。

走行方位 N—41°—W(西側)、N—51°—E(北側)
埋没土 暗褐色土が堆積していた。流水はなかったものと考えられる。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 本溝は、南北27.5mの規模を有する屋敷あるいは四角形の地割を区画する溝と考えられる。圃場整備事業前の区割には既にその存在を示すような痕跡は認められなかった。本溝の東側からは1号・2号建物址や1号井戸、1号屋外炉、複数の土坑が検出されたが、それらの遺構の長軸線と区画の走向の軸線が合致するものは少ない。掘削時期は不詳である。

6区13号溝(第449・451図、P L 71・131)

位置 350—290(南端)、365—300(北端)
重複 東山道駅路南溝と重複する。自然流路との前後関係は不詳である。

形状 6—I・II区の南側部分、自然流露の東縁辺に沿うようにして検出された。西側、法面の下位側に14号・15号が位置している。検出された走長さは20.06mであるがさらに北方向に延びていたものと考えられる。断面形は浅い凸レンズ状を呈しているが、上層からの削平を受け、掘り込みの最下部のみが残存、検出されたためと考えられる。その規模は、上幅0.46から0.66m、下幅0.22から0.34m、深

さ0.14mである。

走行方位 N—36°—W(南側)、N—47°—W(北側)
埋没土 暗褐色土が堆積していた。流水の有無は確認されていない。

遺物 埋没土中から器種不明の土器、甕1が出土している。

所見 性格、掘削時期は不詳である。

6区14号溝(第449図、P L 71)

位置 350—285(南端)、375—315(北端)

重複 重複関係は認められない。

形状 6—I・IIの南側部分、自然流路の東縁辺に沿うようにして検出された。南半部分は、約0.5mの距離を隔てて、東側の13号溝に平行するような走向を取っている。13号溝との前後関係は不明である。—300ラインの東側、370ラインの南側で一端途切れている。370ライン以北は23.92mを検出している。総走長は43.17mである。断面形は凸レンズ状を呈するが、これは掘り込みの最下部のみが残存、検出されたためであろう。その規模は上幅0.32から0.58m、下幅0.18から0.32m、深さ0.17mである。
走行方位 N—37°—W(南側)、N—15°—W(北側)
埋没土 暗褐色土が堆積していた。流水の有無はされていない。

遺物 遺物は検出されていない。

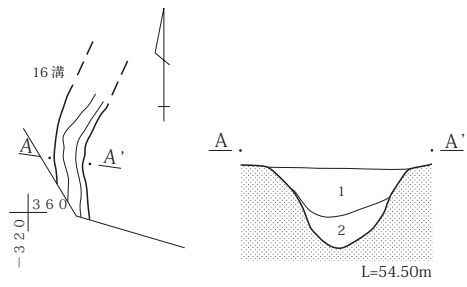
所見 性格、掘削時期は不詳である。

6区15号溝(第449・451図、P L 71・131)

位置 355—295(南端)、380—320(北端)

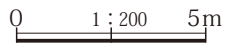
重複 重複関係は認められない。

形状 6—I・IIの南側部分、自然流路の東縁辺に沿うようにして検出された。途中に長い未検出部分を挟みながら3箇所から検出された。これは上層からの削平を受けたためと考えられる。走長は16.98mである。断面形は凸レンズ状を呈するが、これは掘り込みの最下部のみが残存、検出されたためであろう。その規模は上幅0.62から1.10m、下幅0.58から0.78m、深さ0.19mである。



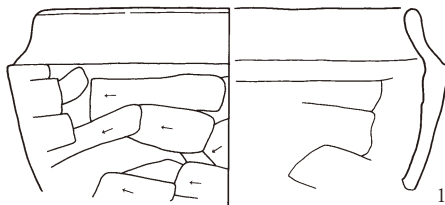
- 1 暗黄褐色土 粘質。下層に砂(10%)があり、ロームブロック(径10～50mm)を30%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 2 灰白色土(灰オリーブ) 粘質。砂が均一に20%混入しているが、粘性がある。

断面 = 1 : 40

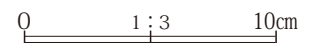
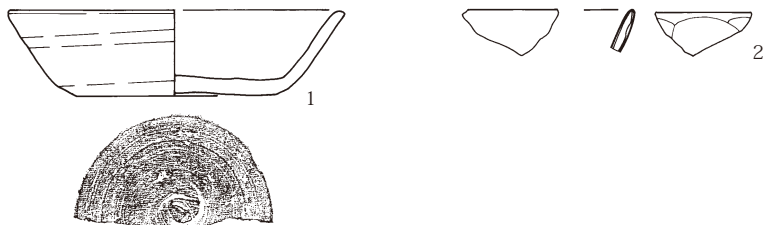


第450図 2面6区溝22 16溝

13号溝



15号溝



第451図 2面6区溝出土遺物1 4 13溝15溝

走行方位 N—27°—W(南側)、N—57°—W(北側)
埋没土 暗褐色土が堆積していた。少量、砂粒の混入が記録されている。

遺物 埋没土中から出土遺物の中から須恵器杯1、青磁碗2を資料化した。2は混入品と考えられる。
所見 性格、掘削時期は不詳である。

6区16号溝(第450図、P L 71)

位置 360—315

重複 自然流路と重複するが前後関係は不明である。
形状 6—I・IIの南西側部分に位置する溝である。自然流路の西縁部分から検出された。走向は南北方向であるが、わずかに弧をなしていたようであるが検出された走長が3.28mであったため全体像は不詳である。断面形は逆台形が原形であったものと考えられる。規模は上幅から0.94m、下幅0.38m、深さ0.38mである。

走行方位 N—7°—W(南側)、N—30°—E(北側)
埋没土 上層に暗黄褐色土、下層に灰白色土が堆積している。下層には砂粒の混入が記録されているが流水の有無は判然としない。

遺物 遺物は検出されていない。

所見 性格、掘削時期は不詳である。

9 東山道駅路

東山道駅路南側側溝

概要 東山道駅路の側溝は遺跡の東端、6区の微高地上で検出された。南側側溝は総長27.88mにわたり検出された。その東端は調査区の境界際まで続いていた。調査区の東側には生活道が南北に通過しており、これを境界にそれ以东は大道西遺跡である。大道西遺跡においても2002(平成14)年度と2004(平成17)年度の調査で東山道駅路に伴う南北両側の側溝が検出されている。

6区の西側部分には北側から南側に向かって低地が延びており、その自然流路により駅路は削平・攪乱を受け、側溝の掘り込みを確認することはできな

かった。6区の西側に位置する4区も6区同様の地形であったため6区で検出した南側側溝の延長先を検出することはできなかった。

南側側溝から北側方向へ12.9mの位置には南側側溝と平行するように北側側溝が掘削されていたと考えられる。しかしながら、この部分には6区3号溝が掘削されていた。3号溝の走行は北側側溝の走行をそのまま踏襲しており、なおかつ3号溝の掘削深度が北側側溝を上回ったため、北側側溝はその全てが3号溝の掘削により失われていた。

路面については攪乱、削平を受けており情報を得ることはできなかった。

位置 355、360—265～290

重複 13号溝、14号溝に先出する。

形状 検出された南側側溝は一続きの溝ではなく、途中がとぎれた4つの掘り込みとなって検出された。これは掘削時当初の底面の深さが一定でなかったために、底面の浅い部分は検出時に既に削平を受けてしまった結果と考えられる。ここでは調査時の呼称に従って東側から南溝1・2と個々の掘り込みを呼称して報告を行う。

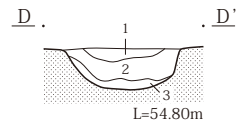
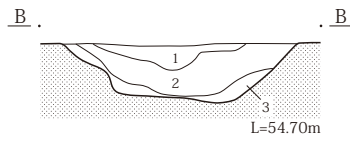
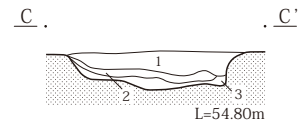
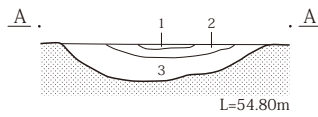
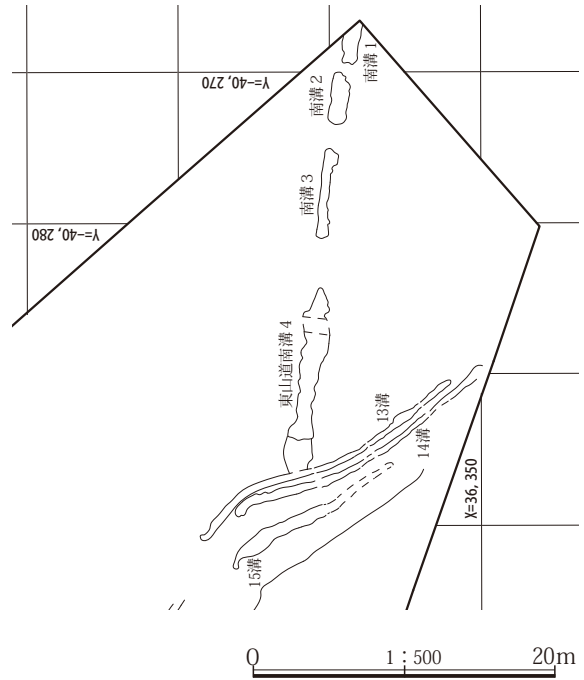
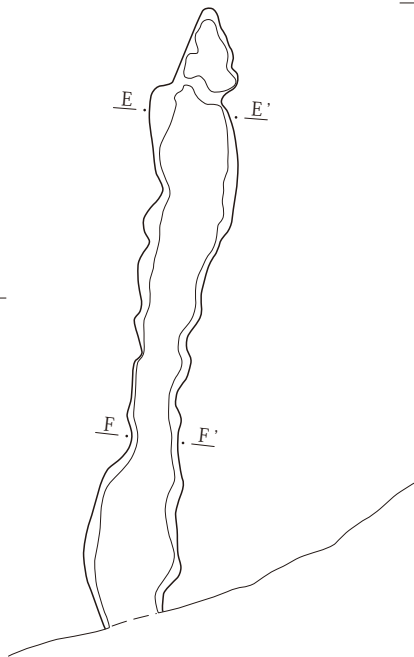
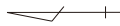
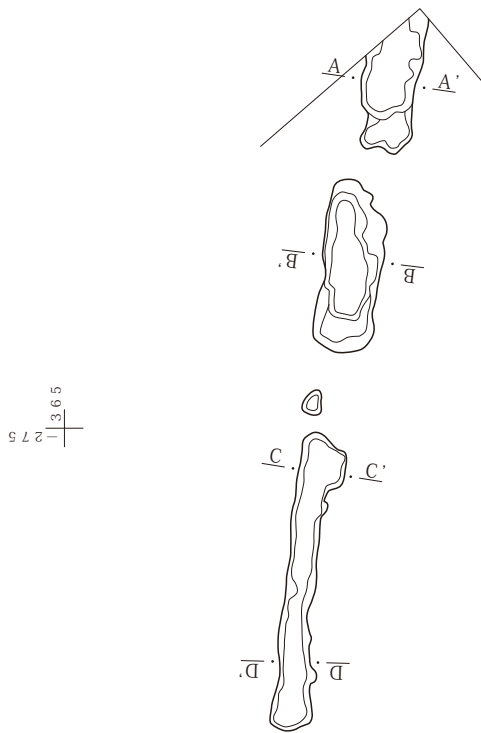
南溝1は東側部分が調査区域外におよんでいた。規模は、残長2.68m、最大上幅1.08m、下幅0.84mである。底面は東側がより深い。深さは20cmを測る。横断面形は北側が傾斜強く、南側が傾斜弱く立ち上がる。

南溝2は長さ3.48m、最大上幅1.32m、下幅0.68m、深さ28cmを測る。横断面形は斜め上方に向けて立ち上がる壁面が認められた。

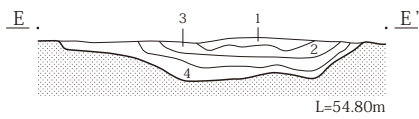
南溝3は両端が幅広くなる形状であった。長さ5.98m、上幅0.56～0.88m、下幅0.36～0.58m、深さ10cmを測る。底面の凹凸は南北2列の列をなすように見えるが溝掘削時の工具痕とまでは断定できないものである。南溝2との間にピット状の掘り込みがみられるが、これも溝の底面の一部であろう。

南溝4は長さ10.11m、上幅0.88～1.68m、下幅0.68～1.32m、深さ29cmを測った。

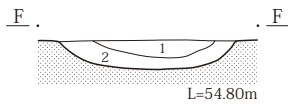
南溝1から4の走行を計測するとW—5°—Nか



- 1 黒褐色土 白色軽石極少量含む。炭化物極少量含む。
- 2 黒褐色土 白色軽石少量、ローム土少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。



- 1 褐灰色土 粘質土(攪乱か?)
- 2 黒褐色土 白色軽石極少量含む。炭化物極少量含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石少量、ローム土少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。



- 1 黒褐色土 白色軽石少量、ローム土少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。

断面 = 1 : 40

第452図 2面6区東山道駅路側溝

らW-8°-Nの間でわずかながら差が生じている。残存部分からの計測である点を考慮しても、側溝の両端は一直線に結ばれるものではなく、北方向に弱く弧をなしていたことが考えられる。

底面の標高は南溝1で54.41m、南溝4で54.53mである。

埋没土 南溝1から4までいずれも共通して、上層・中層に黒褐色土、下層に暗褐色土が堆積していた。遺物 埋没土中から土器片が出土しているが資料化するに足るものはなかった。

所見 本遺構については隣接する大道西遺跡、大道東遺跡で検出した同様の遺構との比較により東山道駅路に伴う南側の側溝と考えられる。

大道西遺跡の調査においては竪穴住居との重複関係が、6世紀後半の住居の掘り方を切って側溝が掘削されている。その側溝は8世紀後半に構築された住居に削平を受けていることから、この時期には既に使用が中止されていることが明らかとなっている。本遺跡の調査においては掘削時期、その後の経過、廃絶時期などについて把握することはできなかった。

10 5区・6区自然流路

位置 5区、6区の南西部分

形状 6区2面の調査において、調査区の南西部分で自然流路を検出した。その範囲は調査区の約3割から4割に相当するものである。この流路の痕跡は中・近世の遺構確認面である1面調査の際にすでに谷地状の凹地として確認できる状態にあった。東側の3号、4号溝を検出した確認面とは0.75から1mの比較差があった。

この流路の立ち上がりは、東側縁辺については南端を350-290グリッド内に、北端を410-340グリッド内に置き、その間は上端、下端ともに検出することができた。しかし、西側縁辺については調査区西側の境界と重複する状況となり、360-320グリッド周辺で上端、下端を検出しただけでその他は下端の

検出のみにとどまった。

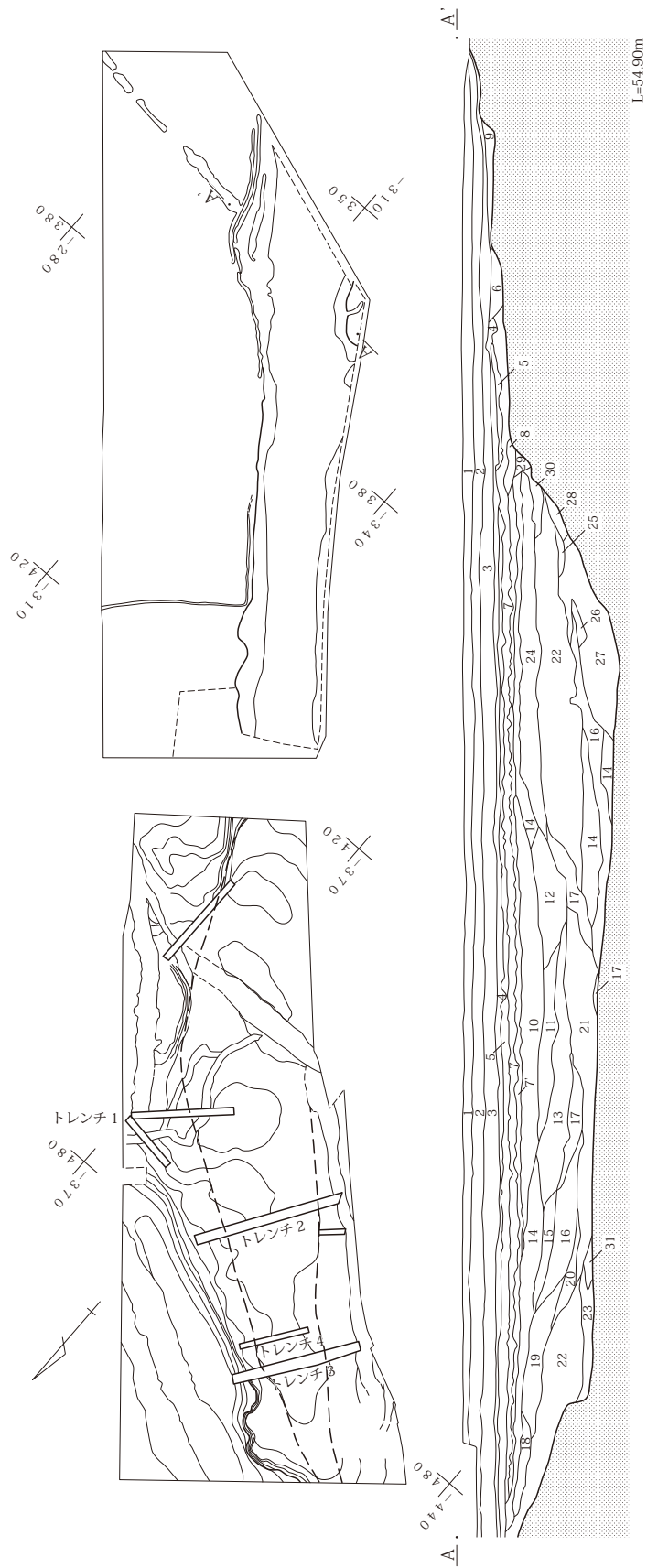
6区調査区内における規模は検出長83.4mである。360-300～310グリッド内における上幅は約14m、下幅9.2mである。底面は幅広い平坦面を有している。下幅は8.2から9.4mを測る。底面の標高は北端で52.90m、南端で52.20mである。全体にわたり極端な凹凸は見られず、南方向に向かって徐々に下がっていた。東側縁辺の残存高は360-290グリッド内で1.65m、410-340グリッド内で1.80mである。走向方向はN-39°-Wである。多少の出入りはあるもののほぼ直線に近い走向状況である。

6区の状況を受け、5区の調査においては流路全体の検出を行わず、5箇所にトレンチを設定して、流路の走向、幅、深さ、埋没土の堆積状況を確認した。

5区においても本流路の埋没した痕跡は、2面遺構確認面上の等高線の状況に反映されていた。等高線の状況からは5区北端の490-425グリッド付近からさらに西北方向、調査区域外に流路が延びていることが想定された。平面的な規模については明確に把握することが困難であったが、5区の南側寄り部分においては6区北端で検出したのと同様の規模を有していたものと考えられる。走向は6区で検出した部分が比較的直線を指向していたのに対し、5区では東側に弧をなし、緩やかな曲線を描いていたものと考えられる。

埋没土 6区谷地ベルト2（調査時の呼称、プラントオパール分析の報告では大溝セクション2と呼称）における観察によれば、深さ2.2mの堆積土の上面から70cm程下位の位置に5層浅間B軽石がほぼ水平に堆積していた。注記には純層に近いがピンク色の灰層が認められないとある。この層の下位には7層黒色粘質土、黒色粘質土と褐色土との混土層である7'層暗褐色土が堆積していた。両層とも水平に近い堆積状態である。

暗褐色土より下位の層、約150cmについては褐色土、暗褐色土、灰褐色土、灰黄褐色土がレンズ状に堆積していた。いずれの層も度合は異なるものの、砂粒、礫を混入している。21層、25層、27層は直径



- 1 暗褐色土 砂質。ローム粒(径1mm)を均一に30%混入。白色軽石(径1mm)を均一に10%混入。
- 2 暗褐色土 砂質。ローム粒(径1mm)を均一に20%混入。白色軽石(径1mm)を均一に20%混入。
- 3 暗褐色土 砂質。2層より砂が多く、ロームブロック(径5~10mm)を均一に10%混入。
- 4 暗褐色土 As-B混土。5層よりAs-B軽石が少くない。
- 5 灰褐色土 やや砂質。砂と小礫(径10mm)が層状に堆積している。ローム粒(径1mm)を均一に混入。
- 6 暗褐色土 As-B混下黒ネバ層
- 7 暗褐色土 粘質。7層と褐色土の混土。
- 7' 暗褐色土 粘質。
- 8 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10~30mm)を少量20%混入。
- 9 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10~30mm)を少量20%混入。
- 10 褐色土 やや粘質。砂の混入が多く、パサパサしている。白色軽石(径1mm)少量混入。
- 11 暗褐色土 砂質。砂が主体で、小礫(径1~3mm)を多量に40%混入し、褐色土との混土。白色軽石(径2mm)を少量10%混入。
- 12 暗褐色土 砂質。砂に白色軽石(径1~10mm)を均一に混入。
- 13 暗褐色土 砂質。砂が多く、小礫(径1~5mm)も混入。白色軽石は混入していない。
- 14 暗褐色土 粘質。粘質が強く、炭化物(径5mm)を少量混入。
- 15 暗褐色土 粘質。粘土に砂が20%混入。白色軽石(径1mm)微量混入。
- 16 暗褐色土 粘質。粘土が主体で下層に白色軽石(径5mm)を少量混入。炭化物(径5mm)を少量混入。鉄分の沈着が多い。
- 17 灰褐色土 粘質。15層より砂の混入が少ない。
- 18 暗褐色土 粘質。ロームブロック(径10mm)を均一に10%混入。炭化物(径5mm)も少量混入。
- 19 暗黄褐色土 粘質。砂と白色軽石(径1mm)が少量混入。
- 20 暗黄褐色土 粘質。砂と粘土の混土で砂がやや多い。
- 21 灰褐色土 礫層。東山道に切っっている大溝の底部と考えられる。この礫層から9c末~10cの須恵器が多数出土している。小礫(径10~50mm)が主体。
- 22 灰黄褐色土 19層より粘性が弱く、砂っぽい。
- 23 灰黄褐色土 22層より砂の混入が多い。
- 24 灰黄褐色土 14層と22層の漸移層。
- 25 灰黄褐色土 礫層。小礫(径10~50mm)が70%主体で、残りは暗黄褐色土。
- 26 暗褐色土 砂層。
- 27 灰褐色土 礫層。小礫(径10~60mm)が主体。
- 28 灰白色 As-Y Pの2次堆積層。
- 29 黒褐色土 やや粘質。
- 30 不明
- 31 不明

断面 = 1:120
0 1:1000 50m

第453図 2面5区6区自然流路

1から5・6cmの礫の堆積層である。これらの土砂・礫が水流を伴い運搬、堆積されたものであることが分かる。

なお、第3章第2節の分析結果の報告によると、浅間B軽石直下の黒色粘質土中におけるプラントオパールを検出状況から浅間B軽石直下層では稲作が行われていた可能性が指摘されている。調査においては面的に水田面を検出するにはいたっていない。

5区の各トレンチでは6区で見られた埋没土上・中位の土層が削平のためか存在せず、確認面直下に浅間B軽石を混入する灰褐色土が堆積していた。—360ラインに設定したトレンチでは確認面から底面までの深さが0.9mである。暗褐色土や褐色土が20から30cmの厚さで堆積、混入物により、砂質の層と粘質の層が見られた。トレンチ1では底面までの深さが1.1m、砂質の暗褐色土が20cmほどの厚さで複数層堆積していた。トレンチ2では底面までの深さが0.9から1mであった。最上層で確認された黒褐色粘質土は6区で見られた浅間B軽石層下の黒色粘質土と同じ層であろうか。下層には暗褐色の礫や砂層が堆積していた。に・3では黄褐色土の堆積が顕著であった。トレンチ3は底面までの深さが0.9mである。土層の観察から東側から西側に向かって堆積が進行していったことがうかがえた。トレンチ4は、底面までの深さが1.5mであった。最上層に黒色粘質土が堆積、下位には礫・砂粒が堆積していた。遺物 6区の370ラインに設定した谷地ベルト2では底面中央の最下層の灰褐色礫層中からは9世紀末から10世紀代の須恵器が多数出土したとの観察所見がある。ここでは6区の流路内からは遺物の中から比較的残存状況が良好であった資料、稀少資料を取り上げる。内訳は須恵器杯1から11・13の12点、椀13、皿14・15、土師器甕16、瓦塔17から19、鉄釘20、土製紡錘車21である。これらとともに古墳時代の土師器も多数出土している。

1から11と13は須恵器杯である。1～7は口径に対して底径を有する形状を呈している。底部調整は6・7が器面の摩耗のため不明瞭で有る他は、1・

3が糸切り離し後周縁部にヘラケズリを施している。2は回転を伴うヘラ切りである。8から11は底部の調整が回転糸切り後底部未調整である。13はやや深みのある器形である。底部は糸切り離し後周縁部にヘラケズリを施している。内面に付着物が見られる。

13は須恵器椀である。14と15は須恵器皿である。14は380—325グリッドの出土で、器面に黒色の付着物が見られる。15は360—310グリッドの出土である。外面に成形時のロクロ目が明瞭に残る。

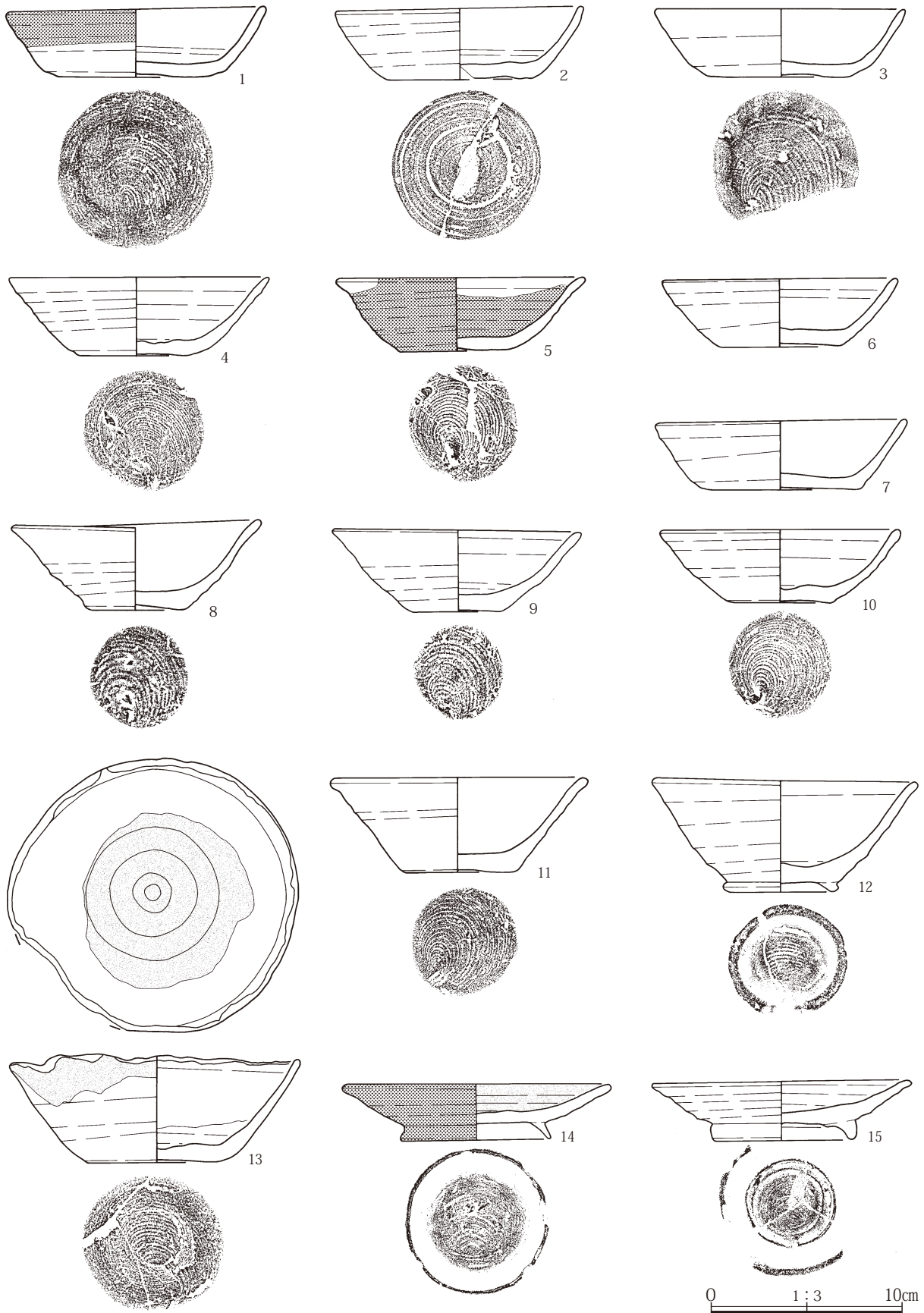
16は土師器甕である。440—330グリッドの出土である。口縁部はコの字状を呈する。脚台部が外れている。9世紀の所産と考えられる。

17から19はいずれも6区の調査区南西部分から出土したものである。19は360—305グリッド内出土で自然流路の東側縁辺寄り、17は365—320グリッド出土で自然流路の西側縁辺寄りからの出土である。18は370—320グリッドの出土である。

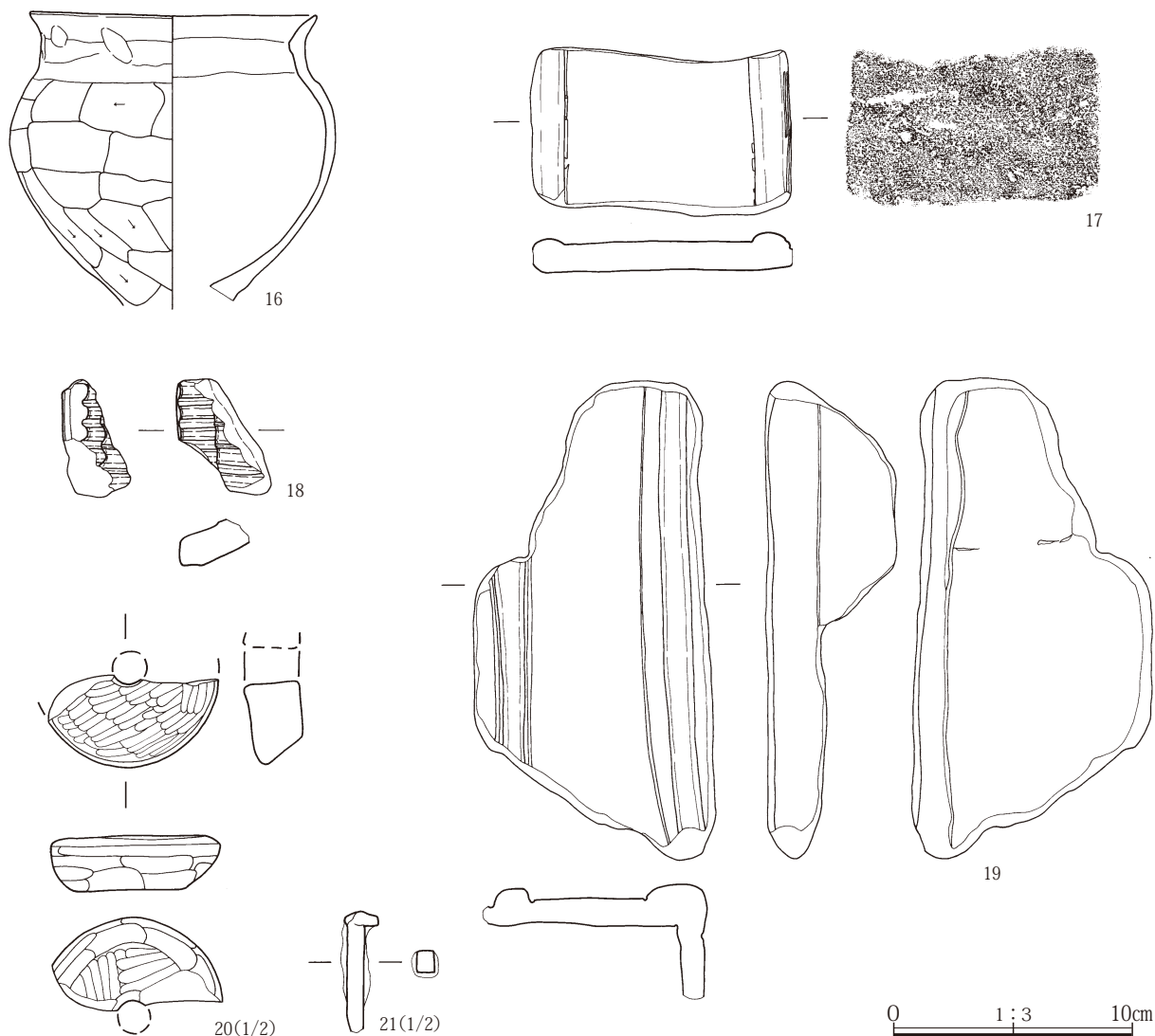
19は初層壁体部分の隅と考えられる破片である。隅部は外面に粘土帯が貼り足され、四柱状に肥厚している。柱間5cmを置き、内側寄りには縦方向に幅1.3cmの粘土帯が貼付され、柱の表現がなされている。帯の両側には細い沈線が沿っている。正面側の端部は開口部の可能性があるが、器面が摩耗しているためその判断を下すことが困難である。17は板状の破片である。19同様壁壁の一部を構成していたものと考えられる。残存部の両端に縦方向に貼付された粘土帯が認められる。2片とも割口を含む器面の摩耗が著しいが、内外面ともナデ調整が施されている。焼成は良好で、やや硬質である。18は屋蓋部軒先の小破片である。割竹状工具による丸瓦の表現が見られる。平安時代の所産と考えられるが詳細な製作時期については不明である。今回の調査においてはこの3片の他に本遺跡では5区17号溝から屋蓋部軒先の小破片が出土している。

21は鉄釘の上半部である。6区360—315グリッドの出土である。

20は土製の紡錘車で、6区355—305グリッド出土



第454图 2面5区6区自然流路出土遗物1 1-15



第455図 2面5区6区自然流路出土遺物2 16-21

である。残存は3分の1である。断面形は逆台形である。

所見 本流路は調査の過程においては大溝、あるいは谷地と呼称されていた。それが最終的な調査所見においては本報告の項目のように自然流路との認識となったものである。

5区、6区の調査区内からは平安時代の遺構の検出が少量であったにもかかわらず、本流路においては埋没土の最下層から9世紀から10世紀の土器をはじめとする多数の遺物が出土していることから、本流路が平安時代には豊富な水流を有する流路として存在していたことがうかがえる。このことは6区で

検出した8世紀後半には既に廃絶していたと考えられる東山道駅路の南側側溝が、本流路により削平を受けていることも整合するものである。ただし、いつの時点で検出したような流路となっていたのかについては断定することは困難であった。

また、埋没土の状況から浅間B軽石が降下した時点では東側の微高地との間には多少の段差が残存しており、流路の痕跡が残されていたものの、流路内の土砂の堆積はほぼ終了し、帯状の平坦面が形成されていたことが分かる。

11 遺構外出土の遺物

古墳時代の項でも述べたように、5区2面の調査においては調査区の北側部分を中心に遺物包含層の調査を行った。出土した遺物についてその平面、断面の位置を記録しながら取り上げを行った。この中から、当該時期の遺物についても遺物の残存状況を見ながら資料化を行った。

6区でも1面調査後、調査区の西側境界に沿ってトレンチを設定、下層の状況確認を行っている。このトレンチ内から出土した遺物は遺構外出土の遺物として資料化、掲載した。

なお、本項掲載資料の中には、3区から6区にわたることであるが、調査当初、竪穴住居や溝、土坑に帰属するものとして取り上げた資料の中で、整理作業を進める過程において遺構の内容を検討した結果、帰属していた遺構そのものについてその認定を除外したことから遺構外出土の遺物として資料化したものが一部含まれている。

(1) 土師器

1から10は土師器である。1の杯は旧3区5号住居に帰属していたものである。内面に棒状工具によるミガキが見られる。2は杯である。3から6は甕である。3は旧4区21号住居、5は旧3区13号住居、6は旧3区35号住居の出土である。7は旧4区17号住居の出土である。8は5区485-410グリッドからの出土である。扁平な形状を呈する。口縁部下半と底部外面にヘラケズリを施す。8は台付甕である。5区455-370グリッド、26号溝の掘り方に近接しての出土である。9は旧3区50号住居の出土の台付甕である。コの字状口縁を呈する。

(2) 須恵器

11から42は3区出土の須恵器である。11から29・32は杯である。

20・28・31・32を除いた個体は住居からの出土として取り上げられたものである。当初の出土位置については遺物観察表を参照願いたい。20は440-525

グリッド、28は465-505グリッド、31は455-505と460-505グリッドの出土である。

これらの資料は、全体的に口縁部の立ち上がりは短く、口径に比して底径の大きな形状である。底部はいくつかを除いて回転糸切り離しで未調整の個体が多い。13は底部の摩耗が著しくて成形が不明瞭である。25は周縁部にナデが加えられているようである。31も同様である。12は旧3区35号住居からの出土である。口径が他の個体より小さく、斜め外方に向かって立ち上がっており、時代が新しくなる可能性もある。28はは深みを有する器形である。口縁部の外面に墨書が記されているが判読することができなかった。内面は黒色処理が施されている。

27は黒色土器の杯で内面に棒状工具によるミガキが施されていた。32は内面に棒状工具によるミガキが施されている。底部はヘラ調整が施されている。

31は鉢の下半部が残存していた。底部は糸切り離し後、周縁部にナデを加えている。

30・33・36は椀である。30は旧67号住居、33は50号住居、36は旧13号住居からの出土である。30・33は低い高台部が貼付されている。

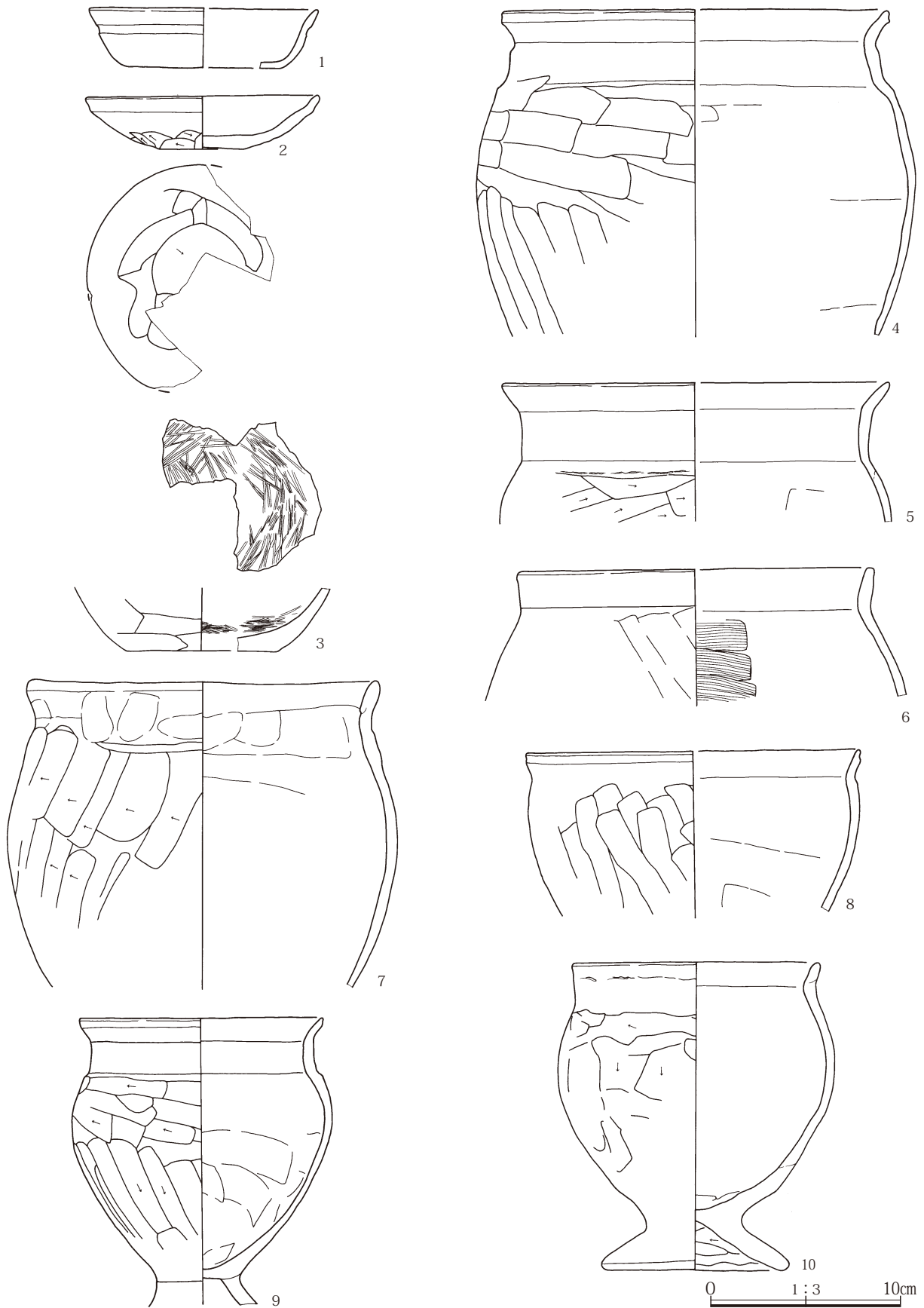
34・35・40・41は皿である。34は旧37号住居、35は旧19号住居、40・41ともに旧50号住居からの出土である。35はみこみがほとんどなく、横方向に延びている。

37・38は蓋である。37は旧37号住居、38は旧19号住居からの出土である。ボタン状のつまみが付き、端部は短く折れている。

39は455-500グリッド出土の高杯の脚部である。

42は旧51号住居出土の須恵器胴部の大型破片である。二次利用の痕跡は判然としない。

43~63・65~69は4区出土の須恵器である。43から54は杯である。45は435-440グリッド出土である。底部に手持ちヘラケズリを施している。54は370-340グリッドの出土である。口縁部の立ち上がりは短く、底径を有する器形である。底部は回転ケズリである。48・49・52は口径に比して底径が小さく、口縁部が斜め上方に向かって立ち上がる形状であ



第456図 2面遺構外出土遺物1 土師器1-10

る。

55から62は椀である。60・61は440-445グリッドからの出土であるがその他は旧住居に帰属していたものである。57は口縁部が内彎ぎみに立ち上がる形状であるが、その他は口縁部が斜め上方に向かって立ち上がるもので、低い高台部が貼付されている。

63は旧10号住居の出土である。瓶の肩部にあたる資料である。65は10号住居の出土の壺あるいは瓶である。低い高台部が付き、胴部最下位にはヘラケズリが加えられている。

64は旧19号住居に帰属していた羽釜の口縁部破片である。66は旧10号住居出土の鉢の底部破片である。

67・68は耳皿の破片である。67は4区の出土であるが詳細な出土地点は不詳である。器面は著しく摩耗している。底部に焼成後の穿孔が見られる。68は旧17号住居からの出土である。

69は器種不明の棒状破片である。365-345グリッドの破片である。

70は双耳杯の耳部破片である。450-460グリッドの出土で、同地点には60号住居をはじめ複数の住居が位置していた。

71から76は5区出土の須恵器である。

71から74は杯である。485-420グリッド、調査区西端に設定したトレンチ内からの出土である。72は470-410、470-420グリッドからの出土である。73は490-420グリッド、西端トレンチ内からの出土である。74は旧29号溝からの出土である。72・73が底部にヘラ調整が施されている。残りの2点は糸切り離しである。

75は椀である。480-425グリッド、西端トレンチ内からの出土である。

76は須恵器短頸壺である。480・485-425グリッド、西端トレンチからの出土である。胴部の最下端にはヘラケズリを重ねる。底部は回転を伴う糸切り離し後未調整である。

77は羽釜である。375-305と365-310グリッドから出土した破片が接合したものである。口縁部直下には羽釜と同様の鏝が付く。

(3) 灰釉陶器

今回の調査では竪穴住居内から杯・皿・瓶等の資料が出土している。出土遺物総体の中に占める割合は概して低いものである。本項では個別遺構の中で報告したもの以外で重要と考えられる個体、8点について資料化・報告を行う。

78は1区表土層出土の皿である。高台部は崩れた三日月高台で、施釉方法は漬掛けである。79は3区465-485グリッド出土の皿である。三日月高台で、施釉方法は漬掛けである。80は3区465-485グリッド出土の耳皿である。口縁部の反りの部分は残存していない。同グリッドには30号住居をはじめ6軒の住居が重複していた。81は4区460-435と460-450グリッド出土破片が接合したもので、器種は折縁皿である。器面全体に釉が施されている。同地点には11号住居が位置している。82は椀である。旧4区10号住居の帰属であった。施釉方法は漬掛けである。

83は4区12溝埋没土内、440-450、450-450グリッド出土の5片が接合した長頸瓶である。同地点には8号住居が位置している。84は4区440-450グリッド出土の瓶と考えられる。同地点には8号住居が位置している。断面台形の低い高台が付く。

85は椀の下半から高台部である。旧4区10号住居の帰属であった。内面に重ね焼きの痕跡が見られる。

86は瓶の底部付近である。低い高台が付く。旧4区17号住居の帰属である。87は4区425-435グリッド出土の瓶と考えられる。

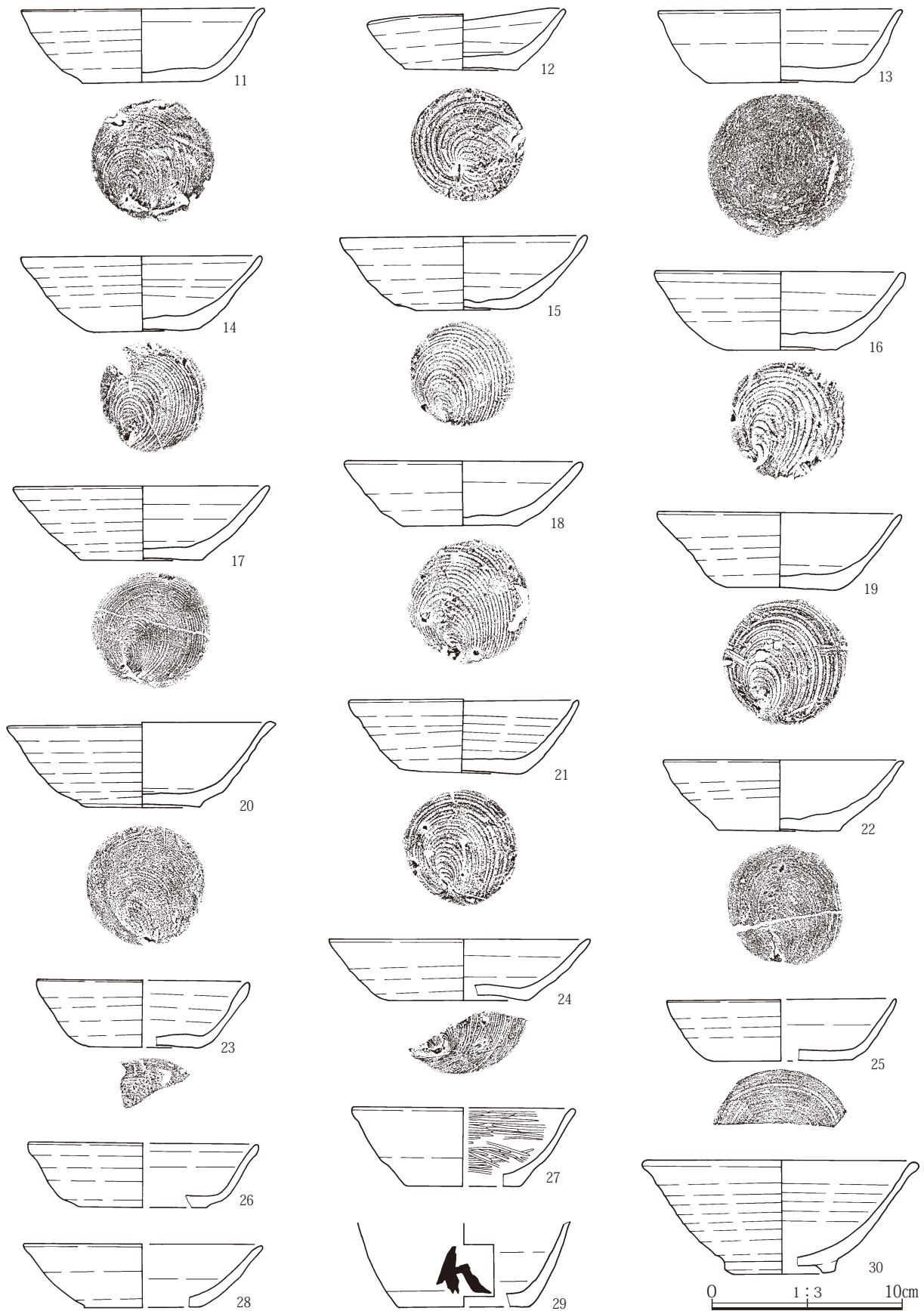
88は4区465-470グリッド出土の小瓶である。

89は5区480-425グリッド出土の長頸瓶である。頸から肩部が残存する。

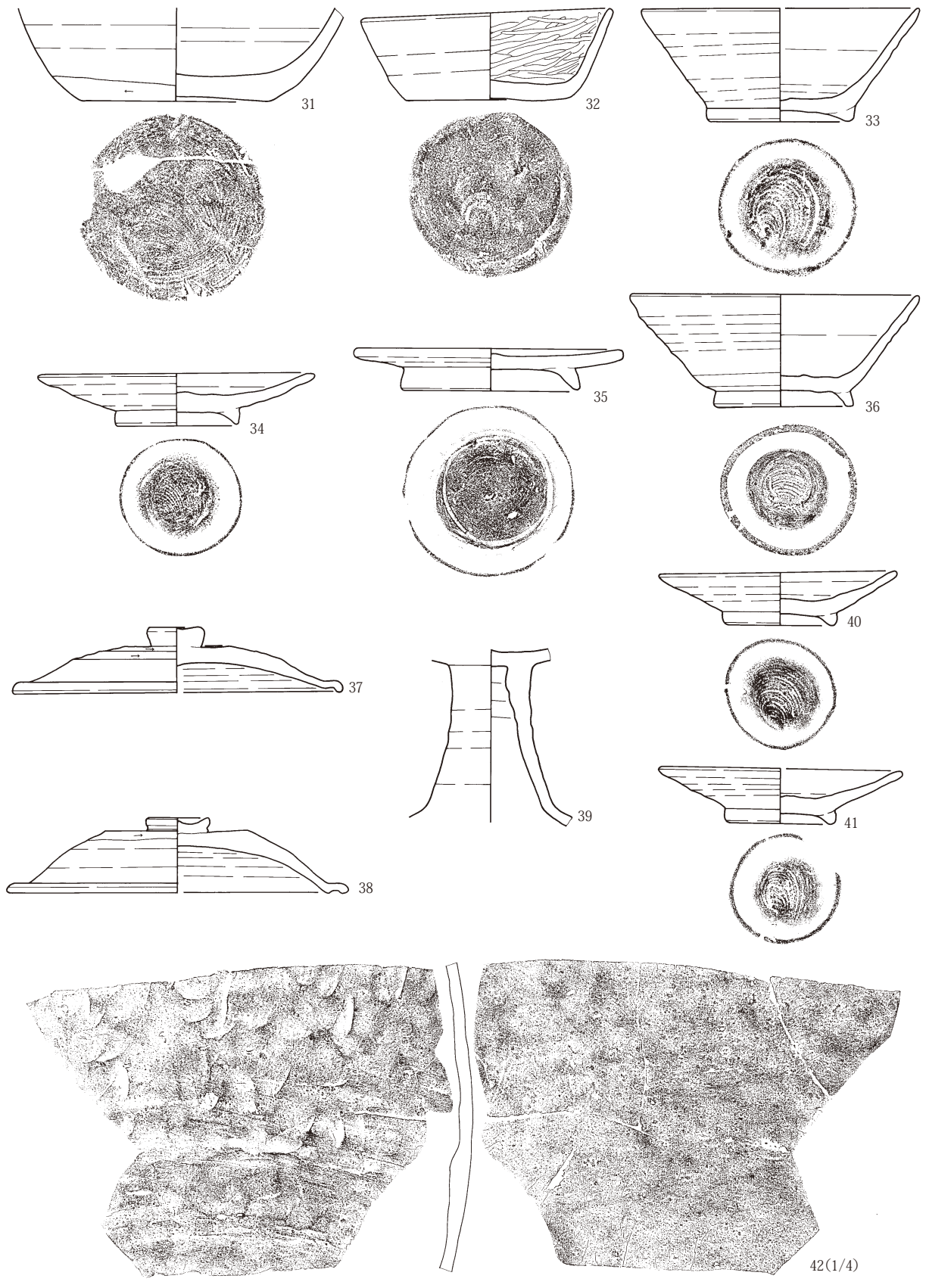
90は皿である。出土地点は不詳である。高台部は三日月高台が崩れてのものである。施釉は漬掛けで、口縁部上半の狭い範囲に釉が見られる。

胎土は88と89が類似、黒色鉱物が発泡、器面に付着している。

製作年代は、80・88は不詳、81は光ヶ丘1号窯式期の古い段階、それ以外は大原2号窯式期およびその平行期にあたる。

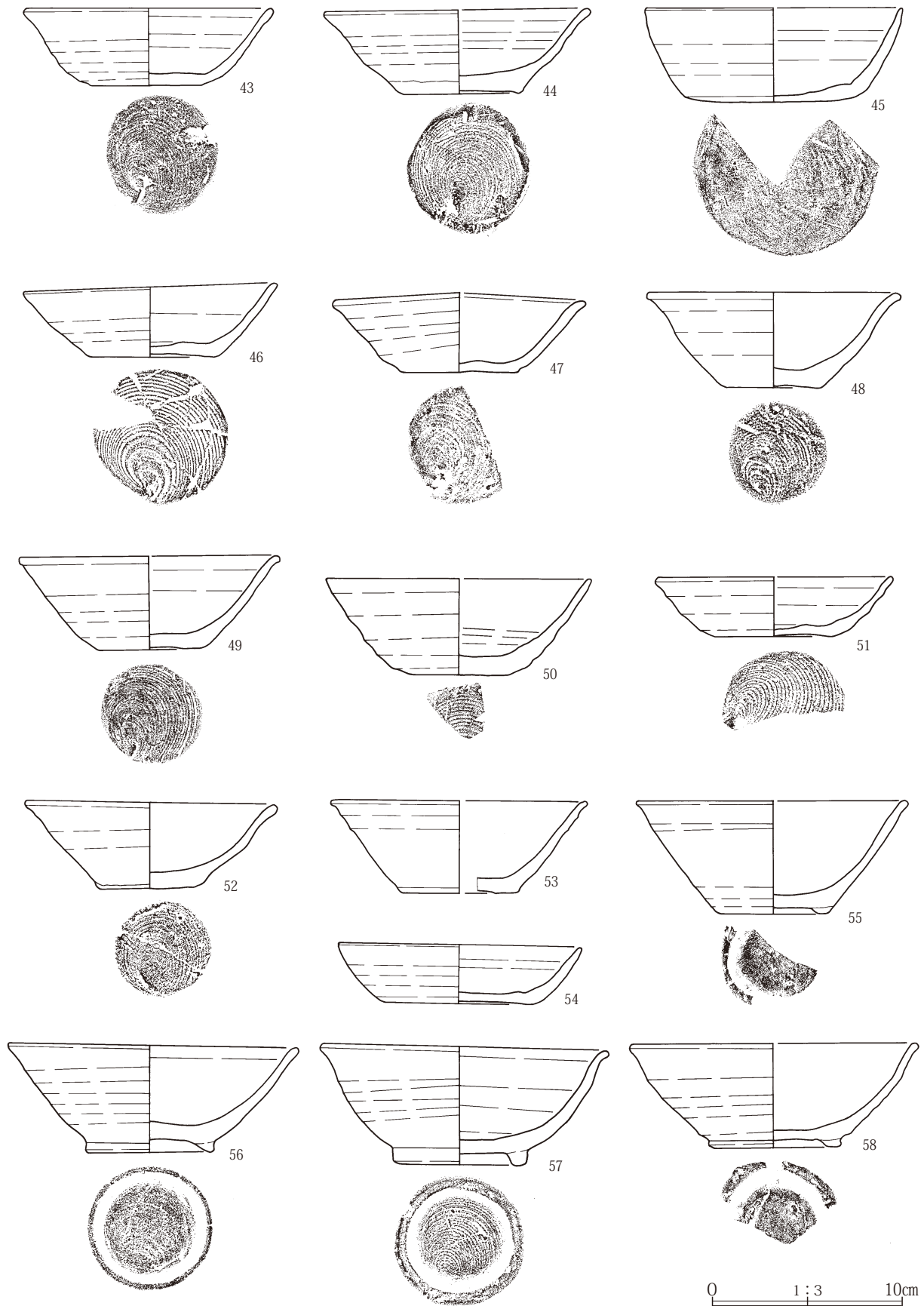


第457図 2面遺構外出土遺物2 須恵器11-30

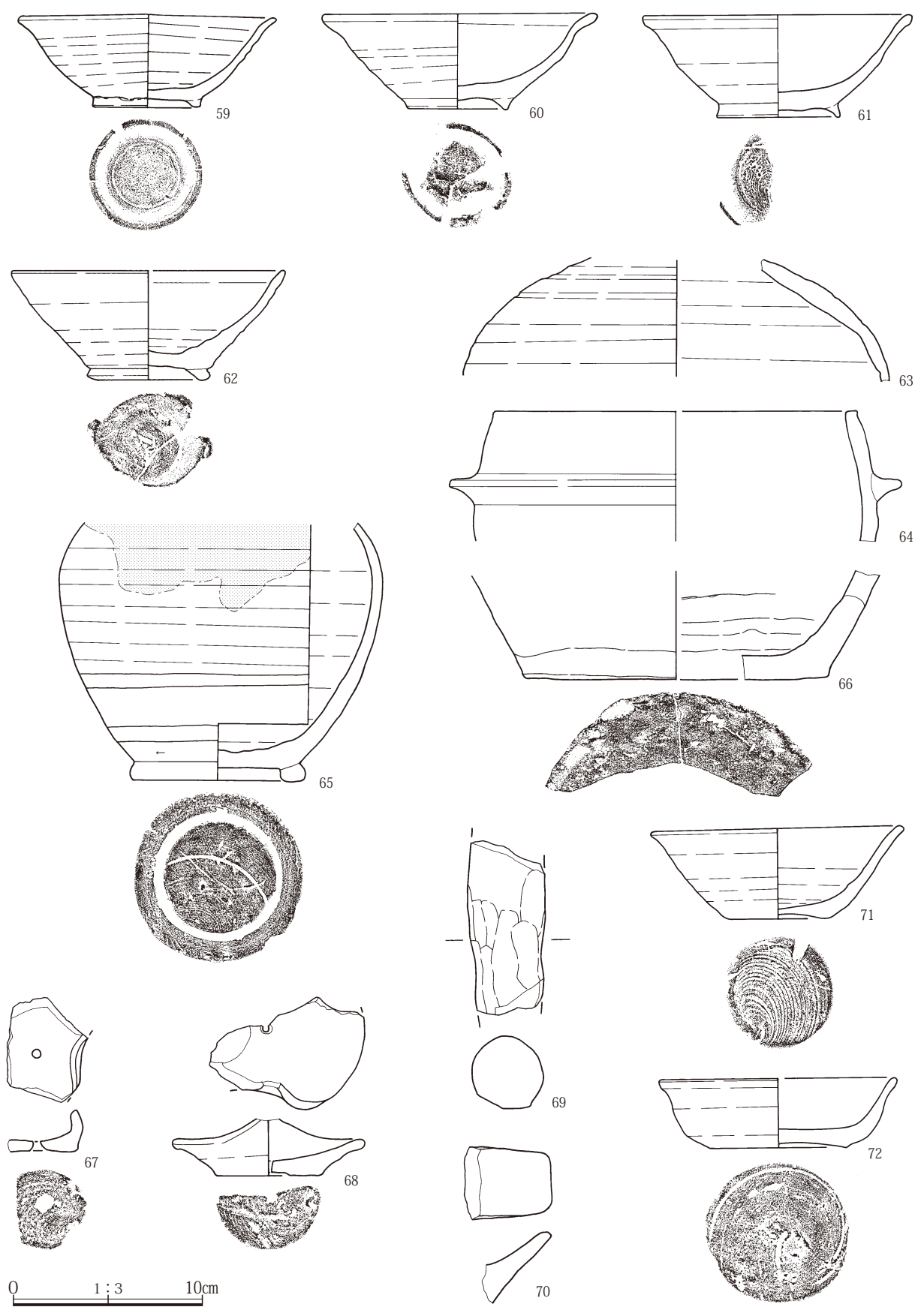


0 1:3 10cm

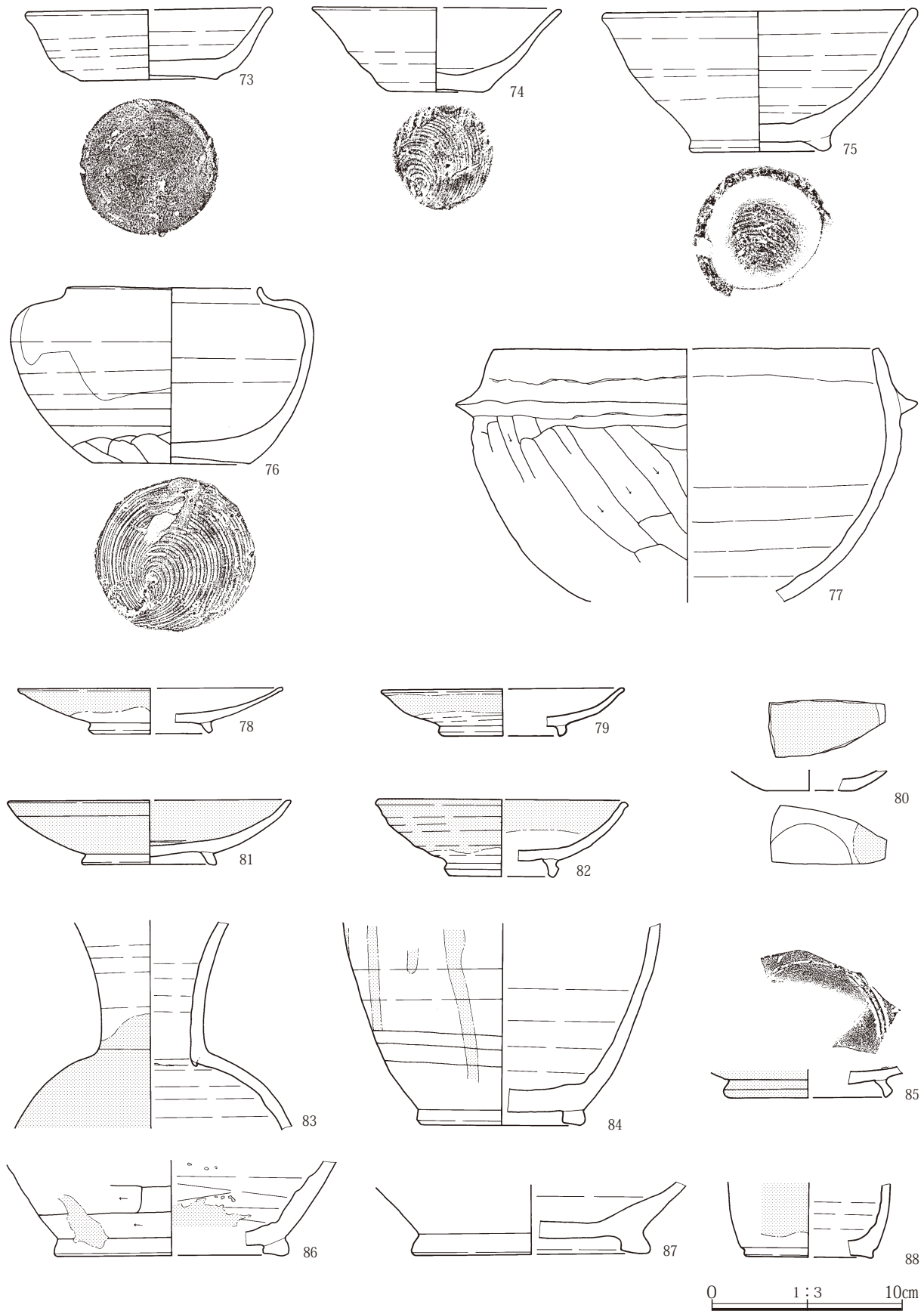
第458図 2面遺構外出土遺物3 須恵器31-42



第459図 2面遺構外出土遺物4 須恵器43-58



第460図 2面遺構外出土遺物5 須恵器59-72



第461図 2面遺構外出土遺物6 須恵器-灰釉陶器73-88

(4) 奈良三彩

91は端部が花卉形を呈する器種不明品である。4区出土であるが詳細な出土位置については不詳である。本遺跡からは本資料の他に3区6号住居から小壺の蓋つまみが、3区83号住居から小壺蓋の破片が出土している。

(5) 瓦

本遺跡の調査においては竪穴住居をはじめとした諸遺構内から少量ずつ瓦が出土している。これらは他所の瓦葺き建物で使用されていたものが搬入されたものと考えられる。中には竈の補強材として使用されているものも含まれていた。

3区出土事例は調査区南東隅寄りからの出土である。4区出土事例は4-1区からの出土である。

97は素弁八弁蓮華紋軒丸瓦の瓦頭面の破片である。残存は瓦面の3分の2程である。3片に細片化され、1区と3区の3地点から出土したものが接合した。1区では515-595グリッドから出土している。3区では450・455-515・520グリッドに位置する58号住居から1片、450-520グリッドから1片が出土している。

器面は摩耗が著しい。火熱を受けており、炭素が吸着している。外区は全て欠損しており、面径の残存は12.4cmである。瓦当厚は中房で2.0cmである。中房の直径は2.8cmである。器面は剥離しており、蓮子、十字文のいずれかが置かれているのかは不明である。内区の蓮弁は輪郭線で囲まれており、それぞれが独立して中房に付いている。これらも剥離・摩耗のため形状の詳細については不明である。間弁は中房に向かう部分が長い三角形である。

文様の特徴から8世紀前半ころの製作と考えられる。

1区出土の92、3区出土の93・95・96・98・99、4区出土の100・102・103は平瓦である。いずれも小破片である。92は器面が摩滅しているが裏面はナデを施している。99も裏面にナデを施すが、表面には布目痕が見られる。100は表面の一部に布目痕を

残しながら糸切痕が重なって認められる。その他は表面に布目痕、裏面にハケメが施されている。

94は3区450-510グリッドからの出土である。当該グリッドには76号・82号住居が存在している。当初は「磚」と認識していたが無文の道具瓦、鬼板(瓦)である可能性も出てきた資料である。

4区出土の104は平瓦、101は丸瓦である。片面に布目痕、もう片面にナデ調整が認められる。

(6) 瓦塔

107は3区455-495グリッド出土の板状残片である。瓦塔内部の補強材の可能性を考えたいが断定することはできない。

(7) 紡錘車

本遺跡の調査においては竪穴住居内から14点の紡錘車が出土している。ここでは遺構に伴わない3区出土の土製紡錘車4点、4区出土の石製紡錘車1点を掲載した。

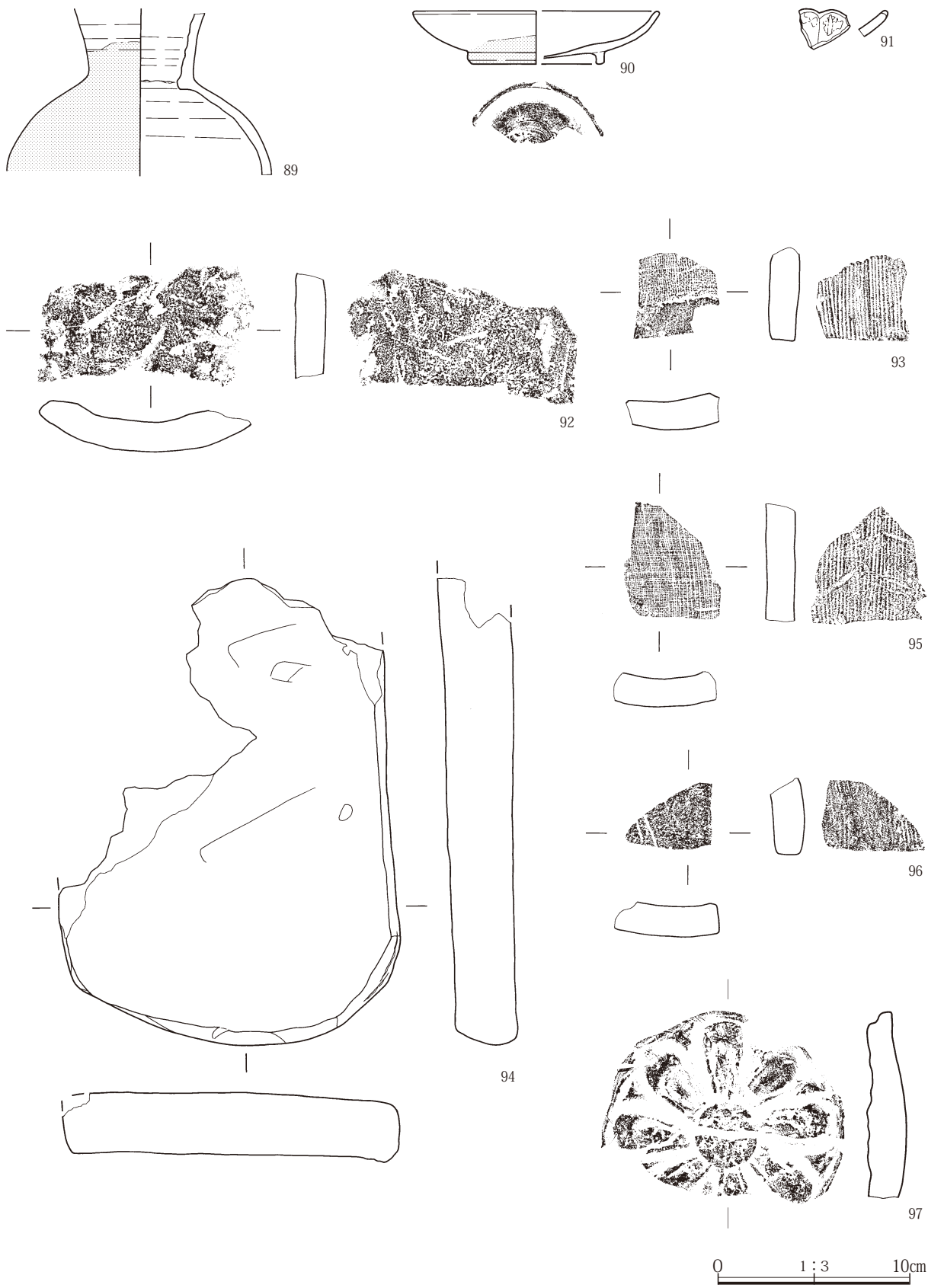
108は3区465-520グリッド出土である。周囲には55号・56号住居などが存在している。土製品で、残存は3分の1弱で、厚さ1.5cmである。断面形は逆台形である。側面にヘラ状工具による線刻が施されている。

109は3区445-515グリッド出土である。このグリッドには34号住居が位置する。土製品で、残存は4分の1である。断面形は厚みの有る逆台形である。厚さは2.5cmを測る。平滑に仕上げたように見える器面には、側面、表裏面に直径1mm程の七魚子状の刺突文が見られる。

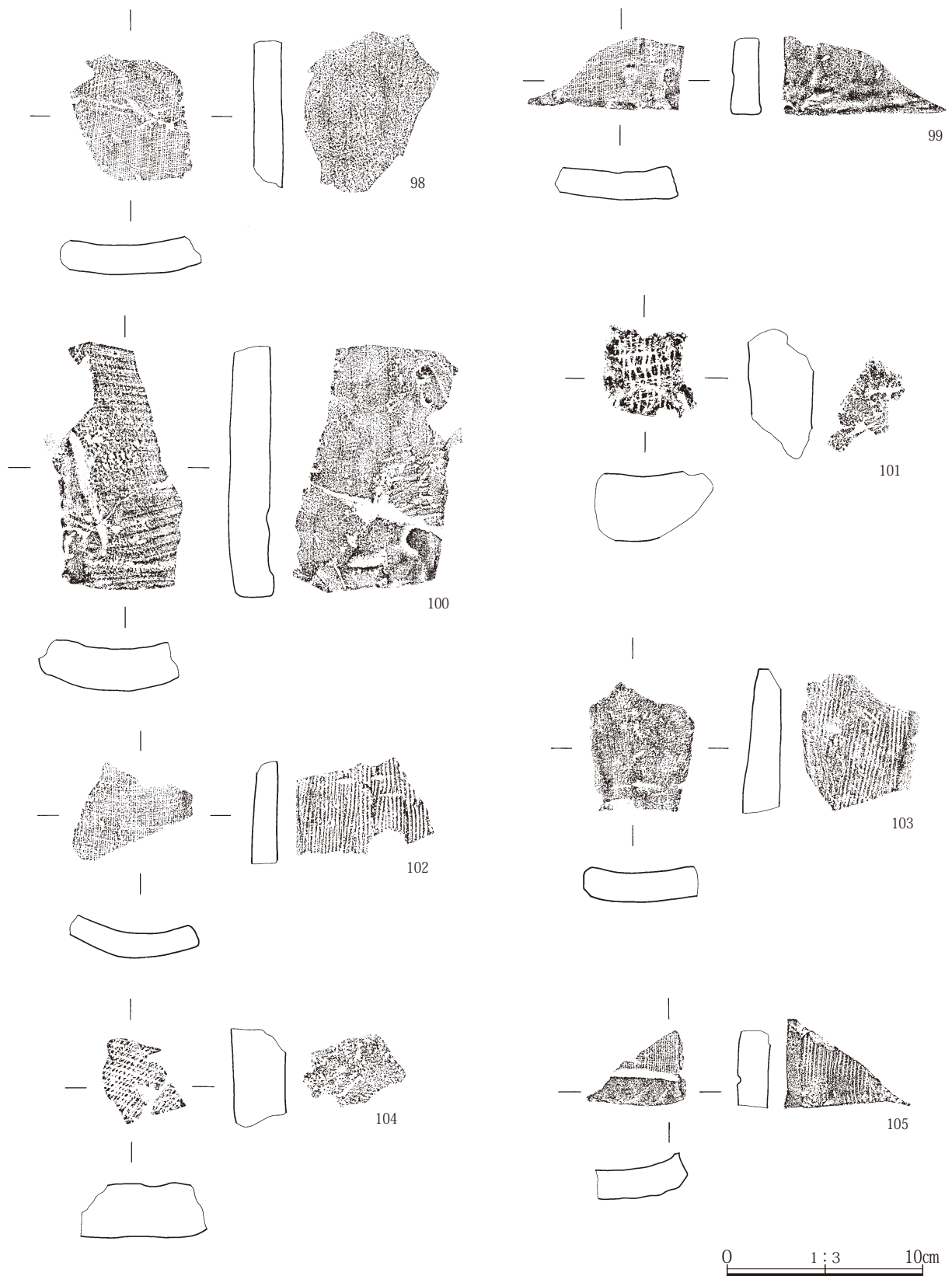
110は3区435-475グリッド出土である。この位置には5号、12号、13号住居が位置する。土製品で、残存は4分の1弱である。断面形は逆台形である。厚さ1.3cmを測る。

111は旧3区50号住居の出土である。須恵器杯の底部を二次的に転用している。中央に焼成後穿孔の小孔が穿たれている。

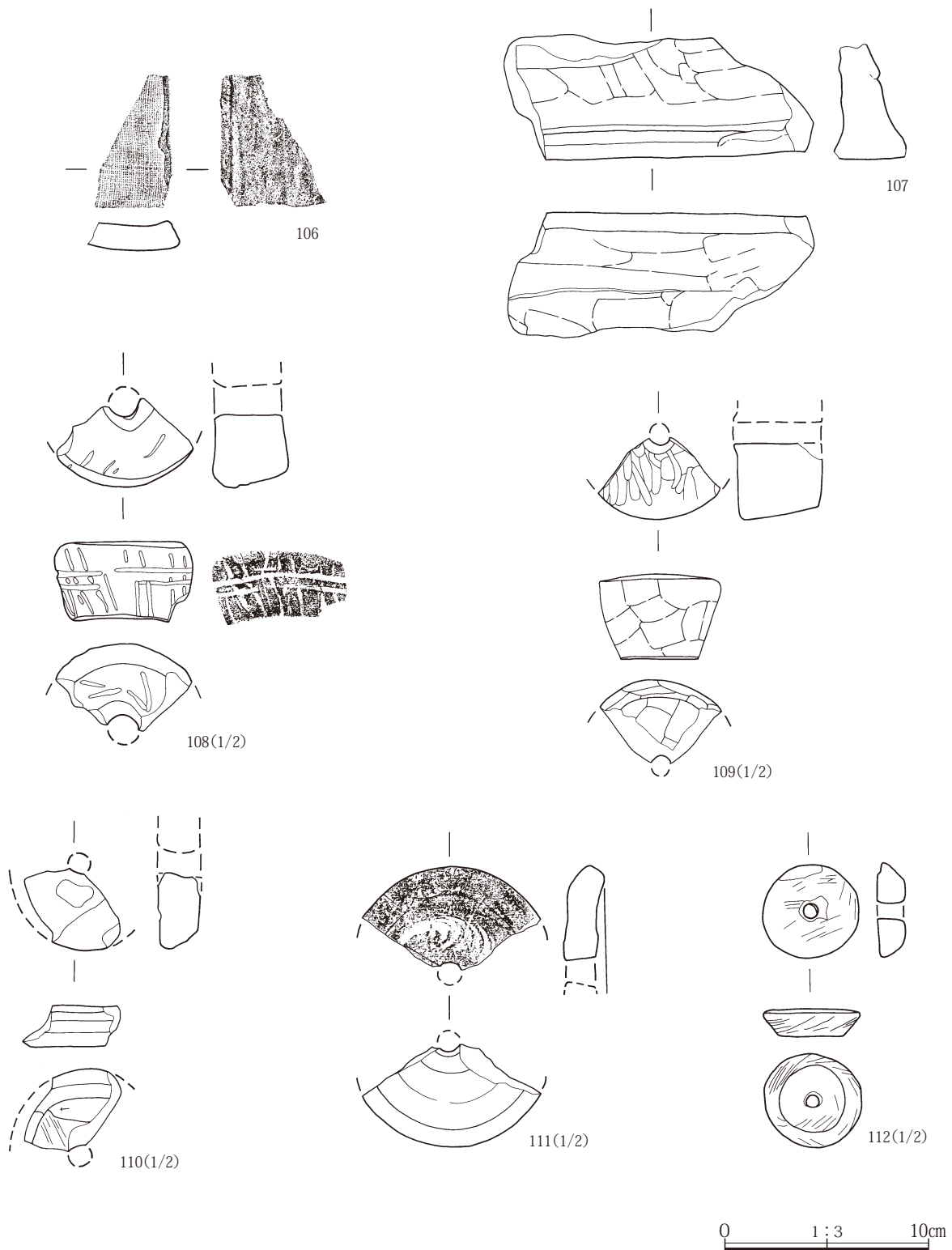
112は4区455-455グリッド出土である。石製の



第462図 2面遺構外出土遺物7 灰釉陶器-瓦89-97



第463図 2面遺構外出土遺物8 瓦98-105



第464図 2面遺構外出土遺物9 瓦-紡錘車106-112

小型品で、ほぼ完形である。上面の直径は3.0cm、厚さ1.9cmを測る。断面形は厚みの薄い逆台形を呈する。器面は平滑に仕上げられているが、細かな擦痕が多く残されている。石材は蛇紋岩である。

これらの資料については詳細な製作時期について断定することは困難であったことから奈良・平安時代の項で一括して報告した。

(8) 土錘

今回の調査において調査区全体から出土した土錘の数量は259点以上になる。その中で遺構に伴わないものは121点である。ここではそれらの出土位置、形状の特徴などについて概要を記すこととする。

今回の調査で遺構に伴うことなく土錘が出土したのは1区から2点、3区から96点、4-I区から55点である。4-II区、4-III区、5区、6区からは全く検出されなかった。

1区では遺構が検出されておらず、475ラインに設定したトレンチ調査に伴って細身の小型品が1点出土している。

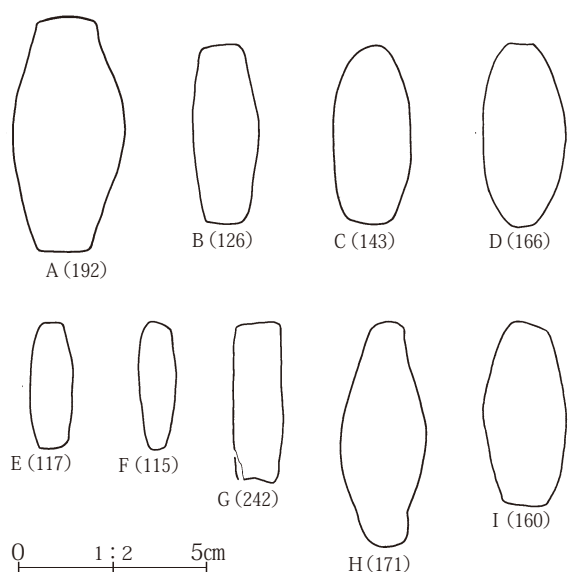
3区では78点を資料化した。形状としては9種類に分類することができる。形状の分類別ではA41点、

B6点、C14点、D2点、E2点、F9点、H1点、I1点である。

出土層位は2面の遺構確認作業時の出土である。出土位置は調査区の西半部分からの出土で、これは竪穴住居からの出土状況と概略同様である。原位置として竪穴住居出土のものが相当数含まれているものと考えられる。住居の位置と重複しない範囲としては1号掘立柱建物の北側、450・455-490～500グリッド周辺、現道北側の小調査区480-500グリッド周辺からまとまって出土している。

4区では42点を資料化した。それらを分類別にみるとA23点、B2点、C9点、F7点、G1点である。

出土状況については3区同様、2面の遺構確認作業中に検出されたものが大半である。出土位置は竪穴住居が検出された調査区西側寄りでは455-465、460-470グリッドで出土している。他に住居群の東側、調査区北側寄り、-450ラインの東西部分に集中する傾向が見られた。



第465図 土錘分類模式図 9型式

土錘の分類

A 中央が太く、両端はしぼられ極端に細くなる。小口面は両端がへら切りされるものと一端のみのものがある。大きさは長さ6cm、重量40gを超えるものが大型の部類となる。

B Aと同形・同成形であるが長さの関係から両端のしぼりこみは弱くなる。

C 中央部の最大径を有する部分から小口面に向かって徐々に細くなる。小口面の調整は指で調整、へらを使用しない。

D Cと同形・同成形であるが最大径と小口面の径が大きく異なる。小口面の成形にはへらを使用しない。

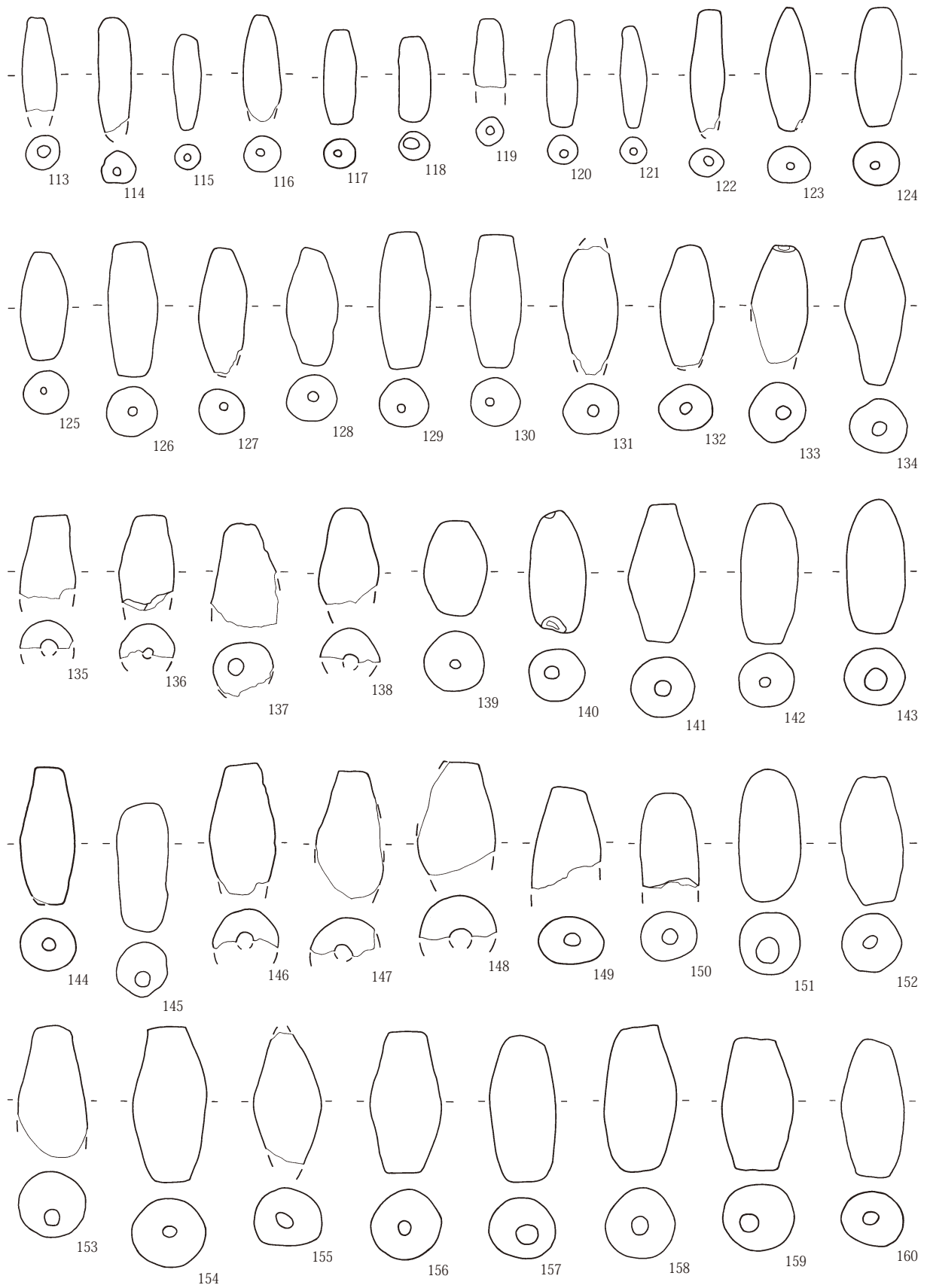
E 外形はCと同様であるが、小口面はへら切りされる。

F 全体形状は棒状。小型で小径である。

G 外形は最大径と小口面の径が大きく変化しない。管玉状を呈する。

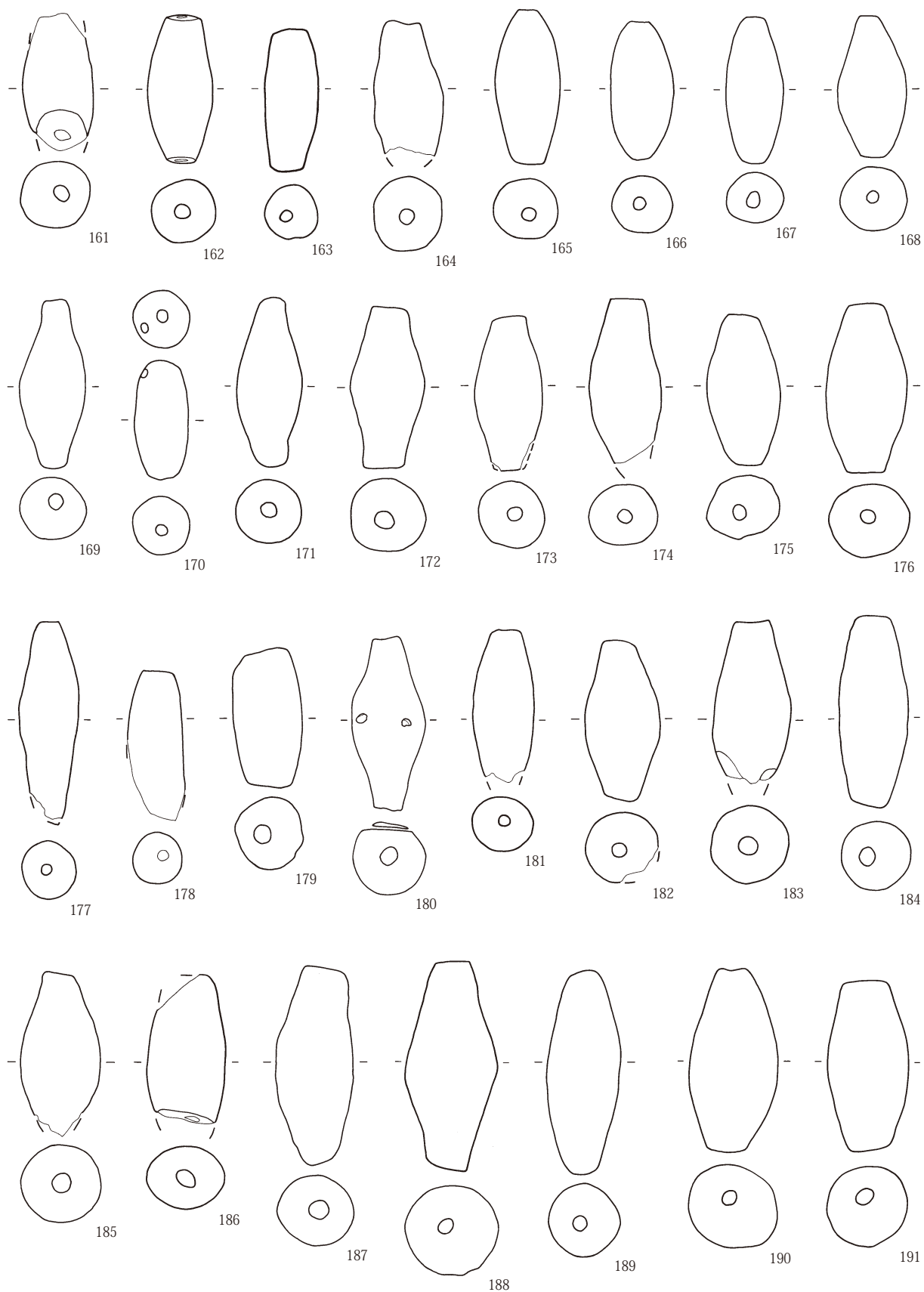
H 外形はAと同形であるが端部をへら切りしない。

I 外形はCと同様であるが、小口面の一端がへら切りされる。



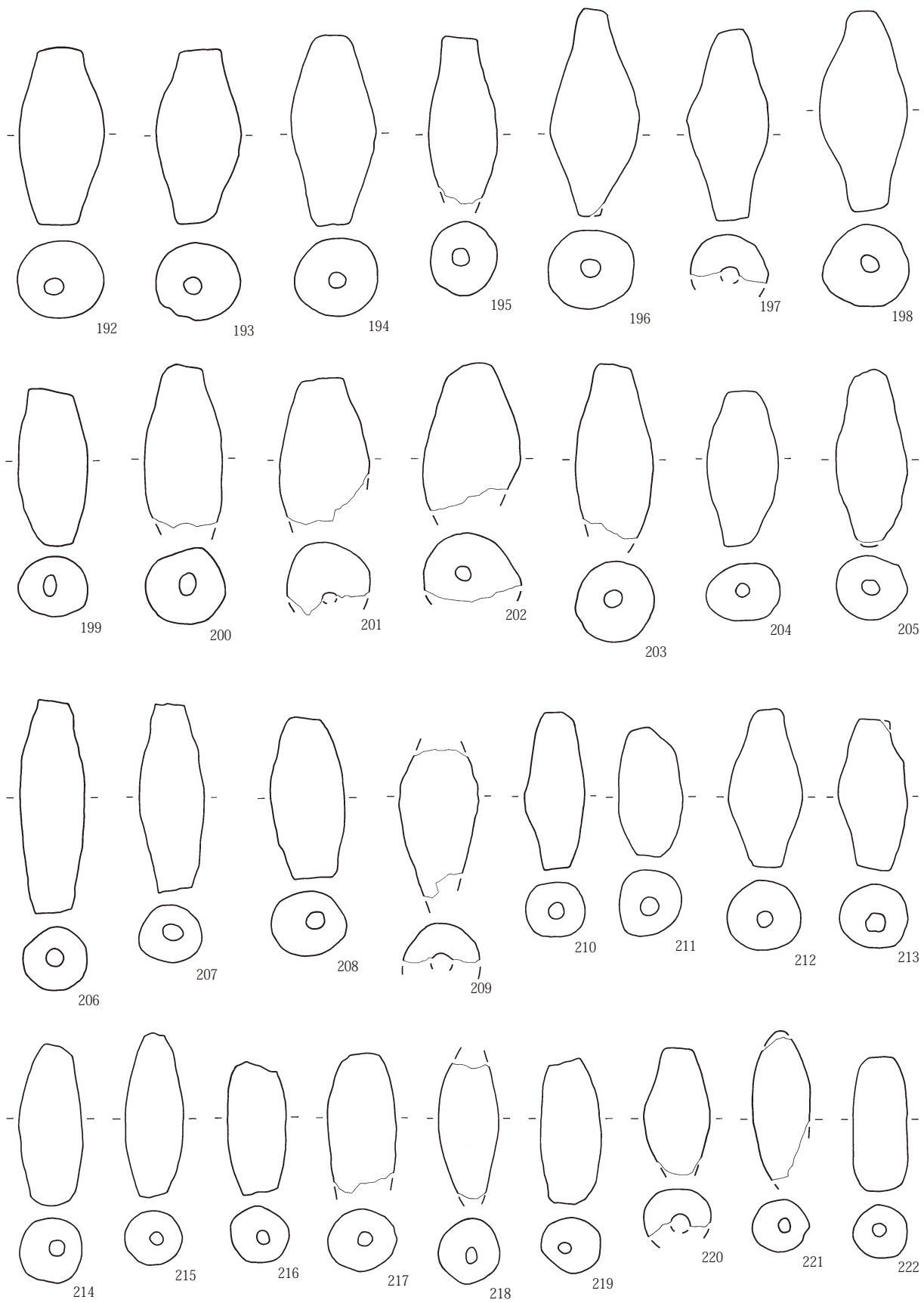
第466図 2面遺構外出土遺物10 土錘113-160

0 1:2 5cm



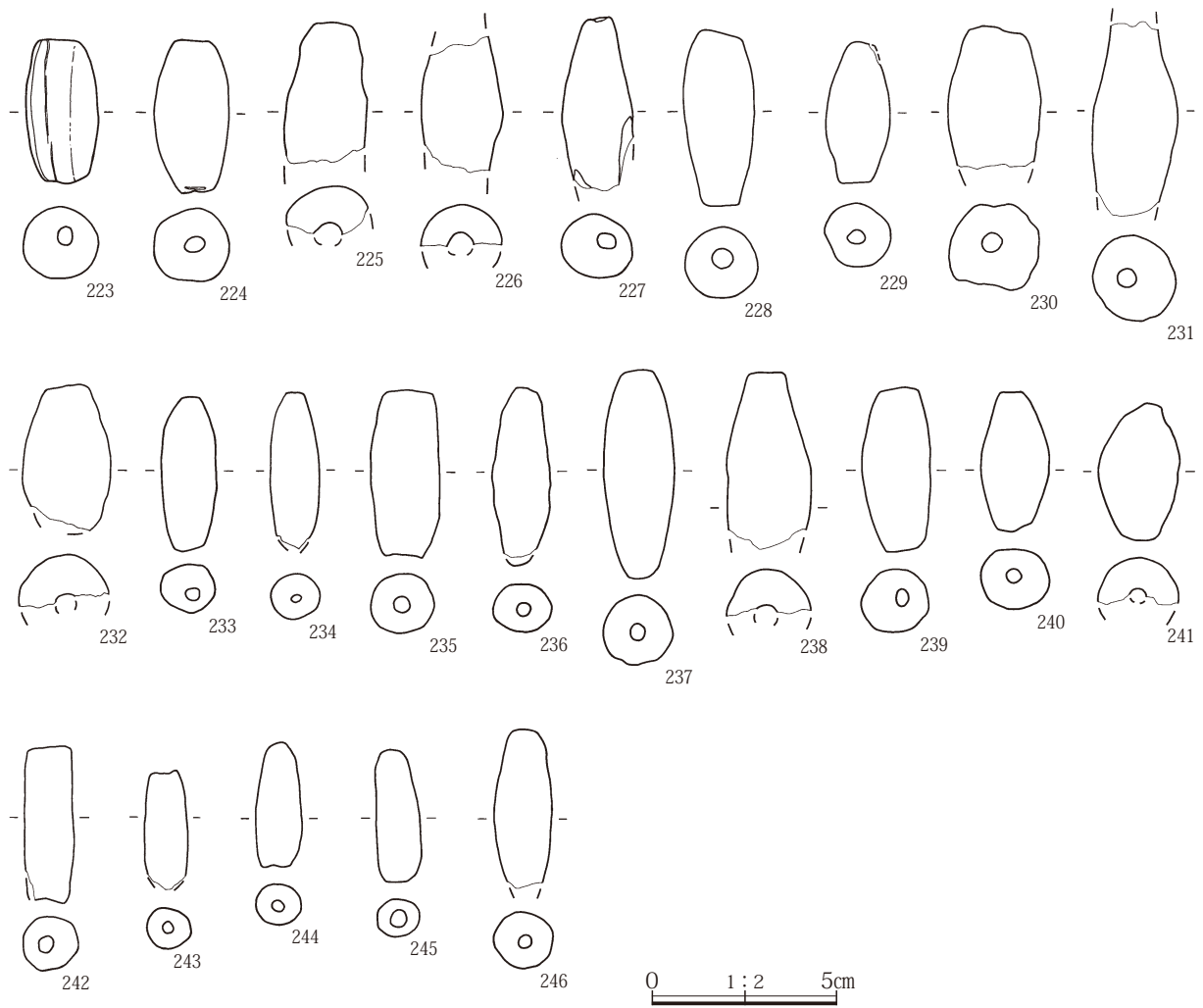
第467図 2面遺構外出土遺物11 土錘161-191

0 1:2 5cm



第468図 2面遺構外出土遺物12 土錘192-222

0 1 2 5cm



第469図 2面遺構外出土遺物13 土錘223-246

(9) 鉄製品

ここでは奈良・平安時代の所産と考えられるもの27点について報告を行う。ただし刀子や釘など長期間にわたって形状の変化に乏しいものについては中・近世の段階で製作・使用されたものが含まれている可能性は充分にある。掲載した器種は可能性のあるものも含め、紡錘車1点、刀子3点、鉄釘11点、鉄鏃4点、楔1点、不明品7点である。

247の紡錘車は3区の住居出土のものである。その帰属が不明となってしまったのでここに報告した。紡輪の直径は6.6cm、2分の1程の残存である。紡茎の残存長は19.3cmである。

刀子3点の中で254は3区の出土で、刀身の切先寄りが残存していた。刃部は痩せている。253・256は4-II区の出土で、253は切先寄りが、256は茎部が残存していた。

鉄釘12点はいずれも横断面が四角形のものである。248から251が3区、257から259・261から265が4区の出土である。248・258・262・264は上半部の残存で、頭部を直角に折り曲げている。他は下半部、体部の残存である。木質の残存は258で比較的良好であった。

鉄鏃は4点を報告する。269は4-III区385-355グリッド出土である。残長7.3cmである。鏃身の先端は欠損しているが長三角形である。腸抜を有する。茎部への移行は段をなし、関が見られる。茎部の先端は欠損している。267は4-II区435-440グリッド出土で鏃身から茎部にいたる残存である。残長8.5cmである。茎部先端は欠損している。鏃身部は柳葉状を呈している。266は4-I区460-465グリッド出土である。鏃身部が三角形を呈する長茎鏃である。残長は16.8cmである。関を有している。茎部は先端が欠損している。268は4-III区380-350グリッド出土である。柳葉状を呈する鏃身部の残存片の可能性が考えられるが判然としなかった。残長は4.8cmである。

270は4-I区出土である。楔の可能性が考えられるが、錆化が進行しており器種の断定に検討が残

る資料である。長さ5.4cm、一端は尖っている。

252・255・271から274は器種の特定ができなかった資料である。252・255は3区450-500グリッドの出土である。252も板状品である。器肉は図下端に向かって薄くなり、ヘラ状を呈する。255は板状品である。一端は尖っており、全体形状は刀子のようであるが刃部はない。

260は4区表採で詳細な出土位置は不明である。棒状品であるが上下両端とも欠損している。中位下端寄りに関状の突起が見られ、これより上位の横断面は板状、これより下位は四角形である。鉄鏃の可能性も考えられるが、上位の横幅が他事例と比較して広いように考えられる。

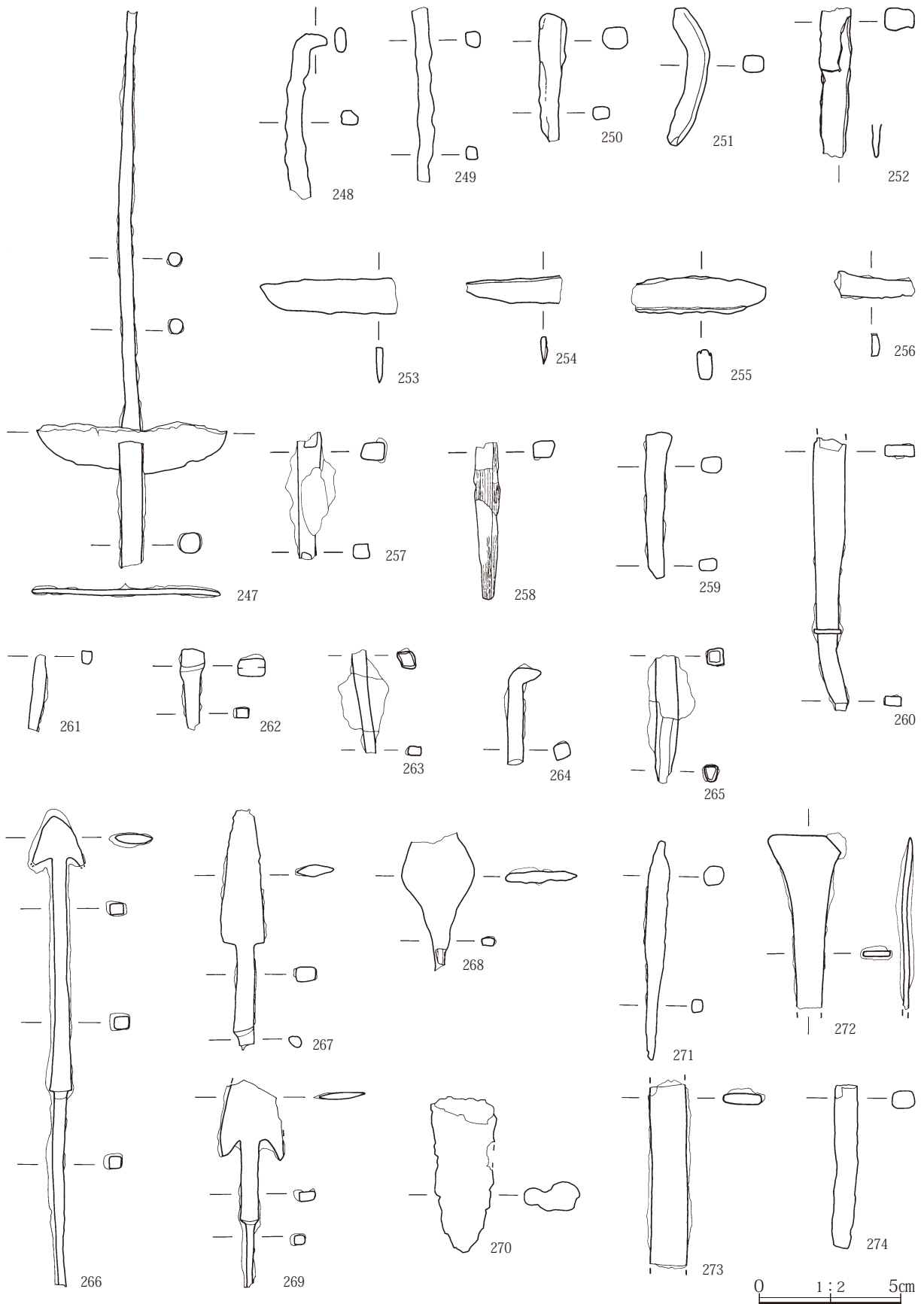
271は4-III区385-350グリッドの出土である。頭部は欠損している。全体の最大幅は体部の中央からやや上方に位置する。図下端は鋭く尖る。工具の一種と考えられる。272・273は4-I区グリッドの出土である。272は板状品である。図上半部は銀杏葉状を呈するが左右は非対称である。下端は欠損する。273も板状品である。両端とも欠損している。横幅は一定で、刃部は認められない。274は4-I区465-470グリッドの出土である。棒状品である。横断面は四角形であることから釘の可能性も考えられる。

(10) 製鉄関連遺物

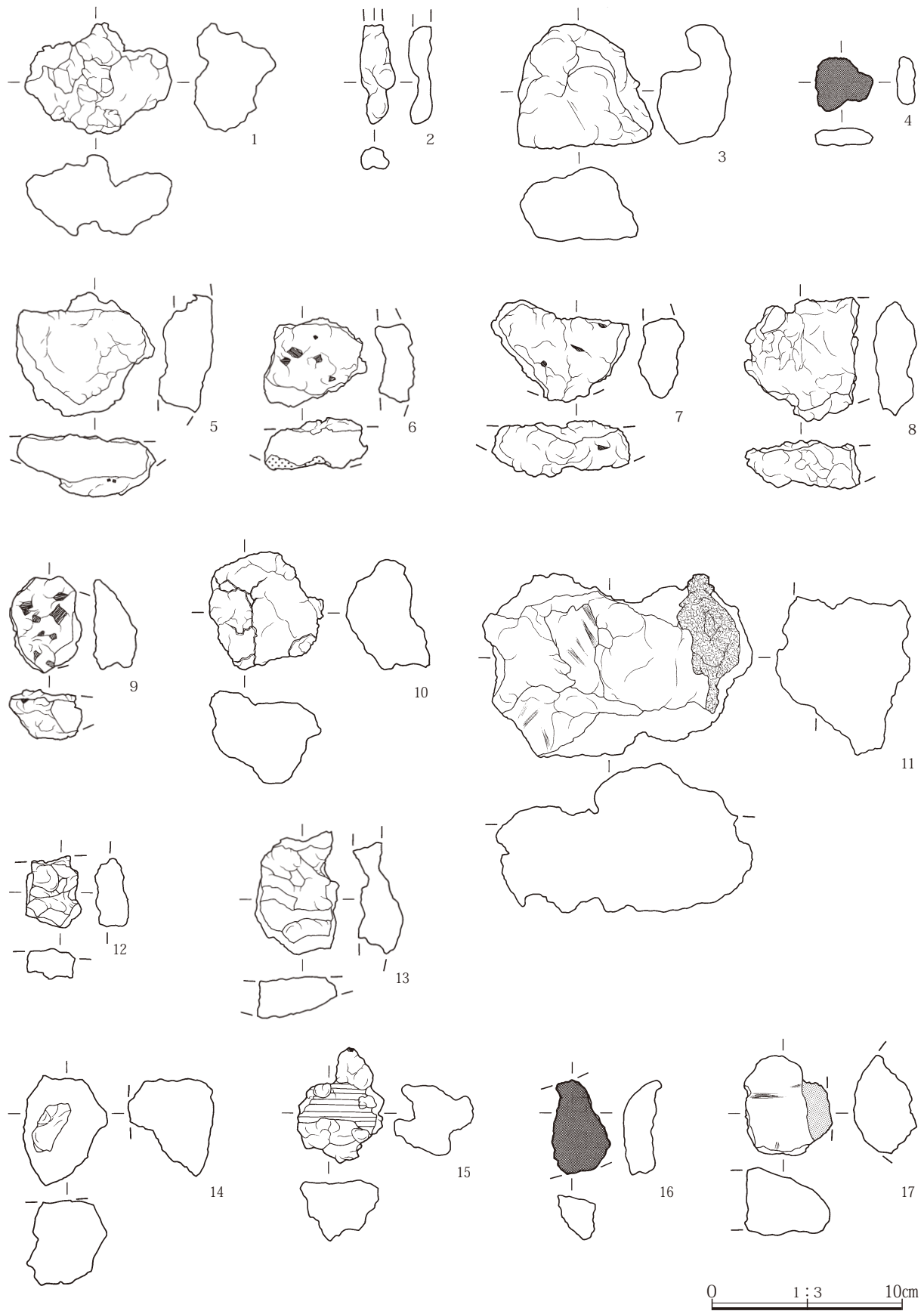
調査区の3区～6区で、製鉄に関連すると思われる遺物が出土した。総重量11,866.2g、543点の遺物があり、そのうちの25点を報告する。

これらのうち遺構出土のものは5点で、3区7号住居、3区6号住居、3区2号溝、4区18号住居、5区17号溝でそれぞれ1点が出土し、その他の遺物はグリッド取り上げである。

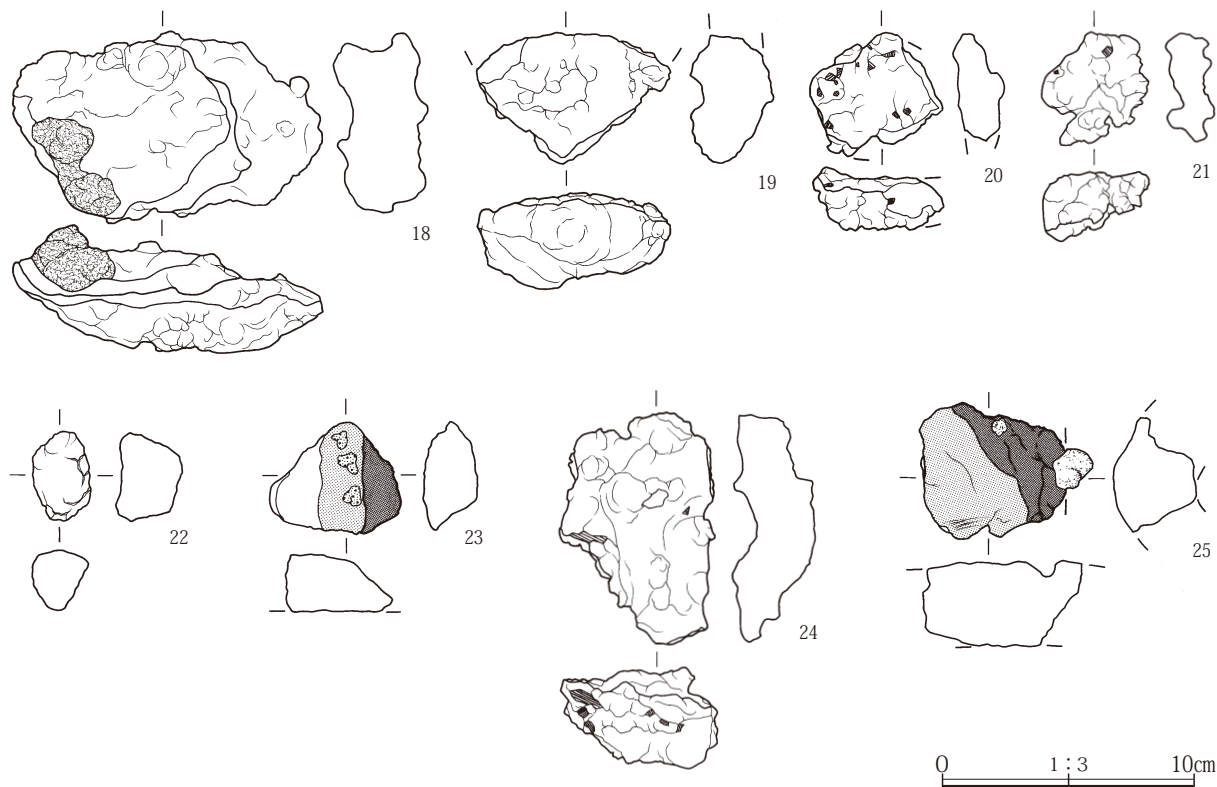
個別の遺物の計測値等は第12表で示し、遺物の特徴等は第4章2節で分析・観察結果を報告する。



第470図 2面遺構外出土遺物14 鉄製品247-274



第471図 2面遺構外出土遺物15 製鉄関連1-17



第472図 2面遺構外出土遺物16 製鉄関連18-25

第12表 製鉄関連遺物計測値

区	鉄分析	番号	種別		口径(長)cm	底径(幅)cm	器高(厚)cm	4形・ 成調整等	重量	備考	取り上げ番号
3	笹鉄	1	製鉄	炉壁	長7.7	幅5.8	厚3.8		重163.6g	7住	45
3	笹鉄	2	製鉄	流動滓	長1.8	幅5.1	厚1.2		重5.1g	グリッド	455-400
3	笹鉄	3	製鉄	鍛冶炉壁	長7.1	幅6.5	厚4.0		重122.9g	6住	65
3	笹鉄	4	製鉄	羽口	長3.0	幅2.8	厚1.0		重8.0g	グリッド	435-480
3	笹鉄	5	製鉄	椀形鍛冶滓	長7.2	幅6.5	厚2.6		重167.1g	グリッド	450-515
3	笹鉄	6	製鉄	椀形鍛冶滓	長5.3	幅4.6	厚1.8		重66.1g	グリッド	435-480
3	笹鉄	7	製鉄	椀形鍛冶滓	長7.3	幅5.3	厚2.1		重96.6g	グリッド	425-430
3	笹鉄	8	製鉄	椀形鍛冶滓	長5.9	幅6.4	厚2.0		重95.8g	グリッド	425-430
3	笹鉄	9	製鉄	椀形鍛冶滓	長3.8	幅5.1	厚2.3		重52.3g	グリッド	455-510
3	笹鉄	10	鉄塊系遺物		長6.0	幅6.1	厚4.3		重263.1g	2溝	
4	笹鉄	11	炉壁		長14.1	幅9.6	厚7.7		重553.9g	グリッド	440-435
4	笹鉄	12	流動滓		長2.9	幅3.7	厚1.7		重34.0g	グリッド	440-440
4	笹鉄	13	流動滓		長4.4	幅6.5	厚2.2		重95.5g	18住居	54
4	笹鉄	14	流動滓		長4.4	幅5.7	厚4.4		重159.5g	グリッド	460-465
4	笹鉄	15	炉内滓		長4.5	幅6.0	厚3.7		重61.2g	グリッド	450-450
4	笹鉄	16	羽口		長3.0	幅4.9	厚2.0		重24.7g	グリッド	450-450
4	笹鉄	17	羽口		長4.6	幅5.2	厚3.5		重69.1g		
4	笹鉄	18	椀形鍛冶滓		長12.1	幅7.5	厚3.8		重405.9g		表土
4	笹鉄	19	椀形鍛冶滓		長7.7	幅5.1	厚3.2		重155.0g		表土
4	笹鉄	20	椀形鍛冶滓		長5.2	幅4.8	厚1.9		重49.6g		表土
4	笹鉄	21	椀形鍛冶滓		長4.2	幅4.4	厚2.0		重31.2g		表土
4	笹鉄	22	鉄塊系遺物		長2.3	幅4.3	厚2.4		重31.5g		表探
5	笹鉄	23	羽口		長5.2	幅4.4	厚2.3		重38.5g	17溝	
5	笹鉄	24	椀形鍛冶滓		長6.2	幅9.1	厚3.2		重166.5g	グリッド	490-415
6	笹鉄	25	羽口		長6.9	幅5.4	厚3.3		重80.6g	グリッド	355-310